教育・保育施設等における事故情報データベース【令和６年９月10日 更新】

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面					人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
5	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	55					55		5	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	耳たぶ裂傷	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし			特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	図書コーナーの周辺を走っていた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児童とはいるところは必ず職員が配置、見守りをしている。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	ボランティアの支援者の増員など、実効性のある改善策を具現化する。	
6	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26					26		5	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の折れ	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	事故事例の共有など、様々な可能性を考慮した体制づくりに努める。	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	今後も引き続き安全点検の実施を継続する。	4.個人活動中・子どもみ	特になし	児童だけで行動することのないよう環境づくりに努める。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児が離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかた		特になし	他児童に関しても、同様の事故が起きないよう指導を徹底する。	
7	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	72					72		7	4	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼(歯)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童への安全指導について職員全体で共通認識を持つとともに、出勤職員数を考慮した職員配置を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	活動場所個に危険個所がないか毎日点検する。	3.個人活動中・見守りあり	当該児童は図書スペースで靴を脱いだ状態で読書をしており、少し離れた本棚へ移動する際、上靴を履かないまま靴下でフローリングの上を歩いたことですべって転倒してしまった。	上靴を履いて着ものすることに指導を適宜行う。移動するは、足元に注意を払うよう再度安全指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	図書スペースから少し離れた本棚へと移動していた。	4.対象児の見ていなかった	本棚へ背を向けた形で、他の職員と移動の荷物を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童クラブ受入や連絡者保護者、インターフォン対応等を行っていた。	特になし	子どもたちが安全に過ごすことができるよう、児童へ保護者に安全指導について職員で共通認識を持つと共に子どもたち自身も児童会館で安全に過ごすことができる態度を養っていく。	
8	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	13					13		4	2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	当該児童は今シーズンのスキー初滑りであったため、滑に注意して滑走するなど指導が必要だったと思われる。	初滑りの際にはいつも以上に滑走について注意喚起を促す。	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	特になし	天候の変質や雪質化に注意する。	1.集団活動中・見守りあり	シーズン初すべりの際には、特にして注意する滑走よう児童えに伝える。	滑走中に子ども走も、ど状況ものを見ながら指導方法を適宜変更する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近で対象児を見ていた	滑走中の事故を予ため発生をする測は困難だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		特になし	特になし	
9	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22					22		2	2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(複数)回/年	2.基準配置	日々の0JTとミーティングで安全な環境構成と安全な遊びについて方でかなり高い頻度で話し合われている。	各遊具、各遊具に関する安全に遊ぶ安全上での注意点をまとめ、園内研修等で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	全ての園庭の遊具の下、その他広いの範囲に安全用のマットがある。	マットがなっぱら場所もあった、場所に適マットを購入、交換していく。	1.集団活動中・見守りあり	ブランコ用園児用サイズであり、段意して乗ってお該当児童の事をかって日も注意しながら乗っていた。	当日は天気良くもく、ブランコや園庭の遊具の安全点検も終わったばかりで特に問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	36.4℃でいつも通り元気であった。普段から園庭で遊ぶときは活発な児童で、特にブランコは大好きでいつもブランコに乗っている。	2.対象児の近で対象児を見ていた	支援員Bは、久しぶりにブランコで遊ぶ児童に「ブランコの点検が終わって良ねっとコ児童が付近で見てたいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ちょうど1年生を連れて園庭に来たところで、1年生、支援員Cともに園庭内にいたが、事故発生当時ブランコからは少し離れたところにいた。	特記事項無し	ブランコを高さが異なる2種類を設置済。こどもの身体の大きさに適した方のブランコを使用するよう指導する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
10	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31						31		2	1	20.8歳	1.男児		8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	傷口3針縫合	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	廊下移動時の対応方法を見直して事故を未然に防止できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	施設内に遊具なし	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	特になし	引き続き、日々の確認を実施して安全点検を怠らないように努める。	1.集団活動中・見守りあり	児童の人数に対して引率する支援員が1人であったため、後方当にいた児童に配慮できていなかった。	児童クラブ用の靴を取りに行く際は少人数(4~6人程度)で児童全員に配慮できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	児童クラブ用の靴を取りに行くために廊下に並んでいた際に、最後方で他の児童とふざけあっていた。	4.対象児の見ていなかった	児童を学校玄関まで引率するために列の一番前にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	施設教室内で他の児童の対応をしていた。	特になし	児童クラブ用の靴を取りに行く際の引率は一番前ではなく、最後方で児童全員に配慮しながら引率する。	
11	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	39						39		4	4	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右機骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(0~1)回/年	2.基準配置	戸外全体の配置限中での数は限られたが、全体を見てるつもりで全児童がいてたわけではなかった。	児童の人数は多く、支援数は限られているので、遊ぶ場所を人数に応じて決めて支援員の届く目のない場所では遊ばないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	児童は想に動き像しいの回遊び場所・ルー確認を行うべきだった。	遊びが始まる前に、児童ん遊ぶ一番いい場所・危険な個所などの禁止事項や気を付けて欲しいことなどルールを話して支援員と児童が確認し合う。	3.個人活動中・見守りあり	また、新年度で進級した児童が、自分ないできるという思い込みも相まって激しい遊びにつながった。	危険な遊び、行動については、その都度注意させる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	大型連休前、午前授業が続く週であったため、いつもより楽しくて遊んでいたが、ベンチに足を滑らせてしまいたところ、激しい動きだったので右手に全体重がかかってしまった。	4.対象児の見ていなかった	ベンチで痛がりじっと座っている児童を見つけて声をかける。理由を聞くと手をつき痛みを訴えていたので、手の動かしが不鮮れの状態、腫る力なども確認した。腫がるので学童へ戻り冷やし様子を見るように児童に伝える。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童が外から戻ってくると痛い右手首を抑えているので、動かせるか、腫れるか確認した。腫れはひどくなく保冷剤で冷やし様子を見ていたら異常に右手が冷たくなり寒さを訴え始めた。痛みもひどくなる様子があったので至急保護者に連絡し受診をお願いした。	ケガをした瞬間を誰も見ていなかったため、手をよくつかまったのかわからず、本児の証言も興奮状態で曖昧だったため、打撲ではないかと予想してしまった。	見れない場合でもしたケガをした児童や児童などを落ち着かせ、きちんと状況の確認、ケガの様子聞きをする。	
12	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20						20		6	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(0~1)回/年	2.基準配置	1年生の遊びの範囲内でサッカーといやらわいこ遊びをしている子が多かった。	狭い範囲でサッカーはやらないなど、怪我が起こりにくい環境をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	砂地と草が生えている部分に凹凸があり、平らではない。	小学校と協議し、凹凸のあ部分に入れにくい砂平らにしてもらった。	1.集団活動中・見守りあり	1年生の範囲遊び内で児童数が多く、注意散漫になりだった。	意識して様児童の様子を観察し、声掛けをして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童子と女に、女が児童が他男と児童も、子児童が対いかけて！と煽り、子児童が追いかけてきたので逃げたところ転倒する。	2.対象至対児の近象児見た	転倒した児童寄を当該に駆け寄り、声をかける。特に痛みをうったえず再びに遊び戻ったので、児童から離れる。	1.担当者・対象児の動きを見た(至距離にいた)	当該児童の声をかけ、特に変化は見られなかったのでその場を離れる。	転倒する当の当該児童の様子を見ていた指導員はいかった。転倒児童の後の様子を細かく観察する必要があった。	視野を広く童な遊びをしているかを常に確認する。怪我を決めつけ切に処置をする。	
13	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	42						42		6	3	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	逆関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	全体の見守りが不十分だった。	全体の見守りを行う。また、今回の事例を職員間で共有して再発防止を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	大型ブロックの上に立って乗っていた。	大型ブロックは2個以上重ねた上には乗らないルールだが、遊び慣れていない1年生や、周囲の状況によっては1段でも上に立って乗らないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	児童の遊び合わせて、前声びにもってかけきなかった。	大型ブロックで遊ぶ際の注意点や遊び方についてかけをする。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後も遊普通に遊びだした。	4.対象児の見ていなかった	他の児童に遊びって、児童が転倒したところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ児童や遊びに関わって、児童が転倒したところは見ておらず本児が泣き気づいた。	新1年生のほとんど初利用日で個別対応が必要な場面く、全体の見守りが不十分だった。	-	
14	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	72						72		8	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	永久歯上顎前歯外傷性歯脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	-	事故防止マニュアルを研修を通して職員で再確認する。事故事案についてはヒヤリハット簿に対応内容や改善策を記録し、職員間の周知徹底を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	-	定期的に設備点検を実施し、劣化・損傷個所は修繕対応を行う。	1.集団活動中・見守りあり	怪我防止ために見て遊ぶよ声が不足していた。	児童には校庭遊びの決まりや安全な遊具の使い方について重点的に指導を重ねる。遊んでいる最中も様子を見ながら適宜声がけする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り他児と一緒にドッジボールで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	ドッジボールをしている所から10メートル離くられた所ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭にいた他2名の職員はサッカーゴール前でのサッカー遊び、ドッジボールや遊具での遊び、グラウンド内でのボールと周辺での虫取りなどを見守っていた。	怪我防止ために見て遊ぶよ声が不足していた。	-	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
15	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	78						78		7	4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	見守りの職員を増やすか、遊戯室のあそびの制限をする。	1.定期的に実施	実施頻度毎日2回	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日1回	遊戯室にも多くの子どもが遊んでいる状態だった。	児童の人数や職員の人数を踏まえて、遊び種類や範囲を考慮する。	1.集団活動中・見守りあり	本児はボール遊びに夢中になり、周囲の状況を把握できなかった。	ボール遊びは複数名で見守る。職員体制に合った遊戯室での遊びを提供する。周囲によく見ながら遊ぶよう声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	春休みで制中中で過ごしていたこともあり、遊戯室でのボール遊びを心待ちにしていた様子だった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	審判をしていたため全体を見ており、突発的な個人の動きには対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室以外で児童の見守りと保護者対応をしていた。	ボール遊びの前に周りをよく見て他児との接触に気を付けるよう伝えているが、声掛けが足りなかった。	-	
16	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	39						39		6	4	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	-	-	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	室内の角のでっぱりに勢いよくぶつかった時に怪我につながる可能性がある	室内の角のでっぱり等に、保護材を設置	1.集団活動中・見守りあり	-	-	1.いつもどおりの様子であった	元気に登館し、友達と融資室でサッカー等で遊び、17時過ぎに退館した。	3.対象児離れところ対象児を見ていた	遊戯室内で遊ぶ児童全体の見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋に配置しているので、遊戯室の子どもの動きは見ていない	子どもは遊びに夢中で痛みを忘れて遊ぶ場合がある。活動中の子どもの様子を確認するのはもちろんだが、遊び後の子どもの会話の中に痛みを訴えるタイミングがあるかも知れないのでその後の様子も見守る。	-	
17	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	57						57		7	5	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじの骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	準備運動等、遊び準備の前の準備が不足していた。	運動あそびをする前に準備運動をする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	安全点検を継続して行う。	1.集団活動中・見守りあり	高学年児童との交流で気分が高揚している児童への対応が分だった。	今まで以上に見守りを行い、児童をがらしない怪我ないように声がけをする。	3.いつもも活活動あった(理由を記載)	お昼休憩が終わった後、すぐに運動あそびをしていた。いつもサテライトへ行っている高学年児童が本館に来ていたのもあり、気分が高揚している様子だった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	本児の怪我に気づき事務室へ本児いて連れてく。館長に聞き取りした本児の状況を伝え、患部を保冷材で冷やし、作った添え木で腕を固定する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の対応をしていた。怪我に気づいから本児を事務室へ連れていく。	気分が高揚している児童への声がけが不十分だった。	特になし	
18	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45						45		8	4	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	各部屋で守り中心となり、廊下等、移動時の見守りが不十分であった。	装具をしている等危険性がある児童いるには、十分な見守りができるよう職員配置を考慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	安全点検を継続して行いながら、転倒や危険性がないかを普段から意識して確認する。	7.その他	脚に装具を付けている点を考慮し、特に移動面の場面では一層の配慮だった。	一斉に移動する際には近くに職員がつく等、すぐそばで見守る。	1.いつもどおりの様子であった	館庭への中移動だった。	4.対象児動見ていなかった	他児童たちの移動をこと下促いたこと、廊下込る、座りでいる児童の見つけ声をかける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋で対応児童の対応。部屋から廊下は見えないため、本児の事故には気づかなかった。	各部屋だけでなく、全体を意識しを見守りする職員がいなかった。	なし	
19	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	26						26		3	1	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	不明	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊びの特性上、接近しながらボールをやり取りすることがある。その特性理解準備運動等の必要と動組もあった。	各担当者は常に一人一人の子どもの動きを注視し、安全確保に努める。事故の際は速やかに職員に話すことができるよう、日頃の信頼関係を築く。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	学校の校庭を借りていることもあり、日頃から整備や安全点検がされている。当館職員もその都度安全確認をしながらすすめている。	日頃の遊び方やゲームのルールについて、子どもたちに振り返り安全な遊び方について確認する。	1.集団活動中・見守りあり	職員の人数には確保にがあり、遊び内容の特性を理解した上で働きや声掛けを工夫する必要があった。	外遊びへの安全に対する事前の働きを積極的に行い、子どもたちの安全意識や危険回避能力を高めていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの一仲間と一緒に元気で遊んでいた。	4.対象児動見ていなかった	2つのグループがサッカーしていたこと、十分見守りをしたこと、あり分けができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当所を見守ることで集中して、当者や対象児見守ることはできなかった。	一人当たりの見守の範囲や集中の人数度合いについて、更に検討を加える必要があった。	子どもたちとの日頃の遊び方を振り返り、よさや課題を具体的に整理しながら安全に意識を高めていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
20	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	58						58		9		8	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左とう骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期実施	実施頻度(常時)回/年	1.基準以上配置	コロナ禍による運動不足で筋体力や筋力、バランス感覚が低下していることも原因として考えられる	児童により近い位置での見守りを行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(－)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	大型ブロックには危険箇所など多い為、問題はない	大型ブロックの周囲など危険箇所が多い為、問題はない	3.個人活動中・見守り	普段から小さい怪我をしやすい児童なので、事前の声がけが必要であった	児童の様子を見ながら、適度に声を掛け、休憩させる	1.いつもどおり様子でもりの様子であった	他の児童とともに、並んだ大型ブロックの上を歩いて遊んでいた	3.対象児が離れたところで対象見ていた	離れたところから見ていたが、本児が転倒したことに気付いて声をかけし手当をした	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	引継ぎをしながら、離れたところから見守っていた。	職員2名が遊びの状況を伝達するために、2名とも児童から児童れた位置で見守っていた	－	
21	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	62						62		19		14	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	痙攣	8.その他	1.あり	1.定期実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	－	突発的な事柄に対して本児の様子を見る、撤去、本児も他児とも怖がらないよう離す、保護者・救急要請・市へ連絡する、など各自役割を互いに理解してより迅速に動くことができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	－	常で欠損箇所などないかを確認し、転倒の際に怪我をすることないようにしく。	1.集団活動中・見守り	－	自分の友達がいつもの様子と違う時は近くの職員にすぐに知らせる子どもたちに働きかけく。	1.いつもどおり様子でもりの様子であった	普段のようにと館庭ごっちで鬼ごっこを楽しみみ、遊戯室にも来る具合室も悪い様子はなかった。	2.対象児の近象見た	子どもたちの後ろにいた職員が痙攣直後に本児の動きが普段と違うことに気づき、担当職員に知らせる。担当職員はすぐさま痙攣に気づき、他の職員にも応援を要請する。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	本児に職員が対応している間、他児を離し、落ち着かせる。また、動画撮影や他職員の応援要請を行うなどをしていた。	－	－	
22	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	18						18		4		3	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の欠け	8.その他	1.あり	1.定期実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	休憩場所のベンチ付近で立つ児童、座る児童が混在していた。	鬼ごっこの途中で休憩をとるときの各自がルールを作り知らせる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	休憩場所のベンチ付近で、立つ児童、座る児童が混在していた。	休憩をする時は休むと声に出してもらい、安全に休憩を取れるように配慮する。休憩場所では座るようにしてもらい、休む場合の安全にも気を配ること。	1.いつもどおり様子であった	氷おにのルールを守り参加していた。	2.対象児の近象見た	氷おにを対象児童をみすしたちの守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きをいた	各室でそれぞれ児童を見守っていた。	子どもたちに休憩を取るための方法の周知が不足した。	子どもたちと危険予知トレーニングを行い、危険回避をして遊ぶ。	
23	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	62						62		18		17	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転車の転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	－	活動当日の天候と路面の確認を実施する	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日)回/年	－	滑りやすい、転倒の恐れがある箇所がないか点検実施する	1.集団活動中・見守り	圧雪での危険性を声掛けしてなかった。	児童に転倒の恐れがあることの声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	館庭で、他児童と鬼ごっこをしていた	3.対象児が離れたところで対象見ていた	館庭を動き周り全体をみていた。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	他児と砂場あそびをしながら全体を見ていた。	圧雪状態や滑りやすくなっていた。	雪や氷の上で全力で走ると、転倒する事を児童と再確認した。	
24	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	56						56		6		3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯牙脱臼	2.自転車の転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1・2)回/年	2.基準配置	特になし	ヒヤリハット事例や事故事例を共有し、改善策について職員間で共通認識を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	体育館で遊ぶ際にフロア座ったり座横にいる児童がいた。	休憩をとる際は体育館など安全な場所で休むようその都度声がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこつい勢中もよりよく、他児童を飛越えようとしたとれる。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	広い体育館内で2名が離れて遊び様子見れて守った。	2.担当者・対象児の動きをいた	多くの児童が動いていたので、本児の動きを予測することは難しかった。	運動遊びを行う前に安全に遊ぶための注意点等の周知が不十分だった。	－	
25	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31						31		7		6	19.7歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	永久歯欠損	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	全員が下校するまで開けておくことになっていたドアを開けて歩いている子に声をかけたりしていた。	再度勝手にドアを開けないことを子どもたちや職員間で確認。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもが勝手に鍵を開けられる状態だった。	子どもの手が届かない位置に鍵をかけるなど対応を取る。	3.個人活動中・見守り	約束やルールについて理解が難しい場面が見られる。	個人的に話をしてする。	3.いつも発で活動的であった(理由を記載)	他児早くてが高てかしよりったのちっぷったのテンはだっ気持ちいたいが	3.対象児が離れたところで対象見ていた	受入勢会で様子見ていた。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	畳スペース・玄関スペース・事務スペースに位置し、子どもの受け入れ態勢をとっていた。	本児の様子を気にながらかけらも声をかけてしまった。	情報交換や情報共有をこまめにし、しっかり連携できるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
26	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40						40		5	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	走り回る子どもへ、危険箇所の確認を行なう。	こどもたちのあそびの危険予知訓練を定期的に行なっていくとともに、職員同士声かけを徹底し、ケガを未然に防ぐように工夫を行なう。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	花壇や校庭にある段差などについて、普段から子ども達に話しても、再度一緒に校庭を周りながら確認する。	今後も花壇や校庭にある段差などについて、丁寧に説明していく。	3.個人活動中・見守り	夢中で駆けっこに、巡回職員が声がけをしていく。	校庭で遊ぶときの職員を確認し合い、見守りを徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも元気に外遊びをする子どもで、かけっこやごっこをしている。	4.対象児の動きを見ていなかった	見守りでスはなかったが、転ぶ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	危険箇所付近に職員を配置し、巡回しながら見守りしており、本児が花壇付近を走り瞬間は見ていなかった。	走り回った際に、普段から花壇付近は危険なことをこどもたちに話しているが、夢中になって周りを足下の危険を回避できなかった。	こどもたちと一緒に、あそびの中でその危険予知訓練を定期定期に行なっていくとともに、職員同士声がけを徹底しケガを未然に防ぐよう工夫をしていく。	
27	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	137						##		18	11	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	-	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	花壇内の砂が減り雨水桝が飛び出し段差になっている。	雨水桝のまわりに段がくり充要がある。	1.集団活動中・見守り	子ども達場の遊び一部になっている為、鬼ごっこや移動時の抜け通り等から花壇地内の砂地に入っている。	雨水桝のまわりに段差がなよくなる砂を補充する必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこなどする元気に遊んでいた。	2.対象至児の近で対象児見た	本児の駐車場側や トラルなどに守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	館庭側を重点的に怪我いのなよう見守った。	外遊びから館内にショートしようとと、けて越えたと思われる。	支援児が多い中で職員は本館サテライトに分かれており、外遊びだけでなく見守る個所が多い。支援員の配置人数には限りがあり見守りに必要な人員の増が必要と思われる。	
28	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	59						59		5	4	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剝離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期実施的	実施頻度(11)回/年	1.基準以上配置	職員配置は、受け入れ態勢を万全にする為、入口前中を手厚くしており、夕方になれば職員が少なくなってしまう体制となっていた。	どの時間帯にも職員がまんべんなく勤務するよう体制を整える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	安全面を配慮して布ボールを使用しているが、ボールが転がらずに止まっているためかえって事故につながったかもしれない。	布ボール自体に問題が無いかどうか使用前に十分注意する。	1.集団活動中・見守り	奉休みとりも、子ども中こ様ケ少ども気分が高揚している様だった。	ケガの無いように、遊び方に入る度ちんにと注意事項を伝えるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子は見られなかった。	2.対象至児の近で対象児見た	ドッジボールの審判をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びや児童クラブ室、図書室等、場所他でそれぞれ子どもたちを見ていた。	運動遊びを始める前に、怪我をしないよう準備運動とともに遊びの注意点を伝える必要があった。	遊びがあ過熱しないよまりに、適度に休憩を挟むなど、クールダウンしながら楽しく安全に遊ことができるようにする。	
29	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60						60		11	6	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指を骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	なし	館庭内の遊具で遊ぶ際は,各種遊具の危険性を事前指導を実施しながら遊具付近に職員を配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	ハード面に関して問題点・改善策はないと思われる。	1.集団活動中・見守り	なし	環境面に関して問題点・改善策はないと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	精神的にも安定しており普段と変わらない様子であった。	2.対象至児の近で対象児見た	当該児童が落下時,見守りの職員の視野に入ったが,大事故にはなるとは思わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊び場を職員は,該当児童が落下するところは見ていない。	なし	改善策なし。その他項目において問題点・改善策はないと思われる。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								改善策
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項		
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
30	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16						16		3		2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	骨挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	なし	3.個人活動中・見守り	つきも山には担当はいたが、その場面で職員はいなかった。こどもが転んだことを近くの子どもたちが知らせてくれ、発見。膝の様子を冷やして対応をとった。	全てを見ることはできないものの、担当の職員が把握できるよう気をつけていく。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	もともと活発で児童館本館で過ごしていたため、分室での生活に慣れず、普段はより動的な様子で、高い山を下り、山を下りて転倒し、膝を強打した。	4.対象児の見守りをできていかった	山に担当職員はいたものの転倒した場面は見ていなかった。他児からの報告により転倒に気づき、すぐに膝の様子を見て冷やすとる。その後、膝が痛むと児からの訴えがあり、保護者・児童館本館に連絡。	2.担当者・対象児の動きをいかなかった	担当して部分を見ていて、転倒した場面は見ていなかった。他児からの報告により転倒に気づく。戸外の児童の安全確保を行う。	山にも担当はいた山の部分を見ていたことで、児の転倒に気づくことができた。	梨山に登る際は、降りてくる児に対して走らず歩いて降りるよう声をかける等、繰り返しルールの説明をして安全に遊べるよう見守っていく。戸外遊び前にルールを再確認してから遊びを始めるようにする。走ることどうなるか等、子ども達が自分で考え危険だという認識を持てるよう伝えていく。担当職員はいたが、その場面を見る職員はいなかったため、全体を見渡せる位置で見守れるよう気をつけていく。	
31	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	14						14		3		3	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指第二関節下部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	対戦相手との力のあり過ぎた。(4年男児)	力の配分の助言や、学年を分けての遊びの実施	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特記事項なし	異年齢によるため柔らかいボールを使用したが防ぎようのない事故であった。	1.集団活動中・見守り	遊びに夢中で少し興奮していた性があった。	落ち着いて、十分な距離を保って遊ぶ何度も声掛けする。	1.いつもどおりの様子であった	遊びに夢中になっていた	2.対象至児の近で象見た	瞬間は見ていたが、瞬間にできる位置にいなかった。	2.担当者・対象児の動きをいかった	他の遊びをしていた児童に対応していた。	特記事項なし	その他に対する改善策なし	
32	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	3						3				1	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	子どものショがテンが上がり過ぎた	ゲームの楽しさの伝え方の工夫、見通しを持った助言	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特記事項なし	リングの大きさの見直し、代用品の検討	1.集団活動中・見守り	遊びに夢中だったこともあり少し興奮していた。	落ち着かせるため声掛けの等をする。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	遊びに夢中になっていた	2.対象至児の近で象見た	小さめリングへ同時に向かって走った為、衝突してしまった。	2.担当者・対象児の動きをいかった	他の遊びをしていた児童に対応していた。	特記事項なし	その他に対する改善策なし	
33	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	42						42		4		3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷、骨挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故発生時、グラウンドでサッカーをしていた児童8名に対し、職員1名は付いていた。人的不足ではないと判断できることから改善策はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	男児が遊んでいた場所は、学校のグラウンドできちんと整備されていた。グラウンドは広く、周りに危険な箇所はなかった為、改善策はなし。	1.集団活動中・見守り	特になし	広い範囲で、児童を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	屋外での活動(特にたまにしか行けない、学校のグラウンド)は、気持ちがハイになり、活動が活発。	2.対象至児の近で象見た	サッカー場を合、指導員がて見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいかった	遊具等で他の遊びをしていた児童に付き添っていた。	特になし	気を付けてするように声掛けはしていたが、一層強化していく。	
34	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25						25		4		2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	とても活発な子も得意で梯子の雲たため、見守っていた。	より一層の見守り、声掛け	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	校庭のため、雲梯の下が固い可能性あり	落下の時を考え、クッションを敷く等、学校側と相談する	1.集団活動中・見守り	なし	今まで通り、見守り状況にあわせて、声がけをする	1.いつもどおりの様子であった	元気に走り回っていた	2.対象至児の近で象見た	人にぶつからない様、転ばないように声掛け	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	トラブルにならないように、事前に声掛け	なし	事故対応の流れについて再度確認し、さらに速やかな対応を目指す。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制													発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度(回/年)																理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
35	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	50							50		4	2	18.6歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折	3.子どもの衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしないルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児離れところで対象児見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守っていた。	特になし	事故発生後の対応(怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診)の流れについて再確認し、速やかな対応を目指す。	
36	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		3	3	20.8歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしない、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児離れところで対象児見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守っていた。	特になし	事故発生後の対応(怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診)の流れについて再確認し、速やかな対応を目指す。	
37	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19							19		2	1	19.7歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕上腕骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き屋外での遊び時間には支援員が付き添い、危険な遊びはしない、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児離れところで対象児見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	支援員が決められた立ち位置で見守っていた。	特になし	事故発生後の対応(怪我の程度の判断、保護者への連絡、病院受診)の流れについて再確認し、速やかな対応を目指す。	
38	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	141							##		13	13	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子どもの衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	準備体操後に遊びたい場所を選んで移動する際、子供たちに一斉にこの動き出すことがなく、落ち着いて移動するよう指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	安全点検を行っていく中で修理等が必要なものは早急に対応に心がける。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員やケガの事例を伝え、未然防止を重視する外遊びを心がける。	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊んで遊んで遊んでいた。	4.対象動見ていなかった	各自、自当分の担当箇所の見守りをしていたが、該当児童には気がなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	各自、自当分が担当箇所の見守りをしていた。	特になし	なし	
39	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		4	2	18.6歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折(左腕)	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	鉄棒に慣れていない1年生という怪我の可能性を伴う現場の中、それぞれ遊びが異なる10人程度の児童を見る職員が1人しかいなかった。鉄棒に取り組んでいることを把握しておきながら、怪我に繋がる可能性を考えて職員を配置していなかった。	鉄棒や雲梯など落下の危険が伴う遊具を練習中の児童には、注意喚起を怠らないだけでなく可能な限り補助に入り、怪我のリスクを予防する。怪我の可能性を予測し、予防に務められるよう職員配置を適切に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	設備・遊具等に不備はなし	1.集団活動中・見守りあり	スイミングの送り出し、個別対応児童が重なり、職員が通常より手薄だった。	やむを得ず職員が不足していると感じた場合は、専属の見守りが必要な遊びをしている児童に声をかけ、遊びを中断してもらうなどして安全面を優先する。適切な人数で見守りが可能になるよう、都度周りの職員と連携を図り、常に安全が保障された環境で支援に臨む。	1.いつもどおりの様子であった	校庭にさけび人員が確保出来るまで職員と鬼ごっこをして遊んでいた。一緒に遊んでいた職員が個別対応が必要な児童を所属クラブに引き継いでいる間に、本児は一人で鉄棒に向かった。逆上がり補助板を用いて鉄棒に数ヶ所鉄棒に取り組んでいた。落ちた瞬間を目撃した人は おらず何が原因で手を滑らせたのか不明だが、本児によると左腕から地面に落下したとのことだった。	3.対象児離れところで対象児見ていた	個別対応が必要な児童を所属クラブの職員に引き継いでいた際、本児が一人で鉄棒に向かっていたため遅くかから見守る形となっていた。職員が不足している時間帯だったこともあり、鉄棒に専属で職員がつくことができず、校庭で遊ぶ10人程度の児童を職員が広く見守っている状態だった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	職員の動きが流動的だったため、本児の動きを常に見守っている職員は配置していなかった。他の職員は隣接する学校敷地内の遊具広場で遊ぶ児童の見守りを行っていた。本児が怪我をする直前に鉄棒に向かった職員が1名いたが、怪我を未然に防ぐには至らなかった。	本児の鉄棒を含め、職員に数に人数に個々の対応が必要な児童が多かった。	鉄棒に限らず、遊具が伴う危険性を児童に伝え、安全性を児童自ら確保出来るような声かけや注意喚起を徹底する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡						マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか				
45	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25						25		3	1	21.9歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足間接外果骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	帰る時の危険箇所の周知や掲示、声掛けを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設に起因する事故ではないため改善策なし	7.その他	特になし	職員がいない状況で発生したため改善策なし	1.いつもどおりの様子であった	クラブ内友達と楽しく過ごしていた。	4.対象児の見ていなかった	自宅へ帰る途中に起きた事案のため、職員は確認できていません。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自宅へ帰る途中に起きた事案のため、職員は確認できていません。	特になし	クラブ外には危険な箇所がたくさんあるので、安全に登所や降所が出来るよう子どもたちと一緒に危険箇所を確認し、話合いを行う	
46	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	101						##		9	2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	遊具の丸び太を飛び越えようとする児童がいる。	危険なことを児童へ伝え。子どもたちにもどうもどうやって遊べばよいか考えさせた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	設備の不備ではないので特記事項なし。	3.個人活動中・見守り	丸太を飛び越え遊ぶ児童が多数いる。	飛び越えるような遊びはしない注意する。危険な状況にならないよう予測して声かけする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で遊具の周まわりで数名の児童がいた。	2.対象至対象児を見ていた	見守りはしていたバランスをくずして左腕を打つ動作だっで動作が一瞬だったので間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は数人の児童に話しかけ応しいて気付かなかった。	当該児童の動きを予測して、もう少し声掛けの対応ができた。	児童だけではなく職員も配置。職員が数を配るのはもちろん子どもたち同士でも危険な遊びになってないかお互いに確認をさせる。	
47	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	34						34		4	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	5.他児危から加害を加えたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	本人たちも支援員にも予測しのいる怪我であった。	支援員の見守りの立ち位置など工夫して死角をできる限り少なくする。密集しないように配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	若干グラウンドが乾いていたので滑りやすかったかもしれない。	散水をして、滑らないように配慮する。	1.集団活動中・見守り	ゲームを中断させていた時の事故。	常に子どもたちの動向を観察しておく必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	当該児童は行動も活発で、当日も元気に外遊びに参加していた。	2.対象至児の近で対象児を見た	散水のために一時遊びを停止させていたとこころ。至近で見守りをしていたが、目の前のことで事故を未然に防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散水をしていたので見ていなかった。	普段仲の子ども同士の接触事故であり、ふざけあっていたことが起因。	特になし。	
48	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41						41		4	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	年一回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守り	特になし	外遊び中は、事故発生の可能性の高い遊具付近については特にして注意見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	雲梯の隣にある鉄に棒付近にで見守りをした。本児が遊具から落下した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド全体を見守りをした。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。危険な行動が無いよう児童に声掛けをする。	
49	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10						10		5	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守り	特になし	外遊び中は事故発生の可能性が非常に高いので、注意してしてようする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	サッカーをしており全員離れて見守りをしていた。本児がシュートを止めようとした瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド全体を見守りをした。	特になし	集団で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。危険な行動が無いよう児童に声掛けをする。	
50	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40						40		3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	年１回程度実施	1.基準以上配置	特になし	事故との関連無し	2.不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	特になし	事故との関連無し	1.集団活動中・見守り	特になし	外遊び中は事故発生の可能性の高い遊具付近については、特に注意して見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特段変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	ターザンロープを揺らして遊んでいた上級生2人にやめるよう注意していたところ、後ろで本児がマネをした。落ちた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランド全体を見守りをした。	特になし	遊具で遊ぶ際など注意が必要な時には、職員が分担して近くで見守るようにする。また危険な行動が無いよう児童に声掛けをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者			発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項			死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
51	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	76						76		7		6	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.基準以下	児童全体として疲労感がみられた時期でもあった。4月以降に制限がなくなり、児童の動きが活発となったが体がついてきていない。	児童全体へ、遊びだけでなく準備運動も含め体力向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	ハード面の改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	石等の障害物はなかったが、ボールを除けつる際につまずいてまった。	2.対象至児の近く対象見ていた	タスケの監視	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	タスケ・なわとび等を監視	特になし	特になし	
52	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	124						##		15		9	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	ひび	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	研修に関しては、意識して職員毎年意識して受けていけるとよい。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	学校の遊具に対して、子どもたちが扱いなれていない部分がある。今回はサッカーゴールの網に引っかかったという所で、思いがけない本児の不注意もある。	学校の設備のハード面の改善しかでは難しい。ソフト面、環境面で対応していく。	1.集団活動中・見守りあり	学校の遊具に対して理解についてはオリエンテーションの説明をしていること、今回は自ら転じて生じてまった怪我だった。	改めて、今回の怪我を子どもたちも共有しながら学校の遊具に対して解を深めてもらう。	1.いつもどおりの様子であった	サッカーのゴールに網に入れた。	4.対象動児の見ていなかった	サッカーゴールの近くで危険なことはないことはわかるが、実際転ぶろまでは把握なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ自分の範囲の子どもたちを見守ってたため、サッカーゴールでの対象児の動きは見えていなかった。	網で遊んでいる訳でもなかったので、転んまったことが考えられる。	怪我が起きたことを職員、子どもたちに共有する。	
53	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53						53		6		4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	色々な動びきの遊び時に行っていた。	遊びによって時間を分けるなど見守りやすい工夫をする。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	地面が若干、凸凹していた。	遊具や玩具だけなく、小児など児童が遊ぶ場所の点検も行うようにする。	3.個人活動中・見守りあり	色々な学年の子が遊ぶ中で、遊び分の区分けでなかった。	動きの大きい遊びやはない遊び方に遊び場所を決め、お互いの干渉を減らしていく。	1.いつもどおりの様子であった	登所ては、通いつもり支度、学習をして外へ出てきた。	3.対象児の児離れたところで対象見ていた	集団遊びを見守りながらも全体で、対象児が何をしていかも視覚えとらて倒時も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学童クラブでの生活に慣れていない1年生を中心に見守っていたため、対象児童が何をしていたかは知っていたが転倒するところは見ていなかった。	一人遊びをした対象児童に対し、集団遊びに誘う声掛けは積極的ではなかった。	一人で遊んでいる児童に対し遊びの誘いを増やしていく。	
54	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60						60		7		3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	学童クラブに入所もない1年生はジャングルなど危険な遊具の使用を制限するなど配慮があった。	予防に関する研修への参加。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	ジャングルジムの使用制限、または使用禁止。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	普段より数が場少合は、活動エリアを制限する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特変はなく、仲の良い友達とドッジボール、ジャングルジムで遊んでいた。	3.対象児の児離れたところで対象見ていた	普段より職員数は少なかったが、外見遊びの配置は少なかったが、遊びの見守りはいつも通りであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジムで遊んでいたことは把握していたが、鉄棒コの見守りも同時に行っていた為、転落の瞬間は目をはなしていた。	特になし	ジャングルジムの下に職員を配置する。	
55	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36						36		6		4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕下腕骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	事故予防に対するマニュアルがなく事故予防に関する研修も行えていなかった。	マニュアルを作成し、事故予防に関する研修を施設内で取り組んでいく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２、３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２、３)回/年	園庭の砂利がぽこがあったと思われる。	園庭は雨天時以外毎日ブラシをかけている。子ども達にも砂遊びの場所について話をしていく。整備は補助員が行っているが、常勤職員も入りながら状況の確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の砂利をいじる児童が多く、地面がでこになっていた。外遊び中の帽子が徹底されていなかった。	砂遊びは砂場ですように徹底をする。帽子をするの着用をように徹底をする。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールに参加をしていて、本児が帽子を被っていない事を他児が声をかけ、帽子を取りに走り出し転倒した。帽子は着用必須であったが、その時に本児はなぜ帽子をベンチに置いたままにしていたかは覚えていない。	4.対象動児の見ていなかった	ドッジボールに13名の児童が参加していて、発生本児が反対側とは側に話かけた為、本児が転倒時に見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生時3名の職員がいたが、2名はそれぞれ他児童の遊びを見守っていた。	園庭の砂利をいじる児童が多く、地面がでこになっていた。外遊び帽の着用の声掛けが徹底されていなかった。	特になし	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故 | | | 事故状況 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
61	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	162							##		17	11	20.8歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	本児の不注意であったため、防ぐのは困難であった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	怪我の起きにくい育成環境となっているかどうか職員全体で確認する。	危険箇所がある場合は速やかに職員全体で共有し、対策を施す。	1.集団活動中・見守り	砂場は放課後は使用しないので、ブルーシートがかけられていた。	実際に児童が使う遊具だけでなく、校庭に置いてあるものの危険性についても支援員が意識し児童に伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの数遊ごっよう人と鬼をしていた。	4.対象動児の見ていた	特に気になる様子られた見はなかので、全体を視野に入れながら見ていた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	砂場の周囲は危険な場所という認識はなかったので、特別に意識して見ていなかった。	児童が走り回っている場所に、足を取られる等危険箇所があることを予測して声かけをすることができていなかった。	見守りの立ち位置を工夫し、隅々まで目が届くようにする。思いがけないもの怪我につながるということを支援員全体で共有する。	
62	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	95							95		9	5	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	痛がっていないか職員が何度も確認の声掛けをする。	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	子どもがするテーブルの高さを配慮していく。	1.集団活動中・見守り	特になし	混み合う作業状況を作らないように配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	読みたいみ本を読んしんで本を楽しいた。	3.児童が離れたところで対象児を見ていた	対象からたところで対象見ていた	同じ部屋にいた職員がその状況を全体を見ている中ですぐに気づきその状況を対応した。その状況を第2クラブの職員に知らせてくれた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	本人が本を読んでいたい、と言うまま様子を見守ることにしし、手音を痛がり出したら第2クラブに戻ってもらい、離れてきたので保護者に連絡をした。	特になし	痛がっていたらすぐに病院に連れていくようにする。	
63	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		4	4	20.8歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	腓骨遠位端骨折	1.遊具等の転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	全体に改めて遊具の使い方の指導を行い、自分がやらないのはもちろん、自分以外の子や園外の子が危険な行為をしていたら止めるか近くの指導員に知らせるようお願いした。指導員間でも安全に配慮した保育ができるよう情報共有している。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1２)回/年	特になし	遊具に欠損や異常は無かったので改善するところは無い。危険箇所を見合は指導員間で共有し、子どもたちにも伝える。	3.個人活動中・見守り	特になし	広い校庭で15名ほどを２名で保育している中で、一人一人の全ての行動を把握する事や子どもの突発的な行動を防ぐ事は難しいが、できる限り注意する。	1.いつもどおりの様子であった	新しくおともだちになった学童外のおともだちとそうに遊んだ。	4.対象動見ていた	対象動見ていた	アスレチックで遊んでいた様子は見ていたが、飛び降り瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	他児童と関わっていた。	学童外の新しい友だちと遊んでおり、お互いの身体能力の差も分からない事を加味して注意深い保育が必要だった。既定の指導員数以上は配置しているが、既存の指導員数では付きっ切りで見守る事が難しく、安全を確保しきれない。	危険な行為をしないように及び学童全体に注意する。見慣れない友だちがいる時には特に注意して保育する。	
64	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							30		4	3	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	室内遊びの見守り員を支援員が行ったが、児童が全体的に落ち着いていたためがおろそかになった。	室内で静かに遊んでいるときもけがをするおそれがあることを指導員で共有し、見守りを強める。室内でけがをするおそれがある箇所を児童に共有する。全体的に児童を見守る支援員を配置する。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	廊下等は指導員の室内は死角になっており、様子がわかりづらかった。	常に異物や壁のない壁で損傷した際の改善は難しい。指導員の目が届きづらい箇所は児童に共有し、児童が近付く場合は、気を付けるように声をかける。	1.集団活動中・見守り	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	室内遊びをしてお手洗いに行くため廊下へ向かった。	4.対象動見ていた	対象動見ていた	お迎え対応や他児童の見守りを行っていた。児童からぶつ足をけたがなかったため、児童の事後の事実や発生状況を把握した。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	室内の他の児童を見ていた。	児童が周りが見えていないことも要因として考えられるので、指導員が状況を見ながら気を付けるように声掛けをする。	日常の生活の中でも危険があることを指導員が児童に伝え、室内でも落ち着いて過ごすように声掛けをする。	
65	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	57							57		6	2	19.7歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	今年度は１年生の50名と多く、１年生の迎え員に支援員が必要となり、上の級生への手が足りなくなり、級生への配慮が薄くなってしまった。	2年生以上の児童は支援員が付かず学校から一人で帰ってくるが、帰り道で見守ることができると事故防止または早い発見ができるのではないか。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	学校から出てすぐは車が停まっていて合わず、縁石にも躓きやすい。	学校へ行く際に危険な場所や方伝き時に危険な場所や安全方を安全な歩き方の再確認をする。	4.個人活動中・子どもみ	いつも一緒に帰る同級生が欠席のため一人で帰った。遅くなり、両手に荷物を持ち走って帰ったとのこと。	走らずに安全に歩くもって余裕をに歩くように伝えていく	3.いつもより発活動で欠席した(理由を記載)	いつも一緒に帰る同級生が欠席のため一人で帰った。	4.対象動見ていた	帰ってきて泣いていた。ため話を聞痛む箇所の手当をする（冷保やす）。護者への連絡をしてお迎えをお願いする。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	数名でケガ子、児童の様子を全の確認。全共児童が安静に過ごせるように他の児童の遊びを見守る。	同級生が誰周りもいない時間に一人ごとを急いでしまった。	定期的に支援員は帰り道を見守る。児童にも危険行為をたら具体例で注意をし、安全にゆっくりに帰ることを伝えていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面												
				月	時間帯				人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等			性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
66	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	74						74		6		4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットの検討がいてないかされない	日頃よりヒヤリハット等、事故防止についての検討会を充実させる	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	遊ぶ範囲の確認を怠った	支援員、児童共に遊ぶ範囲の確認、為危険行為の確認を行う	1.集団活動中・見守りあり	児童の体格に対し高かった危険さであった	児童の体格や運動能力を見極め、早めに声をかける等の対応をする	1.いつもどおり様子であった	普段と変わらず様子であった	2.対象児の近で対象見ていた	児童3名が藤棚付近で遊んでいたのを見守る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他支援員1名補助員2名で担当の場所に配置	支援員はすぐそばで見ていたがクラブ外の保護者に話しかけられ児童に対する声掛けが遅れてしまった。	常に危険かもしれないということを意識し、共通認識を持っておく	
67	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11						11		2		1	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自転車倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	事故予防マニュアルの作成がなく、事故予防に関する研修が行われていなかった。	事故予防マニュアルを作成し、危険予知トレーニング等を定期的に開催する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	集団遊びで子ども達が密になりやすい。	見守りが手薄になる時間帯は部屋を見体は限定し見守れる制とする。	2.集団活動中・子ども達のみ	子ども達が自主的に遊んでいたため、部屋によっては活発的な遊びを行っていた。	自由時間であっても職員が常に見守れる体制をとって、子ども危険面でもなは声かけができるように支援を整える。	1.いつもどおり様子であった	宿題を終えた後、室内遊びをした。激しい遊びはせず静かに過ごしていた。	4.対象児の見ていなかった	玄関で保護者対応をしていた。他児童から報告がありかけつける。本人に声かけをするも苦しそうに返事をする。児童の保護者(父)と連絡がつき、クラブに向かうとの返答あり。まわりにいた児童にも話を聞く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	勉強部屋で他の見守りをしていた。	保護者対応する際に手薄になってしまった。	保護者対応など、子どもの見守りから離れる際は、他職員に声をかけるなどしてのすべての子ども見守れる体制とする。	
68	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	9						9		2		1	23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指成長軟骨の骨折	2.自転車倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	特になし	職員の配置も不足なく、事故防止のためのヒヤリハットの検証ども行っているため改善点はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	施設の安全点検や遊具、玩具の安全点検は適切に行っているため改善点はなし。	1.集団活動中・見守りあり	児童はつまづく前から、他の児童にぶつかり合いたりしてふざけている様子があった。	日頃から、度が過ぎたじゃれあいはつけようにと児童に伝えている。	1.いつもどおり様子であった	友達とじゃれて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象を見ていた	児童が友達同士でじゃれて遊ぶ様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りながら対象児童の動きを見ていた。他の児童も見守るため至近距離にはいなかった。	特になし	今回の件について、その他考えられる要因はない。	
69	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	9						9		6		5	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	児童の人数に対して、必要な配置人数の支援員が欠ける時は必ず代わりの支援員を配置するような連携をとることをマニュアルに追記した。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	今回の事連絡に関連性が低いため特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員を児童に列を先頭に列を移動中に門扉のカギを開けるために子どもたちの列に背を向けていた。	運動場での活動中は2人体制と取れていたが、先に保育室に帰る子に付き添った等1人で移動させることの体制が整ってないから移動を開始する。	1.いつもどおり様子であった	戸外遊びが終わり、列になってならんで歩き門扉が支援員が前開けるのを待っていた。	4.対象児の見ていなかった	１人の支援員が先頭して戸外遊びから並んでいる。扉の鍵を開け児童が背を向けている状態であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本来列の最後尾に１人支援員がつくべきであるが、他児の対応のためその場を離れており鍵が開くのを待っている児童を見守ることができなかった。	戸外遊びをしている児童の人数に対しての職員配置は適切であったが、入室する際の急な対応事が発生したため故現場に支援員が１名欠けたこと。	その他考えられる要因がないため、特になし	
70	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25						25		6		4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	研修に対し伝講による予知に対する合いや見守りの際の立ち位置など話がなお互いが足りなかった。	館内で事故予防に関する勉強会を定期的にないら、各自の意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	部屋の一角にがひとるが入れる隙のだけがある、追ため、詰めると出いられるなくスるペースがある。	部屋のレイアウトを変更することにより一角に隙間をなくした。	1.集団活動中・見守りあり	消毒、部屋の掃、トイレ掃除などをするため、部屋は支援員が子どもたちの見守りになっていた。	消毒、部屋の掃、トイレ掃除等の開始時間を変更して、多くの支援員が見守りに改善する。	2.いつもが気なかった(理由を記載)	執拗に一緒に遊ぼうと誘ってくることが嫌で泣いていた。	4.対象児の見ていなかった	険悪な状況であったため至近距離での見守りをしていたが、他児童が2人の状況について担当支援員に説明をし始めたため、そこに注意が向いてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室で作業をしていたため、気づくことができなかった。	手の届く距離に児童がいたにもかかわらず、話しかけ児童の気を取られ1人のいさかいを止めることができなかった。	いつ如何なる時も、児童の様子が視界の中に入るよう、立ち位置を考えながら支援に当たるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者			発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】																
71	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18						18		4	3	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	当該児童の中でもドッジボールが上手く下級生が投げたボールによる事故的な補球ミスによる下級以外の要因は考えられない。	自分より下の学年にボールを投げるときは手加減をするように日頃から言っているため、引き続きその指導は継続し、緩いボールでもしっかり見て補球する指導を加えていく。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故は施設等に起因するものとはにくく考えにくい。	今後事故起こるような言いとは言えないの市教委の指導の下、上記安全点検を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり	園庭のコンディションも児童の人数やコートの大きさや良くまとまっており、環境面での問題はないと考えにくい。	改善策としては当たらないが、コートのコンディションに関してはこれも最新の注意を払う。	1.いつもどおりの様子であった	2～6年生児童の男女8～15人がドッジボールをしており、ドッジボールが好きな当該児童は進んで楽しく遊んでいた。ボールが右手に当たった後もゲームを続けていた。	2.対象児の近く対象児を見ていた	指導員がホイッスルでなるべく審判をしながら全員の動きを把握していた。補球ミスに対してアウトにしたが、その後も当該児童がゲームを続けていたため異常には気付かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内遊びをしている児童に1人、屋外遊びをしている児童に3人が指導に当たっていた。3人のうち1人は運動場で指導に当たり、1人がドッジボールの審判と指導をし、1人は屋内と屋外を見守ったりドッジボールの指導に入る等していた。	当該児童は児童の中でもドッジボールが上手く、下の学年が投げたボールに事故であることから、初歩的な補球ミスによる要因以外は考えられない。	今まで以上に児童中及び活動後の様子によく見て、いつもと違う様子かは気にかけていく。	
72	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	32						32		4	1	24.12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	特になし	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	アルバイトも含めてミーティング等で情報共有を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通に元ごしていた。	4.対象児の動見ていなかった	対象児童とは違う児童とは接していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外遊び内から室内へ戻るとき一度だった為見れていない。	特になし	アルバイトも含め指導員全体で、児童の注意すべき既往症やアレルギー等を共有しておく。	
73	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	99						99		10	4	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	児童から取り組みに重点を置き、異変を迅速に察知し行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	不定期から、定期的に検査するよう努めて実施する。	1.集団活動中・見守りあり	地域の子どもが転車に乗り現れることで気持ちが高揚し、自転車を追いかける。	気分が高揚した一早く気づき、落ち着きを取り戻せるよう声かけをおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	普段遊んでいる子を一緒に遊びたいとの気持ちが高まり、自転車を追いかけ道の端を通ったことによる怪我であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	施設外の移動中に起こり現場を起こり現場いなかが、児童とのせ合わせ手当は迅速に対応。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育場所以外での怪我で、対応は担当の指導員が行なっていたので、連絡・報告を対応。	特になし	特になし	
74	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83						83		6	4	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指中指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	とくに変化はなくいつも通りの様子だった	3.対象児から離れたところで対象見ていた	遊びを見ることろ見守るできで見ていの位置で守った	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れたところにいる指導員からは死角になる場所であった	特になし	特になし	
75	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	63						63		8	5	23.11歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(左足の小指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	迅速な対応はできたが事故発生時後は支援員間で内容の共有、経過観察が必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ケガに繋がる行動をとっていないか、危ない場所がないかを確認し、安全に遊べる環境作りが必要である。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外は広く子ども同士の距離感も室内よりはとれるが、動きが大きくなるため注意を払い、事故が起きる前に防げる声掛けが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	室内で工作を作り終えてから同じ学年の児童2名がいる外にでできた。人数も少なかったのでサッカーの試合ではなくサッカーボールを蹴っていた。	2.対象至児の近く対象児を見ていた	同じようにボールを蹴って痛いいて声が振りこえ返ると左側面につけうずくまるように倒れる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた為グラウンドから名にられ支て室内に戻る様子を目撃していた。	特になし	児童のサッカーのスキルを理解し、事前に声掛けや注意を促す。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他														ソフト面	実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】						理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
76	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	125						##		17		8	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	支援員に見仕よって見守りの方がる異なる	マニュアルを制作する	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	ジョイントマットを2重にする	1.集団活動中・見守り	特になし	児童の人数によって見守りが不十分になる可能性があるため、その時は遊具の使用をやめる	1.いつもどおりの様子であった	元気に帰ってきた。食欲も発遊び、外で遊んだ。ケガもなく、その後おやつも食べた	2.対象児の近くで対象児を見ていた	1~2メートル離れたところで見ていた。児童は一つ一つのうんていを進いスピードで進んでいた。一瞬で落下したので守れなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていった	別の児童のほうの見守りをしていた	先に進もうとすると勢いをつけて、手が届かないとる	うんていをするときは支援員が俺に見守りをつきを強化する	
77	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43						43		4		4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(ミーティングでその都度実施	2.基準配置	小学3年生	職員同士で事故の原因等を振り返り、児童の見守りに際しては、十分注意するよう周知した。	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	1.定期的に実施	開所日は毎日実施	学校では禁止されていないものの、高さのあるうんていの使用が1年生にとって危険があるかもしれない。	高さのあるうんていを1年生させることについて、安全を考慮して検討する。	1.集団活動中・見守り	高学年の児童に比べ、バランスを崩すことの怪我につながった。	児童の挑戦したい気持ちを尊重し、高さのある梯子では、掛け守りを強化し注意することとする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも使っている遊具が滑り、バランスを崩して落下した。	2.対象児の近くで対象児を見た	雲梯には4～5人の児童が順番を待っており、その周囲には2～3人の児童が遊んでいる中で、雲梯をやっている児童を手前から見守っていた。そうしたところ当該児童が落下するのを目撃し、すぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていった	他の場所で児童の見守りをしていたが、怪我をした児童がいる報告を無線で受け、周囲の児童への目配りをするとともに、支援員の抜けた場所の見守りに移動した。	見守る支援員の人数が不足していたことも一因だと思われる。	危険予知トレーニングの実施及びヒヤリハット事例の共有を再度行う。	
78	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45						45		4		1	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘　骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	児童の運動場使用を利用人数・支援員人数に合わせて変動させる必要があった。	正しい使い方をしていても怪我につながることがあることを共通認識する。ヒヤリハット研修を支援員ミーティングの時に導入する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	学校管理施設でも共有で使用する遊具は丁寧に点検する。	開所前の安全点検を毎日実施。危険だと思ったら学校に知らせる。	1.集団活動中・見守り	児童が遊びを選択するので、他児の関わりを援助する必要があった。	長期休業時など1日開所する場合、状況に応じて外遊びの範囲を限定する。	1.いつもどおりの様子であった	ほかの友達とけんかをしていたため、仲間に入るか迷っているだった。	4.対象児の見ていた	対象児以外の子どもたちを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていった	外の配置支援員は2名、室内に3名おり瞬間的な場面は見ていなかった。	外遊びの支援人数と配置場所を再検討する。	外遊びの時、支援員はインカムを使用する等情報を共有する。	
79	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	40						40		7		5	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし。	支援員間の情報共有を徹底し、再発防止に努める。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	タイヤが滑りやすい	本年度内に安全計画を策定し、定期的な安全点検を実施していくよう計画する。危険な箇所・玩具を発見した場合は速やかに報告・対処するよう職員へ共有する。	3.個人活動中・見守り	特になし。	雨の後など、滑りやすい時にはヤ遊具を使用しないように児童に指導する。	1.いつもどおりの様子であった	他児童とタイヤ遊びをしていた。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	当該児童を含め、児童たちを児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていった	他児童たちを見ていた。	怪我直後は児童から訴えがなく、異変への気付きが遅れた。	保護者との情報共有を密に行う。	
80	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44						44		4		3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首の剥離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし。	支援員間の情報共有を徹底し、再発防止に努める。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし。	本年度内に安全計画を策定し、定期的な安全点検を実施していくよう計画する。危険な箇所・玩具を発見した場合は速やかに報告・対処するよう職員へ共有する。	1.集団活動中・見守り	特になし。	危険行為等に対して注意・呼びかけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	他児童達とサッカーで遊んでいた。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	当該児童を含め、児童たちを児の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていった	他児童たちを見守っていた。	怪我直後は児童から訴えがなく、異変への気付きが遅れた。	保護者との情報共有を密に行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制																		事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名									実施頻度【回/年】							実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】												
81	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38						38		4		2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	支援員、補助員の立ち位置を見直した	グラウンドに配置する支援員、補助員の人数の見直しと見守りの徹底	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	支援員の見守る中、1人の児童が転倒し一瞬の出来事で防ぐ事が出来なかった	外での活動中になっている児童への声を多くし、落ち着いて行動するように指導する	1.いつもどおりの様子であった	外で他児童とサッカーを行った	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れたところから見守っていた	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	痛がる様子等が見られなかった為、気付くことが出来なかった	研修等の徹底	準備体操をする。グローブをはめる。キーパーはグーで返すようにする。また児童が怪我をした場合にはすぐに申し出るよう、児童へ周知する。	
82	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30						30		4		2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	ソフト面は問題なし	ソフト面は問題なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	校庭を森と鉄棒付近に場所区切って使用しているが、目の届かない場所があった	全体を見通せるよう使用エリアを見直しうるの見直しをした	1.集団活動中・見守りあり	落ち葉が多く、地面が見づらくなりやすかった	その都度、環境整備と児童に声掛けをし注意喚起する	1.いつもどおりの様子であった	元気に友達と走っていた	4.対象児の動きでいなかった	支援員4名で分散童出し、児童全体の様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員4名で外に分散童出し、児童全体の様子を見ていた	森の中は通しが見通しが悪くなるできた	特になし	
83	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	48						48		6		4	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	怪我をしている児童については、室内で安静に過ごすようにする	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	環境面は問題なし	環境面は問題なし	1.いつもどおりの様子であった	いつもとなら変わらない様子だった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当を設けずず、全体の見守りを実施	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	外遊びの見守りを実施	対象児童が外遊びに行くと言ったとき、引き留めたが、本人が大丈夫と言って行ってしまった	特になし	
84	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32						32		3		3	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右大腿骨不全骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	低学年の児童を中心に見守りを実施	遊具の前には支援員を配置する	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	支援員は見守りを実施していたが、鬼ごっこしていると確認できていなかった	遊具の周辺で児童が走っている場合には常には配慮し注意を促す	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であり、問題なかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ジャングルジムの近くには他の児童の対応をしていた	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	他の職員はグランド、ブランコの見守り	遊具の周辺で走っている児童への声かけが不足していた	特になし	
85	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27						27		3		2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指中節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	興奮状態の児童への声掛け、遊具で遊ぶときの危険性についての再認識	児童と支援員等とで再度危険個所について共有を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	見守りをしていた突発的な行動で突発的な行動が突発的なことが難しかった。他の職員は他児童のトラブルの対応中であった。	その場の状態をよく分析して支援員等同士で連携し、危険個所への配置を検討する。突発的な行動を防ぐことは難しいため、児童の精神状態や危険な行為が見られる場合は、配置場所を含めて個別対応をしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	下級生に注目されて嬉しいという感情が興奮状態につながった。	2.対象至対象児を見ていた	遊具で遊全名ぶ児童体(10名前後)を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びの見守りや、児童同士のトラブルの仲裁をしていた。	同時にトラブルが発生することを想定して見守りにあたる。	特になし	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制																																										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者																																	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面							
																								死因	負傷状況	受傷部位				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																															実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
86	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53						53		6		4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	震梯で遊ぶ時のルールは決められていたが、児童らは決められた外に震梯、震梯の上に座り、のりこんでしまった。	震梯で遊ぶ際は西側から登り東側へ進むこと、それ以外の場所からは登らないことなど、遊具の正しい使い方を再度児童へ周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守り	グラウンドでは運動会の準備が行われており、邪魔にならないよう他の児童の誘導をすることに専念していたため、細部まで目が行き届いていなかった。	職員配置や役割分担の再確認し、グラウンド状況が日頃と異なる場合は、情報共有し状況に合わせた支援を行う。児童を含めて事故のリスクについて考える時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から他の児童より元気で過ごしており、変ない様子だった。	3.対象児童が離れたところ対象見ていた	他の児童を含め本を見ていたが、事故の瞬間を目撃しかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	約50名の児童が外遊びに出ており、5名の職員が外遊びの見守りをしていた。室内には児童20名が残り、3名の職員が見守りをしていた。	見守る児童やエリアを事前に打合せ、状況に変化しがでもとしのない見守り体制を維持できるようにする。	特になし	
87	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	24						24		4		3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(-)回/年	2.基準配置	支援員の数配置人数を考えるべきだった。	草や土が完全に乾いていることを確認する。危険な所に支援員を配置して立ち入らないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	外遊びをする広場は駐車場として利用される時がある為、地面が平ではなくて土が削られていて水が溜まりやすい。体育館横で除になる為、草・土が乾きにくい。	雨上がり後、中2日間を開けたがも少し間開けるだっ少し開けるべきた。土に乾草で広場を使用しない。	1.集団活動中・見守り	地面の段差があるところは危険個所として注意を促した方が良い。	管理者に事故があった旨告を報告し、環境整備について会も協力する。	3.いつも通り活動であった(理由を記載)	当該児童はサッカーが大好き為、外遊びでだっ。ボールを追いかけ時ばでは見えないことが多い。	3.対象児童が離れたところで対象見ていた	道路にボールが出ないように道路の間にとネット張った。トを張り終えに滑った児童を目撃した。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	他３人の室員は室内の子供達を見守っていた。	特になし	管理者に相談して、今後土を入れる等改善策をお願いする。	
88	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	62						62		5		2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	研修が未実施だっため、周知徹底ていなかった。	早急に研修を行い、事故対応の周知を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度随時	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	ハード面は問題なし	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守り	外での遊び方のルールが曖昧になっていた。	遊び方のをたちルール子供たちが考える時間を作る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもとよう元気で同じに外に走り回った。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	児童が鬼ごっこをしており、鬼かて逃げいる識守った。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	全体的に見ていたため、けがをした対象児童の動きを見ることができなかった。	全体を見つつも遊ぶ具で児童を重点的に見ていた。	保護者とコミュニケーションを取り、関係を築き生活習慣などについての話ができるようにする。	
89	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19						19		3		1	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	ソフト面は問題なし	ソフト面は問題なし	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	ハード面は問題なし	遊びの前、児童が来所する前に必ず遊ぶ場所、環境を確認をする。	1.集団活動中・見守り	雨上がりでもなく、地面はぬかるんでいる様子はなかった。良好でっあった。つまづいた様な物もなかった。	職員の人数、配置し、確認し遊びの内容や活動範囲を考える。	1.いつもどおりの様子であった	ケイドロ遊をしてんでいた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	児童達の様遊び子を見守った。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	別の児童の様子を見守った。	職員配置は適切であった。	外遊びに行く時は必ず準備体操を行う。遊んでいる中でも加減をしたり怪我を予測できるようにしたりと考えて遊べるように声掛けをする。	
90	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24						24		3		3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	当該児童が震梯で遊ぶ真似をして、本人の実力以上の遊具で遊ぼうとした為と思われる。	年齢に合わせた遊具での遊び方をみんなで話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守り	特になし。	児童が遊びをしていら、特に深く注意見守るにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通子りの様子で、特に問題はなかった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	遊具の近にはいれくたどしするはなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	校庭で児童の様子は見ていたが、距離で見ではなかった。	天気が良く、おやつも食べた後で、外で遊ぶことも楽しんでみた。	特になし。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面											
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																		
91	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						28		3	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	遊びの時や配置する数に職員数に注意する。	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし。	外遊びの前に、運動場において滑りやすい・躓い箇所がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守り	児童が運動場でおごっておごりを、職員距離から離れた、怪我が遅れた。	保育中の所在確認は支援員全員で行う。怪我や事故の対応は迅速に行う。怪我や事故の記録を記取っておく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ごっこからこの中で鬼ごっこ鬼で逃げるとになっておりがなっていた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	象から離れたところお見り、怪我の予測が遅れた。	いくつかのグループを少し離れたところおり、怪我の予測が遅れた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	見守りを児童の遊びグループの担当分けがされており、対象児の動きを見ていなかった。	特になし。	児童に関わる(見守る)職員数をしっかりと確保する。児童が遊びに夢中になっている際は、休憩を促したりクールダウンするように声掛けしたりする。	
92	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23						23		4	1	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	校庭での支援員は2名配置していたが、校庭も広いため危険への瞬時の判断力が必要である。	研修などを通して勉強すること。危険個所の徹底、把握の徹底、子どもたちへの定期的な指導を行う	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	遊具で遊ぶ前にも、不備ないかを確認する。	ブランコ使い方の遊具・子供達を見守り確認、指導する。	1.集団活動中・見守り	様々な場所で遊んでいた、至近距離ではついることができなかった。	支援時の様子をもう全体を見ていく全体に配慮する。	1.いつもの様子であった	通気いつもあっ元気だ。放課後とはいうこと疲れもあったかもしれない。	2.対象児の近で対象見ていた	象至対象見ていた	ブランコ付近で対象児の様子も見ていた。対象児が落下した時には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	対象児から離れて遊んでいた子供達の様子を見ていた。	楽しくコミュニケーションをとる遊びを通して、使い方を誤ってしまった。	友達と遊び方の使い方の指導・支援を行う。職員同士の連携体制をしっかりとしていくようにする。	子どもたちへ遊具の使い方の指導・支援を行う。職員同士の連携体制をしっかりとしていくようにする。	
93	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27						27		4	1	21.9歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	児童間のトラブルや小さな怪我が起こった場合、職員1名が対応に当たるため見守りが手薄になる。また、集団活動を苦手とする児童に1名関わる場合も同じように手薄となり得る。	見守りが手薄となる場合は、目の届く範囲に児童を集め遊ばせたり、皆で同じ遊びを行う。	1.定期的に実施	毎日環境整備や、掃除を行うため、同時に点検を行っている。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	毎日の掃除時の片付けや遊びの前に、改善に必要な玩具は故障・修理を行い、定期的に消毒を行っている。	児童は大人もつかない行動をとる時がある(本来の使いはない遊び方)また、遊びに夢中になると周りが見えなくなる。	遊具や道具は本来の使用方法以外の使用をすると危険があることを知らせ、声掛けを行う。	1.集団活動中・見守り	予測される行動分析や見守支援を行う。	予想される行動分析を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	夢中であった。	2.対象児の近で対象見ていた	象至対象見ていたが、助けるなく一人で転倒した。	すぐそばで見ていたが、助けるなく一人で転倒した。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	園舎に居る児童を見ていた。	集団遊びの苦手な児童に関わり、注意がそらしてしまいになる。	日頃から遊び方に遊び関して指導の充実を図り見守りを強化する。		
94	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46						46		4	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員の配置や人数については特に少ないこともなく運営していたので今後の改善はない。今まで通りに児童の安全管理に努める	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	小学校の遊具の管理のため特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	危険な遊び方をしている場合は正しい使い方・遊び方を改めて児童に周知する必要があるが、今回は偶発的な事故なので遊具で日頃からよく遊び体の使い方を知っておく必要がある	1.いつもの様子であった		2.対象児の近で対象見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		特になし	他児とのトラブルや危険な遊び方であったり管理不足から起こった事故ではないと思うので、今後も遊ぶ前には声かけをし、職員配置等は今まで通り全体を見ながら対応していく。	
95	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	31						31		3	1	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	屋外での活動時には、指導員の人数を増やす	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	遊具に不具合ないかの点検を定期的に行うこと	1.集団活動中・見守り	特になし	特に遊具で危険な遊びがされていないかを注意する	1.いつもの様子であった	特に変わりなかった	3.対象児から離れたところで対象見ていた	離れたところでの見守り	2.担当者・対象児の動きをていなかった	離れたところでの見守り	特になし	学校の運動場で遊ぶ時は、子どもの人数に対して見守りの指導員の人数を増やし全体が見守れるところへ立つなど事故防止に努める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
96	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24						24		5		4.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	上級生達も同じコートにいてコートの中の人数が多めであったため、ぶつかりやすかった。	体力や身体の大小、運動力を考慮しぶつかりにくくし、コートも十分な広さを確保するよう支援員が判断する。	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	ボールも一番柔らかい種類を使用し運動場で凸凹もないところだが、夢中で遊んでいるが滑り足元がしてしまい、他の人も夢中になっていたため事故が起こってしまった。	上級生達とは別のコートでドッヂボールをする。ぶつかりにくくし、コートも十分な広さを確保するよう支援員が判断する。	1.集団活動中・見守りあり	低学年は特に楽しく熱中するあまりくり周りを見えにくくなる。	熱中症を避けるためにも、頻繁に水分補給等の休憩を取入れる慎重がに外遊びをする。	1.いつもどおりの様子であった	天気が良く、上級生生と大勢が遊んでいた。	2.対象児の近象見た	他学年の支援員が多数ちで見守っていた。	1.担当者・対象児のきをいた(至動見た近距離にいた)	広い運動場で多くの場所に児童がいたため、散らながら近くと全体を見守っていた。	その状態骨折事故なると思っていかったこと。	おやつは成分を気にしながら安全なものを用意しているが、成長期の児童により良いものを準備する(カルシウム等)	
97	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35						35		5		1.19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷			5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼(右中切歯永久歯)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施的施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ボール遊びや大型遊具を十分に見気やるよう気を付けていたが、だるこまさんがころんだに付いて見守りはしていなかった。	どんな遊びでも、視野に入れて見守りをすれりる。	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	遊具の裏なる場所になった	支援員の配置をマニュアル化	1.集団活動中・見守りあり	本児は遊具を使わずに遊んでいた	遊具を使用せずに遊んでいる子も気を付けて見守る。	3.いつもと活動的であった(理由を記載)	活発な本人大人男児とめな男児4人の計5人がだるまさんがころんだをしていた。	4.対象動見ていなかった	支援員は近くにいたが、けがの多いが遊具のほうていた。	2.担当者・対象児のきをいなかった	何人程度の子どもがその場にいたかの把握はしていたが別のグループを見守っていた。	だるまさころ怪んんがだで怪我と考えず、おら認識の甘があった。	何の遊びでも事故につながると、支援員全員で認識し、気を付けていく。	
98	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	28						28		5		4.20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	当該児童は和やかに過ごしていたのと畳の上だったこともあり、指導員も危機意識が甘かった。他に注意が必要な児童が分散し手が取れていたことも目を離した要因と思う。	畳の上であっても常に危機意識、見通しをもって対応できるようにする。子ども達にも危険な遊びに対して注意喚起するとともに、根気よく声をかけていき、子ども達と一緒に考えながら子ども達の危険察知能力も高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	0	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	指導員の危機意識が薄かった。当該児童の学年には日頃から厳しい遊びをし注意をしていた為、おんぶに対してまだ大人しい遊びという認識があり、注意を怠った部分がある。	子どもたちの状態に関係なく、常に危機意識を持てるように、職員間で改善意識につとめていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気だったが、対象児童が相手の児童におんぶされている姿を見たのは初めてだった。気顔でおんぶされていたため仲良く遊んでいるなという印象を持った。	3.対象児童ところで対象見ていた	対象児童の担当職員は特にいない。	2.担当者・対象児のきをいなかった	事故が起こった瞬間をどの職員も見ていなかった。おんぶされている状況を離れているところから見ている職員(事故の瞬間は別の子どもに目を向けていた)、対象児童を背にして他児のトラブル対応していた職員、子どもの宿題を見ていた職員、洗い物をしながら近くの児童を見ていた職員など。	分散しては見守りは行るが、トラブルや保護者対応等、その時々全児童に目がわたいる場合もある。	室内での自由遊びの時間は、できるだけ全体を見守る職員を増やす。また、声かけした人数にも目を配りながら他職員も気ると、更に職員間のコミュニケーションを重ねて意識改善に務める。	
99	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17						17		1		1.19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施的施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	危険性の想定	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	座る間隔の見直し等	1.集団活動中・見守りあり	想定外のけがだった。	あらゆる危険を想定する。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後の歯磨きから掃除開始の時間までテラスに座って待とうとしていた。	3.対象児ところで対象見ていた	歯磨きから掃除への移行の様子を、対象児を含め全体的に見守っていた。	2.担当者・対象児のきを見ていなかった	全体的に児童を見ていた。	特になし	椅子に座って待ってたほうがよかったのか、座る間隔が悪かったのなどを振り返り反省する。	
100	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	41						41		4		4.20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施的施	実施頻度(毎日)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修も取り入れながら安全対策に取り組む。	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	特になし	これからも定期的に安全点検を実施する	1.集団活動中・見守りあり	風が強く吹く時があった。	風の状況によっては、注意を促すようにする。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児ところで対象見ていた		2.担当者・対象児のきを見ていなかった	それぞれの至近の児童をみていた。	特になし	準備体操の時に、念入りに足首と手首と指を動かす運動を取り入れる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面						その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面			人的面						その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡				マニュアルの有無	事故予防研修						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育・育成支援の状況			対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き					
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
101	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45							45		5		19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中筋骨骨端線損傷、左手のひら挫創、左手のひら皮膚びらん	3.子どもの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	外遊び中沢山の児童の行動を把握できていなかった。	児童が好む遊びに準じて支援員配置を変えてきるり目が届く状況を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	校庭での遊びは児童の範囲室も広くよりも目が行きも届かない状況である。	支援員の数は増やせないので児童の範囲を目のでもうえるようにもらえるよう誘導、声かけをしていく。	1.集団活動中・見守りあり	声かけ、児童がまとまって遊べるよう誘導	行動範囲が広がる。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り楽しそうに外遊びをしていた。	4.対象児の見ていなかった	全体を見ていたためその間の児童を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたためその間の児童を見ていなかった。	それぞれの児童が好む遊びをしていたため支援員の見守りが追いついていなかった。	サッカーなど激しい動きの遊びは上り一層注意をする必要がある。	
102	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	187							##		22		9	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	開放骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	学童から途中帰宅途中事であり、子どもの動きを把握を把握することは困難である	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守った正規道路を帰るよう声をかける	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	引き続き実施する	7.その他	近くに信号付きの横断歩道があり、道路を渡るときは必ず横断歩道を通るよう指導している	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守った正規道路を帰るよう声をかける	1.いつもどおりの様子であった	学校帰りはで普通通りであり、今日はおやつを持ってきていたもらって帰ると施設長に元気に答えていた。また、担任には普段と変わらなく応対していた。	4.対象児の見ていなかった	おやつを持って帰宅していたので、道路を横切る場子までは把握できていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため指導員は見ていない一人は教室前で子どもの受け入れを行っていたが、道路まではあり横断するのを確認はできなかった。	学童から途中帰宅途中事であり、子どもの動きを把握を把握することは困難である	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守った正規道路を帰るよう声をかける。	
103	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37							37		4		2	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折、左足関節外果骨折、左足外側外副じん帯損傷、左足外果離断性骨軟骨炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	ケガをしたり、捻ったときの手当対処法の確認	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	周囲に気を付けながら遊ぶよう声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボール中で元気に逃げ回っていた。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	目の前で転び、立てなかったので抱え安全にえてな場所に移動し、応急措置	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場で他の子たちを見ていた。	ドッチボールのスペースが人数に対して狭いときがある。	足に合ったサイズの靴を履くように話す。ボールを使った遊びの経験を重ねるように見守る。	
104	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33							33		2		1	18.6歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指の甲骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1 1)回/年	2.基準配置	特になし	見守りの強化	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	見守り・声かけ	危険箇所の確認	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	教室に入る時から水筒を引きずり、注意をするが聞き入れず、運動場から正門へ向かうときに走って転倒。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	離れたところから全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員も離れたところから全体を見守りしていたが、対象児の動きまでは見ていなかった	走ったことによる転倒	走らないように注意し、日頃から安全な下校方法を児童たちと再確認する。	
105	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		4		2	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊具の適切な遊び方を再確認し、危険な遊び方をしている際は声かけ等を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特になし	活動する前には注意点を入所児童に説明。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特段の改善点はなし。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は通常通りで、いつもどおり外遊びをしていた。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	支援員は運動場全体を位置にいたため、対象児童からは少し離れた場所で危険な動きをしていないか見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋内に1名、屋外に担当職員以外に2名がいたが、他児童の支援を行っていたため、対象時の動きを見ていなかった。	特になし	走らないように注意し、日頃から安全な下校方法を児童たちと再確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯				人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
106	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童		20						20		3	1	18.6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.基準以上配置	特になし	体育館内での適切な遊び方の再確認	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特になし	活動する前には注意点を入所児童に説明。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特段の改善点はなし。	1.いつもどおりの様子であった	友達と様々な遊びを展開。事故発生時はボールで遊んでいた。	3.児童からは離れたところで対象児を見ていた	体育館内で複数の遊びが展開されていたことから、他児童の対応等で事故を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館内にいたものの、他児童の対応等で目撃していなかった。	特になし	特段の改善点はなし。	
107	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童		28						28		3	3	18.6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	児童が雲梯を一つ飛ばしで遊んでいたため、落下しやすい状況にあった。	遊具の適切な遊び方を再確認し、危険な遊び方をしている際は声かけ等を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	校内に雲梯が2つあるが、児童の体格に比べ高さのある雲梯で遊んでいた。	児童の体格にあった雲梯で遊ぶように指導を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特段の改善点はなし。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は通常通りで、いつもどおり外遊びをした。	2.象至対児の近で象見た児対児の近で象見た	対象児童は支援員の目が届く範囲において、全体的に危険な行動をしていないか目配りをしていた。また、落下する状況に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋内に1名、屋外に担当職員以外に1名がいたが、児童の支援を行っていたため、対象時の動きを見ていなかった。	特になし	支援員は視野を広く保ち、全体を見渡しながらも個々の児童対応をするように支援員全員で確認。	
108	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童		64						64		6	2	21.9歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(—)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの特と様子に変わりなかった。	2.対象至児の近で対象見ていた	全体の見守りで当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
109	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童		102						##		12	3	22.10歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(—)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの特と様子に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	全体の見守りで当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
110	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童		163						##		11	5	23.11歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(—)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの特と様子に変わりなかった。	2.対象至児の近で対象見ていた	全体の見守りで当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
111	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	9.夜間・早朝（泊り保育）	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童		50						50		7	7	19.7歳	1.男児	7.登園・降園中(実所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左くるぶし骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(—)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	放課後児童クラブの活動中もはいつも様子と変わりなかった。	4.対象動の見なかった	下校途中の事故であり、支援員に守りは見なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中の事故であり、支援員による見守りはなかった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
112	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童		52						52		6	2	21.9歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(—)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの特と様子に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	全体の見守りで当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制													発生時状況	事故の転帰															ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項			死亡	負傷			診断名	事故誘因	ソフト面						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】							理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
113	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	11						11		3		1	20.8歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2.対象児の至近で対象見た	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
114	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	116						##		13		3	20.8歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
115	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	105						##		12		4	20.8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕（手骨首上）骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	放課後児童クラブの活動中はいつもと変わりなかった。	4.対象児の見ていなかった	下校途中に発生した事故であり、職員の見守りはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中に発生した事故であり、職員の見守りはなかった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
116	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	73						73		6		2	20.8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯冠破折、外傷性下顎骨骨折疑い、外傷性口腔粘膜裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	7.その他	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	放課後児童クラブの活動中はいつものの様子と変わりなかった。	4.対象児の見ていなかった	下校途中の事故であり、支援員による見守りはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中の事故であり、支援員による見守りはなかった。	特になし	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
117	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46						46		6		2	21.9歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中接骨端軟骨端線	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動き見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
118	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	43						43		10		3	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(一)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(一)回/年	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	2.対象児の至近で対象見ていた	全体の見守りの中で当該児童も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童の動きを見ていなかった。	支援員が見守りを行っている中で発生した事故。	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
126	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	0						0		0	0	18.6歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨近位骨端線損傷・右肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年		特になし	7.その他		特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもの様子と特に変わりなかった。	4.対象児の見ていなかった	クラブを出た後に起きた事故のため見守りなし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブを出た後に起きた事故のため見守りなし		今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因							実施頻度/【回/年】			実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】																
127	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	122						##		9		3	22.10歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指末節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(―)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの通りの様子であった。	2.対象児の近で対象児を見た	見守りを行っていた。	1.担当者・対象動きを見ていた(至近距離にいた)	見守りを行っていた。		今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
128	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22						22		2		2	21.9歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	なし	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度4回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故について市内他クラブでも情報共有し、今後の事故防止に役立てる	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	特になし	今回の事故については運動場入口段差が原因であるため、施設改善は難しい	1.集団活動中・見守りあり	特になし	運動場で遊ぶ際は、入口付近は避け中央付近で遊ぶよう指導する	1.いつもどおりの様子であった	通常どおと友達と遊んでいた	3.対象からかれたところで対象見ていた	運動場中央付近で遊んでいる児童に添い全ながら全体を見守っていた	2.担当者・対象動きを見ていなかった	通常　外遊び１名、室内制で見守りをしている	運動場中央付近で遊んでいる児童の見守り重点的に行う必要があった	運動場で遊ぶ際は、入口付近は避け中央付近で遊ぶよう指導する	
129	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54						54		3		1	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕外顆骨折骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	外遊び中は支援員及び補助員が全体を見渡しを行うが、見守りの配置につき職員よりも先に運動場へ行き遊び始めてすぐのことだった。	児童より先に支援員が外見守りの体制が整った状態で遊びを行わせる。	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/3年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員よりも先に運動場に行きすぐに児童の近くにいた	外遊び時間になったら支援員よりも先に児童を外に出さず、支援員が先に出て見守りの体制をとり、遊具で遊んでいる児童がいる場合、止のため遊具付近で見守りを行い危険な時や転落時にすぐに対応ができるようにする	1.いつもどおりの様子であった	雲梯にぶりがっていたが、届かず左手でぶら下がる状態から落下した	4.対象動を見ていなかった	見守りに出る支援員は外遊び道具を準備して、対象児童が先に雲梯にから下がり始めていたのを見てお知らせず、落下に児童が雲梯下にいたのを確認した	2.担当者・対象動きを見ていなかった	外遊び時間になってすぐに対象児童が外に飛び出し遊びはじめた瞬間だったため、ほかの支援員が見守る前に起き	特になし	特になし	
130	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	19						19		3		3	19.7歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折(左手首上部)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故防止に関する研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	十分に対策は行っている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	十分に対策は行っている。	1.いつもどおりの様子であった	元気にサッカーボールをしていた。	3.対象からかれたところで対象見ていた	ボールを蹴近くで見守っていた。	2.担当者・対象動きを見ていなかった	各々好きなこしているたちを見守っていた。	特になし	ボールを蹴る際はボールの位置を確認することと目で見ながらよう蹴る声掛けを行う。	
131	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	16						16		2		2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指中節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	具体的なマニュアルは作成していない。児童ルールとルール決めはしていたが明文化していなかった。	マニュアル作成、ルールの遵守を徹底する。ドアは常に開放する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	手指挟みは想定し緩衝材で対策済だが、足指は想定外で無対策だった。	施設課に対応を相談。結果、常にドアを開放しておくことに決定した。	3.個人活動中・見守りあり	卒業を目前にした6年生との別れを惜しむが如く、普段密以上に濃密な関係性で遊んでいた。支援員を含め全ての関係者が少し浮足立っていたかもしれない。	マニュアル作成、ルールの遵守を徹底する。ドアは常に開放する。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	数人の列の後尾にいたが、前にいた児童が入室し続いてるつもりをしてドアが閉められたため、右足小指をドアに挟んだ。	2.対象至近象見ていた	室内で遊ぶ児童手をしている支援員が名。ドア付近でいる児童の見守りをしている支援員が一名。	左記のとおり	上記の二名のみ。	卒業を目前にした6年生との別れを惜しむが如く、普段密以上に濃密な関係性で遊んでいた。支援員を含め全ての関係者が少し浮足立っていたかもしれない。	マニュアル作成。ルールの遵守を徹底する。ドアは常に開放する。この自事故を目事として児童を含め全員で検証する。	
132	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20						20		3		2	20.8歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	支援員全員で再発防止に注意喚起を図った。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	学校内グランドを使用しており、特に危険個所なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	集団遊びでの見守りに対し個々の児童の注意を払う。	1.いつもどおりの様子であった	グラウンドでドッチボールをしていた	3.対象からかれたところで対象見ていた	外遊び中であったので、離れたところで全体を見ていた。	2.担当者・対象動きを見ていなかった	通常の遊びの範囲内のため、特に危険とはなかった。	特になし	ドッチボールを受け取る場合に手だけではなく体でも取るようにに指導する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制																			ソフト面									ハード面								環境面					人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者						死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか				
133	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	4						4		5		2	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	ボール遊びをするときは、靴下を脱ぎ靴ぐ約束だが脱いでいなかった。	靴下を脱いで遊びを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	日々の活動内容だったので、見守りがあったかもしれない。	事故はいつ起こるか分からないので、とっさの対応ができるように気をゆるめることが事。部屋でボール遊びをするときは、思い切りボールを投げない。	1.集団活動中・見守り	卒所式終了後テンションが上がっていたとも要因	テンションが上がっていることもあるので、行事後は落ちる着かせる活動（読取書）を取り入れるようにする。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	友だちとドッチボールをしていて近足元付近にボールが来たので、よけることが足れる感じで転倒。	2.対象至対象児の近象児見た	見守っていたので状況の把握はできていたが、瞬間的な出来事だった事で手の差したが合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	転倒したに衝撃音に気づき、まるずくく本児を発見。他の児童と関わっていたため気づく事に気に遅れた。	靴下を脱いで気ついたが、声かけを怠った。	ボール遊びは屋外でやる事。部屋を仕切ってボールで遊びができない空間作りをする。	
134	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45						45		4		2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	マニュアルを確認したが、マニュアルでは判断ができなかった	マニュアルを再作成し、職員は研修・講習に参加する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	児童にとっては高さがある部分であった。	マットや低反発の素材に変更もしくく。更は置く。	1.集団活動中・見守り	見守り支援はしかりていたが、注意判断力、声かけが欠けていた	研修を行危険予知訓練などを実地する	1.いつもお様子もりであった	いつものようにジャンプをして遊んでいたが、それを見ていた子に左足を向けながら片足ジャンプをし、見ていた子の胴にあたりバランスを崩し着地した	2.対象児の至近で対象児見た	一瞬の出来事で、行かず、動にする出ことが出来なった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	ホールに他の児童と遊んだり、お迎えの保護者をした。	ジャンプする前にくるを近くいる人ことを注意かった。	遊ぶ場所をホールのみにして職員が児童を把握体制にする。	
135	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30						30		5		4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左手中指)	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	外遊びに行く際、名本来3名引率したと主で、ていたところ保護者対応の2名すが行くで引率主と。なった。	外遊びに行く際に来客等で主任の対応がある際は、主任の対応が終了するまでもしくはその日の外遊びの育成支援に別の支援員が入るようにし、外遊びへ出発するときから3名で児童を引率できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	外遊びの際は、到着後だけ移動童の様子動童もしくと見守ることができるできう、必要な支援員数を検討し配置する。	1.集団活動中・見守り	これまでなわとびやボール、フリスビー等の児童が遊ぶ道具は、使用する児童が上級生の場合は児童本人が校庭まで持っていくよう指示していたため、上級生の持つボールが地面で跳ねた際隣接するこども園の敷地に入った。	手から離れた際に遠方まで飛んでいく可能性ある具(ボールやフリスビー等)は、支援員が水筒用のかごに入れて持ちようにする。	1.いつもお様子もりであった	学校から下校時やクラブ室内、外遊びへの移動中に紐を結び持ち、体に巻きつけるように振りながら持ち運ぶ様子が見られていた。	4.対象児の見を見ていたかった	先頭で14名の児童をしてお、列の中ほどにいた当該子の様子しっかりと見ることがなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	引率する子定だった支援員3名のうち、主任は保護者対応のため移動の引率ができず、もう1名の支援員は隣接するこども園に入った児童がボールを取りに行くため児童の動きを見ることができなかった。	特になし	特になし	
136	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46						46		3		1	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.基準配置	特になし	子どもの動きや状態、個々の運動能力を十分に見極め少しでも危険と判断したら声掛け、場合によっては活動を打ち切ることも考慮。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	利用人数・園庭の広さで担当職員はいつもどおり。声掛け指導を行うも危険を察したと同時であった。	危険個所の把握	1.集団活動中・見守り	学年に応じて声掛け、活動内容	危機管理意識を高める	1.いつもお様子もりであった	いつもどおりに外遊びをはじめる。のでは、人遊びをしていた。棒一本ぼり	2.対象至対象児の近象児見た	棒よりをのぼり降りうとしたいをくのが危険を察したが、上で手がすべり落下。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	保護者対応、室内1名。園庭(コート側)1名。園庭固定遊具あたり（のぼり棒側）1名。	普段通りの注意を払い、見守っていた。	支援にあたる職員の意識を共通理解、共有する。	
137	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	10						10		3		2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	か滑ロープしと手かもるれないと予測するべき	事故やけがの予測を見越しての声掛け	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	地面からあるり傾斜のある場所の為、ロープをかける場所の考慮が必要であった。	事故後、使用中止とした	1.集団活動中・見守り	当該児童が入所当日であったため、遊具の使用方法への理解がなかったのかもしれない。	特に入所日には、児童が納得するまで説明を行う。	1.いつもお様子もりであった	入所初日の児童が把握できなかった。	2.対象児の至近象児見た	3名ほどを児童名の児童をしての見守りていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	他の子どもの遊ぶ様子を見守っていた。	特になし	児童がいつも通りの様子でも事故が起こるかもしれないという意識を持つ。また、少しでも危険を感じた場合は、ためらわず注意喚起をし正しい使用方法を伝え理解させる。	
138	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	107						##		9		6	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊び慣れている遊具であっても、万一事故に備える。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	高さのなもの遊具大きくもケガにつながる危険性を意喚起すると共に意する。職員も留意する。	1.集団活動中・見守り	特になし	学年や遊び方に応じて休憩の時間をなどの設ける配慮する。	1.いつもお様子もりであった	普段から遊びを行って外活発に行こう児童、ありもの日も元気でいた。	3.対象児離れたところ対象見ていた	他の高さ遊具のあるそばにいるながら周囲で遊んでいる児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	複数の職員で広い校庭を分担し、全児童が見られるようにしている。	特になし	児童の様子に気配り、安全に遊ぶことができるよう声かけをおこなう。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教諭・幼稚園教諭・保育						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
139	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	35						35		4		1	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	8.その他	1.あり	2.不定実期施	—	1.基準以上配置	一緒にいた子どもが先に部屋に入ってしまった、支援員が肘を掴まった。	後ろ向きに部屋に促すのでなく、一旦止めて次の行動に移すようにする。	2.不定期に実施	毎日の掃除時	2.不定期に実施	外遊び時	2.不定期に実施	毎日の掃除時	長い廊下（約20m）の為、走りたがる。	注意看板による掲示に周知徹底を図る。	1.集団活動中・見守り	事故当日を含め３日間雨が続いたため、外遊びが出来ていなかった。そのストレスで子ども達が部屋の中で走り回ったのかもしれない。	今後、雨が続いた時の過ごし方を検討する必要がある。（学校の体育館利用や、部屋でも出来るレクリエーション等）	1.いつもどおりの様子であった	普段から走ることが多く、室内を促していた。	2.対象児の至近で対象児見た	他の支援員が指導していたが、止まないので止めに行った。	1.担当者・対象児動きていた（至近距離）	他の子どもの宿題を見たり、遊んでいる様子を見守りながら走らないよう対象児童に声掛けをしていた。	部屋での過ごし方についてはは指導していても、子どもも達に何故注意されているかが伝わっていない。	問題行動を起こしたときに返したとは繰り返しでも、最後まできちんと子どもに伝えさせる。注意看板の設置、毎日の反省会	
140	令和5年9月28日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	26						26		5		2	21.9歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定実期施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	インラインスケートで遊び児童は４名と少なかったが、広範囲にちらばっていた。また配置職員はインラインスケート経験がなく、技量を計れなかった。	児童の技量レベルを把握し、それを大幅に超えるような行動は控えさせる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	インラインスケートで推奨されるヘルメット・膝・肘・手のプロテクターは装備していたが、装着は児童に任せていたため固定が不十分だった可能性がある。	装備の装着状況を支援員が確認する。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童が広範囲に散可能性がある場合と、まって行動するに促す。	3.いつもどおりの様子であった	ひさしのクライアントでのインラインスケートで張っていた。	4.対象児動きていなかった	他の児童を注視していて事故当時当該児童を目視していなかった。	2.担当者・対象児動きていなかった	それぞれ担当箇所を指示していたため、それ以外の場所を目視していなかった。また自由配置の１名はおやつ準備等雑務にかかっていた。	特になし	装備が適切に装着されている支援員が確認し、児童それぞれの技術レベルに合わせた遊び方を指導する。	
141	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	0	0	0	5	12	0	0		2	2	16.4歳	1.男児	家で転んだりぶつかったりし、前歯がかけたり揺れたりしたため、治療中であった。神経をとっていて、黒くなっている。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定実期施	1	1.基準以上配置	マスクをしていた口の中の怪しためし、口の中をしたことに気付かなかった。	泣いたり、血が出たりしておらず、歯を怪我をしていることに気づかなかった。もう一度確認すべきだった。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	50	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	食事の片付けを子が転ぶ瞬ためし倒れた見ていなかった。	転ばないよう、落ち着いて遊ぶことを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	ブロックそんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	食事の片付けや声掛けをしながら、子どもたちの様子を見た。	1.担当者・対象児動きていた（至近距離）	食事の片付けや声掛けをしながら、子どもたちの様子を見た。	食事の片付けしていたため、子ども倒間を見ていなかった。	落ち着いて遊ぶように伝えた。保育全体者が全体の様子を把握できるように気を付けていく。	
142	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78	0	0	0	0	28	50	0		4	4	18.6歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左の肘を骨折	1.遊具から転落・落下等の	1.あり	2.不定実期施	1	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、実施、研修施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているのでなし	1.集団活動中・見守り	子どもがぶつかり遊ぶ下がっている場見ることを、守ることができていなかった。	職員の見守り配置を分散する	1.いつもどおりの様子であった	活発に戸外遊びを楽しんでいた。	2.対象児近で対象児見ていた	遊具のそばで全体を見守っていた。	1.担当者・対象児動きていた（至近距離）	見守りの役割分担をしその見場を守っていた。1人は総合遊具の階段部分、2人は園庭を見渡せる所。	遊具の遊び前に伝えていなかった。	遊びを始める前に遊具の遊び方を改めて子どもたちに伝えたり、状況に合わせて子どもたちに声をかけたりする。	
143	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7	0	0	1	1	3	2	0		3	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定実期施	2	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、実施、研修施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	278	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているのでなし	1.集団活動中・見守り	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	友だちとボール遊びを楽しんでいた	2.対象児近で対象児見ていた	ボールをいる児童を見ていた	1.担当者・対象児動きていた（至近距離）	他の2名の教諭の児童ボールが遊でいるを見守っていた。	冬休みの預かりだった為、身体が不足で、運動がしなかった可能性がある。	明け保育運動事前に柔軟体操をしてから、運動や遊びをはじめるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教諭・保育教諭・幼稚園				死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
144	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80	0	0	0	20	30	30	0		3	2	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	遊具の点検等により想定される危険を洗い出し、マニュアルの見直し等により事故防止を図る	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	1	園児が遊具の中に入り込んだことで死角になってしまった	園児が遊具の中に入り込むことで死角になってしまったなり生じる危険性が可能性があるため、当該遊具を撤去した	1.集団活動中・見守り	特になし	正課保育終了後には担任以外の教職員が園児の保育にあたるなるが、その場合でも事故防止により一層留意しながら園児の保護にあたる	1.いつもどおりの様子であった	キノコ型の遊具付近または遊具の中だと遊具で、ちやひとりでいることが多い。	3.対象児が離れたところ対象児を見ていた	園庭を見ながら、他児だと遊んだりしていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	園庭を見ながら、他児だと遊んだり関わっていた。	特になし	想定される危険に応じた教職員配置を再検討する	
145	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	36									3	3	1.男児	特別支援児(自閉症スペクトラム)、状況や痛みなどは言葉で伝えることができる。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位部骨折	3.子どもどうしの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	45	1.定期的に実施	89	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているので、特になし	1.集団活動中・見守り	ごっこしていて友達と交錯し足が引っ掛かり鬼をする時に友達が引っ張り転倒した	相手が瞬時に接近することもあるということを知らせ、ぶつかりそうになったら止まることを知らせる	1.いつもどおりの様子であった	クラスで遊んでいるあびでやがわっよりでいるが、担任がわっていてもなくてと友達緒に遊ぶことができる。	2.象至近で対象児見た	対象児が一緒に鬼ごっこしていることを把握した守りで見ていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	担当クラスの子どもの様子ていを見た	特になし	見守り体制があったため、特になし。	
146	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	5									2	2	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、上唇小帯裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし	今後も実際に怪我をした時、ヒヤッとした事の原因を追究し、改善策を職員間で共有していく。擦がひっかっから等衣服による原因が無いよう気を付ける。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	遊戯室の床は木で、柔らかくはないので、転倒時手をつけないとケガをする。	保育の中で、身体を使って遊び取れ、かりをついてを転ぶことができるように経験をさせる。	3.個人活動中・見守り	転倒時、本児は手をついた合わなかった。	今後の保育の中で、運動遊びを多くし、手っかいをしっとっていくようにすることで転倒出来るようにする。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児近象見た	対象至対象児をすぐそばにいて、転倒子を見ていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	本児と少し離れたマットで遊ぶ園児を見ていた。転倒時の様子には入らず音のみ聞いた。	特になし	保育士間で見る子どもを状況に応じ分担し、意思疎通を取る。	
147	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	2.女児	ぜんそくの薬を飲んでいたこともあり、嘔吐したことが骨折とあるかは不明。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	眼窩底骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	職員の数は適正であり本児の様子もきちんと把握していたが、鬼ごっこでは滑り台に上らない等のルールが守られていなかった為、より周知する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	手すり等を装着するなどインを装着する	1.集団活動中・見守り	鬼を行なっていたごっこ	ホールは広くあっ十分があったが鬼ごっこの際滑り台なに上らないよう工夫する	3.いつもより活発で活動的あった(理由を記載)	鬼ごっこおもごっこしていりテンションがりよりアップしていた	2.対象至対象児見た	職員が鬼のごっこしてすでごっこ鬼をおりぐそばいて見ていた	2.担当者・対象児を見ていなかった	バスに乗車していた為、見ていなかった	鬼である職員が迫ってきた事でテンション上がり普段と違う動きをしてしまった。また、職員自身も遊びを楽しむあまりルールを失念していた。	冷静な視点を持って関わる	
148	令和5年9月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									2	2	2.女児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)		1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	園児への指導の実施。職員へ事故に関する周知と保育環境の再検討	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	引き続き、定期的な安全点検を実施を行い遊具・用遊具に管理する。	1.集団活動中・見守り	特になし	体を動かした遊びの充実により身体諸機能の発達と、園児を対象とした安全指導を実施し周囲の状況把握や安全な遊び方が身に付けられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は普段の様子と変わらなかった	2.対象至児で対象児見ていた	担任は対象児の近くで見ていたが、落下時に止めが受けることができなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	担当職員以外は、それぞれの場で保育等を行っていた。発生時の様子は見ていなかった。	特になし	教師間で事故発生に関する共有を行い、指導に関して再確認を行った。	

No	初回掲載年月日	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
149	令和5年9月28日	3. その他	5. 幼稚園	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	92	0	0	0	35	30	27	0		10	10	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨過剰骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	2. なし	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	園庭の使いい好きな場所で自由に遊ぶことをしていた	鬼ごっこを良いも良い場所、サッカーをしても良い場所を区切るなど、遊び場所の整理や時間の使い方を考えていく必要がある。	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1	園庭での活動であったため、危険がないものと認識していた。	危険個所がないと捉えずに、安全に遊べるのか職員同士で声を掛け合いながら確認を徹底していく	1. 集団活動中守り見あり	サッカーゴールの置き場所、サッカーをしている周知の仕方、	安全面を考え教師と一緒にサッカーゴールを運び活動場所を決めるラインを書き、周りから見てサッカーしていることがわかるようにする	1. いつもどおりの様子であった	逃げることに必死になりとりを見ていなかった	3. 象徴的に離れたところで対象見ていた	ごっこをしていた把握はしていたが、他児で遊んだ為実際に転倒した姿は見ていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鬼ごっこをして逃げているのを知り、転倒したときも目には入っていた	園庭の遊びを見ないが、視当番に限ら当番ず、外に子の遊びを気にしながらいる職員が子どもの遊びをしながら過ごしていく	園庭の遊び当番に限ら当番ず、外に子の遊びを気にしながらいる職員が子どもの遊びをしながら過ごしていく	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者						発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		発生時状		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度/【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】												
150	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	6								6		5	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手　第2.3.4 中手骨骨折、基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	以前より入園式、卒園式、運動会等園児用椅子が必要な場合、園児が各クラスの部屋から運んでいた。当該園児については、体格が小さく椅子を持って階段を上がるときに、より丁寧な対応が必要であった。	椅子を持ち階段を昇降する際は、さらに丁寧に支援をする必要がある。また運びたい、運べる、という気持ちも尊重する必要があるため、講堂倉庫に全園児用の椅子を用意して、園児が椅子を運ぶことについては、安全を期する。具体的には階段等を園児が持ち運ぶことをやめる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児ていた	数名の園児が椅子の運ぶ時に担段を２階に担任は階段の下に園児のたへの対応があり当該園児ていたが、そるを見ていたばにいることはできなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	特になし	特になし	特になし	
151	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10								3		2	14.2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	特になし	事故防止マニュアルのチェックシートの確認に加え、部屋、遊戯室、園庭等の危険個所がないか確認し、全職員で改善策を考え、改善する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	転倒時、本児は手をついた指がが、小指に体重がかかってしまった。	段差のある場所を登る、降りるの運動遊びは、1歳児の発達状況をみて実際のステージの階段ではなくマットと積み木など転んでも危険の無い場所でできるようにする。そのためにお遊戯室の遊び場所をついたてにより分ける。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	園児が、登る、降りる、走る等の足腰を使った運動遊びを安全な場所で十分に行い、転んだ時に身体をかばう転び方ができるよう、経験を多くできるようにしていく。危険個所で不必要なものは排除する。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象児の近象児見ていた	すぐそばにいて、転倒の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	１人はステージの反対側で遊んでいる園児をていた。もうステージから離れた場所で遊ぶ園児をていた。	特になし	保育士間で見る子どもを状況に応じてて分担し、意思疎通を取る。	
152	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16								3		3	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	経験年数や職種の違う職員も多くいるため、園外保育丁寧な打ち合わせが必要。	数園中の動きに締ち割にし園外保育の職員の動きを綿密に打ち合わせを、役確おをし、役確おしてく。									1.集団活動中・見守りあり	経験年数や職種の違う職員も多くいるため、園外保育丁寧な打ち合わせが必要。	園先のないは限定園外保育れ遊具を使用をしたり、職員が同じ対応をする事前が応えようにに話ったりお合してく。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯に対して、「怖い」と恐怖を示し一度は辞めた。しかし、他児の遊ぶ様子や、安心できる教師の見守りのもとで、挑戦してみようと自己判断し、取り組んだ。	2.対象至対を児で児ていた近象見た	対象児の挑戦したいという気持ちを尊重した。進み出した時はすぐ側で手助けできる位置にいたが、対象児が調子良く進み出したため近くで見守った。バーを掴み損ねた瞬間に手を差し伸べたが、間に合わずに落下した。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の固定遊具見守りをしていたため、見ていなかった。	新学期が始まったばかりで、担任との信頼関係、子供自身の個々能力等理解できていない時期に園外に出て、慣れていない固定遊具で遊ぶことが不必要であった。	担任が個々の能力を知り得ない時期に、園外での固定遊具遊びは行わない。	
153	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	50								4		4	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨の開放骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	園庭で複数の活動をさせている際の教職員の立ち位置に関して指導した。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	特になし	ブランコの周りの侵入防止用のコーンとゼブラバーを増やし、ブランコの周りのスペースを広げた。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園庭での自由遊び中の幅広い視野で園児の活動を見ようにに指導した。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコを乗って、降りをおりる際に飛び降りた。着地の際にバランスを崩して転倒した。	4.対象児を見ていた動きてかった	他の園児のかけつこをしており、ブランコにしたため、ブラを背ていにの事故発生を見ることが状況るできていなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	当該クラスは園庭の待ち時間であったため園庭で活動を行っていた。他クラスは持ち時間でないと保育室または遊戯室でのあるために園庭で活動していたこのクラスの様子を見ていなかった。	特になし	園庭での自由遊び中の監督は幅広い視野で園児の活動を見られるように指導した。また、他クラスも含めて遊具の使い方について再度指導するように指示を出した。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
154	令和5年9月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2		2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	特になし	鉄棒で遊ぶ際は手を離さないようにする等、安全に遊ぶための約束事を子ども達と話し、再確認・再認識をうながす。また、保育者間で連携を取り、安全に遊べるように子ども達の様子を見守っていくことを再確認した。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施		特になし	園庭や遊具の点検をしっかり行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続きもたちの身体づくりと共に安全教育に努める。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒に座ることはいつもの姿であり、本児の好きな遊びであった。	2.対象至児の近児見た	戸外でクラスの子ども達がそれぞれに遊んでいたため、本児を含む複数の女児が鉄棒で遊んでいるとは把握していたが、落下時は他児の対応をしていた為目撃できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが、それぞれ別の場所で遊んで担当児の保育をしていたため。	特になし	子ども達の様子を常に見守り、不測の事態に適切に対応できるようにする。	
155	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9					7	2			2		1	16.4歳	1.男児	特記事項なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特記事項なし	事故発生時の対応などの研修の回数を増やす	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	特記事項なし	安全点検、確認の実施回数を増やす	1.集団活動中・見守りあり	目の前のトラブルだけでなく、背後のこどもたちの動きも注意すべきだった	出来るだけ園児の様子を把握できるように常に保育者は考えておく	1.いつもの様子であった	普段はあまり活発な動きをすることはないが、他のまに園児を柵にとじ込めて座ろうとするような事があった。	4.対象動を見ていかった	目前の園児がブランコの交代の事でもめたため、現場が取れ、そちらに気をとられていまい、背後の園児に気づくことが出来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の他場所にも園児がいたため少し離れたところで他の園児に係っていた。	特記事項なし	職員が常に園児の様子を把握できるように心掛ける事をを確認する	
156	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				4	9	3			6		6	17.5歳	2.女児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	0	2.基準配置	特になし	様々なケースを想定した事故に対応できるよう研修を実施する。事故後、園内の危険箇所について職員で洗い出し共有する。職員の安全面への意識を高めるとともに、幼児への生活指導の内容を確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	特になし	ハード面での不備による事故では無いため設・整備改考は善策はない。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	環境面での不備による事故では無いため施設・整備改考は善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りコロナ元気でプランで遊んでいた。	3.対象からた児離れとこで対象見ていた	園庭全体を見ており、本児がプランコで遊ぶ様子は目ていたが、落下しとなを予見しことを防ぐはできかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の降園支度を確認したり、保護者に渡したりして受けをいた。	特になし	園児が遊具でより安全に遊ぶことができるよう必要に応じて職員が園児の補助を行う。	
157	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	26									2		2	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	事故予防の研修を強化する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	事故発生場所は、屋上で人工芝を敷いており破損等はなく問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	先生を追いかけ転倒した事故であり問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象至児の近対象見た	特になし	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	特になし	特になし	担任も、他の職員も対象園児を見ており問題はなかった。	
158	令和5年9月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30					14	16			6		4	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	基準以上に配置していたが、園児から目を離すあった	園児が落下の危険のある遊具を使う時は、保育者は傍で見守るようにする。保育者が傍にいない時は園児が保育者に見ていてなどと声をかけるよう指導する。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	3	鉄棒の下に人工芝やマット等の安全対策が取られていなかった	落下の危険のある遊具には人工芝やマットを敷くなど、落下の際の衝撃を押える工夫をする。事故後、衝撃を抑えるマットを鉄棒の下に設置した。	2.集団活動中・子ども達のみ	複数の職員で見守りをていたが、遊具の片付け対応と支援助の補助の目を離す時間があった	片付けの時間帯には固定遊具でないに指導する	1.いつもどおりの様子であった	一人できまだはないが、だちの見友子を自分も挑まで前回り戦したいと思った。しかし回転の際に手を離してしまった。	3.対象からた児離れとこで対象見ていた	鉄棒付近の人数ども子ども子はは確認していたが、片付けの対応のそけで事故の瞬間は場を離れていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援児の見守りを行っていた	保育者は、自分の片付けが終わり遊んでいる子どもたちに注意が向いていなかった	片付けの時間帯には保育者は保育の視界に入る場所に子どもたちを集めておく	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 教育・保育等従事者 | | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転倒 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		教育・保育等従事者									年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
164	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	116							##		5		2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルの周知徹底を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	机の配置等は普段通り。	机の配置を見直す。	1.集団活動中・見守りあり	たなばた飾り製作期間中の、部屋内の多重敎かった。	製作活動を行う際の環境整備、人員配置を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子はなし。	3.対象から離れたところで対象見ていた	職員１名は、七夕飾り製作を指導していた。もう１名の職員は別のテーブルで他の児童との話をしていた。	2.担当者・対象児の動きをいつかった	２名の職員はホールで他の児童を見ていた為対象児童から離れていた。１名の職員は玄関にいた為、対象児童から離れていた。	当該児童間には学校においてもトラブルが確認できていた。その流れから来館後言葉のかけ違いが原因で事故に繋がった。	児童１人ひとりの様子を観察し、言葉のやりとり取りに少しでも変わった様子が伺えたら、すぐに間に入り暴力に発展しないよう気を付けて見守る。	
165	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	4							4		4		3	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	なし	事故予防に関する研修の実施	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	なし	遊びの活動内容の変更。遊びの活動場所はマットや畳の上で行う。	1.集団活動中・見守りあり	なし	最低１人は見守りをすることを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	体調面は問題なし。	4.対象動を見ていなかった	他児のトラブルに対応いたためなかった見ていなかった	2.担当者・対象児の動きをいなかった	他児のトラブルに対応していたため見ていなかった	なし	指導員へ事故防止マニュアルの再周知	
166	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		8		6	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（右腕、手首から肘にかけて）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	折に触れて、マニュアルを読み、事故防止につなげていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	事故発生場所には転落防止策を設置。児童が窓縁に座ったり、足をかけたりできないようにした。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	窓の縁に座ったり寄りかからないように利用児童へ指導した。	1.いつもどおりの様子であった	1人遊び（スライドパズル）をしており、穏比較的やかであった。	3.対象から離れたところで対象見ていた	対象児童で状況が遊んでいるで、3～5mには見守りをいた職員はいた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	児童の動きは見ていたが「特に危険はない」と認識してしまった。	特になし	児童に危険と思われる行動が見られた場合には即座に注意、保育の時間内では、遊びの輪に職員が入っていなくとも、何をしているか誰と遊んでいるかを常に把握して見守りをする。	
167	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	84							84		8		6	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折とひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修を不定期ではなくケガの多い時期に行う期前に行う等、定期化していく必要がある。	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	特になし	遊具の不具合がある時は小学校へ伝えるが、安全点検は学校と一緒に行っていくある。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びの見守りは必ず複数体制で支援員が一中しない様に集中しよう気をつけるので、現段階で以上の改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	春休み中朝のから学童へ登所。新年度も迎え多少の環境の変化はあったが、いつもどおりの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが手を差し伸べられる距離ではなく、他児と遊んでいたため事故が発生してから気付いて駆けつけた。他の外遊び担当職員へケガをした児童を室内へ連れていくことを伝え、代わりに中遊び担当の職員1名に外へ出てもらった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	距離が離れていたため、動きは見ていない。	新1年生が入所し日が浅く、見守りが要の対象児が1年生向きどころがあった。	タイヤ跳びはケガをしやすい遊具であるので、至近距離での見守りを必要があった。	
168	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34							34		3		3	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	正式なコート（10m×10m）を確保できない施設でのドッジボールクラブの練習を行った。	守備練習と攻撃練習と分けて行う習とて行う、施設の面積に合わせた練習法を導入する。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	正規のドッジボールのコートの面積を確保できない施設だったため、縮小コートで活動した。	片面だけコートにするなど、施設の面積に合わせた活動領域を設定する。	1.集団活動中・見守りあり	上級生と下級生の体格差によるもの。	上級生が下級生にボールを投げる場合は、加減するように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	体格差の年ある６年生ボールを、体の正面ではなく左腕のみで受けた。	3.対象から離れたところで対象見ていた	職員はドッジボールの指導・審判も兼ね応援で指導していた。ボールの受け方、逃避の方法についても実践と口頭で指導した。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	ドッジボール以外の活動に従事していた。	上級生が下級生の体格を考慮し力加減をしなかったことによる。	ソフト面の改善策同様、練習方法を工夫し、試合形式に慣れない間は下級生が混合チームとなっている群、力を加減するように指導する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳											教育・保育従事者				事故時状況	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		発生時状	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
169	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27							27		2		2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	無熱性けいれん	8.その他	1.あり	1.定期実的施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	職員は基準配置で，本児が倒れた際の対応も迅速に行うことができたが，てんかん発作等の緊急対応について改めて全職員に周知する必要があった。	てんかん等の発作が起きた時の緊急対応について全職員で確認する機会を定期的につくる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	－	継続して安全点検を行い，危険個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	－	全体の様子を把握し，緊急時にもすぐに対応体制できる体制を継続する。	1.いつもどおりの様子であった	ふだんどおり登館し，友達と遊んでいた。	3.対象から離れたところで対象見ていた	室内で卓上ゲーム等読書等運動を軽いと動しる様子ていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	担当職員，子どもたちから当該児童の様子を聞き，対応した。	－	担当職員と他の職員での迅速な連携，情報共有ができていたので，継続して行う。	
170	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	81							81		9		5	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕若木骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実的施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	各部屋の見守りはできていた。鬼ごっこ等の運動遊び時に起き得る怪我とその予防策，対処法について職員間で共有しておくと良かった。	職員会議や事故が起きた時，起きそうだった時等に運動遊びで起き得る怪我の事例を職員間で共有し，予防策や対処法について考える機会を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	－	施設の安等しの全は徹底ていめ，継続して実施する。	1.集団活動中・見守りあり	運動遊び前に準備運動の時間を設ける。運動，運動前あそび前に体の準備をする取ると時間を良かった。	運動遊び前に準備運動の時間を設けま，休憩は現在もにまとめようしてのこるとるで促いる今後も継続し，怪我を予防する。	1.いつもどおりの様子であった	いつものとおり，元気に来館していた。げんべいもいつもとおりいた。	2.対象児の近で対象見ていた	遊戯室の全体を見ようれるに，職員2人々に配置し，げんべいの様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	遊戯室のみように配置し，げんべいの様子を見ていた。	おにごっこ等の運動あそび前に，怪我をしないように注意喚起すべきだった。	運動遊びを始める前に，おにごっこは転倒や人とぶつかる危険性とき事例を交えて伝え，怪我のないような遊び方について話す。	
171	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	64							64		4		4	20.8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折・右尺骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実的施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	登館途中に起こうる怪我の想定をする必要があった。	全職員で登館ルート上の危険箇所の把握，共通理解を図り，集会等で子どもたちに危険箇所や登館中の事故例などについて伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	登館ルート上の危険箇所を再度把握する。	職員による登館ルートの確認，危険箇所を把握し，共通理解を図る。	7.その他	登下館中の怪我についての注意喚起が不十分だった。	登館途中は大人の目が届かない状況なので，怪我に注意して帰ってくる子ども達に声がけを徹底して行う。	1.いつもどおりの様子であった	友人と会話しながら歩いた。荷物を持った状態ではきにくく服装であった。	4.対象児の動きをていなかった	順次登館する児の受けれを行った。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	各居室で子どもたちの見守りを行っていた。	登下館中起こうる怪我や，周りを見ながら安全に登下館をに行うことについての周知が不足していた。	子ども達が安全に登下館できるよう登下館中怪我が起きやすい，どんなことに気を付けるべきかを定期的に伝える機会を作り，声がけをする。	
172	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	83							83		11		8	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもたちが遊びに夢中になった時，着替えも落ち着かないなや声がけが不足休憩すや促けしていた。	ボール遊びの際は，常に複数名で子どもたちの様子を見る。子どもたちへ一人ひとりの状況も確認しながら，適宜声がけ等を行えるよう全職員で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度毎日2回	1.定期的に実施	実施頻度1回/月	1.定期的に実施	実施頻度毎日１回	特になし	改めて遊具の点検，起こうる怪我や事故の想定をし，全職員で共通理解を図る。	1.集団活動中・見守りあり	遊びの間や終わりの際に，子どもたちが落ち着けるようにするべきだった。館内では上靴を使用していないため，遊戯室で遊ぶ際には安全面から裸足で遊ぶことにしていた。	遊びの前に事故防止の請注意を行い裸足で遊ぶ場合どんな事故が起こり得るか，事故の可能性について周知を図る。ボール遊び前にウォーミングアップを行い，遊びの間に休憩を入れ都度落ち着く時間を作る。	3.いつもより活発で動的であった(理由を記載)	奉休みで多制限中で過いしたことあり，遊戯室でのボールを心待ちにいた様子だった。	2.対象至対象児の近で見ていた	審判1人，見守り1人で対応して発人の動きは対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	各居室で見守りをしていた。	ボール遊びウォーミングアップをして，動けるようにすべきだった。	遊びの前にも子どもたちに声を掛け，安全に遊びを行えるよう徹底する。	
173	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	99							99		9		7	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期実的施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	遊具の正しい使い方や注意点についての周知が不足していた。	現在実施している研修や事故の振り返りを継続して行いながら，職員間で遊具の使い方や注意点，児童への声がけについて共通理解を図り周知する。	1.定期的に実施	実施頻度2回/日	1.定期的に実施	実施頻度1回/月	1.定期的に実施	実施頻度1回/日	特になし	改めて遊具の点検，起こうる怪我や事故の想定をし，全職員で共通理解を図る。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童は入まだ間こもなもあり，遊具を使った遊びに慣れていなかった。	一人ひとりの状況を確認しながら必要に応じて声がけを行い，楽しく安全に遊べるよう支援する。遊具での遊び方，怪我の危険性について児童と確認する機会を設け，適宜声がけも行う。	1.いつもどおりの様子であった	1年生の外遊び開始後，1人チェーンクラインに登り遊んでいた。	3.対象から離れたところで対象見ていた	1年生40名ほどの児童を，空間隔をけて4人の職員で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	各居室で見守りをしていた。	子どもたち見に意識がいた。	全体を見守るだけではなく，子どもたち一人ひとりの状況も確認する体制を作ろう，全職員で共通理解を図る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名
174	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	42						42		9	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折
175	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20						20		3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼
176	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24						24		4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾損傷
177	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	110							##	8	5	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指剥離骨折
178	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	120							##	6	6	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折

No	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
174	3.子ども同士の衝突にもよるもの	1.あり	1.定期実施的	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットに加え，実際の事故事例についても随時共有する必要があった。	これまでの話合いに加え実際の事故事例の共有を行い，事故を防ぐための解決策や事故が起きた時の対応についても確認する機会をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	-	安全点検を継続して実施し，安全べるように遊ぶようにする。	1.集団活動中・見守り	1～4年生まで体格差のある児童が一緒に運動遊びを行っていた。また，気温が高く外遊びが難しかったため，遊戯室で多くの児童が遊んでいた。	激しい動きのある遊びでは学年を分ける等の対応をした。また，一度に遊ぶ人数を制限したり時間で交代する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体は小さいが運動好遊び，上学年と一緒に遊ぶことが多い	3.対象児から離れたところで対象見ていた	対象児より指を踏まれた報告を受けたため確認し，腫れや痛みはないため様子を見ることした	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊戯室全体を見守っていたが，対象児を踏まれた瞬間は見ていない。	児童への事故事例の共有や事故防止のための声がけが不十分だった。	運動遊びを始める前や集会時等に事故事例を共有し，遊んでいる時も怪我をしないための声がけをこまめに行う。	
175	5.他児危から害を加えたもの	1.あり	1.定期実施的	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	外遊びに出る際，児童より先に見守りに出る職員の数が少なかった。	外遊びの際は，職員を先に配置から児童を外に出す。	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	-	これまでできて行った点検を継続行い，怪我を防ぐ。	1.集団活動中・見守り	外遊び前に，怪我無く安全に遊ぶための注意喚起が不十分だった。	外遊びの前に怪我なく安全に遊ぶための約束を話し，落ち着いた状態で児童に注意事項を伝える。	1.いつもおり様子であった	仲良しの児童とはしゃぎながら遊具に遊びに行ったりで気持ちが高ぶっていた子	4.対象児の見ていかった	遊具でいた遊ぶ姿はいた遊具に顔ぶつった瞬間は見ていかった	2.担当者・対象児の動きをていなかった	遊具で遊んでいた姿は見ていたが，遊具に顔ぶつった瞬間は見ていなかった	新1年生の職員を多く配置した。	状況に応じてバランスよく職員を配置してすべての児童の状況を把握できるようにし，安全に遊べるような声がけを行う。	
176	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期実施的	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	タイヤ付近に職員が配置がなかった。	こどもたちの遊び危険予知訓練を定期的に行なうとともに，職員同士が掛けをケガを未然に防ぐ工夫をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	タイヤが滑りやすい素材で、子どものバランスが合わなかった。	今後も滑ったり子どもたち滑するのが思ったことあるとの、子ども危険予知等丁寧に行なっていく。	3.個人活動中・見守り	タイヤ付近に職員が配置がなかった。	こどもたちの遊び危険予知訓練を定期的に行うとともに，職員同士声を徹底しケガを未然に防ぐ工夫をする。	1.いつもおり様子であった	いつも通元気に外遊びをしていた。タイヤ跳びが出上手に来るようになっていた。	4.対象児の見ていかった	見守りでくタッフはいたが，転ぶ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	危険箇所付近に職員を配置し，巡回しながら見守っており，本児がタイヤ跳びで遊んでいるのを把握していたが，転ぶ瞬間は見ていなかった。	タイヤ跳びは飛び損ねるとケガに繋がることの認識を改めり，手厚く要する必要を考慮していく	子どもたちの遊び危険予知訓練を定期的に行なうとともに，職員同士声がけを徹底しケガを未然に防ぐよう工夫する。	
177	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	効果的な見守りの配置について，機会を捉えて協議していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	多目的ホールは障害物等全くない ため	1.集団活動中・見守り	特になし	最遠と思われる場所で見守りを行っていたが，今後も効果的な見守りの配置を協議していく。必要に応じ掌の開閉等準備運動を行わせ，子ども達自身へも怪我に気をつけるよう十分な意識づけを行う。	1.いつもおりの子であった	いつもどしおりでの楽ゲーム参加にんムしした。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	主審はコート中央にいたため	2.担当者・対象児の動きをていなかった	指を突いた瞬間は見ていた，至近距離ではなかった	特になし	引き続き注意深く見守ること。怪我の予防に努め，万一怪我等が発生した場合は迅速な対応を心掛ける旨一同で共有する。	
178	3.子ども同士突によるものにもの	1.あり	1.定期実施的	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	夏休み開始直後で館内には児童クラブ登録児童，自由来館児童等多数の児童がおり，職員がそれぞれがトラブル等の対応にあたり，見守りの職員配置が薄くなってしまった。	館内の利用人数が増えた場合もきとその際の動きをシミュレーションし，考事定応策を講じる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今後も継続して全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	館内の利用人数が多かったので接触性の可能を考え心の注意を必要があった。また，児童への声がけが不十分だった。	職員同士声を掛け合い，きちんと見守りができるようにする。館内の利用人数が多い時は児童が他児とぶつからないよう自ら意識し，走らず周りに注意して動けるように注意喚起する。	1.いつもおりの子であった	対象児の普段と変わった様子は見られなかった。	2.対象児の至近で見ていた	本児がいた場所を見ていた職員も他児の対応で，その場を離れざるなく，本児がぶつかった場面を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	職員はそれぞれ遊戯室の見守りやトラブル対応，電話対応等で本児の近くにおらず気付けず，本児からの誰かとぶつかって足が痛くなったという訴えで発覚した。	児童が他児とぶつかった際に すぐに確認，対応できる位置に職員がいなかった。	その場を離れる際には職員同士声を掛け合い，見守りの目が無くならないように対応する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者 うち保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
179	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	49						49		6	4	18.6歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	登下館中の事故について職員間で確認し，共通理解を図る必要があった。	登下館中の事故事例の共有を定期的に行い，予防策・改善策を話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	4.個人活動中・子ものみ	登下館中の事故や怪我について，児童への注意喚起が不十分だった。	登下館中の事故や怪我について，事例を伝えながら児童に注意喚起する機会をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	受傷部位より も、擦り傷等を痛がっていた	4.対象児の見ていなかった	下校時（来館途中）め	2.担当者・対児の動きを見なかった	下校時（来館途中）め	安全に登下館するための注意喚起が不十分だった。	登下館中の事故や怪我，安全に登下館するための注意点等を児童に伝えるつくった。日ごろから声がけをしたりする。	
180	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	21						21		2	2	20.8歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	安全面の確保を行いながら引率していたが，移動中の事故や怪我についての事例，予防策を職員間でおくと良かった。	移動中の事故や怪我について事例を共有し，予防策や改善策について職員間で共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	7.その他	移動中に得や怪我につの周知が不十分だった。	移動中のつ怪我について，危険性や事例を伝える機会を定期的につくる。移動前に安全な移動について声がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本館に早く戻りい気持ちが強かった様子。	2.対象児の至近児童を見た	本児が目バの前でバランス崩し転倒した。	2.担当者・対児の動きを見なかった	他の引率児童の様子を見ていた。	移動中に出し走り児童への声が，注意喚起が不十分だった。	移動中は安全に移動することを優先し，走り出した時や怪我の危険性がある場合はすぐに声がけをする。	
181	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	89						89		13	11	20.8歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	安全管理に関する研修を受講する機会を積極的に設けるとともに、職員の安全に意識する意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度毎日	小学生用のドッジボールを使用していたが，3年生以上が使用するとしていた為、本児は扱いに不慣れであった。	学年が上がり、3年生以上用のボールを使用したが、ボールのキャッチ形式の仕方ゲーム形式の前に経験する場を設ける。	1.集団活動中・見守り	特になし	個人差があまりにもある場合は、ボールをかいらものに交換し、安全に遊べる工配慮、夫をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	進級して気持ちが昂り自信がついて、ボールに逃げるだけくキャッチしようとする姿がみられていた。	2.対象児の至近で対象児見ていた	相手チームの投げたボールをキャッチしようとして、うまくキャッチできなかった。指が当たったにで見えたのでと声をかけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員からの伝達を受け、室内に入って保冷剤と氷の患部を冷やす。	特になし	保護者の判断で受診が3日後となったが、アプローチの仕方を工夫し、早めの受診を促すようにする。	
182	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	109						##		7	6	18.6歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	遊具の遊び方について再度指導が必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	今後もより安一層安全点検を全点検する。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童たちへ遊具の誤っ方を使いいよう指導するとともに職員が一層安全面に配慮して見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもよりプランコ遊びを楽しんでいた。	2.対象児の近で対象見た	児童の近くにいたが、ブラ漕ぐコを一中に手を離然して下りは思わなかった。	2.担当者・対児の動きを見なかった	おやつの時間となり童を室内誘導していたため見ていなかった。	特になし	全職員で遊び方を再確認し、危険な遊び方をしない遊び方をしている児童には事故や怪我をしないよう未然に声がけをする。	
183	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	69						69		10	10	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の損傷（口腔内）	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.基準配置	図書室に移動したら座って落ちテレビをを見ることになっているが，このときは児童が移動して来たばかりで立った状態でテレビを見ていた。支援員が座るよう声掛けをしていたら事故は起こらなかったかもしれない。	図は座ってテレビを見たり読りする約束に伝え，児童がいいときは必ず職員1名が室内に入り約束を守声掛けるようにすることにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	安全点検または施設内に異常を発見した時はすぐに他の職員に伝え対応策を講じる。職員が対応できない異常があった場合は、館長から委託会社に報告し修理を依頼する。	安全点検表をしとともに、防止定期点検を講じる。また、日常の目確認を必ず行う。	1.集団活動中・見守り	自由来館児童は16:30に1人帰りをするが、それ以降残っている児童は17時までに保護者が迎えに来ることになっている。17時を過ぎても迎えが来ていない加害児童については，話を聞いたり事務室で待たせたりする等配慮が必要だった。	夕方の迎えを待つ時間帯は児童が落ち着かなくなるので、特に図書室は複数の職員で見守りをするように改善する。特に落ち着かない児童には側に付いて話を聞き、安心させたり事務室で待たせる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は周囲の雰囲気や様子に合わせる傾向があり，図書室に立ったのでいるが、子がいるのに合わせて立ってテレビを見ていたと考えられる。	2.対象児の至近で対象見た	担当職員は図書室入り口で見守りをしているが，役割交代の時間になり次の担当職員が来るのを待っていたため、室内だけ見守るのではなく時々廊下を見る等、図書室の様子に集中できない状況だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と交代する職員は急いで遊戯室から図書室に移動し，入るとすぐにDVDの操作をしたので室内の児童の様子はよく見ていなかった。	図書室の担当者は室内の児童の様子を見守ることに専念し，交代職員が来るまで移動しないこと。交代職員が来たら児童の様子を伝え，必ず児童の様子を見守らせる。少しでも様子が気になる児童がいたら声を掛けて話を聞く。	児童と職員のよりよい関係づくりを心掛け，落ち着きのない傾向の児童に対しての関わり方を学ぶ研修会の実施や参加の呼びをしていきたい。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者 うち保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
184	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	36						36		7	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左腕肘部)	1.遊具からの転落・落下	1.あり	1.定期実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	日頃遊んでいた雲梯であるが、遠くに飛ぶ遊びは当該児童の身長や発達段階と雲梯の高さを考慮すれば、多少の無理があったのかもしれない。	今後はさらに学年や発達段階を考慮し、無理のない遊びであるかどうか判断し、声がけを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具(ジャングルジム)については生に1年生に利用しているものも限るある雲梯については特に制限を設けていない。	雲梯本来の遊び方のについては適切に指導する。	1.集団活動中・見守り	普段、雲梯遊びはしていたものの、遠くへ飛ぶ遊びは、本児の発達段階には合っていなかったかもしれない。	雲梯の高さには問題はないと考える。雲梯本来の遊び方について適切に指導することが大切であると考える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	活発な本児は、4年男児1人も通り元気でいた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	事故直前に気を付けて遊ん児にけた死角ができない位置に移動して見守った。	1.担当者・対象児の動きを(至近距離にいた)	他の2名もそれぞれが死角ができない位置に立ち見守っていた。	いつもしっかりしていたとして油断した可能性があるかもしれない。	最悪を想定した意識でこまめに声がけしていく。	
185	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	41						41		6	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	特になし	提供する遊びの予想される怪我につや遊びに対しての適切な人数などを話し合い、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	砂が乾いた状態で、滑りやすい状態になっていた。	砂の状態を確認し、乾いたり滑りやすい時は水で湿らす等の対応を行う。レーキ等でならし砂が減らないよう一定の量を保つ、砂の入れ替えを行い滑りにくい状態を保つようにする。	1.集団活動中・見守り	特になし	遊び始める前にルールの確認ととケガに繋がるような動きについて子どもへ伝えて、注意して遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	昨年度から児童館を利用している児のため、いつも通りサッカーをいとと誘い合って遊び始めた。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	全体に向けて声がけをし、サッカーの審判的役割をしながら見守りを行った。児の一転倒後はすぐに気が付き声掛けを行い、事務室にいる職員へと引き渡した。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	遊具付近での見守りを1名、スクーターを正しく乗れているかの見守りを1名、それぞれの場所で行っていたため、グラウンド付近の見守りは出来なかった。	特になし	職員間で声をかけ合いながら子どもたちの遊びの様子を見守り、危険な場面を見逃さずに適切な対応が出来るようにしていく。	
186	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	75						75		7	6	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	見守りの職員が2人同時にボールを取りに行った時点でぶつかるリスク見できなかった	事故予防に関する定期的に実施しなかったので、あらためて研修を検討し実施していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	ボールがたっなくにボールも痛いようにくく、弾みやすくボールを使用していた	ボールが当たった考当衝撃を考えつつ、使用するボールも重り取りすいえ少しありやすいもの変える	1.集団活動中・見守り	部屋のスペースにやすいものの対子ども体格、体力面などは適正ではなかった	体格や体力面などに応学年に1回使用する人数を明確に示す	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	同学年のだっ遊びだっ遊びで、おが女女おいに負なたい気持ちいとが熟なっていた。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	横方向から全体を見守り	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	横方向から全体を見守り	子どもたちが大好きな運動遊びゆえに始まる前から、気持ちが高ぶっていた。	-		
187	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27						27		3	1	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
188	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	5						5		2	2	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.基準配置	マニュアルがなくしっかり修もした行っていなかった。	事故防止に関する研修を職員内で行う。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具の使い方によっての危険性もあった。	見回り点検などを行い気を付けていく。	1.集団活動中・見守り	子どもが少外なくなり外遊びの時間も間もなく終了だったため、使っていない遊具を片付けて背を向けていた。	できるだけ子どもに背けたちを向けない。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように友達と遊んでいるが、友達帰ってしまったので、後は1人で遊んでいた。	4.対象児の見ていかっ	子どもの人数も減り、遊んでいない遊具(道具)を片付けて背を向けた瞬間だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内での見ていた。	職員が1名休みだった基準は満たしているがいつもよりも手薄になった。	手離しで乗ることの危険をもっと細やかに周知していくことが必要である。	
189	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	5.おやつ時(学童)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25						25		3	2	21.9歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(０)回/年	2.基準配置	マニュアル作成やしっかり修した研修を行っていなかった。	事故防止に関する研修を職員内で行う。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故は施設・設備等とは関係ないが、畳などの段差もあるので今後も気を付けたい。	見回りのなど点検なを付けていく。	6.食事(おやつ)中	好きなおおかわりたくて、葉をしたくて、気持が焦ってしまった。	焦らず走よないように、注意喚起する。	1.いつもどおりの様子であった	職員や友楽しゃおしし、気持ちがいつもよりは高ぶっていたかもしれない。	4.対象児の見ていなかった	転んだところはみていたのの、勢飛いよく飛び出した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子とていたり、見接したりした。	楽しい雰囲気であり、その子の気持ちや性格まで目を向けられていなかった。	個別に焦らないように声掛けする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因		負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
195	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25						25		2	0	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	2.死亡	6.その他	0.死亡	0.死亡	—	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	緊急時の対応について、危機管理マニュアルにより再確認するとともに、必要な備品の設置、講習会などを受講する。	—	—	—	—	—	—	特になし	—	1.集団活動中・見守りあり	特になし	不測の事態にも対応できる引き続き注意を怠らず児童の見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	登室時の良もなく、昼食・おやつとも変わった様子はなく通常通り食べ、事故発生時は他の児童と一緒に室内で過ごしていた。	4.対象児の見ていなかった	すぐ近くにいたが、キッチンで麦茶の用意をしており、児童が倒れる瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外で遊ぶ児童の見守りをしていた、室内にいなかった。	特になし	当該児童は登室時特に体調不良もなく、倒れる直前まで普段と変わりない様子であったが、不測の事態が起こる可能性は常にあることを意識し、児童の見守りに従事するよう日頃から備える。	
196	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19						19		3	1	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨近位骨幹部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	ソフト面に要因は見られないが、再度基準やマニュアルを職員間で確認する。	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	特になし	ハード面は要因は見られないが、再度点検方法等について職員間で確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	育成支援の状況現面に要因は見られないが、再度支援状況の環境について職員間で確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	職員が各部屋を見守っていたが、活動室担当の職員(支援員)が突発的な来客対応のため目を離した時に事故が起きてしまった。	3.対象児は離れたところで対象児を見ていた	最も活発な行動をしている部屋を見守る職員(支援員)が来客対応に出てしまった。また、自由活動とはいえ、室内での活動として活発過ぎる内容だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当の部屋を見守っていた。	最も活発な行動をしている部屋を見守る職員(支援員)が来客対応に出てしまった。また、自由活動とはいえ、室内での活動として活発過ぎる内容だった。	各部屋の見守り担当割等の見直し及び活動内容の見直し。該当部屋への入室制限。	
197	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29						29		3	1	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位裂離骨折、捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	すぐわかる場所にマニュアルを備え付ける。児童に対し、遊んでいる時に痛み等がある場合は速やかに職員に伝えるよう話をした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設や遊具に問題なし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	環境面に問題なし。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態も良好であったため、他の児童と一緒に園庭でサッカーをしていた。	2.対象児の近で対象児見た	サッカーしていたちのすぐ見ており、サッカーをしている児童たちのそば守りていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は室内の児童の見守りを行っていた。もう1名は屋外の他の児童に対応していたため、対象児は見ていなかった。	特になし	退所後、児童に痛みなどがある場合は速やかに連絡して知らせるようクラブの月刊誌に記載し、保護者への周知を図った。	
198	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22						22		3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の脱臼・ひび	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1~2)回/年	1.基準以上配置	特になし	早急に事故防止マニュアルを作成、いろいろな場面を想定・再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	踏み台をなが手ないと台にはいと届児童がすぐ近くるすぐ見守るようにする。	1.集団活動中・見守りあり	対象児が乗った踏み台が支柱から離れていたため両手フリーになり、バランスを崩した際、左腕から落下した。	踏み台を近くに配置し、片手を支柱をもはは掴み、もう片手で掴まれるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯をする際、踏み台に右と上にしたばしたバランスを崩し、左腕が体の下敷きになる形で落下した。	2.対象児の近で対象児見た	園庭にて自由で自由に遊んでいるの支援員など見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で他児に対応していた。	支援員など雲梯の近くに2名いた、対象児届くにいかった。	起こりうる危険を予測して事前の防止に努める。この子だった大丈夫など過信せず、低学年への見守りは特に配慮していく。	
199	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25						25		5	4	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の頭骨と尺骨の骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	児童本人の不注意	遊具を使う際の使い方を声掛ける	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	児童本人の不注意	遊具の撤去、使用する学年の改定	1.集団活動中・見守りあり	児童本人の不注意	使用する際の声掛け	1.いつもどおりの様子であった	活発に遊んでいた	2.対象児の近で対象児見た	対象児童を含め、3人程度の児童の同時にみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育館、学習室、庭に一人ずつついてそれぞれ対象児童以外の見守りをしていた	児童本人の不注意	使用する際の声掛け	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 教育・保育等従事者 | | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転倒 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要					発生時の施設・事業体制									事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷		診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育士						死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
205	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43						43		4		4	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	その他特記事項なし	危機管理意識の向上に努め、緊急事態の際は的確な対応を実践し、児童の安全確保に関連する研修を継続実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	その他特記事項なし	施設、設備等による原因の事故を防止するため、今後も継続して点検・安全確認を実施する。	3.個人活動中・見守り	支援員が走らない等の危険行動について注意をしていたが、指示や指導が児童へ的確に伝わらない状況になってしまったことが考えられる。	児童への安全対策として、児童ホーム室内外の過ごし方やルールについて、引続き周知徹底していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	翌日に体育祭が予定されており、全体的に児童の気持ちが高揚している雰囲気であった。また、全児童に対し暑いので過ごすよう話したが、一部児童はその後も活発に活動していた。	2.対象至対児の近で対象見ていた	見守りの支援員は全体の行動を確認しながら、対象への室内児童の運搬や他児童からの声掛けに応じていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	カウンターでの保育作業や保護者対応をしており、注視していなかった。	児童の危ない行動を注意した際一時的に静止したため、その後児目を離し、全体の様子を気にかけていた。	室内での行動について基本的な安全対策走らない等を徹底し、児童の注意行動に関しては、一時的に静止しても暫く動向を継続注視しながら全児童への見守りを行う。	
206	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106						##		13		7	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	見守り方の見直しを検討する。学童クラブ利用児童に対して、遊ぶ際の注意点を再度指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	特になし	他学童クラブ、児童館、園担当課共有をじような起事故が起こらないように心がけていく。	1.集団活動中・見守り	特になし	校庭遊びの際の見守り職員の配置について見直しを検討する。	1.いつもお様子もりの様子であった	パスケットにボールに夢中になっていた。シュートの際勢いが余って転んでしまった。	3.対象から離れたところで対象見ていた	一人で遊ることは確認していたが、転んだ際の付きまた手の方を声をかけていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	パスケットボールで遊んでいることは把握していたが、各自決められた場所の見守りを行っていた。	特になし	見守りの仕方の見直しを検討する。学童クラブ児童に対して、遊ぶ際の注意点を再度指導する。	
207	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34						34		3		3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遅番職員の出勤直後という事もあり、事故時の遊戯室は職員1名の配置となり、全体を見渡せる場所に立ち遊びの見守りを行っていた。	遊戯室の職員配置数を増やすなど改善を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具玩具等での怪我ではなかったが、ボール遊びの大きさや空気の入れ具合(固くしてしまう)にして注意していく。	遊具玩具等での怪我やかった為、改善策は特になし、引き続き遊び施設点検等の点検など行っていく。	1.集団活動中・見守り	遊びを決める際は子供の意思が主体的に決められるよう話し合いを行っていたが、学年の違いによる体格差などの職員側の配慮が足りていなかった。	遊戯室に活動的な集団遊びをする児童数や学年適切に行い支援し、引き続きをいく。	1.いつもお様子もりの様子であった	朝学習、朝の会に参加後、自主的に遊戯室での運動遊びに参加。顔色も良く、もあり、食欲もあり、いつも通りであった。	3.対象から離れたところで対象見ていた	児童約12名に対し支援員1名で全体を見渡せる場所に立ち、遊びの見守りを行っていた。人数に対し空間の広さは適切に取れていた。事務室、遊戯室と隣にあることから何かあった際は、状況に応じて応援体制が速やかに取れる様にしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	こどもクラブ職員早番2名/遅番1名/事故時、クラブ職員はクラブ室内にて保育及び引継ぎ中。児童館職員日勤5名/遅番3名/事故時、遊戯室は職員1名の配置となり、全体を見渡せる場所に立ち、怪我やトラブルが無いよう遊びの見守りを行っていた。	小学校1年生から高校生が一緒にボール遊び（天下）行っていた。小学生と高校生では明らかな体格差があった。	児童数を考慮し、遊戯室の職員配置数を増やすなど改善を行った。	
208	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45						45		5		4	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	乗る前に降り方や転倒時の注意喚起をする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	一輪車の点検を行う	1.集団活動中・見守り	特になし	子供の数せ守り合わせ見ていたをしく	1.いつもお様子もりの様子であった	17:00過ぎクラブ室内で他児とにごっこ遊びをした後、児童館の遊戯室にて一輪車で遊んでいた。	3.対象から児童館職員を含めた遊戯室全体を見守り	児童館職員が本児を含めた遊戯室全体を見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ職員はクラブ室にて全体を見守り	特になし	特になし	
209	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	70						70		8		5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度約(1～2)回/年	2.基準配置	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	1.定期的に実施	実施頻度約(500)回以上/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回程度/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回以上/年	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	2.集団活動中・子ども達のみ	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	1.いつもお様子もりの様子であった	心身共に健康であったが、ボールを蹴ろした空ルうとところを振りに小指床を強打した。	4.対象動見児をなきていかった	児童館遊戯室で発生した事故のため、巡回をしていた児童館職員が対応しその後学童担当職員に情報共有をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館を巡回していた児童館職員が、怪我をした児童本人の申し出により事故発生時の詳細な状況を認識し対応をし、学童職員に情報共有をした。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	自らの転倒・衝突による怪我のため特記事項なし。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
210	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	63							63		14	7	20.8歳	2.女児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	口腔内裂傷・顎の部分上の裂傷	2.自らの転倒・衝よによる突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	多様な事態に備えて改めて研修資料等を見直す	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	更衣室を1階に変更し、階段を児童の動線から外す	3.個人活動中・見守りあり	特になし	階段を上っている際、プールタオルを首から被っていた為、腕を出すように指導する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で、特別に注意すべき事項は無かった。	2.対象児の至近で対象児を見た	2階の更衣室内に職員はいたが、階段には職員は配置していなかった為、対象児童の動きは見ていなかった	2.担当者・対象児の動きをいま見なかった	各部屋で児童育成と着替えし対応をしていた	特になし	職員間で今回の情報を共有し、怪我防止に努める。児童にも危機管理意識を周知する	
211	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	101							##		15	9	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝よによる突	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	研修に関しては、毎年意識して職員が受けていけるとよい。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	丸椅子がかいちらかマットの上に置かれていた為、バラが崩れやすかった。	椅子は育成室から使う育成室に排除することはしない。環境面で対応していく。	1.集団活動中・見守りあり	室内には他にも子ども数人いた対象児のそばにはいられなかった。	この ような事故が起きた事は常に頻に入れ、子どもが丸子椅子を使う時は気に掛ける。子どもたちと怪我について共有し声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	おりのぬいぐみを持ちながら丸椅子の上に立っていた。	3.対象児の離れたところで対象児をていた	丸椅子の立った姿は見ておらず、転倒づに気づき駆けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもを見守っていたため、対象児の動きは見ていなかった。	特になし。	物を持ちながら椅子の上に立つ危険性を改めて子どもたちに伝えていく。	
212	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	118							##		14	9	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子どもの衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし。	研修に関しては、毎年意識して職員が受けていけるとよい。	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	特になし。	特になし。	3.個人活動中・見守りあり	室内には他にも子どもが複数人いた対象児を見る環境ではなかった。	各グループの集合時、子どもたち全体へ今回の出来事を周知すると共に、部屋でのじゃれ合いには危険が伴う(骨折する場合がある)事、部屋での過ごし方を再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの一友達とじゃれ合う。すぐり合う、ちょっかいを出し合う。	4.対象児の見ていた	室内でのじゃれ合いは危険な場合もある為、担当職員がやめるよう何度か声を掛けた。落ち着いた様子を受けその場を離れたが、再度じゃれ合いをしていた為止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもを見守っていたため、対象児の動きは見ていなかった。	特になし。	特になし。	
213	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	48							48		6	4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折(ひび)	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険個所の把握、事故の起こりうる場面を想定し、共通認識できるように職員間で再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	公園のため直接設備を改善することは難しい、遊具から飛びりしないよう、また危険個所の把握を職員間で共有しておく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	安全に遊具を使用できる人員の配置位置を再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り登所し、宿題も済ませおやつも全量食べた。戸外遊び前の室内遊びも変わった様子はなく積み木で遊んでいた。戸外遊びに出る際は、片づけを済ませて皆と同じように準備をしていた。	2.対象児の至近で対象児を見た	遊具は危険を伴う為、職員が必ず1名ついて見守りを行っている。	1.担当者・対象児の動きをていた(至距離にいた)	近くにいた職員もまたまた遊具の方で本向を見ており、本児が視界に入っていた。	特になし	鬼ごっこの場所を決めて遊ぶ。遊具の上では鬼をしない鬼をしようる。	
214	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	60							60		9	7	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	児童に対して怪我の予防となる声掛けが不十分であった。また、準備体操等で効果的な予防を行うことが出来ていなかった。	体を動かす遊びを行う際には必ず必要な声掛けや準備体操などを行わせる。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	体を使う遊びに関する注意事項を記載した張り紙などは行っておらず、児童自らが事故防止に関する情報を練認できていなかった。	ドッジボール等の事故の多い種目に関しては、目に見えるけがの予防ができる掲示物等を使用する。	1.集団活動中・見守りあり	児童に対し、けがの防止に取り組む適切な声掛けや様子を観察する部分が不足していた。	個々の児童に応じて状況や環境に合わせて、けがが起きないよう声掛けをしていく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボール会に向けてボールをキャッチする練習に熱心に打ち込んでいた。	2.対象児の近で対象児を見た	遊戯室中央に立ち全体を見回せる態にした。対象児がけがをした際にも至近でも見守っていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至距離にいた)	遊戯室内の職員は1名のみであった。	至近から目視していたが防ぐことができない事故であった。	あまりに近すぎる場合は強すぎるボールは投げない声掛けを行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
215	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	119							##		13	10	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指剥離骨折	2.自らの転倒・衝よ突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	ボールを追いかけ始めた際、早めの児童への声掛けをする。事前に注意事項を確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１００)回/年	特になし	これまで通り準備運動などをしっかりと行う。遊び中も職員が子ども達の動きを予測し声掛けを行う。	1.集団活動中・見守りあり	他児童と一緒にボールを取りにいってしまった。遊びに夢中になり、周りの状況が見えていなかった。	これまで通り準備運動などをしっかりと行う。遊び中も職員が子ども達の動きを予測し声掛けを行う。夢中になり過ぎないようクールダウンの時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	久しぶりに三歩しに三歩し、転がったボールを追いかけていたため、先に取ろうと走った。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児童がボールを追いかけるのを見ていたが、危険性は感じなかったため静止などの声掛けはしなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各自配置箇所付近児童から見守りをしていた。	どういったときに怪我がおきやすいのか、子どもたちへのリスクマネジメントが不十分だった。	子どもの特性を捉え、動きを予測しながら見守りを行うよう、職員を指導する。	
216	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	13							13		3	1	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝よ突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	屋外遊びを好む児童ではあるが、突行的な行動をするような性格では無く、普段の遊び方にも問題はない。	2.対象児の近児を見ていた	引率の支援員(1名)が見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の支援員及び補助員(計4名)も各々持ち場の遊具場所から遠目に引率の様子を見守っていた。	特になし	特になし	
217	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32							32		5	1	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨ら せん状骨折	2.自らの転倒・衝よ突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	なし	2.不定期に実施	年に１～２回	3.未実施	なし	2.不定期に実施	月に１回	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	同左	2.対象児の近児を見ていた	同左	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同左	特になし	なし	
218	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	48							48		5	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝よ突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	なし	2.不定期に実施	実施頻度 毎日チェック	3.未実施	一	2.不定期に実施	実施頻度(週一回チェック)	特になし	なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	同左	2.対象児の近児を見ていた	同左	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同左	特になし	定員に対して不足なし	
219	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	110							##		8	5	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右２趾靭帯損傷	2.自らの転倒・衝よ突によるもの	1.あり	1.定期実施的に施	実施頻度(3～5)回/年	2.基準配置	ケガへの危険度が高いものの研修が中心になっている	子どもは思っても行ないないこと動をとろうと思と	1.定期的に実施	実施頻度(毎年)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎年)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎年)回/年	遊具以外の物でのケガ、事故	今回のよう に木や外遊具以外ものへの注意喚起	1.集団活動中・見守りあり	危険行為として優先順位が低いと思われるため巡回に留まっていた	静かに遊ぶでいる児童にも大丈夫だと思わず、積極的に声がけをする	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りな虫好き本児童は、友だちと虫探しをしていた。	3.対象児からいたところで対象児を見ていた	時に近くにいたところから見守る(1ヵ所留まって見守りなくて常に動きながら見守るので)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びに出た職員全員が外遊び担当として動くため、本児童に専属でつくような配置ではない。基本的には危険性の高い遊具で遊んでいる児童の所を重点的に見守る。	危険行為と先順位が低いと思われるために、他の児童より目に入りにくかったことが考えられる	常にケガのあることの言葉がけをしながら巡回する	
220	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	49							49		5	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝よ突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	外遊びで気をつけることを より細やかに職員や児童と共有する	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	遊具や器具で起こりえる怪我や事故について職員で想定認識の徹底を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	定期的に全児童に安全で正しい遊具などの使い方を伝える	1.いつもどおりの様子であった	代わったもなごし様子く過ごしていた	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	校庭の中心で児童全体を守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の児童の動きを把握するため距離を置いて見守っていた	特になし	職員間で児童の様子や起こりえる怪我や事故について共有の徹底を行う	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								改善策	環境面				人的面							改善策	
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】				教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項			対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか			
221	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						28		6		3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	外的要因がなく、本児自身の転倒によるため	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	外的要因がなく、本児自身の転倒によるため	1.集団活動中・見守り	上級生がルール説明や進行等きちんと行っていた。リレーを行うのが久しぶりだったため、児童の気持ちが高ぶっていた。	全体の見守りを行うと同時に、ちびって童に落ちぶって児童が落ちぶって児童が落ちぶって児童が

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
226	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	100						##		10	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨	3.子どもと同士で衝突するものにも	1.あり	1.定期実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	スタッフ会議やミーティングにて、怪我を未然に防止するため準備運動、遊び場の安全確認、人数に合わせた広さの設定、児童への安全な遊び方の声掛けを徹底することを話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度活動日毎日	1.定期的に実施	実施頻度活動日毎日	1.定期的に実施	実施頻度活動日毎日	ドッジボールの参加人数が途中から増え、コートが狭くなって人数に対して手狭になっていた。	集団遊びをする際には、その都度人数に応じた加人数に合わせた設定を行う。	1.集団活動中・見守り	特になし	日頃から見りをよみて人との適切に繰り返し伝える。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールで遊んでいたところ、一緒に遊んでいた関連児童の足に当事者の足がひっかかり転倒した。その際に右肩を地面に強く打ち付けた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	ドッジボール担当のサポーターがいたが、ボール進行中守の方向を見ていたため対応ができなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	他の遊びの見守りをしていたため、その瞬間は見ていなかった。	特になし	担当する遊びの様子、児童のを観察し、必要に応じて休憩をとるなどクールダウンの判断が行えるようにする。	
227	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	29						29		4	4	23.11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼、上腕骨内側上顆骨折	2.自ら転倒・衝突するもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	乗り終え一輪車を玄関前に集めて横倒しにしていたこと一輪車を玄関前に集めて横倒しにしていたことで、遊び場のスペースを作ることとする。	使用後は各自、倉庫近くのフェンスに立てかけておくことで、遊び場の安全スペースを作ることとする。	危険回避策として判断には学校や所管自治体担当課に相談し、改修することも視野に入れる。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	1.集団活動中・見守り	他児童が乗り終え一輪車を玄関前にに集めて横倒しにしていたこと。	使用後は倉庫（一輪車保管所）近くのフェンスに立てかけておくことで、遊び安全スペースを作る。	1.いつもどおりの様子であった	一輪車遊びの後、ブランコをしてレにて行ったり、ブランコをしてレにて行ったり、よりよいをイレくく玄関入室とした。	4.対象動見児をていかった	対象児童の練習を見守っていたが、他児から大一輪車の練習を向ける対象児に誘われ対象児に背中を向ける位置に移動したため、玄関に向かう前を確認できなかった	2.担当者・対象児を見ていなかった	おやつ担当1名、室内担当1名、外遊び担当2名の配置に分かれていたが、一人の外遊び担当は別の位置にいた。	大縄の児童しか目視い立ち位置にしまった。	個々人の判断だけでなく保育現場で合例に育成の伝えを事例をもとにリスクハザードについて検証も必要。	
228	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	35						35		5		21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	ヒビ	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	1.定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	怪我等についてのマニュアルを見直して、全職員に周知徹底をする。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(13)回/年	遊具の直下にソフトマットが設置されていたら、防げた可能性がある。	遊具の直下地面に衝撃吸収マットの設置する	1.集団活動中・見守り	低い場所からの落下の為、また激しを動きを児童する児童ではない為の油断。	今回の低い場所も事故になること全職員に周知して予防に努める。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着きがある行動をとる児童	3.対象児から離れたところで対象見ていた	当該児ひとりで低い場所でかけだり場所が足をつけるなので、事故につながる認識はなかった	2.担当者・対象児を見ていなかった	他の場所の配置の場為そのはいなかった	低い場所からの落下の為、また激しい動きをする児童の為の油断。	低い場所でも事故になることを全職員に周知して、配置人数を増やす。または全員が遊具の環境を把握するようにする。	
229	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	39						39		7	4	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折（全治まで2か月程）	2.自ら転倒・衝突するもの	2.なし	2.不定期実施	実施頻度(2~3)回/年	1.基準以上配置	指導員も子どもも慣れていないスケートというイベントで、骨折を想定していなかった。	スケートするに関するリスク を考え、もっと準備や練習をする。	2.不定期に実施	実施頻度(3~4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3~4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3~4)回/年	今回はリンクに出る際の段差に躓いたのが、滑って転んだきっかけだったとのこと。	スケート靴を履いた状態で段差等のやリスクを子どもと話しておくべきだった。	3.個人活動中・見守り	練習専用の小さなリンク小、今回使用中で最初に使えなかった。	次回は最初に使える時間も確認しつつ予約する。	1.いつもどおりの様子であった	怪我をするまでは元ご笑顔で元気に過ごしていた。	3.対象から離れたところで対象見ていた	痛みを訴えた対象児を即座にベンチに誘導しすぐに靴スケートを脱がせる。手当をした後は暖かい部屋で見学させる。	2.担当者・対象児を見ていなかった	全児童に声をかけながら回った。対象児童がケガをした後は合流し協力して対応。	怪我や様子がしい見守り専門の指導員の指導合を増やす。	今後はスケートのリスク・事故や怪我の可能性を洗い出し、職員と子ども共同で準備や練習をする。	
230	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	29						29		3	1	19.7歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（右くるぶし）	2.自ら転倒・衝突するもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	登所中の事故のため該当なし	事故発生時、迅速に対応できるよう、マニュアルを振り返る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	登所中の事故のため該当なし	施設内・施設外の危険個所がないか、点検を行う。	7.その他	登所中の事故のため該当なし	クラブへ来る際は足元に気を付ける声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	小学校からクラブへの登所中	4.対象児を見ていかった	保育室内で児童対応をいた	2.担当者・対象児を見ていなかった	保育室内で児童対応をしていた	登所中のため事故該当なし	該当なし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								改善策	環境面			人的面							改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的にしていたか	他の職員の動き	具体的にしていたか	その他要因・分析、特記事項		
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】																	
231	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15						15		3		1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎骨折・歯の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	当該児は死角になる場所で危険な動きをしていたが、職員はそれぞれ他の児童の対応をしており注意の声掛けができていなかった。迅速に救急車を要請する判断・対応をすべきであった。	迅速に対応できるよう、マニュアルや研修を振り返る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	該当なし	危険個所がないか保育前に確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童は死角になる場所で危険な動きをしていたが、職員全員がそれぞれ他の児童の対応をしていたため、注意の声掛けができていなかった。	危険な動きはしないように普段から声掛けをする。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	遊びで楽しくなり気持ちが高ぶったまま片付けの時間となった。普段しないような動きをした。	4.象動見ていなかった	他の児童の片付けを手伝ったり、掃をたりの準備をしていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の児童と一緒に片付けをしていた。	職員全員がそれぞれ他の児童の対応をしていたため、玄関のスペースが死角になり当該児童を見ることができていなかった。	該当なし	
232	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	34						34		4		2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	段差があり足元が安定しない場所で鬼ごっこしている鬼をした。	足元が安定しない場所での外遊びは、怪我に繋がるリスクが大きいため行わず、校庭等児童にとっての見通しが利く場所で外遊びを行う。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこん周囲を楽しでいるりのもかヒートアップしていた。	足元が安定しない場所での外遊びは、怪我に繋がるリスクが大きいため行わず、校庭等児童にとっての見通しが利く場所で外遊びを行う。	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこして遊んでいた。	2.対象至対象児の近象見ていた	外遊びの担当だった職員が見た。	1.担当者・対象児の動きをていた(至距離近にいた)	他の職員も全体が見えるところにいたため、当該児童を見ることができていた。	足元が安定しない場所での外遊びは怪我に繋がるリスクが大きいことを職員が認識できていなかった。	該当なし	
233	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38						38		4		3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折、左肘関節脱臼	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員は十分配置されていた。今回は木登りをしようとしたわけではないが、木に登るときにはかぎ指導員が一緒にいる時にするように伝えているので、今後も徹底したい。	再度、子どもたちには木登りについての約束などを確認する	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	ぶら下がった木の枝が見上げた目以上に子どもを支える程度がなかった	ある程度子どもがつかまりそうな木は定期的に強度を確認する	1.集団活動中・見守りあり	目に見えない場所については保育前に確認はした	確認の際に目でわかりずらい箇所についても意識する	1.いつもどおりの様子であった	セミ取りしている最中、木の枝にぶら下がった	2.対象至児の近象見ていた	至近で対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きをていなかった	対象児童の動きをていなかった	職員の配置は十分にされていた	事故やケガについて防げることについては徹底する	
234	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	77						77		5		3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・腎部)	左鎖骨の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(52)回/年	2.基準配置	職員配置の基準が明確にされておらず配置が良くなかった。動く遊びを行う遊戯室2の方が児童数が多かったが、遊戯室1に2人配置していたため(遊戯室2：40名程、遊戯室1：20名程)に怪我の発見ができなかった。	部屋に配置する職員の基準を設ける。部屋に子どもが19人以下の場合は支援員を1人、20人以上になる場合は支援員を2人配置する。ただし遊戯室2は動く活動の部屋なので、職員配置の優先度は遊戯室2が一番高いものとする。	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	人気の遊びでもあるフリスビードッジをすることで、遊戯室2で活動する児童が20名ほどから40名ほどに増えて子どもの動けるスペースが狭くなっていた。	人数制限を設ける。フリスビードッジをする際、40名を超える場合は参加できる人数を制限(30名まで参加可能)し子ども達の遊ぶスペースを確保する。	1.集団活動中・見守り	真剣に遊んでいる子ども集中しまい周囲スピードッジをみた力を加減するが難しい状況だったと考えられる。	長期休みは全クラブが一緒に過ごすことが多くなり(登録予定人数95名程)部屋で遊ぶ人数が増えるので、朝の会で怪我が起きやすい場面を支援員から子どもに伝えて怪我の予防に努める。	1.いつもどおりの様子であった	フリスビーを投げたいという気持ちが強くあり、フリスビーしか見えていない様だった。怪我をした後も支援員に伝えず、迎えがくるまで遊戯室1で待機等をして過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室2の入り口付近に立ち、全体を見渡せる位置でしていたが本児が他児とぶつかった時に怪我をしたと気づけなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	遊戯室2で遊ぶ人数が増えた(40名程)が遊戯室1で保育をしていたままだった。保育室も支援員を1名配置して保育を行っていた。(児童数10名)	いつも行っている活動なので、事前に注意事項を伝えていなかった。動く遊びを行う室の方が児童数は多かったが、遊戯室1に2人配置しており怪我の発見ができなかった。職員配置の指示を出す者が曖昧だった。	長期休みで朝から遊ぶ場合は、準備運動をしてから活動をする。	
235	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27						27		2		1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルの作成や研修の受講等を行い、事故防止に努める	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	子ども会の部屋には大型の遊具はなく、傷んだおもちゃはその都度撤去	椅子や机には上に上ないがらように声掛けをする	1.集団活動中・見守り	遊びでもあ疲れ子どもが減まらなったりた人数りつなくできた	16：30以降は準備とし教室内を走ら等で過ごすは帰る室内回り読書静かに	1.いつもどおりの様子であった	活発に身体を動かすが好きなため、友達が静かな遊びを始めるとつまらなくなったと思われる	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2～3m離れたところから象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きをていなかった	指導員2名で子ども見ていたが、事故当時は指導員1名は清掃中で子どもに背を向けていた	特になし	事故予防のため、普段から付けるよう児童に声掛けを行う	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項			死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
236	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	94						94		6	6	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故を防ぐための研修を行い、予防に努める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回は他児童の足につまずいたが、転びやすいところはないか確認する	1.集団活動中・見守り	特になし	他の児童と近い場所で活発な運動はしないよう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	室内の人数が少なり活動ができるようになったので、おんぶ鬼ごっこを始めた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	２～３m離れた場所で後ろ向きでなら見ていた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	受付で事務処理をしながら見守り。他児のトラブルが多く事務処理が遅れており作業に集中していた。	室内は歩く（走らない）側転や逆立ちはしないと指導していたが、おんぶは容認していた。	児童への声掛けによって普段から気を付けてもらう。	
237	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22						22		5	3	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	無し	児童全員にもう一度危険な事はしないように話し合う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	窓の近くで遊ばせない	窓ガラス破損防止クッションシートに変更。	1.集団活動中・見守り	窓ガラス破損防止のためにウレタンを紐で固定したのが要因	ウレタンマットを固定していたためマット撤去しクッションシートに変更した	1.いつもどおりの様子であった	ウレタンマットは児童が乗れる位の大きさで高さが1.2m程ある。好奇心からかからかつ遊んでいる最中に登ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	児童同士でためで遊んでいるすぐ隣ではなく離れたところで見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は別の児童を見ていないといけないため、事故当時も違う児童と遊んでいた	無し	無し	
238	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	111						##		6	4	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部肩下付近骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守り	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	センター1階にて鬼ごっこ遊んでいる際に発生。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	通常のあっ動でのため特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし		
239	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23						23		6	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守り	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	多目的室（プラザ室）にて他児童と遊んでいる際に発生。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	通常のあっ動でのため特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし		
240	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	155						##		8	5	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首刺離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	職員会議での見守りのポイントの確認と周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備については問題なし	なし	3.個人活動中・見守り	特になし	見守り方法の再確認	1.いつもどおりの様子であった	センター2階にて他児童と走って遊んでいる際に発生。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	通常のあっ動でのため特別な見守りはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であったので、特別な見守りはしていなかった。	特になし		
241	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	46						46		3	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	（今回は特に危険な遊びをしているわけではなかった）	より児童の遊びを注視し、こまめに声掛けをする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	現状通り の点検継続	1.集団活動中・見守り	特になし	要配慮児童を中心に、よりこまめに声掛けを見守りをする	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ遊びの後、鉄棒遊びをしていた	2.対象至対象児の見ていた近象見た	外遊び児名童を３名守っていた。しっかりを見ていがをけたに際にトランシーバーで連絡を入れる	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	いつ連絡が入ってもいいようトランシーバーを持ち、室内遊びの見守りをしていた	特になし	今回は遊具の動きを中心に見守りと声掛けをした方がよいのかもしれない	
242	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	11						11		5	4	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	外傷性くも膜下出血	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	事故予防に関する研修等が未実施であり、各職員の危機管理レベルや緊急時の対処法、危ない時に子どもに注意する感覚に違いがあった。	事故予防に関する研修等を定期的に実施し、職員の危機管理能力の向上を図る。危機管理に関する職員間での考え方の見直しや統一を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	ハード面の整備・不備などが要因で発生した事故ではないが、引き続き施設、設備の管理を適切に実施していく。	1.集団活動中・見守り	最後に残った逃げ役の人児童を鬼役2人（当該児童を含む）で追いかけ、Aを挟み撃ちする状態になった。正対した片方の鬼役から逃げるため、Aが反転したところ、Aの背後から迫ってきた鬼役の当該児童と衝突した。	公園でのルールや遊び方を子ども達と一緒に考え、危険のないルールに変更する。施設前にある公園（事故発生場所）では禁止ため走る遊びを禁止し、走って遊びたい場合は近隣の広い公園へ行くこととする。	1.いつもどおりの様子であった	いつものように午前中は漫画を読んだり、他児と遊んだりしていた。午後からは虫取りに行った。夕方になって児童数が減り、室内で走り回っていたが、外で遊んでいる子がいるのを見て外に出ていった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	子ども達は室内で鬼ごっこをして走り回っていたため、外遊び全体を見渡せるように、対象児から距離をとって遊び全体が見えるところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にも児童がいるため室内で保育していた。	外遊びを職員が見守る職数で見員配置したが、ともに遊具に配置する形となった。	周囲に注意しながら活動できるよう、引き続き、放課後児童支援員等が子どもたちに声掛けをしていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者			発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
243	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15						15		2	1	22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指ひび	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	国から示されたひな形を参考に屋内・屋外等場面に添ったマニュアルの作成をしていく。	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	今後も引点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童各々の遊びの見守りができるよう支援の配置を考える。	1.いつもどおり様子であった	２人で室内でキャッチボールをしていた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	数人でボールを投げ合っていたが、柔らかいボールだったので突き指等の心配はしていなかった。	2.担当者・対象児の動きをいていなかった	支援室内で他の児童の見守りを行っていた。	ないであろうと思っていたが、支援室内で他の児童の見守りを行っていた。	ないであろうという考えではいけなかった。	室内（支援室等十分なスペースの取れない所）でのボール遊びについては控える。	
244	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20						20		4	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	怪我をした際の処置の仕方やマニュアルを再度確認していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	引き続き施設内の気で管理に配いく。	1.集団活動中・見守りあり	—	職員に周知し安全再確認・共通の理解を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこして遊んでいた。	2.対象至対象児の近く見た	全体の様子を見ながら、鬼ごっこして遊ん姿でいる子がを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいていなかった	違う場所子どもたちが見守っていたため、見ていなかった。	—	無理な行動はしないことや見守りを遊びながら遊ぶように子どもたちに声をかけていく。	
245	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	74						74			8	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	職員配置を9人体制にできれば、3部屋すべてに支援員を3人ずつ配置することができ、実したが充見守りにも繋がるものと思われる。	運動を伴う集団遊びを行う場合には、原則として支援員が複数配置となるよう、マニュアルの見直しを図る。	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	遊戯室は運動を伴う活動をするため、床面や壁面の状態、コーナーガードの状態等について日常の安全点検を行う必要がある。	遊戯室において、特に遊具等の突起の方や遊具壁面の部を覆クッションの状態等、細部を入念に点検必要める性を改めて認識した。	1.集団活動中・見守りあり	児童が活動に夢中になり、危険を伴うような激しい動られがきれがある。	安全に活動するために事前にルールや心構え、活動中における支援員の声掛けの仕方等を工夫する必要がある。活動人数については今後も安全に活動できる適正な人数での実施を心がけたい。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は日頃から始発なお動きをしているが、事故当日、変様子は見られなかった。	3.対象から離れたところで対象見ていた	児童の動きが遊戯室内の広範囲に広がり、動きも早いため、でことはいきなかった。	2.担当者・対象児の動きをいていなかった	職員それぞれが担当場所の見守りを行っていたため、1名の担当者以外児童の動きの見ることはできなかった。	できれば複守りが望ましい場面であったが、事故発生時には活動場所が遊戯室と集会室に分かれたため、1名での見守りとなった。	運動を伴う活動の前は支援員と児童でルール確認するとともに、危険な動きを伴うような指導が必要。活動中は児童の活動の様子を注意深く観察するとともに、児童同士が交錯する場面があった時は、活動を止めて状況を確認する。児童に対して、痛み、けが等の異常があった際はその場ですぐに申し出ることを約束する。	
246	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54						54		6	5	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	ボールを追いかけ躓き転んだので、今回は近くに指導員がいてもどうしようもなかったが、外遊びに出る時一言充分気をつけて遊ぶよう声掛けが必要と思った。今後、研修で共有し改善に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	特になし。	運動場の安全を確認してから利用する。	1.集団活動中・見守りあり	早く遊びたいという、我先に外へと思う子供いがある。	自由にする前に事故・怪我をしないようにするこの声掛けが必要。	1.いつもどおりの様子であった	学童以外の遊びに来る友達でいた。	2.対象至児の近で見た	運動場の中で遊んでいる様子を、外遊びを、担当員が支援一緒にサッカーして、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいていなかった	一輪車やドッチボール等他の遊びをする児童を見守っていた。	特になし	子ども達全体に慌てない・気をつけ等注意喚起をすることを毎回する必要がある。	
247	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20						20		3	3	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘ひび	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	戸外遊びの際に遊具の使い方、注意事項をその都度喚起することを職員間で周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	今回の事故と関連性が低いため、特になし	今回の事連故と関連性が低いため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事前に児童の遊ぶ範囲を決め、遊びエリア毎に見守り視点を再確認し、実践する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであり、鉄棒で遊んでいた。	4.対象動見なかった	鉄棒を含む遊具児童遊ぶを見守っていたが、ケガをした場面は他児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きをいていなかった	他の児童の動きを見ていたため、鉄棒で遊ぶ児童らを見ていなかった。	特になし	正しい遊具の使い方や注意事項について児童に再度注意喚起する。	
248	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	70						70		7	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	今回の事故と関連性が低いため、改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	引き続き施設内の気で管理に配いく。	1.集団活動中・見守りあり	各々好きな遊びを支援して支援員が見守っていた。	職員に周知し安全再確認・共通の理解を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室でボールで遊びをしていた。	3.対象から離れたところで対象見ていた	トイレに行く本児後ろを見送った。	2.担当者・対象児の動きをいていなかった	トイレに行く本児後ろを見送った。	—	何が起こるか分からないため、早めにトイレに行くように児童全員に周知した。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故				事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項		発生時状	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
249	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	28						28		2	1	21.9歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	今回の事故と関連性が低いため、改善策なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	—	引き続き施設内の気管理に努めていく。	1.集団活動中・見守り	職員に周知し安全面の再確認・共通理解を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	館内を走ったり玩具だりゴロゴロと寝ていたりしていた。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	本児が館内を走り回っている様子を見て、声かけをに入ったり遊びに誘いかけたりした。	2.担当者・対象児の動きをいた	声をかけた職員以外は他の児童を見ていた対象児を見ていなかった。	—	館内で走り回ったり暴れるとけがに繋がることを伝え、人員配置の都合で入室できる部屋を制限する時は、入室できないと分かるよう掲示する。	
250	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20						20		3	3	21.9歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	引き続き基準以上の職員配置を守って見守りを続けていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	引き続き定期的に施設の安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守り	外遊びで遊んでいた場所の床がウッドデッキの様なものであるため、湿気で滑りやすかった可能性がある。	該当の場所では遊ばない。	1.いつもどおりの様子であった	転倒する元までは元気にケイドロの遊びに参加していた。	2.対象至児の近で対象見ていた	9人を二人の指導員で見守っていた。転倒した場面も見ていた。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	9人を二人の指導員で見守っていた。転倒した場面も見ていた。	特になし	児童が転倒しやすい場所などを指導員間で共有し、児童の転倒が無くなるよう注意して保育を行っていく。	
251	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	40						40		3	2	18.6歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	外遊び時の職員配置に対して遊び場(グラウンド)が広いため目が離れた瞬間があった。	職員数を増やせない場合、遊び場を目の届く範囲に絞る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	雨上がりでなく、鉄棒に不備もなかったが多少足元に凹みがあった。	足元にも目を向け、凹みか等ないかチェックする。	1.集団活動中・見守り	ちょうど当該児童を見ていない場面で事故が起こった。	グループ分けをし、職員の見守れる範囲で遊ぶよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	通常の遊びの一環として鉄棒遊び	2.対象の児の近で対象見ていた	いつも通り分かれ大きなグループとに全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいた	ほかのグループの見守りをしていた。	事故は他の児童に目がいった瞬間だった。	低学年の場合特に高さに関係なく怪我に繋がるため、気を付けて目が届く範囲で見守る。	
252	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83						83		6	4	20.8歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指中指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	くに変化はいつもとくに通子だった。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	遊びを見ることろ守るのできた位置守った。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	離れたところに指導員からは死角になる場所であった。	特になし	児童一人一人の行動を見守り、適切に声掛けをしていく。	
253	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	83						83		7	4	21.9歳	1.男児			2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔内裂傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	迅速な対応はできたが事故発生時後は支援員間での内容の共有が必要だった。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ケガに繋がる行動をとっていないか、危ない場所がないかを確認し、安全に遊べる環境作りが必要である。	1.集団活動中・見守り	見守る範囲が広いので、児童に背を向ける形にならないよう支援員が立ち位置を考えて見守り、事故が起きる間に防げる声掛けをする必要がある。	特になし	1.いつもどおりの様子であった	友達とふざけて台をすべり逆走し遊んでいた。	2.対象至対象児の近で対象見ていた	児童がすべり落ちる前、高い鉄棒に登った別の対応をしている際に、児童がすべり台から転落した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故のあったすべり台から離れたグランドでサッカーをしていた他の児童を見ていたためすべり台の方は見ていなかった。	特になし	すべり台、ブランコ、鉄棒のところにいる児童をすべて見渡せる位置に職員が立ち、事故が起こる前に児童本人に危険を声掛けするべきだった。	
254	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22						22		2	2	18.6歳	1.男児			1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	安全マニュアルの整備に努める。職員配置は適正である。	事故の要因等を分析し、職員会議等を活用して安全意識を高め、支援に反映させる。人気のある遊具で職員が約束事を伝え、危険な状況を回避するよう声を掛ける。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	遊具（遊具）の高さ、設置の間隔を検討。	高さの調整、ぐらつき防止のため遊具（丸太）を振り起こし調整。間隔を狭く設置。また、丸太の角を電動サンダーで削る。	1.集団活動中・見守り	特になし	見守り位置の再確認。	1.いつもどおりの様子であった	たくさんの人数でその人丸太あそびを楽しんでいた。	4.対象動の見ていなかった	丸太あそび全体を見ていたが、遊具の長さが対象動のあり児童の丸太は見ておらず、落下を防げる位置にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	外遊びの見守りは常時複数体制だが、落下の場面は見ていなかった。	特になし	職員の見守り位置の確認とともに児童の動きを見守りつつ、場を提えて安全に遊ぶためのルールの確認を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
255	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	24							24		4		4	20.8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	下校する際の注意事項について、児童へ周知出来ていなかった。	下校の際には、人と人の距離を十分にとり無理な追いい越しをしない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ソフト面の事故なのでハード面は問題なかったと考える。	ソフト面の事故なので、改善する予定なし。	7.その他	正門を出てからの児童について見ていなかった。	下校途中に事故が発生しないように、注意を行う。	1.いつもりの様子であった	普段通り、集団下校をしていた。	4.対象児の見ていなかった	下校途中(学校の敷地外)ため、指導員は対象児童を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校途中(学校の敷地外)のため、指導員は児童を見ていなかった。	集団下校で正門を出てからの事故のため、指導員の目届いていなかった。	下校時等指導員の目が行き届かない場面での行動を予測し、事前に危険と思われる行動について児童へ指導を行う。	
256	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21							21		4		2	22.10歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	予期しないことで怪我をすることが有る為、危険な可能性が有る場面について職員間で検討し注意喚起を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故については特に問題はなかったと考える。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	各児童の動きを注意深く見守り、声掛けを行っていく。	1.いつもりの様子であった	特になし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊んでいる児童の見守りを行っていた。転倒や後直ぐに声を掛け、怪我の状態を手当て確認し手当てを行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で遊んでいる児童の見守りや、一緒に遊んでいたため事故の状況を見ていない。	特になし	今回の事故については特に問題はなかったと考える。	
257	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	18							18		2		2	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員は児童の見守りをしていた。	危険な可能性がある場面を想定した研修を強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	運動場に凹凸はなかったため、今回の事故については特に問題なかったと考える。	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童の骨づいかなかでの、見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	3年男児かをこるいつこれと迫けるし児際で転倒しそうになり、態勢直しを立てそうとしを左足を捻る。	3.対象児の見ていた	対象かられたところで対象児を見ていた	主にドッジボールの輪の中でコートの中ににいて審判をしながらも児童も対象児童を含め全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	1名はコート審判と対角線上の位置に立ち全体を見ていた。1名はドッジボール近くの縄跳び台で他の児童を見ていた。	活動中の見児童守り行ったが、児童がこけそうになった際にはフォローできなかった。	今回の事故については特に問題なかったと考える。	
258	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	19							19		2		2	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	今回の事故については、振様転倒では、向きを自りに自転倒した倒め予期することは出来なかった。	研修の機会等を通じて、故につながりそうな行動について事例を事例をあげ情報共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故については、特にハード面の問題はなかったと考える。	特に必要はない。	1.集団活動中・見守りあり	今回の事故については、自滑倒ら足転倒した転倒期らせ転倒することが出来なかった。	活動中の見児童の見守りを強化する。	1.いつもどおりの様子であった	友達と「まごころ」をこころ為の準備をしよう歩いた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児童横すぐ守りて見を行いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室入口付近で、5時帰童対応をしていた。	怪我をした児童の横守りを行ったが、障害物等が転倒とは予期できなかった。	今回の事故については特に必要はないと考える。	
259	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	71							71		9		5	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故が起きた時ここに職員が連携してできるように合い対応できるよう話し合い研修をしていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	指導員の角を減らす。何とでどのようにして遊ぶかを考えるように促す。	1.集団活動中・見守りあり	高い遊具で上っている時は、気をつけるよう見守りをかける必要がある	自分が出るかもないかをえよく参加ようにしてみる見声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりない様子で友達とのいつもの遊びをしんでいた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	虫取り、遊びなどおびしび見遊動の内容を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で子どもの活動を見ていた。	高い遊具に上っている時は、気をつけるよう見守りを必要がある	子どもがどのような動きに発展しているかを見ていてよく守る。遊びの方に日頃から意識できるように話をしていく。	達よのきを見遊つ日頃意識に話をしていく。	
260	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	52							52		10		6	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故発生時に職員が連携して対応できるよう、話し合い研修をきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	指導員の角を減らす。何とでどのようにして遊ぶかを考えるように促す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	人的環境・物的環境を整て活動できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気しおやつを食て、体育館で遊んでいた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児童が遊んでいるのを確認し、子どもたちの遊びを見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で遊んでいる児童を各場所で見守っていた。	特になし	子どもたちがどのような動きに発展しているかをよく見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面							改善策
							人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																				
261	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	62						62		9	4	19.7歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指付け根の骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	下校中寄り道しないように指導。	下校中寄り道しないように指導。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	ハード面の事故ではないので改善する予定なし	2.集団活動中・子ども達のみ	特になし	集団下校中の在り方の指導	1.いつもどおり様子であった	1日通しで普段通り過ごしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	児童クラブ終了後の下校時のあるため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童クラブ終了後の下校時の事故であるため	特になし	集団下校中の在り方の指導	
262	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	39						39		5	3	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	児童を注意深く見守り、再発防止策を支援員間で検討し共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	プレイルームで子どもの数、支援員の配置を考える。	1.集団活動中・見守りあり	2年と3年がプレイルームを半分に分け別の遊びをしていた為、遊ぶ場所が狭かった可能性もある。	支援員は児童をもっと注意してみておく。低学年だけでなく、高学年にも配慮する。	1.いつもどおり様子であった	最近この遊ぶ事が多5人で遊ぶ事くも何をするかも分らず遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	子ども達の考えたさの遊びをさせたかった。3年生だから大丈夫だろうと思いもあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ていた。	フラフープを投げる役があることに気がつかなかったので、気がつけば早めにやめさせる事ができた。	特になし	
263	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	25						25		2	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置については規定人数を配置しているが、送迎時の職員配置についても工夫し、安全に見守れるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	点検に応じての対応をしており、改善策は特いたため今後も引き続き行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	個人活動中はそれぞれが好きな活動をしてバラバラの動きをしているため、その場の職員は状況を見ながら環境構成を考え、見守りの体制を整える。	1.いつもどおり様子であった	特になし	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	全体の見守りを行った為対象児からと離れたところに居り、転倒する際に手を差し伸べることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生場所に支援員が1人しかいなかった。	特になし	送迎の関係で職員配置が手薄な状況での事故だった為、職員が揃うまでの活動を見直し、児童の近くに職員が配置できる環境を作る。	
264	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	43						43		7	5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指(保骨折(保護者から聞いた内容)	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	安全管理マニュアル(市作成)をもとにきめ細かな安全計画を策定する。支援員等に研修を実施し、徹底を図る。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年遊具がない	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	当児童クラブは貸しビルの2階にあり外遊びや遊具で遊ぶ環境に乏しいため、近隣の広場や公園の利用を進める。その際、交通事故等ないよう十分に配慮し取り組む。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童たちの遊び方をルール化する。当面のこととして、室内では「走りまわらない」「飛びついたり、おんぶ、だっこ禁止」「ボール禁止」とした。	1.いつもどおり様子であった	3年生児童と室内で遊んでいる最中、振り回された格好となり倒れた。その際、左手親指を床(畳敷)に強打する。	2.対象児の近で対象児を見ていた	主任が当該児童の大きく痛がるに気付き、親指付近がれいることを確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	主任の指示で他の支援員等が直ちに救急病院に連れて行った。	特になし	児童たちの遊び方を見直す。特に室内での遊びに配慮する。	
265	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	36						36		4	4	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足人差し指骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.基準以下	特になし	職員が少ない中では、個々での遊びを制限をして、集団での遊びに切り替えが行き届くように努める。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	特になし	ボールを使う部屋にマットを敷き、足指への和らげる様改善した。	1.集団活動中・見守りあり	他の職員前に、パーテーションを呼ぶ裏でボールを蹴ったため、一時的に職員から死角になり、怪我を防ぐことが出来なかった。	他の職員が来るまで待たせるなど、安全に遊べるように配慮する。衝動的な行動が多い子ども供でみるため家庭でも行動に関し合ってもらう。	1.いつもどおり様子であった	同じ部屋で野球をしていたが、当該児は野球のルールが理解できないために集団に馴染めず、ボールを蹴りたくなった。違う遊びをするためパーテーションを使った。	4.対象動を見ていかった	職員は野球の審判をしており、当該児がパーテーションで仕切ってすぐは見ることが出来なかった。仕切っても間なく泣き声が聞こえ、すぐ駆けつけたがすでに足を床に打ち付けていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	活動毎にクラブ内4つの部屋を分け、基本的に職員は各部屋に1名いるようにしているが、加配児童に手が取られることもあり、当該児一人のために職員がつくことは不可能だった。各部屋からは他の部屋が見えず死角が見えるあ。	特になし	ボールを使う部屋をパーテーションで仕切る場合、必ず2人以上の職員で関わるようにする。	
266	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24						24		4	4	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	環境の安全だけ注意、学校では高育学科で行う高跳び走り高跳びの危険性に支援員が気付けていなかった。	室内遊びにふさわしい遊びをリストを化。職員に共通認識をもつ。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	室内で行い、着地場所にクッションが分かることごし室内で遊ぶ見ていた。	クッションの使い方を、本来の休憩場所とした使うように児童に周知。	1.集団活動中・見守りあり	走り高跳び遊びとして、するべきではなかった。	事故防止研修を受講し、職員の意識改善に努める。	1.いつもどおり様子であった	数回は上手に走り高跳んだ。事故発生時は着地点に転ぶように落ちていた。	2.対象至対象児を見ていた	当遊びをしていない児童にふつかるぶつかるような危険いか、周りにぶつかるような障害物はないかを確認していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	机で事務をしながら、時々周囲の安全を見守っていた。	走り高跳びの作業をしながら、時々周囲の安全を見守っていた。	走り高跳び等、室内遊びが伴っていないものはさせない。	走り高跳びは今後しかし、激しい遊びの時は至近距離で安全確認し事前に注意点を子どもに伝える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制																	事故誘因	ソフト面						ハード面									環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
267	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31						1	31		4	1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	児童への声かけの強化	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	児童数が多いため、机の数（本数）が多い。	だ配置をよるけ机の間をあけること。遊ぶなどは時間をかけるる。	1.集団活動中・見守り	夏休み中の気温が高く、外遊びがほとんどできず体力余ったきを持ってしまったかもしれない。	落ち着いて過ごせる環境づくりの工夫する。また、靴下をはいて走ると滑りやすいので、ワックスを滑りにくいものにする。上履き利用も検討する。	1.いつもどおりの様子であった	室内で走ることが多い。今回も定期的に児童。トイレにこうと時にトイレに行ったぶつけている。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつの片づけの後のため、見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの片づけの後のため、見ていなかった	トイレに行きたいため、走っていた	忙しくしていても支援員が4人いたので、1人は児童の動きを見ていればよかった。今後は予想される事故や怪我の防止に万全を尽くす。	
268	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25							25		2		20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	4.玩具・遊具等の備に不全によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修を行い、児童の見守りを強化していきたい。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	ミーティング等で危険箇所の確認をしたが、使用禁止等の措置をとらなかった。	危険個所の点検とその後の対応を徹底していきたい。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童の見守りを強化していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	虫取りをしていたため休憩のためベンチに座った。	3.児童から離れたところで対象児を見ていた	複数のグループで遊びをしていて、公園全体が見渡せる位置で見守りをしていた。対象児がベンチに座ったのを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	複数のグループで遊びをしていた。公園全体が見渡せる位置で見守りをしていた。対象児と担当者のやり取りを見ていた。	特になし	公園管理所管課との一層の連携を図り、児童が安心安全に遊べるようにしていきたい。	
269	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44							44		7		18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折（全治２か月）	3.子ども同士もの衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	なし	緊急事故対策職員会議を開催し、事故防止徹底を図った。毎日の職員ミーティングでも危機感と緊張感を持って業務を遂行するよう指導している。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	数日前から晴天続きで、中庭の地面が乾きやすくなったかもしれない。	児童が安全に遊べるよう、毎日中庭の様子を確認する。中庭では走る遊び禁止とした。	1.集団活動中・見守り	なし	中庭で遊ぶ日は児童の遊び内容を制限し、それぞれの遊ぶスペースが交わらない遊ぶ場所を決める。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通所していた。	3.児童から離れたところで対象児を見ていた	外遊びは支援員3名で見守り、事故当時は2名で2方向に分かれていた。中庭全体が見られる場所で見ていたが、鬼ごっこをしていた他児と接触し、本児の転倒した瞬間は気づかず、他児の報告で事故に遭ったことに気づき、すぐに児童を介抱しながら館内に運れ戻った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館玄関前で離れた他の児童の遊びを見守っていた。転倒した瞬間は、事故箇所からお離れて他児童の動きに注意しており気づかなかった。	なし	なし	
270	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27							27		3		20.8歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	安全に下校することを促す。特に階段の上り下りを注意することを伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	点検時に発見された場合は、学校等に報告する。	7.その他	特になし	安全に下校することを促す。特に階段の上り下りを注意することを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り決まった時間に下校し、歩道橋の階段を慣てず降りたが、最後の一段で転んだ。	4.対象児の動きを見ていなかった	下校後のため未確認だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校後のため未確認だった。	自宅が歩道橋を下りてすぐなので、急いで気がしまったことを考える。	歩道橋では1段1段注意して下り歩行した。当面保護者の送迎となった。	
271	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		3		23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾末節骨骨端線損傷及び右母趾趾外傷性爪甲剥離	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	遊びの内容に危険因子があったと考えられる。	児童の発達段階に応じ運動機能等を考慮した遊び方を検討し、児童へも注意を呼び掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	玩具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないか点検時以外にも意識をして確認をする。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童の行動すべてを監視するのは困難な為、日頃から遊び方・気を付けるように話をする等して注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着いルールを守って遊んでいた。	2.対象至児の近で児を見た	対象児を含み同じ遊び含む遊具で遊ぶ児童たちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具で遊んで児童を見守りながら対象児も見ていたが、事故発生時は見ていなかった。	特になし	あらゆる状況を考え、児童の動きを予測し危険を防ぐことができるよう見守っていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 | うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面				人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】																									
277	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	14						14		2	2	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	特になし	なし	1.集団活動中・見守り	特になし	なし	1.いつもの様子であった	他児4名とそれぞれブランコを漕いでおり、ブランコが動いている状態でジャンプして着地。着地を失敗し左腕が体の下敷きとなった	2.対象児の近く	従来通りに子どもの外遊びをし、様子を伺っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と二手に分かれ外遊びの子どもたちを見守り、様子を伺っていた。	特になし	外遊びの前に危険行為をしないよう注意事項を説明する。遊具遊びを禁止する。	
278	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	23						23		3	2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左ひじ骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	難しいところではあるが、遊びの要素、危険かどうかの判断を支援員間で深く考え、共有し合うことで防止できる。	今回は床張りのところであったため起きたとも考えられる。畳かマットを準備して遊ばせることで改善する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊びの種類によってはマット準備必要がある。	今回のプロレスごっこは畳かマットを敷き、今後室内での遊びの危険もっと事を見極める必要がある。	1.集団活動中・見守り	危ないのではという認識で2回程止めに入っていて起きた事故だけに止められなかったことが悔やまれる。気をつけること丁寧に話すべきであった。	プロレスごっこについては部屋ではしないことにする。	1.いつもの様子であった	いつもじゃれ合ったりケンカしたりして二人で遊び感覚でやっていたが力が入り過ぎ、同時に倒れて起きた事故。	2.対象児の近く	ケガをしないよう見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外の活動守りに出た	怪我しないよう机等引いてスペースを作ったが床が板張りであったことが事故の要因と思われる。	支援員会議の中で危険な遊びについて認識を深める。研修等に積極的に参加して児童が怪我無く安全で安心できる環境、居場所を作るよう努める。	
279	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	41						41		4	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	室内遊びに危険が伴わないよう指導し、支援員もう今後同じようなことが起こらないよう十分注意して見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	机等の配置について支援員で話し合い、改善点がないか検討します。	3.個人活動中・見守り	特になし	室内で遊んでいて起こってしまった事故で、もう少し児童にわかるように注意し、見守り時十分注意をする。	1.いつもの様子であった	机の周りをグルグル追いかけっこしていた時にバランスを崩した。楽しかったのでする怪我をするとは思ってなかった様子。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	ふざけてはいたのでふざけての意味や又したらが又ってしまっ始まった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ自分の近くにいる中児童心に、屋内全体を見守っていた。	特になし	緊張感をもって見守りすることを心がける。	
280	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	34						34		4	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右第一指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	職員の配置はしていたが見守り届いていなかった。	見守りを行き届かせるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし	今まで以上に施設、設備面で危ないところがないか点検する。	1.集団活動中・見守り	気が付きとおくいろんこんぶこをいただった。	今まで以上に全支援員が心もり子守りを強化したい。	1.いつもの様子であった	普段から気の合う遊び友達とんでいた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	二人で室内で見守って対見守っていたが、象児が仲良くしていることは見えくこていたが、倒れる瞬間は気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4人のうち2人は外遊びを見ていた。	支援員の気付きとこくいろでおんしてスバランスを崩して倒れたため。	支援員同士の連携を図り、事故に繋がりそうな状況について情報を共有し対策を考える機会を増やす。再発防止に努めたい。	
281	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32						32		3	3	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右第5手指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	特になし	遊び方の指導をする	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	石ころを除いし取りたて、滑りすくくにくる	1.集団活動中・見守り	特になし	広い校庭で、見落としがな支援員を配置する。	1.いつもの様子であった	キーパーのでだでボールを止めようとしたが、止められずボールがからり抜けた手	3.対象児から離れたところで対象見ていた	サッカーしてんでいたもの子どもにならいし見守っていた。遊ぶ妨げな少ていて離れて	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	校庭で遊ぶ他の子供たちを供たちを見守っていた。	特になし	緊張感をもって見守りすることを心がける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面						ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯				人数	異年齢構成の場合の内訳								年齢	性別	特記事項		発生時状	事故の転帰					マニュアル有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
282	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32						32		3	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左側関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	特になし	遊び方の指導を行う	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	外遊びする場所を定期的に点検する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	広い校庭で見落としがない支援員を配置する	1.いつもどおりの様子であった	外遊びの時間、何人かの児童と鬼ごっこをしているときに、一段高い所で転んで左足を捻って捧むいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	校庭で遊ぶこども見たちを守った	2.担当者・対象児の動きをていなかった	校庭で遊ぶこどもたちを見守っていた	特になし	怪我は室内でも起こりうるので室内外に関わらず声掛け指導を繰り返す。保護者にも注意喚起して、家庭でも怪我をしないよう指導いただく。クラブだよりにてお願いする。	
283	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44						44		4	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨折はしていないが経過観察中	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	外遊び前に注意事項を子どもと確認しているが今後は雲梯の事も追加し、無理しないよう声かけする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	点検はしっかりとする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊びでは各々好きな遊びをするため、特に注意を要する遊具で遊ぶ子たちには しっかり声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	校庭の遊具で一人だけで遊びていんん	4.対象児の動きを見ていなかった	特にその子の担当の職員はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び開始直後であり、いろいろな場所で遊ぶ子どもたちを見守っていた。	特になし	子どもたちにも危ない遊具で遊ぶときは気を付けるようにしっかりと声かけする	
284	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27						27		3	–	19.7歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	姉と帰宅していたが、なぜ転んだかわからない。足元・周りの注意をしていなかった。	クラブ退所前に注帰意して帰るよう声掛けしていたが、退所時にも再度声掛けをする。	–	–	–	–	–	–	特になし	–	–	特になし	–	–	–	–	–	–	–	児童クラブ退所前に、安全に注意して帰るよう声掛けをする。	
285	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	26						26		3	3	24.12歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足 親指 骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	全員が裸足の状態で練習。	今後はシューズを着用すなど善をていく。	1.いつもどおりの様子であった	相手チームに対しアタックをに、足の指に負荷がかかり負傷。	一対対象児の近で対象児を見ていた	対象至対を見た	痛がる様子を確認したあと。すぐに応急処置。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の児童安全管理をしていた。	ドームを利用する際員ズ着用義務付ける。	ドッジボール等激しい運動の場合はシューズの着用を義務付ける。	
286	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25						25		5	3	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第2中骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	竹馬をする場所は、手薄になり目が届きにくい	竹馬をしている児童がいる場合は、時々声掛けや見守りを職員一同心掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	排水の水が あった。	排水の水の痕をする、または排水口を移動。	4.個人活動中・子どもみ	竹馬も上手に乗れる児童なので、大丈夫だと過信していた。	上手に乗児童見をすれるでも、回りる。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通びいりをる	4.対象児を見ていなかった	他児童と遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	園庭外へいたので、対象児童は見ていない	竹馬を上手に乗れる児童で大丈夫だと過信していた。	上手に乗れている児童も、無理せず危ない乗り方しない様子に声掛けや目をかける。	
287	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	41						41		4	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手 人差し指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	子どもたちの動き、危険行為の回避ができなかったため。	危険行為を予測し、声掛けだけでなく回避するための方策を考えて実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	人数に対して広さが足りなかった。	備品等(テーブル)を片付ける。人数制限を行う。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちと遊びに夢中になっていた。	ルールの改善、こどもたち同士での配慮	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	寝そべっり、座ってドッジボールに参加していた。	2.対象至対を見た近で象児を見ていた	危険を察知し声掛けをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	秘密基地で遊ぶ児童守り。事務作業。	危険を察知し声掛けをした、立つまでの様子は見ていなかった	こどもたちの動きをしっかりみる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制														発生時状	事故の転帰																																
				月	時間帯			人数	異年齢構成の内訳								教育・保育等従事者		性別	特記事項			死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面							ハード面								環境面				人的面									
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																																			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
288	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	187							##		22	9	21.9歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	開放骨折	8.その他	1.あり	2.不実に期的施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	学童から帰宅途中の出来事であり、子どもの把握を把握することは困難である	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり、正規の登校道路を帰るようにをかける	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	引き続き実施する	7.その他	近くに信号付きの横断歩道があり、道路を渡るときは必ず横断歩道を通るように指導している	子どもが下校するときは、その都度交通ルールを守ったり、正規の登校道路を帰るようにをかける	1.いつもどおりの様子であった	学校帰りは普段通りで、おやつを貰ると施設長に元気に答えていた。担任には普段と変わらなく応対していた。	4.対象動きを見ていなかった	おやつを帰宅していたので、道路を横切る様子までは把握できない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中のため指導員は見ていない。一人は教室前で子どもの受け入れを行っていたが、道路まで距離があり横断を確認できなかった。	学童から帰宅途中の事でも、子どもの動きを把握することは困難である	子どもが下校時は、その都度交通ルールを守ったり正規の登校道路を帰るよう声をかける	
289	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37							37		4	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折、左足関節外果骨折、左足外側外副じん帯損傷、左足外果離断性骨軟骨炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	ケガをしたり、捻ったときの手当ての対処法の確認	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	周囲に気を付けながらよう声掛けを行う	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボール中で元気に逃げ回っていた。	3.対象から児離れとこで対象見ていた	目の前で立ち転び、なかったので抱えてたんな場所に移動し、応急措置	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ持ち場の持ち物を見ていた。	ドッチボールのスペース人数に対して狭いときがある。	足に合ったサイズを履く様に、ボールを使った遊びの経験を重ねるように見守る。	
290	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	20							20		2	1	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	ボールをうまくに捕球すればよいかの判断が難しかった。	全体でも個別でもドッヂボールの安全な遊び方(投げ方、捕球の仕方等)を再確認する。怪我に繋がりやすいことは支援員でも話し合い、全体に周知する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通子りの様子	2.対象児の近で対象見ていた	見守りをしながら声掛けをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたが対象児の動きまでは見ていなかった。	特になし	特になし	
291	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	55							55		5	3	23.11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剝離骨折	8.その他	1.あり	2.不実に期的施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	サッカーゴールのボール上に帽子をおいていた。	外遊びの時は水筒置き場所を用意しているので、帽子こそよどもも置くに子に伝えも達える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	今回は、施設、遊具はなし	施設や遊具を活用するリスクはを考え、共有する。	1.集団活動中・見守り	帽子をサッカーゴールのボールの高い所にかけた。ジャしない取れないと位置であった。	高いは場所置かない、子どもにもたち集団指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び中、ドッジボールをして帽子が邪魔になり近くのサッカーゴールのネットに置いたと言われて慌ててしまった。	2.対象児の近で対象児を見た	傍りをしていたが17：00の音楽がなり他の子ども達が帰りの準備を始め、そちらに目が行き見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	帰りの準備対応ていなかった。	基本外遊び中は帽子着用は必須としているが、曇りだった帽子を取って下に置くと汚れるのでサッカーゴールネットにかけた。	帰りの時間間際だったこともあり、支援員が他の子ども達の支援ばかりの見ていたため、気づくのが遅かった。	
292	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	138							##		15	10	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指第二関節骨折	8.その他	1.あり	2.不実に期的施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通子りの様子であった。	2.対象児の近で対象見ていた	集団活動中見守りを行いた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
293	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	106							##		8	5	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不実に期的施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守り	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通子りの様子であった。	2.対象児の近で対象見ていた	集団活動中見守りを行いた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
294	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	149							##	11		6	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	支援員が転倒した箇所の段差に貰子を敷いた。引き定期続き的に安全点検を行う。	1.集団活動中守り	———	児童の誘導の仕方を支援員間で再度共有し、引き続き見守りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の近で対象見た	集団活動中見守りていた。	1.担当者・対象動見た(至近距離にいた)	集団活動中見守りていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応をていく。	
295	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	146							##	11		6	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中守り	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の近で対象見た	集団活動中見守りていた。	1.担当者・対象動見た(至近距離にいた)	集団活動中見守りていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応をていく。	
296	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	4.昼食時(学童)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	39							39	5		2	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	脳しんとう	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	夏休み期間で保育時間が長いため、昼食の時間帯は職員の交代等を行っていて支援員等が手薄になった。	職員が交代する時は児童の様子等申をしし送りを、手薄な時間帯となる12時代は支援員同士の声掛けでカバーする。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	-	3.個人活動中・見守りあ	昼食の片づけ後はファリーの時間となり様々な遊びをする。安全に遊んでいるか確認をしている中で事故が発生した。	それぞれの児童に対応する職員以外に、個々なくでは全体の状況を把握する職員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後児童同士で遊んだ。	4.対象動見ていなかった	次の活動の準備をしていたため。	2.担当者・対象動見ていなかった	他児の対応をしていたため。	夏休みから入所した児童でもあり、友達ことに慣れてきて、ついからかってしまったと思われる。	相手が嫌がる発言やしないよう指導する。	
297	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	59							59	7		4	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	児童に施設の危険箇所について周知を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	指を挟んだトイレ自体に不備はかったが定期的に点検は行う。	4.個人活動中・子ものみ	トイレのドアを強く閉めた。	トイレのドアでケガをすることと児童知をするに周知を。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り着き落ちないき状態だった	4.対象動見ていなかった	トイレにくときたのでいた。	2.担当者・対象動見ていなかった	トイレにくときたので見ていなかった。	トイレにいるからと当該児童を注視しなかった。	トイレの出入りの時も目を配る。	
298	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	188							##	16		8	23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頚部骨折・左手関節捻挫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	特になし	1.集団活動中・見ありり	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	休憩時は座るよう支援員が何度も注意も、聞きれない状況だった。	2.対象児の近で対象見た	集団活動中見守りていた。	1.担当者・対象動見た(至近距離にいた)	集団活動中見守りていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応をていく。	
299	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	14.学童	182							##	9		6	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	成長骨軟骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	特になし	1.集団活動中・見ありり	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いち早くボールを確保しよいうと急いでいた。	2.対象児の近で対象見た	集団活動中見守りていた。	1.担当者・対象動見た(至近距離にいた)	集団活動中見守りていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応をていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷			事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面												
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他															実施頻度/【回/年】			実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】																					
300	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17					17		5		3	19.7歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	学校の規模が大きく、沢山のデイサービスや児童クラブ利用者で混雑するため、児童の見守りが弱いと反省してタクシー送迎時の職員配置を2名~3名の現状から常時3名の職員を配置に変更する。	職員配置を見直し密な連携取れるよう情報交換をする、保護者の協力をいただき児童の様子等の情報交換を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	集合場所で蹲いてしまう事、ドセルの扱いと姿勢つも問題が有がる。見守り体制に不備があった。	見守り強化の為、タクシー送迎集合場所での人数を増やし、タクシーを待ちときにセキュリつつランドルや荷物を降ろして待って座っ事を徹底する。	1.集団活動中・見守り	学校におタクシー送迎守りの見ては、マンモス校下校時の眠やのため下校時庭かにことを認識し、職員の配置と見守りの人員を増やす必要があった。	人員配置を改め、待ち時間の体制をお改善す。保護者にも協力をお願いし児童向の意識向上を目指して、自分の守る大切さを身に付けられよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも遊んでいた集団が集合場所に移動ため、少し焦ってしまいた。	2.対象至児の近で象見た児ていた	タクシーが集合場所におりず、児童達は集合場所で落ち着いて待っていた。少し遅れて当該児が合流し、お友達に駆け寄った時に躓いて転んだ。手が痛いと言うので座った。同時にタクシーが到着し児童クラブについた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の校舎から出てきた児童と共に集合場所に行った。当該児が座っていて、事情を聴き転んだことが分かった。本人が直ぐにタクシーに乗ってたので詳しい事は分からなかったが、芝生の上で転んだようだった。なお、集合場所は雨が降るとぬかるむ場所であるが当日は乾いていた。	見守りをしていた支援員は別の児を見ていて、本人が転んだ所は見ていない。転んだ後は大丈夫?と声掛けをした。本人が手が痛いと訴えるため、座って待たせたところタクシーが到着したためそのまま乗せた。	職員研修を行い、担当学者が利用学童の発達や素質等をふまえた見守りができるよう資質の向上を図る。また事故を想定した配置の見直しも行う。利用学童にも事故についての理解を深めてもらえるようを行っていく。	
301	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	58					58		6		4	18.6歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わり外遊びへ行った。ンコにプランコを漕ぐと地面に蹴ってしまい、ランコの前方に向けて転倒した。	4.対象児の見ていなかった	サッカー、鬼ごっこ、バトミントン、ブランコ等の外遊びを5人で見守っていた。ブランコについていた支援員は他児を探している保護者に気づき対応のため、その場から離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にて保護者対応、室内遊びの見守りを行っていた。	特になし	特になし	
302	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30					30		3		3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	事故の発生状況について職員間で情報共有を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし。	定期的に施設内の点検を、破損・破損等の危険個所がないか確認していく。	1.集団活動中・見守り	特になし。	危険行為を発見した際は、随時、注意・呼びかけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	学童内で仲友達と良くでいた。	2.対象至児の近で象見た児ていた	当該児童を含む3名を近くで見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至距離にいた)	他の児童の様子を見ていた。	児童の様子に注意を払っていたが、怪我の発生ので起きたため発生を防ぐことが間に合わなかった。	随時、職員間で安全保育の意識共有・情報共有を徹底していく。	
303	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27					27		4		2	19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指の靭帯損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし。	マニュアルに沿って迅速に対応し、事故の分析を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守り	特になし。	今回の事様に、事故が発生した際には迅速な対応を心がける。	1.いつもどおりの様子であった	バスケットボールを友達と楽一緒にしんでいた。	2.対象至児の近で象見ていた	近くで、遊児童の見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至距離にいた)	体育館には職員が3名おり、それぞれ子どもたちの動きに合わせて動きながら見守っていた。	特になし。	特になし。	
304	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	53					53		6		4	19.7歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	震梯で遊ぶ時のルールは決められていたが、児童は決められた場所以外から震梯に登り、震梯の上に座りこんでしまった。	震梯で遊ぶ際は西側から登り東側へ進むこと、それ以外の場所からは登らないこと等、遊具の正しい使い方を再度児童へ周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面は問題なし。	ハード面は問題なし。	1.集団活動中・見守り	グラウンドでは運動会行の準備が行われており、邪魔にならないよう他児の誘導をすることに専念して部まで目が行き届いていなかった。	職員配置や役割分担を再確認し、グラウンド状況が日頃と異なる場合は情報共有し状況に合わせた支援を行う。また、児童を含めて事故のリスクについて考える時間を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から児童気ごしており、当日も変ないだった。他より過ごしてお	3.対象児の見ていた	他の児童全てを含め見ていたが、事故の目撃を体いた事間をしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	約50名の児童が外遊びに出ており、5名の職員が外遊びの見守りをしていた。室内には児童20名が残り、3名の職員が見守りをしていた。	見守る児童やエリアを事前にし、状況アにて打合せしが変化しても見落としのない見守り体制を維持できるようにする。	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制													事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者			年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷			事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯				人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】																					理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
305	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	32						32		6		4	22.10歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折(全治30日以上)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(20)回/年	2.基準配置	特になし	遊具柳に職員1名いたが、他児のケアをしており事故の詳細は見ていなかった。バランスを崩し転倒の恐れがある遊具であるため、職員の配置を増やすか利用を短時間に制限して遊ぶ改善が必要。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(その都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	持ち運び可能な遊具で、設置の際は職員が行っていた。強度がある遊具ではあるが、遊ぶ前の点検、使い終わった後の破損の有無について都度行うよう徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	スラックのインの特徴としてバランスをとって遊ぶ遊具なので常に転倒の危険が伴う。設置場所は土や草がある柔らかい地面に限る。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず元気であった。	2.対象至対象児の近で見ていた	職員1名配置していたが、他児の補助についており職員では背中を向けていたため転倒した瞬間は見ていなかった。目撃していた児童から状況を伝え聞いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園は道路を挟んでボールで遊ぶエリア、遊具で遊ぶエリアに分かれている。遊具側のエリアも木や遊具があり他の職員は事故状況を見ていなかった。	特になし	特になし	
306	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4.昼食時(学童)		3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	5						5		2		2	21.9歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足間接捻挫による右足首靭帯損傷、及びそれに伴う剥離骨折。(全治30日以上)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	事故予防マニュアルが無く、事故予防に関する研修も未実施。	上記について今後検討していく。	2.不定期に実施	実施頻度(5 0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(5 0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(5 0)回/年	特になし。	昼外保育(遠足に出かけた公園)発生した事故の為、施設設備等の要因ではないため。	1.集団活動中・見守りあり	児童に変様子はなかったが、前週の週末に運動会をばかりで身体的疲労が残っていた可能性はあった。	単独転倒なので事故発生を防ぐの難しい事案ではあるが、学校行事の後等は児童の身体的疲労を考慮し、走って遊ぶ場合は足を取られやすい場所ではなく平坦な場所で行う等、支援員が活動場所の配慮するよう職員間で共有した。	1.いつもどおりの様子であった	午前中は元気に走りボール遊びをした。昼食の時間になり、遊びを終了しようとしていた矢先、支援員と遊具周辺の砂場をおいかけっこをして遊んでいて、滑り台下のラバーマットような部分で右足首を捻って転倒。	1.対象とマンツーマン状態(対象児に接していた)	当該児とマンツーマンで遊具周辺を追いかけっこをしていた。振りさった時はすでに転倒した後で、当該児がその場に座り込んでいた。痛がる様子を見せていたので介助に行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食準備のため他児4名と移動していたこと、当該児が別の支援員と遊んでいて遊具の向こう側にいたため、対象児の動きは見えていなかった。3人目の支援員が現地に到着した直後だったので4名の児童を任せ、当該児の救護に行った。	児童に変様子は見ていなかったが、前週の週末に運動会をばかりで身体的疲労が残っていた可能性はあった。	特になし。	
307	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45						45		2		2	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折(小指基節骨骨頭骨折)	5.他児危から加害を加えたもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(回1 2)/年	2.基準配置	特になし	全支援員参加の事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加して事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象至児の近で対象児を見た	遊戯室内で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	見守りとともに声掛けや注意、具体的な安全指導を行う。	
308	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38						38		2		2	19.7歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷	5.他児危から害を加えたもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(回1 2)/年	2.基準配置	特になし	全支援員参加の事例研修を実施するとともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加して事例研修を実施するなど、より組織的な安全確保の取組を推進する。	3.いつもより発活動的であった。	すべり台の遊ぶ順番をめぐって数童名の児童との間で不満があったかもしれない。	4.対象動を見ていなかった	すべり台から少し離れた場所で鬼ごっこで遊ぶ集団を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	職員側の見守り体制の改善と児童の遊びルールの指導を徹底する。	
309	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	18						18		2		2	22.10歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(1 2)回/年	2.基準配置	特になし	子どもが足を滑らせて落下した為改善策が難しい	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	室内、屋外で支援員が分かれており、常時その子どもの側で様子を確認することは出来なかった	遊具の遊び方にして常時子ども達への声かけが必要	2.集団活動中・子ども達のみ	当該児童が高学年だったためその場を任せていた	支援員の人数に限らず見回りが必要だった	1.いつもどおりの様子であった	いつもの遊具で元気で遊んだように	4.対象動を見ていなかった	その他の子ども様子守ったため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に待機していた子ども達を見守っていた為	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
310	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	16							16		4		3	21.9歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(毎朝)回/年	2.基準配置	特になし	事故発生時はマニュアルに沿って必要な支援を要請し迅速な対応ができたと考えるが、予防的な措置について再度指導員会議等で確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	特になし	今回の事故においては設備の不備による事故ではないが、今後起こりうるリスクを想定し、点検等を行っていく。	1.集団活動中・見守り	特になし	遊具での遊び方を再度、児童と確認し、危険な遊び方や乗り方をしないように指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり、他児と外遊びをしていた。	2.対象至児の近児見た	鉄棒で遊んでいる様子は把握していたが、落下は一瞬事の出来事であったことから対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童をしていた。	特になし	指導員を遊具の近に配置し、遊ぶ際はその都度児童に声掛けをして、注意喚起を徹底する。	
311	令和5年12月15日		15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29							29		4		2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度不定期	2.基準配置	死角になる場所にいた	死角になる場所に児童が近寄らないよう指導	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	-	フローリングでの転倒だった為、緩衝材になるようカーペットを敷く範囲を広げる。(事故後実施済)	1.集団活動中・見守り	-	-	1.いつもどおりの様子であった	室内での活動中。特記事項なし。	4.対象児動きを見ていなかった	死角になる場所だった事故発生時の様子は見ていない	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	死角になる場所だった事故発生時の様子は見ていない	なし	なし	
312	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	50									4		4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右目瞼の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1回/年	2.基準配置		保育中に園児の動きを把握できる教職員の立ち位置も含めての見直しを行った。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	毎日		つまずいた場所にはスロープを設置し、ぶつけたと思箇所には安全クッションを設置した。	1.集団活動中・見守り		保育室内と廊下からトイレが見える位置で園児を見守るように指示を出した。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児動きを見ていなかった	活動後の園児にトイレに行くように促し、活動中の園児の見ていたため、トイレ周辺での園児の動きは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5保育室に5名の担任と2名の補助教員がいたが、それぞれの保育室で活動中であったため当該児の動きは見ていなかった。		保育室内と廊下からトイレが見える位置で園児を見守るように指示を出した。	
313	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	102					29	30	43				16		12	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置	ブランコ使用時は必ず保育者を配置しているが、ブランコの周りに柵があるために助けに行けない状況にあった。	引き続きブランコ使用時に必ず保育者を配置し、ブランコの乗り方、飛び降り禁止の再確認を子ども達と行う。	1.定期的に実施	毎日目視	1.定期的に実施	毎日朝点検	1.定期的に実施	毎日清掃に点の時に点検	遊具、床のゴムマット、柵には特に問題なし	毎日点検を今後も点検を今日の徹底すを徹底する	1.集団活動中・見守り	着地場所がこ砂に靴底やあったと、滑りやすいが滑りかった可能性	ブランコ下にゴムマットを敷いているが、マット上の滑りが砂利で滑った可能性がある為、毎朝掃除を行い遊ぶ前にも砂や落ち葉等を取り除く。	1.いつもどおりの様子であった	飛び降りを地しているのこと分えて見たことがあり、自ありも行えると思って行った。	3.対象児からの対象見ていた	ブランコ柵の外で、園庭安全体全全を守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	ブランコに配置されている職員(1名)はいたが、他見守りも行っていたため着地の援助は行えなかった	飛び降りはしないように伝えているきち地とできて思ったしまっ	ブランコから飛び降りない約束を徹底する。危険な遊び方を見つけたら注意をする	
314	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15											13		12	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左すね骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	適時	2.基準配置		引き続き必要な研修等を実施する。	1.定期的に実施	24回/年	1.定期的に実施	24回/年	1.定期的に実施	毎日点検	雲梯下の緩衝材の劣化により硬化し、着地時の衝撃が緩和されなかった。	雲梯周辺の緩衝材の交換及び定期的な点検	1.集団活動中・見守り		引き続き戸外遊びの見守りを行う。	2.いつもよりも元気がなかった(理由を記載)	家庭より左手親指を怪我し、テープを巻いていた。	3.対象児からの対象見ていた	雲梯俯で見守っていたが、他児の目を対応で目を移した瞬間に落下し泣きだしたため、すぐに駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の遊びを見ていたが、落下の瞬間は見ていなかった。		引き続き戸外遊びの見守りを行う。	
315	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	164					22	42	##				9		9	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕開放骨折	3.子ども同士突によるもの衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置		職員配置に問題はなかったため、引き続き見守りを行い強化していく。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	1回/年	1.定期的に実施	1回/年		遊具等でのた事故の事故改善策はなし。点検は今まで通り行っていく。	1.集団活動中・見守り		戸外活動中の園児数や職員配置に問題はなかったため、引き続き見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	3.対象児からの対象見ていた	対象児から離れたところで見ていた対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		職員配置に問題はなかったため、引き続き見守り強化していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								改善策	環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳												死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項		
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																				
316	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	50								4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置		園庭で複数の活動をさせている際の教職員の立ち位置に関して指導した。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	保育室の玩具は毎日、消毒時に安全点検を行っている。		ブランコ周りの侵入防止用コーンとゼブラバーを増やし、ブランコ周りのスペースを広げた。	1.集団活動中・見守りあり		園庭での自由遊び中の幅広い視野で園児の活動を見られるように指導した。	1.いつもどおりの様子であった	ブランコに乗って降におり、降り地飛び、着地の際にバランスを崩して転倒した。	4.対象動見ていかった	かけっこが終わり自由遊び時に起きた事故である。他園のかけっこを指導しており、ブランコを背にしていたため事故発生状況を見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該クラスは園舎の持ち時間であったため園庭で活動を行っていた。他クラスは持ち時間でないと室内活動であるため園庭で活動していたこのクラスの様子を見ていなかった。		他クラスも含めて遊具の使い方について再度指導するように指示を出した。	
317	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25			1		24			1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨通過骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置		もう一度遊具の使い方固定について話し合いをした。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	朝の掃除のとき毎日	1.定期的に実施	使用前、毎回		引き続き点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具の一部のみは年長のみ使用するので、担任が約束事をしてから行ったが、後ろの園児が押してしまった。	もう一度事を約束事を指導した。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	2.対象至対象児の近象児を見ていた	当該児は遊具を使う順番待ちをしていた。担任は前の園児をサポートしていた為、すぐ横にはついていなかった。後ろの園児に押されて落下する瞬間手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			もう一度、遊具の使い方について話をした。	
318	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20								2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	1回/年	1.基準以上配置	子どもが走り出したらけがをするする可があを能性ることを認識するあ認識必要がある	子どもが走っていたら注意をする。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	2.不定期に実施	50回/年	堅い壁面に、足をたぶつけたため怪我をした	走り回ると危険があることもた個所がある子どもに伝える	3.個人活動中・見守りあり	走り出しこと、急に止できたを、制止なかった	教室内で危ことを走らないことを伝える	1.いつもどおりの様子であった	ごとあっていままをそんだ。	3.対象児からの対象見ていで離れたところで見ていた	子どもた様子ちの見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもた様子ちの見ていた	ぬいぐるみを持って走っていたため、洗い場が良くないなかったと考えられる。	教室内で走らないよう注意を促す。	
319	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	3				2	1			3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	開放性外傷性くも膜下出血後頭骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	3回/年	2.基準配置	保育時間終了後は、保護者のりをして活動する。	より安全に子ども達が活動できる安全確認と安全策をしながら、保護者の見守りの指導を強化する。	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	1.定期的に実施	3回/年	不意の時に、捕まることが出来る場所がかった。	上り台から誤ってしまいリアルを設置し、安全対策を実施した	7.その他	森の中の広い敷地、園内も教室がないオープンスペースのため、安全対策と保護者の見守りが必要。	より安全に子ども達が活動できるよう、安全策を確認と安全対策をしながら、保護者の見守りの指導を強化する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通園ごしで過ごしていた。	4.対象児の動きをていかった	保育時間外なの保護者の見守りで活動した。	2.担当者・対象児の動きをていかった	保育時間外なので、保護者の見守りで活動した。	保育時間終了後は、保護者の見守りをしている。	より安全に子ども達が活動できるよう安全確認と安全対策をしながら、保護者の見守りの指導を強化する。	
320	令和5年12月15日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	-	1								0	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12回/年	2.基準配置	話し合いび園児への指導は行っている。	引き続き定期的に事故防止について職員で話し合い指導していく。降園後の遊び方についても保護者にも注意を促していく。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	現時点で施設には備はない。	今後も定期的に点検危険は実施し、箇所等はすぐに修繕理、修繕していく。	7.その他		引き続き点検及び子供たちへの指導、保護者への注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	できるこが増ととえな遊びに意欲的しよう	4.対象児の動きていかった	対象児の動きをていかった	2.担当者・対象児の動きをていかった	降園後に保護者と遊んでいた。		引き続き遊具の点検及び子供たちへの指導、保護者への注意喚起を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面										
				月	時間帯				人数	異年齢構成の場合の内訳								年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				死亡	死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
321	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	5	1. 朝（始業～午前10時頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	8			3	5			2		1	16. 4歳	1. 男児	雲ていの一番初めの棒を掴む際の事故だった勢いがついてしまった。	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右上腕骨遠位骨端線損傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	2. 基準配置	なし	マニュアルの周知ができていない為、定期的に事故防止の研修に取り組む。	2. 不定期に実施	3回/年	2. 不定期に実施	3回/年	2. 不定期に実施	3回/年	雲梯に問題はなかったが、雲梯での遊び方に気を付ける必要があった。また、安全点検の回数が少なく不定期に行っていた。	雲梯の遊び方をもう一度園児に伝え、月に一度は各点検を行うように徹底している。雲梯の下には地面だった為、衝撃を和らげるようにグリーンマットを2枚重ねて敷いた。	1. 集団活動中・見守り	自由遊びが終わり園児達は職員から促されて移動した。児は止めずに怪我に至った。雲梯の近くにいた別の職員は児の園の対応をしていた。	多くの園児が入ったほとんどの職員は室内へと移動した。園児が室内へ入る園庭も様子を守る、職員の見うに周知した。	1. いつもどおりの様子であった	普段から活発な園児で雲梯でもよく遊んでいる。自由遊びが終わり、室内へ入るよう促されたが聞こえていなかったため、職員が雲梯から離れたタイミングで怪我をしてしまった。	4. 対象児の見ていなかった	当該児の近くにいたもの、他児同士で片付ける遊具を取り合うけんかが対応いたが振りと、当該児が雲梯下に倒れていた。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	朝の自由遊びの際は職員が見守りを行う。しかし、事故の起きた全時には全園児を室内へ誘導するまわっていた。	遊びに夢中になった園児がいて児がいなかった。職員の目園児方にしまった園庭遊びに気づけなった。	園児と共に動く職員とは別に全体の様子を見守る職員を配置し、すぐに声をかけられる体制を作る。	
322	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	7	7. 午後	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	-								8		8	16. 4歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左肘骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	3～4回/年	2. 基準配置		子どもの動きに合せ園庭の使用スペースを分割し、進行方向を揃えて遊ぶようにする。常に子ども達の動きをみて事故を未然に防ぐ声かけを増やす。	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	毎日		今回の怪我では特に問題点がないため、定期的な安全点検を継続していく。	1. 集団活動中・見守り		異年齢の子ども達でが遊んいるため、体格差や運動能力にも慮して職員が一緒に遊ぶ、仲介する保育上の配慮を増やしていく。	1. いつもどおりの様子であった	保育後、外に出てお友達一緒に楽しく遊びごした。	3. 対象児から離れたところで見ていた	担当職員は定位置につき見守りをしていた。遊具の安全なを配慮しながら園庭側を見ているので、すぐ手がでる状況ではなかった。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	降園準備、順次降園となる時間それぞれ担当に入っているため外遊び担当以外は対象の園児の動きを把握できていなかった。		フリーで動ける職員を増員し、動き子ども達の遊びを見守れるよう配慮する。	
323	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	7	1. 朝（始業～午前10時頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	87			14	38	35		6		6	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	3～4回/年	2. 基準配置		個別の運動能力や身体の動きを把握し、個別の声かけをより的確にできるよう日頃から見守るよう努める	1. 定期的に実施	12回/年	2. 不定期に実施	12回/年	1. 定期的に実施	基本的に毎日		今回の怪我では特に問題点がないため、定期的な安全点検を継続していく。	1. 集団活動中・見守り		朝の時間帯は身体慣れていたく、よって動かしから遊びに入る工夫をする。	1. いつもどおりの様子であった	通常通り元気に登園し友達と外遊びを楽しんでいた。	2. 対象児で対象児の近く見ていた	担当の職員が配置につき子ども達の見守りをしていた。一瞬のことで手が出せなかった。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	外担当の職員は担当場所が決まっているため、持ち場の様保と園児の見守りに努めていた。		子ども達が遊んでいる場面ではいつでも素早く補助ができる準備と予測を心掛ける。子ども達の動きについて意見交換を行い情報共有しておく。	
324	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	6	7. 午後	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	60			30	30			2		2	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左肘骨にひび	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1回/年	2. 基準配置	転倒した際左側方に倒れ、肘に体重がかかってしまった。	遊び方や園児の様子など状況に応じて、職員の配置を考えたりすぐに手を差し伸べられるようにする	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	週1回消毒	安全点検の更なる徹底	これから引き続き定期的に安全点検を行う	3. 個人活動中・見守り		遊具使用上のルールや注意点の更なる指導の徹底	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りいるんでしまった。	3. 対象児から離れたところで見ていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた	2. 担当者・対象児の動きていなかった	別の場所で他児と対応中で直接的には見ていなかった	戸外遊び時の職員人数	戸外遊び時の職員の数や配置を見直す。	
325	令和5年12月15日	1. 認可	5. 幼稚園	9	7. 午後	1. 施設敷地内（室内）	5. 4歳児クラス	85							3		3	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	若木骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3回/年	1. 基準以上配置		職員の配置場所の確認と、子どもたちへの遊び方の指導	1. 定期的に実施	週1回	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日		チェックシート等を作成し、確認を実施	1. 集団活動中・見守り		人数等をグループ分けをすべきだった	1. いつもどおりの様子であった	活発に遊びんでいた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他のとこに意識が向いており、対象児には目が行き届いていなかった	2. 担当者・対象児の動きていなかった	他のとこ意識ろが向いており、対象児には目が行き届いていなかった		職員配置の見直し等により改善に努める。	
326	令和5年12月15日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成			1	14				2		2	15. 3歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	手首骨折（右）	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3回/年	1. 基準以上配置	転倒した後園児を後続の本児きが避けれず覆いかぶさるように転んでしまった	集団でかけっこ等をするときは、間隔をあけ順番にスタートするよう配慮する	2. 不定期に実施	1回/年	2. 不定期に実施	2回/年	2. 不定期に実施	3回/年	園庭に蹴きの原因になりうる凹凸がある	毎朝の受け入れ準備時に砂を入れるなどして凹凸を減らすにする	3. 個人活動中・見守り	始めも練習を問はめてないため、子どもたちが張り切りに全体的に高い気分が揚した	始める前に、順番を守って着いて落ちを落ち走るなどの子どもたちとする	1. いつもどおりの様子であった	年少クラスに所属する満3歳児で3歳児に比べ体格や体力に差があるが、同じように活動しようとしている	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゴール地児点で園児のゴールを確認し次のスタートの合図を送っていた	1. 担当者・対象児の動きていた（至近距離にいた）	ゴール地点の保育士からの合図を見て、スタート地点で並んでいる園児にスタートするように促していた	ラインを引かずに走っていた為、子どもたちが一箇所に集中してしまった	かけっこをする時はコースのラインを引き、まっすぐ走れるようにする	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度(【回/年】)	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度(【回/年】)	遊具の安全点検	実施頻度(【回/年】)	玩具の安全点検	実施頻度(【回/年】)	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
327	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38							38		2	2	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷	5.他児から危害を加えたもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(毎日 1 2)回/年	2.基準配置	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施すると ともに、全児童を対象とした集会等の場を活用し安全意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	特になし	安全点検を引き続き計画的に実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	全支援員が参加しての事例研修を実施すると、よりな組織的な安全確保の取組を推進する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	すべり台の遊ぶ順番をめぐって数童名の児童との間で不満があったかもしれない。	4.象児の動見をていきかった	すべり台し場から離れた場所で鬼ごっこで遊ぶ集団を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他室の児童を見守っていた。	特になし	職員側の見守り体制の改善と児童の遊びルールの指導を徹底する。	
328	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		4	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	支援員の人数は十分に足りているが、ケガのないように保育することができていなかった。子どもたちを安全に遊ばせられるよう研修に参加し、支援員の保育力向上に取り組んでいる。	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年 未実施	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	ネットは取り外すより設置した方が安全であるためそのままとしたが、ネットに近づくことを防ぐため、床に黄色い線（ここから先危険）と赤い線（絶対に入らない）を貼り、子どもたちに説明した。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ルールを守ること、ケガをしないように節度をもって遊ぶ子どもたちにいつも伝える。	1.いつもどおりの様子であった	体調が悪いなどはなく、いつもどおりにホーベイルで遊ぶ時間に他の子たちと活発に遊んでいた。	2.対象至児の近で対象児見た	場所ごと振に割りされた支援員が見ていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の職員は、別な場所で児童見ているため、ケガをした児童を見ていなかった。	特になし	支援員が、子どもたちに対して危険な遊びをしないように、適正な指導ができるようになった。	
329	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	11							11		1	1	23.11歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施	実施頻度(24)回/年	2.基準配置	キャッチに関する事前指導・対応策・知識の不足	キャッチに関する事前指導を周知していたが、より実技に近い形で指導を行う。指も含めた柔軟体操の時間を増やし、キャッチボール等の基礎練の時間をしっかりと設ける。技術の差が大きい時には別メニュー対応も考える。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特記事項なし	引き続き施設等の安全点検を徹底し、管理に備えに故発止め防止めに努める。	1.集団活動中・見守りあり	審判をしながら支援たのべ童の細部守ることができていなかった。	児童の表情や様子の変化に気を配り、異変があれば活動を止めて確認する。	1.いつもどおりの様子であった	練習開始後、痛めるまではいつも通りの様子で参加していた。痛めたあとは遅えまで指を気にする様子があった。また痛みを感じた時すぐに抜けず違和感を感じながら試合が終わるまで参加しようだ。	3.象からた児離れたころで対象児見ていた	審判を行いつつ児童を見守っていた。本児がキャッチミスをした時はボールが抜けていっただけのように見えたので試合を止めたり声をかけたりしなかった。試合終了後全体に痛い所がある人は知らせてほしいと伝え、本児からの訴えで気づいた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	活動場所にいかった記載事項なし。	特記事項なし	痛みを訴えた時点で参加を止めさせべきだった。	
330	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	37							37		3	2	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折（ヒビ）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	事例の共有とともに対応策や予防策を考え、備えておく必要がある。	事故事例やヒヤリハットの共有・マニュアルの確認を継続して行い、事故が起きた際の対応や予防策についても職員全員で考える機会をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	-	遊びを始める前に危険物等がないか目視で確認。遊戯室の床をモップで清掃する。	1.集団活動中・守りあ	本児は普動遊びとが大好きで運動能力も高いため，怪我の予防策が不十分だった。	遊びを始める前に怪我につながり得る行動や事例を児童と確認する。各部屋に1～2名職員を配置し見守りを強化する。準備運動を行い、怪我をしにくい体の状態をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	体を動かして遊ぶことでも大好きな運動能力も高い活発な児童、この日もいつもどおりのドッジボール（源平）で遊んでいて、夢中になってボールを取りに行く姿が見られた。	3.象からた児離れたころで対象児見ていた	遊戯室でドッジボール（源平）の審判役守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	児童クラブの受け入れと、出欠確認を行っていた。	ドッジボール（源平）が白熱し、本児中に積もも夢中になって極的にボールを取ろこうとする様子が見られた。	全体、個別の様子を確認し、興奮して、しいすぎて時は一度落ち着けるよう促す。児童の様子をできるよう、全体の見守りを行う。	
331	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	18							18		2	1	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	門歯（左下１番）外傷性歯牙亜脱臼、歯の破折C、門歯（左下２番）Hys	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	館内研修時に、実際に事故の事例と共有させて事故起・事故の要因・原景まで分かく細析し、具体的な事故防止策を考えると良かった。	事故が起きた際の振り返りを継続して行い、事故が起きた要因や背景を共有し、防止策をこれからも考えることで今後の事故防止につなげる。	1.定期的に実施	実施頻度(（２）回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	-	週1回ロッカー等や座卓等の細部にわたる安全点検を実施する。	3.個人活動中・見守りあり	児童が落ちるような声ち着けるような働きかけが不十分だった。	児童の様子を見て、特に登館後すぐは注意しながら落ち着く活動ができるように働きかけをしていた。	1.いつもどおりの様子であった	座卓を囲習プムんでやテーゲルを行っており、立ったり座ったりを何度かし繰り返していた。	2.対象至児の近で対象児見た	児童全員が届に目がよう見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の職員はサテライト1，本館にいた	見守りはていたが，児童の状況や合わせた注意喚起の声がけが不十分だった。	児童の様子や状況に合わせて、普段通りの動きをしていても怪我をしないように声掛けを行う。また、実際にけがに繋がった事故の事例について児童に伝える機会を作る。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制												事故発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項			死亡		負傷			職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教育等従事者 教諭・幼稚園教諭・保育						死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
332	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	7						7		7		4	19.7歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	1.頭部	骨折（第一頭椎、顎、後頭骨、前頭眼窩）挫傷（左目付近、肩、腰、背中）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	—	—	7.その他	暗くなり車の運転手からはいい時間帯に母親は付き添ったが、交通多い道を渡って、忘れ物を取りに児童館に向かったため	忘れ物については電話で児童館に確認してもらう（実際は忘れ物は児童館に無かった）	1.いつもお様子であった	いつも通と折り紙で作品を作ったりして遊んでいた。17：50頃に母館に迎えにきて17：55頃帰宅した。	4.対象児の見ていかった	迎えが来るまでは、いつものように友達と工作をしたり作った物で遊んでいる様子を見守っていた。事故が帰宅後のため、また起きた場所は児童館館外（建物より200m位離れた所）であり発生当時は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きていなかった	他の児童の支援を行っていた。帰宅後の事故見ていなかった。	—	児童クラブを利用している児童に、再度横断歩道の渡りかたや暗くなった時の安全確認、服装や反射板で知らせる等大切なことを集めて話し、周知した。	
333	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29						29		4		4	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘部内側不全骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（4）回/年	2.基準配置	遊具で遊び起ぶ際に怪我で職員間での共通認識が必要だった。	定期的に遊具を使う際に起き得る怪我・事故の事例や予防策について話し合い、共通認識を持つ機会をつくる	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	-	特に外の対して、破損箇所がないか等の他に水ついていない、高温の部分がないか等、その都度事前に確認することを継続して行う。	1.集団活動中守り	一人ひとりの運動能力に合わせた遊びを考えるあ必要がある。	継続して遊びの前にケガをしないよう具体的な助言を行い、必要以上に気持ちを高ぶらせないように支援している。また、子ども個々の運動能力、同学年間や異学年間での発達段階を考慮し、より安全で楽しい活動ができるよう工夫していく。	1.いつもお様子であった	特に体調は無く、精神的にも落ち着いていた	2.対象宝児の近で対象児を見ていた	大型遊具で遊ぶ児童の見守り役として職員1名を配置、さらに近くに大型遊具と周辺を見守る職員1名を配置していた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至距離にいた)	この時、大型遊具1名、ボール遊び1名、全体確認1名の、全3名体制で外遊び見守っていた。	気持ちが高ぶってつならないように、遊び最中にも声がけ等や落ち着かない働きかけを必要があった。	見守り体制を維持していく。危険な行動が予知、予感される事態を感じたならば、速やかに活動を中止し、クールダウンさせながら落ち着いた活動ができるように支援する。	
334	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	20						20		4		4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	挫創、打撲	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備にもとづくもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（5）回/年	1.基準以上配置	ケガの状況判断について、職員によって差があった。	マニュアルの見直し、職員の心構えについても確認し明記した。	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	自然の風化、天候	一級建築士と今回点検を行った、定期的に専門家と点検する。	1.集団活動中守り	なし	職員は危険に対しての声が行っていく。子どもたちにそういう心構えを持ってでもらう。	3.いつも活発的活動であった(理由を記載)	職員の注意ないかなり高揚し活発に動きに回った。	2.対象宝児の近で対象児を見ていた	初めからはしゃいはしゃいでいたが、職員は気をつけて声がけていた。	1.担当者・対象児の動きていた(至距離にいた)	他児の安全も見守りから、本児の動きも見た。	本児自身に対する危険に対するがそうないだ。職員が注意しもなかなかなかった。	子どもとの信頼関係の見直しを行い、のあるべき姿についても共有する。	
335	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	79						79		6		6	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	歯ぐき裂傷	5.他児危害を加れの害をえたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	本児・加害児童含め，児童の普段の様子やその日の様子，興奮した時の傾向などを職員間で共有し，すぐに対応できるようにしておくと良かった。	児童の様子について共有する時間を作る。遊びの中でも職員間でこまめに情報共有を図り対応する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	-	施設等の安全点検を継続して行い，危険個所があれば対迅速に対応できるようにする。	4.個人活動中どもみ	以前から良いと，加害児童が久しに児童館ること館直ら興奮気味であった。	本児と加害児童に注意喚起は行っていたが，遊びの最中にも休憩を挟むが等気持ちが落ち着くような働きかけを行う。また，児童の様子を見ながら活動内容を設定する。	3.いつも活発的活動であった(理由を記載)	登館時か興奮館等で味で走る等を安全面で心配な動れた。	4.対象児の見ていかった	事故が瞬間きは見ずに，怪我をすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きていかった	怪我の発生を受けて迅速に処置，保護者への連絡に当たった。	事故が起きた際に職員が届いていなかった。	児童の登館時の様子や日頃の情報を職員間で共有し、連携を取りながら児童を見守る。	
336	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	60						60		8		5	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	骨端線離開（骨折の一種）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	特になし	危険予知と具体的事例についての情報共有	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	体育館の床の状況と本児の精神的なコンディションはどうだったか、当日特別滑りやすさは感じなかった	事前に施設の点検を行う	1.集団活動中守り	体育館とは限らいた空間で児童14れた児童名で思い切り走り回った	活動前開始前にルールの説明や安全面について具体的に伝え、児童自身が安全に遊ぶ意識を持つよう配慮する。	3.いつも活発的活動であった(理由を記載)	暑さでもったにしないこごっとしてできることがとも嬉様子り、興奮気味だった。	2.対象宝児の近で対象児を見ていた	児童たちが王様陣取りしている様子を時間を測りながら審判をしていると別な角度から児童を見る職員の２名で担当していた	2.担当者・対象児の動きていなかった	事故は館外（小学校体育館）で起きたので、担当職員以外は児童館にいた。担当職員から応援要請があったため１名すぐに駆け付けた	特になし	活動前、開始前にルールの説明や安全面について、今後より一層具体的に伝え、児童自身が安全に遊ぶ意識を持つよう配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 人数	発生時の体制 異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
337	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	16						16		9	4	21.9歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左ひざ捻挫	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	1.基準以上配置	足場の安定しない面を一人で山の斜面を重い(10kg超)丸太を引きと上上げようとして起きた事故であった。	子どもの自発性を尊重しての活動中だったので、声がけが必要だったかもしれない。	このエリアでの活動は、●●小クラブでなく、他市の児童クラブで実施している。そのため、切り分けられた丸太がちこちにある状況であった。今後ニ利用している他の児童クラブと連絡を取りながら、安全に留意していくある。	1.集団活動中・見守り	特になし	人的配置で問題があったとは思わない。今後ような行事を実施する際も同じ人員配置を役割分担をしたい	1.いつもどおりの様子であった	この場所での活動が大好きで通算4回目の参加だった。そのため場所に慣れている感じで一人でいろいろなことに取り組んでいた。今回は丸太を引きと上げ、別の木に登るための足場にしようとしていたらしい。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	その動きをするには、引き際責任者である室長が「見てるよ」と声をかけていたが、その動きにはついて行なかった。	2.担当者・対象児の動きをいつ見なかった	その子の動きを把握しようだ。その子からの申し出で事故発生に気付いたヌタッフが、事情を聞きテーピングの措置を行い「あまり動かないように」と指示をした。	特になし	特になし	
338	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40						40		6	4	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	なし	3.子どもの同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	なし	提供する遊びの予想される怪我について、また遊びにの対しての適切な人数や学年などを話し合い、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	遊戯室の状態床の状態を定期的に目視や触確認を行い、必要箇所については修繕を行うようにする。	1.集団活動中・見守り	体力や体格差を考えて2年生以上の男女でいたものの、男女の体格差や体格検討が必要があった。	遊び始める前に怪我に繋がる動作に危険きについて子どもたちへ伝えた、注意べきてよいしていく。遊びによっては学年別だけでなく男女別でうにいく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも2人以上の男女で活動に混ざっていた児のため、日もからチボールへと参加した。	2.対象至児近で対象見た	審判をする職員とコートを挟んで向かうように立ち、真ん中付近で全体の子どもたちの動きを見守った。児童が他児と衝突した後、すぐに気が付き声掛けを行い、事務室にいる職員へと引き渡した。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	担当職員と向かい合うようにして全体の児童の動きを見守りつつ、審判を行っていた。ボールを行方を目で追っていたため、児童同士の衝突もすぐに気づいた。	なし	なし	
339	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	7						7		2	2	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右の鎖骨骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	年齢に応じた声かけ見守り支援の位置、方法について配慮する。	配置基準に合わせ人数を配置しているため、特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	遊ぶ前に不遊具に不危険箇所がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守り	出来ない側転に挑戦した。	激しく動いているときは、着かき落ちると怪せる声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	利用登録はしたが実際の利用は当日事故当日初めてであり、興奮気味であった。	2.対象の至児で対象見た	事故発生時の利用児童は7名。勉強やトランプで遊ぶ児童を見ながら当該児童の様子を見守り。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	他の児童とオセロしてをした。	怪我をした児童を見ていた。他の児童を見た時に怪我がった。	怪我など可能性高いことが児童がとしても児童への目配りや寄り添いを心がける。	
340	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	134						##		11	7	19.7歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折、右ひじ打撲	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防マニュアルを早急に作成し、職員全体で事故防止の対応を共有する。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開館日)/年	特になし	遊具について定期点検を行い安全を確認しており、今回は遊具起因の事故ではない。ただし、遊具自体が徐々に老朽化しているため、事故につながらないよう引き続き注意する。	1.集団活動中・見守り	特になし	館庭で遊ぶ際は、引き続きごと学年に時間を区切って人数を調整し、支援員の目が行き届くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態に異常はなく、言段わりと変かなかった。	3.対象から離れたところで対象見ていた	担当して学年の児童の動きを全監体的に視した。	2.担当者・対象児の動きをいつ見なかった	各職員が、担当している児童の動きを全体的に監視していた。	雲梯にぶら下がり、体を振ってそこから飛びのこうと降りする動作は、着地が上手くいかなかった場合は事故につながることが予想できる。	児童たちに外遊びで起こりうるケガ・事故についても考えてもらい、安全を意識するよう機会を設ける。	
341	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	82						82		10	10	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	見守り時に死角がないよう対角線配置で見守ることは理解できているが、実際での場面で臨機応変な対応や支援員間の連携については課題がある。	全体を見守る時の支援員の立ち位地や支援員間の連携について、再度共有を図っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	和机の角には部分にクッションを貼っているが、長辺にはクッションがないため、部分に対応を検討していない。	室内遊び時は机を寄せる遊び空間を等びの確保し、和机に乗ったりぶつかったりすることなくするが工夫する。	1.集団活動中・見守り	室内でつい走ってしまう子も、支援員が注意する場面もあった。	室内で走こと、まる等の危ある和机を等の危険行為が繰り返し、実践的な態度がつくようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちにふざけあいこと持ち中ったの走机ごった。	4.対象動を見ていかった	他の児童の遊びをてため童を見いた対象の動きいなかった。	2.担当者・対象児の動きをいつ見なかった	他の職員にはそれぞれの分担があり、分担された見守りていて、担当者や児童は見ていなかった。	支援員が3名配置されていたが、他の児童対応をしていたりで業務に当たっていて、対象児童の急な動きを把握できなかった。	個別に児童対応する支援員と、全体を見守る支援員等を支援員に声を掛けながら、全体の把握に努めていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者										事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		死亡	負傷		診断名	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
342	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						28		5		4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	安全点検等日頃から徹底していたが、グランドのロープが緩んでいたり児童の脚が引っ掛かる可能性までは想定していなかった。	声掛け、見守りの強化。更なる危険予測を全体で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	遊具などの点検はしていたが、地面に張られているロープまでは意識しなかった。	危険だと思われる箇所の見直しをする。	1.集団活動中守り	外遊び時のグランドの地面に張られているロープのみの危険性を予測出来なかった。	外遊び時の見守りの強化。	1.いつもどおりの様子であった	屋外活動中でボールあそびをしていた。	2.対象児の近く	対象児童を近くでは見たが、きを予測出来なかった。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	他の児童の見守りをしながら対象児童も見てはいたが、ロープの危険性まで予測出来なかった。	グランドのロープが緩んでいた。注意して遊ぶよう声掛けが不十分であった。ロープに足が引っ掛かり転倒してしまうという事が予測出来なかった。	全職員が危険行為、危険個所、起こりうる事案を予測及び把握をし、児童全体にもしっかり説明し共有していく。	
343	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	22						22		3		3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨幹端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	ゆるやかではあっても、坂道では転倒するリスクが大きい。	坂道を走るのは危険が伴うため、鬼ごっこは広い平坦な広い場所で行うよう指導。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び担当の支援員は、距離をとり全体が見まわせる場所で声掛けや目配りで見守っていた。今後も配慮をして支援していく。	1.いつもどおりの様子であった	朝、登校下時から下校時まで体調は問題無しで元気な様子だった。	3.対象児からで対象見ていた	事故が発生した程に周の中立って周囲を見ていた。児童は支援員の前を走りぎ、1.5m程離れた場所で転倒した。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	担当職員とは5～6m離れた、上の平坦な場所で全体を見守っていた。	特になし	坂を上ったり下ったり、走ごっこをするのは危険が伴うため、平坦な場所でのみ活動をさせる。声掛けと目配りでより注意を払う支援をする。	
344	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	27						27		3		1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員が全体をに守る。	見守り個所になる早めに行く。	1.いつもどおりの様子であった	一番初めに遊具を取りたかったから走ってしまった。	3.対象児からで対象見ていた	先に走ってしまったため、追いつくことが出来ずとず離れたところだった。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	先に走ってしまったため、追いつくことが出来ずとず離れたところだった。	子どもが通出来っていりと思ってしまった。	特になし	
345	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	47						47		6		5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折(全治3か月)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	なし	マニュアルの確認	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床が練だらけでケガ防止のマット為と畳を使用している。	市と協議し、床の改善等を検討する。	1.集団活動中・見守りあり	自分の体力にあった活動が必要。	事故を予防測する育ひ。	1.いつもどおりの様子であった	新しくなったフロアマットから畳へ他と共に童飛ぶ遊びをした。	3.対象児からで対象見ていた	痛がる声ケを聞き児確認をした。	2.担当者・対象児の動きをていた	室内にいる児童が少なかったため支援員一人援が室内保育をし、他の支援員は外遊びの保育をした。	室内にいる支援員が一名だったため、見守りの足りていた。	身体にあった活動を行っよう児童に指導を行う。支援員の配置について検討を行う。	
346	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	17						17		4		4	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	戸外保育のため2人あわせて8人体制。事前に6人で下見。	子どもたちの普段の様子から遊具等の正しい方を下見してほしいことは伝えていたが、周知の徹底。	1.定期的に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	安全マットが敷いてあるが、裸足でスペースだったため、ボールを蹴ろうとした時の指とに足がとられて負傷	遊具等の正しい使い方を下見の際に施設職員さんから指示を受けて子ども達と共有していたが、ボールに関しては下見の際になかったこと、大人側の予想外の使い方をしたことから、児童への日常的な注意喚起の声かけを徹底していく。	1.集団活動中・見守りあり	猛暑の影響で例年より夏休みのプールも減り、遊具等の遊び正しい使い方の周知共有が日常的にできなかったこと。	遊具等の正しい使い方を下見の際に施設職員さんから指示を受け、子どもたちと共有していたが、ボールに関しては下見の際になかったこと、大人側の予想外の使い方をしたことから、児童への日常的な注意喚起の声かけを徹底していく。	3.いつもより活発で活動であったを記載)	戸外保育（アスレチック設）での活動	2.対象児近で対象見ていた	エリアとに指導員を配置し注意喚起のけをいた	ご唱かしてエリアいた	2.担当者・対象児の動きをていた	それぞれ担当がエリアにいた	下見後に全指導員体で危険が予想されエリアの共有、子ども周の確認もしたが、予想外の使い方をしたため。	普段とは違う環境での自由時間だったため遊び共の使い方の共有。児童への注意喚起の声かけ	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】				実施頻度(回/年)		実施頻度(回/年)		実施頻度(回/年)						理由	具体的にしていたか		具体的にしていたか					
347	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	14						14		3	3	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故予防して外部講師の研修が足りなかった。	各職員が事故予防研修に参加をする。また、参加した職員は他の職員をし、マニュアルの見直しも検討していく。	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(-)回/年	遠足先の公園だったので、普段の保育とは違う環境で遊んでいた。事故が起きた遊具は園のグラウンドにはない遊具で高さもあった。	園のグラウンドに遊具はない遊具や、あ大きさや形状が違う場合は、必ずすぐ近くで見掛けをする。	3.個人活動中・見守りあり	全体での終わり、帰園する時間に起きただ故だった。疲れ等が出ていたことも考えれる。	遠足の後半等疲れが出やすい時間に遊びを行わない。	1.いつもどおりの様子であった	登室時から遠足に楽しみにしている様子だった。歩いている時はたくさん話しているし、遊具で遊んでいる時には特に興奮する様子はなく通常通りだった。	4.対象児の見ていた動きをしていたかった	2クラスで遠足に行き、当日は6名の放課後児童支援員がいた。職員は分散して児童を見守っており、担当職員は少し離れた所にいた児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	すぐ近くに2名の職員がいたが、1名は別の方向を見守り、もう1名はその近くの遊具で遊ぶ児童の動きが大きく危険だと感じて注意をしていたので、落下の瞬間は見ていなかった。	遊ぶ前に遊ぶ場所の範囲や注意事項は話したが、一つ遊具の仕方については確認をしておらず、注意喚起が足りなかった。	園外活動時は、子どもたちに各遊具の使用の仕方、注意喚起等の声掛けを行う。	
348	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	85						85		10	9	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	打撲、剥離骨折	5.他児危害を加えられもの から加えた	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	支援員で、定期的にマニュアルを確認し、危機管理についての共通認識を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	一緒に遊びたかったが、混ざれない児童がいた。	支援員は、子どもたちが遊ぶようにも一緒に遊べる促していく。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、ボールを取りに行くことに夢中になっており、周りが見えていなかった。	2.対象児の近児見た	全体で様子で見ていたが、突発的に起きた事が近くでの見た、対応ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていたので、見ていなかった。	児童がバスケットボールを蹴る事を想定していなかった。	危険な行動を予測して早めに声掛けしていくこと。見守りをする際は、遠くにいる支援員でもトラブルになりそうな動きを早めに見つけられるよう全体を見守る。子ども達にもどんな事が危ないか普段から話し注意を促す。	
349	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31						31		4	3	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脚小指骨折	2.自転倒・衝突による倒れるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	室内での過ごし方のルールの徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ロッカーは木製のため角がとがっている。また、傾え付けのため壁面から飛び出ておらず、現状よ改善は難しい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	室内での過ごし方ルールを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	特に目立つ様子がなく、クラブ来所後は友達と遊び始める。	2.対象児の近児見た	至対を見ていたが、近くで走ってる児童に、複数回注意した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童と会話しながら同じ室内にいた。	特になし	児童は事故後も課外の運動教室に参加し走っていたと、また、保護者からも過ごし方について指導するとの話があった。室内での過ごし方について職員間でも再度周知し、指導を続けていく。	
350	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	29						29		3	2	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小菱形骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	屋外での遊び方を指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	園庭は障害物もなく見通しも良い。遊ぶスペースもゆったりとりもって確保でできているため、改善の必要はない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	屋外での遊び方を指導する。	1.いつもどおりの様子であった	特に目立つ様子がなく、クラブ来所後は友達と遊び始める。	3.対象児離れとで対象見ていた	対象児を含め、体を見渡せる場所から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を含め、全体を見渡せる場所から見守っていた。	特になし	児童は事故後も遊び続けていた。屋外での過ごし方について職員間でも再度周知し、指導を続けていく。	
351	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35						35		5	2	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下前歯脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	本児の変化への対処不足や校庭到着後すぐに活動を始めてしまったこと。	いつもと様子の違う児童への対処を職員間で話してお く、到着後すぐ遊び始めないよう職員が配置についてから活動をすることを約束として話をする。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	本児の自身の服(幅広のズボン)にひっかかったとのこと。	当日の児童の服装に危険がないかの確認。	1.集団活動中・見守りあり	配置前に遊びたい場所へ走って行ってしまう(校庭へ行くまでに時間がかかり遊び時間が無くなってしまうため到着後まとめてから遊ばせていなかった)	遊び時間に余裕を持ち活動をしていく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段外遊んびは好んでいかないが、その日は得意に外へ行きたかった。わくわくそわそわした様子であった。	4.対象児の見ていなかった	配置につく前だったため、一緒にいた児童が気づき声をかけてきた。配置担当は向かう列の後方にいたため校庭についていなかった。その日は向かう列も長くなってしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ配置場所につくところだった。	職員が全員配置場所・校庭前につく前に遊びだし人員が足りない体制なかった。	普段外遊びに出ない児童への配慮。学年関係なく注意をしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者								事故誘因	ソフト面								ハード面									環境面			人的面									
				月	時間帯				人数	異年齢構成の場合の内訳								年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・教諭・保育教諭・放課後児童支援員等				死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】																									
352	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	108							##		10		8	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝の骨にひび	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	落ち着きなく欠けもので子ども為、もう注意見てあった為、少しすべきおくべきであった。	児童の些細な発言でも職員で共有し、保護者に伝える。児童が処置しなくても大丈夫と言っても処置する。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	危険個所を点検し同支援員同士で共有し確認する。	1.集団活動中・見守りあり	落ち着きなく欠けもので子ども為、もう注意見てあった為、少しすべきおくべきであった。	階段の近くは歩く指導をするよう。	1.いつもりの様子であった	ボール遊びをしていた。	2.対象至児の近対象見た	他児童と遊んでいたり、体育館内の児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいた	近くにはいたが個人的には見ていなかった。	特になし	児童の些細な発言でも職員で共有し、保護者に伝える。児童が処置しなくても大丈夫と言っても処置する。	
353	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	136							##		9		7	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	事故発生時の支援員の体制、配置、連携が良く適切に対応してくれる。(ケガをした児童への対応、保護者への連絡、その他児童への対応、状況確認等。これからも連携して対応していくことの大切さを改めて確認する機会とする。特に今回は危ない遊びをしていた訳ではないが、児童の安心安全を守るため支援員全員が常に全体の状況や様子を把握することの大切さを再認識する。(高い所に上らないなどの声掛け)	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	今回のケガと直接的な関係にはないが、落ち葉、小枝、樹木の刈込みなどケガの要因になりうる状態ではある。	子ども達が安心に活動できる環境に動よう、環境整備に努める。	3.個人活動中・見守りあり	遊具の後ろ側の部分に、見えずらい環境にあるやトラブルの発生早期見、早期対応にある隙がある場合も想定される。	支援員は常に全体を把握するよう流動的に動くこと、支援の目届くよう樹木の伐採の環境整備を行う。	1.いつもりの様子であった	普段通り、他の外児童と外遊びをしていた。	2.対象至児の近対象見た	事故現場となったブランコ付近に1名職員が配置されていた。対象児童の動きは目で追う程度だった。該当児童と一緒に遊んでいた児童がすぐ近くにいた職員にて対応する。	2.担当者・対象児の動きをいた	校庭にいた職員が気付き、現場近くにいた職員と一緒に対応する。校庭にいた他の職員に、校庭にいる児童の部屋への誘導をお願いする。施設前に該当児童を搬送後、部屋にいた職員に保護者への連絡と病院に行く手配を3願いする。	今回は職員の体制、配置が適切にされていたので、みなが連携し対応することができた。	救急車を呼ぶ判断について教職がし学校にも意見を聞いて見る。（は前、救急車を要請した際に受け入れ先の病院を探すのに30～40分以上かかったことがある。直接病院に連れて行ったカが治療が早いことがあるので、救急車要請の判断は迷うところ。患者を動かせないような病状であれば救急車の要請は必須だが、ケガなどは救急車任せにすると悩ましい面もある。）	
354	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31							31		7		4	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指 粉砕骨折（爪・皮膚の損傷あり）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	事故やケガの防止に向けた対策や発生時の対応を職員間で共有する	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(開所日数)回/年	特になし	非常口の張り紙、安全カバー（緩衝材トで扉蝶番側の全面を覆う）を付ける	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童が危険を回避できる力対『安全対策』を身に着けるようにしていく。	1.いつもりの様子であった	室内（非常口近く）で遊んでいた。外から何度も非常口を叩く音が聞こえ、扉越しに注意するが続く。非常口を開け注意しドアを閉めようとした。	3.対象からたところで対象見ていた	保護者対応中、「開けないよ」という声がける	2.担当者・対象児の動きをいた	担当職員に対応を任せ、他児のをいた	日常的にクラブ生活のルールを守るよう、繰り返し継続的に支援をしていた。保護者にも相談していた。なかなかその件で相談した。なかなか改善が見られなかった。	『資質向上研修』で怪我発生の際の対応の知識・環境整備等の安全対策を学ぶ	
355	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	70							70		6		3	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	児童の転びやすさやこれまでの骨折歴などの情報を予め把握し、安全面への配慮と事故防止を徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	支援員の配置人数には問題はなく、怪我の状況を考慮することで防ぐことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	地面とコンクリートとの段差があるかだに繋がり、受け身の取るとなかった。	固定遊具でこの近くしない鬼ごっこを改して注意、指導する。	1.いつもりの様子であった	鬼ごっこ中に夢中で、足元に注意がいかなかった。	3.対象からたところで対象見ていた	児とは少がの距離しあって、転倒時を見ていない。	2.担当者・対象児の動きをいた	それぞれの場所で見守りにいたので、転倒時を見ていない。	特になし	他に考えられる要因がないため。	
356	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	75							75		7		3	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	児童が遊びの中で予期せぬ怪我をする危険性を孕んでいることを，事故防止対応マニュアル等で再度確認し対応を徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	支援員の配置人数には問題はなく、怪我の状況を考慮することで防ぐことが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒で空逆上よりをうとて、落下した。	鉄棒を含め固定遊具は落下しケガにるも含し繁能性め、遊び方の注意喚起をしていく。	1.いつもりの様子であった	活発だが落ち着きがあ理解も早く運動神経も良い。事故当日は鉄棒の練習に熱心であり、水分補給休憩後もいち早く鉄棒に向かい練習を始めた。	3.対象からたところで対象見ていた	水分補給休憩後、本児が先に鉄棒へと走っていったのですぐに追い かけた。本児がうずくまっているのを見つけた。落下の瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きをいた	それぞれの遊具の見守りにいたので、落下時を見ていない。	泣いていたが保育室に戻った時には泣き止んでいた。落下時を見ていないので、念の為に病院へ行った方が良いという認識だった。通院したか保護者に確認をするために電話を入れた。	他に考えられる要因がないため	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			研修内容	実施頻度【回/年】																						
357	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	32						32		3	1	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	打撲等のケガは20分ごとに腫れや痛みを確認する。保護者と受傷部位を確認する際は、可能な範囲で湿布を外して行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	支援員の配置人数に問題はなく、怪況我のみを考えることが可能な事故であった。	1.集団活動中・見守り	芝生にはマンホールの蓋や埋設表示物が置かれており,校庭との行き来に通っていたが,特に注意を促すことはしていなかった。	埋設表示物（給水）にコーンをかぶせ注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	校庭から集合場所へ地面に注意することなく走った。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	児とは少し距離があったので,転倒を時に手を差し伸べることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で見守りについていたので,転倒時を見ていない。	特になし	他に考えられる要因がないため。	
358	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15						15		3	3	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルの共有を引き続き行う。日頃から基準配置、または以上の職員配置を行っているため、引き続き見守りを徹底していく。	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし	引き続き必要な点検を行う。	1.集団活動中・見守り	特になし	活動の内容や児童数に合わせて必要な職員数で見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気に遊んでいた。遊び容も内容から遊んでいるもので、参加児童もいつもと特に変わりはなかった。	2.対象児の近く見た	象至対を見ていた	動きが活発な児童衝であり動的に動まうもあ為、至近で動き見守った。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	動きのある活動だった為、目を離すことないよう活動全体の見守りを行っていた。対象児・担当者の動きも全体の中で一緒に見守っていた。	特になし	体を十分解してから運動遊びを行えるよう準備運動を徹底する。遊びの中での危険に気付き回避出来るよう普段から児童に話し、準備運動等安全に遊ぶための必要性を伝える。見守り時には今まで以上に危機意識を持ち、対応出来るよう職員間で共有する。危険に繋がる行動について施設全体で注意喚起する。	
359	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	23						23		3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	最初は鉄棒の下の複数の砂場で砂遊びをしており、鉄棒をしていなかったため注視していなかった。	今後も更に全体を見守りながら、遊具を使っている児童がいたかけから声かけをし遊具をしてもらう。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	施設面には関特に見当たらなかった。	施設面には問題はなかった。	1.集団活動中・見守り	最初は鉄棒の下の複数の児童で砂遊びをしており、鉄棒をしていたをなかったため、の時は注視していなかった。	児童は鉄棒を使用する際は、職員かけ声かけをするようにする。	1.いつもどおりの様子であった	最近、1年生は体育の授業で鉄棒に取り組んでおり、一生懸命練習をしている。当日対象児童は鉄棒をした際に手を離してしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	すぐに室内に戻り、冷やす処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見守っていた。	普段から楽しく遊んでいる児童が、この当日は児童を放ってしまったために起った。	怪我があった際の連絡を保護者・弊社へ速やかに行うように再度確認をする。	
360	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25						25		2	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節外果不全折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	事故予防に関する研修への参加を更に徹底し、職員一人ひとりの意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(0.5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)/年	特になし	該当児は使用しており、遊具は使用しておらず、校庭に障害物となる落ちてなかったため、ハード面のハードの瑕疵はなかったと考えるとる。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童が自分の体調に気付き、疲れる様子があるような声を行ま掛けう。た、疲れている様子か体調面をよく観察し、静の活動に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこが白熱しており、自身の身体能力についていけなかった面られた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	少し離れた所から、該当児を含めた複数の児の見守った。該当児童の側で一緒に並走している状況でなっかた為、体勢を崩した児童を抱きかかえることはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外遊び中であった為、他児童の見守り中であった。鬼ごっこの場面は見ていた児が、他児を見ている間に該当児童が転び、ずくまっているのを目撃した。	週の終わりであった為、該当児の疲れが溜まっている状態の配慮にかけていた。	特になし	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制													発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項			死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
361	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	33						33		5		2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	今回怪我人発生時のマニュアルに沿って迅速な対応はできたものの、救急車要請に至る対応の有無の判断は難しかった。	転倒や落下の恐れのある遊具に対しての見守り職員の常駐。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	鉄棒の下に落下による防止のマット設置なし	鉄棒からの落下に対し、マットレス等（衝撃を緩和）の設じる。	1.集団活動中・見守りあり	一年生の授業が今鉄棒を行ってお鉄棒で遊ぶ児童が増えている。また、一輪車やボール遊びをする児童もいるため見守りしながら声掛けをしなければならない状況。	短時間でも子どもたちに休憩をすることを声をかけようと。職員が鉄棒の側に行見守りを行う事。	1.いつもどおり様子であった	体調不良いもなくも通りに学童に登所していた。	4.対象動児をていなかった	一輪車やボール遊びをする児童もいるため見守りしながら声掛けをしている状況だった。校庭が一つ一つの遊びのグループが近いので子ども同士の接触を避けるため声掛けをしている。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	別の場所で対応や見守りを行っていた。特別支援学級もの児童もいるため、対応に時間がかかることもある。	特になし	鉄棒に限らず、怪我が起こりやすい場所には集中して職員を配置し見守りを行う。	
362	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	48						48		5		5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左鼻骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	各部屋には、廊下にも目を配るようにし、走ることがないよう注意喚起を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	蝶番にクッションカバーを取り付けた。階段、廊下の床にテープを貼り、右側通行が出来るようにした。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子供達の数に合わせた見守りをしていく	1.いつもどおりの様子であった	廊下の角がっ向かい側から来た他児の自分たちと思い避けた	4.対象児の動きを見ていなかった	職員がそれぞれの部屋で見を守り行った	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他のクラブ職員は別の場所で行事を行っていた。また、クラブ室内にて全体を見守っていた	特になし	子供達全体へ廊下を歩く際には周りに気をつけて通行するよう注意喚起を行う	
363	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	3						3		2		1	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	転倒したる支手捕まるものや援員の届くにいなかったため	加配対応に戻し職員を増やし常に手の届く範囲で見り、職員ミーティングで当日の配置について細かく確認を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(52)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	通路が当該児童にとっては若干狭いため、通る際には障害物になりえる物（テーブル等）を端に寄せ可能な限り広くする	1.いつもどおりの様子であった	特になし	2.対象至対を児の近象見た	目の届く場所にはいたが手は届かなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童をしていた	加配対応にしていなかったため付きっきりできていなかった	—	
364	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30						30		5		4	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故当時、対象児は上履きを履いていなかった	片付けでは児童が机を移動しない事とし、上履きを履くことを徹底する	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	児童が1人で移動するのは難しい机であるので、環境的面、人的面での改面善策をしっかり行う	3.個人活動中・見守りあり	特になし	児童の片付けは椅子のみとし、机は片職員付けとする	1.いつもどおりの様子であった	職員の片付伝いたいという気持ちを普段から持っている	4.対象児の動きをていなかった	職員が机と椅子の片付け作業中に対象児が声に入室し、職員の背後で机の移動を始めたため気づくことが出来なかった	2.担当者・対象児の動きをていなかった	対象児が手伝いを始めていたことに気づいていなかったため、声をかけることも出来なかった	特になし	今後、事故が発生しないよう、帰りどもの会などで定期的に子どもたちに周知するとともに、常に声掛けをする	
365	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10						10		7		5	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	子ども達が分散しないよう延長時間は図書室に集め見守っているが、夕方の職員数を増やし、他所を掃除している間も見守れるよう手厚くした。	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	特になし	延長の一夕時間に部が掃除をしている際に起きた事故だったので、この事故の導線になる箇所の掃除は18時以降に行うことにした。	1.集団活動中・見守りあり	マットの掃除のためモップがけをしたいので、滑った可能性もある。	モップが児童がいない時間帯に行うことにした。	1.いつもどおりの様子であった	普段から室内で走ってしまうことが多かったので、しばしば注意をしていた。事故当時も直前に危ないから走らないでと職員が何回か声をかけていた。	3.対象児から離れたところで児を見ていた	延長利用の児童が10名おり2名の職員が児童を見ていた。児童が転んだ瞬間を見ていた職員はいなかったが、鳴き声がしたので振り向くと児童がうつぶせに倒れていた。職員が駆け寄りはないか声をかけた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	図書室内で別の児童を見ていた。その他3名は掃除をしながらトイレやみに飲食を見守っていた。	夏休みのため延長時間の職員が少なかった。施設長は出張のため不在だった。	怪我を軽く考え、常に状況を想定して最悪の態を想定して動く職員より間で確認した。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
366	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	88							88		12		6	21.9歳	2.女児	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊びの際に加減や危険予測(接触)について、指導がしきれていなかった。	事前に遊びに混ざっている児童全員を止めて、指導と注意喚起を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	校庭で遊ぶんでいるため、いよと砂でやすい。	普段から滑り込まないよう声をかけ。ふつかりそうな場面では、ボールを取りあうのでジャンケンで決めるようにする。	1.集団活動中守り	人数変化に応じた遊びの広さを調整行っていなかった。	人数、年齢などに合わせてその都度範囲の調整を行う。	1.いつもどおりの様子であった	同級生と共に、自ら遊びに参加していた。	4.対象児の見ていなかった	見守りの職員が学用務員校用務員から落し物を渡されて、しまうために持ち場を離れていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	見守りの職員が、その場から離れたことに気づかず他児童の見守りを行なっていた。	見守りの職員が持ち場から離れる際に他職員に伝達が行われず、接触前に注意喚起ができなかった。	地域児童も含めて、力の危険予測、距離感について指導を行う。	
367	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	8							8		1		0	20.8歳	2.女児	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指ヒビ	2.自転車衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.基準以下	当動作を行う際、顔面保護の為マットを使用していた全が、体を覆う上でマットで行うことも必要であった。	当動作は着地の際、当該児童自身の足を踏んでしまったことにより発生した。が、事前には当動作には負荷がかかることを伝えることが必要である。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中守り	特になし	動作の内容を踏まえ、必要に応じて靴の着用を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつ通り、講師の指示を聞いていた。	2.対象児の近く対象児を見ていた	通常の体育プログラムと同様全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	外部委託のプログラムの放課後支援員は対応せず。	特になし	体育プログラムであるが、動作一つ一つにある危険を伝える。	
368	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25							25		3		2	20.8歳	1.男児	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故発生時、校庭見守り職員（放課後児童クラブ職員+校庭開放スタッフ)→放課後児童支援員４名　補助員３名※その他職員は各育成室・●●配置	事故予防に関する研修を年数回でなく定期的に行う。安全管理マニュアルに基づいた支援体制だった為、職員配置の改善点は無し。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	なし	事故発生場所の校庭は、学校の設備を利用しており、点検校の基準に準じて行っている。従って、事故には当事故に対しては改善策無し。	3.個人活動中守り	本児を含む集団をでし大おら故瞬に見守りを近くている人がず、事故発生の瞬間を見た大人がいなかった。	子ども達遊びがが成立している場合で、常に視子のみで大人の視界にような大人の配置をする。	1.いつもどおりの様子であった	サッカークラブに所属しており、毎日校庭ではサッカーを遊びをしている。本日もいつもと同じメンバーで校庭にてサッカーをしていた。	4.対象児の見ていなかった	他児童と長縄(回し手)を校庭でっていた。サッをしている対し背を向けて行った。	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッチビーやブランコ等をする児童を見守っていた。⇒サッをする児童で見ていなかった。	普段児童が校庭で遊ぶのはおやつ後１回のみ。しかし、この日は４時間授業であり、おやつ前後で２回校庭遊びの時間があった。また、学校授業では運動会練習が始まっており、疲れが見える児童もいた。	技能や身体能力に差がある子ども達が一緒に遊ぶ際は、適度に力を調整しながら遊ぶ必要性を適宜伝えて行く。	
369	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	78							78		9		5	18.6歳	2.女児	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具からの転落・落下等	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	事故発生当日は、小学校の全校遠足で疲労が溜まってあるいろう予見が不足していた。	疲れが予想される場合は、全体に注意喚起を行ったうえ、職員たちでもしく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	発生日に遊具の異常は見られなかった。	引き続きな遊具等に遊異いかを点検しく。	1.集団活動中守り	鉄棒付近で職員が様子を見ていた。上手に遊べていたため、職員が目を離る間に起きてしまった。	直前まで遊びの様子を確認しており、安全と判断できたため別の場所を見るために目を話したので、改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	遠足だったが、通常通り元気に遊んでいた。	4.対象児の見ていなかった	鉄棒付近で職員が様子を見ていた。上手に遊べていたため、職員が目を離る間に起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の職員は、ドッジボール、野球などそれぞれの遊びを見ていた。	事故発生当日は、小学校の全校遠足で疲労がたまってまったと考えられる。	特にない ため、改善策なし。	
370	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60							60		6		5	20.8歳	1.男児	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル順守・研修実施・職員体制と基準配置は行えているため、ソフト面に関しての改善策は特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	特になし	施設・設備等に問題はないため、ハード面での改善策は特になし。	1.集団活動中守り	特になし	支援員が3名で見守っておあそび方についてもルールを守って遊んでいたため、改善策は特になし。	1.いつもどおりの様子であった	2,3年生男児とサッカーをして過ごす。一緒に遊んでいた3年生男児がボールに夢中になりボールを取ろうと体を入れた際に対象児がバランスを崩し転倒、左胃付近を地面に打つ。	2.対象児の近く対象児を見ていた	対象児の近くで校庭の全体の見守り。他の児童と関わっていた。対象児うずくまって泣いていることに気が付き、すぐに駆け寄り室内へ移動し冷却する。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の職員は他の児童や、児童場所で見ていたため。	特になし	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
371	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77						77		8	5	20.8歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、亜脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(15)回/年	1.基準以上配置	学童職員出見も外ていて見守りをていたが、把握できていなかった。	目の前の子どもだけを見るのではなく全体を見る事をクラブミーティングで確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	遊具や木など物が乱立している場では不意の事故も起きやすい。	改めて職員が危険を認識し事故の情報を共有する。	1.集団活動中・見守り	子どもはいついなる時でも大人が考えもしない行動をとる。	子どもが危険な行動をとっていた場ぐに注意する合はすに注意する。	1.いつもどおりの様子であった	変わったなく様子もないつもとり元気だった。	4.対象動児の見なをていた	マンション側遊のそばにいたのでいなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	昇降口付近にいたのでいなかった。	校庭内で職員がいる場所は決められているが、そこだけを見ていると意識だと異変を見逃してしまう。	子どもたちへ今まであった事故を伝えて危ない場所はどこなのかを考えてもらう。	
372	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44						44		11	9	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	危険な躲し方をしないように注意喚起	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事ハード面での問題はなかったと考えている。	1.集団活動中・見守り	特になし	今回の事故は環境面での問題はなかったと考えている。	1.いつもどおりの様子であった	見たところいつも通り子であった	2.対象至児の近対象見ていた	対象児のそばでドッジボールを見守っていた	2.担当者・対象児の動きをていなかった	室内での保育を見守っていた	特になし	その他の要因がないため特になし	
373	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	127						##		16	9	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対しては運動をする前には十分な準備運動を行うよう注意喚起を行った。職員に対しては子ども達の準備運動の状態を把握するように伝えた。	1.定期的に実施	実施頻度(10回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10回)回/年	特になし	今回の事ハード面での問題はなかったと考えている。	1.集団活動中・見守り	特になし	準備運動に関して、今後も児童一人一人に伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールでパスをしていた	2.対象児の近対象見た	当該児童含め児守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見て(至近距離にいた)	当該児童含め児守りを行っていた。	特になし	その他の要因がないため特になし	
374	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	40						40		9	8	20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	少人数でもあっても他の階へ行くときは職員が先頭に立ち、並んで連れて行く。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回はハード面での問題はなかったと考える	3.個人活動中・見守り	特になし	少人数の移動でも、きちんと並んで移動する。	1.いつもどおりの様子であった	階段の登りで躓いた	2.対象児の近対象見てい	3階のトイレに連ていくために一緒に移動中であった	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の活動場所で児童に当たっていた	特になし	その他の要因がないため特になし	
375	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	21						21		8	5	21.9歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対し運動前に十分な準備運動をするよう注意喚起を行った。職員に対しては異学年が集まる練習時にそれぞれのレベルに合わせるように気をつけることとした。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考える	1.集団活動中・見守り	特になし	どんな活動でもケガにつながることの無いように今後も十分に配慮いく	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同様ドッジボールの練習をしていた	2.対象至児の近対象見た	試合形式を練習をしてで審判のをした	2.担当者・対象児の動きをていなかった	それぞれの持ち場で他の児童を見守っていた	特になし	運動前に十分な準備運動をする。無理な練習はしないように指導する	
376	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	21						21		3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員間での情報共有を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題なかったと考える。	3.個人活動中・見守り	転落前に同じ体勢を取ることができて、達成感を得ていた。	注意を促す声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	特にいつもと変わらない様子だった	3.対象児離れたところで対象見て	当該児童含め児童守りて を行っていた。	4.対象児の動きをていなかった	それぞれの持ち場で他の児童を見守っていた。	当該児童以外もで遊んでいため、側についていることが出来なかった。	鉄棒の使用方法について再検討し、危険な方法での使用はさせない。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者			発生時状況	事故の転帰						事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									年齢	性別	特記事項			死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
377	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21						21		6	4	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	外遊びや運動をする前には必ず準備運動をしているが、寒くなってきたためより念入りに準備体操を行うよう注意喚起を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	転倒等があった場合にも、すぐに応急処置ができるよう十分に配慮していく。職員間で速やかに連絡がとれるようトランシーバーを増設した。	1.いつもどおりの様子であった	準備運動後、バスケットコートでシュートを打っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きをていた	それぞれ場の持ち場で他の児童を見守っていた。	特になし	外遊びや運動をする前には必ず準備運動を行うよう注意喚起を行った。	
378	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	65						65		8	7	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対し運動前には準備体操を充分行うように注意喚起を行った。また、人の近くでボールを蹴ると大きい事故に繋がることもあるので気を付けるように話をした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	ハード面での問題はなかったと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ボール遊びでは、当たり所によっては大きな事故につながることを認識し、見守りや声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り校庭で集団遊び(サッカー)をしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	それぞれ場の持ち場で他の児童を見守っていた。	特になし	その他の要因がないため特になし	
379	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	144						##		14	12	22.10歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	準備運動を十分に行い、初めから強いパスを行うのではなく徐々にパスは強く早く行うように注意喚起を行う。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	特になし	今回の事故はハード面での問題ではなかったと考えている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後も準備運動を十分に行い、ケガ防止を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールの練習パスを習した	2.対象至対象児の近く見ていた	ドッジボールコーチをしていた	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	ドッジボールコーチをしていた	特になし	その他の要因がないため特になし	
380	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	50						50		8	5	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	成長軟骨という部分が欠損	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	児童に対して運動をする前には、十分な準備運動を行うよう注意喚起を行った。職員に対しては職員同士でなるべく児童が視界に収まるように気を付けることとした。	1.定期的に実施	実施頻度(使用時毎回)	1.定期的に実施	実施頻度(使用時毎回)	1.定期的に実施	実施頻度(使用時毎回)	特になし	今回の事故はハード面での問題はなかったと考えている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	用具をソフトにしていても怪我がなどとふ、今後も充分に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通ジボールをしていた	3.対象児から離れたところで対象児をていた	当該児童含め児童の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	それぞれ場の持ち場で他の児童を見守っていた。	特になし	その他の要因がないため特になし	
381	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22						22		3	2	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	本クラブは目の前が芝生広場で見通しが良いので、下校時間は外の様子を気にしつつ保育室から外を見ている。しかし、怪我が起こった場所は死角になる所だった。	保育室から死角になる場所になるので、下校時間には側に立ち見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	安全点検の項目に屋外の項目がない。	安全点検の項目に屋外の項目を取り入れる。	7.その他	特になし	保育室から死角になる場所になるので、下校時間には立ち見守る。柵の開閉は職員で行う。	1.いつもどおりの様子であった	当施設の敷地に入った ところで体勢を崩し、柵に掴まる。後からた帰ってきた他児が柵を閉めた際、本児の右手中指を挟んだ。	3.対象児から離れたところで対象児をていた	学校から徒歩で帰って きた所を窓から目撃。右手を左手で押さえた状態で怪我をしたことを訴えきた本児にすぐガーゼで止血。看護師を呼び、看てもらい保護者に連絡する。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	怪我をさせてしまった子、他の子が勘違しないように児童たちを室内に集め、いつも通りの関わり努めた。	特になし	保育室から死角になる場所になるので、下校時間には立ち見守る。子ども達に、柵の開閉は職員で行うことを伝える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教諭・幼稚園教諭・保育						死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
382	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	36							36		5	3	21.9歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指の刺離骨折	3.子ども同士による衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	体育館で30人程の児童がドッチボールやバスケ等分かれて遊んでいたが、職員は3人の配置だったため見るところが多く注意が散漫になってしまっていた。	一つのゲームに必ず一人は職員を配置する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	無し	無し	1.集団活動中・見守りあり	無し	無し	1.いつもどおりの様子であった	仲のいい４人組でバスケをしていた。怪我防止のためも痛がる様子はなく、そのまま遊んでいた。	4.対象児の見ていなかった	他の児童のグループを見てめていたが見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童グループを見ていたため。	児童が数グループに分かれて違う遊びをしているのを一人の職員が交互に見ていたため事故にあったときは見れなかった。	職員一人で見るのが厳しい場合は、グループを分けて遊ぶ等児童を見守りやすくする様に対応を変えていきたい。また、児童にも謝ったり転んだりした際は職員にすぐに伝える様お願いする。	
383	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	10							10		2	2	21.9歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足中足骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	支援員研修の際に当該事故の状況と、その対応策を他教室の支援員等にも周知していく。	一つのゲームに必ず一人は職員を配置する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	対象児童が単独で側転を行い、畳地の際に足のつき方を誤ったために骨折した事故である事故が、今後他の要因により事故が起こらぬよう定期的に安全点検を実施するよう支援員に依頼した。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	教室を利用している児童には禁止事項(前転をしない、側転をしない、引っ張らないを伝えてはいたが、今回のことがあったため、教室全員で禁止事項を再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	来室時もも帰宅時もいつもどおりの様子であった。	4.対象児の見ていなかった	対象児に背を向けており、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	迎えに来た保護者と会話をしており、児の方を見ていなかった。	特になし	体調に変化があった時や、けがをしたかもしれない時には支援員に報告するよう教室内の児童に改めて周知した。	
384	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	30							30		4	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	特になし。	本年度内に安全計画を策定し、定期的な安全点検が実施できるよう計画する。また、平時からも危険な箇所・玩具を発見した場合は速やかに報告・対処するよう職員へ共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし。	定期的に施設内の点検を、故障・破損等の危険個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	児童が遊びに夢中になっている際には、ケガに気をつける声掛けをする。	職員同士の連携で危険個所から目を離す時には引継ぎで見守り、全体フォローができるようにする。地面が湿っている時は靴の裏に土がつき遊具から滑りやすいので、そのような日は使用しない等の約束を決める。その他使用ルールを徹底する	1.いつもどおりの様子であった	小学校グラウンドやタイヤ友良の遊具で仲良く遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	ケガをした児童を含め、児童数名を見て近くで守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の動きを見ていた。	特になし。	職員が危険と思った行動には声掛けをして止める。児童へなる「気をつけて遊ぶ（使う）ように」と繰り返し声掛けをする。	
385	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	36							36		5	4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘付近骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	毎日の児童の健康状態を的確に把握することを一層心がける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊具を利用するのにふさわしい技量と体力を持っているか掌握する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	年齢学年、体格、技量によって遊具の利用を制限する。	1.いつもどおりの様子であった	平常日課通り、外（グラウンド）での遊び時間になり遊具（雲梯台）に向かい利用した。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	グランド外遊びグラウンド遊び校は広いため職員は全体が俯瞰できる三箇所の地点を決め見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グランドが広く、職員それ分担児童守るため該当児童を見ることが出来なかった。	特になし。	学校との連携をよく密に行い安全確保に努める。	
386	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	6							6		2	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	特になし。	事故発生状況について職員間で情報共有を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし。	定期的に施設内・運動場の点検・整備を点検し、故障・破損等の危険個所がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	危険行為等を発見した時は、随時注意・呼びかけを行う。靴を踏んで靴を履いている時には転倒防止のためしっかり声掛けをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	学童内で仲友達と良く遊んでいた。	2.対象至対象児の近で対象見ていた	当該児童を含む6くしを名を近くで分散で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児童の様子を見ていた。	児童の様子に注意を払っていたが、一瞬の出来事であったため発生ことを防ぐできなかった。	随時、職員間で安全保育の意識共有・情報共有を徹底する。事故発生時には速やかに事務局へ報告を入れるよう連絡体制の再確認を実施する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教諭・幼稚園教諭・保育					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
387	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31						31		4	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	研修を定期的に実施し、事故発生時の対応を職員間で共有する	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	他団体管理の遊具を使用	ハード面は問題なし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	事故の発生が予測される場合は、特意深く見守る	1.いつもどおり様子であった	普段と変わりなく、変ごと過ごしていた	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所から見ていたが、事故にはつづかなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びをしていた、他児童の見守りをしていた	ケガをした児童は外遊び後も変わっも様子も なく、支援員も怪我に気付かなかった	外遊び後には、ケガや痛みが声掛けをしが伝えやすい環境を作る	
388	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	28						28		4	3	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員ミーティング等で定期的に確認する時間を設ける。また、オンラインにて研修を受講できるため、主任だけでなく他の職員にも研修の受講の時間を設ける。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	現状の対応（運動場の石や木など、見える部分の整備）に加えて定期的に遊具の点検を実施。	3.個人活動中・見守りあり	環境面は問題なし	環境面は問題なし	1.いつもどおり様子であった	普段から活発に行動し、1つの物事に集中すであり、当日も雲梯に熱心に取り組んでいる様子だった。	2.対象至近で対象児を見ていた	雲梯停で見守りをする職員が1名いた。繰返し取組んでいたため、慣れている可能性を考慮し、職員は休憩するよう声かけをしていた。他の児童もいたため事故の瞬間は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すべり台1名、ブランコに1名、登り棒などの複合遊具に1名、東門付近に1名、全体の見守りに2名配置。	特になし	児童の意思を尊重しつつ、休憩時間に適切に取れるう、給水の時間を設けるなどの対応を検討する。	
389	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27						27		4	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手中指付け根の骨折	8.その他	1.あり	1.定期実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルに沿って迅速に対応すると同時に、事故の分析をする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	児童の来び前及び遊びの前には必ず遊ぶ場所、環境を確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	椅子の使い方について児童と確認をし、適切な使い方をするように伝えた。	1.いつもどおり様子であった	テーブルに着いて好きな遊びを楽しんでいた。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	対象児が遊んでいる様子を離れたところで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつの準備、他児の荷物の片付け等を見守っていた。	3.4年生がて登所しくる時間であり、所在目確認で目を離した時に椅子を跳び箱に代わりして跳んだ。	椅子の使い方について児童全体に周知すると同時に、物の使いい方について職員間で話し合い周知した。	
390	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	24						24		3	1	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	職員配置を再確認し、児童の身体能力や以前のけがについて職員間で把握する。	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし。	外遊びの前に、運動場において滑りやすい・躓きやすい箇所がないか確認を行う。	1.集団活動中・見守りあり	特になし。	以前のけがを配慮しながら見守りをする。	1.いつもどおり様子であった	いつも通りの体調で、特に目立った不調は見られなかった。	1.対象児とンマンの状態（対象接児していた）	当該児が台を上り下りする際に、職員が近くにおり様子を見ていた。ケガをした際は以前の骨折を考慮し対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の外遊びをしている児童ていを見た。	特になし。	特になし。	
391	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17						17		2	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	外遊びの職員の立ち位置を確認する。	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	ケガをしやすい場所について、こまめに確認を行う。	2.集団活動中・子ども達のみ	特になし	保育室から出るときは支援員が児童に出を先に出させない。	1.いつもどおり様子であった	体調は通常通りだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	いつもは職員が先に外に出てから児童が外に出るが、この日は先に児童が出てしまった。別のクラブ室にいる職員もおやつの時間がずれたため外にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のクラブ室にいる職員も、そのクラブ室にいる児童のおやつの時間が後だったため外にいなかった。	特になし	特になし	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
392	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	44						44		5	3	19.7歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕　右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	児童に遊び前の注意・危険に対する意識付けが不十分で、職員も事故に対して危険を予知出来なかった。	職員配置は園庭に3名配置したが、雲梯で落下する事が想定出来なかったので注意する様に言葉掛けが必要であった。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	定期的に点検がなされており、問題はなかった。	小学校にて点検されており雲梯に問題はなかった。引き続き点検をしていただき、結果について確認し遊具そのものの状態を共有していく。	3.個人活動中・見守りあり	見守っている職員が不足している認識は無いが、職員の育成向上を図り、児童の遊びの向上を図れる事が出来なかった。	職員3名に対して、遊んでいる児童が多かったので出来るよう遊び制限も必要であった。	1.いつもどおり様子であった	うんでいましたが、手が落ちて落下した。	4.対象児の見ていなかった	ブランコと雲梯の間がいたが、ブランコを見ていたので、落下した時の音で向いた状態であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童が遊んでいるので、外にいる主任支援員を呼びクラブ棟に移動させた。	配置上、職員が広くなる様に打合せ等で確認が出来なかった。	支援員がブランコと雲梯を同時に見る設定では、前と後ろの両方で見なければならないため、配置や立ち位置を変える必要がある。	
393	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	115						##		8	6	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	8.その他	1.あり	2.不実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	ケガをした時の対応についてはマニュアル記載があるが、ボール遊び時に発生しやすい怪我や注意点については、記載がなかった。	遊びの内容により起こりやすいケガや注意事項に対して検討し、ヒヤリハット事例に追加する等、日常で起きる怪我に対する職員の共通理解を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	使用していたボールは、目視による日常的な点検をしており、特に問題はなかった。	定期的な安全点検を行う事的にも気にかけている結果、特段対応する事はないが、引き続き安全管理に努めていく。	1.集団活動中・見守り	特になし。	引き続き安全が確保されるよう適切に見守り支援員を配置していく。	1.いつもどおり様子であった	普段と同じように遊んでいて、事故の原因となるは、特になかった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	普段と同様にドッジボールで遊んでいる児童を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッヂボールで遊ん子から離れた場所で他の児童を見守っていた。	特に問題なし。	今回の事故について特段考え要因等はないが、引き続き安全に遊ぶよう児童に声をかけていく。	
394	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	56						56		7	7	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左くるぶし剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	人数配置においては問題がなかった。今後も子どもの個々の動きを見ることができる配置を考えていく	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(詰時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(詰時)回/年	１人で点検をしていた	複数での点検を行うことで、詳細の気づきを増やしていく	3.個人活動中・見守り	特になし	見守りは適切であったが、今後も運動場鬼ごっこは危険性について伝えていく	1.いつもどおり様子であった	タイヤを使用した鬼ごっこをした	2.対象児の近で対象児を見ていた	室外の児童が５人室外でタイヤを使用した鬼ごっこを見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離近にいた)	遊びの状況を見守っていた	特になし	特になし	
395	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	21						21		5	4	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位部位骨折	2.自らの転倒・衝突による転倒	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今後も外遊びを行う際には怪我を防ぐために遊び方と注意点を伝えていく	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)	1.定期的に実施	実施頻度(随時)	特になし	今後も児童が使用する点検を実施し、適切に遊びの内容に適した場所で遊ぶ・指導していく	1.集団活動中・見守り	走り回るスペースが狭い所で遊んでいた	人数によって適さない場所もあるため、参加する人数に応じた場所で遊ぶよう、他の遊びで使用するスペースと共に調整していく	1.いつもどおり様子であった	友だちとごっこ広の場を走った	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	屋外で児童に加えて遊びに近くにある遊具の使用状況を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で遊んでいた他の児童を見守っていた	特になし	特になし	
396	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	45						45		6	4	24.12歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指第２関節骨折	2.自らの転倒・衝突による転倒	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	支援員問もいつもと同じと持ていうが少しいちでもあった	遊びの中で起こり得る怪我を改めて確認し、引き続き事故予防に努める	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(詰時)	1.定期的に実施	実施頻度(詰時)	１人で点検をしていた	複数での点検を行うことで、事故につながるあの箇所の気づきを増やしていく	3.個人活動中・見守り	ドッジボールで遊ぶ人数が多く、遊ぶためのスペースが通常より狭かった	参加人数にあったスペースで遊ぶか、グループ分けを行い時間設定を設けながら実施していく	1.いつもどおり様子であった	たくさんの人数でのドッジボールで遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	屋外で児童に加えて遊びに近くにある遊具の使用状況を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で遊んでいた他の児童を見守っていた	特になし	特になし	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】															
397	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	27						27		3		1	24.12歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1，2)回/年	1.基準以上配置	なし	各部屋に配置された職員が、立ち位置や子どもへの声掛けについて確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	なし	ハード面が要因の事故でなかった。	1.集団活動中・見守り	下校後の児童館では子どもの気持ちが開放的になるため、危険に対する意識が学校よりも低下する。子どもに意識してもらう工夫が必要と考える。	遊びを始める前に、危険行為について確認して行う。	1.いつもおりの様子であった	遊戯室で運動をするつもり、元気に過ごしていた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	危険な行動をとることが多いため本児の近くで見守り、必要に応じて声をかけたり本児に遊びを一時中断してもらい、何が危険か伝えたりした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児と担当者の反対側の見守りをしていた。	なし	その他の要因は考えられなかった。	
398	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	35						35		6		5	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左問指中節骨頭部骨折	8.その他	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	特になし	ドッチボールを楽しむ中でも怪我に気を付けるよう、投げ方や受取り方について子どもたちと話し合った。事故防止マニュアルや安全計画の作成を検討し研修に務める。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	使用しているボールは目視による点検をしており、特に問題はなかった	引き続き、児童が安全に確保されるよう点検を実施していく	1.集団活動中・見守り	特になし	引き続き、児童の安全が確保されるよう適切に援助員を配置していく	1.いつもおりの様子であった	本人の様子も変わりなく、身体をよく動いておりドッチボールを楽しんでいた中でボールを取り損ねてしまった	2.対象児の近くで対象児を見ていた	子どもたちが投げるボールの勢いのない怪我のないように近くで見守るようにした	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は他の子どもたちの遊び、動きをそれぞれの場所で見守っていた	特になし	集団での遊びを楽しむなかでも安全には気を付けるよう児童全員に話す	
399	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	54						54		5		5	19.7歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	なし	事故予防に関する研修を定期的に実施し、予測できる危険を回避するため、常時他の職員と連携し全体を見守る支援員と児童の近くにつく支援員で役割分担する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし。	ハード面等の点検等の不備などが要因で発生した事故ではないが、引き続き施設・設備の管理を実施していく。	1.集団活動中・見守り	本人が鬼ごっこの鬼から逃げ気を抜いて歩いていた所へ鬼から逃げていた友達に不意に後ろからぶつかり避けようがなかった。その勢いで体勢を崩し前に転倒した際強く左手をついた。	児童が活動する前に事故・怪我を起こさないようにする為の声掛けが必要。	1.いつもどおりの様子であった	学童以外の遊びに来ている友達と遊んでいた。	4.対象児を見ていなかった	子ども達と一緒に遊んだり移動しながら鬼ごっこの集団の外側で見守りをしており、別の児童いたため目を見ていなんだ様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と鉄棒で遊んでいる子を見守っていたため、転んだ様子は見ていなかった。	特になし	子ども達全体に慌てない・気をつける等注意喚起をすることを毎回するよう必要がある。	
400	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	24						24		2		1	20.8歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	なし	子どもの人数や職員の立ち位置など必要な事項は定めており、当該事故はソフト面の不備に起因したものではないと認識している。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	定期的な点検も行っており、危険受個所も見受けられなかった。当該事故はハード面の不備に起因したものではないと認識している。	1.集団活動中・見守り	なし	遊んでいた部屋やルール、参加人数等マニュアルに沿って適切に行っており、環境面に通常と違った点もなかったことから当該事故は環境面の不備に起因したものではないと認識している。	1.いつもおりの様子であった	いつも通り、ドッジボールを楽しんでいた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	対象児の見ていた近くで守った。即座児を対象児が体勢を崩したことに気付いたにが体勢をこえられなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の近くでやや近くで見守っていた。即座に対象児が崩し勢を崩したことに気付いたが、支えられなかった。	転倒は突然起こるものなので、職員、児童ともに予防的な意識が必要である。常に児童への声掛けは心掛けているものの、やや抽象的な声掛けで職員の考えが子どもに伝えきされていなかった可能性がある。	職員間で予め危険個所や注意点を共有し、子ども へ具体的な声掛けをする心掛け。	
401	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	60						60		8		4	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	なし	今回だけでなくタイヤ遊具で足を滑らせる事が有る為、再度十分気をつけて遊ぶよう児童に話をした。また職員間で共有し予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	今回遊んでいたタイヤ遊具は目視、触診による日常点検はしており特に問題はありませんでした。	運動場は使用する時はチェックシートを毎作成し毎日の安全を確認してから利用する。	1.集団活動中・見守り	特になし	自由にする前に事故・怪我をさせないようにする為の声掛けが必要。	1.いつもおりの様子であった	一人でタイヤからタイヤへ移動していた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	遊具周りを中心に指導員1名が見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	サッカーやドッチボール等他をしている児童が見守っていた。	特になし	子ども達全体に慌てない・気をつける等注意喚起をすることを毎回するよう必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																							
402	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	106							##		11	2	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	児童から聞き取りに重点を置き、異変を迅速に察知し、行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	3.未実施	実施頻度(250)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	遊びを楽しみながらも、一定の冷静さをもて声さるようかけをおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの過ごしてあるいた	3.対象児離れたところで対象見ていた	体育館にて他の児童をみていた	2.担当者・対象児の動きをいまだ見なかった	施設にて他の児童をみていた	特になし	コロナ禍で暑さ指数もあり、外で体を動かして遊ぶ機会が不足していたため、少しずつ体を慣らしてから活動を開始する。	
403	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	59							59		6	6	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔内受傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	安全管理マニュアルの予防対策の部分の復習を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(250)回/年	特になし	施設の定期点検の実施をすること。	3.個人活動中・見守り	特になし	見守りと共に変化する子どもの様子に気を配ること。中間にも時間	1.いつもどおりの様子であった	危険な動きはなかった。	2.対象児の近で対象見ていた	対象全体を見守った。	2.担当者・対象児の動きをいまだ見なかった	室内での遊びで見落としがあった。	特になし	あそび場所の事前の安全確認を行う。	
404	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	77							77		8	5	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	外遊びの際には、遊びの内容によって職員の配置を考慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	危険性が遊具の低いあっても、安全性に考慮して遊具を選んだりする。	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	とくに変化はなくいつもの様子だった	2.対象児の近で対象見ていた	遊びを見ることを守ることできる位置で見守っていた	2.担当者・対象児の動きをいまだ見なかった	全体の動きを見守っていた為、対象児童だけを見ていなかった。	特になし	遊びに入る前に考えられる要因を注意事項として児童に伝える。	
405	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	141							##		17	8	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	1年生から4年生までは人数が多いため、学年別、男女別などで分けて、出来る限り少人数で遊んでもらっている。	見守りをしている支援員が児童に対して、事前に危険性の声掛けが出来ればよかった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	日々の設備や玩具の安全点検を徹底する。	1.集団活動中・見守り	体育館等で活動する際は学年に応じて、人数を制限等している。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	元気に帰ってきて、宿題をやすませおやつを食べた、いつものように身体を動かす遊びをしていた	2.対象児の近で対象見ていた	2～3メートル離れたところで見たが、危険は感じなかった	2.担当者・対象児の動きをいまだ見ていなかった	その他の職員は、別の活動場所で保育をしていた	当該児童は自信過剰になりすぎるところがある。	児童の特性を理解し、声掛けをする必要があった。	
406	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	58							58		5	5	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足捻挫及び腓骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2,3)回/年	2.基準配置	事故後、普通に登校していたため重症と判断しなかった。	怪我をした際は保護者への報告と共に病院を受診した場合は報告してもらうようにする。	—	—	—	—	—	—	—	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	外遊びは危険が伴うことを児童に徹底し、支援員が目配りの範囲を決めグループ分けをする等、常に全員が見渡せるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見なかった	—	2.担当者・対象児の動きを見なかった	—	ケガをしたことは把握できていたが、その後の経過を確認することを児童、保護者どちらにも出来ていなかった。	ケガをした際などは、その後もケガの状況を確認するように心掛ける。	
407	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	81							81		9	5	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首の捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	どの場面・場所で怪我が多いのかミーティングで共有しヒヤリハット事例の報告をする。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	どの場面で怪我が多いのかミーティングで共有しヒヤリハット事例の報告をする。	1.集団活動中・見守り	特になし	周辺を見る意識、死角を作らないように視野を広く持ち意識するよう声掛け。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気よく登室し、外で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	校庭で別の児童のした対応をした対の児童の対応を十分に見守りができていなかった。	2.担当者・対象児の動きをいまだ見なかった	様々なあそびを児童たちとしていた。	特になし	どの場面で怪我が多いのかミーティングで共有しヒヤリハット事例の報告をする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																						
413	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	1						1		4	1	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	何もないところでの転倒は予測ができない。	なお一層の注意と声掛けを心がけたい。	1.定期的に実施	実施頻度(開設時)/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)/年	特になし	今後も継続して点検をしていきたい。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ケガをしそうな場所はないか、支援員で点検し相談していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず着いていた。	2.対象児の近く対象児を見ていた	入口付近童で、一緒にしながら見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童の至近距離で一緒に保護者のお迎えを待っていた。	特になし	なお一層の注意と声掛けをしていきたい。	
414	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	4						4		2	2	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	受けての体制までは、予測出来なかった。	支援員も十分配慮して見守っていたが、より一層安全面に努める様に気をつける	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	柔らかいボールを使用していて、スピードもら出ておらず高く上がる事を出来なかった。	ボールも柔らかい種類を使用している。尚検討する。	1.集団活動中・見守りあり	ボール遊びをしている時は、人数に関わらず注意が必要。	個人差がある事もふまえ、慎重に見守る必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	2年生の男子2人と仲良く遊んでいた。	2.対象児の近く対象児を見ていた	ボールの行方と児童の動きを見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児童3人を1人の支援員が注意深く見守っていた。	激しいドッジボールではなかったので骨折事故は起こるはずないと思ってしまった	外遊びの前にはより一層注意を促す。過度になったら休憩をさせる。	
415	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	17						17		3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.基準配置	支援員の充分な見守りが足りなかった。	日頃より全体の見守り、見回りを再度意識し、全体に注意が行き届く努めに注意が行き届く努める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	正しい遊び方の指導ができていなかった。	正しい遊び方、遊具の使い方の指導を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	正しい遊び方ができていなかったが注意が足りなかった。	正しい遊び方が出来ない場合は遊具は使えないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いうことをきかない	4.対象動きを見なかった	付近で見ていて守った児童目を離した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各自分散して他の児童を見守っていた	正しい遊びをしていなかった。	支援員一人ひとりも子どもたちの行動を把握できるよう努め、正しい遊び方ができていなかったらやめさせる等意識を統一させる。	
416	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	184						##		16	5	22.10歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の近く対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
417	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	176						##		16	6	22.10歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右遠位橈骨末端骨折・左膝擦過傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	2.集団活動中・子ども達のみ	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	4.対象児の見ていなかった	集団下校中のため、見守りなし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	集団下校中のため、見守りなし	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
418	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	77						77		7	3	20.8歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	首・肩・ひざの打撲および裂傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	7.その他	———	下校前の指導を引き続き行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	4.対象児を見ていなかった	下校中のため、見守りなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	下校中の事故であるため、見守りなし。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	
419	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	65						65		11	3	21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1-2)回/年	2.基準配置	事故が発生した際の事故防止マニュアルを整備していた。	策定している危機管理の手引きをもとに事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(—)回/年	———	引き続き定期的に安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	———	見守りが必要な場面では引き続き支援を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の近く対象児を見ていた	集団活動中見守りを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団活動中見守りを行っていた。	———	今後も危機管理の手引きを用い、迅速な対応を行っていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者								事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰						マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷						実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
432	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22						22		5		22.10歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故発生場所である多目的ホール1厚生員1名・学童室前に放課後児童支援員1名で見守りを実施。	事故防止マニュアルの作成が必要。職員の配置として、運動遊びを行う際は2名体制で見守りを行うようにする。ただし、他の部屋を見守り・巡回もしなければならないので、臨機応変な対応が必要。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	施設・遊具・玩具全点検表を作成し、1日1回点検を行う。職員全体でに把握できるように掲示または管理ファイルに綴る。	安全点検表を作成し、職員で共通理解を行う。	1.集団活動中・見守り	特になし	なし	1.いつもどおりの様子であった	本人への聞き取りをもとに普段通り過ごし、多目的ホールでドッヂボールに参加。相手が投げたボールを素らかいクリスピーをキャッチするはずが、うまくとる事が出来、思いっきり自身の手を強打した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事務室前に見守りをしていた支援員が多目的ホールから手を押さえて、打ったと言いいながら笑って出てくる対象児に気づく。すぐに声をかけ、学童室へ移動し手当てや保護者への連絡を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていった	ドッヂボールは12名でお行っており、対象児はなく他の児童の動きを見ていた。	自損事故はある支援員ではが、支援と運動遊びを行った児童の見守りを重要視をするであった。	早急に事故時対応のマニュアルを作成し、職員での共通理解が必要と考えられる。また、日々の見守りの中で子どもたちが安心・安全に過ごせるよう環境の見直し、毎日の施設・遊具・玩具の点検を欠かさず行う必要がある。	
433	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	10	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	8.学童	22						22		3		19.7歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	怪我や事故に繋がる可能性がある場合も想定して、改善施策や保育内での遊び方について職員間でミーティングを行います。	支援員・補助員全体で大人に対して遊びも求めてくる児童に対し、保育や配慮、対応等上りこども連同士で遊びをつくりあげることが出来るような保育、関わり方について職員間のミーティングを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	保育施設内の床には、ジョイントマットを使用し衝撃等の吸収、角などにはクッション材で対応しています。消耗しない部分もあるため環境整備を怠ってしまいました。	事故防止のため、ジョイントマット買い替えを行い、環境に組み入れ、危険個所について再職員間で協議を行い、確認を行いたいと思います。	1.集団活動中・見守り	保育施設育成支援の適切な遊びではなく、事故が繋がってしまった。	職員間で自分達の保育、支援、遊び等、充分に行き届いているか俯瞰して確認を行い、子供達の過ごしやすい保育環境・支援体制が整えられているか、話し合いをもつ場を設けたいと考えております。	1.いつもどおりの様子であった	子ども達遊歩の参加はするものの、支援員やなど補助員大人と1対1の遊びをお求めりました。	1.対象児とマンツーマン状（対象児にしていた）	事故当日、支援員におんぶやだっこをしてほしいと学童室所時より解禁に要求をされていた。支援員はタ方以降、児童人数が少なくなった時に一緒にジャンプする遊びの対応を行った。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他補助員はお迎え対応や、他児童の対応を行っていた。	支援員が要してマンツーマンの遊びに対して、事故を想定することが出来ませんでした。	研修等を学童クラブ内で学び、子ども達同士遊びの遊びについて職員間で、子ども達同士関係性を築けるよう声掛けや遊びの提案が出来るよう職員間で動いていきたいと思います。	
434	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	29						29		3		21.9歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右撓骨遠位端骨折、右尺骨遠位端骨折	2.自転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	レクレーション前に無理や行ならず体制にないよう楽しむこと伝える	遊びやレクリエーションの危険な行動中でも危険な行動を行っていないか注意が必要	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	事故場所は広大なあ（土）生状で周囲へ生り配慮も行われていた	レクレーションに見合った施設設備なのかを考え行う	1.集団活動中・見守り	転んでも怪我の無いか敷地なの前察知能力を活かす	地面などにガラス、石など危険物がが無いか事前確認	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で登園、外遊びの際もいつも通り元気よく遊ぶ。運動神経が良い子の為、反射的にボールをしたときの姿勢と着地のタイミングが重なってしまい思わぬ手の付き方をしてしまった。	2.対象至対を児の近で対象見た	ボールを後児よけに対象童を痛がを様子られで材で冷却した。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	遠くから見しを全体をしていたが、他の児童虫取りの見ても行っていた。	児童達が中楽しむ楽で興奮を抑掛けを	全体活動を見渡し、遊具に横に等は必ず職員を配置する	
435	令和6年3月27日		15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	15						15		3		20.8歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	－	安全計画の策定と安全管理マニュアルを作成する	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	特になし	体育館という広い場所でボールを使って普通の行動・運動だったため、ハード面における要因はないと思われる。	1.集団活動中・見守り	特になし	指導員と一緒に遊んでいて、危険なことをしたとは訳ではなかった。今後さらに注意を払い児童を見守っていく	1.いつもどおりの様子であった	シュート練習後、バスケットボールでキャッチボールをしている支援員と他児童に関わった。初めは1対1（支援員：他児童）でキャッチボールをしているところに該当児童（2名）が加わって対4でキャッチボールをした。	2.対象至対を児の近で対象見た	初めは１対１（支援員：他児童）でキャッチをしているところに童童ボールをしていると該と他児童（２名）が加わっていき１対４でキャッチボールをした。	1.担当者・対象児の動きをていた（至距離にいた）	近くにいる職員もいれば、離れて他童もいる児童の見守りを行っていた。	キャッチボール前に指を痛めていたことに気付かなかった。4対1だった為、児童それぞれに合わせ加減がしづらくなっていた。	ボールの種類や数を調整する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面				人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
436	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	54								9	9	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	高い段を跳べる園児ほど跳び方は安定していが、地面からの高さがあるので、落ちたときのリスクが高いこと。	高く跳べる子ほど落下距離があることを考慮したり、落下した時のことを考えてて配慮をしていく。そばにつき、落下の際は必ず止める気持ちを持つ。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	シートやマットを敷いているが、外ということ。	周りに敷くマットを増やす等。	1.集団活動中・見守り	特に危険な個所に配置を集中させる。	子どもに対する教員配置を増やした際、増やした人数に対応できる資金がしっかり出せるシステムにしてほしい。	1.いつもどおりの様子であった	運動会に向け張りつい切った。	3.対象から児離れたところで対象見ていた	全体を把握していたため、落下に気ついてすぐ差し出せる距離はなかった。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	様子は見ていたが、突発的に起きた落下には対応できなかった。	運動会が近づくと、保護者の期待が高まり、跳ばせたい・跳ばせなくてはという意識が強くなってしまいがちになる。	「跳べるよ」と励ますことは大切だが、「失敗するかもしれない」との意識を常に忘れず接していく。	
437	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右頬部挫滅創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	ピアノに衝激突する可能性があることを認識するる必要がある。	子どもがピアノの近くを走っていたら注意をする	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施	50	ピアノがあることを認識するべきだった。上部はカバーがあるが、下部はカバーが無いためむき出しの部分がある。	ボールがピアノの近くに行ったら付けることを伝える	3.個人活動中・見守り	ピアノに走ってきて阻止できなかった	ボールがピアノの近くに行ったら付けることを伝える	1.いつもどおりの様子であった	ボールを遊って使っていた。	3.対象から児離れたところで対象見ていた	子どもたちの様子を見ていたが、ちょうどそれぞれ他の子たちとの縄跳びのしたい相手ときに怪我をした。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	なし	どこに飛んでいくかわからないボール遊びを行う際には注意をする必要がある。	ボールがピアノの近くに行ったら付けることを伝える	
438	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	115		8	38	27	42			16	12	17.5歳	2.女児	天気：晴	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折	3.子どもの衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		遊具で遊ぶ際、近くに行き見守り、声かけをおこなう。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	当該園児の手を友達が誤ってことから、ハード面に対する改善策は不要と考える。	3.個人活動中・見守り	歩いていて、しゃがみだと近くが誤って踏んでしまった。	近くに友達がいるときには、周囲に気を付けてするに園児に声掛け行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、仲良しの児と園庭のウッドデッキで遊いった。	2.対象至児で児見ていた	該当遊具の近くで、当該児の遊び守を見つつ、記録用の写真を撮影をしていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	園庭の様々な場所で子どもが遊んでいたため、それぞれのエリアに分かれて子どもの安全を見守っていた。	立て続けに起きた要因分析：いずれもケガ園児の意識を起した園児の意識外で起きている。	危険につながりそうなことを想定し、職員による注意喚起を行う。まには、事故での状況等を伝え注意喚起を行う。	
439	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23								16	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肩挫傷、左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	当日は研修日だったため、外部の人が10名ほどが参観していた。いつもと違う雰囲気に気持ちが高揚していたことが考えられる。	いつもと違う環境の時は、園児たちの様子をよく見ながら遊び方をその都度知らせていく。また、職員同士の声かけや職員の配置も配慮していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	マット設置場の凹凸の確認や運動スペーの確保する。	マットの枚数を増やし、着地点を増やす。	1.集団活動中・見守り	マット運動の自分の番のタイミングが早くなってしまった。	運動遊びの前には、注意点を伝え、園児にも注意を促す。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	外部の人がいたことにより気持ちが高揚し、いつもより動きの多さが見られた。	4.対象児見ていた	他の園児の対応で目をしていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	対象児のいた場所に遊んでいたが、他の園児の対応で目を離していた。	前日に雨降り、一部が芝がしめっていた。いろいろなきいた場に行き遊んでいたため、靴が湿ったことも考えられる。	マット運動の前に滑らないか確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者											ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育士	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
																							死因	負傷状況	受傷部位																												
440	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28	1	1	3	6	7	5	5		4		17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下肢骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	上記に記載したとおりマニュアルや研修については取り組んでおり、職員配置も基準を満たしていたが、事故の現場を目撃していた保育者がいないことから、職員の配置や役割分担が不明確なことで当該児の危険に気付き、対応することができなかった	戸外での活動の際は、固定遊具などの危険個所には必ず保育士が付くようにする。保育者の配置と役割を明確にし、それぞれが責任をもって対応する。子どもの行動を予測し、危険が回避できるような対応・声掛けを行う。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	ブランコの周辺にブランコの前を横切ることなどの危険行為がないように、物理的に侵入を防止できるようなものを設置する。	1.集団活動中・見守り	異年齢児の活動のため戸外活動時のルールや約束の理解に差があった。いつもは理解しているルールでも環境等の違いや変化で抜け落ちることがある。	園庭で活動する前に、子ども達に活動の際の注意事項やルールなど各年齢が理解できるよう丁寧に再確認する。その日の子ども達の状況に合わせた活動の提供を心掛ける。	1.いつもどおり様子であった		3.対象児の離れたところで見ていた	園庭内全体を見渡せる場所に配置し、危険があった場合声をなかけるとしたが、該当児の動きには気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場付近子ども達の様子を見ていたため、当該児には気付かなかった。	保育者2名で対応するは、内容や範囲が広かったのでは？保育者の配置や役割分担が曖昧だった。	その時の人数や年齢によって、子どもの活動内容や範囲を保育者の対応が可能な範囲に設定する。保育者の配置場所や役割について事前に話し合い、決定しておく。異年齢児保育の場合加配の職員を配置する。	
441	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62	12	28	22						15	15	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	テンションが上がってしまうと危険につながる。	一人一人の遊びをしっかり把握し、安全面での対応をしっかり行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	引き続き、安全に行動できるよう、年齢に応じた遊びの配置を行う。	1.集団活動中・見守り		一人一人の遊びをしっかり把握するとともに、危険を回避できる距離に職員がくるようにする。	1.いつもどおり様子であった	普段から本あり元児でもいつもに活発に遊んでいた。	3.対象児の離れたところで見ていた	職員間で立ち位置を連携していたが、こけた児に出すことが出なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で、それぞれの園児を見ていた。		遊具の数を減らす等の対応を行い、安全に遊びを楽しめるようにする。	
442	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35			3	9	12	11			3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩の骨折（全治2か月）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		園児個々の運動能力を十分見極め、安全第一の活動を行う。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	3	今回の事故は設備等は関係しない。	1.集団活動中・見守り		今回の事故に教育環境は関係しない。	1.いつもどおり様子であった	マラソンに参加目標し、周に取り組んでいた	3.対象児の離れたところで見ていた	担任1名、マラソンの様子を応援しながらスタート地点で周を数えていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任1名が対象児の後ろから一緒に走っていた。		運動機能の向上をはかる関わりを持つ	
443	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	61									6	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		今後は園外での事故やケガが起こるリスク等について、定期的に教職員研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	250		園庭の遊具等については日頃から複数の目で安全確認を徹底し、チェック項目などで全職員に向けて可視化する。室内の玩具等については引きこのまま継続して安全確認をする。	1.集団活動中・見守り		園外の公園ではあるが、園児の怪我等が起こりやすい場所等を教職員で話し合い、見守りの足りないであろう部分に職員配置をできるように改善する。	1.いつもどおり様子であった	対象児は、友達と楽しそうに元気よく遊んでいた。	2.対象児近児を見ていた	担当職員は対象のすぐにいたばかりであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が、対象児の事故にすぐ気づき助けたため、他の職員がその声を聞きすぐ駆け付けた。		今回は至近距離で見守っていたにもかかわらず、怪我を防ぎきることが出来なかった。園外のの園での活動であったため、普段から遊びなれている遊具ではないため、より見守りの目が必要であると感じた。	
444	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	113				47	17	49			16	11	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	遊具の援助ていたため、高いところと園児の側にいることができなかった。	高い遊具に上る場合は、必ず保育者が側につき援助する。他の保育者との連携を強化し、声を掛け合いながら子どもが一人で高い遊具に上ってしまうことがないよう援助することを話し合った。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	持ち手などの汚れや滑らないように毎日の点検を徹底する。	1.集団活動中・見守り	遊具の援助ていたため、保育者が側で見守ることが近くの遊具を行っていたなかった。	高さのある遊具は必ず保育者の見守りのもと行う。翌の援助を行っており他児の援助が難しい場合は、無理で遊具に取り組わようにしたり他の職員に援助を求める等変える工夫を意識し、必ず側で見守りをする。遊ぐ子らでもひとりで上ろうとする兄の姿を見つけた場合には、大きな声で一番近くにいる職員に声を掛け、援助を行うよう求めるようにした。	1.いつもどおり様子であった	いつも通り元気いっぱい遊ぶ。つもれは遊ぶ具にいつもよりと走っこ多い。	3.対象児の離れたところで見ていた	担任は、世他話の為、保育室にいた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すぐ隣の職員は、他の園児の様子を見ていたため、落下の援助はできなかった。	本児は普段あまり上まで登る経験は少なかった。遊具の上から、棒にぶら下がって下りようとした際に、保育者が近くにいることができず、勢いが付き手が滑ってしまった。	高さのあるものを行う時には、保育者が近くにいない場合、子ども達にも保育者に声を掛けるよう再度指導し、保育者は必ず近くで見守りを行うようにする。また他児の援助などですぐに見守り援助が行えない場合には、必ず他の職員に声を掛け、子ども達が一人で行わないようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
445	令和6年3月27日	1. 認可	5. 幼稚園	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	22								2	2	16. 4歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1～2	2. 基準配置	特になし	園児保護者に対し、挨拶後は速やかに降園することや子供から目を離さないように伝えた。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	職員で事故現場を確認し、以後気をつける共通理解をした。	4. 個人活動中・子ものみ	特になし	保護者に対しての声掛けを増やし、自分のみクラスのみではなく、近くにいる子には声をかけたり目配りするようにする。	1. いつもどおりの様子であった	一人で遊具に登り、遊ぼうとしていた。	4. 対象動児の見ていかった	降園中であったため、母親に引き渡すまでは把握していたものの後のの動きについては、把握していなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	事故発生直後は、保護者に引き渡したあとから職員は近くにいなかった。	普段から遊んではいたが、事故発生時は慌てたと思われる。	園児や保護者に対しての声掛けをこまめにするし合いをした。	
446	令和6年3月27日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	1								1	1	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3～4	1. 基準以上配置	特になし。	マニュアル有り、研修施、職員配置基準もみたしているため、特になし。	2. 不定期に実施	1～2	1. 定期的に実施	5～6	2. 不定期に実施	3～4	特になし。	階段には手すりと設置、勾配は緩やかで、安全点検も行われているので特に改善策はなし。	1. 集団活動中・見守りあり	担任教諭がその場にいて気を付けるように声掛けをしていたが、直後に足を挫いた。	全園児に階段を昇降する際の約束等、安全確認の指導を行う。	1. いつもどおりの様子であった	手すりを持ちながら、ゆっくりと階段を降りていた。一段飛ばしでバランスを崩した。	1. 対象マ児とツマン状態(対象児に接いした)	近くで声をしかけながら見守っていたが、バランス崩した瞬間は支えられなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他の園児と保育士共に居た為、気付けなかった。	階段を一段飛ばしで降り事をしていなかった。	安全な階段の昇降方法について、再度職員で確認し、こども達にに指導を行う。	
447	令和6年3月27日	1. 認可	5. 幼稚園	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	32			8	7	17			6	6	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	特になし	高さのある遊具から飛び降りへの危険性を園児に知らせる	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	12	特になし	安全点検、修繕や障害物の撤去、危険のなものを取り除くようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	職員配置に配慮。子どもへの危険行動の指導。	1. いつもどおりの様子であった	運動会を経験し、動かすことや力の加減を試すことが楽しくなっていた	3. 対象児が離れたところ対象見ていた	他児の指導にあたっていた	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	同じ場で他児とかかわっていた	特になし	子どもへの危険行動への指導。職員間では、怪我事故予防対策や起こった時の対応について共有していく。	
448	令和6年3月27日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	51								18	15	17. 5歳	1. 男児	加配対象児(自閉症スペクトラムの診断有)	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	下顎挫創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置		引き続き、子どもの動きを予測し、職員体制や保育環境を見直し工夫する。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	24		引き続き、子どもの動きを予測し、職員体制や保育環境を見直し工夫する。	1. 集団活動中・見守りあり	担当保育者が休憩時間のため、休憩代替え職員が本児を対応中であった。本児の特性と当日の様子が大まかにしか引き継げていなかった。本児への対応が不慣れな職員に担当を任せてしまったという采配ミスも要因の一つである。	日頃から園全体で加配児の特性を共有しておく。また、担当保育者以外が加配児を担当する場合は、当日の様子を細かく引き継ぎ、本児の行動を予測しながら対応する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りではあったが、知っている保育者を見ていかけて興奮になってしまった。	4. 対象児の見ていかった	対象児に一瞬マンツーマンで付いていたが、本席しの者席しているを確認し、一瞬でだけ場を離れてしまった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	給食準備中であったため、学級全体やそれぞれの担当児への対応をしていた。対象児の動きを遠方から見ていた職員もいたが、一瞬の出来事で止めに行けなかった。	園全体における職員の慢性的な欠員状況に加え、事故当日は他にも2名の欠員がいたため、勤務している職員で何とかやりくりしていた。また、園の行事も重なっていたことが事故の一つの要因の一つだと考えられる。	行事や欠員が重なっている時ほど慎重に、また、丁寧に子ども見守っていく。職員間でのかけ合いや、加配対象児への共通理解を重ねていく。	
449	令和6年3月27日	1. 認可	5. 幼稚園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	45								3	3	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折、右尺骨骨幹部骨折、右橈骨尺骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	遊具の使いの使方について正しいて使い方の確認をする。	職員全員が正しい遊具の使い方を子ども達に伝える。	1. 定期的に実施	毎回	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	正しい遊具の使い方について確認をする。	子ども達に遊具の使い方を伝える。	1. 集団活動中・見守りあり	異年齢の達ども達が遊んでいる環境の中、子ども達は個々に好ぎな遊びをみつけて遊んでいる。遊びの変化に気がつきにくい。	怪我が起こりやすい遊具で子どもが遊び始めたら職員が見守りで近くで見守る、等、子どもの遊びに応じて職員の配置を変え、声を掛け合うようにする。	1. いつもどおりの様子であった	雲梯が上にでるように戸ようなり、外遊びで自で雲ぶ遊ぶ姿があった。雲梯の前進ができるので、バックでみたいと挑戦した。	4. 対象児の見ていかった	自由時間の遊びだった。園児の子と達と遊んでいた。保育戸の庭他もんでいた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	雲梯を含んだ遊具で遊ぶ子どもの近くの子を見守っていた。(雲梯をする子に手の届く範囲ではなかった)	児のこと自分で遊べ自ったが、さらにやってみたいという挑戦気持ちから怪我がしてしまった。	雲梯の落下による怪我を防ぐため、雲梯をする園児のみは雲梯を園児の見守ることを徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の内訳										教育・保育等従事者								事故誘因	ソフト面							ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】														
450	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	36									4		4	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置		落下の危険を速やかに察知し対応できるようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	走ってブランコに乗ったため、勢いがつすぎちぶ飛び鎖んと掘れず、後へ落してしまった。	遊具で遊ぶときは急がず、安全にできるように保育士が声をかけ、事故を未然に防ぐよう職員の配置をする。	1.集団活動中・見あり守り		落下の危険を速や察知よかにできるようにする。	1.いつもどおり様子であった	午後の戸外遊びにおいて、砂場で遊んでいたが戸外遊びが終了の声かけを聞き、最後にブランコに乗ってから保育室に戻ろうと走ってランコに向かい、その勢いで飛び乗ってしまった。	2.象至対児の近で象見た	園庭には4名の保育士がおり、大型遊具の滑り台付近に2名、園庭奥のブランコの付近、アルミ遊具付近で子どもを見守っていた。砂場から対象児がブランコに走って飛び乗ろうとしたのを見ていたときに対象児がブランコから後方に落下。同時に駆け寄ったが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大型遊具の滑り台付近で他の園児を見守っていたため、対象児の見ていなかった。	落下の危険箇所が死角にならない場所での見守りを徹底する。	落下の危険を速やかに察知し対応する。	
451	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6	1	5							2		2	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	①肘頭骨折(左腕)②尺骨近位部骨折(左腕)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	上記に記載したとおりマニュアルや研修については取り組んでおり、配置基準も基準を満たしていたが、配置箇所において責任をもった対応をしていなかった。	それぞれの職員が配置箇所での役割を理解し、責任を対応を徹底する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	遊具の素材がツルして滑りもいやすいものであった。	座る部分に加工ができるか滑り止め加工ができる素材を検討し、安全対策として適当であれば実施する。※滑りにくくなることで新たな危険に繋がらないか、遊具の特性から検討し判断する。	1.集団活動中・見あり守り	1・2歳児に自分で乗り降りできない遊具であり、足がつかないことからも遊具が年齢や発達に合っていなかった。2人乗りにしたことでバランスを崩しやすかった。	当該遊具配置の保育者は使用している児童が降りるまで責任をもって対応し、目を離さない。足が届かない未満児には、そばでない補助できない際は利用を制限する。(乗せない)	1.いつもどおり様子であった		4.対象児動を見ていなかった	児の見ていない対象児は立っていたが、対象児目を離していた。	1.担当者・対象児の動きを(至近距離にいた)	他の園児と関わりながら全体を見て、対象児が落下する際にも、直ぐに出離れて支たえることなかった。	遊具の特性を理解した上で遊具を提供したと言えず、足の裏かな幼い1歳児にとって補助がなければ落下に繋がりやすかった。2人乗りでさらにその危険性が増した。	遊具の特性や、正しい提供の仕方について全職員で理解・情報共有を徹底する。遊具が児童の発達や身体能力と合っているか判断した上で責任もって対応する。落下の危険を予測し、落下に備えて事前に対応可能な状態で提供する。未満児について子ども2人のみでの2人乗りは禁止する。	
452	令和6年3月27日	3.その他	5.幼稚園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37	0	0	0	51	47	44	0		13		13	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置		事故予防に対する教職員の危機管理意識の向上を徹底する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3		鉄棒の下に芝生など人工性のあるもマットクションのを敷設する。	1.集団活動中・見あり守り	日常、鉄棒は教師の見守りのもとで遊ぶ約束事となっていたが、幼児が近くに教師がいない状況で鉄棒で遊んだ。また、園庭にいた4人の教師は、それぞれ他の幼児の対応をしていて鉄棒で幼児が遊んでいることに気が付かなかった。	園庭で好きな遊びの時間帯を見守る教師のうち一人は、必ず園庭全体の見守りをすることを徹底する。幼児には、鉄棒で遊びたいときには必ず教師に声をかけることを指導する。	1.いつもどおり様子であった	合棒に居せた他当該こわせた鉄棒に「児が児れできる？」と言って、腰かけ当該児は当それでは自分でも、棒に腰かけようとしした。	4.対象児動を見ていなかった	他の幼児を見ていて、当該棒かけところていたが、腰かけようとしたのを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の幼児の見守りをしたり、近くにいる幼児に話しかけてそをしたりしていて、事故発生の瞬間を見ていなかった。		幼児に安全な鉄棒の遊び方について再度指導する。	
453	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13									3		3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第3中足骨頭部骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置		保育者が園児に対し、鉄棒につかまり地面を指導する際の動作を指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200		当該遊具(鉄棒)直下の地面の状況を日々確認し、凹凸などが有平ある場合は平面になるよう整備する。	1.集団活動中・見あり守り	高さの有る遊具で遊ぶ、鉄棒で技にする挑戦などの行動特性がある。	子どもたちの行動や遊びを全体俯瞰よう、見守できる体制が取れるよう再確認する。	1.いつもどおり様子であった	いつもどおり母親機嫌よく登園し、保育園を受けていた。	3.対象児からたち離れとこで対象見ていた	全体を俯瞰して見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	数名が交代で鉄棒遊びをしていたため、そばで見守っていた。	特になし	子どもたちの行動や遊びを全体俯瞰できるよう、見守る体制が取れるよう再確認する。	
454	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16				4	9	3			6		6	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置		様々なケースを想定した事故に対応できるよう研修を実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日		今後、田で遊ぶ際には田の状況を事前に確認し、大きなくぼみや段差がある場合にはならす等の対応を行う。	1.集団活動中・見あり守り		環境面での不備による事故ではないため、施設・環境面での改善策は考えていない。	1.いつもどおり様子であった		2.対象児で対象児見ていた	全体を俯瞰して見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	田にはおらず園庭している園児の動きを見ていた。		普段から安全指導を徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
455	令和6年3月27日	1.認可	5.幼稚園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘内側骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	特になし	職員配置に問題はないが、手が足りないと感じたときは補助の先生に声かけをする	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	玩具の箱が出しっぱなしになっていた	玩具の量を減らし、更に日によって玩具を限定して出す	1.集団活動中・見守りあり	特になし	玩具は決められた場所にあるか、整理整頓できているか日々確認する	1.いつもどおりの様子であった	友達に追いかけてれ逃げていた	4.対象児の見ていなかった	同室で他の児童と話をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当の部屋にいた	室内で走っていた。走らないよう声かけをしていなかった	室内では静かな遊びをする。走っている子には声かけをする	
456	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32					14	18			2	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首靭帯損傷	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園庭にはつまずくような凹みや段差はなかった。また、見守り体制があったため、特になし。	1.いつもどおりの様子であった	活発に戸外遊びを楽しんでいた。	2.対象至近で対象児を見ていた	他の職員分子ども役割分担しどもたちの見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員分子ども役割分担し、子どもたちの様子を見守っていた。	特になし	今後も、職員同士連携を図りながら見守りを行っていく。	
457	令和6年3月27日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	125				45	41	39			16	16	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	頚椎捻挫	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	安全対策マニュアルの欠如	安全対策マニュアルの作成	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	死角になっている	死角になっている場所の使用を許可制にする	7.その他	自由遊び中は、移動が自由室内で保育室外でも遊べる状況にある	自由遊び中の保育体制の確認、検討	2.いつもより元気なかった(理由を記載)	友だちとごっこ遊びでいつもよりテンションが高い様子だった。	4.対象児の見ていなかった	教師は保育室担当であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭担当は配置しているが、保育室外のフリースペースの担当は配置されていない	園児のケガの要因をその場で把握できなかった	自由遊び中の保育体制の確認、検討	
458	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	17.5歳	1.男児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	特になし	職員配置も基準以上であり、事故防止に関する研修も実施しており、改善策は特にない	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	12	特になし	施設・遊具は安全点検を実施しており、改善策は特にない。	1.集団活動中・見守りあり	登り棒に励みとして鈴をつけていたが、総合遊具デッキ鈴をつけていたが、総合遊具デッキからも鈴を触ろうとする可能性を予測できなかった。	子どもの行動をできる限り予測し環境構成を行う。登り棒の励みとして鈴をつける必要性の有無、付ける場合は時期や配慮事項について検討する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、いつも通り遊んでいた。	2.対象の至近で対象児を見ていた	近くにいる落下の瞬間ためい棒間ていは見たが、手距離なが届くではなかった。落下後すぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところで他児を保育していた。	登り棒をしていた時に、近くにはいるが見守りが十分でなかった。	子どもが棒を登っている時には側で見守るようにし、子どもの様子にすぐできるように対応する。	
459	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年 2時 他随	2.基準配置	八角ジムの辺りに、他の担当者が、学年の担当者が、落下したことに気付いた。	八角ジムを使用している園児がいる場合は職員が側につく。複数のクラスが同時に園庭で遊んでいる場合は、各担当場所を決め、園庭全体に目が行き届くように、戸外遊びを見守るようにする。また、3歳児以下がクラスしか園庭に出ない場合は、2名以上の職員を配置し見守りを行う。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	園庭が砂場、高いの位置の落下の際は衝撃が強かった。	運動器具の下には、マットや芝生などを敷く、誤って落下した際に衝撃が少ないようにとる。	3.個人活動中・見あり	八角ジムの4段目に園児が登ってしまい、職員が気付かず、止められなかった。	八角ジムの4段目を3歳児がる際に使用する際には、職員が側で見守る。	1.いつもどおりの様子であった	運動能力が発達してきて、より活発に遊ぶ姿が見られるようになった。八角ジムに上ることにも慣れ、より高い所に登ってみたいという意欲が芽生えていた。	4.対象児の見ていなかった	園庭内で他の場所の遊びの様子を見ていた。対象児が八角ジムの遊び守った、4段目まで登ってしまったことに気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの担当者が八角ジムで他の児童を見ており、職員の後ろで対象児が落下したことに気付いた。	園児がどんどんできなくなっていたきに、全体を見守る制を必要がある。	園児がどんどんできなくなっていたきに、園庭を見守る体制を整える。外遊びの際は職員配置を増やす。	園児がどんどんできなくなっていたきに、全体を見守る制を整える。外遊びの際は職員配置を増やす。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡		負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】					実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】															
460	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	13									2	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左側橈骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不実施	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	無し	日々の子供の活動等について情報共有をする。安全管理マニュアルの確認、環境構成の配慮、子どもへの注意注意喚起（3歳以上児）	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	環境の整備が甘かったと思う。	事故状況共有と発生したかを深堀し環境設定配慮を再確認	1. 集団活動中守り	危険場面声掛ではいるが、元気な子で走り回っている中での転倒であった。	活動前の環境設定や子どもの予想される活動がしっかりと保育に活かされるようにしていかなければいけない	1. いつもどおり様子であった	健康状態良好で元気に遊んでいた	2. 対象児の近で対象児を見ていた	全体が見位置に立ち、遊びを見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	13人を2人でみていた。転倒後すぐ報告し、冷却材で患部を冷やした	無し	遊びの中で予想される子どもの姿を共通理解していく	
461	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	16									2	2	18. 6歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首骨骨折	1. 遊具等からの転・落落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	公園のハザードマップを作成していたが、今回の公園は未作成だった。	散歩で訪れる公園は、全て作成する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	子どもの大健康が混ざる遊具人の器具が在した。	公園内で使って遊具を使い再指定する。	7. その他	低くても園児用では遊びなかった。	使用して遊具に子ど明確をし、に明確に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	保育園の日ことは終ないもテンポが少し高かった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	園児の至近距離で見て対象児が落下する瞬間に手を伸べるが、間にたが合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具に一人ずつ、ついていた。	自閉症児がまた遊具の近くに来たため、一瞬反応が遅れた。	使用してよい遊具を明確に、子ども明確に伝える。	
462	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13				1	12				1	1	16. 4歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転・落落・落下	1. あり	2. 不実施	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置		外遊びの時に先生が一人配置にならないように考える	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3		環境面でも触れているが、人工芝の張り替えを行う。	7. その他	震梯の高長さは年長児がふらつくとも足がつかない程度。人工芝がやや固くなっている。	遊具を新しくする予定なので、人工改修も改修する。	1. いつもどおりの様子であった	直前に友だちが震梯をする様子を見ていた。その後、自分もやってみようと震梯にふら下がった。部屋へ戻る為に片付けを呼び掛けた後、震梯から手を離してしまった。	3. 象から離れたところで対象児を見ていた	友だちの様子を見ていた本児に声をかける。友だちが震梯をしていた（のぼり棒をしていた）別の子の方に移動し、その後、片付けの時間になったため、片付けを呼びかける。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ているのは当クのみだったので他職員はその場にいなかった	園庭遊び終了を告げられることで手もげ離してしまった可能性もある。	戻る時間を予告しておく。もうすぐ戻る時間だと子どもが意識できるようにしておく。本児がどれくらい震梯ができるのかを見極め、そばについておくべきだったかもしれない。全体の遊びを把握し、危険が伴うところには側につくようにする。	
463	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	10									2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘橈骨骨頭頭部骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不実に期施	実施頻度(12　)回/年	1. 基準以上配置	生活の切り替わり時間（延長保育）で見守り体制が死角が生じた。	保育者同士の声掛けと引継ぎを徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12　)回/年	保育室前廊下のベンチは保育室に沿って設置しているが、保育室入り口へ15cm程度はみ出ていた	保育室入り口へはみ出ないようにベンチの位置を変える	7. その他	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をし、子どもを見守る職員が手薄となった。	保護者対応を人、子どもを人分担し、人分もいないように徹底する	1. いつもどおりの様子であった	ベンチに座って製作していた。帰る直前の上靴を脱いで片付けていた。靴下だったので滑ってバランスを崩し転倒した。	4. 対象児の動きをいなかった	担当職員は保護者対応をしており、子どもを見ることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の園児を見ていた。	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をし、子どもを見守る職員が手薄となった。	保護者対応をする人、子どもを見る役割でも人を分担でないように徹底する。	
464	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2. 1歳児クラス	1										13. 1歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	8. その他	2. なし	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	子どもを抱っこしを抱っこしながらの階段昇降は足元がは見えづらく注意が必要である。（朝の登所時は気持ちが急いでいるもある。）	声かけや掲示等で注意喚起を行うとともに、スロープの利用を積極的にすすめる。（迎えの多い時間帯には所務を配置しているが、保育中や職員勤務時間外の場合は人員配置が難しいので、掲示等での注意喚起となる。）	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	施設の構造上、安全対策の為にコーンバーを階段下に二本設置。昇降スペースを狭め子どもが飛び出していかないようにしているが、保護者がすれ違うことに関しては十分なスペースとは言えない。	階段横に設置してあるスロープ使用をすすめる。コーンバーを一本に減らし、昇降スペースを広げ保護者がすれ違う際のゆとりを持たせた。	7. その他		子どもを抱っこしての階段昇降の際の注意喚起を配信や掲示等で行う。また、スロープの利用の声かけを適宜行う。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子(泣いたりぐったりするなど)はなかった。	4. 象児の動きをいなかった	子どもの登所時は室内で保育中の玄関ため外のものを見るとはない。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	登降所の際、時間帯によって保育所内駐車場の誘導に保育所所務がすぐに転倒に気づき、親子の状態を確認後すぐに朝の打ち合わせ最中の所長・看護師に報告しに来た。		駐車場案内と登降所の見守りを同時に行うことが難しい場面もあるが、状況によって声かけやスロープへのご案内を適宜行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
465	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17									2	2	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	無	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	保育士が予想される子どもの行動について守ってはいたが、とっさの行動に対処できなかった。	運動機能を高めたり、俊敏性を養った。また、子どもへの安全教育を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	つまずきやすいような物が落ちていないか、突起物は無いか園内を確認する。	3.個人活動中・見守りあり	対象児や他児の運動機能を過信せずに起きだった。	安全な遊び方について、子どもと一緒に保育士も再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	子ども数いこと追いかけをした。	2.対象児の近で対象児を見ていた	そろそろと保育室に戻ろうと声を掛けながら、片付け一緒に行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で午睡の準備をしていた。	子どもの行動をきちんと確認し、危険な行動に発展するこが出来なかった。	何事も大思い込まず、子どもの行動には危険が伴うことを常に意識する。	
466	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41			10	10	10	11			6	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	職員は2歳児2名、3歳児2名、4歳児1名、5歳児1名。	転倒後の対応として、保護者への連絡等の判断を速やかにする。骨折かどうか不明な時はすぐ受診を勧める。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	随時	2.不定期に実施	随時	友達と走り出してバランスを崩した。	遊具設定を工夫をしていたが、様々な事態が起こり予測が必要である。	3.個人活動中・見守りあり	友達と一緒に、速く走ろうという思いがあったと思われる。	ぶつからないような間隔で広いところで走る伝えある。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り登園し、変わった様子はなく保護者からの連絡事項もなかった。	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	ベンチで友達と水を飲む様子を確認している。そこから走り出し、バランスを崩して転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢の子どもたちが遊んでいたため、それぞれの担任は主に自分のクラスの子どくいる子どもを見守ったり、一緒に遊んだりしていた。	遊びの約束や遊具設定をしており、保育士一人一人が離れた場所でも子どもと遊んだりしていた。	遊具設定を工夫をしていたが、とっさのことに対応しきれなかった。様々な事態が起こる予測が必要である。	
467	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14				0					2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		園児への指導の実施。職員へ事故に関する周知と保育環境の再検討	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		引き続き、定期的な安全点検を実施を行い遊具を適切に管理する。	1.集団活動中・見守りあり		体を動かした遊びの充実により身体諸機能の発達と、園児を対象とした安全指導を実施し周囲の状況把握や安全な遊び方が身に付けられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は様普段と変わら子ならなかった	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	担任は対象時児の見ていたが、落下近くていたが、時に受け止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員以外は、それぞれ保育等を行っていたため発生時の様子は見ていなかった。		教師間で事故発生に関する共有を行い、指導に関して再確認を行った。	
468	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	3									3	3	13.1歳	1.男児	入園時より、乳全般・卵アレルギーの既往歴があり、乳成分表示のもの全て提供不可、粉ミルクも乳成分なしのものにて対応。令和●年●月●日より、卵全解除との診断を受ける。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他		食物アレルギー(乳全般)によるアレルギー症状	6.アナフラキシーによるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	緊急時の応対マニュアル作成しているものの、食事時のマニュアル口頭員はで全職員周知のみであった。	食事時マルニュアルを文書化し、全職員の意識徹底を行なう。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	2.不定期に実施	10	本児の机が決まっておらず、他児との区別がなかった。	本児固定椅子として印刷を付け、ランチルームに配置する。	6.食事(おやつ)中	除去の無い時には、同じテーブルで食したが、混乱の一つもなった。(他児と食せる時にはそうしてあげたい願いがあった)	給食・おやつ共に、除去の有無わらず、固定の机と椅子を設定する。	2.いつもより元気なかった(理由を記載)	少し風邪始のひき邪のめた。	4.対象児の見ていなかった	担任1名は、手洗いを済ませた子から机の席についていく受け入れをしたが、本児用の机や椅子の用意及び本児が他児に交ざって長机に座っていることに気付けなかった。もう1名は、一旦子ども達の元もの来たものの、本児用の机や椅子がないこと、本児が長机に座っていることに気付けず、補助保育士の声掛けで部屋に戻ってお知らせボードを記入していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と共に本児がに座る側に居た児が、用の机と用の椅子や本児が他児と共に長机ついていることに気付けなかった。	保育士間の連携思い出来の意が出ないまま、掛け合いが乏しい状態であった。(持ち上がり1名、4月より入職担任1名、副主任1名)	保育士間を連携をとりながら、人任せにせず、役割の明確なす分担を共に、必ずに「いただきます」時には保育士着席と、名前の確認をする。	
469	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	41									4	4	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	保育担当とは別にけつけられる職員は園内にいが、園庭に配置されていなかった	研修は行っているものの、常に事故やケガし事前回避することが必要	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/年	施設・設備に不備は見なかった	園庭に向けた防犯カメラより、事故後に状況の見直しした	1.集団活動中・見守りあり	年度始めで外遊びの慣れていない状態だった。遊具の正しい使い方が子どもたちにまだ浸透しなかった	学年全体の現状を把握し、職員が遊び場や遊びどもの遊び方をチェックする	1.いつもどおりの様子であった	久しぶりの外遊びで喜んで遊んだ。遊びのも理解しているはずだった	4.対象児の見ていなかった	対象児とは場所で他の園児を見たからの在園児より、昨年度園児に対し児園で注意を払っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	早い降園がいの子ため、りたた見送りの園内ために入っていた。	慣れないい新園児も職員も余裕いて、職員を持ってを子ども見ることができていなかった	どの職員も子どもの活動全体が見える位置で見守ることができるような配置をすることを心掛ける	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教育課程教諭・幼稚園教諭・保育					死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】			教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項		
470	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47				13	19	15			5	5	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	太鼓橋を安全に使用するための周知、確認	太鼓橋の下はくぐらない、子どもの発達を担任がしっかり周知してから使う等、安全に遊べるように使い方を職員間で再度話し合い、周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	太鼓橋の下にある安全マットが砂ですべりやすくなる。	安全マットを細目にほうきで掃いたり、場合によっては体育マットを使用する。	1.集団活動中・見守り	手を離しまたは着地しと際、バランスを崩して両肘を地面に着いたため。	太鼓橋で遊ぶ際には必ず保育者が側に付き、その力量によっては手を添える等援助をする。	1.いつもどおりの様子であった	太鼓橋に登って7段目からぶらぶら下がり手を離し着地した際、バランスを崩して両肘を地面に着いた。涙をこらえる姿があったが胸に傷や腫れなどは見られなかった。	2.対象児の至近で対象児見ていた	両肘を確認する赤腫れや出血がなく、自分で腕を動かすことが出来たため様子を見た。翌日、助教中右腕を庇う姿があったため、看護師、主任に報告(ほぼ横ムを鎮えて自分で動かしていた)。翌々日、腫れや痛みが出たため受診する。(発生時点と翌週保護者には様子を伝達した)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の子どもの見守りをしていたため(安全の為、全点在し子どもの様子を見ていた為)	発生当日の報告・相談なかったこと。	自己判断せず、周囲の保育者や上司への報告・連絡・相談を細目に行う。	
471	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	24									5	5	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	3	2.基準配置	年齢発達の認識不足だった	教育・保育施設等における事故防止及び事故発生の対応のためのガイドラインをもとに事故防止のためのマニュアルを作成し職員間で共通理解する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	年齢発達に適したあ遊具か設置前に分析する必要がある。		3.個人活動中・見守り	対象児の運動能力を過信せず関めべきた。	設置した遊具に保育士が名は配置できよう、する数し設置遊具を考慮していく。	3.いつもより発で活動的にた(理由を記載)	遊戯室に設置してある遊具に興味をもって1つ1つ挑戦していた。	2.対象至対児の近で対象児見ていた	●●BOXの上で遊んでいる子がいなくなったので、子どもが密集しているところへ移動しようとしていると対象児が●●BOXの上を歩いていた。近づいていったが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室に他の遊具でいる遊ん子と遊び対応したりしていたので見ていなかった。	以当該遊具で遊んでいた。当日ずず問題も危険と保育士が認識した。	設置した遊具に保育士を必ず配置を必要とする。何事にも大丈夫だからと思い込みで判断せず、子どもの行動には常に危険が伴うことを常に意識して関わる。	
472	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55				8	8	39			4	4	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	一瞬での転倒であったため、即座に対応ができなかった。	すぐに対応できる位置に職員を配置するようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	安全基準を満たした遊具であったが、事故が起こってしまった。	遊具の下にマットを設置する。	1.集団活動中・見守り	保育士は近くにいたが、一瞬で転倒してしまった。	職員、子数に応じて、園庭使う園児の場所を限定する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった	2.対象児の近で対象児見ていた	一瞬で転倒したので、後すぐに当児の状態を確認し、職員室にて安静にした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の担当場所を見ながら全体を見守っていた。	特になし	園庭を見守る保育教諭の人数を増やし、より注意深く見ていく。	
473	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10				3	4	3			2	2	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	子ども達が速く走った時でなかった為、この怪我や事故なども子ども達の怪我を予測していなかった。	子どもの発達や遊び方についてしっかり把握し、常に怪我や事故につながることを想定して職員の立ち位置や環境を整えいく。	1.定期的に実施	100	1.定期的に実施	100	1.定期的に実施	50	大型遊具は点検前の為、遊んでいなかったが、遊び方の把握ができていなかった。	普段遊びている場所でも大きな可あることが慣れる事故に意識保育ながら能性を常にする。	1.集団活動中・見守り	大型遊具が点検前なので、活発で遊べなかったが、なる動きの遊びあるで遊ぶ子が多く、環境整備が十分にできていなかった。	日々の活動の行動を予測して、遊び方に子ども達に知ついて事前に知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	友達とかをこり、まっすぐだんだんが楽しんでいたルールがわず、虫探しやけっこを楽しんでいた。	2.対象至児の近で対象児見ていた	2歳児と保育士1名が園内に入った直後だったので、担任が1名と3歳以上児10名が園庭にいて、そろそろ園内に入ろうとしているところであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2歳児の担任が、5名の子どもや帽子を玄関で脱がせて応した。	普段気持ちが高ぶると行動が荒くなり、抑えられなくなり注意されることが多い、危険な行為になり得るであろう子どもの動きを把握できず、怪我に繋がってしまった。	保育士の立ち位置の確認と、子どもの動きを把握し、職員同士で声を掛け合い事故防止に努めていく。	
474	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									2	2	15.3歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	年度始まりの時であり、中でも本児の所属する約3歳児は生活拠点が1階から2階でになったばかりであった。個々の階段を下りてからの園庭に出ていく行動パターンや体の使い方、意識の変化が予想できていなかったのではないか	特に年度当初はゆとりを持っての職員配置を行う。担任と子どもの関係づくりを築くとともに、子どもの行動パターン、発達、育ちを西洋丁寧に分析担任と連携し活動を計画する。特に生活拠点が大きく変化する3歳児では、子どもたちと一緒に行動することや、ゆとりをもって行動する事、また園庭と二階にいる職員が声をかけあい連携を取りながら移動するように再度確認対応する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1		1.集団活動中・見守り	園庭が多少凸凹で走り出したバランスを崩したのではないか	園庭整備を行い、プレートで固めるとに、凹凸ずらして平ならいく	1.いつもどおりの様子であった	保育者やと外一階段を友だちてきた。	2.対象児の近で対象児見ていた	対象児と一緒に外階段を下りて、園庭南側にある砂場の方に向かう。本児が他児とともに走って保背者を追い抜いていた直後、保育者の前で転倒したため対応した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1歳児の職員1人も3人と園庭南側の砂場で遊んでいたため見ていない	特になし	園庭にいる職員と二階にいる職員が声をかけあい連携を取りながら移動するようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
475	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30								2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹・臀部)	尾てい骨骨折	2.自らの転倒・衝よる突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置		特に改善策はありません	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特に改善策はありません	1.集団活動中・見守りあり		特に改善策はありません	1.いつもどおり様子であった	普段から子で、いつも通りの様子であった	2.対象児の近で対象児見た	至近距離にいて、児童が玄関にかって移動子をみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にいて、児童が玄関にかって移動子をみていた。		しっかり準備を終わらせてから落ち着いて移動するように声がけをする。園児を目をはなさず見ておき、移動する際は気をつける。	
476	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32	2	2	6	10	10	2		6	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	加配のついている園児の動きは予想していなの動きをするので、見守るだけではなくその都度そばについてすぐ対応できるようにする必要があった。	子どもの動きの色々な場面を想定して動けるようにしていく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	48	2.不定期に実施		おもちゃや小屋が子ども登りやすい高さでおいてあり、すぐに登ってしまった。	危険が伴うので、おもちゃや小屋は人手の少ない朝夕の特例時間は子どもが入れないように鍵を閉める。棚に登ろうおもちゃなどは置くなどして対応する必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	クラス担任がいい状況で、本児の動きや性格詳しく理解できて保育だった。	他の子よりも激しい動きする本児の状況を、普段から、職員間で共有し、対応できるようにしておく必要がある。	3.いつもの様子であった	おもちゃに縄びのしまに小屋に縄をいっぱ普段士がいるして高いをして所かけとして棚に登り落ちてしまった。	3.児児離れとこで見ていた	他のものでは、本児は見守るに対して近くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	他のクラスもの保育にあたって、本児の動きには気づいていなかった。	それぞれ担当している子どものことを把握しきれていなかった。危険な行為に気づくことができなかった。	担当職員だけではなく、他の職員も広く視野を広げて、全体の子どもの様子をみていくようにする。	
477	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				13	12			2	2	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	定期的な研修やマニュアル作成も行い、職員配置も基準以上を満たしていた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	定期的に安全点検も行っており、鉄棒の下にマットも敷いて安全対策をとっていた。	3.個人活動中・守りあり	特になし	固定遊具の危険性を知らせ、その都度約束をしてかせる遊具を徹底する。	1.いつもどおり様子であった	鉄棒の上にけたことにけにてみたかった。	2.対象児の近で対象児見た	鉄棒の目見の前で守り行ったが、いて園児の対応に気を取られた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の見守りを行った。	特になし	固定遊具で遊んでいる子どもを見守る場合は、見守りに徹し、他園児の対応は他保育士に任せる等、連携を図る。	
478	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38	0	0	0	12	8	18	0	4	4	17.5歳	2.女児	日頃より、立体砂場にある丸太で組んだ枠の上に乗って遊ぶことが多かった。	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足くるぶしひび	2.自らの転倒・衝よる突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	なし	マニュアルにそった対応を行っていた。今回の事故を契機としてマニュアルの見直しなども検討していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	立体砂場のなくなっていた。	砂が流れないよう対策と砂を定期的に入れ込みを行う。	1.集団活動中・見守りあり	なし	屋外活動での注意点を児童に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しのだちとの遊んでいた。	2.対象児の近で対象児見た	各児童の危険な行動がよう、広く見渡せる位置ていた。	2.担当者・対象児の動きていなかった	それぞれの担当の見守り位置で見守り行っていた。	想定外の事態であり、予測が困難である。	滑りやすい場所や行動に対して注意する声掛けを行う。	
479	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72			18	18	16	15	5	6	6	17.5歳	2.女児	運動が得意ではない。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝よる突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置	保育者の聞いた話を聞いた分足元に注意をしていなかったと判断している。	他人の話を聞いていると注意が散漫になることをわかりやすく伝える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	砂場のへりは広く安定していたので降りても大丈夫と本児が無自覚に判断した。	バランスをとともあるということを認識させる。	1.集団活動中・守りあり	危険行為になってしまうと判断をできていない。	危険行為になる可能性もあると判断ができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	心身の状態はいつもどおりであった。	2.対象児の近で対象児見た	転倒した本児は距離で見守りをしながら話をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ほかの児童の保育に対応していたので、事故の現場は見ていなかった。	話を聞いて保育者の間に入り、砂場のへを昇り降りしていた。	事故が予想できなかったので、このような事故も転倒危険があると認識する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
485	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	105	5	20	20	19	22	19			12	12	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置		園庭での自由遊び時間は、園庭にいる職員全体で連携をとれるよう声を掛け合い、職員が同じ場所に重ならないような配置にする	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	大人の援助なく一人で登り、降り遊具出来る遊具であった。	大人の見所である場所に移動した。	1. 集団活動中・見守りあり	側にいた子が他の子に対応していた。	高さのある遊具には職員を配置しておく。	1. いつもどおりの様子であった	体調も良く活発に遊んでいた。運動機能も発達し日頃の中で遊びの中で、「走る」「ジャンプ(く転)する」「ぶら下がる」動きが可能だった。	3. 対象児が離れたところで対象を見ていた	すぐそばにいて視野に入っていたが、他の園児が指さし方を一緒に見ていたため、ジャンプする前にとめることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きをいま見てなかった	園庭の別のところで、ほかの園児の対応をしていた。	運動能力や発達を把握していたが、着地に失敗してしまったため援助できなかった。	職員間で事故状況を共有し、同じような事故が起こしと起るかもしれないと常に意識する。	
486	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	14									2	2	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	切り傷、じん帯損傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	普段３歳児クラスは２人配置をしているが、当日急な職員配置の変更があり一人配置となった為、子ども達も落ち着きがなく１日過ごしていた。	子ども達が落ち着かない時や忙しい時は１人手伝いに行っていたが、それでも落ち着かない時は１対１で対応する等、少人数ずつ話をしたりする。	1. 定期的に実施	実施頻度(６　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48　)回/年		玩具の消毒、玩具はまづいたり滑ったりするなどの事故で、人対人の事故の為改善策なし。	3. 個人活動中・見守りあり	片付けを際、さんをとっくをしたく片付けしよう勢片付けを始めてしまう子も為、いる他児事故やトラブルが起きやすい。	周りを見ながら落ち着いて取り組むことができるように声掛け・安全を意識できるよう職員が配置し、安全を意識できるよう職員が配置・促しを行う。また、子ども達も意識できるように働きかける。	3. いつもより活動的であった(理由を記載)	朝から気持ちがたかぶっている様子が見られ、夕方も少し活発であり、玩具の片付けの際は、片付けに集中していて周りを見ていない姿もあった。	3. 児童がいるところで対象を見ていた	全体の子ども達に片付けの声掛けを行いも、保育者片付けを行っていた。走っている子には落ち着いて行うよう声を掛けていた。	2. 担当者・対象児の動きをいま見てなかった	玩具の消毒を数名の子ども達と一緒に座って行いながら全体の様子を見ていた。もう一人の保育者がお迎えの対応をしている時は作業をやめて全体を見ていた。	片付けの際は、ほとんどの子どもが立って歩ったり回ったりしながら片づけしていたが、その中も走ったりする子もいる為、トラブルが起きやすい。	片付けに際夢中になり、走って玩具を取りに行く子には、落ち着いて行声かけを掛ける。お迎えの対応に出る際は、もう1人の保育者にから対応する。	
487	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	12	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	11									1		17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左拇趾開放性骨折、指脱臼	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	保育用具における危険性に対する認識の不備	日常的に使用する保育用具対しての危険性を職員間で共通理解していく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	机の縁は角が立たないよう面取りしてあるが、重さに対しての配慮に欠けていた	机をなるべく軽い素材(木材)で作れるか検討する	1. 集団活動中・守りあり		いつも使用している机が扱い方によっては危険物になりうるという事を職員間で共通認識としたうえで、園児にもその事を伝えていく	1. いつもどおりの様子であった	普段は一人で運びなれている机ではあったが、その時は乗るもあったのか長袖の袖で手を覆った状態で、滑って机の天板の縁を足の指の付け根に落とし怪我をする	4. 対象児の見ていかった	台布巾やぼりすおしぼを洗濯するための場を離れる	1. 担当者・対象児の動きを見た(至距離にいた)	担任の代当該児童の全体ってを見守っていた		いつも使用している机が扱い方によっては危険物になりうる事を職員間で共通認識として、園児にもその事を伝えていく	
488	令和6年3月27日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	71			5	18	16	32			7	7	16. 4歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	2. 基準配置	特になし	ベンチの上に乗っている時は傍について、落下しないように注意する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	ベンチに乗ると時は傍に保育士がついることが見守ることが必要	ベンチをした撤去した	1. 集団活動中・見守りあり	直前まで加配保育士が児の傍について見守っていたが、他児のトラブルに対応し児から離れてしまい、その後周りの職員との連携が十分でなく、適切な対応ができなかった。	児の行動や遊びを把握し、職員で情報共有ができるようる。	1. いつもどおりの様子であった	機嫌よく年齢が異なると関わりながら、真似して遊んでいた。	3. 児が離れたところで対象見ていた	加配保育士は少し離れた所で他児のトラブルに対応していた。担任は離れた所で児の様子を見守り、年長児の知らせと共に児の傍に駆け付けた	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	他児以外の児童のしていたため、対象児が落下した時に合わなかった。	ベンチの上に乗っバランス崩してしまってしまった。	戸外遊びで遊具を使用している園児の傍から離れる際に周りの職員に声を掛けなどの連携を十分に図るようにする。	
489	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	60									4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕橈骨骨、尺骨骨折、左母指挫傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	特になし	園庭見守りの強化	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	遊具等の点検を行ってい	4. 個人活動中・子どものみ	特になし	見守りの強化	1. いつもどおりの様子であった	園庭で戸外遊びをしている	4. 対象児の見ていかった	他児の対応をいたため気づかなかった	2. 担当者・対象児の動きを見てなかった	泣き声に気づいけつけた	保育者の見守りの人数	保育者間で連携をとり、全体を見守り、ケガや事故防止に努める	
490	令和6年3月27日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	57				18	39				4	4	15. 3歳	2. 女児	発育状態：良好、同射殺臼しやすく、昨年には園の3歳未満児用滑り台から飛び降りてバランスを崩し、左肘を骨折して手術している。発生時の天候：曇り	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	3	2. 基準配置	職員の異動で、昨年度の事故報告やヒヤリハット事例が共有できておらず、本児が経過観察中である認識が薄くなっていた。	年度当初を使用する分かるといけないといい児童については、初日に情報共有を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	腰かけを適切に使用する分には問題がない。	遊具の安全方を再度確認する。	1. 集団活動中・見守りあり	自由遊び範囲が広すぎた。	安全の確保が難しい状況の場合は遊ぶ範囲を決める。	1. いつもどおりの様子であった	ぞうの腰かけた座り、立ったり遊んでいた。	3. 児が離れたところで対象見ていた	少し離れた総合遊具で遊んでいる子どもを中心に見ながら、腰かけ付近で遊ぶ子どもの様子も見ていた。落ちる瞬間も観たが、間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見てなかった	担任以外の職員は、他のコーナーで遊んでいる子どもを見ていた。	担任２名のうち１名は振休で代替保育士が補助ていたが、違う雰囲気だった。	職員が複数いる場合は声を掛け合い、協力・分担して、子ども達の安全を見守るようにする。担任が休みの場合は子ども達の雰囲気も変わるため、特に気をつける。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
491	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16								2	2	18.6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		今回の事例では、ソフト面での要因はないものと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(2 6 4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2 6 4)回/年		今回の事例でのハード面での要因はないものと思われる。	3.個人活動中・見守りあり	ほかの園児と関わって、本児の慌てた様子に気づくのが遅れた。	園児に慌てている言動が見られるときは、声をかけて落ち着かせるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児が遊んでいたおもちゃを他の子が使うのではないかと不安になり、離れたところから慌てて走ったことが原因おもちゃのところへ向かった。ステージの手前で転倒し、ステージの側面に胃を強打した。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	ほかの園児と遊んでいた。本児とは離れた場所にはいたが、本児が転倒する場面は見ていた。	2.担当者・対象児の動きをみていなかった	ほかの園児と遊んでおり本児とは距離があり、本児が転倒する場面は見ていなかった。本児が転倒後、園長に報告にいった。		園児に慌てている言動が見られるときは、声をかけて落ち着かせるようにする。	
492	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								2	2	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂創、挫創	2.自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	降園時間帯で保護者対応の使、保育者の見声守り掛けが十分ではなかった。	本児やクラス全体でも今回のケガについての話をし、座って待つことを約束に待つことができるよう、より一層気を付けて見守りや声掛けを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	近くにも子ども用の布付きのテーブルがあった。	降園を待帯つ時間帯には、布付きのテーブルを片付けておく。	7.その他	降園時間帯で保護者対応の、保育者の見声守り掛けが十分ではなかった。	本児やクラス全体でも今回のケガについての話をし、座って待つことを約束に待つことができるよう、より一層気を付けて見守りや声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	座って待つことが難しく、廊下を行き来しており保育者に声を掛けられ布付きのテーブルの前に座る。しかし、その中に入り込んでしまい姿が見えなくなってしまった。	4.対象動物児の見ていかった	保護者対応のため玄関で対応したり、クラスのも達に掛け守りたりいたが、本児がとで確認るできなかった。	2.担当者・対象児の動きていなかった	クラスの子ども達の声掛けり見守りていたが、死角となり本児が入り込んだところまで確認することができなかった。		本児のそばには保育士がつき、見守りと声掛けを行うようにする。	
493	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24						0		3	3	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	保育士の配置等に問題はないと考える。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	遊具の種類や高さ、保育士の配置方の仕方等、危険な点はなかったと考える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	年齢に合遊び具を選び設定していた為。	1.いつもどおりの様子であった	サーキット遊び友達とわりブロックを渡っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒の補助をしながら、ロックで遊ぶ園児の様子を見た。	2.担当者・対象児の動きていなかった	平均台と跳び箱の補助をしたので、対象児の行動から目を離していた。	ブロックを渡る時に後ろの友達の方を向き、話しながら渡ったので次のブロックにうまく乗れず踏み外した。	前を見て進むことなど、遊び方について活動の前に園児に再確認をする。職員は園児の様子を見守り、危険な遊び方をしている時はすぐに対応する。	
494	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	12								4	3	15.3歳	1.男児	受傷後すぐに近医の整形外科を受診したが、その時は骨折なしとの診断あり、痛みが持続した場合は受診の指示あり。翌日に本児が痛みを訴えた為、総合病院を受診した結果、骨折が判明。病院名には骨折を診断した病院名を記載した。2歳10か月ごろ、病院で協調性運動障害の診断あり。支持の弱さ、左右差があり、訓練を定期的に受けている。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	沢山の保育士がいたが本児が担任の側にいたことはていこと知ったが、危険につながるという認識がなかった。	担任だけでなくそこにいる保育士が児童の安全を見守るよう心掛ける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	事故現場は、3歳児には広すぎた公園だった。	3歳児には広すぎた公園だったため、児童は不安に思いそばにいたのかもしれない。今後は、発達に応じた環境（公園）を選ぶ必要。	1.集団活動中・見守りあり	しっぽをきし少し着かすには落ちるなお対応をすべきであった。	しっぽの配布の時は座らせるなど。危険がないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	しっぽとを楽しみ集まってきた。	4.対象動見ていかった	身体の動きに敏感な子だったので、ぶつかるとかの動きで転ぶなど予想がついなかった。	1.担当者・対象児の動見ていた(至近距離にいた)	本児の事は見ていたが、そのように転ぶという予想がついていなかったので声をかけることができていなかった。		病院で協調性運動障害の診断あり。支持の弱さ、左右差があり、訓練を定期的に受けているので、集団行動の際には気をつけてかかわっていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】			教育・保育・育成支援の状況			対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか			
495	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	46				0				4	4	16. 4歳	2. 女児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離骨折（全治1か月）	2. 自らの転倒・衝によるもの突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2. 基準配置	午前中の戸外遊びでは、会議の為保育教諭2人が抜け、４人で保育していた。	全体を見ながら過ごすよりも意識し、保育教諭も広ながら保育を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	園庭の木など周りおを見てはっぷつた可能性がある。	周辺に砂場道具を置いているため、木との配置間隔を十分に取る。周りを見て行動することを意識できるよう、側で見守りつつ声を掛けていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り戸外で好きな遊びを楽しんでおり、泣いたり機嫌すなど変わった様子は見られなかった。	4. 対象児の見ていなかった	園庭で遊ぶ子どもたちを全体的に見ており対象児のもその中で見ていたが、木にぶつかった姿は見ていない。又、痛みの訴えやその日は見られなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	担当職員と同じく、全体を見ていたが、対象児が木にぶつかる姿は見ていない。	翌日の一度だけ保育教諭に痛みの訴えがあったが、見たからは分からず、変わらず動けていたため、発見までに時間がかかってしまった。	痛みを一度訴えることを保護者に伝え、家庭での様子を聞きながらし、病院への受診を進めた、様子を見たりしていく。	
496	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	63	0	0	13	15	16	19	0	4	4	15. 3歳	2. 女児	令和●年●月に、肘内障で病院に行ったことがあり、今回も肘内障の疑いがあった。	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	肘内障を疑い、腫れなども確認したら当たらず。初診の際にレントゲンを撮ってもらえば良かった。	発達に合遊びの提案、実践。肘内障疑いの時は、レントゲンも視野に入れる。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	肘内障を際う際は、レントゲンを視野に入れつつ、今回同様複数人で受診検討を行う。	1. 集団活動中・見守り	特になし	発達に合わせたリズム体操の項目を選択して楽しむ。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りリズム体操を楽しんでいた。手を繋いで回っていた際、転んだか引っ張られたのか、左肘を痛める様子が見られた。	3. 対象から離れたところで見ていた	他児の近くで待機。次の番がくるのを一緒に待ち、楽しんでいる様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他児の動きや座っている様子を、全体を見ていた、怪我をする瞬間を見ることができなかった。	特になし	本児が遊びに参加した際、肘内障を懸念して間に入って遊びに入る必要があった。	
497	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	17	0	0	0	3	14			3	3	17. 5歳	2. 女児	1か月程前から鉄棒で前回りをするようになり、進んで取り組む姿が見られた。	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節外踝剥離骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	特になし	インシデント、アクシデントレポートの活用の継続。OJT等で経験の浅い保育士への事故予防研修の実施。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	鉄棒の下に事故防止用人工芝を敷いていたが、勢いで人工芝のない前分に落下し、怪我をした。	児童の運動発達状況にあわせ、マット等を敷いて鉄棒を使用する。	1. 集団活動中・見守り	化繊の素材、防寒着をきたままで鉄棒をしていた。体を回転する際、動きにくかったり、鉄棒と滑りやすかったと考えられる。	運動する際の材、服装に配慮する。	1. いつもどおりの様子であった	前回りができるようになって間がく、意欲はなくなったが、ぎこちなさがあった。	2. 対象至対象児の近象見ていた	対象児の隣で鉄棒を見る助り、対象児が手を離し、伸ばした際に、手を離した。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他の遊びしている児の動きを見ていた。	本児の運動能力にあわせた、見守りや運動補助が不十分だった。	児の運動能力にあわせ、状況により一人ずつ鉄棒をして補助を行う。	
498	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26				7	11	8		3	3	17. 5歳	2. 女児	令和●年●月に、家庭で同じ箇所を骨折し、4週間ギプスを骨折し、その後添え木で2週間過ごした後、完治した。	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕（手首付近）骨折	8. その他	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 基準以上配置		危険箇所についての確認の時間を会議や部会等で取り把握したうえで安全に過ごせる働きかけ等を行えるようにする。また、研修の機会を取り入れたい。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(使用の都度)回/年		定期的な遊具や玩具の点検を継続して行い、危険箇所等の共有をもっとこまめに行うとともに、必要に応じて修繕や改善等を行えるようにする。	1. 集団活動中・見守り		遊び方の確認を子ども、職員ととも行い、危険が少しでも減らせる目を配れるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	ブランコには一人で乗って遊んだ。特別なる危険とをする様子はなく、いつもどおりの様子であった。	4. 対象児の動きをていなかった	複数の職員が、本児がブランコに乗っていたことは把握していたが、事故があった場面は確認できていなかった。担当という形でついていはいなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	複数の職員が、本児がブランコに乗っていたことは把握していたが、事故があった場面は確認できていなかった。担当という形でついていはいなかった。		危険な箇所や子どもの状況など情報をこまめに共有するとともに、全体に目を向けつつ一人一人の意識を高めていきたい。	
499	令和6年3月27日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	7								1	1	15. 3歳	2. 女児	発育状態：良好、両肘脱臼しやすい。発生時の天候：晴天（前日雨）	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	定実3	2. 基準配置	子どもの発達段階と保育士の危険予測についての認識の差。職員が1名であった。	子どもの運動発達についての再確認が必要。ヒヤリハット報告の重要性。職員が複数で見守り対応できるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	滑り台を使用切に使用しない。適した使用による事故。	正しく使用することの指導。雨露等で濡れている時はふき取り、完全に乾いている状態で使用する。飛び降り遊びをする際には、クッションを敷くなど安全な環境を準備してから行う。	1. 集団活動中・見守り	発達にふさわしくないからの飛び降りについての危険認識。	遊具の安全な遊び方を再度確認する。発達年齢にふさわしい活動計画。	1. いつもどおりの様子であった	過去にも同様の飛び降り遊びを行っていた。	3. 対象から離れたところで見ていた	至近でのでた見ではあが、全滅せるようにした。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	担任以外の職員はそれぞれのクラス保育中であった。	過去にも同様の飛び降り遊びをしていたがけがはなかったので、危険とは感じていなかった。	リスクマネジメントに理解する。保育士2名の場合は安全が確保できる範囲で遊ぶ。できるだけ、複数で安全を見守れるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
500	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22		2	5	8	3	4			9	8	17.5歳	1.男児	無	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不実期に実施	6回/年	2.基準配置	事故防止や発生時の対応について職員間で周知徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		今後も安全に留意し、確認や点検を行っていく。	1.集団活動中・見守り	太鼓橋で遊んでいぶら下降りがって時に、着地でバランスを崩した。	常に危険意識をもって見守る。遊具の安全方法や使い方を知らせ、危険な遊びをしている場合には注意を促す。	1.いつもどおり子であった	太鼓橋で遊んでいぶら下降りがって時に、着地でバランスを崩し転んだ。左足を痛がり、激しく泣き、震えていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	遊具の傍ち、遊に立ち本児が降りるところを見守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	傍で見ていた職員が2名いた。他の職員も5名近くにいたが、降所する子どもの対応をしたり園庭全体を見ながら、クラスの子ども達が園庭で遊ぶ様子を見守っていた。		保育者は、子どもが安全に遊んでいるように見えても危険な状態に陥ることがあるので、常に危険意識をもち補助が出来るような態勢で見守りをする。子どもたちにも遊びを通して安全についての心構えや、理解を深めることが出来るように話をしていく。	
501	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	11									1	1	17.5歳	2.女児	友達とはよく遊ぶが、戸外遊びでは活発に動きまわる事が少なく、身体の使い方が上手ではない。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	3	1.基準以上配置	鉄棒で遊ぶ時は必ず保育教諭が横につき指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	足の届く鉄棒での予測ができず保育教諭が見守りでのがなかった。	何気ないところで転んだりぶつかったり、いつ怪我をするか予測ができませんが、常に気を配り事故が起こるかもしれないという思いで、安全に過ごせるようにする。	1.集団活動中・見守り		事故の起きる要因は予見でき易い頃から、かもしれないを念頭に事故防止に努める	1.いつもどおり様子であった	登園時の検温では36.7度。午前中は運動会に向けバルーン、遊戯の練習を行い、昼食後園庭で遊んでいた。平常時と変わらず過ごしていた。逆上がりの練習中、他園児が足を持ち上げる手伝いをしていた。	2.対象児の近で対象児を見た	給食後の歯磨きで、使用したコップを洗いながら見守りを行うが、遊具からは2メートル程離れていたため落下を防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当日4歳児担当の主幹保育教諭は室内から見ておりの鉄棒の落下に気べく。	事故当時園児の人員等園庭での保育教諭数1名 園庭にいた園児数11名	室外での活動は園児数と職員配置に無理がある場合は取るやめる。	
502	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	10									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	園全体でもう一度マニュアルの確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	今後も引き続き子どもたちの環境に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子であった。	2.対象児の近で対象児を見た	対象児の対象至近で見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者・対象児の動きを見ていた	特になし	どんな時でも怪我をすることがあることを念頭に置き、保育める。	
503	令和6年3月27日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6		2	4						2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折(ひび)	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期期施	2	2.基準配置	手作り玩具の安全面が不十分だった。	手作り玩具を作る場合は、危険な所がないかをしっかりと確認しながら作製する。また、事故予防マニュアルを作成し保育士で共有する。	1.定期的に実施	1	3.未実施		1.定期的に実施	1	牛乳パックで出来ており、安定感が少なく倒れやすい。	乗り物の重座面積を広くして安定感を増やし転倒しにくくする。	1.集団活動中・見守り	乗り物の使い方について子ども達に乗り方を伝えていなかった。	遊ぶ前に、正しい乗りを伝えるようにする。	3.いつもどおり活発で活動的であった(理由を記載)	普段遊ぶことあないのなしまりびなのでくなりくなりふざけてしまった。	2.対象至対象児近で対象児見た	2歳児の保育室で3人の園児を見ていた。対象児が楽しくなってしまいふざけるその姿が見られたので、その姿度正しく乗るように声をかけていたが、そのまま遊び続けていた。落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	すぐ隣で、もう一つのコーナーを見ていた。(園児3名・保育士1名)そのコーナーを見ていたため、対象児の動きを見れていなかった。	普段遊ぶことがあまり使いなのなくなりくなりふざけてしまった。保育士の保育注意で止めることができなかった。	保育士が正しく乗るように伝えても守れなかった時点で、一度遊びを中断し、再度約束をしてから遊ぶようにする。もう一人のコーナー遊びを見ていた保育士も、乗り物で遊んでる園児を気にかけ、注意ができるようにする。	
504	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19			6	4	9				4	4	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第3指中節骨々折	8.その他	1.あり	1.定期的実施	2	2.基準配置	事故発生時の場所、時間など記録をし、共有化する	職員環境(場の配置人数)を整える	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	子どもの人数確認、保育教諭の配置	1.いつもどおりの様子であった	普段通り登元気に園した。	4.対象児の見ていなかった	異年齢保育中、園庭全体を注意して見ていたところ、当該園児が泣いている様子で気づいた	2.担当者・対象児の動きを ていなかった	他の園児の遊具使用補助等をしていた	特になし	特になし 配置人数的に問題なし	
505	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	5									1	1	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	2	2.基準配置	事故発生時の場所、時間など記録をし、共有化する	職員環境(場の配置人数)を整える	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし設備利用をしている最中の事故ではないため	1.集団活動中・見守り	特になし	子どもの人数確認、保育教諭の配置	1.いつもどおりの様子であった	普段通り登元気に園した。	2.対象児の近で対象児を見た	当該園児と他の園児のドッジボールを至近で見守りしていた。	2.担当者・対象児の動きを ていなかった	対象児ら数名以外、室外活動をしていなかった。	特になし	特になし 配置人数的に問題なし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
506	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	17	0	0	0	5	7	5		2	2	16. 4歳	1. 男児	前方不注意が多かったり、自分の力量が分かっておらずケガをすることが多い	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上唇小帯裂傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	1. 基準以上配置		職員会等で職員に周知する	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年		特になし	3. 個人活動中・見守り	コーンの上に登っていた事と、まま横にたま鉄棒があった事	物の使い方の使い方を教える（コーンの上には立たない）	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象動児の見ていかった	他の園児もいたため見てなかった。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	他の園児もいたため見ていなかった。	保育士同士の連携が取れていなかった。1人1人の子ども1人の遊び方など把握ができておらず、上に乗る行為などがケガに繋がる遊び方を止めることが出来なかった。	保育士が変わる時に全体、またはケガをしやすいことを集めて遊び方などを改めるようにする。子ども達に正しい道具の使い方を指導する	
507	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	27								1	1	17. 5歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	18	2. 基準配置	—	全職員への事故の詳細の周知、環境の整備、子どもが自身の行動について意識できるような指導をおこなう。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	遊具の不よる事はない、改善策なし。	1. 集団活動中・見守りあり	雲梯遊びをしていると、目を離したこと考える。職員配置の少なさも今後の課題と考える。	雲梯を園使用している。見守りを強化すること。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	登園時刻が遅く、身体が起きる状態ではなく、固定遊具（雲梯）で遊んでいた。	4. 対象動児の見ていなかった	他児の問いかけに答えようと雲梯を離れた瞬間に転落。痛みを訴え激しく泣いたため、すぐに駆け寄り様子を見た。痛がり方が通常ではないと判断し、職員室へ連れていき処置・保護者への連絡を行った。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	泣き声に反応し、数名の職員が駆け付けた。氷を用意し患部を冷やしたり、横になるための簡易ベッドと用意したりする対応を取った。	—	眠そうにしている園児については、特にを見守を行う。	
508	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	30								3	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	2. 基準配置		子ども達はゲームなどでテンションがあがってしまうので、しっかりルールの確認や準備運動をし、転倒防止に努めていくように注意する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		特に改善策はありません。	1. 集団活動中・見守りあり	ゲームのルールの理解が出来ていなかった事も転倒の原因の１つなので、子ども達が理解出来るようにする。	活動中も子ども達がぶつかり合わないよう、距離を保ちゲーム活動をしようと改善策を考える。	1. いつもどおりの様子であった	ゲームの際中、よく速くたいという思いが強かったためてしまったか、よくぶつかってしまう	2. 対象至対象児の近象見ていた	ゲームの際中、3人の職員で見守っていたが、転んだ瞬間は、間に手をさしのべる事が出来なかった。	1. 担当者・対象児の動きていなかった(至近距離にいた)	ゲームの際中だったので、少し距離を保って見守っていた。		ゲームのルール、走り方、方向などが的確だったか、けがにつながらないゲームの進め方はどうしたらよいかを話あう必要がある。	
509	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	58			19	20	19			3	3	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左母指骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	余裕のある職員配置を行い、怪我等あれば速やかに対応する	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	特になし	すべり台に不具合なし	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	園内園外を問わず、体を動かしたり、粗大運動や微細運動を意識して取り入れる	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り、好き台なり滑り台をした。	4. 対象動児の見ていかった	少し離れた場所で、他児の遊びを見守っていた	2. 担当者・対象児の動きていなかった	離れた場所で、他児の遊びを見守っていた	特になし	受け身が取れるように、運動機能を高める遊びをする	
510	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	20								1	1	17. 5歳	2. 女児	雨上がり後の、体を大きく動かしたいと思う時間帯であった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手小指付け根の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	14	2. 基準配置	おにごっこで逃げる時、園側の外傾斜を走る傾向がある。	園舎に近づかないで広い場所で遊ぶように予め知らせる。適宜、ウッドデッキ近くで見守る。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	テラスのウッドデッキの隙間に少し指が入った。	テラスのウッドデッキの上にマットを敷く。隙間を埋める。	1. 集団活動中・見守りあり	鬼がテラスに寄りに退ってきたが、テラス手前で横に逃げられなかった。	おにごっこを始めるる前にテラスにライン等目印をつける。	1. いつもどおりの様子であった	逃げている本児がテラス付近を走っている時に後ろからタッチされ、転んで小指をつき全体重を支えてしまった。	3. 対象児からの離れたところで児見ていた	園児全体をの動きを注意していた瞬間、出だっすぐ事故に保冷剤で幹部を冷やし、応急処置をした。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	他の職員は給食準備で各クラスの部屋にいたため見ていなかった。	ウッドデッキ近くに園児が保育者がいたならば、タッチされた時にウッドデッキに手をつかずに済んだかもしれない。	保育者の配置に余裕が必要。	
511	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	15								1	1	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	ずれのない骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置		ドッジボールや器具を使う活動の時は、職員を１人多く配置できるようにしていく	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎週月曜日	1. 定期的に実施	毎日		芝生に物が落ちていないか、足がそろうかいか、躓きなどがなど日点検していく	1. 集団活動中・見守りあり	普段からボールを取りたいという意志が強い	ドッチボールを行う際、ボールを取りに行はときは取ればいいのか確認していく	1. いつもどおりの様子であった	ドッチボールをおこなって行り、外野にいた	2. 対象至対象児の近象見ていた	ドッチボールコート中央で審判をしながら全体を見ていた	2. 担当者・対象児の動きていなかった	他学年の職員は同じグラウンド内にいたが、他の遊具にいる園児の様子を見ていた為、対象児の動きは見ていなかった	ボールを取りに行く事で、怪我をする危険予知ができていなかった	ボールを取りに行く際の約束を確認した	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面									環境面			人的面							改善策
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢				死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
512	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59				30	29			4	3	17.5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	特になし	職員会議等で事故予防について職員周知を図り、安全についての意識を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	特になし	安全点検、事故防止チェックリストなど職員における方法の見直しを図る。（あり得るかもしれないことを予測したチェックの仕方の意識づけを行う）	3.個人活動中・見守り	鉄棒下にていてトさが敷いてのマットの大きく足りるが不十分であった。	安全に遊ぶための環境を再検討し、改善を図る。	1.いつもどおりの様子であった	最近鉄棒に興味をもちだし、楽しむ姿が見られる様になった。この時期のように鉄棒をしたいという気持ちから、担任のいるそばで鉄棒に取り組もうとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は近くで見ながら鉄棒で遊ぶ子ども達を全体的に見ていた。近くにいる本児の行動を把握できておらず、また本児の能力に対して適切な補助ができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任補助は近くで見ながら鉄棒で遊ぶ子ども達を全体的に見ていた。近くにいるにも本児の姿を把握しておらず、本児の補助ができなかった。	特になし	安全について職員の意識を高めるために、職員会議や懇談などに意図的に組み入れていく。また個々の子どもの姿など職員周知をし安全が確保できないことと、危険だと思うことを常に言葉にし、職員周知と改善を図る。	
513	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	5								1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	5歳児で、動きも活発になり、少油断しの大きなが事故につながる。	今回の事例を周知し、危険予知及び安全管理に対する意識を高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	木のベンチから飛んだため。	安全な用具で遊ぶようにする。	3.個人活動中・見守り	保育従事者は、隣チでベンに座いた児と他児わっていた、対象児を見ていなかった。	子どもの気ぶるとするようにとに、正しい用具の方を使い知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭にて、友達と鳥になって遊んでいた。	4.象動見ていかった	保育従事者は隣にいたが、他児と植物をして児童を見ていなかった。	1.担当者・対象児を見ていなかった	他のクラスの職員1名いたが、クラスもと遊んでいたため、対象児に背を向けていた。	担任1名の、全ての子どもの様子を把握していることがある。	子ども全る意識する。また、他クラスの職員と連携していく。	
514	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				9		5		2	2	15.3歳	1.男児	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	14	2.基準配置		職員でヒヤリハットを共有し、事故予防に対する意識の向上を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	280		玩具の点検を行い、破損したものがあれば処理または処分する。施設、遊具、安全点検をしっかりとともに、必要に応じて早急に業者に依頼し修理する。	1.集団活動中・見守り	子どもたちが座ろのを確認してから、DVDの準備を行わなかったため、本児が座ろと走った先に、意に他児が座った。	DVDの準備は子どもたち座ろの確認から行う。（複数の職員で行い、必ずもの様子を見る）	1.いつもどおりの様子であった	本児は体の使い方が不器用なり（バランス感覚）、友だちにぶつかることがある。今回は不意に現友れ、転ぶ。	4.象動見ていかった	保育士一人は DVD の準備の子ちたため、どもから目ていた。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	もう一人保育士の保育室だが、離れたところ対象児を見ていた。	本児のぎさに動こきちなくいて配ていなかった。	合同保育の時は担任以外の保育士が保育することも多い、園の職員全員が子ども一人ひとりのことを理解し、配慮できるようにする。（特に要な子については、担任がしっかりと引継ぎを行う）	
515	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10				4	6			1		16.4歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指末節骨骨折	3.子ども同士や衝突によるものにも	1.あり	2.不定期に実施	13	1.基準以上配置	採用3年目の保育士であり、保育経験が浅い。	今回の事故内容を全職員に周知し、事故防止周知に努める。ヒヤリハットや主管課から情報提供される事故例を十分に活かした研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	4歳児8名、3歳児5名が一斉に安全に走ることができるではなかった。	人数を分けるなど、その状況に合わせた対応をする。	1.集団活動中・見守り	休みたいと訴える児を、ステージ上でまでは休むいるテージ上で休みて対象児の側で、体を動かす児童がいた。	休憩場所を目き、他児の活動に影響のない場所に設定する。子ども達が、危険なく、落ち着いて活動できる場所の設定をする。	1.いつもどおりの様子であった	マラソンをしていたが休みたいと訴えたので、活動から離れ、遊戯室のステージ上に座っていた。走ることが苦手で、マラソンなどでは休むことが通常。	3.児童からとの対象見ていた	急に止まったり、無理に追い越しをしたりする制止しながら一緒に走っていた。別の児童が転倒し対応していたため、離れた場所から対象児を見ていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	保育室の清掃をしたため、その場にいなかった。	複数の児童に転倒するなどトラブルがかった。転倒した児童への対応で、対他児への働きが不十分であった。	単数で保育を行う場合、全体への配り必なは、活動の内容を変更したり、複数の保育士で対応できる配慮する。	
516	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				7	7	8		5	5	15.3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾骨脳れ	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	異動した職員が多く、遊び子ども姿を把握ものできていない部分があった。	職員の配置、連携をとり、その都度話し合う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	48	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守り	特になし。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	ジャングルジムが好きでいなからいろ方向ったりん下りして遊んでいた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	複数の子ども達が同時に遊び始めたため、見れなくなり人数を減らしながら本児を見ていたが落下する瞬間に距離が届かず間に合わなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	砂場、園庭、草花等の遊びに分かれていた。	職員が異動し、園での約束、象児の把握の動ができていなかった。	遊具の約束を確認、保育士の位置確認を行った。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者								年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷			診断名	事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育士・放課後児童支援員等													死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
517	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	19				7	5	7			1	1	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	左肘骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期に実施	1	1. 基準以上配置	年長児男児、定型発達児。	事故予防研修は行っているので、職員もしっかりマニュアル通りに見守る事ができていた。一瞬でケガにつながる事になることを今一度周知していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	365	鉄棒の下に衝撃吸収マットなどを敷いていない。	少人数で鉄棒はしていたが、まだ浅い経験が浅い児童に対しては、個別についていきたいと思う。	1. 集団活動中・見守りあり	雲梯・鉄棒を1人で見ていた。	鉄棒の時間、雲梯の時間と分けて遊ぶようにし、目をしっかり向けていきたい。また、フリー職員を配置し、鉄棒に1人、雲梯に1人の職員体制をとっていく。	1. いつもどおりの様子であった	雲梯と鉄棒でクラスのもた遊んでいた。	2. 対象至対象児の近象見た	雲梯と鉄棒の時間を設け、雲梯の方に子どもが多くいたため、雲梯側にたち、本児に目を向け、次に雲梯の方に目を向ける。その時に落下した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスの子どもと遊んだり、他の見守りをした。	1人で前回りをしていたが、転落の予想がつかなかった。	雲梯と鉄棒は体全身を使う運動なので、瞬間で危険も多い、遊びたい児童では、個別対応をしていく。	
518	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	36				16	20				4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期に実施	12	2. 基準配置		職員4名は、それぞれの遊び場に配置していたが、遊び場での子ども達との関わりになり、フリー(鬼ごっこ等)で遊んでいる間児の危険に気づくことができなかった。各遊び場の職員の立ち位置を見直し、職員間で声をかけ合っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		定期的に点検をしているが、遊ぶ前に遊び場点検をし、遊びの環境を整備していく。	1. 集団活動中・見守りあり	鬼ごっこ友達をつかまえる。ことになり夢中になり転倒しての原はなし。	遊びに夢中になり体のバランスを崩し転倒となることもあるので、遊びの前後に子どもたちと話し合う場を設定し、危険のないように遊ぶにはどのように注意をしていくか等、考え・気づけるようにしていく。	1. いつもどおりの様子であった	健康面でもいつもと変りなく元気に遊んでいた。	3. 対象児の児で対象見ていた	鬼ごっこに参加していたとしていが、鬼ごっこ場面は目視確認認していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた	固定遊具や砂場等の各遊び場や対応の子どもに付き添っていた。		普段からつ遊びについて予測されること、子どもの動きに、配慮しながら見守り、声かけをする。	
519	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	25				10	5	10			2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	左ひじ関節の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期に実施	7	1. 基準以上配置		遊具の使い方、遊び方を検討していく。	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	1回/年	2. 不定期に実施	12回/年		遊具を使用前にも点検を行っていく	1. 集団活動中・見守りあり		異年齢で中ごす全に環境を考えていく	1. いつもどおりの様子であった	ブランコが好きで日頃から他児と2人乗りをしていた。当日もよく一緒に乗っている友だちと2人乗りをしており、片手を離すことが危険だという認識が薄れていた。	4. 対象動きを見ていなかった	年長児はブランコの2人乗りを日頃つこからやっていたもり、保護者の対応に目を向けていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児のトラブルに対応していたため見ていなかった。		個別の対応に入る際は別の職員に声掛けをする等、必ず1人は全体を見ることができるよう、職員同士の連携を密にしていく。	
520	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	68				31	37				5	5	15. 3歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A打撲	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期に実施	12	1. 基準以上配置	子どもの発達状況を考慮し危険予知ので十分にできなかった。	事故防止マニュアルの読み合わせを行い、安全保育の力を高める。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	ベンチが角園庭のあったにあったどのもので子突然にもの行動に対応できなかった。	ベンチの変更を場所を子安全べるにしえてもが遊べるようにした。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもの予想外で発達状況を考慮し危険予知ができなかった。	子どもの行動特性について情報共有し、事故パターンを予想する。	1. いつもどおりの様子であった	対象児はかくれんぼをしていた。	2. 対象至対象児の近象見た	対象児から1m程離れたところで対象児の様子を見ていたが、瞬時に事故の出来事に事故を防ぐような動きがとれなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	長縄跳びや集団遊びで他児とおりあいなかった。	対象児を育男が押中寸行動を予想しなかった。	子どもの行動特性について情報共有し、事故パターンを予測する。	
521	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17									2	2	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期に実施	12	2. 基準配置	特に問題はなかった。	園児の動きを常に把握し、危機意識を持つ。職員全員による事故予防研修を実施する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特に問題はなかった。	危機管理意識を過ごし、今後も安全を配慮に過ごせる環境面に気を配る。	1. 集団活動中・見守りあり	絵本を交換する、寝ころんで遊んでいた友達を跨いで本棚に行こうとした。	子どもの予子動見安全べる遊び場の確保をする。	1. いつもどおりの様子であった	寝ころんで友だちを跨ごうとした。	3. 対象児で対象見ていた	一人は少離れたところで見ていた。一人は他の子どもたちと一緒に遊んでいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室には、担当保育士のみだった	寝ころんで遊んでいる子どもに声をかけ、座って遊ぶように促す。子どもの動きを予見し、安全な遊びの場を確保する。	可能な限り、危機が起こる前に予見し、安全管理・危機管理の視点に立って、子どもたちが安心して過ごせるように、また責任をもって保育していく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷			診断名	事故誘因	ソフト面					職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面									改善策	環境面			人的面							改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修								施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的にいかしたか	他の職員の動き	具体的にいかしたか	その他要因・分析、特記事項		
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因							実施頻度/【回/年】					実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】																
522	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝（始業～午前10時頃）	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	15		4	11					3		3	16. 4歳	2. 女児	片足を上げて座る癖がある。小柄である。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	外傷性歯の脱臼、外傷性歯牙亜脱臼、6・6A	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（1 ）回/年	2. 基準配置	子どもに声をかけず、机を動かしてしまった。	職員会で、職員に共有し注意を促した。	1. 定期的に実施	実施頻度（12 ）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（1 ）回/年	2. 不定期に実施	実施頻度（12 ）回/年	子どもが不安定でイライラしていた。	職員会で、姿勢を正して座ることの重要性を確認し、机・椅子の高さを低いものに変更した。	1. 集団活動中・見守り	子どもの姿勢をよく見ずに、机を動かしてしまった。	丁寧に子どもを見る。職員会で、共有し注意を促した。	1. いつもどおりの様子であった	当該児はいすに腰掛け、机の前に座っていた。左足は上で右足は降ろした状態で、両手を前につき前かがみの姿勢だった。	2. 対象児の近く対象児を見ていた	机を並べるため、側にいた。	2. 担当者・対象児の動きをていた	2名とも、自分の担当児の喫食のため自分の机の周りに注意を向けていた。机は保育士一人につき一台あり、そこに自分の担当児を座らせ喫食する。	机をずらすことで、手が転倒すると思っていなかった。	職員会で、職員に共有し注意を促した。（丁寧にみて机の移動等の際は注意する。普段からお互いに声を掛け合う。）	
523	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	15								1		1	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	１人の保育者で見ていた。	外に出る時間を検討したり、保育者の人数を増やす。	1. 定期的に実施	実施頻度（12 ）回/年	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1		事故発生との関連なとの性がかった。	1. 集団活動中・見守り	園庭に出時間帯だタ方で疲れて集中力が切れやすかった。	静の遊び（砂場）や、職員が見られる範囲内での遊びを取り入れる。	1. いつもどおりの様子であった	うんていで遊んでいる手をせて落下。	3. 児童が離れたところで対象児を見ていた	対象児がうんていで遊んでいるときに少れたし離れた場所で、別の児童と関わっていた。	2. 担当者・対象児の動きをていた	少し離れたところで他児と関がら見守っている状況であった。		全体が見渡せる場所にいるようにし、遊び方を工夫する。必要に応じて人員を増やす。	
524	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	18								1		1	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左小指基節骨骨端線損傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（3 ）回/年	2. 基準配置	境内で鬼ごっこをしていた為、地面がアスファルトで硬かった。鬼ごっこになり、周りとの距離が近い中突発的に動いてしまった。	集団ができている際は、声周りと距離をとるよりを声をかける。口	1. 定期的に実施	実施頻度（12 ）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12 ）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12 ）回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・守り	環境づく不足していた。	外に出る際は1名以上で保育士が細かなけがやけがする環境を作る。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り、鬼ごっこを楽しんでいた。	3. 児童が離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこを園児全体が見える位置取りをしていた。対象園児とは１０程度の距離はあったが目視していた。	2. 担当者・対象児の動きをていた	クラスに汚物消毒作業を行った。	子どもたちとのルールが不足していた。	まとまって逃げない。逃げる時は友達と距離を置いてぶつからないように逃げる。等の声がけやルール設定をする。	
525	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝（始業～午前10時頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	33				10	11	12		3		3	17. 5歳	1. 男児	なし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右上腕骨顆上骨折	3. 子ども同士突き合うもの 3. 子ども同士の衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	子どもの主体性を尊重するあ自遊び中で、自由に遊ばせていた。	転倒のリスクがあることなど、二輪車を使用させる際の注意事項を再確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	12	園庭に防球ネットが設置してあり、少し手狭になっていた。	他の場所に防球ネットを移動した。	1. 集団活動中・見守り	子どもの主体性を尊重するあ自遊び中で、自由に遊ばせていた。	朝夕の職員が時間に遊びは、職員が遊具を固定して運遊んでもらうようにする。職員手薄	1. いつもどおりの様子であった	年長児が二輪車で遊んでいて、そのうちその２名が衝突して１名が転倒した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	異園庭で過ごしていて、特に注視している児とは異年齢児数名が対象児で、対象児とは１０程度の距離はあった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	３才以上児と３歳未満児が別のエリアで遊んでいたため、それぞれの持ち場の園児を見守っていた。	登園した園児が順に遊びに加わっていく状況であり、また、自由に遊びを選択できる状況下での事故であった。	衝突を回避するよう声掛けをしていく。	
526	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	31				9	10	12		8		8	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	前歯（中切歯・側切歯）打撲	3. 子ども同士突き合うもの 3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	園内で危険個所や危険ケガの報告等を随時行っているが、様々な活動時の危険予測について職員すべきだった。	安全会議や活動内容検討時や安全面の検討を行う。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	実施頻度（4 ）回/年	遊戯室に3~5歳児のコットが積んである。遊戯室を広くすることが出来なかった。	同じ尚且つ活動時はコットを廊下に出すなどして遊戯室を広く使えるようにする。	1. 集団活動中・見守り	入ったばかりの新入園児がリトミックの動きを理解しきを配慮しなかった。3クラス合同でいるクラスというこ入園児が新入加わる時は子ども必要ども保育士が細かい事項を配慮しなかった。	朝夕の職員が時間に遊びは、職員が遊具を固定して運遊んでもらうようにする。職員手薄	1. いつもどおりの様子であった	ピアノの合わせる、まるピアノの音に合わせて走る、寝転がる体を動かしていた。	2. 対象児の近く対象児を見ていた	子どもの見本となるように子どもと一緒に体を動かしていた。前の週もリトミックをしていたことから、プログラムも特に変更せずに行ったが、新入園児の動きには配慮しきれていなかった。また、新入園だが活動に積極的に参加していることから、問題を感じていなかった。	1. 担当者・対象児の動きをていた（至近距離にいた）	子どもが内回りや逆回りをしないように立ったり、動きの補助をしていた。しかし、新入園の動きを予想できなかった。	配慮が必要な子が複数いるため、新入園児の動きにまで気が回らなかった。	予想される子どもの動きを話し合い、参加職員に周知し、必要な配慮をする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者																																	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳																																									
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																															
532	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75				23	23	29			4		4	17.5歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	期実18	1.基準以上配置	園庭に凹凸があったため足を取られた。子ども自身が怪我を回避できるように園庭に出る前に指導をしているが、危険回避の感覚を身に着けることと、実際の危険回避との線引きは難しいと感じる。	全職員へ事故の詳細の周知、環境の整備、子どもが行動で意識できるような事前、事中の指導を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭に凹凸があったため足を取られた。子ども自身が怪我を回避できるように園庭に出る前に指導をしているが、危険回避の感覚を身に着けることと、実際の危険回避との線引きは難しいと感じる。	園庭の凹凸について点検を行い、起しが激しい箇所について平坦にするなどの対策をとる。	1.集団活動中・見守り	子どもが園庭に出ている場合は遠い動きをすることを確認がえる。	園庭での自由遊びの際は、もの数、年齢を見て遊びの種類を変えようを行しう。	1.いつもどおりの様子であった	3歳以上児の午後保育の子どもたちが年齢に関係なく好きな遊びをする状況。	3.対象児離れたところで対象見ていた	保育者4人が園庭に間隔を置いて立つ。鉄棒、雲梯など危険性が高いと考えられる遊具には、特に近くでアドバイスをしながら見守っていた。対象児が泣き出してー番近くにいた職員が駆け寄って、子どもを職員室の方へ連れて行った。	2.担当者・対象児の動きをていた	こどもの泣き声で気づき、対象児のほうへ近づいて援助を行った。職員室にいた職員に渡したあとは、元のように園庭の見回りに戻った。	—	—	
533	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				12	14	13			7		6	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨内側上顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	すべての職員が全体の見守りをしているが、登園、所持品の始末をしている子がいたため、見守りの体制が通常時に比べて手薄となった。	職員会議や園内研修で、事故報告の共有と、全職員の安全危機管理意識を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	240	隣接する椿の木の枝が伸びていた。	隣接する椿の木の枝を切る。	1.集団活動中・見守り	前の週から裸足での水遊び を始め る。固定遊具で遊ぶ際はズックを履くようにが、新しい靴が流れが見についていなかった。	固定遊具際は遊ぶ際は、ズックを履を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	裸足で泥水遊び、水遊びをしていたが、友達に誘われ鉄橋に向う。椿の葉を取ってうとして足を滑らせ転落。	3.対象児離れたところで対象見ていた	泥水遊びのコーナーに配慮なの必要な子がいたので、泥山ーかから見守っていた。本児が裸足のまま太鼓橋にこと向かったことに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きをていた	保育者それぞれが要配慮を要する子に見ていた。	本児足ともなった。能い子で、から守り丈思まった。	裸足であることに誰ズックを履く（裸足、長靴は危険）の約束をする。総合遊具で遊ぶ際には必ず、職員がそばにつく。	総合遊具で遊ぶ際には必ずズックを履く（裸足、長靴は危険）の約束をする。総合遊具で遊ぶ際には必ず、職員がそばにつく。	
534	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									3		3	16.4歳	2.女児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(96)回/年実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	新年度で、子どもたち一人一人の把握が十分できてない。	固定遊具を使用しているときには職員間で連携し目を離さないようにする。手を離さないなどのブランコの遊び方や、固定遊具の使い方を子どもたちと再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一ブラ遊んでいコで た。	3.対象児離れたところで対象見ていた	ブランコで遊んで見る守っていた他ばれ場を離れた。	2.担当者・対象児の動きをていた	保育士1名は怪我をした児に付き添に事務室にいた。保育士1名はジャングルジムの側で子どもを見守っていた。	ブランコで見守っていたが、場を離れてしまった。	他児と関わるため、ブランコや鉄棒の側から離れる時も保育士は全体を見渡せる位置に立つ。ブランコから離れる時には、他の保育士と連携し見守ることができるようにする。	
535	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				11	19	20			7		3	17.5歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	0～1			危機管理意識を高めるための考察後共有	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		遊具の位置確認・安全点検	1.集団活動中・見守り		職員の立位置を考えながら、丁寧に見守りかけていく	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	室内から出園庭にすぐとすぐで、気持ちが高揚していた	3.対象児離れたところで対象見ていた	友だちと追いかけごっこしている見ていたが、方ごっこは砂場から守った	2.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	太鼓橋のところに、本児で登った状況は把握したが、一瞬で阻止できなかった	鬼ごっこの時は遊具に乗らないルールはあったが、気持ちもの高まりもてしまった。		遊び方を見直し、ルールを子どもたちと再確認するとともに、職員の立ち位置や視界の確保など職員の配置を検討する	
536	令和6年3月27日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	3									3		3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		特になし。事故があった時間は職員3名、園児15名で基準は満たしている	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	踏み台になる物(積木)を自分で持ってきて棚に登り、マットのない所へとんだ	低めのとび箱を登って遊カラーボックスを設し、そばにはマットを敷いた	1.集団活動中・見守り	声かけだ降かっ ではりなかっ一りなのの人ずつ降りしてた。対象児はその間にジャンプした	登りそうになる前に声をかけにようにする	1.いつもどおりの様子であった	外遊びの入延長で後も落ち着いた遊びができていなかった	2.対象児の近で対象見た	棚に登っ複児ている数の園づ、声を数にきっかけに順番に降ろとしていた	2.担当者・対象児の動きをていた	排泄室に1名、2mほど離れたままこーナーに1名の職員がいた	棚に登る行ずることを声掛けで促していたが、気付いた時にすぐ降ろせば飛び降りることはなかった	職員同士で連携し、棚に登る前によるようにする。踏み台になる遊具を棚の近くに置いた際は動きを見て、判断する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教育・保育教諭・幼稚園教諭					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
537	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	園庭の草や砂で滑ることによる転倒、鬼ごっこの追いっこけっこ	改めて重大事故防止マニュアルの確認を行い、職員一人ひとりが内容を熟知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	雨上がりでいつもより園庭が滑りやすかった。	定期的な点検を行い、不備が見つかった場合は修繕を行い改善する。	1.集団活動中・見守り	滑りやすかった。	園庭の定期的な除草や整地。活動中の見守りのなかで、子どもの動きの予測等安全に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	楽しみな活動だったので意欲的に、転倒後もすぐ出し活動に参加する。	2.対象児の近で対象児を見ていた	全体の活動を見守っていた。すぐそばに走ってきて転倒したのでかけたが、すぐに活動にもどり走りだした。	2.担当者・対象児の動きをいま見なかった	他の園児の動きを見ており、側に走って近づきて痛みを訴えて座り込んだ際に声をかけた。		個々の状態を把握し、行動の予測を行ったり、ケガの際の適切な処置ができる様に実践する。	
538	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19					11	8			4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折・骨嚢腫	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	熱中症や感染症など目の前の看護師目線での機会はあるが、職員の立ち位置や動きについての研修はされていなかった事。	職員の立ち位置や動きに問題があった「ヒヤハット」を用いた研修を行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	日除けテントのヒモが垂れ下がっていた事。	園庭に出た時に1人に危険のない物がないか確認し、動の途中場からそれから離れないように事いする。	1.集団活動中・見守りあり	4歳児という事と園児の人数も少ない事危険が薄かったもあり機感が薄れていると思われる。	少ない人数だからこそ1人1人の保育教諭が危機感を持ち、4歳という子どもの特性（何でもできるようになり子どもの発想から危険な行動をとる事もある）を理解し保育にあたるよう周知していく。子ども達にも事故のことを話し注意を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	柵につかまりながら50センチほどの水道に登った	4.対象児の動きでいなかった	テントか下に垂れ下がっていたヒモを他児が指さった危険いので思い、切る為に内にハサミを取りに行った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	機嫌の悪い他児が抱いて関わった		園庭に2名の保育教諭が、1名がその場を離れる際にはその事を名ぞもう1名えていかなかった事。	保育教諭が自分の持ち場を離れる時事件はその保育教諭に全て伝え、全体を見てもらうようにする。	
539	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	38									5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置		職員会議、幼児ミーティングで事象の振り返りをし、指導の改善を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		ハード面わるには関に関係なかった。	1.集団活動中・見守りあり		職員が一人一人に目を配ることができる配置ことの工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	友だちがいて走る本児を抱きかか	2.対象至児の近で対象児を見た	児童の見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	児童の見守りをしていた。		友だちを抱きかかえる行動について気をつけるよう指導を行う。	
540	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	2	3	4	5	4	4			2	2	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	大尺骨骨間部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	人数に対し、靴取りの枠が少し小さく、衝突がつまってたのではないかと考えられる。	靴取りの枠を人数に適した大きさにし、環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	3.対象児から離れたところ象児を見ていた	本児から離れた場所で他児と遊んだ。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	本児の動きを見ていなかった。	その場に保育者が居らず、怪我に気づくことが出来なかった。	本児の特性から、傍で遊ぶことが必要であったため、保育者の配置を適切に行う。	
541	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	3									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	入室への切り替え時で子どもが焦ってしまったか、後事が控えていたため、気持ちが浮足立ってしまったかもしれない。	入室時に子どもの気持ちを焦らせることなく、落ち保着いて保育室に向かうことができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	地面に気付かないくらいの傾斜があったのかもしれない。	地面に回凸があるトンが際はトンボをかけて平らにしているが、気付いた人が声いたら出してもらい、習慣化していく。	1.集団活動中・見守りあり	直前まで本児は追いかけっこをしていたので、気分が高揚していたのと、お腹が空いて食べたく食べて、気持ちいだのかもしれない。	急がず落ち着いて入室できるよう、保育者が言葉かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	直前まで、仲良しの友達かと追いかけっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員は入室への切り替え時だったため、室内、戸外、テラスと三か所に分かれて子どもについていた。事故前後の対象児の動きは把握していたが、一人は最後の子ども砂場の片付け、一人は入室した子どものトイレの見守りをしていたため、事故発生の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	テラスにいた入室担当の保育士が事後発生後に気付き、担任に報告した。	追いかけっこの延長で高揚していたのに、それに対しての言葉かけをしなかったせいかもしれない。	場面の切り替え時は子どもは気が緩み、保育者は慌ただしい時なので、意識しながら保育をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修			職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				発生時状	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名			マニュアルの有無	実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
542	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57			17	24	16			6	6	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置		ブランコの乗り方は日頃から指導しており、当日も危険な乗り方降り方をしたわけではなく、職員の配置にも問題がなかったため、改善点は見いだせなかった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	2.不定期に実施		安全点検は上記の通り実施しており、当日もブランコや着地面にマットはなかったため改善点は見いだせなかった。	3.個人活動中・見守りあり		園庭全体に子ども達が分散して遊んでおり、特に混雑している様子はなかった。ブランコから自分の意志で普通の降り方で降りたため、改善点は見いだせなかった。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象動きを見ていた	6人の職員が園庭の各場所に配置され、ブランコにいたものくものの足をひねった場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	6人の職員が園庭の各場所に配置され、ブランコにいたものくものの足をひねった場面は見ていなかった。		職員の配置も遊具ごとに分散していたが、たまたまその場面を職員が見ていなかった。自分で足をひねったことが原因だったので、見ていたからと言って防げる事故ではなかったと考えるが、職員配置を今一度考え、今以上に子ども達の活動の様子全体を見守っていくように努めていく。	
543	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41				19	22			3	3	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨端線離開	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置		事故の原因等についてヒヤリハット・事故報告等で職員間で情報共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		運動玩具の点検を継続し、使用に際して年齢に適したものを利用するように職員間で共有する。	1.集団活動中・見守りあり		異年齢での活動の際には職員間で遊びの内容を共有すると、事故防止に努める。	1.いつもどおりの様子であった	迎えまでの時間を竹園馬を待っていた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	異年齢児で自ら遊んだ遊びの活動中で、竹馬の練習を行っている近隣当児の近くで保育教諭が様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体で3歳以上児が遊んでいた遊びの仕方に合わせて異動しながら遊び見守りを行っていた。		園庭遊びの見守りの際の保育者の動きや園児の動きに合わせた見守り方について再度職員間で研修する。	
544	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	73			17	29	27			9	9	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨のひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		異年齢交流のため、園児の動きが予測しきれていなかった。職員全体で、築山のあらゆる事故を想定し直し、遊び方の再検討をしてそれぞれの一つ一つの事故に対して年齢ごとのルールを再確認し、保育教諭が必ず横について遊ぶように話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	幅広い年齢に対応できる築山にしたため、自分で遊びを工夫して楽しむお遊具になっていたが、あらゆる事故を予測し、発達段階に応じたクラス毎のルールを細かく決めていないと安全な遊びにならないことがある。	遊ぶ前には、子どもたちとルールの確認を行い、教諭が必ず横について遊ぶようにする。	1.集団活動中・見守りあり	横について見守っていた保育教諭が5歳児担当であり、園児の担任でなかったため、姉と同じ遊び方をすることを予測しきれていなかった。	園児への説明を徹底し、けがをしない遊び方を自分で付け指を身による導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	姉と一緒に遊んでいたため、うれしくて様々な遊びを試していた。	3.対象から離れたところで対象見ていた	他の園児の遊びの危険のように横で見守っていたため。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で他の遊具で遊んでいる園児の横で事故防止を図っていた。	保護者対応をしていたため、3歳児の保育人数が十分に足りていなかった。	3歳児の保育教諭の人数が十分になってから園庭に出るようにする。	
545	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77			24	24	29			3	3	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置		特になし。	所庭で保育を実行する際に保育者の立ち位置を確認し、共通理解する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		所庭にボール使用に適さない斜面がある。	所庭が緩斜面になっているところではボールを使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員数と遊びのコーナーの数を適正にする。	1.いつもどおりの様子であった	ボールがぶつかって追いかけた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	数人がボールを遊びをいたのでその場所にいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んだり、保護者対応をしていた	特になし。	ボールを走りながら蹴るのではなく止まった状態で蹴るように指導をする。	
546	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32			18	10	4			7	6	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨遠位骨端線損傷 右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		3～5歳児の保育士が園庭の使い方について話し合い、共通理解しながら職員配置や役割を日々行っている。事故発生時もジャングルジムの側と隣の色水遊びのコーナーに職員がいたが、瞬間を見ることができていなかったのは、ジャングルジムを含めた周辺の子ども達のことを見ていたためであり、ジャングルジムに対しての安全面の意識が低かったと振り返る。	ブランコ・雲滑り台・雲梯・ジャングルジム等、危険が予測される遊具には、専用に職員がつくことができるようにと考えることと、安全面について意識を高く持って子どもを見守り援助することを共通認識した。	1.定期的に実施	実施頻度(約４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約２４０)回/年	遊具や設備には不備はなかったと考える。	日々の点検を継続し、不備が見つかった場合は使用を止め、修繕など対応を行う。	3.個人活動中・見守りあり	4歳児ということもあり、自分でできることも多くなってきているが、危険に対する対応はまだまだ難しいと考える。急いで降りようとして足を掛けてびれ落下に繋がったことからも、側に保育士がついて本児が安全面に配慮しながら降りられるように言葉がけや見守りの援助が必要だった。	友だちと一緒に遊ぶ中で急ぐことはあるが、そんな時でもジャングルジムから降りる時には足場を確認や、気をつけて降りることなどを保育の中で適時に伝えていくことを積み重ねたり、クラス全体で確認できる機会を意識して行ったりしていく。	1.いつもどおりの様子であった	ジャングルジムに３人が上がった後、先に降りた友だちを追って急いで降りようとしていたところで足があった。足場があると思っていたのにない箇所だったので急な対応が出来ず手も放してしまい落下したと考える。	4.対象動きていた	ジャングルジムの側にはいたが本児の側にはおらず、また近くの色水あそびの子どもの様子等も見ていたため本児が落下した瞬間を見ることができていなかった。発生後直ぐの対応はできたが、事故を未然に防ぐための援助や発生時に助けるための手立てが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの保育士が園庭の様々な場所で、子どもの安全を見守ったり、一緒に遊んで楽しさを共有したりしていたため、本児の落下は見ていなかった。	ジャングルジムは高くまで上ることが出来る遊具である分、危険が考えられる。子どもが利用している時に保育者がジャングルジムだけに注目して見守ることができていれば、本児に言葉をかけることや防ぐことに繋がったのではないかと考える。	他の子どもに求められると、ジャングルジム以外に目を向けたり、その場を離れなければならない場合が出てくる。その時には職員同士で声を掛け合い、代わりに誰かがジャングルジムにつくように人的環境を整えなければならないと考える。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者											ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名			実施頻度/【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
553	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12								11	11	18. 6歳	2. 女児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	腫れがなくても、痛みが続く場合は病院を受診する。	子どもたちに起きやすい骨折、怪我など把握しておく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の滑りやすさなどを確認し、砂場の砂で、走ったとき滑りやすくなるこあるので、朝庭を掃くと、確認をき、しながら掃く。	1. 集団活動中・見守り	9：30～10：50まで室内で活動し、11時から園庭に出て鬼ごっこをする。椅子に座ってする活動から走り回る活動へ移行する。	ストレッチをするなど、動く前に心も身体も準備をする。	1. いつもどおりの様子であった	7：10登園、9：30から10：50迄文字指導に参加する。その後園庭に出てしっぽとりをする。タッチされて鬼になり、友だちを追いかけた時転んで足を捻ったという。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	一緒に走ってしっぽとりをして本児の泣き声で転倒に気が付く。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	前の保育の片付けをし、室内にいる。	園庭には すべり台等の遊具があり、追いかけっこは転倒しやすい。	広い場所で活動する。	
554	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	16		1	4	5	3	3		6	5	18. 6歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	2. なし	3. 未実施		2. 基準配置		様々なケースを想定した事故に対応できるよう研修を実施する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	随時		標準装備の転落防止柵はあるので、施設・整備等での改善策は考えていない。	7. その他	他の保護者にジャンプしようとする自分を見て欲しくて、気分が高ぶっていた。	園児と再度正しい遊具の使い方を確認する。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと同様であった。	4. 対象児を見ていなかった	保育外	2. 担当者・対象児の動き見ていなかった	保育外	園児には妹（2歳児）がおり別保育室で保育していた。母親は妹を迎えにいっており、保護者の目が行き届いていなかった。	兄弟別々で保育をしているご家庭への引き渡しには、時間を要するので、引き渡した後も該当家庭には気を配る。	
555	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	22								3	3	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	担任が子どもの動きを把握しきれなかった。	活動と活動の間の時間に一人一人の子どもの様子が把握できるよう保育者を配置する。外傷後止血困難な持病がある子どものケガの防ぎ方を話し合い、職員間で周知する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ホール、保育室の2つの空間に園児が分散していた。	広い場所での遊び方を子ども、職員と一緒に考えていく。	1. 集団活動中・見守り	相撲をしている友てるみと楽なっいるしくり、遊びに入って行った。	遊び方を知らせながら年齢の発達に応じた遊びの提供。	1. いつもどおりの様子であった	相撲をしている中で友達の入って行った。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	ホールにて担任が全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他児と一緒に遊んでいた。	クラスに保育者が3人いることで、安心し、危険認知の甘さがあった。	子どもの行動を注意深く見て保育者同士の声掛け連携を強める。	
556	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	33				11	11	11		5	5	16. 4歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	高いところから飛ぶ危険認知がまだ年中４歳児には難しく、子想しながらの職員の声かけやに必要	職員会で再度共有し、日々の保育の中でヒヤリハット意識を持って場面ごとに職員で協力し合って子どもの保育に関わっていく	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	高い場所（畑との敷居）の場所が死角になりやすい場所	園庭にでている場合は、担任だけでなく園の全体が職員でてく	1. 集団活動中・見守り	年齢的にチャレンジしたいが危険認知がまだ不十分な為	意欲を大事にしながら遊び方を、縛り返し子ども達に伝え、一緒に考えていく	1. いつもどおりの様子であった	好きな遊びを自分で見つけ、いつもど元気に遊び過ぎ	4. 対象児の見ていなかった	自由に園庭で遊ぶ場面中、全体のを見ていた	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	自由に園庭で遊ぶ場面の、全体の子どもをら過ていた	場面の近くに離れた職員がいたこだった	死角にあたる場所でもある為、職員全体の場面でそや様子を見ていく	
557	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	80			16	22	24	18		10	9	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨鞭、左手関節部打撲傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	日頃から本児は雲梯や太鼓橋で遊ぶことがなく、遊び方に慣れておらず危険を伴う遊び方になったのではないかと考えられる。	子どもの動きや遊び方に注意しながら子どもにも知らせたり、高さのある固定遊具では保育者が十分に見守るようにしていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	引き続き雲梯や太鼓橋、鉄棒などの下にはマットを敷き配慮していく	3. 個人活動中・見守り	日頃から本児は雲梯や太鼓橋で遊ぶことがなく、遊び方に慣れておらず危険を伴う遊び方になったのではないかと考えられる。	高さのある遊具の下にはマットを敷いたり、保育者が近くで見守るようにしていく	1. いつもどおりの様子であった	普段、雲梯で頻繁に遊ぶ方ではないが、時々雲梯から飛なこようとしていた。	4. 対象児を見ていなかった	園庭にはいたが、雲梯とは離れた場所で、別の子どもと遊んでいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くでは見ていたが、差し伸べ届く距離ではなかった。	危険な動きが繋がる行動への予測が十分にできていなかった	危険なその子どもにとって無理のある遊び方に注意し、子どもに知らせたり見守りを強化していく	動きや遊び方に意し、子どもに知らせたり見守りを強化していく	
558	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	9				3	3	3		2	1	17. 5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	5. 下肢(足・足指)	爪剥離症表在性皮膚感染症爪甲変形症	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	2. なし	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 基準以上配置	特になし	見守りの対応を職員で検討した	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	該当なし	該当なし	1. 集団活動中・見守り	トイレの入り口の近くにピアノを置いていて、他の職員からトイレに行く子どもの姿が見えにくい状況だった。	柱にコーナークッションを設置した。トイレの入り口のピアノを移動した。	1. いつもどおりの様子であった	特になし	4. 対象児を見ていなかった	職員はトイレにおり、トイレにいる子と部屋からトイレにくる子ども様にもたちの様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他の職員は、部屋に居て他の子ども達の動きを見ていた。	トイレに行く子どもの動きを、部屋に居る保育士も出来るだけ見るように気をつけたら良かった。	子どもの動きによって、保育士も出来るだけ移動し、細かな子どもの動きを把握する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】							理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか				
559	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	9		1	1	3	1	3			4	4	17. 5歳	1. 男児	なし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	遊具の正しい使い方・遊び方の説明が足りなかった。	職員間でも共通認識をしておく。遊具の固定のチェックをする。子どもたちには年に数回話をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	雲梯の近道くには遊具を置かない	遊具の安全点検を複数の職員で行う	7. その他	降園中などに見守り行き届かなかった	園庭全体が行きとどいて保育するよう徹底する	1. いつもどおりの様子であった	居残り中に子ども同年齢のと遊ぶ中で震様近くに高さ30センチぐらいの遊具もってきて飛び移ろうとしていて落下した。	4. 対象児の見ていきをいかった	降園する保園児の話園児の保育者としてた	2. 担当者・対象児の動きをいかった	少し離れ園庭でいた子どもを保育していた。	いつもは遊具を動かさないように話しているが注意喚起できなかった。	危険がないように職員会で話し合い職員で話しを重ねて安全配慮を徹底する	
560	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	3				1	1	1			3	3	17. 5歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	行事の集合時間に合わせての職員の配置が整っていなかった。	行事当日の職員の役割分担を再度確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	安全点検は定期的に実施していても使い方によっての危険性は考えられる。	安全性の確認と使い方の指導	3. 個人活動中・見守り	園庭を開放していたにもかかわらず職員配置がされていなかった。また、遊具で遊ぶことについての注意（使用しない等）を行わなかった。	遠足の出発前には、園庭で遊ばないようにする。事前に園児と保護者に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りにみえたが（遠足）で、しくて持ちぶっていたかもしれなかった。	4. 対象児の見ていきをいかった	集合時間前で、園内で行の準備をいた。	2. 担当者・対象児の動きをいかった	担当保育士同様に園内で行事の準備を行っていた	園児が園に入ったの時点で見守りができていなかった。	園児が一人でも集合した時点で職員も園庭にでて見守りを行う。	
561	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	56				19	20	17			5	5	16. 4歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	5. 他児危から害を加えたもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	本児を押してしまった園児はADHDの疑いがあり、申請に向けて進めているが、その子の衝動的行動を止めることができなかった。	合同保育の中で衝動的な行動がみられるため、職員間で共有し、再発防止に努める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	築山上には設置できない、後ろから押されると転落する危険性が高い。	事故防止の観点から園庭の築山付近には人工芝を設置しているが、それに加えて保育士の立ち位置の確認や情報共有を強化し、未然に防げるよう努めたい。	1. 集団活動中・見守り	築山での活動の様子を見守っていたが、未然に防ぐことなかった。	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配りながら保育にあたるよう職員で再確認する。ヒヤリハット事例として事故防止委員会に共有し、子どもたちが安全に遊べるよう努める。	1. いつもどおりの様子であった	築山付近や砂場付近で虫探していた。	2. 対象児の近で対象見ていた	築山付近で、対象児やその付近で遊ぶ子どもの様子をみていた。	2. 担当者・対象児の動きをいかった	それぞれの場所で子どもを見守りながら、保育していた。	築山の際の部分で遊ぶことは転落あるということを、園児たちに事前に伝えていなかった。	あらゆる危険を予測し、常に安全に気を配りながら保育にあたより職員で再確認する。	
562	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	49					4	4	4		4	4	15. 3歳	1. 男児	特になし	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	刺創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2～3	2. 基準配置		定期的に保育環境を点検する。登園前毎日確認をさらに強化する。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施		点検の項目が中心であった。廊下身近な点環境が不足していた。	全クラスのロッカーを確認点検し、名札入れのケースを取り外し、名前のみ直接テープで貼った。園舎内の1階、2階の廊下と1階の保育室・多目的ホールにカメラを設置するため業者に依頼した。	1. 集団活動中・見守り	廊下にあるロッカーパンまはカシをこどもぞれ一人ていた子がそれ行った。	職員配置を再度検討し、答危険個所や破損ないか点検をさらに強化する。	1. いつもどおりの様子であった	特に変化はなく、落ちついた。	4. 対象児の見ていきをいかった	給食後の片付けの時間帯に起きたがで、それぞれの子どもの〇〇スで行動していた。担任は保育室内にいる子どもの給食の介助中だった。	2. 担当者・対象児の動きをいかった	それぞれの保育室内中であった。	廊下での見守りが確実な原因が難しい状況になってしまった。	保育補助の職員の動きを確認し、職員で連携をとる。	
563	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	12				4	4	4			2	2	17. 5歳	2. 女児	無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	無し	定期的に予測される危険について話し合う。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	毎	1. 定期的に実施	毎	近くの公園の遊具について、どんな遊具があり、どんな危険性があるのか保育士が周知する。	公園の遊具は使用前に必ず点検をする。	1. 集団活動中・見守り	園児に遊ぶ場所を移動するときの約束を伝えなかった。	広場からと遊具へ移動する際は保育士に伝えるよう園児に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	本児が滑り台のアーチ階段を登った。	3. 対象児が離れたところで対象見ていた	始めは滑り台と広場に配置していたが、園児全員が広場に行ったため保育士も広場へ行った。しばらくすると数名が滑り台に戻ったため、保育士が向かっている途中だった。	2. 担当者・対象児の動きをいかった	広場の園児たちの見守りをしていたため気づかなかった。	本児が「やめて」と他児に言っていたが再度押された。	保育士がそばにいて声掛けできるように一緒に移動するようにしく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況								事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		死亡		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面												
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																実施頻度/【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
564	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	61				29	32			3		3	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷			6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	環軸頭椎亜脱臼	3. ど士も衝突するこれによるもの	1. あり	2. 不定期実施	定実	6	2. 基準配置	4・5歳児(3クラス)同時に戸外遊びをした際、各固定遊具に保育士を配置する方法ではなく、コーナー遊びを想定しての保育士配置をした為に見守り範囲が広くなってしまい、危険行為に対して制止することができなかった。	可能な限り職員増員配置や使用できる固定遊具を限定するなどより見守りが充実するようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	随時	特記なし	待機場所とブランコまでの距離を考慮し、安全に遊べるような待機場所の位置や交代する時の動線について確認し約束事を検討。職員に周知した。	1. 集団活動中・見守りあり	特記なし	ブランコ付近で遊ぶ時の安全な遊び方や約束、順番を待つ場所や柵の意図、危険行為について子どもたちと確認をした。	1. いつもどおり様子であった	いつも対象児と遊んでいる友だちがブランコに乗り少し離れた所にいた対象児を呼び寄せ、呼ばれた対象児はブランコを囲むタイヤ内にはいってしまい、ブランコを漕いでいた他児と接触した。	4. 対象児の動きをていかった	ブランコ付近ではないところで子見ても逢を守った。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	ブランコと登り棒を一緒に見ていた。対象児は接触時に転倒することがなくそのまま逆シングルジム付近にいた担当保育士の方に向かった。め、様子を見てその後担当の方へ状況を伝えた。	特記なし	職員の協力体制の見直しを行い、子どもの遊びの様子や状況に合わせて声を掛け合い臨機応変に対応できる職員体制がとれるよう周知した。	
565	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20				11	9			4		3	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	定実	3	2. 基準配置	特になし	保育士の立ち位置の確認をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	園庭の安全点検をする。	3. 個人活動中・見守りあり	走れるスペースの確保はしていた	園庭整備をする。	1. いつもどおり様子であった	戸外で走り縄跳びしていたた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見守っていた	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	個別に子どもたちに関わっていた	左ひじの痛みを訴えたが数時間後だったため、気づきが遅れた	けがの原因となる事故の後は速やかに職員間で情報の共有をし、一日様子をみて本児の様子の変化に十分に気を配る。	
566	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	52			21	14	17			6		6	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	2. 不定期実施	定実	1	2. 基準配置	特になし	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	1. 集団活動中・見守りあり		特になし	1. いつもどおり様子であった	天気も良く園庭で活動していた。良いだちごっこ遊びをした。	4. 対象児の動きを見ていかった	園庭には職員置したが、対象児を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の各コーナーで職員は配置し対象児を見ていたが、怪我の発生時は見ていなかった。	保育基準は揃っていたが、滑り台の様子を把握できていなかった。	園庭で過ごす時は、保育教諭の配置全体を見て、活動によっては声掛けをしていく。	
567	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	44	0	0	8	13	11	12		10		10	15. 3歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷			5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	口唇裂傷・ALA外傷性歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(　)回/年		1. 基準以上配置	急いで階段を上がっていた時に足を踏み外した。	急いで上がっている様子が見られた時は、声をかけて落ちついて階段を上がれるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおり様子であった	登園時より変わった様子は見られず、好きな遊びしんで楽いた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭に出児てとあそび本含めの児を園児の様子を守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭に出児と共に遊んでいるときに、本児の様子も見ていた。	急いではしごを登りバラを崩るふつ	急いでいる様子が見られたときに、声を掛け落ち着かせる	
568	令和6年3月27日	1. 認可	7. 小規模保育事業	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	8								3		3	15. 3歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷			6. その他	5. 下肢(足・足指)	脛骨（左足）ひび	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	定期実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	園外保育時の怪我対応マニュアルはあるが、遊具の使用に関する安全マニュアルはなかった。	園外保育で利用する公園の遊具を確認し、子どもたちが怪我をするリスクを考え、職員全員に周知する。	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(10　)回/年	3. 未実施	実施頻度(　)回/年		公園の遊具を利用する際は、危険ないかを確認してから使用する。	1. 集団活動中・見守りあり		年齢差がある子どもが一ドームで遊んでいる時は上で座っている時はドーム上で待機させるのではなく、ドームから降ろして待機させる。	1. いつもどおり様子であった	遊具に座った。	2. 対象至対児の近で児見た	対象児がいて座ってたので、そばでみていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児で全名員で8名いて、それぞれ2，3名園児のずつの見をみていたため、対象児をみていなかった。	一つの遊具で年齢差がある複数の子どもが遊んでいた。座っていても小学生が飛んだ反動が伝わり、対象児の体が浮くかもしれないという予測が出来ていなかった。	3歳から使用可能な遊具で全員が3歳になっていたが、2歳児はまだバランスをとる感覚が未熟なため、使用方法を考え直す（使用しない、小学生とは一緒に使用しなど）。	
569	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15				7	8			2		2	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第3中手骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	定実	2	2. 基準配置	けがにつなる器具、を使う時は思っている以上に無理をしたり自以上の事をするかもしれない、ということを想定することが大事。	本児が痛みをすぎてしいるもしいと配慮すると。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	子どもの気持ちを尊重するとともに、活動限度を極めることも必要。	本児の気持ちを持ちの見ないことを把握し対応する。	1. 集団活動中・見守りあり	本児は跳び箱に思い対する理解し、無理しすぎないように配慮する。	本児の気持ちを尊重するとともに、本児の運動量、体力の限界を想定することが大事。	1. いつもどおり様子であった	跳び箱に意欲的に何度も繰り返し挑戦していた。	2. 対象児の近で対象児見た	本児が跳び箱を跳ぶ様子を見ながらし補助ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	跳び箱以外で遊ぶ子どもたちをみていた。	子どもの背景を理解し思いよりかもいつ事ガにつながることを意識し子ども動面し頑張りすぎていないか見極めることも必要であった。	子どもの背景を理解もいよらかつながることを意識し子ども子と関わる。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制									教育・保育従事者		事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等												マニュアル作成、職員間での研修	実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
576	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	24								4	4	16. 4歳	1. 男児	晴れ	1. 昼外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置		職員が固定遊具に対する危険予測を意識する。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	なし	事故発生との関連性がなかった。	3. 個人活動中・見守り		固定遊具の階段の砂をこまめに掃くようにする。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象見ていた	滑り台の近くに職員が見守っていたが手を差し伸べることなく防はできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊びながら見ている状況であった。		園児の行動予測に努める。	
577	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	21								3	1	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置		マニュアル作成、職員間での研修	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園庭は芝生化としてある。	1. 集団活動中・見守り		怪我の多い児童は家庭と情報共有。サッカー教室へ内容等確認検討	1. いつもどおりの様子であった	他児とトラブルもなく、サッカーを楽しんでいる様子であった。本児がシュートしようとした時に転倒してしまった。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	試合中であるため、コーチ2名がコート内にいるため、担当職員は、コートの外より全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭は、5歳児クラスだけで使用。そのため、他の職員は見ていない。		通常通りの動きであっても、無理な態勢ではないか注視す。子供の動きを観察する。ノートに記録する。	
578	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	16								6	6	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	(1) 左中指末節骨骨折、左中指爪下血腫 (2) 左環指挫傷 (3) 左環指爪脱臼	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	保育室入り口の扉を閉めた際にできず、子どもが手を挟んでしまった。	その日のうちにウレタン鞠み木を利用して戸の上部に取り付け、戸を閉めた際に隙間ができるようにした。	3. 個人活動中・見守り	特になし	落ち着かない園児に対しては、すぐに手が届くような位置で見守りをする。	1. いつもどおりの様子であった	新入園児でまだ生活に慣れておらず、気持ちは不安定であった。また、外国籍であり日本語の理解が不十分である。	2. 対象至対象児の近対象見ていた	活発な園児の一対一で見守り、見後を追っていたが、すぐに手が届くはなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	2歳児保育室内で他の子の保育をしていた。	本児が3歳児クラスの戸を開閉する という組嚙の行動に対応できなかった。	すぐに手が届くような位置で見守りをする。	
579	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40				16	11	13		5	5	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足親指付け根の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	手をつないでジャンプをしたことで体制が崩れてしまった	自分の身を守りながら安全に遊ぶ方法を伝えていく。怪我を予防するための体力づくり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	必要に応じて回数を多くする点検を	子ども年齢、体格にあった遊具の選定や安全点検の強化	1. 集団活動中・見守り	当該園児が、それまで衝突の多かった子と仲良く遊び始めたので、多少の危険を感じながらもその遊びを黙認していた	遊具の使い方、ルールについてあらためて職員間で共有する。確認し	1. いつもどおりの様子であった	該当園児は、運動能力も高く、普段あまり怪我をすることが出来たと思う	2. 対象至対象児の近対象見ていた	遊具の上にいた立っていたので危ないということはわかっていたが、友だちと嬉しくだそうにしていたので注意するまでは至らなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は近くにいたのだが、破損したものをなおしていて、対象児の動きは見ていなかった	遊具の高いところから飛び降りに危険を感じたり、他の子が真似を始める可能性を心配に思う職員もいた。2、3日前から継続的に行われていた遊びに対してどう対応していくか、子どもの動きのどこまでが許容範囲か決められていなかった。	子どもの遊び方について少しでも疑問がある場合は職員間ですぐに話し合う子どもたちが納得するかつ、安全が保障されるルールをみんなで決める	
580	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	7								1	1	15. 3歳	1. 男児	走り方がややつま先走り気味で、バランスが悪い。	8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	1	2. 基準配置	担当保育士の関心を引きたく、事務所で担任に来てくれることを期待している様子。転ぶときに手をつかず直接顔を床にぶつける。	体の動きがぎこちない部分があり、大きなけがにつながりやすいため、バランスが崩れそうなときに手をつく動作を促したり、本児の気持ちを受け、走らない言葉がけを工夫する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	昼頃の明るい時間帯であり、節電のため廊下の電気は消した。暗さは要因の一つであったかもしれない。	事務所からの行き来を測し、電気をつけておく。	4. 個人活動中・子どもみ	活動が切り替わる場面で、場部屋出ていく。	移動する前に個別に話しかけるなど、個別対応が必要。	1. いつもどおりの様子であった	最近は上くある行動で、事務所に来ることで担任が迎えに来たり、個別的なかわりをしてくれることを理解している。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	事務所からクラスへ戻る様子を見守りながらかけに事を見守りながらかけに追いるよう歩いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラス や事務所職員も食事中であったため、廊下の様子は見ていなかった。	対象児が後ろから来る担任にしながら走っていた。	転ぶかもしれないことを考え、手をつないで歩に一緒に戻る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制												事故発生時状	事故の転帰						事故誘因	ソフト面										ハード面									環境面					人的面								
				月	時間帯				人数	異年齢構成の場合の内訳												死亡		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等			死因		負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
581	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								3		3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第1趾捻挫（当初の診断）経過観察後●月に受診した際骨折だったと判明	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不実施	定期に実施	1.基準以上配置	年長児は自分たちで自主的にできることもあり主体性を育てているが、安全面については保育士の最終確認を必ずすること、子どもだけにまかせない	上記の通り、職員の共通理解をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	サッカーゴールは問題なし、組み立ての際の安全確認を目視のみだった	安全確認は目視のみではなく、手で触れて確認する。	1.集団活動中・見守りあり	本児は体を動かすことが好きで活発、サッカーにも意欲的でゴール設置後すぐシュートを決めていた。その際他児が触れたゴールが下がり足を挟んだ	ハード面と同様安全確認をしっかり行うこと	1.いつもどおりの様子であった	１週間前にサッカー教室があり、サッカーにとても興味をもっていた。	2.対象児の近で対象児見た	複数担任クラスで、一人では近くでは見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児の近くにいたため、本児の動きはみていなかった。	１週間前にサッカー教室があり、みんなのテンションが高かった。	ハード面と同様安全確認をしっかり行うこと。	
582	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	11								2		2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨亀裂骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		今回の事故証、マニュアルの再度の周知を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		毎日の安全点検の実施と危険と思われる個所等の報告や改善	1.集団活動中・見守りあり		夕方の時間帯は1日の疲れやすい時でも出やすいので、特に子どもの動きに注意しながら保育を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちと一緒に楽しんでテンションが高くなった。	2.対象至対象児見た	遊びのすぐ近くにつき子どもたちの様子を見守った。人数が少なかったため全体も把握できる状態で、本児の側にいたため転倒を防ぐまでの対応はできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	人数も少なかったため、遊ぐのすぐにつき子どもたちの様子を見守っていた。	広いスペースを確保し保育士が側で側守りながら遊んが、時間帯と人数から内容は遊びの内容は適切だった。	広いスペースを確保し、保育士が側につき危ないと感じた場面ではすぐに止めて、子どもたちを落ち着かせてから安全に遊びるようにする。	
583	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	20								5		5	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指打撲傷、右小指骨折	8.その他	1.あり	1.定期に実施	3	1.基準以上配置		マニュアルには今回の事案そのものについての内容はなかったため、追記するとともに職員研修に情報共有をおこなった									3.個人活動中・見守りあり	子どもを抱っこした状態でタブレットを操作したため	ショルダーベルト付きタブレットケースを購入した。タブレットを使用する際にはショルダーベルトを装着してことを徹底した。	1.いつもどおりの様子であった	担当保育者とふれあい遊びんでいた	1.対象とマーンの態(対象児し接していた)	対象児とふれあい遊びをした後、膝の上に座ら状態でタブレットの操作をしようとして、タブレットを落としてしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当する遊他児をの見守った、一緒に遊んだりした		タブレットを使用するの際にはショルダーベルト付きのタブレットを子ども離れた場所で使用することとした	
584	令和6年3月27日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15								2		1	16.4歳	1.男児	●月●日に西診、アレルギー検査の結果、キウイフルーツは段階中２との結果報告を保護者より受ける。その日の体調で疲れていたりする場合、普段食べているものでも、アレルギー出中すいとのことを主治医より伝えられる。今後は、キウイフルーツは、食べないとの主治医からの指示。今現園では、本園児に対し、キウイフルーツの提供はしない。また、キウイフルーツ以外のアレルギー検査結果の一部コピーをスクールにご提出していただいたので、園児の記録と一緒に保管している。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他		食物アレルギー	6.アナフラキシーによるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置		エピペン等の使用研修をする。症状が発生した際のシミュレーションをする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		食事の時に使用するテーブル、イスにがたつきがないか壊れていないかなど、安全に食べることができるよう目視だけでなく、触ったり力をかけたりしながら確認するようにする。	6.食事(おやつ)中		各クラスに掲示してあるアレルギーリスト（保護者より提供情報）の掲示を大きく見やすく変える。外国人本人両方の保育者が提供時に、確認点検をするようにする。これまで同様、飲食中は子どもたちがよく見える位置に配置し、いち早く異変に気づくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	午後15：20頃、おやつにキウイフルーツが提供され、男児はキウイフルーツを少し噛んだ1、2分後に違和感を感じた様子で、立ち上がりティッシュを取りに行き、口を拭いた。その後、席に戻ろうとした時に大量に嘔吐。	2.対象至対象児の近で対象児見た	嘔吐後、その場にいた日本人保育士が介抱し、一階の事務所へ男児を連れ、簡易ベットの上に横にさせる。事務スタッフが話しかけながら園児の様子を確認する。もう一人の事務スタッフが保護者に状況の説明、緊急のお迎えを要請。この時体温は、35.9度、保育士は、一旦クラスへ戻り、クラスに残った外国人講師に状況の説明、緊急長に報告。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	その後、見守りをしていた事務スタッフが男児の目の瞳孔が開くなり、目を開けるようになる事を確認。首から下の症状（立し）確認。他の保育士にも状況を伝え、目の瞳孔を確認、呼吸（あり）の確認。アレルギー症状が出ていることから救急車の要請をする。16：10頃救急車が到着。保育士が園児を抱きかかえ、救急車へ同乗。迎えに来られた保護者（父親）も救急車へ同乗。事務スタッフが自家用車で病院へ向かう。	加配児の近くにいたため、本児の動きはみていなかった。	１週間前にサッカー教室があり、みんなのテンションが高かった。	食の時間において安全な環境作ま、食事児の園全を守るためのサポート、見守りに関しての注意をスタッフで、見直し徹底をしていく。	
585	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				18	32			7		3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期に実施	2	2.基準配置	事故発生地点の指針作成されるが、「安全保育確保するための配慮」について改めて確認する必要がある。	「安全な保育環境保守確保するための配慮」について職員間で話し合い、必要な配慮を話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	事故発生場所のさは伸びておらず、地面にはなく穴やなどはなかったが、場所によっては傾斜の箇所もあるので、バランスを崩す要因につながった可能性も考えられる。	園庭に玩具や石ころ等が落ちている状態には、棚の都度よ合えるようにする。しのコップの端をスコップで掘った穴は埋めるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	対象児は、足にサポーターの靴しかはいていないが、サイズが合ったものを着用していたが、サイズが合わない靴の場合は、バランスを崩し転倒したりしてケガにつながる危険性がある。	足にはいているものがズレてしまいやすくなりジックテープはがれやすくなっているのサイズに合っていない古いマジックテープがはがれやすくなっているのは、保護者に知らせ、保護者に知らせ交換してもらうようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り様子で、友達二人カーとしていたとサッカーをしていた。ボールを蹴ったり際にバランスし、右・足首を外側にひねる体勢で転倒した。	3.対象児の離とで対象児見ていた	象からたいところ対象見ていた	コンビネーション遊具の台にいて滑り付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内に保育名山、ぞれコンビネーション遊具、砂場について。	雪遊びから春先の園庭での遊びへと切り替えに体が慣れるまで、要に利き足ではないない方の足で蹴ったことも バランスを崩す要因につながった可能性も考えられる。	普段繰り返し楽しんでいる遊びでも、思わぬ事故に繋がることがあるという意識を保育者がもちながら遊びを見守り、園庭での遊び方について子どもたちと再確認を行った。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
591	令和6年3月27日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	30				16	14			5	5	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果剥離骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 基準以上配置	担任と非常勤の職員がついていた。	足が弱く何もない所で転倒など、足の怪我の頻度が多いので、活動時職員が一人つく。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/週	いつもと違う公園内で遊んでいた。長縄を使用すると横移動が発生する。	活動が無理そうな時は、本思い人の意思を確認した上で見学する。	1. 集団活動中・見守りあり	長縄を7人で飛んでいたので、短くしても少し少人数にするべきであった。	児童の特性などを考慮し、環境の変化に対応ように、職員同士の連携を図っていく。	1. いつもどおり様子であった	長縄を飛び越えた後、横移動する際、バランスを崩す。	2. 対象至対象児を見ていた	長縄の傍見につき守ていたが、対象児がバランスを崩し瞬間止められなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	長縄を持っていた。	４歳児と５歳児、分かれて公園内で遊ぶ。５歳児に二人の職員がついていた。	４・５歳児同じ空間で遊ぶようにし、職員全体で園児を見守るようにする。	
592	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	不明	不明	7. 異年齢構成	120	9	16	21	23	23	28		※発生時間不明のため、当日の登園人数を記載	20	19	18. 6歳	1. 男児	本児は全体活動への指示が通りにくく、感情の起伏が激しく他児とトラブルを起こすことが度々みられた。自分の思いを上手く相手に伝えられないことが要因であり、保育者が仲介に入り本児の思いを代弁し、問題を解決してきた。今回も身体の異常を担任に伝えられなかったことが、園が事故の把握が遅れたことに繋がったと考える。	園内（園庭・保育室）活動中で怪あると想像する	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手機骨遠位端骨折	不明	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	保育者と密園なコミュニケーション、保護者と連絡を密にすること	園児と保育者との日頃からのコミュニケーションを密にすることで、園児の一日を保育者がより深く把握することが大切であり、そのための言葉かけを園児一人ひとりに行っていくことが大切である。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特に無し	安全点検を的確にする事を徹底し、異常個所等の発見に努める。	1. 集団活動中・見守りあり	保育中にしたのが負傷のすれば、保育者に関わった者が見逃したことが要因であるもしれない。	事前の役割分担と事後の異常の有無の確認を徹底する。	1. いつもどおり様子であった	日頃の自分の行動を顧みる本習慣が本人ついていなかった。	3. 対象からたと児離れたところで対象見ていた	対象園児は当日保育活動に看過しており、特別に個別に支援する機会が無かっ	担任から園児への支援依頼が無く、保育室でも問題なく保育活動に参加していたため	負傷場面を特定できなかったこと、見落としがあったかもしれない。	園児が負傷（骨折）した事実を深く受け止め、役割分担と園児・保護者とのコミュニケーションを深めることを重要視していく。	
593	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	3									2	2	12. 11か月	1. 男児	食物アレルギー（卵）	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		6. その他	食物アレルギーによるアレルギー反応	6. アナフィラキシーにもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1. 基準以上配置	保育教諭と調理員の連携不足	食物アレルギーについての認識を深めるための園内研修を定期的に実施する。現実践中の食物アレルギーの子どもの一覧表についての再確認をする。ダブルチェック体制の強化。	1. 定期的に実施	実施頻度(１　)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(１　)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	特になし	引き続き定期的に設備等について点検をおこなう。	6. 食事(おやつ)中	０．１歳おやつ同じあるのが児のカゴにあり、０．１歳の児のおやつが分かりやすくしていた。	おやつも給食同様ご給食クラスに分け、０歳分にラップ前を上に、１歳児のラップは名前を書いて、見覚めることで判断できるようにする。	1. いつもどおり様子であった	自分でたべることが難しいため、保育者が手伝い食べていた。	2. 対象至対象児を見ていた	対象児前で、斜め前で、他のもにおいをさせていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	対象児の横で、対象児におやつを食べさせていた。	おやつの材料について、担任と調理員間で口頭でのやり取りで済ませ、献立に対する最終確認が十分でなかった。プリンを0歳、1歳児が同じカゴに入っていたことも反省である。	0歳児については、一人ひとり食事が違うので、アレルギーでない子どもについてもラップに名前を書いたものを皿に掛けることを引き続き行う。おやつについても給食と同様のチェックを行い、提供するようにする。おやつも調理員から手渡しで受け取れるように調理員の勤務時間も含めて検討する。	
594	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	23									3	2	16. 4歳	1. 男児	特になし。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第５中足骨若木骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	近くにいた保育者が他児に気を取られていた。	事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	木組み角度によって本児の姿がよく見えて状況が生まれてしまった可能性。	木組みの周辺は整理し、障害物や破損がないか毎日点検する。	1. 集団活動中・見守りあり	近くにいた保育士が他児に視線を向けて可能性も考えられる。	子どもた現場ちと空間で危険な遊びつい話し合い、ルールを確認する。	1. いつもどおり様子であった	朝から健康視診をしながら本児を見て、いつも通り元気に遊ぶ姿が見られた。	2. 対象至対象児を見ていた	普段から子どもたちが木組みの段を上り下りして遊んでいて、飛び降りることのないよう注意しながら近くの場所で見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が落ちた瞬間、担当職員から呼ばれて救急用品を持って現場に駆け付けた。	本児に遊びのルール(飛び降りは危険)を意識づけでできていなかった。	個別での声指導・声がけを継続していく。	
595	令和6年3月27日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	28									3	3	15. 3歳	2. 女児	障害名：ダウシンドロ・ピング症候群による心臓機能障害（１級）	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折（右橈骨骨折）	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	近くにいた保育者が他児に気を取られていた。	事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	椅子を片付けた場所が近くにあったため本児が興味を示し遊び始めた。	椅子には寄れないようかかない設置する。	1. 集団活動中・見守り	傍にいた保育士の位置下側にあった右手が見えていなかった。	椅子を本来使いないのをとあること危険を指導する。	1. いつもどおり様子であった	朝から健康視診しながら本児を見たが、いつも通り元気に遊ぶ姿が見られた。	2. 対象至対象児を見ていた	椅子にうつぶせになって遊んでいる本児に縁りの準備をするよう促していたが、右側にコロンがってしまい落下、手回転して仰向けに倒れる。至近であったが受け止めきれなかった。すぐに本児のけがの有無や痛い場所はどこか確認した。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	本児に背を向けていたため、転落後に仰向けの状態の本児を見つけた。担当職員と共に本児に駆け寄り、けがの有無や場所の確認をした。	傍にいた保育士の位置下側にあった右手が見えていなかった。	咀嚼の事態にもすぐ対応できる本児に寄り添う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者											事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
596	令和6年3月27日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15								1		1	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯の打撲、外傷による下唇裂傷、右上A歯の打撲<Per、外傷による下唇裂傷	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊具の安全に関する基準への確認不足、各遊具の正しい使用方法の指導不足	グループ活動時の職員配置・各遊具の正しい使用方法を園内研修で再確認し、事故予防に取り組む。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	事故当日、ホールに数種の室内遊具を設置し遊んでいた。各遊具にマットを敷くなどの安全対策を行っていたが当該事故が発生したネットジャングルの降りロは高さが280mmであり、マットを設置していなかった。	遊具の安全と落下高さ設置を、設置面への落下に対する衝撃の緩和措置(マットを敷く)をを徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	足をかけ、降り口まで三点確保を基本として慎重に取り組んでいたが、あと少しくらいのところで跳びおりようとしてしまい、ネットに足がひっかかり顔面から落下した。	園児へ三点確保や昇降時のルール等遊具の使方を再指導し、職員、園児ともに安全領域、周囲の状況にも気を配るように再徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	ネットジャングルで降りる際に、前向きになり三点確保しない状況になろうとしたので、声をかけて三点確保を指導した。その後は最後まで三点確保で降り、数度は安全に遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	跳んで降りようとした時に、危ないことを声掛けで知らせた。数度は安全に換り返して遊んでいるので見守っていたが、事故発生時はおもむろに跳んでしまい間に合わなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	事故発生時、担当職員がホールで15人の園児を1名で保育していた。他の職員は保育室で保育していたため、事故発生時は状況を確認できなかった。	職員の人数、園児の人数に合わせた遊具の配置ができていなかった。	職員の人数、園児の人数に合わせた遊具の配置を検討する。	
597	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17								2		2	1.男児	●月●日受診し、治癒の診断。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		マニュアル、研修、職員配置等から故に直接つながる問題点は見つからなかった。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		ハード面合上に不具合や点検上の問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	縦置きの跳び箱に挑戦するのがおもしろかった。	縦置きの跳び箱を実施する際には十分な注意を払い、咄嗟のアクシデントに対応できるようにサポートする。	1.いつもどおりの様子であった	横置きの跳び箱と違いある距離があるため、跳び越える時にバランスを崩してしまい、前方に手から落下した。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	一人で二つの跳び箱をみており、咄嗟の対応で場所できると距離にいなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	更に離れた場所で全体を見ていた。		担当職員が一人の場合は、跳び箱を一つにするなど、とっさの事態にも対応できる範囲で活動を実施する。	
598	令和6年3月27日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	79			18	27	34			9		7	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折(右腕)	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/	1.基準以上配置	預かり保育の利用が少ない園児(1号認定児)の怪我	日頃、預かり保育を利用しない園児への見守り・声掛けの強化	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/		園庭で(砂の状況・芝生の状況等)滑りやすい箇所はないか点検の強化	1.集団活動中・見守りあり		日頃、預かり保育を利用しない園児への見守り・声掛けの強化	1.いつもどおりの様子であった	預かり保育を利用し、いつもより長時間、遊べることを喜んでいた。	4.対象児の動きをていなかった	直前までですぐに声をかけられるよう見守っていたが、転倒した時には他児と話しており、他児とぶつかり転倒した瞬間は見ていなかった。職員の背後での怪我であった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	全体が見渡せる位置にいたが、転倒した瞬間は見ていなかった。本児の泣き声と担当職員の声に気づき、その後の対応を一緒に行った。		全体が見渡せる職員配置等の再確認	
599	令和6年3月27日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	1	2	2					7		5	13.1歳	1.男児	●/● 胃腸炎と診断	8.その他	1.負傷		1.意識不明		胃腸炎関連症肇	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2回/年)	1.基準以上配置	ノロウイルス(胃腸炎)による症肇(発症より3日目にいうりくらいにこりり起こる可能性がある)	感染症による事故のため、ことは防ぐことは難しい	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	環境面では対象児の発達面で今回の事故に関して要因なし。胃腸炎関連症肇は、胃腸炎発症より3日目くらいに症肇の発症しやすく、3歳くらいまでは起こりうる。	感染症による事故のため、防ぐことは難しい。	3.個人活動中・見守りあり	胃腸炎症状が完全に完治ではなかったため、関連症肇を発症した。	胃腸炎関連症肇を防ぐことはできないが、胃腸炎による登園再開の目安での登園以降、数日は注意して様子をみる。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	2日前胃腸炎と診断後症状ふいふくし登園、病みと上がりであったが、通常通り午前睡眠をとるために、保育士に抱っこで寝かしつけされていた。	1.対象マーンの状態(対象児に接していた)	寝かしつけで対象児が泣いてしまったため、関係が深い保育士と交代し、対処児を寝かしつけをおこなっていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他児と別室で活動見守りのため、保育をしていた。		感染症による事故のため、防ぐことは難しい。	
600	令和6年3月27日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12		1	11					5		4	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足骨折(腓骨)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	2.基準配置	子どもたちの遊びの中で手を繋いだりが、複数名で手をつなぐと真ん中の児が転倒したりするときに手をつくことができない。	子どもだけで手をつなぐ時は側についたり間になど入る安全に遊ぶように配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(280回/年)	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	1名、登園後にまだ眠たい児がいたので、ベットに寝ていた。本児たちの歩くスペースの邪魔になっていた可能性がある。	自由遊びの中に横になる児がいる場合にはならゲート内などにベットを置くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	自由遊び中、他児3人と手を繋いで室内を歩いていたらいとところで1人が転倒し、10mくだった順に対象児も右足を重心に転倒した。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	担任保育士は職員の荷物の片付けをしながら保育を行っていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	他の園児と座って自由遊びの側につき、ブロック遊びなどの保育をしていた。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者																																					
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷						ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
601	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	1								2	2	18. 6歳	1. 男児	雨上がり後で滑りやすくなっていた	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施		2. 基準配置	雨上がりの遊具の使い方や遊びのルール確認が不足していた。	遊具が滑りやすく事故につながる危険がある場合は、使用中止の判断を行うこと、雨上がり遊びでの遊具の状態を子ども達と共有し遊び方のルールを確認後、活動にはいる。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	雨上がり遊具時の使用時の危険性の認識が不足していた。	使い方、遊び方に注意喚起が必要で、今後は活動前の遊び方を確認する。	1. 集団活動中・見守り	雨上がりでの遊具の使い方が子ども達に伝わっていなかった。	雨上がり遊具の使い方や、遊びのルールを確認を行う。	3. いつもより活動的であった(理由を記載)	いつもよりも活発に動いて、注意深く活動を見守る必要があった。	4. 対象児の見ていかった	遊具の近くで他の児童を見ていたが、対象児童の落下には気付かず、対象児からの痛みも訴えなく発見が遅れた。	2. 担当者・対象児の動きをいなかった	遊具以外の場所で児の活動児童の様子を見守っていた。	雨上がりで、遊具が芝生が濡れていた為、滑ってしまった。	雨上がりの遊具の使い方や、遊びのルールを確認を行う。	
602	令和6年6月10日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	10								3	2	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	-	事故防止マニュアルのチェックシートの確認に加え、部屋、遊戯室、園庭等の危険個所がないか確認し、全職員で改善策を考え、改善する。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	転倒時、本児は手をついて、小指をつかって体重がかかった。	段差のある場所を登り、降りる、運動遊びは、1歳児の発達状況をみて、実際のステージではマットを積み木など転んでも危険の無いようにしょうできるようにする。そのために、お遊戯室の遊び場所をついたてにより分ける。	3. 個人活動中・見守り	-	園児が、降りる、走る足腰を使った運動遊びを安全な場所で十分に行い、転んだ時に身体をかばう転び方ができるよう、経験を多くようにしていく。危険個所で不必要なものは排除する。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近象見た	対象至で対象児をいた	すぐそばにいて、様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きをいなかった	1人はステージの反対側で遊んでいる園児をみていた。もう1人はステージから離れた場所で遊ぶ園児をみていた。	-	保育士間で見る子どもを状況に応じて分担し、意思疎通を取る。	
603	令和6年6月10日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	5								2	2	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼、上唇小帯裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	-	今後も実際に怪我をした時、ヒヤッとした事の原因を追究し、改善策を職員間で共有していく。 裾がひっかかる、等衣服による原因が無いよう気を付ける。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	遊戯室の床は木で、柔らかくはなので、転倒時手をつけないとケガをする。	保育で、身体を使った多入しっかりを遊び取り手をつくれかりを転ぶことができるように経験をさせる。	3. 個人活動中・見守り	転倒時、本児は手をついた合わなかった。	今後の保育の中で、運動遊びを多くし、手っとしっかとついべるに経出来にとりて転ようがようする。	1. いつもりの様子であった		2. 対象至で対象児をいた	対象至で対象児をいた	すぐそばにいて、様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きをいなかった	本児と少し離れたマットで遊んでいる園児を見ていた、転倒時の様子には視界には入らず、音のみ聞いた。	-	保育士間で見る子どもを状況に応じて分担し、意思疎通を取る。	
604	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	9. 夜間・早朝(泊り保育)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	4		1	3					2	2	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	マニュアル整備に努める。職員配置は適正である。	事故の要因等を分析し、再発することのないよう共通理解に努める。職員会議等で安全意識を高め指導に反映させていく。事故防止の研修を実施し再発防止に取り組む。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	施設設備等は適正である。		1. 集団活動中・見守り	夏季で日照時間が長いこと、散歩にコース街灯がついていること戸外活動にかけが、薄暗い中での活動になり、日中より足元が見えにくかった。	夏季の時間帯での戸外活動の仕方について職員間で必要な情報を共有する。	3. いつもより活動的であった(理由を記載)	普段からの多動であるが当日は戸外での活動のさらに活動的であった。	2. 対象至で対象児をいた	園児のそばにつき見守るが転倒を防ぐことはなかった。	2. 担当者・対象児の動きをいなかった	公園内を園児他の園児と歩いた。本児は見なかった。	-	保育士が戸外活動の際の危険性を再認識し見守りを怠らないように配慮する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
605	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12								2	2	17. 5歳	2. 女児	なし	6. 水遊び・プール活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	直径２メートルのビニールプールの高さは２０ｃｍのため、年長児童はまたいで出入りできる高さであるが、急いで出入りしようと足がひっかかり、転倒する可能性がある。	なし	1. 集団活動中・見あり守り	児童が急いでプールから出ないように注意する。	児童が急いでプールから出ためプール外枠に足がひっかかったこと。	1. いつもどおりの様子であった	前日睡眠も食足、朝や健康状態は平常通り	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	２ｍほど離れたところ象児を見ていた担任保育士が、走らないよう対象児にそのすぐあとに担任がタオルをとしたことに、児のプール枠にひっかかり、躓いて倒れた。	2. 担当者・対象児の動きをいった	対象児が転倒した小プールから３ｍほど離れたところの別の直径５ｍのビニールプールの傍で１０名の年長組児童を見ていたので、対象児を見ていなかった。	特になし	プール遊びの際はプールのすぐ近くに保育士が立ち、対応する。	
606	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	42	3	6	7	8	8	10		7	7	17. 5歳	1. 男児	初診の病院で経過観察(2週間) と言われ様子をみていたが、指がねじれた状態で骨がついていたので、大きな病院で手術することとなった。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手薬指付け根骨折	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	無し	事故、ケガ時の対応について詳しく確認する。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	無し	無し	1. 集団活動中・見あり守り	無し	引っ越し鬼で、マットを陣地に使用していたので段差ができていた。陣地をマスキングテープなどで作り段差をなくす。	1. いつもどおりの様子であった	最近運動会増える機会え、積極的に集団遊びに参加する事が多くなってきたが、当日雨ならば、集団遊びに参加していた。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	集団遊びでの他児のトラブルの仲裁、解決にあたっており、トラブル解決へ意識が向いていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいた(外遊び) を見守る。外遊びから、室内へ徐々に子どもたちが戻り時間帯だったので、何人室内へ戻ったかなど声を掛け合い、外の片づけを行っていたため。	特に無し	保育士の立ち位置の見直しや連携、待っている間子どもたちに遅れが嫌友がる事をしない等の確認をする。トラブルが発生した時に待機している子どもたちを見てもらうように職員に声がけをする。	
607	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	16								3	3	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	3. 子ども同士衝突によるものにもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	無し	活動内容に合わせ職員配置と事前に職員の打ち合わせを徹底する。	1. 定期的に実施	300	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	300	無し	無し	1. 集団活動中・見あり守り	遊戯室の自由活動に走り回ることが、ないように、活動するための遊びの設定がされていなかった。	活動前に必ず遊びの静と動を含んだ環境設定を行う。	1. いつもどおりの様子であった	遊戯室の自由活動が自由に走り回る環境になっていた	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	他の職員が他児のしたため、職員一人で遊戯室全体にき届かなかった。	2. 担当者・対象児の動きをいった	他児が遊戯室に置いてあるベッドや遊具に登ろうとしたところを止めるとしていたため、児に目が届いていなかった。	活動内容に合わせた職員配置ていなかった。	職員間で連携を取り、配置につく。配置を離れる際は声を掛け合う、他クラスの活動内容を確認し、職員に入ってもらう。	
608	令和6年6月10日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	7	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	34				8	14	12		3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	6	2. 基準配置	無し行かない公園だから、危険あまり測しを予測していなかった	どんな場所でも、危険を予測し、遊具の特性等への注意喚起を行う。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	遊び始める前に点検を行っているが、遊具に危険個所はなかった。	特になし	1. 集団活動中・見あり守り	普段あまり行い公園だった	遊ぶ前に危険な行動前の約束をしっかりする	1. いつもどおりの様子であった	公園につき、保育士からの約束事を聞き、遊び始める。保育士と一緒に滑ろうと声をかけ、一緒に滑る。その後、友達と一緒に遊具のさくをたえながら滑り始め、さくのたえなくなったところで滑りをしバランスを崩し落下する。対象児は、環境によりてしまう。	4. 対象児の見ていなかった	台のなが所シーソーの間に立つ。シーソーから落ちかた子そそちらしたため、児が滑り落ちさくなるとこと滑りさくがたてたに気付かなかった。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至距離にいた)	1. テーブルの所でお茶の準備をしながら、周囲を見ていた。2. 園児が多くいたので、一人一人に保育士つき、順番に使用する声かけをしていた。	保育士配置が各遊具にていなかった。	・保育士の配置に合わせて、遊具の数も合わせる。・遊具に子が上ったいたら、必ず保育士がつく側にこと。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制									教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
609	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	56		13	13	12	18			6	6	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯脱臼（右上AB・左上A）	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		職員の加配だけでなく、子どもの意識変化時期（卒園進級）の対応により一層注意する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	4～5	遊戯室と保育室の出入りや、柱の周囲は見通しがつきにくい。	園の中でつっかえやすい箇所は普段から子ども自身で気付けるよう声掛けをしておく。	1.集団活動中・見守り	片付けている子、遊戯室へなどと出ると、子ども動きが全体的に広がった。	出入りの場所や、最後まで保育室に1人配置する。	1.いつもどおり様子であった	いつも通り元気に登園。遊びの片付けをしていない子を注意しようと、追いかけてぶつかったとのこと。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集会の為並んでいる子とまだ並ばずに動き回る子がいて、そちらに意識がいった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	整列を促しながら、ぶつかったことを園児告げられるまで気が付かなかった。	朝の申し送り時間帯とも重なる中がなるまで子どもから目を離さない。	保育室から遊戯場へ安全に落ち着いて移動する流れや仕組みを立て直す。	
610	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	特になし	事故防止の為、子どもの筋力作り向上の為、保育をいま一度考え直す会議を行い職員で話し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおり様子であった	こっこっこっこ

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位																												
614	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8		4	4						3	3	13.1歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下唇裂傷、上顎歯肉裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	事故後、事故につての原因、保育に改善すべき点があるか話し合いを持つ。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	その都度	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	フープ遊びではフープを掴んで転がしたり（保育者と）保育者が回したフープを掴む等の遊びの経験はあったが、2歳児のように汽車に見立ててフープの中に入る遊びは初めてだった。合同保育を予想した配慮が必要だった（2歳児の真似をして遊ぶ可能性があること）。	保育者が見本となってフープの遊び方を伝えていく。ひとりひとりの発達状況を配慮し関わりを行う。	4.具合が悪かった（熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載）	事故当日から咳きこんでいた。	2.対象至対象児の近象見た	異常があった場合、とっさに動けるさ状態でいたが、一瞬のことと防はかったが、転倒後、直ぐにかけき上げ判断し、状況を医務室へと搬送。患部を確認して冷やし止血する。	1.担当者・対象児の動きをていた（至近距離にいた）	他の子ども保育する。	特になし	事故後、事故につての原因、保育に改善すべき点があるか話し合いを持つ。	
615	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯のぐらつき	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	走っていた中で起きた事故、全体保育中以あれば以上見つかる事も考えれる未満児、以上体格差も大きいので未満児が怪我をする事が考えられる。	子どもが広い空間を走りたくなる気持ちがあるので、周囲を見る、前を見る等を意識する事や空間の状況に応じて走らない事満児を職員が伝えて行く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	走っていた中で起きた事故、全体保育中であれば以上見つかる事も考えれる未満児、以上体格差も大きいので未満児が怪しまれる事が考えられる。	遊戯室は走って遊んでいい所だと、子ども達へ周知しているが、遊び方によって遊ぶ方によっても考えられるので、周知する年齢毎に工夫していく。	1.集団活動中・見守りあり	手作り眼鏡をかけ、視界状況で前を見ずに走っていた為。	視界が悪い状況で走らず、歩いていた大きな衝突を防げた。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り登所し、健康状態も通常通だったが、いつもの組みに期待を示していた。	1.対象マンの児ンの状態（対象児に接していた）	担当職員は、周囲にかけながら次の行動を確認して、他児と会話でぶつかった瞬間は確認していた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	他職員はクラスの保育に入っていた。事務所では振興局による指導監査中だったが、主任が報告を受け、対応した。		30人に対して2人の保育士が同じ空間起こっています。子どもの行動を制限するのではなく子ども達も意識して活動できるように配慮していく。	
616	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左母指切創　左母指欠損	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	職員2人体制だったが、他の子にも目線が行き、一瞬死角作ってしまった。	職員間でお互い連携をとり、死角なにを作らないようにしていく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施			特になし	1.集団活動中・見守りあり	本児は普段からハサミを使って製作をしていた。保育士にハサミの保育面でのが油断とあったがあるがあった。	普段からやっているから油断せず、危険な行動を常にし、注意を促す声すを掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	紙や空箱など使って製作に、部分を切り、ろとして指先を切った。きを自作で使って製作に、ろとこ誤って切った。	2.対象至対象児の近象見た	担当保育士に座児が本児ハサミを使って製作活動をしていたが、ケガの瞬間ていた。本児が「切っちゃった」と言ったことを認知すこガすることで	2.担当者・対象児の動きをていなかった	同じ部屋にいた他の子を見ていた。	対面には配置していたが、子の見て他の様子でいてケガの瞬間は目を離していた。	危険な道具（ハサミなど）を使うときは、必ずきちんと側に離れないようにする。正しい使い方を指導する。硬くて切れない時は手伝ってあげるようにする。	
617	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置		事故防止のための学習の強化			2.不定期に実施		2.不定期に実施			遊具チェックを作成して定期的に行う	1.集団活動中・見守りあり		該当なし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象至対象児の近象見た	跳び箱の着地点で着地介助していた	2.担当者・対象児の動きをていなかった	もう1つの跳び箱の着地点で着地介助していた		園児を支えられるように、もっと近で見守るべきだった。飛び方を教えていたが、飛べない子には無理せず取り組むよう伝えていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的にしていたか	他の職員の動き 具体的にしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
618	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				9	16			4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	骨折、右足中指骨折 全治3ヶ月	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	ホールは、走ようしないにていが、目が離れる時に転んで事故となった	きまりについて守れるように徹底する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園児の特徴を踏まえて、日常的に対処する必要がある	行事を行う場合は、上記のことをしっかり確認して行う	1.集団活動中・見守りあり	各園児の特徴を踏まえて、見守り体制をしっかりとる必要がある	行事を行う場合は、上記のことをしっかり確認して行う	3.いつもより活発で活動的であった（理由を記載）	行事の喜びで興奮ぎみであった	3.対象児が離れたところで対象見ていた	もっとそばで見ていればよかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	気になる子はしっかり見ていることが必要である	各園児の特徴を踏まえて、見守り体制をしっかりとる必要がある	行事実施について、担当者の打合せを入念にする	
619	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝（始業～午前10時頃）	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58			11	11	18	18		8	8	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左上腕骨外顆骨折	3.子ども同士によるもの衝突にによるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置		園児の行動に留意し、前をよく見ないで走っているなどの、他児と衝突する危険のある場面を見逃さないようにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日		安全点検の実施の継続	1.集団活動中・見守りあり	2歳児クラス～5歳児クラスの複数の合同保育（自由あそび）中であった。各年齢での動きの違いが、今回の事故にもなった。	複数クラスでの合同保育の、園児の遊びの設定・遊ぶスペース区分などに留意して、危険防止の配慮を行なう。	1.いつもどおりの様子であった	●●線（道路）側から園側に向かって走った。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	園庭全体を見ながらして見守りていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	園庭全体を見ながらして見守りていた。		園児の行動に、前を見ないで走っているなどの、他児と衝突する危険のある場面を見逃さないようにする。	
620	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2								2	2	16.4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	異端骨折	3.子ども同士によるもの衝突にによるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		危機管理ファイルの内容確認を学期以外にも行う（年度当初、冬期など）	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	8	1.定期的に実施	1		建物内のなり易い死角になり場所で職員で再確認する。	7.その他	排泄後、走って戻ったため、出会い頭に衝突してしまった。	排泄への移動について改めて歩くことを指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り歩いてトイレまで移動。排泄、手洗い後（同じ友達4歳児クラスに支援児）にいかけとている走ってしまれる移動て、イ前の廊下の曲がりトの角でトイレに向かう別のイレに向かう4歳突して衝転倒。	4.対象児の見ていなかった	2名いる4歳児担当の保育士のうち、1名は自身の担当する4歳児クラスの他児を保育室内で行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	2名いる4歳児担当の保育士のうち、もう一方の保育士は支援児を担当しており、支援児がトイレに行った対象児の後を追って廊下に出た。支援児を追いかけるように一緒に廊下に出た際に、対象児の転倒の瞬間を見ている。他クラスの担当保育士は自身の担当するクラスで園児を見ていたため、対象児の動きを見ていなかった。		排泄時の移動だけではなく、廊下の移動の方法について繰り返し指導していく。事前の声かけ、確認を徹底していく。	
621	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6		2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53	4	9	13	0	13	14	0	1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定に実施	1	2.基準配置		改善策を確実に実施する体制を整備する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	9	1.定期的に実施	52		特になし	1.集団活動中・見守りあり	外の子に目がいると事故が発生した。	見守りの人数を増やすことが必要。	3.いつもより活発で活動的であった（理由を記載）	運動会のションのまま台と滑り合うにしまった。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	離れたところかも達かけれたとほど話ら目を離したの子から目を離しただった時。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭での見守りを1人で行っていた。		職員間の増員を検討する。	
622	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	5	10						5	5	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定に実施	2	1.基準以上配置		広い場所で遊ぶ際は、保育士の見守る場所を確認し合ったり、主任に加わってもらう人員配置を厚くするなど、	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	随時		遊び方によっては事故に繋がる遊具については、事前に危険を予測して有無を決めたり、職員間でイメージを共有していく。、	1.集団活動中・見守りあり	積み木の道を作っていたが、立方体の積み木を持ちそ運んでそしの上にのってたのにまったのを事止められなかった。	立方体の積み木は積み重ねがりやすいため、0.1歳児クラスでは使用しない。	1.いつもどおりの様子であった	転倒した際は泣いていたが、どこかを様子なかるなく、通常通りあった。	2.対象児の近で対象見た	転倒した児を抱き上げ、頭部を打っていたかもことで安堵していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	その様子を他の保育士も確認していた。		怪我の確認は、頭部だけではなく、全身を確認し、負傷箇所がないか確認すると共に、都度園長主任に報告する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面										
							人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡				診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか				
628	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	2	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	40			10	12	18			6	6	18. 6歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	ホール遊びの際、コーナー分け為、テーブルを仕切りに活用していた	仕切りにしていたテーブルし関てに、事前にどうしているのか、の説明や乗り上げたり、乗り越える怪我にて繋がってしまう等、再度も達に子ども一緒に確認をする	1. 集団活動中・見守り	普段から片付けをせずに動き回る事が多い子であったが、保育士も園児と一緒に片付ける方に向き合い、再度声掛けをし、片付けをしているかの確認をしていなかった	全体を見渡しながら片付けの声がけをし、一緒に片付等のを配慮をしていく。	1. いつもどおりの様子であった	普段から片付けをしたがらず、動き回ってて片付けを始めない姿が多々見られた	4. 対象児の動きをていかった	片付けの声をながら園児と一緒に片付けを行っていた為、事故発生時の対象児の動きを見てなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援の必要な園児の側についたり、片付けの声を掛けながら園児と一緒に片付けを行っていた為、事故発生時の対象児の動きを見ていない	複数の職員が居たから互いに他の職員が居るから安心していた	職員間でも声を掛け合い、全員が子どもの中に入り込んでしまわないように気を付ける保育士が一緒に片付けをする際も、全体を見渡すようにする	
629	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	26								1	1	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位脱臼骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	死角になりやすい位置での事故だったため、保育士の立ち位置を考え全体に目が届く環境設定を再度考えていく。	室内では玩具の入れ物を持ち歩かない寝そべって遊ばない等、遊ぶ際の約束や環境設定を話合った。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	遊びの中で寝転がって遊ぶは目の前に入ってものの、振り返って戻ろうとした際に躓いてしまった。	遊びの中で寝転べったり、物を持って出ったり、持き回ったりと危険だという事のクラス中でいくようにする。	1. 集団活動中・見守り	保育士が時差出勤の為　この時間は1名の保育士しか部屋にはいなかった。	部屋の中角は死角になる場所を作らないようにしていく。	1. いつもどおりの様子であった	対象児も童も遊びしんが楽しんでいたが、足元に寝転がった他児に気付かずに躓いて転倒してしまった。	3. 対象児が離れたところで対象児見ていた	対象児童の玩具は容器を持っていると保護者が対応をがらいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で他の児童の様子を見ていた		危険を予測し、近くにいる職員同士で連携を取りながら事故防止に努めていく	
630	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	16				10	6			3	3	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足親指付け根骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置		特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		特になし	1. 集団活動中・見守り	靴を履いている子と履いない子が混在していた。	遊びの種類、人数や状況によってどちらかに統一するようにする。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	足を踏まれた瞬間は見ていない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	足を踏まれた瞬間は見ていない。		園児が靴を着用しているかの確認を行う。	
631	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	23								3	3	17. 5歳	2. 女児	怪我をした当日は夜間当番医院を受診のため、紹介状をもらい翌日にA病院を受診	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		特になし	2. 不定期に実施		1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施			特になし	1. 集団活動中・見守り	年長児の高さの胸まである大型のロールマットであった	ロールマットでは必ず保育士が側遊びにつき、それ以外ではそれ以外で子どもでは遊のみで遊ぶことができないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	普段通り遊戯室で元気に遊んでいた。	4. 対象児を見ていかった	遊戯室にも子ども守りのはしたが、マットから落下した瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で他児にてみたいた様子を	合同保育であり、遊戯室で遊ぶ園児の人数も多かった。	職員の配置の見直しや、危険予測の把握をおこない、、活動前に子ども達とも安全な遊び方ていて確認をしていくこととする。	
632	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	35			10	15	10			3	3	17. 5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置		特になし	2. 不定期に実施	20	2. 不定期に実施	20	2. 不定期に実施			床が滑りやすくなっていないか、水筒の中身はこぼれていないか、汗でたれていないか？湿気はどうか考慮しながら環境を整えて必要がある	1. 集団活動中・見守り		現状のまま、園児の人数や支援児の人数を考えながら支援児を職員を配置し、必ず職員は指導する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り元気で、遊びなれている場所とボールでいた。ルールも守ったが、足元に寝転がってボールを追いかけて複雑な動きあった。	2. 対象児の近で対象児見ていた	全体を見ながらも起際象くが対象ここには対近くで、対象児のいろろ児のグループの遊びを時守り時声をいた。近くたらなにはいたらなは助けれようなは位置にはいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くに担当職員がいたため、違うグループの園児と遊んでいた対象園児は見ていなかった。		現状のまま、園児の人数や支援児の人数を考ながら支援児を職員を配置し、必ず園児のみになないように見守っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
633	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11									4	3	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3～4	設置棚のためクッションガードを付けていなかった。	クッションガードを取り付けた	3.個人活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近くで対象児を見ていた	対象児を見守りながら廊下に出たが、児童がよろけた瞬間、手を伸ばしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室にいた他の児童との関係に見守りを行っていた		事故及び事故防止の園内研修を実施し、再発防止に努めることとする。	
634	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28				12		16			4	4	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指第2関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	・危機管理マニュアルの再確認の不足だった	・マニュアルの見直しを行っていく	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつものように丘を登ったり下りたりしながら遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	他児もいるので全体に目を向けながら対象児も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊んでいる様子を見守りしていた。	保育士から子ども一人ひとりへ丘下スペードについての注意事項等の伝達が不足していた	保育士の立ち位置の見直しや遊びに入る前に繰り返しルールや遊び方を伝えるようにする。	
635	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28				8	6	14			4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		遊戯室で遊ぶ時は遊ぶ前にルールの確認をする。また、服を脱ぐ場所を決めると共に、子どもたちにも周りを見て脱ぐことも知らせる。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	様々な遊びが展開されたため、気持ちを取りやすい環境の構成だった。	遊戯室で遊び方のルールを徹底し、服を脱ぐ場所を決める。	1.いつもどおりの様子であった	きさな遊び一緒しんたい好きと楽でいめ、気持ちがしていた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	遊戯室にパマルチパネを組み合わせて遊ぶ幼児ブロックやままごとで遊ぶ幼子の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室にパマルチパネを組み合わせて遊ぶ幼児ブロックやままごとで遊ぶ幼児の様子を見守っていた。	幼児が遊び夢中楽になる気持びにになり高揚とし、しちし周囲を見動験性がある。	幼児が落ち着いて遊びに集中できるように声かけを徹底する。	
636	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	11									3	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		今後も必要に応じ、園内研修等を実施し、職員全体で共有していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		特になし	1.集団活動中・見守り	子どもの（躓き）を子どもの発動きすることで子突動きや危測されたとてなかった。	子どもの発動きや危険を未然に防げるように注意した、安全がよ子突動きに活動できるように配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から穏やかな性格で落ち着かない様子は見られないが、事頃受けない、事故当時はたまたま躓き、友達と手をつないたため出なかった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	象からいつも通の散歩りの体制で、最前列で、列の配置列をつき引き始めて、いるき始めて。	象からいつも通歩しの散歩りの体制で、最前列で、列の配置列をつき引き始めて、いるき始めて。 本児自らすぐに、本児自らした転倒ため、防ぐなどのカバーは至らなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	歩列の中央と最後部に位置したが、そのたの間にはいたは手がかなった。	子どもの突動きを子突動きすることができなかった。	子どもの予動きを予測りし、危険にを未然防げるように注意するなど、安全に活動ができるように配慮する。	
637	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	5									2	2	6.5か月	2.女児	特記事項なし	8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左前額部切創	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	新しく採用した職員への各種マニュアルを使用した確認をしなかった事と日常の保育活動の安全性の保育等への指導・確認不足。	事故防止に関する研修会（園内研修）の計画的な実施と日常の保育活動の見直し。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	各種安全点検については、問題点検項目等に特にないと考えるが、点検項目等について見直してみたい。	点検項目の見直しと確認。	5.睡眠(午睡)中	午睡中に他の仕事をしていたことも要因であるが、午睡の仕事をしていること一つと思う。	午睡中は子ども達子の様子を把握の常に把握する事の確認。	1.いつもどおりの様子であった	午前寝をしていた午睡ため、午睡時間てなかったの睡のにもなっかったに、枕ために寄りかるようにかるようにおいた。	4.象児動を見ていなかった	首が据わって間もない（5ヶ月）の園児がバランスを時に崩した気がついた。保育士の行事の準備でかサミ用した支えしたの時ハサのミを持ったままでの支えで園児を切ってしまうことになった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室にいた他の職員は、園児睡のチェックをしていたが、園児が怪我した段階で気がつき応急（止血）処置（止血）した。	もう１人の職員（０歳児担当）は、遊戯室で４，５歳児の本太鼓の指導をしていた。０歳児人数に対する保育士の配置的には問題ないが、保育室にいたとすると事故は防げたかもしれない。	４，５歳児の太鼓指導の時間帯の見直しと日常の保育活動についての確認。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制									事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制												発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項			負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由	具体的にしていたか		具体的にしていたか				
638	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)										16. 4歳	2. 女児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第3指中節骨骨折	2. 自らの転倒・衝よによるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	-	特になし	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	2. 不定期に実施		-	特になし	7. その他	防犯カメラにて、対象児の怪我に至った経緯を確認する。	保護者及び園児に、帰る際は保護者と手を帰るいで帰るよう周知する。	1. いつもどおりのようであった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	転んだ瞬間は見ていなかったが、対象児が泣きながら帰る姿を目撃する。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転んだ瞬間は見ていなかったが、対象児が泣きながら帰る姿を目撃する。	いつもより早めの迎えで、対象児も気持ちが高ぶっていたと考えられる。	保護者と手をつないだり、歩いて帰る繰り返しを知らせていく。	
639	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	31			9	10	12			3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝よによるもの	1. あり	1. 定期実施	2	2. 基準配置	近くに職員が注意喚起はしていたが、すぐに援助できる場所にいなかった。	・遊びの様子を把握し、職員間で声掛け合を安全を確保する。 ・ハザードマップの見直し。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	撤収の石等や築山去の野草管理。	1. 集団活動中・見守りあり	子ども自身が危険であることを意識えよられる具体的な場面をたらし、考えた行動の場が足りなかった。	定期的な子どもの確認。一人一人の発達に合わせた援助。	1. いつもどおりのようであった	普段と変わらっも通りだった。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	築山での様子遊びを確認し、危険な遊び方には度はその都度注声をいた。近く遊ぶ大型遊具で遊ぶ園児の対応を為にタイングで転倒する。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	築山で遊んでいることは確認していたが、他の遊び守りの見ているお、注視はしていなかった。	築山での危険な行動を制止した時点でケガに繋がる可能性は考慮することができた。別に遊びを誘う、安全で遊びを確保できる遊び方の提示が不足していた。	園庭での遊び方、保育士等の配置、安全確保のための声の掛け合いやフォロー体制の確認と実行。	
640	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	19			7	6	6			3	3	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上前歯2本折れる	2. 自らの転倒・衝よによるもの	1. あり	1. 定期実施的に	2	1. 基準以上配置	本児が特定の子動きに敏感であるから、達への関わり方に担任以外もて保育士して見守っていたが、ほかの子どもとんその瞬間は目が離れていた。	特どもの子遊びをおり離れた。	ほかの子どもと遊びながらも、気になる子動きもに気付き行動をしているかどもの子のそばに移動する、もしくは走るのを止めるための対応をする。	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	随時	2. 不定期に実施	随時	子どもが今好きな遊びや集中できる遊びを設定したが、遊びも後半になりたくなくが中での環境設定が必要だった。	一日の疲れが見る時間で遊具設定の工夫を上で、様々な事態こりうる予測を起る常にする。	3. 個人活動中・見守りあり	座って遊びの中で体を動かしたくないものどもがあった。	体を動かしたい様子があった時は、遊具体制と場所を考えた上で、片付けを変化させていくよう工夫をする。	1. いつもどおりのようであった	普段通り登園し、変わった様子はなく保護者からの連絡事項もなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任が保育当番だったため、本児を常に視界に入れていた。特定の子どもの子どもとの遊びを把握していたが、斜めの位置だったため走ったにくかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担任当番だが、ほかの子どもの物を取りに室保育入り、出てきたときに子どもつかみ合った。3人目は離れた場所でもとやりを取りて遊んでいたため気付くの遅れた。	遊びの約束や遊具設定の工夫をして、本児は付け守ったが、本児の目が離れた瞬間だった。	予測が足りずとっさに対応できなかった。様々な事態が起こる予測が必要である。	
641	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	22								4	4	14. 2歳	2. 女児	特に無し	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	1	1. 基準以上配置	基準以上の職員配置だったが、保育業務連絡が、中に連絡要な上の必要な場面があった。	特に運動遊び中は、のタイミングに注意する。連絡をあとに回す等の配慮をする。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	安全点検を、続けていく	1. 集団活動中・見守りあり	排泄を終えた順に前保育室ボルダリングに移動して移動いた。複数の保育士は、二かに分ていた。	ボルダリング前に集まったどもの子人数が、多くなったため(5名)トイレを担当した士に依頼するとこ。ボルダリングの保育士の人数強化。	1. いつもどおりの様子であった	日頃からボルダリングに慣れしんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	ボルダリングの本児の位置が、まだ低かったためそばにいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった		排泄指導に関わっていた		保育者は、目の前の子どもだけでなく周囲に前もだけで（二手に分かれたグループの状況等）にも気を配り、声を掛け合いながら保育をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
642	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝（始業～午前10時頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	5. 4歳児クラス	11								1	1	16. 4歳	1. 男児		8. その他		1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右手中指薬指骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	・職員配置に問題はなかった ・職員がドアの後ろ側を見ずに閉めてしまった	保育士は前後左右にも目を付けて保育にあたることを再度確認した	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	28	1. 定期的に実施	4	給食室の扉は木製でなくアルミ製であった。手を正に入れることを防止するものにもなっていなかった	給食室の入口に手止めのシートをつけた 給扉れ防止を	3. 個人活動中・見あり守り	朝移動の際に並ぶ場所を他の場所にしたかすべきだったもしない	朝の移動の廊下の混みにも具合にも、給食室の前は極力避けるようにする	1. いつもどおりの様子であった	列の先頭におり、一番扉に近かった。	4. 対象児の見ていきをなかった	普段ならしていたが、この日に限ってしなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見てなかった	朝の移動の時間のため、それぞれの職員が各クラスにいたり、玄関の対応をしていた。給食室の職員と担当保育士がほぼ同じタイミングで男児が指を挟んでいる気づいた。	・●月に採用され複数担任をしていたが、●月から事務担当が●歳児の担任を行った。慣れていなかったという部分があるはもしれない。・●歳児名を１名で担当。	当該保育士には今後気をつけるよう面談を行った	
643	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝（始業～午前10時頃）	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	11		1	2	4	1	3		2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中		1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	上前歯の神経壊死	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	2. 基準配置	コロナ禍で、朝の保育の出に、マスク有りの児と無児とで空間を分ける為、２部屋を使い、間仕切りの扉から方を見ることにしていた。その上で、声のミスの、今掛け合いの連携により、事故回は、事故の発生に気づくことが遅れたと考えられる。	早朝の以上のマスクの未満児とは同じ部屋で保育を行っている。また異年齢保育であることや、登所児童の受け入れの為の担当職員の出入りもあることから、事故発生時刻の８：００から保育は、補助を入れて3人体制で保育を行っている。	コロナ感染症が五類になったことにより、現在は同一部屋で早出保育を行っている。また異年齢保育であることや、登所児童の受け入れの為の担当職員の出入りもあることから、事故発生時刻の８：００から保育は、補助を入れて3人体制で保育を行っている。	1. 定期的に実施	60	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	-	2、3歳児の席には椅子をなくしてベットスペースをやはり、安定して分かりやすく安座ができるようにした。	1. 集団活動中・見あり守り	3，4，5歳児にテレビを視聴しているミングあった椅子さは同じの椅子さもサイズの物であった。	3歳児など、年齢児の童用マットを用意して、安定して座ることが出来るようにした。	1. いつもどおりの様子であった	朝の受け入れ時に、気分がのらない時など、寝際に立って、気持ちが落ち着いてから、他児のいる側の椅子に来ているというパターンが多く、この日なども同じように、はじめは立っていたが仲良しの友だちが登所してきたきっかけで、促されて着席をしに向かったところだった。	4. 対象児の見ていきをなかった	ちょう玄関先にて親子が受け入れ登所きた親子があり、隣室の隣室に声を掛け、職員に出まっどの部屋でした。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	対象児の部屋の隣で、未満児の保育を担当していたお、声を掛けられなかったことから隣室の動き知すを察るのが遅れてしまった。	担当者がなことのクスを考えて、隣室に声をかけ、玄関に出て両ともこと、玄に出てしまった。	職員数の少ない時間帯だからこそ、声掛けをしあい、共同して保育をすることの重要性を再確認した。	
644	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	5. 4歳児クラス	13								2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中		1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左上腕骨骨顆上骨折、左肘関節関節拘縮	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	1	職員会議の中で事故が起きた経緯や原因を周知し、どのような場面でも起こる事と安全面の重要性を再度確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		散歩の朝に公園の員などを見ることは続日も遊びきり、範囲安全を行う。	1. 集団活動中・見あり守り	クラス担任の動きが不在活中であることが、全面を使った回数がいという状況、子経験を考慮し、少の範囲を定め提供すべきたとる。	クラスの活動では後２回目、担任が公休で代替職員が職員が応対こまえ、危険を前に内の範囲をお	1. いつもどおりの様子であった	公園内の近所遊んで階段付近いた際、足を踏まし外まった。	4. 対象児の見ていきをなかった	公園内の階段上の広場に集まっていた為、付近の様子がを遊んでいた。階段には、本児の転倒した際の声に付き、転倒したことを知った。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	本児が転倒した公園内の階段の反対側も達を見ながら遊んでいた。本児が転倒した際声の泣き声は聞こえなかった為、把握ができていなかった。		保育士間で声を掛け合い、子ども達の動きに注意を払う。公園内の階段は転落、転倒の可能性があることを把握し、子ども達にも活動前に知らせておく。	
645	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	12				7	5			2	2	17. 5歳	2. 女児		8. その他		1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	前歯左側の脱臼	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	2. 基準配置	4	事故が起きた際の状況と対策、改善点について全体で話し合う	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		引き続き安全点検を実施していく	1. 集団活動中・見あり守り	伸びすぎり良くなり、おさまざまスカトしてしまったエアーフ	事故が起きないこうよりもっと色々な度がけていく室内の使い方や遊具の配置など安全に環境を作る	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わり友だちと楽しく過ごした	2. 対象児の近くを見ていた	鉄棒をしている児童に、見守った	2. 担当者・対象児の動きをていなかった		他のコーナーを見ていた		順番待ちをしている子ども達の動きに注意を払う（一定の距離を保つように）	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
646	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	23								1	1	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼、靭帯損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	随時	2. 基準配置	なし	戸外遊びはできるだけ複数の職員で見守る	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	なし	使用していた遊具、園庭の整備はなかった	1. 集団活動中・見守りあり	・児童の身体発達・身体状況や遊具の使い方に問題はなかった・遊んでいた場所が悪かった	柵の付近では遊ばないよう子供達に伝えていく	1. いつもどおりの様子であった	柵のコンクリート付近では乗らないと約束をしていたが、本児が砂よりもコンクリートの走りやすいことを知っていたため、つい乗ってしまった	4. 対象児の動きを見ていなかった	本児から「転んだ」と言われたため、傷を確認後、どのように転んだかから状況を聞いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった	なし	全体を見まわせる場所にいるようにする	
647	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	8			2	3	3			2	2	16. 4歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	下顎裂創・肥厚性瘢痕・刺激性皮膚炎	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	危機対応に関する研修に参加し、臨機応変に危機対応できるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	点検時に念入りに点検し、年度始めに点検確認表も見直す。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	特に普段わっと変わった様子はなかった。	3. 対象児離れたところで対象児見ていた	全体の様子を見守りながら、他の遊園児とんでいた転倒と泣き本児とした泣き児を確認し出血していたため、すぐに医務室へ連れて行った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故時は預かり担当職員2人がみており、他の職員はみていなかった。	台すべり使用時は上靴を脱ぎ、滑りやすくなり終靴下のまま走ってしまったため、滑って転んでしまった。	改めてホール内ならないことを指導した。	
648	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	7								1	1	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指第二関節の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置		体操等を行う際の環境構成として、安全に行える場所を選択することが必須であることを職員間で確認した。	1. 定期的に実施	60	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施		テーブル、椅子などを付けて、大きな活動を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	・出席児童数が少なく保育室にスペースがあったため、保育室で準備体操を行った。・周りに机・椅子がある環境だった。	・ホールの広いスペースでまた保育室で行う際には周りに椅子や机を避けて十分にスペースを確保して体操を行う。	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	・児童の前に立ち準備体操を行っており、クラス全体の状況は見ていた本児の動きまでは目が届いていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・保育者一人が担当一人で育児をしていた保育室内に他の職員はいなかった。	・一人ひとりが十分なスペースが確保できているか、周りに障害となるものがないか確認をしてから準備体操に取り掛かる必要があった。	児童一人ひとりの動きや環境構成に目を配る。	
649	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	9		4	2	1	1	1		3	3	14. 2歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置		子どもたちの動きを予測し危険がないように目を離さないようにする。必要に応じて座って待つなどして助言をし少しでも危険を回避できるようにする。	1. 定期的に実施	12	3. 未実施		1. 定期的に実施	12		今後も引き続き点検を行い、ケガの等のないようにしていく。	1. 集団活動中・見守りあり	本児の兄も一緒に遊んでいたため気遊んだ持ちに高揚していた。	合同保育中は以上に丁寧にかわりを持ち、危険のないように配慮していく。	1. いつもどおりの様子であった	本児の兄（●歳児）のこと好きで、自宅に一緒に遊んでいる事ら、いつも通っている走れるから見いかけもつ足れてしまったと考えられる。	3. 対象児離れたところで対象児見ていた	砂場用具の片づけをしながら、遠くから見守っており、本児が転倒したのすぐに駆け寄たて対応した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	テラス近くで遊ん子どもの対応おり、見ていなかった。	特になし	子どもの動きを予測し、職員間でさらに連携をしていく。	
650	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	23								2	2	16. 4歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	随時	2. 基準配置	なし	戸外・運動遊びはできるだけ複数の職員で見守る	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	砂が滑りやすかった	適宜、園庭に水を撒き、滑りにくい環境をつくる	1. 集団活動中・見守りあり	本児の発達・身体状況及び中活動動作の方に動き問題はなかった	運動遊びの際には、転倒など怪我をする可能性を能ることを伝え、ちょっとした時にこりやすいかなど、子ども達も考えて機会をつくる	1. いつもどおりの様子であった	複数の園児とボールをかけて追いかけるため転ぶ可能性が考えられた	3. 対象児離れたところで対象児見ていた	クラス全体の動きを見ることのできる場所にいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	周囲の園児を見ていた	なし	・大丈夫だろうではなく、危険かもしれないと日頃から心がけておく・子どもたちどうするか、どうなるかという行動パターンを想定しながら、職員間で声を掛け合う	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面					人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他													実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
651	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	10								3	3	15. 3歳	1. 男児	左肘が脱臼しやすい	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	-	遊具の遊び方については指導計画があり、子ども達への指導する際、保育者も確認をしているので、継続して行っていく。施設外の遊具については、より入念に事前に使用上の注意点を確認し、子ども達に指導する。また、現在、マニュアルを見直しているので、園外保育についても検討をしている。	3. 未実施		2. 不定期に実施	1	3. 未実施		-	利用前の安全確認及び職員が不慣れな施設等については事前に下見をして危険箇所や避難経路等の確認をより慎重に行っていく。	1. 集団活動中・見守り	一リニュアルされた遊具の対象年齢が3歳児以上で利用可能だった。また、当日は天気、職員の出勤率を3名にすることができたため園外保育を実施した。	園外保育について、引率者数、天候、行き先、方等を十分検討した上で行う。	1. いつもどおりの様子であった	園にはない遊具だったが、他児育者と一緒に遊んでいた。	2. 対象至児の近で対象児を見た	遊具の遊び方等の指導後、引率した保育者と園児全員で遊具を使用し、子ども同士の衝突や転倒等に随時注意を促したり、園児の補助をしたりしていた。本児は着地の際、何度かバランスを取るため手をつき、また立ちがってジャンプする、と繰り返し遊んでいたため、声かけをしつつ遊びを見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	園外保育だったため引率の職員以外は把握することはできなかった。	-	園外保育のため通常より多くの保育者で引率し、指導も行い、一緒に遊具を使用することで危険を回避できるよう配慮していた。また、本児は計が外れやすいこともあり、事前に保育者間で、確認をしていた。より注意深く子どもの状態の確認等、事前の確認を行い保育にあたると共に、事故発生状況・対応について会議等を通じて職員が共通認識を持てるようにしていく。	
652	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26				10		16		4	4	17. 5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外下部裂離骨折	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	5	1. 基準以上配置	今回の事故の要因は友達とケンカを、急い場はその場ですぐに去ろう滑りとして台降り口に躓いてしまった	固定遊具を使用の際には急がずルールを守って遊ぶこと	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	固定遊具遊び遊び方の再確認	遊具は業者点検済、遊者を検済び方の確認	1. 集団活動中・見守り	友達とトラブルを起こし、その場を去ろう急いで固定遊具を使用していたと思われる。	そばで声トかけをラブルの仲裁だった。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	3. いつも活発で活動的であったことも活んでいた。トラブルの子ども多くの子の達と友中だった。	2. 対象至児の近で対象児を見た	対象児と滑り台の反対側に。躓いた際には見ていたが助けはいたる距離にはいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	3歳児職員も一緒にいたが、対象児と離れた所で遊んでいたため、気づかなかった。	3歳児も一緒にいたが、それぞれのクラスの子ども達を見ていた。	担任同士、お互い声をかけ合い、ルールを守らない行動、トラブルには声をかける。	
653	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	5								1	1	16. 4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	個々の運動能力に十分に把握していなかった。遊んでいる子ども同士、ぶつかったりお互いの妨げになったりしていないか、場の設置の仕方が十分でなかった。	個々の運動能力の遊動把握と遊びの確認を行い、いろいろな場面での事故予測を行っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	カラー積み木の形状による安定性の認識不足。	年齢やホール内の状況に使用する遊具、おもちゃに配慮する。	1. 集団活動中・見守り	友達の姿を受け、やってみようと挑戦意欲が行動につながった。	園児が事故ないよう、遊び場や設遊び保育教諭の保育配置を考える。	1. いつもどおりの様子であった	友達4人とのカラーホールの積み木で遊んでいた。	3. 対象児からの離れたところで対象児を見ていた	他児の遊びを見守っていたため、対象児が落下する瞬間に、手を差し伸べる距離にいなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	保育室(別室)で他児の見ていた。	園児にき身支援距見ののが離守りできた。園が届られ体ども、をナ置たが、ども味によ遊び方や変と、一人の具体的な導線をすることが難しかった。	園児ごとの遊びの危険度に目を配り、危険の高いつ度園児については、遊ぶ側に近い寄り身体を支えられる距離での見守りをしていく。また、子ども遊びを具体的に把握するための配置や、安全に遊んだりすることのできる距離をつくっていく。	
654	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	26						16	10	3	2	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	1. 定期的に実施	10	1. 基準以上配置	子どもの予測を、普段できたころや動きと声掛けや確認不足	活動の節目の子ども動き状況に危険となるものと床のはない、子どもの動きを予測した職員の目動線の安全の確保が必要である。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	土曜日の年齢の人数や活動で、普段と違う場所やリスクがあることで保育室内の玩具や物の置き場所などが予測できない。	4歳児と5歳児ごすと育過ぎの保証、低い年齢の子ども（4歳児）の保育室ごすに育ごすに過ぎるよう。	1. 集団活動中・見守り	遊んだ時の玩具の散乱状況に加え、子ども達の様々な移動や様子動線となる床の上の安全確保もできていなかった。	転倒や怪我が予測される子どもの動きや状況把握・安全意識することと職員声掛けの間の徹底する。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	プール後の週末と週末の少ないし見られていた。	2. 対象至児の近で対象児を見た	普段とは違い、4・5歳児の異年齢児、子どもの動きが年齢ごとで、の予測が十分でできなかった。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	子ども一緒に付けとして為、子どもの動きへの注意が不十分であった。	普段と違う異年齢の子どもの動きが過ぎるとの状況の違いの予測した目の動きや職員の安全の確保が十分できていなかった。	週末の異年齢の活動でのヒヤリハットの検証を行うべきである。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				事故状況						事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか				
655	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	10								1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2. 自らの転倒・衝によの倒突るもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	無し	日々の子供の活動等について情報共有をする。安全管理マニュアルの確認。環境構成の配慮、子どもへの注意喚起（3歳以上児）	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	環境の整備が甘かったと思う。梅雨の時期で湿気があり床が滑りやすかったかもしれない。	事故状況と生の共有と生の何故発生したかを深堀し環境設定配慮を再確認	1. 集団活動中・見守り	友達と走り回っての転倒であった。全体を見守り危険な場面では声掛けしている。	活動前の環境設定や子どもの予想される活動がしっかりと保育士に活かされるようにしていけないけない	1. いつもどおりの様子であった	健康状態良好で元気に遊んでいた	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	全体が見えるホールの中に真ん中、立ち見守っていた	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	１０名を１人でみていた。転倒後すぐに報告し、看護師にみてもらった		遊びの中で予想される子どもの姿を把握していく	
656	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	16				9	7			4	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折、右肩関節挫傷、右手関節挫傷	2. 自らの転倒・衝によの倒突るもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置		様々な遊びが展開されている中で、園児の動きを確認するために保育者同士の声かけをする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12		遊具の確認を園児と一緒に行う。	1. 集団活動中・見守り	マットと積木を並べ越えて遊んでいた。子どもたちで積木を置いて遊んでいた。	挑戦する気持ちを受け止めながら、危険な場面に声がけをしてできるようにしっかりと見守る。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	積木とマットを使い、活発でいた。	4. 対象児の見ていた	長縄跳びや鬼ごっこをいる動きを積木遊びをしていることは、分かっていたが、瞬間その目が離れてしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の園児遊びを援助した。		様々な遊びが展開しているときは、ひとつの遊びに保育者が集中しすぎることないように、全体の動きを見るようにする。	
657	令和6年6月10日	3. その他	7. 小規模保育事業	6	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	6		5	1					0	3	14. 2歳	1. 男児	風はあったが、気温は高かった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		1. 意識不明	1. 頭部	軽度の熱中症と風邪気味	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	給水間隔が普段より長くなってしまった(40分弱)。	30分間隔で水分補給をするように徹底する。	園外保育かけ出る先発した職員が周りの環境等に危険等がないか確認を行う。	3. 未実施	2. 不定期に実施		3. 未実施		-	保育者に「疲れた」との訴えはあったが、いつも通りんだ。休もしてにうとベンチに戻り、つ伏せにつ伏せ寝た。	1. 集団活動中・見守り	風はあったが、気温が高かった。	気温が高い時は、園外保育を中止する等考慮する。	1. いつもどおりの様子であった	2. 対象児の近で対象児を見た	保育者が一緒にいたが、他児を向けた児に再度本児を確認したところ、伏せ反応がない為、駆け寄った。	2. 担当者・対象児の動きをていた	自分が担当している園児を中心に見ていた。	本児の体調の変化に気付かなかったため、本児を重視せず、他児と同程度の注意しか向けていなかった。	一人一人の動きを把握し、把握し切れない時は、職員同士声を掛け合うようにする。	
658	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	34								4	3	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	鼻の周辺の腫れ	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	他児に気を取られて視線が外れていた可能性がある。	事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	事故が起きたのは床ら平らな面であったが、周りに階段があり保育者のチェインポイントが多い。	複数の保育者でゲームを見守り、しの見逃しないようにする。	1. 集団活動中・見守り	ゲームの特性上、動きが不規則で咄嗟に対応できずに正面衝突した可能性がある。	ゲーム開始前にもたの子どもとルを集中し参加できるにする。	1. いつもどおりの様子であった	朝から、健康視診をしながら本児の様子を見ていたが、いつも通り元気に遊ぶ姿が見られた。日頃から動きが活発である。	2. 対象児の近で対象児を見た	ホールでしっぽ取りゲームを進めていた。しっぽを取られた子どもやルールを守れていない子どもへの声掛けをした。他児と本児が衝突し、泣いて鼻水が出ていた為、他の職員へ本児の側に来てもらうように声掛けする。	2. 担当者・対象児の動きをていた	ティッシュペーパーを持ち本児の側へ駆けよる。鼻血も出て為処置をする。	落ち着き子ないに声をかけながら全体を見守ったので、視線がそれていた可能性も考えられる。	複数の保育者がいる場合など位置に死角のないよう配慮する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他													実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
659	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80	2	9	10	16	22	21			16	16	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	-	雲梯を行う場合は必ず教職員が付いて見守っていく。一番高い所が170cm、低い所でも150cmある。園児に伝えることを伝え、充分に気を付けて遊ぶ事を教える。	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	随時	-	雲梯下の柔かにが芝地面をらるを植え。	1.集団活動中・見守り	少し離れた所で、遊び行っていたた石けびを行っていて、手にが滑りやすい状態になっていたとも考えられる。	雲梯のつ方を順手でつ手にむかに指導す。必ず教職員が見ていて守っく。遊びを行う場合は雲梯上の同時使用を行わない。職員が確認後使用させる。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯に上がる。左一番棒手で一番目の横棒をつかみかけを右かみかけ。蹄が滑りそ足が滑りそのまま臀部から落下。背中をつ背中、その後起き上がった。	2.対象児の近で対象児見た	9:40　本園児に見てと声をかけられ、一連の行動を見ていた園長が、本園児が危険すぎる旨に瞬時に受止める等の対応が出来なかった。本園に話しかけて意識の有無と怪我の状況を確認する。若干の腫れは見られたが、本児は痛ち難いでおり痛みを訴えと事もなかった。職員室で冷湿布を行い様子観察を続けるも、痛みを訴えたり腫れがひどくなる様子も確認できなかった為、クラスに戻らせ継続観察を続けた。11:15右肘周辺に腫れが見られるようになったとの担任からの報告を受け園長が確認し、簡易ギプスを施した。家庭に電話し受診を進めた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	当日はフリー参観日であり多くの園児と保護者にいたため、複数の職員が1人の児童を見ていることが出来なかった。	-	子ども達と合流に遊びを見守る。	
660	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11			4	7					3	2	14.2歳	1.男児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左下肢挫傷、左膝骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突による転倒	1.あり	3.未実施		2.基準配置	-	事故予防に関する研修の機会を設けるなど、ソフト面での体制を強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	随時	-	引き続き随定期・時の点検を徹底する。	1.集団活動中・見守り	-	基準配置に慢心せず、引き続き集団活動中の見守りを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	ホール内でソフトみ木ンジャンプ積らして遊んでいた。	2.対象児の近で対象児見た	同じホール内の、対象児が目に入る場所で他の園児と遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	同じホール内で、他の園児と遊んでいた。	-	基準配置に慢心せず、引き続き集団活動中の見守りを徹底する。	
661	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	45				15	15	15		●●少年自然の家職員	2	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	朝の自由遊び中、複数の保育者で監視をとっていたが、目したミングが離れたをタイグで起きた。	自由遊び中、監視を怠ることの保育者で監視をとっていたが、目したミングが離れたをタイグで起きた。	自由遊び全体を監視する、園児の側で見守る役割を明確にした監視体制を強化する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	1回/週		園児が遊ぶコーナーには保育者側で見守る。	1.集団活動中・見守り	自由遊び中、遊戯室内に保育者はいたが、本児がいるコーナーに保育者がいない状況だった。	園児が遊ぶコーナーには必ず見守保育者がいるように体制をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	重型のカラフルトラー積み木ねた大ソフ座ったとみられる。	3.対象児から離れたところで対象児見てい	全体を監視する役割をいたため、園児の動きを確認していたタイミングだった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	遊戯室内で、他の園児と遊んだり、室園児を他の見守っていたり、連絡ノートの確認等を行っていた。		連絡ノート等の確認は、朝遊びの自由遊び以外の時間ですることに、遊戯室で監視をする保育士の数を増やす。	
662	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16									3	0	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突による転倒	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	鬼をごっこしていたため、走ることがし意識に向いてまい、体制を保ずに転倒してしまったと思われる。	保育士は子ども達と遊びながらも全体や個々ども子の遊ぶ様子に十分に気を付けていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	転んだ際に出腕をくもに前にした床打のとられ。	子ども活動の予測を行い、転倒時危険と思われるものが床にない等、場所の安全に注意活動を行う。	1.集団活動中・見守り	好きな遊び合う友達や遊びをそれぞれ分けて遊んでいた。	分散して遊び子の様子の全体を把握など、遊びの状況を見ながらわっていく。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う友達に鬼ごっこを始め、走った。	3.対象児から離れたところで対象児見てい	子ども同士で始めた遊びだったので、子ども同士で始まった遊び。本児が側を走り去ったと思った後、床に音の倒れたので駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の子の遊びのトラブル対応や担当児等に関わっていたりしていた。	子ども同士で楽しむできる年齢ではあるが、遊び方や遊びの内容を見て配慮や補助を行っていく。	子どもの活動中も安全に見守りながら、危険につながる場合は声をかけるなど行動を予測して見ていく必要がある。	
663	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22									3	3	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士突による衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		危険な行動があった場合はその都度注意していく。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1		少しでも危険な所があるは、その場ない。	1.集団活動中・見守り	お遊戯室にカーテンがあり、日中はまとめている。	カーテンで遊ばないように徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	カーテンに隠れて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児見てい	カーテンで遊ばなお約束でいまったが、遊びたんので職員が注意した。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	お遊戯室は広いので、ちら子ばって子どもたちを見ていた。	本児はカーテンに隠れていたので、その場で走った子もお互いが見えていなかった。	子どもたちの動き気を付けて見ていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者						事故の転帰						事故誘因	ソフト面						ハード面									環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					発生時状		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
664	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	13								1	1	17. 5歳	1. 男児	本児はこだわりが強く、切り替えが出来ず癇癪を起すなどの行動る為、子育て相談や医療機関を受診している。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	2. なし	2. 不定期実施	随時	2. 基準配置	事故当時中は、年中児と合同で直前であり、園児に対し保育士1名だった。子どもたちの行動差が生じる、全員に目が行き届かなかった	事故予防マニュアルを早期に完成させる	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊戯室は清掃後であり、本児も内履きを履いていた。特に滑りやすい環境にはなっていなかった	安全点検について引き続きは実施する	1. 集団活動中・見あり	運動会の実習や練習生（大中学生学生）が入っていたことでもたちに疲れや興奮が見られていた	夕方の職員が少なくなる時間帯は子どもたちが気持ち落ち着けるを過ごせる努める	3. いつもより発声活動的であった(理由を記載)	体調は悪いはないが、朝より気持ち沈の浮き沈がみられた。遊戯室に入り荷物を後でかけた後では座って待つ約束していが、本児は直ちに座ることなく遊戯室を走り回っていた。	4. 対象児の見ないた	本児と同じ空間にはいたが、遊戯室に移動後荷物や他児をしや対応をしており、本児が転倒した様子は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	合同保育の時間帯だったが、年中児は遊戯室に移動していなかった	遊戯室に移動し、荷物をかけた後の指示（座って待つこと）が、徹底されていなかった	遊戯室に移動した後の約束を再度子どもたちに伝える	
665	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	18								3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	1		本児が走りだした時、１名の保育士の後ろから見ていた。本児はよく走り回る傾向があり、今後複数保育士で見守り・声掛けを継続する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	使用前後毎		今後も危険箇所ないで共有し、危険箇所は迅速に修繕する。職員間で情報	1. 集団活動中・見あり		全職員で声掛けを見守る。	1. いつもお様りの子であった	朝も元気に登園し、その後も普段どおりだった。	2. 対象児の近で対象児を見た	1名の保育士が後ろ見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	園庭に保育士が固まってお互いに距離をとっていた。		怪我に気をつけるように声掛けをする。担任間で連携する。	
666	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	35					19	16		6	5	16. 4歳	2. 女児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨通顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	12	遊具で遊ぶ際の職員配置に不備があったと考えられる。	下見の際、危険を伴う遊具への職員配置を工夫する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園内における安全目を、園外保育の際に活かせなかった。	園外保育の際、遊び始める前に再確認を行う。	7. その他	保育士５名が見守っていたが、本児が雲梯を渡ろとは誰もいなかった。	４歳児にとっては高さがある雲梯で あり、保育士が常時見守るようにすべきだった。	1. いつもお様りの子であった	本児の前にいた男梯が雲梯を渡った、自由に出来るため、分ると渡り始めた。	4. 対象児の見ないた	雲梯があ反対側保育には士がいの姿はえない場所だった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	それぞれ遊具の固定遊具に付きを添えた。	高さのある雲梯は落下して怪我をする可能性があると予測するこが出来なかった。	危険な遊具を離さず、保育士が付くようにする。	
667	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	94	7	17	17	18	17	18				20	20	15. 3歳	2. 女児	典型発達である。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折（橈骨、尺骨）	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期実施	1. 基準以上配置	12	-	上記に記載したマニュアルや研修はいい行り、職員の配置も基準以上であり、改善策は見当たらない。	事故予防マニュアルを早期に完成させる	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施	頻	子ども達が部屋を移動する際（特に階から２階への移動時）保育士が危険のないよう声をかけ、滑りを届けるこ止化（子ども達が滑りやすい箇所に直接貼り付ける。）	3. 個人活動中・見あり	-	部屋を移動する際の注意事項や、約束について確認する時間を毎日とり、子ども達の意識を高めるとともに、階段昇降時のルールのイラストや注意を促すメッセージを階段や階段付近に掲示し、子ども達が視覚的な情報から正しく理解できるようにする。子ども達が部屋を移動する際は保育士が危険のないよう声をかけ、見届けるようにする。	1. いつもお様りの子であった	年長、年児への憧れ、階段や、降りでの降りってなどし滑りるを真似しまったのではないかと推測される。	4. 対象児の見ないた	子どもが保育室から出て、廊下や階段部分に行った時には、限りるにできる見届けルールなっているが、当時も子ども達の応えの遊具の準備やトラブルなり児童の見守りため対応できかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	子どもが保育室から出て、廊下や階段部分に行った時には、できる限りるに見届けルールなっているが、当時、後の受れや、ずっている児童への対応で対応できなかった。	-	職員が出勤する時間までは子ども達ぶつ場所を制限段を使用し、対応のように、３人の職員の役割分担を再確認し、対応可能な保育環境を検討する。	
668	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	14								3	3	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯乳歯1本欠、口腔内裂傷	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期実施	2. 基準配置	数	乳歯が抜けた場合の乳歯の保存方法（牛乳や生理食塩水に浸しさよ乾燥させないうる）について理解が不十分だった。	事故予防について職員会議で使っ研修を定期的に行うとともに、抜けた乳歯の扱い方について共通理解を図る。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	-	定期的な点検を安全を継続するとともに、直ちに安全策を危険の除去を徹底する。	3. 個人活動中・見あり	-	個人活動中の園児の動きしっかり見守るとともに、保育者は園児の動きから目を離さないようにする。	1. いつもお様りの子であった	下痢気味ではあったが、も通り元気に活動していた。	2. 対象児の近で対象児見た	他の園児児が車のおもちで遊んでいるところを距離で見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見なかった（至近距離にいた）	他の園児の動きも確認しつ、担当者の対象児おもちゃで遊んでいるところも視界に入っていた。	-	保育者同士が連携し、園児一人一の動きを把握できるような位置取りを工夫する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
669	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32				16	16			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	保育士はつい目についていたものの、園児の突発的な飛び降りを、阻止出来なかったが原因の一つに考えられる。	想定外の行動が起きうることを踏まえ、安全な見守りについての意識の持ち方を再確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	固定遊具の使い方で安全な使用法を子どもたちに伝えきれていなかった。	職員の立ち位置や役割分担（遊びを見る職員・全体を見る員）を徹底する。	1.集団活動中・見守り あり	固定遊具の作ら、遊具使用法の確認が必要。	正しい固定遊具の使用法を伝えるとともに、保育士の見守りを徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に固定遊具で遊んでいた。	2.対象児の近象児を見た	2.対象至対を見ていた子どもたのうに守った。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	園児の見は職員が分担している。他職員は園児に一緒に遊んだ。	今回、飛び降りきた園児とのの接触の触園児ランスを崩したことで起きた事故なので、突発的な行動に注視が必要と考える。	保育士の見守り と、想定外のことも起きることを保育士は十分理解したうえで保育にあたる。	
670	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16								3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	13	1.基準以上配置	副担任（非正規職員）１名が７～８名の園児を遊戯室で保育していた。主担任に比べて、研修の機会が少ない職員だった。	非正規職員の安全管理に関する研修の機会を増やす。また、服務倫理や、ヒヤリハット事案の状況と改善策を全職員に徹底でしっかり共有していくよう改善する。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	6	雨天時で多湿く、転びやすい要因があった。	天候や、園児の気持ち容に応じて、遊び場を変えたり、言葉かけのえた工夫をしていく。	3.個人活動中・見守り あり	天候や、場の雰囲気からケガの起こりやすだっ状況だった。	ケガの起こりやすい状況下ていては、遊びの種類や遊場の択、環境設定の工夫等について普段以上に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室で鬼を捕まえ走っ時っ、滑り転び、床に左手小指をぶつけた。	3.対象がかたち児を見ていた	象からたところ対を見ていた	こいつごっこ様子的にてが、見が直面の場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	保育室では、園児の７～８名を保育した。	自由遊び時に遊戯室で回ごっこをしていた。園児の希望で、保育が天候の状況に合びの遊提案・場の選択をするあった。	天候や場の状況に応じた言葉かけ、環境設定をしていく。	
671	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15								2	2	15.3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右瞼裂傷	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	排泄後の手洗の際し台手に流しの前でつ転のまず倒した。	手洗場に保育士が必ずにすようにする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	排泄後に手を洗おうとしてトイレから離れた保育室の手洗場の手前でした。	排泄後はトイレで手を洗うにする。	7.その他	保育士が手洗場の落ちてそばていご飯粒を拾ったイで男児が転倒しまい、手を差し伸べたが間にかった。	転倒した怪我が予測される場面では他の作業を行わない。	1.いつもどおりの様子であった	急いで手ってを走ってしまった。	2.対象至児の近象児を見た	保育室の手洗場に手つき、排泄後にトイレで子どもの順に手洗を見ていた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	トイレ内子どもの排泄介助をしていたためいた。	保育士がそれぞれ離れた場所で子どもたちを見ため一目てた。	3歳児の行動を予測し、子どもたちから目が離れない環境設定をする。保育士同士で近くで声をかけ合えるようにする。	
672	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				7	8			3	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	２～３	1.基準以上配置	・安全管理に対する認識の甘さ。	・安全管理に対する意識向上。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	2.不定期に実施		・特になし。	・特になし。	1.集団活動中・見守り あり	・遊具の使用正しい方の指導不足。	・遊具の使用法の指導。・遊具の見配置の見直し。	1.いつもどおりの様子であった	・運動遊び楽しびんでた。	4.対象動見なきていかった	・他の遊具に付き、対象児が使用し遊具職員いかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	・遊戯室にはいなかった（各担当職務遂行中）	・職員の認識不足。	・活動前の話し合いによる共通理解と連携。	
673	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	42	0	6	7	10	9	10	0	6	6	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	誕生日は会遊戯室にて主任保育士も名保育士含めの保育士３名ども育をのでのをしていた。が、事故発生時に、５歳児は、担任児給食の５分間遊戯室から６離れ、６名の保育士で行った。	職員配置の基準はしている満たはいるが、担任が抜けたときに怪我をしまった保育士一人が自クラスだけで、子ども一分のスなく、保ども全員育するにいく。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	50	2.不定期に実施	12	安全点検はこまめに実施しているので、引き続き危機管理に徹底らいくにする。	1.集団活動中・見守り あり	上履きを履き忘れたことと、振り歌場関係履きあるあるがあるあるがあるがあるが

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面									環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
674	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21								3	2	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝よによる突	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置		室内では走ったりスライディングをしない。	2. 不定期に実施	12	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	毎		ハード面改善すること思いなとは当たらないが、室内での過ごし方を達成子ども活動に子とと再確認する必要はある。	3. 個人活動中・見守り		活動前に子どもに落ち着いて過ごす事を伝えるす	1. いつもおりの様子であった	自由時間で、好きなパズルを自分の好きなタイミングで取り組むことが出来る。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	自由時間で子ども達を見守っていた。スライディングをしているところは目撃しており、危ない事であることは声をかけて注意はしていた。しかし、泣いたり、痛がる様子がなかったために、まだはたから訴えが無かったため、骨折していることには全く気付く事が出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった		加配の子どものそばで見守っていた。		室内では落ち着いて過ごす。	
675	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	25								2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左足関節捻挫	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置		活動するにあたり、適切な職員の配置を行っていましたが、引き続き配置数には気をつけ目配せにも注意していきたい	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	開園時は毎日実施	1. 定期的に実施	開園時は毎日実施		引続き、定期的にて実施していく。	1. 集団活動中・見守り		今後も、戸外遊び中、子ども全体きが動きると見ころに立ち見守ったり、変わったこないとか気をとか配ったり、または何か問題があったらかけつけたりして適切な対応ができるようにしていく。	1. いつもおりの様子であった	ブランコを両足先のつまで止めようと足の甲にバラを崩して地面をきしてを後も、元気に走った。	2. 対象児を見ていた	ブランコ両足のつまで止めようとし足の甲にバラを崩して地面をきしてを後も、元気に走っていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった		同学年2クラスで戸外遊びをしていたもうラスの担任もいたが、別の場所で子供たちを見ていた。		ブランコ止め方を、改めて子ども達と確認したり、ケガがないか、変わった様子はないか子ども達の様子を今後もしっかり見て、状況に応じて適切な対応が出来るよう、職員間で今回の情報を共有する。	
676	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	24								4	4	14. 2歳	2. 女児	食物アレルギーのため除去食提供(小麦・大麦・卵)	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		6. その他		食物アレルギーによるアナフィラキシーショック	6. アナフィラキシーによるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	除去食対応にわらず関係者が育士誤って本来のおやつのドックを配膳してしまった。	本児用お盆での提供、担当が前に栄養士・園長ス内での声出し確認、保育士が必ず付く。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24		・椅子・テーブルの固定。 ・おやつ・昼食前後の消毒。 ・食後の清掃・消毒 以上の徹底	6. 食事(おやつ)中	除去食の最配膳が後になってしまった。	個人のお盆し担当保育士が最初に配膳をする。	1. いつもおりの様子であった	席に座り配膳を待った。	4. 対象児を見ていかった	配膳後本児が一口食べたに気づき職員がいで止めた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)		他児への対応をしていた。	除去食対応にわらず関係者が育士誤って本来のおやつのドックを配膳してしまった。	本児用お盆での提供、担当が前に栄養士・園長ス内での声出し確認、担当保育士が必ず付く。	
677	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	40				14	11	15		4	4	18. 6歳	2. 女児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折・左上腕肘頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	園外保育に対するマニュアル内容、人員配置に問題はないと考える。	マニュアルの再確認を行う。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	遊具の傾きや破損はなくルールを守れば安全に遊べるものであった。	特になし。	1. 集団活動中・見守り	園外の遊具のことから、普段遊び慣れていないことから、遊び方を誤り怪我になった。	遊ぶ前にまた子どもたちに遊び方を指導すると、そばにいた際は、その場で指導。	1. いつもおりの様子であった	元気に登園し、歩き●●園まで公園かっ向った。公園内でも、遊び活発に姿が見られた。	2. 対象児の近で対象児見ていた	公園内に遊具が3つあるが、1人職員が1つ1人職員ずつ子どもが安全に遊べるように見ていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった		公園内の遊具に1人ずつ職員が、残り職員は、全体をみていた。	近くにいた職員が、飛びと止ることを降りころことめが出来なかった。事前に遊び方で子どもたちに注意を促していたが、再度注意する必要があった。	職員間での連携が取れなかったわけではないが、怪我につながるおそれがあることを職員間で共有できるとが必要。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
																うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																	
678	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	68								4	4	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右環指打撲、左環指末節骨骨折の疑い	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	本来、世話に行くはずのフリー職員が休憩時間を間違えた為、他学年から職員を頼んだ。	正しい時間に休憩をとる。人が少ない場合は対応できる職員が来てから世話を行う。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	2. 不定期に実施	-	ブロックを置かずにドアを改修する必要性があるのか検討する	7. その他	-	ブロックを動かすのは、大人が行う。	1. いつもどおりの様子であった	保育者よりも先に、子どもも達だけ程先に行き、世話をしようとブロックを持った。	4. 対象児の動きを見ていなかった	職員が靴替を履き替える、世話をする準備をしてから向かった為、子どのの為、子どもたちの動きを注見していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室にて、動物当番以外の子どもの保育をしていたため。	-	保育者も一緒に行けるよう、子どもと一緒に準備をする。	
679	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	175	2	6	8	53	57	49		41	32	16. 4歳	1. 男児	特になし	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨頚部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	廊下に出た際には、廊下も見守る	トイレに行った際の廊下の様子も見守る	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	廊下に中央線を設け、右側歩行の指導	廊下を走ら指ない導ら導て行う	6. 食事(おやつ)中	預かり保育中の安全確認	預かり保育中も廊下に出た際には見守る	1. いつもどおりの様子であった	おやつの準備で、友だちよりと行すると走ったとうだ早うため	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育室でおやつの準備を進めていたため	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育者と保育室の準備をしていた	2人で保育室にいて、廊下を見ている保育士がいなかった	廊下、トイレに行く際にはそちらを見る保育士も必要である	
680	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	15								3	3	15. 3歳	1. 男児	身長：約90ｃｍ　体重：約15ｋｇ（●月時点）	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	非開放骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	-	担任の先生の経験不足からくるため、スキルアップの必要性	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	-	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	一人ひとりの間隔が不十分であった。	広い運動室または庭で、ごっこ遊び行う。間隔も広くとる。	1. いつもどおりの様子であった	朝は静かに部屋でお部ごっこ自由に遊びでは達中お友だちとお友達わるで、笑顔もあり活発に動く様子が見られた。	3. 児童が見ていない	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	走り出す子ども達7名の全体を見ていた。（一番端の位置にて）「よーいどん」の合図をし、走り出した子を後ろから見ているが、本児が転倒したときには既に先に転んだ園児が本児に覆いかぶさった状態だった。すぐに駆け寄り二人を抱えて起こす。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	お帰りのため、他の支園児の支度や荷物の確認等を行いながら、7人の子どもたちが走る様子を見守っていた。	帰り支度に合間におりたため、子ども全体の活動が統一されておらず、保育士もかけつけこの練習中できる状況でなかった。	年齢的な部分も踏まえ、特にケガを伴うかも知れない体を動かす活動を行うときは、計画的に安全を確保できる上で行う。	
681	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	18								4	4	14. 2歳	2. 女児		5. 食事中(おやつ含む)	2. 死亡	6. その他	0. 死亡	0. 死亡	急性脳腫脹型脳症	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	本事案はソフト面の不備等に起因するものではないと考えている。	引き続き危機管理マニュアルの内容に園内研修を中心に園内研修等を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	本事案はハード面の不備等に起因するものではないと考えている。	引き続きAEDをいつでも使用可能な状態にする。	3. 個人活動中・見守りあり	本事案は環境面の不備等に起因するものでは考えている。	引き続き園児体調不良時の対応が適切に行われる配置基準以上の職員配置を行う。	4. 具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	発熱前は普段と変わった様子は見られず、発熱が認められなりでいて自力で起き上がり麦茶を飲んだ。その後視点集中・唇の血色・けいれんが見られた。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象に接していた）	定時（10時）の体温測定により発熱園児を確認した後、保護者に連絡し坐薬使用を相談、その後園児が視点が見られ他の職員に応接を要請するまでの間はマンツーマンの状態であった。なお、担当職員が保護者に連絡している間は別な保育教諭が園児とマンツーマンの状態であった。	1. 担当者・対象児の動きをていた（至近距離にいた）	発熱以外の症状が出始めた際に応援の要請があり、担当職員の教諭2名が対応に加わった。（1名は担当職員と合流し園児の処置、もう1名が事務室へ事態の連絡。）	職員の対応（救急要請・応急処置）や連携（役割分担の判断）について問題はなかったものと考える。	同様の事案が発生した際に対応できるよう救命救急講習受講を継続する。	
682	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	15					7	8		2	2	17. 5歳	2. 女児	●月●日ギプスが外れ完治した。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘頑若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	平均台の設置位置が横向き。	職員及び子ども達へ、けがをした状況を周知する。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	13	1. 定期的に実施	24	特になし	平均台のぐらつき等を点検する。		平均台の設置向きを変える。	子ども達へ、平均台はまたがず、横をまたがずを通るよう知らせる。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいたぐにくいため、砂を払う。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にはいたが、他の子ども達を見ていた。	特になし	危険と思われる個所への人員配置をする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 | | | | | | | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 | うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転倒 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制									教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
693	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝（始業～午前10時頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	14								2	2	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左手首の若木骨折（正式名称ではないとのこと）	2. 自らの転倒・衝によ倒しもの突るの	1. あり	2. 不実定期に実施	1	1. 基準以上配置	特にない	途中からゲームに加わる園児がいる。一度ゲームを中断する。中断中は中当ジャンプをしないように園児に伝える。	1. 定期的に実施	250	1. 定期的に実施	50	1. 定期的に実施	250	特にない	何もない園庭（地面）での怪我であり、特に改善策はない	1. 集団活動中・見守りあり	特にない	ゲーム時に起こる危険を予め園児に伝え、注意喚起する。	3. いつもより活動的であった（理由を記載）	本児の大活動好きであり、登園の際にすぐにゲームがまったことで、早くゲームに加わりたい気持ちがあった。	2. 対象至児の近で対象見た児てい	園庭で一緒にゲームに加わっていたため、2人とも対象児を近くで見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他クラスの見守りをしていた	対象児は中当てが大活動であるため、ワクワクした気持ちからフィールド内でジャンプをしていた。	ゲーム時に起こる危険を予め園児に伝え、注意喚起する。	
694	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	24								2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右第5指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝によ倒しもの突るの	1. あり	1. 定期実的に施	1	2. 基準配置	事故防止マニュアルをすぐに思い出せなかった	定期的にマニュアルの確認を行う	1. 定期的に実施	290	1. 定期的に実施	51	1. 定期的に実施	290	使用していたボールが硬かった	幼児にあった硬さのボールで遊べるようにするする	3. 個人活動中・見守りあり	投げたボールをキャッチすることに慣れていなかった	柔らかいボールをよえるよう準備する	1. いつもどおりの様子であった	転がしドッチボール から普通のドッチボールにもも興味をもちルールてとく者や友達を誘いボール遊びをしていた。	2. 対象至児の近で対象見た児てい	友達と遊んでいた近見ていため、守った。本児がボールを取り損ねが当たり、ボールが当たり、痛みえたため、指を確認。握った、ひらいたりできたため、様子を見た。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	午睡後、まだ部屋に残っていた子どもの対応をしていた。	痛みを訴えた後も、本児が遊びを続けた	痛みを訴えた時は、すぐにやめさせる	
695	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内（室内）	4. 3歳児クラス	20								3	3	15. 3歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹（首・胸部・腹部・臀部）	左鎖骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期実的に施	1	1. 基準以上配置	本児と今回関わった児童の関係が、この間特に密接になり、ふざけているときに、少しエスカレートしまったと思われる。	あそんでいる姿は把握していたが、今回のことから、起こりうる可能性を視野に入れ、声掛け等更に配慮する。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	4		昼寝布団の上で遊んでいた時の怪我の発生を、クラス全員にも伝えて、遊ぶ時の注意点を確認した。担当職員で再確認する。	3. 個人活動中・見守りあり	この間、家にも遊びに行く仲良くほどの仲良くなっていたので、遊びしていが激しくなったと思われる。	遊び方を少し注視（声掛け等も含めて）すもう少べきだった。	3. いつもより発で活動的であった（理由を記載）	給食が早くに食べ終わり、着替えも済ませ、遊びたい気持ちが強くあったと思われる。そこへ仲良しの友達が来たので、お互いに興奮気味になってしまった。給食合うように遊んでいた。本児が腹ばいになっているとき、他児が背中に乗ってきたとのこと。	3. 対象児が離れたところで対象見ていた	給食の片付けしたのが、まだ着替えていないたので早くえるにけた。	食べるの片付けを児童や、テーブル等の片付けをした。	食べるの児童や、テーブル等の片付けをした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	食べるの児童や、テーブル等の片付けをした。		室内は、着替えをしていた4～5人と、着替え終えて、遊んでいたのが3人のみで、安心していたところがあったので、起こりうる可能性を意識していく。	
696	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	2. 1歳児クラス	8	8							4	4	13. 1歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左手首骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不実定期に施	1	2. 基準配置	ヒヤリハットを報告して危険な場所、行為、遊び方など話し合ったが、きちんと徹底されていなかった。	研修等で出番られない職員は研修記録を回覧するだけだった。研修は回数を分けて、全員が参加できるようにしていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	「いつもじょうずにできているから」という保育教諭の慢心のではないか。	事故予防マニュアルの内容を加えた研修を全職員にしあったりする。	1. 集団活動中・見守りあり	緊張感がいてはいないか。薄れたのではない。	子どもから、目を離さないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	園でも家庭でも、滑り台の登り段を登ることが好きで、喜んで遊びていた。	3. 対象児（対象児に接いた）	「いつも上手に上がれているか、」という気持ちがあった。お尻を軽くながら、上がるのを見守っていた。今日も上手に上がれたと思い、他にも登りたい子はいるかなと、後ろを振り向いた時に本児が転落してしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	コンビカーに乗る子（2か所）、ブランコで遊ぶ子それぞれ、2、3人ずつ見ていた。	戸外遊びをする前に、教諭同士で安全に遊ぶ確認ができていなかった。	1才児が使用するのに適した固定遊具だろうか、考え直す。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
697	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41		9	14	18			3	1	17.5歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	前を歩いていた弟が転び、それを避けるため、躓いて前に倒れた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者に子どもを引き渡し、保育室から出た為、見ることできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に子どもを引き渡し、保育室から出た為、見ることできなかった。	特になし	特になし	
698	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	39		13	12	14			4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	-	今後の研修には、このような事例があった事を続き職員に周知していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	-	室内で遊ぶ際、安全スペースが確保できる遊具の位置に気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり	-	合同保育中の人数が多い時には、活動の場を分けて、子ども達を密集を防ぎ、安全に遊べるスペースを確保する。	1.いつもどおりの様子であった	他児から子ども「この子ことを抱っこ」を「抱っこして」と言われたため。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児から少し離れられた位置にいたもの、発生もあったが、泣いている声に気付いたが、すでに転倒した後だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホール全体を見ていたり、他の子どもと遊んでいた為、その瞬間は見ていなかった。	声掛けで防ぐことが可能性がある	子ども同士のことはしないよう、子ども・職員に周知する	
699	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12							2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	基節骨骨折（右手小指）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	-	引き続き、事前に走らないことを伝える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	使用の都度	-	引き続き、点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	-	落ち着いて行動できるよう声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から行動傾向があり、当日も早くも列に並びたい気持ちがあり慌ててて列に向かって走った。	3.児童が離れたところで対象児を見ていた	玩具の片付けを子側な並ども子ども子様子も見た。列うて本児が走って並ぶとがたの走ようを耳に制止が、入らず間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	動きの大きい（支援必要な）他児の側についていたため、見ていなかった。	-	子どもに声をかけながら怪我のないよう行動を見守る。	
700	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13							1	1	18.6歳	1.男児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	2.集団活動中・子ども達のみ	保育士は、前に転倒した児童達は両手とが出ると考えていた。	身体の使い方を知れる様々な活動を取り入れ、大きな怪我にならない繋がいようしていく。	1.いつもどおりの様子であった	今回は咄嗟の両手をつくことができなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の児童の保護者対応で降順に対象目して対所の手順を伝えるため対象目を離してい児を離した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人担任クラスの為、他の職員はいなかった。	コロナ禍期間、運動時間量が少なく、子ども達の動活動が減り、体力など経年も様くい身体力など経年も様くい身体力など経年も様くい身

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者うち保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 人数 | 発生時の体制 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 教育・保育等従事者 | | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 負傷 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰						事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																									死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
720	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	16									1	1	17. 5歳	2. 女児	なし	1. 昼外活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左踝剥離骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3～4	2. 基準配置	普段からヒヤリハット報告書の提出は行っていたが、具体的な検討会はしていなかった。	要因の分析や事例検討を強化していく。	1. 定期的に実施	1 ～ 2	2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		保護者、職員との手作り園庭である点検が、安全対マニュアルの作成はなかった。	安全点検マニュアルの作成表検表と点検表を再検討する。	1. 集団活動中・見守りあり	他児に気付くことが全落ちて着いていなく、体的に遊んでいた。	本児の位置が等から職員みえない位置であったため、職員が寄り配慮し、死角を見逃さないよう行動する。	1. いつもどおりの様子であった	対象児がもといつもと同じような行動をしていたので、気に留めることがなかった。	4. 対象児の見ていなかった	築山で対象児の見えきないとこいろにいた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	担当職員一人で見守りをしていた。	当日の保育士の立っていた位置が本児の行動が見えくいであった。	今後は保育士がなるべく子どもたちの様子が死角になって見えないことのないよう注意しながら見守る。	
721	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30				15	15				4	3	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	不定期	1. 基準以上配置		教え方、補助の仕方を全職員で学び、園児にも回り方等を指導していく。通常1台の鉄棒で2名同時に利用しているが、1人で回ることが難しい園児の場合には、1台に1名での利用とする。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	複数		鉄棒下にゴムマットを敷いている。砂等で鉄棒が滑る際にはすぐに拭く。	1. 集団活動中・見守りあり		高さの違う2つの鉄棒に2名ずつ、計4名の園児がいた。技などで援助が必要な際には1回に利用できる園児の数を減らす。	1. いつもどおりの様子であった	他児と交ながら鉄棒で遊んでいた。	2. 対象児の近く見ていた	2つの鉄棒の中間で見守りや補助を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	2名は砂場を見守り、1名はグラウンドを見守っていた。		危険予測をし、落下の可能性がある子には対しては注意深く見守り介助する。	
722	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	21									3	3	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷			2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3～4	1. 基準以上配置	外遊びを保育士の人数は足りていたが、1人、先に入室する際に声かけをしていなかった。	見守り人数が減る場合には、職員同士声かけあい、立ち位置を確認し合う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	所庭の地面が乾燥し、滑りやすい状況である。	庭遊び所庭の地面コンディションを確認し、滑りやすい場合は水を撒く等行う。	1. 集団活動中・見守りあり	追いかけたり遊びの際に力が入った可能性がある。	追いかけの際遊びの際にボディタッチをする時の位置や強さ等を事前にたちに伝える。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子なし	3. 対象児の離れたところで対象児をていた	自由遊びの時間だったため、『どけいけ』でなどいただく、他を子どもいるもを子ども全体せをるいた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	固定遊具で遊んでいた子がいたため、固定遊具の見守りをしながら、全体も見ていた。	本児の体幹が弱く、以前転ぶよくが姿が見られていた。	身体の姿勢保持や、いろいろな身体の動きを意識し遊びを保育に取体入れ体幹を鍛える。	
723	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	20									9	8	15. 3歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	8. その他	2. なし	2. 不定期に実施	4	2. 基準配置	園庭に出る前に児童方を話しているが、安全に遊びなびに戸外ついて職員の十認識分でなかった。職員の見守が適切ではなかったのではないか。園庭内での遊び方（内容）が状況を踏まえて適していたのかが問題。	事故予防マニュアルを作成する。職員は、ひとり一人の遊び方を把握し、危険が予測された場合は、未然に防ぐことができる位置に立ちその都度、注意をはらう。園庭のスペースと児童数を考慮し遊びの内容や選び方を工夫する。密集度を考慮し、園庭使用の時間配分をする。園庭で立ち位置から見守られる範囲を検証し、職員の立ち位置を明確にする等、因果関係を究明する。安全な保育について園内研修を持ち、周知すると共に安全な保育について意識を強化していく。児童には、遊びについて教材を活用し安全や危険を認識できるよう繰り返し伝えていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	毎日		見守りの範囲が広く、見落としてしまうスペースがでてしまった。	1. 集団活動中・見守りあり	それぞれの立ち位置から4人の保育士が見守っていたが、実習生と児童の遊び（鬼ごっこ）の動線をうまく予測できなかった。限られたスペースで児童が遊びたい対びに、十分なスペースを確保して行われていたか、遊びの内容に問題があった。	きめ細かい見守りを意識し安全な環境の中で戸外遊びを行う。密集度を下げクラス数を減らす。十分なスペースを確保し遊ぶ。児童からのやりたい遊びに対し、他児童の遊びの状況を十分把握したうえで行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に過ごした。	4. 対象児の見ていなかった	担当職員は、対象児と至近距離なく、園庭に中央位置し対象児と反対方向の他児童の遊びの見た生の把握きず、対象児と衝突する間にしまった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	それぞれの立ち位置で違う方向で児童を見守って、対象児の見ていなかった。実習生の予測ができていなかった。	園庭にいた4人の職員が、広範囲を見渡せる位置に立ち遊び方を把握し見守り必を見要がある。	園庭にいる職員の見守り範囲を広げる。全体を把握しが見守りができる職員を増やす。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																								
724	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	28								1	1	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置		基準配置ではあったが、保育教諭2名以上で見ても可能な状況だった。場面に応じて、事故のリスクが高いと思われる場面では、基準配置以上の保育体制を準備するべきであった。	2. 不定期に実施	3	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12		登り降りを楽しむ遊具であるが、走ってしむもとえ、場検遊具の遊びなどの	1. 集団活動中守り	前日雨で体を動かして遊ぶことができず、気が散りたがるのンスであるため、遊ばない遊具での事故だっ	前日の当日の子様子安全に特徴的な保育体制を整備する。園庭が通りでこと見渡せるように慮するだっ	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りあった。	4. 対象児の動きをていた	対象児から１０ｍ程離れた所で他職員と連絡とっていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	担当職員1名で見ていた為、他の職員はいなかった。		場面に応じて、職員配置を工夫しながら増員したり、また配置場所を考えるなど、見守りの体制を見直す。	
725	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	27					15	12		5	5	16. 4歳	1. 男児	対象児：身長約90ｃｍ体重約13ｋｇ 衝突児：5歳児女児身長約110ｃｍ　体重約21ｋｇ	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘　脱臼・骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置		遠足事前打ち合わせの際にも考える子どもの行動を話し合い、その事故防止策を考える。	3. 未実施		3. 未実施		3. 未実施		初めて行く公園であった	下見の事故がうに起る場所にして気行う	1. 集団活動中・見守りあり	遊んでいる子どもたちがしてまった。	子どもたちの動きを予想し、交差よいするこうにする。	3. いつも活発的であった(理由を記載)	足といもことあり、象児ならんなション高くんだ。	3. 対象児児離れたところで対象見ていた	それぞれの遊具や遊びに一人ついて。お動見移動互いきながらしたスピーも一人つていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	幅広く動き回る園を見ていたので、対象を児だけを見ることはできなかった。	初めての遊具に夢中になり、子どもが交差する形になってしまった。	保育士が動きを予測して衝突などが起きない声掛けを行う。	
726	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	7	1	1	2	2	1			3	3	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具から転落等、落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置		保育施設で起こりやすい事故についてや室内危険箇所について研修、話し合いを合行っている。また、職員体制にも余裕があった。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	1		園庭は、大きなケガや事故に繋がらないように植え環を整えている。	1. 集団活動中・守りあり	異年齢児で園庭遊びをしており、年齢ごと担当を決めた。年齢により異年齢活動が異なり、担当児の担当のとおり（遊び範囲や集中し過ぎてしまった。	児との遊びにしっかりかかわることは大切だが、全体は把握するを必要性を改めて周知徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	園庭で仲良しの児と追いかけっこをした。	4. 対象児を見ていかっ	担当児が遊ぶ安全に確認ていることを認しわって子ども持ち場から離れることを移動した。	2. 担当者・対象児の動きをていかった	6歳児1名、1～4歳児6名を3名の保育士で見守りをしていたが、うち1名が持ち場を離れ、他保育士2名で児の見守りをした。4名は6歳児を抱きながら滑り台、1名は、2歳児と砂場で遊んでいた。保育士2名はその他の児の様子に様子を把握しておらず、砂場で遊んでいた事に気付いていなかった。その為、保育士1名はバランスを崩し、数段から落下する瞬間、もう1名は落下後に気付く状況であった。保育士が席を外した事は承知していたが、全児の様子を見ていなかった	持ち場を離れる児に伝えることで、周囲の保育士にも状況は伝わったが、他保育士に向けて伝えるべきであった。		園庭遊びに限らずいかなる場合であっても、全児の行動を把握できる立ち位置に保育士の声の掛け合いに徹底に努める。	
727	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	29								4	4	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右外果剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	5	1. 基準以上配置	園外を歩いた為、疲労感があった	つまずいたスノコの撤去をする	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園児の通にすがりの置されていた	手洗いを行うために敷かれたスノコであった為、手洗いで行う	1. 集団活動中・守りあり	すのこが通園児の置されていた	園児の通に不要なは撤去する	1. いつもどおりの様子であった	通常の速度で入室	4. 対象児を見ていなかった	他児や後始末に行っていた	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	スムーズに入室できるように声かけをしていた	通常行っている行動の為、注意を促すことがなかった	園児の状況を考慮し、園児の人数を制限しながら入室する	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面											
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	保育等従事者教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故発生防止研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
728	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	46		20		26				6	6	14. 2歳	2. 女児	前日の雨で園庭が湿っていた。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	保育者が4人から3人へとなるときに、3人でのになへると、体制動きことへの意識が薄かった。	年齢児保育士、保育士を含む危機管理研修を7、8月に所定行う。子どもに経験してほしいことを職員間で共有し、そのための環境構成や職員の接則に関する研修に参加する。保育士の子どもに安全向けないような立ち位置について、再度話し合いを行う。教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応の為のガイドラインを西宮市知する。ガイドラインに基づく具体的な指針を策定する。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	240	雨でいつもより底が濡すべすべすべて考える。	・本児の靴底が滑りやすくなっていた。週末に持ち帰りサイズや靴裏の確認をしてもらうよう保護者にお願いした。毎週末靴をかけ直す。・前日に雨が降っていた、滑りやすい様には感じなかったが、雨ぐらいということも考慮だった。・タイヤに砂をかけてがあり、滑りやすくなってしまうので、遊具には砂をかけないよう伝える。	3. 個人活動・見守り	・タイヤから子どもが離れていったことを確認したが、その後もそのタイヤに背けてしまった。しんどくなってきたタイヤにもたれかかる。	・子どもの発達に合わせて、遊び容を見直し補助をしたりする。・タイヤのジャンプは、技台の始め、慣れ始めるにつれ、しばらく。	1. いつもおりの様子であった	事故前、保育者とタイヤで遊んでいた。本児は別のをとと離れたタイヤに戻り遊びた。	4. 対象児の動きを見ていた	対象児がタイヤから離れ別の遊びへ向かったことを届けた。4歳児が、虫を担当職員へ「大見きな虫を見つけたよ、見て」と声をかけ、担当職員はそちらに向きて変関をた当職員はそちらに向きてわった。	2. 担当者・対象児の動きをていた	他児の遊びの見守りを、一緒だりした。遊んでいました、担当タイヤに辺りに、注目ヤに戻り、しばらくしばは認識かった。	・他クラスとの連携の意識が薄かった。	・保育者同士が声の掛け合いをしながら他我に繋がらないように気付きを発信していく。・離れていても特に固定遊具には気をかけていく。・保育者の注目が同じところに行きがちになってしまうので、声をかけ合いながら保育者の立ち位置を意識する。・子どもたちと遊ぶと死角ができてしまうので、全体を見る役割を作る。・自分のクラスのみではなく、全体にも気をつけながら他クラスと一緒に保育をしていくことで死角を減らしていく。	
729	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	56		10	11	19	16			8	8	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆剥離骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	短時間保育士、保育士を含む全職員で危機管理研修の頻度が不足していた。また、子どもの活動や、子どもに経験して欲しい事を職員間で共有し、そのためにブランコを外してそのほかにもどのような配慮が必要か共有する場が足りなかった。	短時間保育士、パート職員を含む危機管理研修を7、8月に所定行う。子どもに経験してほしいことを職員間で共有し、そのための環境構成や職員の接則に関する研修に参加する。保育士の子どもに安全向けないような立ち位置について、再度話し合いを行う。教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応の為のガイドラインを西宮市知する。ガイドラインに基づく具体的な指針を策定する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	支柱にぶつかり支柱下がり支柱下がり際に、着地マットを敷支柱は、点にくく。行わ場合ブランコは使用時マットを倉庫にはあり、支柱は約3余支柱下がりと約3余ブランコは2台外チ本足とチ本足とあった。あった。支柱は太さで本着地面かつ硬さで、支柱の円周は18.5センチ本足とセンチ太さである。	支柱にぶつかり際に、着地マットを敷支柱は、点にくく。行わ場合ブランコは使用時マットを倉庫にはあり、支柱は約3余支柱下がりと約3余ブランコは2台外チ本足とチ本足とあった。あった。支柱は太さで本着地面かつ硬さで、支柱の円周は18.5センチ本足とセンチ太さである。	1. 集団活動中・見守り	最近支柱さよりにくいがられる。	個々の運動の発達段階や経験、子ども思ってもの添って声をかけていく。	1. いつもおりの様子であった	いつも通りの朝入れしし、室遊ん戻り後、戸外に出ずに、虫探しをむ。他柱で始めが支柱ばじめる。	2. 対象至対象児で近象見た	対象児と3メートル離れた台で滑り他園児わった。去の遊びを本児はしていで、守った。より揺れたが、防ぐことなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていた	他園児と虫探した、子ども共感した、子どもがの虫探し、子ども探究できるようにしていた、見ていた。	事故当時、園庭には2〜5歳児合計56名、園長主任を含む職員がいる。他の職員もいるから、一人一人が子どもを全体に視野を広げていなかった。	異年齢児で園庭に出ているときは、園児数もいるが職員数もいるため「誰かが見ているだろう」という気持ちが出てしまう場面があった。クラス担任及び保育士パートを含めての声掛け及び、目配りをしていく。子どもがじっくり遊びこめる環境作りをさらにしていく。	
730	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業〜午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	12	2	2	4	4				6	4	17. 5歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝よるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	数	1. 基準以上配置	-	無し	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	170	1. 定期的に実施	280	-	無し	7. その他	登園前に転倒したことや、土曜日の受け入れ階で行われ、いつもと違う生活の流れ、気持ちが高揚していたと考えられる。	普段から着き落ちのない児童のため、体、行動の本身でコントロールする身に着けていく、静と動のメリのあるハリの運動を取り入れる。	1. いつもおりの様子であった	いつもと変わらない姿であり、母と一緒だとお動き回る。本つけた。強棚打した様子ではなかった。	2. 対象至対象児で児近象見た	受け入れのため、母と話をする。登園前に転んでしまったこと、お迎えなることの内容で約2分程の時間の出来事であり、同じ空間では手あったが手が届く距離ではなかったため防ぐことはできなかった。走り始めた時に、仕度をするように声をかけ促した直後にぶつけた。	2. 担当者・対象児の動きをていた	保育室内児で他園にあたっていたため、見ることなかった。	-	・普段から着き落ちのない児童の、音葉がけでなく、体をが止めながらとも促すこともだった。・受け入れ時に子どもがすぐに保育室に入る見直し、職員に周知する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
731	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38				18	20			5	5	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折	3.子ども同士突きものによる	1.あり	1.定期的に実施	7～8	2.基準配置	周囲や前を走ったことに問題があったのではないかと思われる。	走る時には周囲に気をつけるように伝えていく。	1.定期的に実施	51	1.定期的に実施	51	1.定期的に実施	毎日	特記なし	特記なし	1.集団活動中・見あり守り	園庭に出ていた5歳児のみではなく、4歳児もいた。にいる児は、自分の以外も見守るようにしている。	保育士一人が見守ることができる状況が人数が多く、変わってくので、職員同士で声合いかけ、危機管理面に留意していく。	1.いつもどおりの様子であった	特定の友だちと遊ぶこと多く、激しい遊びをすることはあまりない。	2.象至対象児の近で見た	近くで大縄跳びをしていたが、本縄を回した児の向いたので衝突した場面を見た。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	固定遊具について補助していた。	特記なし	特記なし	
732	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18								2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見あり守り	該当なし	該当なし	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなし	3.対象かられた児離れとで対象児をていた	対象児以外も子どもをせた目配視うとする狭い野外のたちが、本児の行動いなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	計測する方行まい、目とし見ていなかった。	ボール拾いに本倒れ児が転前を足首をひねらせるような行動をわたってしていた。	体育保育や運動能力測定後に子どもたちへの痛いところがないか声をかけたり視診をする。	
733	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	3								2	1	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	その場に職員がいた各々ヒヤリハット報告書をヤを書き、を持ち寄って振り返りを行った。それもとに事故報告書を作成し、職員全体で事故の因・分析、改善策を共有し再発を防ぐ。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	子どもの動線上、テーブル椅子から少しがはみ出ていた。	使用後の椅子をテーブル下に収めることを習慣化する。	3.個人活動中・見あり守り	室内を走って移動した。	子どもがいそいでいるときにゆっくり走ると「ゆっくね」と声を掛けた。また、室内は危険なので走ってはいけないことを、日頃から伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	隣の保育室に行こうと上履きを履いてから、保育室に行く職員われたロッカに靴を履いて、走って行った。	2.象至対象児の近で対象児を見た	隣の部屋に行こうとした児に、本児がロッカーに戻って上履き、隣の保育室向かって走って移動する際、職員は本児が転倒することを予測できなかった。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	隣の保育室の出入り口から本児が走る姿を見たが、本児の足が椅子に引っかかった際、転倒を止められなかった。	子どもが見通しを持って行動しようと自ら子どもたちが引き留めてしまったこと、本児がせいてしまったが、急がせてしまった。	子どものの気持ちを、動線を予測しよう考えを予測できるよう意識する。（慎重さを予測しこと、そうすると、そのことを予測してそれば、又は移動先に上履きを持ってそこで履けるようにいきこるようする。）	
734	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16								1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4・5	2.基準配置		研修項目の実践を増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		一人一人が環境整備を意識し、報告・連絡・相談を密にする。	1.集団活動中・見あり守り		子どもの様子・状況に応じた保育をする。落ち着かなければ無理のない保育を提供する。	1.いつもどおりの様子であった	本児や、並んでいる他児も落ち着いた。接触なトラブルのはない、いつも通り穏やかに過ごしていた。	2.象至対象児の近で対象児を見た	縄を回しながらも、目を保育した。本児の場合もそ跳びする姿を見る。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	同じ空間で戸外遊びをしていたクラスもあったが、離れた空間にいた為、該当児の姿を見ていない。		運動をする前は、準備体操等を取り入れる。体をほぐしてから遊び始める。	
735	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70	5	14	13	11	9	18		22	17	18.6歳	2.女児	特記なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首不全骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		事故報告（ヒヤリハット含む）が全職員できる機会を増やし、毎週1回周知した各クラスで特に気になったヒヤリハットについて昼礼で報告	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		活動前後の安全点検の徹底	1.集団活動中・見あり守り	園庭が狭く、園児が密集し接触しやすく、それを避けるため転倒しやすい環境だった。	園庭を使用する時間帯を乳児クラス、幼児クラスで分けて園庭内の人数を調整する。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良子、の他児とのトラブルもなく普段通りに過ごせていた。	3.対象かられた児離れとで対象児を見た	子どもたちが把握できるよう全体が見渡せる場所にいた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	一人担当のため、職員の他はいなかった		できる限り活動に見合った職員配置ができる配慮がよう、死角のない状態の保育に努めた。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																					
736	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	17									2	2	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員配置も十分に配慮されていたが、事故を防ぐことはできなかった	クラス全体を大人、危険を予測し時に声掛けを決めて保育を	子ども状況や様子を細目に観察し、子どもの興味、関心や遊び場の中で何を取り組んだらよいか会議等で共有していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育環境は危険のないように確認しているが、子どもの特性や情緒に合わせ、場の安全を確認しながら遊ぶよう、職員間で共有し必要を合がある	子どもの様子を見て、危険を予測しながら、声掛けを決めて保育をする。	1.定期的に実施	12	1.集団活動中・見守り	周りにある大人に何か等と一緒に確認し、気を付けて遊ぶ子どもたちに伝えていく。	遊ぶ中で注意することを職員間で確認するだけでなく、子どもたちにも事前に声掛けしていく。	1.いつもどおり通りであった	普段の様子と変わり散歩先で斜面滑り遊んでいた。	2.象至で対象児の近で対象児見た	対象児が上から滑っていく姿を見ていたが、咄嗟的に止めることはなかった	1.担当者・対象児の動きを見た(至距離にいた)	対象児が上から滑っていく姿を見ていたが、認識していた他児のケガの手当を行っていた。	子どもの情緒を考慮しが咄嗟的に衝突を止めることはなかった	子どもの動きを見、危険を予測し時に声掛け合っていく。	
737	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11									4	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上ＡＡ外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	年齢の特性として視野の狭さ、物などに衝突したりすることが故防止マニュアルより）その点についての認識の甘さがあった。	年齢の特性や常に潜在的なリスクがあることを再認識する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保育室の手洗い場（陶器）は、保護などされていない。	保育室の手洗い場（陶器）は、使用時はカバーをする。手洗い場の周囲が濡れていたらその都度拭く。児童に手洗いに場で近くないように遊ばない声をかける。	1.集団活動中・見守り	本児は他児の真似をしてレにズボンを下げたれる。	本児の特性を捉え、行動の予測及びそれに対する大人の配慮（声かけの内容、の行動の静止など）を担当だけでなく職員間で確認する。	1.いつもどおり通りであった	普段、トイレで排泄はしていないが、他児の真似をしてトイレに行き、ズボンを下げたれる。	3.対象からは離れとこで対象児見ていた	保育士1名は全体をみたが、対象児から離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名は室内レで他のトイレの補助をしていた。保育士1名は室内で児童の降所準備をしていた。	本児は一斉かけ行動に移ることが難しいと理解していたが、後の動が遅れてしまった。	一斉の声かけなどに移行動が遅れ、声かけと同時に側に行動を止め守るなどより丁寧な対応をする。	
738	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15									3	3	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		保健計画にまとめることを確施できるよう、職員間で認し、コミュニケーションを取りながら保育していく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1		園庭のチェックは毎日視たにクラス日毎に定期的チェックしが、よるり丁寧に行っていく。	1.集団活動中・見守り	本児はトップを走ってスタートもなく、転倒。トイレ間で他接触等なく、転倒してしまった。	リレーをしていた場所に問題はなく、他児トラブルもなく、本人で転倒。一例してしまったケースのため、改善点なし	1.いつもどおり通りであった	機嫌よく園庭遊び、リレーにも参加し、特記すべき内容はなし	2.対象至で対象児見た	リレーのスタート付近で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	園庭全体を見守ることが出来るよう位置取りした。		担任3名で園児18名の把握できるよう連携を強化する。	
739	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	7									2	2	15.3歳	2.女児	2か月早く出産している。気管支炎や喘息で入退院を繰り返している。そのため発育的に歩行が不安定で転ぶやすい。●年●月に未熟児のフォローアップを病院にて色の識別や記憶力の低さがあるとのこと。歩き方等は問題ないと言われたが園として筋力の低さや歩き方を気にしている。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第1、2中骨骨折(左足甲)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	テラスで方の遊び方や手順を決めていたため、遊ぶ前にも子ども束事を伝えられていた。	テラスの遊び方や手順を決めていく。また、職員間で声かけ方など決めて行く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		安全チェックを行っていく	1.集団活動中・見守り	靴を履いていなかった	テラスに前に出ゴザや靴の用し、担任の間でしていく。	3.いつも発活動であった(理由を記載)	テラスに出た後、一他児と5メートル離に裸足で走っていった。保育者の靴を履く声かけで向走った。	3.対象からは離れとこで対象児見ていた	対象児から5メートルほど離れた所保育者に保育者がいた。他の子どもの靴を履くして対象児履くて対象児に声をかけた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	廊下に出たときの児たあったで対象児見ていなかった。	テラスに出る際に子どもに声をかけて全に促すべきあった。	複数の職員での保育体制を整えていく	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
740	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18								4	3	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨下端の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施的に実施	12	2.基準配置	迎えに来る時間で、保護者も帯に来る達も着く状態や育士も子ども落ちないになりやすかった。	「…ちゃんのお母さんがお迎えにきたよみんなはここに居てね」などと声かけをして落ち着いた状態を保つ	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	冬場で乾燥しておりも滑りやすい状況だった。	マット、仕切り、テーブルなどの配置を考慮する。（走りにくい配置）	1.集団活動中・見守り	落ち着いていた危険が出ないため予測が来なかった。	仕切りやマット、テーブルなどの配置を考慮する。落ち着いている子どもの行動を予測しながら見守る。	1.いつもどおりの様子であった	普段から転びやすく、危険な姿があった。日中は保育士に保育甘とのプレゼントを、手に入れた絵本を持っている事に満足し離れずいた。	2.対象児の近で見守った	他の子と遊びながら守った。走りすとはしが測しく走りたのかった。	2.担当者・対象児の動きをいた	降園する時に、友達とタッチをしたいうちを理解し、待つ対応をとった。	迎えの時間は子ども時間が興奮し急に出がちあるこ走ったことという危険が不十分だ。持ち歩き回った本児座り声かけした絵本を離せずくまでは結しなかった。	物を持って走ることは危険なことを子どもに繰り返し伝える。迎えに来た喜び共感を通しつつ速やかに退室するようにしていく。	
741	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								3	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手指打撲傷、左小指中節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施		1.基準以上配置		職員配置、指導はなかった。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	使用毎	1.定期的に実施	毎日		使用する施設器具、設には問題はなかった。	1.集団活動中・見守り	跳び箱の実技は最終回（全4回）であり、経験はしていた。	毎週行われている体操教室であり、跳び箱の関は実技では最終回問題は見られなかった。	1.いつもどおりの様子であった	積極的に跳び箱に取り組んでいた。講師から跳び方に問題なし、われた。事故時はもたちの中で箱の成発表をした。跳び箱に手をついた際にまたのつきが、打撲・骨折となってしまった。	2.対象児の近で見守った	跳び箱の講師が補助についていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	跳び箱のそばで担そばを見ていた。		ものを様子を観察する。異変があったときには対応できるようにする。	
742	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	25								4	3	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施		1.基準以上配置		職員配置に問題は見られなかった。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	使用毎	1.定期的に実施	毎日	公園の芝生には石や木の枝など、足に引っかかりそうなものはなかった。	使用する場所に問題は見られなかった。	1.集団活動中・見守り	担任が全員追いかけっこに参加してしまった。	担任のうち1名は子ども1人ちの観察のために、見守りをほうかった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園外保育公園にで行くことみを楽しみにしており、いつもより活発な状態であった。保育園で動いており、転倒する多くも見られた。	2.対象児の近で見守った	集団で追いかけっこをしており、対象児ばが見ているが（一緒に走っている）状況だった。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	他の担任・保育補助もそ達近距離にいた。	担任たちが全員追いかけっこに参加してしまった。	担任のうち1名は子どもたちの観察のために、見守りをほうしたほうがよかった。	
743	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9	0	1	1	2	0	5	0	3	2	16.4歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	楽しすぎてテンションが上がり、バランスを崩したため	気持ちがすると高ぶりている際には声をかけるる。走っている、思わとぬ転倒、怪我につこどもがをたちに伝えていくと共に、保育士も注意して見守る。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		1.定期的に実施	毎日	走ってバランスを崩した。	走っていると、思わるわぬ転倒、怪我ことをたえと、園まうこどもに伝えていくと共に、保育士も注意して見守る。	1.集団活動中・見守り		見通しの場所でも何かるからで、すぐ転けるわいので起き寄れる体勢でいる。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近で見守った	すぐに抱き起こし泣き出した。その後は泣きに泣き止んだ。腕を見ると傷なし、腫れなし、赤みなしだった。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	お漏らしをしたため室内に入れた。	その後も様子を見た。	土曜日保育時の対応の見直し	
744	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18								4	3	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨下端の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施的に実施	12	2.基準配置	迎えに来る時間で、保護者も帯に来る達も着く状態や育士も子ども落ちないになりやすかった。	「…ちゃんのお母さんがお迎えにきたよみんなはここに居てね」などと声かけをして落ち着いた状態を保つ	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	冬場で乾燥しておりも滑りやすい状況だった。	マット、仕切り、テーブルなどの配置を考慮する。（走りにくい配置）	1.集団活動中・見守り	落ち着いていた危険が出ないため予測が来なかった。	仕切りやマット、テーブルなどの配置を考慮する。落ち着いている子どもの行動を予測しながら見守る。	1.いつもどおりの様子であった	普段から転びやすく、危険な姿があった。日中は保育士に保育甘とのプレゼントを、手に入れた絵本を持っている事に満足し離れずいた。	2.対象児の近で見守った	他の子と遊びながら守った。走りすとはしが測しく走りたのかった。	2.担当者・対象児の動きをいた	降園する時に、友達とタッチをしたいうちを理解し、待つ対応をとった。	迎えの時間は子ども時間が興奮し急に出がちあるこ走ったことという危険が不十分だ。持ち歩き回った本児座り声かけした絵本を離せずくまでは結しなかった。	物を持って走ることは危険なことを子どもに繰り返し伝える。迎えに来た喜び共感を通しつつ速やかに退室するようにしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面									環境面			人的面								改善策
							発生時の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由	具体的に何をしていたか	具体的に何をしていたか				
744	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	143	9	21	22	27	32	32		4	3	16.4歳	2.女児	●年　左大腿骨骨折　その後、変形治癒矯正手術で体幹ギプスにて固定。●年●月　両大腿部の装具で過ごしていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折　左足首骨折疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期実施的に実施	2	2.基準配置		看護師不在の土曜保育もしているため、本児用の緊急フローを別途作成し、職員共有する	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	以前から使用していた外用ベビーカーのバックルが着脱の際に固く注意を要することがあった	ベビーカーを変更する	1.集団活動中・見あり守り		ベビーカーを別のものと交換する。事故防止チェックにストにベビーカーの点検を実施し、些細なことでも声に出し職員間で共有する	1.いつもどおりの様子であった		1.対象マンツーマンの児童の状態（対象接していた）	帰園時間になり、ベビーカーに乗り、園児尾にから移動する。自動ドアが重り、2枚目をとった際に、のレール（隙間）にが引っかまると児ってしまった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	該当児以外の対応をして先に進んでいた。		ベビーカーに乗った際、移動の際にはバックルなどがちんと装着されているか2名でチェックする	
745	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	38								6	6	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左1番歯亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施的に実施	2～3	1.基準以上配置	初めての他園との交流行事（さらに勝負事）であったので、行動予測がし切れなかった	初めての経験に関するリスクの確認を事前に行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	日ごと	3ゲームで、前日のゲームからその使用した地面の整備などはしていなかった地面の肌が見えていた可能性はある。	2ゲーム終了で少と、り、地面・ボールなど、環境確認を行う	1.集団活動中・見あり守り	休んでいたち頑友も頑張ると持他児る分ろう気持ちが他児より強いかったが、ことをことを踏まえ本方の見し弱児の少しかった	初めに声をかけるなど、気負わずにできる導入をしようを入れをしていく	3.いつも発活動的あった(理由を記載)	ひどくして興奮は様子はなかったが、当日を迎えるまでの期待感も高まくく、体子までいる分ろう気の頑張という気持ちが強かったので昂ぶりは多少あった.	2.対象者児近対象見た	審判だったのでコート中央に立つ。ゲームが始まっているコート外側でいるボールが、ボールを追いかけるので、事前に防ぐのは難しかった	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	他の子と一緒にコートから少し離れたところで応援している。	前日全張りていたことから、2ゲームにさらに分ちと思る。も初めの多揚はあったれない	2ゲームに終了で少し間をとり、水分補給などで1呼吸おく など、気持ちを鎮める	
746	令和6年6月10日	2.認可外	17.地方単独保育施設	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9	0	0	0	3	4	2	0	0	2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置			3.未実施	0	3.未実施	0	3.未実施	0		公園のためなし	1.集団活動中・見あり守り			3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)		1.対象マンツーマンの児童の状態（対象接していた）	戸外では、絶えず走り回っている。固定遊具で遊ぶことは殆どなく、ぎこちない動きである為、突然、滑り台に向かった時には後ろから見守っていた。手を繋いだり、身体に触れる事を拒絶するので、見守る体制を取った。転倒時、瞬間手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	その他の園児と関わった。		今後も本児においては、遊び・行動について個別対応を続けていくと共に対応の仕方を職員間で共有する。	
747	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	13								2	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施的に実施	12	1.基準以上配置		・事故が起きた時は全職員に周知し、正規職員だけではなく、非常勤職員にもマニュアルに基づく研修を行っていく。	1.定期的に実施	12	3.未実施		2.不定期に実施	2	・危険とされた箇所は本社に報告し、修繕や改修をしていく。玩具品については定期的に点検をしていく。	3.個人活動中・見あり守り	椅子が引かれた時に椅子がスペースが狭くなる	椅子が後ろに引かれた場合ろにも机と机の間隔を考慮しての間隔をとる。十分にとる。	1.いつもどおりの様子であった	母親の側に行ったが、忘れ物をしてロッカーに戻った。母親のそばに行きたいという思いから焦っていた。	4.対象児の動きの見ていた	本児が１度保護者の元へ行くのを見送った後は他へ視線を向けた(連絡帳をとりに行った)ため転倒瞬間おまするは見ずにランたらベダ付近にいたので転倒した本児にすぐに手の届くところにいなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	非常勤職員はベランダで水やりをしている児を見守っていたため、本児を見ておらず、手の届く場所にもいなかった。		常に保育室全体への意識を緩めず、危険に注意して見守り、危険を察知した時は、手が出せたり、声掛けが出来るように努めていく。日頃から室内を走行する危険性を伝えていくことを継続する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
752	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨骨折	2.自らの転倒・衝上突るもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置		ヒヤリハットを記入し、毎回事例振り返検討し、職員間で情報共有していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	今回事故が発生した場所は幼児ればジャンプできる高さはあるが、同時に転落りも考えられる。また石が多くつまずくことでの転倒転落リスクが高い。	ジャンプしたときに起こり事故うるをおく。石の除去など定期的に点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	高さのある遊具(設備)で遊ぶ際の注意事、約束徹底していなかった。	安全に登る、無理をしない、転倒した際のこな(受け身)を繰り返し伝え怪我防止につとめる。	1.いつもお様子であった	体調に問題なく同じ様子で遊元んでいた。	4.対象動見をていたかった	数名の園児から砂場で遊びたいとのあったた訴えあったあめ、保育場者は砂場の遊具を出した。	2.担当者・対象児をていなかった	他の職員は配置していない	・事故や怪我への注意が必要落ち着いて遊んでいたため、いったん目を離し砂場の遊具の準備を始めてしまった。・受傷時目立つ外傷がなかったためすぐに骨折を疑わなかった。	・常に全体の状況が把握できる状態にない場合は、場を離れて物をとりに行かない。応援を呼ぶなど職員配置を検討する。・肘内障などの既往歴がある場合や高さのある場所からの転落時は保育士で判断せずすぐに看護師に診察依頼する。	
753	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16			6	7	3				3	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節靭帯損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	延長保育前の時間帯であり、3,4,5歳合同保育であった。順次、迎えに来者へを保護しると保護引してで子の訴えつ中もに気がなかった。	・静かに遊んでいる子に対して、一人一人の子どもの動きを見るようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	・朝、点検はしているが保育中は玩具などが落ちて床に落ちている可能性はある。	・常に室内に玩具などが落ちていか、危ちないか、険につながらないようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり		・日常の中で、見育など飽きるような運動を取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	・いつもどおり、着席して遊んでいた。	2.対象児の近で見ていた	・本児は動きも落ちきも着いたので、離れたことから守っていた。	1.担当者・対象児を動見ていた(至近距離にいた)	全体の遊びを見ながら、保護者に引き渡していた。	・動きが少ないが、子どもでもの動きには注意する。	・歩いていても、足を痛めることもあるという意識を持ち保育をする。	
754	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	12									3	3	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	3～4	1.基準以上配置	配慮が必要なして事故に対する前に止めることができた。	本児の特性を、職員会議毎月で全職員に共有職員どのクラスがに入っても本児が気持ち高ぶった際にルダウンを促せるように園全体で本児を見ていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	年齢や特性に沿った、園外での活動環境や安全面での配慮が欠けていた。	活動で利用する危険箇所を、職員間で話し合い、そこで遊ぶ際に注意すること、どのような遊びをするかを定期的に検証する。	1.集団活動中・見守りあり	本児が、集団からと外れたころで一人遊びをしており、保育士が手を伸ばして事故を防止でき位置で守る範囲を超えしまった。	一定の輪から外れてしまった本児を、全体を見てた含める保育士が立つ。	3.いつもどおりで活動的であった(理由を記載)	普段から活動集団に入ら人ずに1人きっていて動っている姿が多く回る当日時いは登園いつもよりも増しして姿が見ていた。	3.対象児離れところで対象児を見ていた	以前より、集団に入らず1人で好きなことを見つけて遊ぶ姿があり砂山で遊ぶことも多かったため、砂山で遊んでいることは把握していたものの、少しこの離れたところから様子を見ていた。遊具でいる遊んで子たちが多かったため、そちらに目が取られ、砂山に背を向けていることもあった。	2.担当者・対象児をていなかった	本児は砂山に砂が遊具で遊んでいたことは把握していたものの、他児が遊んでいたため、そちらに気を取られていた。	自分の気持ち(欲求)を抑えたりすることが苦手で離しまだ、保育士が止めると癇癪を起こすことも多い児であった。今回も本児の行動を目で追ったり、そばで開わり言葉をかけていたが、砂山を走っている際、後ろ側の方も子ども達が見える位置に保育士が立つ必要があった。	普段から遊びなれている公園ではあるが、色々なことを予測しながらさらに配慮をし、保育士の立ち位置や動き方など声を掛け合い視野を広げて保育をしていく。子ども達にも遊び方やルールなどを伝えていきながら、危険な場所や行動など、一緒に考えていけるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者										ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか				
755	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9	0	0	0	3	5	1	0		2	2	18.6歳	1.男児	特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	額裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.定期実施	1	2.基準配置	公園での遊び方、注意事項など研修を実施した日は開園前であり、その多他にも多研修項目があったため、各項目の理解が薄くなった	戸外遊びに特化した内容の研修、話し合いを実施する	3.未実施		2.不定期に実施		1	3.未実施		滑り台使用の適正年齢（３歳～１２歳）や、園児の身体的な発達を考えて使用する遊具を決めた事が問題であった	適正年齢、発達の時の子どもの様子を見て安全に遊ぶことができる保育者が選択する事	1.集団活動中・見守りあり	本児の第一言語は中国語であり、日本語が不得意である。しかし、翻訳機で中国語に変換しても理解が追いついない事も多々ある。家庭では習い事を多く行っているため外で遊ぶことがあまりない様子。そのために出ると喜び、興奮する事が多い。	保護者と本児を伝え、大きな事を繰り返し伝えていく。また、日本に住むため家庭では日本語を使えるように、今後も家庭で日本語の習得を目指してもらえるよう依頼し、園としてもサポート行う。	1.いつもお様子であった	普段と変わらず活動お発してい、保育者が理解できき子だった。	3.対象児の児離れとこで対象児をていた	滑り台にて降近付かって左側の全ロにて、体の様子を見た。発生時は当時少し離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一つの遊具で遊ぶ他児の遊具を見ていた為、対象児は見ていなかった。	特記事項なし	本児と遊び方について見本を見せ伝え理解しやすいようにし、危険個所が多い遊具があるため、職員人数に応じて遊具の使い方に配慮する。	
756	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節外側靭帯損傷	8.その他	1.あり	1.定期実施	5	1.基準以上配置	・午睡がなくなったこと。休みが明けなどもの子への配慮が不足していた。	・子どもの状態を把握し、状況に合わせた保育をする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	・園庭は凹段差、凹凸がある。	・くぼみ入マットに土を入れる、パオマットを敷くイトなどて、凸凹を防ぐ。外遊び前に水を撒く。	1.集団活動中・見守りあり	・休み明けと午睡をして年長児がいない児に切りる活動は適さなかった。	・子ども者べ態をが遊び状作ら、活動を促す。	1.いつもどおりの様子であった	・数人の鬼園児ごっこしていた。	2.対象至児近で対象児見ていた	・鬼ごっこをいも子を守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の遊様子、危険が無い周囲の点検をしな対がら象児の付近にいた。	・子どもたちの状況と活動、場所があっていない。保育士の配慮不足だった。	・子どもたちの状態を把握し、落ち着かせてから次の保育を促す。	
757	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外側靭帯骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置		首手首さらに準備体操を足などに準備体操をする。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50		遊びの見守りをする際、子どもの動きに反応し、危険と感じる動きに対し注意喚起をする言葉かけ、動きを止める等の対応する。	1.集団活動中・守りあり	寒い時期体がくってことら動きくなっいるも考えれる	足首手首さらなどに準備体操をする	1.いつもどおりの様子であった	体調の変わり、今まで同じで特段ない変化もとの靴のまもの変わり	2.対象児近で対象児見た	園庭で鬼ごっこをしていたこどもたちを見ていたが、子ども達の様子を見ていた本児が砂場に走って、面にきり返りをした。他児が迫いかけてこたこけてかっめ方向変えた瞬間転倒した。他児が、声をかけ方つ、歩走が痛いてるとき、るけるとき伝えた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	全体の子動きいた本児走って、ぎ、振り返り返を変え時転倒たのは見えた。		遊びの見守りをする際、子どもの動きに敏感に反応し、危険と感じる動きに対し注意喚起の言葉をかける、動きを止める等の対応する。	
758	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	14									2	2	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右外踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施的に	随時	1.基準以上配置	今年度●捻挫お月に日頃倒体しており、転倒が弱いから多く体が幹のも要因	戸外で遊ぶ際は更に準備運動を身体十分にほぐしてから遊び手首、足首は特に念入りに行い、寒い日には遊び場所や方に気をつける	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	転んだ際に斜面が少し傾斜のある場所のだったのでバランスが取りにくかった	芝生に傾斜がついていることの事とのこと歩に載せて全体周知する	3.個人活動中・見守りあり	日頃から多幹がい体が転倒く体幹ってことがられ弱った考える	体幹を使うような運動遊び入身体を動かす時間を多確保していく	1.いつもどおりの様子であった	身体を動かす遊びを好み、良い仲の鬼と誘って児合ごっこをっていた	2.対象児近で対象児見ていた	5歳児クラス15人全体を把握する動きを捉え為、15メートル程離れた場所で見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員れてもたび子ちの遊びを守り、本児が転倒したり際にすぐに駆けつけた	なし	準備体操を入り丁寧に行い、手足の筋肉を解し遊ぶ引き続き徹底する	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | |

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】											理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか		
762	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	2. 1歳児クラス	12								3	3	14. 2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左A歯の破折、左BA右A歯の亜脱臼、歯肉裂傷、オトガイ打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置		園外保育先の危険箇所、留意点をまとめたものを作成中である。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	2. 不定期に実施	毎日	引き続き、活動前には転倒等のリスクがないか公園内の安全面の確認を行う。	1. 集団活動中・見守り		日々の子ども姿も含め、年齢に合った遊びの場所であるか、都度確認していく。	1. いつもどおりの様子であった	探索活動をした。	3. 対象児離れたところで対象見ていた	次の場所へ移動するため子ども達に声をかけていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達の探索活動につきながら、担当保育士の動きは把握していた。	本児が転倒した際、保育者それぞれがすぐに防げる場所にいなかった。また段差を降り終わる前に、次の場所へ誘うような声かけをし、結果子どもの気持ちを焦らせることになってしまった。	子どもを誘導する際は、保育士間で連携をとり、声がけのタイミングにも留意し、安全を確保した上で誘導する。	
763	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	19								2	1	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置		事故防止に関する研修の徹底の必要	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	12	築山の衝撃が強い(硬い)	山の特性を職員が理解し、遊び方を伝え、危険な行動は止める。	3. 個人活動中・見守り	見守りが届いていなかった。	クラス担任はもちろん、見守りをしている職員で立ち位置を確認しあう	1. いつもどおりの様子であった	朝から様子はいつも通りであった。体操をしに元気にだだしく走っていた。手意識がいつもより以上にあったのも思われる。	4. 対象児の見ていなかった	離れたところにいたため、見えていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	築山や近くにも職員が見守りしていたが、当該児童がたが転倒したところの動きは見ていなかった。		職員の見守りの立ち位置を確認して声をかけてから移動を行う。	
764	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	18								1	1	17. 5歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離骨折(右足甲)	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	毎月	1. 基準以上配置	活動が頻繁になる秋口は、マニュアル等をしっかりと見直し必要。 活動が頻繁になる向かい秋口での再確認が不十分であった。	全体で安全の確認をしっかりと行う。 保育室のクッション床の床の発性(反発性)が不足していると直裕。 ジョイントマットを敷く。	2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		安全のショット(反発性)足りないことを必ずジョイントマットを敷く。	転倒の際の保護ベッドなどを行う。 側にジョイントマットを敷く。	1. 集団活動中・見守り	児童が大きな怪我をしないように、普段から感じていた。 本児の安全面を大切にしていなかった。	体操の際には、職員がしっかりと子どもの動きを確認し、補助は、他の職員は、子どもを見守る。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りに体操をしていたが、オーバーワークとなってしまったのかもしれない。	3. 対象児離れたところで対象見ていた	他児も見ながらの対応だった為、対象児の変化や対象児の変化に気付けなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のクラスに保育をしていた為。	日常的に慣れている活動であった為、見落としがあった。	体操中は着地後にゆっくりと次の行動に移れるように声をかける。 ・子どもの小さな変化にもすぐに対応できるよう、普段の動きや様子をしっかりと把握し、少しでも違う様子が見られた際にはすぐに声掛けをしていく。	
765	令和6年6月10日	1. 認可	7. 小規模保育事業	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	14	4	6	4					5	5	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置		事故予防マニュアルの読み合わせを行い、職員間で事故予防に努める。 動きの活発な子どもに対し複数の職員で見守れる配置を工夫する。 改めて事故予防マニュアルを全職員に周知する。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	対象児が集中できる遊びを提供し、広いはの慮切りスペースにたりないよう子どもの数を工夫する。	1. 集団活動中・見守り		子どもの気持ちを受け止め、今にいの先を見据えられるようにする。 また、パズルなど集中できる遊びを促したり、広いスペースに仕切りをつけるなど環境に配慮していく。	1. いつもどおりの様子であった	日頃から落ち着いて走ることなく、子どもの影響が回る。防止のための事故や他児の子ども全体で考え、対策を職員間で話し合った。	2. 対象児の近く対象見た	保育士が対象外の話をしていたに、走り出した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内で走ってはいけないことを常日頃から注意をし、走ってはいけない理由を伝えも見守ったが、突然走り出したため間に合うことができなかった。		全職員に対し、事故防止の安全対策について意見を出し合い実践をし対象児にあう方法を探す。 また、夕方のお迎えの際には保護者対応をしながら全体を見渡せるように立ち位置を考える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
766	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	10									9	4	13. 1歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全不備によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	職員の数が多く、かえって教師達の怪我に対する危機感がゆるんでいたのかもしれません。お散歩から戻った園児と、ランチの支度を行なっていた園児、トイレをした園児と、複数の園児が手洗い場・トイレ付近で混雑していたことも要因だとも考えております。	普段はお時散歩をクラとにしてスづらおりますが、当日は「●●●」で預保育かりみだったこともあり、日のスケジュールが通常とは異なり、お散歩の時間が重なってしまったので、今後このようなことがないよう徹底します。	1. 定期的に実施	12	遊具なし	1. 定期的に実施	48	ドアの隙間を覆い隠すカバーを設置しておりませんでした。	指挟み防止用のカバーを設置いたしました。	7. その他	子ども用トイレが1カ所のみで混雑	トイレを増築	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	担任教師は他の児童の手洗い・トイレの支度なども行なっておりました。	2. 担当者・対象児の動きをいなかった	2名の教師が対象児のそばで他の児童のトイレ・手洗いを伝っておりましたが、対象児童がドアにかけたことに気づかずにいました。	ドアを子ども達自身で開け閉め可能でいたことが安全面で問題があったと考えております。	ドアの上部に鍵をつけ、普段、基本的に開閉しないようしました。	
767	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	49			15	17	17				5	5	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	両足関節捻挫、右足部打撲傷、右足関節外側靭帯損傷	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	10	1. 基準以上配置	斜面で走っていて転んだ際の怪我。斜面での鬼ごっこは危ない面が多い。注意が必要だった。	斜面での追いかけっこでは平らな場所で行う環境を考え、子どもにそれとなく伝えていく。子ども達が斜面に行かないよう職員配置にする。	1. 定期的に実施	週1回	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	週1回	斜面でのこっこおいかけっこはしない場所を必要あった。	斜面では、鬼ごっこやおいかけっこ遊びは行わない。	1. 集団活動中・見守り	斜面でのおいかけっこは要注意するとは分かっていたので、遊ぶ場所や内容を考えるべきだった。	土手での工夫遊びの考えを。（鬼ごっこ等のようなおいかけっこで遊びはしないようにする）	1. いつもどおりの様子であった	約束事をうまく守れるかどうか、お友だちに誘われない場合がある。	3. 対象児が離れたところで対象児をいて	対象児が少し離れたところで園児を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	5人の職員がそれぞれ範囲を決めて見守りをしていた。	斜面に駆け上がったり転ぶ考えも注意すべきだった。	鬼ごっこ等のおいかけっこは土手ではせず、土手なら遊ぶ場ではのびをし、職員の配置をする。	こい追っこでは土手ではせず、斜面に
768	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	19									2	1	18. 6歳	1. 男児	休み明けは落ち着かない様子が多い。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足外踝剥離骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	担任と短時間職員名体制で担任保育士が全体を見守る保育になった。	職員が声を掛け合い子どもの様子を共有して見守る位置につくようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	状況に合わせた遊び方についての検討が不足している。	安全点検と共に職員間で具体的な注意点等を再確認する。	3. 個人活動中・見守り	タイヤは常園庭に常備された遊具子どもたちがいつでも使えるよう2，3個積み重ねた状態だった。	子ども一人の遊び方に合わせた使い方を再度伝え、安全に見守られる遊び方を誘いへ。	3. いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	休み明け落ち着かない子が見られた。	2. 対象児の近で対象児見た	園庭にはクラスでそれが好きな遊びを始めて全体を把握していた。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の子どもたちの動きについていた対象児の動きは見なかった。	いつも遊ぶ仲良しの大丈夫だろうという過信が保育士にも対象児にもあった。	気になる様子がある時は、間近で対応出来るような位置で見守り、必要に応じた対応出来るようにする。	
769	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	25									2	1	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2～3	1. 基準以上配置	後ろを気にして走っていたため前を横切る友だちの動きに気付かなかった。	まわりにも気持ちを向けないかぶつからないように気を付けることを知っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	広くないスペースの子ども達の遊びでは使用し、氷オニは残りのスペースを使用して行っていた。	遊びの内容と園庭の使い方を考えて配慮していく。	1. 集団活動中・見守り	広くないスペースで複数の子ども達が様々な方向に走っていた	スペースの大きさと人数・内容等を考えた活動内容にする。	1. いつもどおりの様子であった	氷オニをして遊んでいる時に前を横切ってきた友だちの足に躓き転倒した。	3. 対象児が離れたところで対象児見た	園庭中央全体を見ていた。対象児は園庭で時から5～6メートルはなれたところあった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに行った子が付き添いもどってきたところであった。	氷オニをして気にして走っていたため、他児の足につまずいたときかわして身をかわした。	転倒しそうになった時に身をかわせるようにコントロールできる身体をつくりをおこなっていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	死因	負傷状況	受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																										
770	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	3	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	16	0	0	1	3	5	7	0	4	3	15. 3歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部)	溺水による肺水腫の発症の可能性あり	7. 溺水によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	・当日は年長児揃わない、普段よりも子ども の人数が少ないなどの気のゆるみがあった。 ・「年長組がいないから人数が少ない」ではなく、「年長がいないから小さい子の比率が多い」というより気を引き締めないといけない、という気持ちが無かった。 ・夏のような川遊びではなく、川の水量もいつもとりかないということもあり、川の危険を意識し切れていなかった。	・「全体を把握する」職員の役割を明確にする。 一場から一歩引いて、人数確認、当日の遊び場の危険個所の把握、職員の立ち位置の確認。 遊んでいる時の子どもたちの様子の把握などをして、他の職員に必ず情報共有をする。 ・年中・年長児担当と1～2歳児・年少児担当の職員を分け、それぞれが年齢に応じた活動場所を作れる。 ・リスクマネジメントの感度を上げるため、書籍や現場の写真を使って、危険予測のシミュレーションを定期的（1回／月以上）に実施 ・安全管理マニュアルの作成																																																						
771	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	2								1	1	18. 6歳	1. 男児	なし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	幼児会議を通して深を遊びく掘り下げた話し合いができなかった。	年齢発達に遊び共を合った方を有し、実践していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	テラスの考慮構造を全環境整備りた。	テラスの安全点検に安全や怪我に繋がることを予測し、環境整備を行う。	1. 集団活動中・見守り	保育士が子と遊びながら、一緒に遊び、危険個所の把握、職員の立ち位置の確認。 ・フィールド内の危険箇所が確認来た。 ・（保育）が距離が形になった。 ・子ども離れるなまった。 ・いつもあそこあれ場所いうあった。	活動場所の中でリスクが高い場所を全員職員で再確認する。子どもの年齢によって無理の場所を選び子安全第一に、ただ禁止事項が増えないよう、おとなの見守りを強化していく。	1. いつもどおりの様子であった	午前中は久しぶり歩に散歩に行き、ごっこ（ドロケイ）で楽しんだ。午睡だ、がないこともあり疲れから抱いて考えたとタれた揺たられる。	4. 対象児の動きを見ていた	他の児童に他の場所にこうと誘われた。誘われた方向がよりスクいい高場所だった。童活にとりの高所たた童ため、残しその場を離れた。	2. 担当者・対象児の動きをいなかった	他の職員もそれぞれ別の園児とあそこいんだた。事故が起こった場所は、他の職員から目が届かない場所であった。	・子どもに対して大人多いの数が多いので、誰かが見てくれているだろうという気持ちで、職員間の声かけが不十分だった。 ・当該児は、ぐっと多くなっていたタイミングで、木・ベンチに登ったり、水に触れるなどが増えていた。児童の成長を念頭に入れた見守りが不十分だった。	・職員一人ひとり日ごとの子どもの姿をツールを共有する。ミーティングでも取り上げて、日常の保育に役立てる。	
772	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	13								5	5	16. 4歳	2. 女児	なし	1. 昼外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	裂傷（受診●／●・●／●・●／●・●・4回）	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置		危機管理マニュアルを再確認する。	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日		今回の件に関しては道中でなのので記入無し。	1. 集団活動中・見守り	友だちと手をつないでもう片方は何も持っていなかったが、うまく手がけけずにファストに打ち付けた。手が付ける身体を作る。	朝のリズム体操、雑巾がけを定着させ、9時出発の散歩前に状態体の状態をを確認する。	1. いつもどおりの様子であった	いつもとずとわらだち友手を歩いていた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	保育者は全体的な見守りながらいていた。	1. 担当者・対象児の動きをいた（至近距離にいた）	至近距離ではないが、保育者は全体的に見守りながら、歩いていた。		徒手運動（雑巾かけ）を行い自分の身体を支えられるようにしていく。毎日●●リズムを行い体幹を鍛えていく。	
773	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	6	0	4	2	0	0	0	0	2	2	13. 1歳	1. 男児	事故当初受診した歯科医院では、歯の長さの違いは成長段階の違いによる可能性があるので経過観察となったが、保護者の意向によりセカンドオピニオンで受診したところ、本件診断となった。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の埋入	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3～4	1. 基準以上配置	研修を通じて職員への周知、職員は研修をふまえて実践の保育が足りなかった。（事故防止に関する職員の意識の格差）	各年齢における指導計画作成時に予想されるリスクについての職員間での共有と点検の徹底及び意識の向上。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎回	1. 定期的に実施	毎回	課題のある箇所は把握していたが、改善が未実施であった。	点検結果の集約、整理後の協議、改善と周知、情報共有の強化。特に出入り口のコーナー環境をより安全な配置に変える。	1. 集団活動中・見守り	職員間で、環境関の、環境に関する意識の差がある。	子ども年齢達えた、保育環境の整備、全によること努めると。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの動きであったが、急な動きの変化で転倒の際、事故防止なる職員手が届かなった。	2. 対象児で対象見た児で対象見た	対象児転倒の際、至近距離にいたが、転倒手が届かず、顔が床面にぶつかった。	1. 担当者・対象児の動きをいた（至近距離にいた）	他の職員は、もっと近くに子ども他もがいた事故を防ぐことはできなかった。	個々の発達や特性をふまえ、臨機応変な職員方倒きれなかった要因もあった。	個々の発達特性をふまえ、臨機応変な動き方の周知をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
774	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	32								26	21	18.6歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷			6.その他	2.顔面(口腔内含む)	下顎前歯欠損	8.その他	1.あり	1.定期実施	1	1.基準以上配置	現場にいた3歳児の担任一人が5歳クラスに入り見守る。	現場に人員を園から1人配置する。状況をみていた職員が病院に連れて行く。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24		ハード面の安全に問題はない。	1.集団活動中・見守り	本来グラウンド遊びに使う用具ではないネットを遊ばってしまった。	ネットを遊びに使わないこと、ネットの必要性を子どもに知らせる。戸外で遊びに入り込めるように遊びの工夫をし、必要な用具の提供をする	1.いつもどおり様子であった	グラウンドでは遊びへの期待が高まり興奮気味であった。	3.対象児から離れたところで対象児でいた	全体を見渡せる大縄場で見守りながら見守っていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至距離にいた)	子どもとごっこしながら見守っていた。	ネットを揺らしているのは確認して特いたが特に注意をしなかった。ネットが歯に引っかかるかもしれないという予測ができなかった。	遊びに参加していない児に対して遊びを提供する。	
775	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10								4	2	15.3歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷			5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左前歯打撲	2.自らの転倒・衝よによる突	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	風船を追いかける遊びで自体が、子どもに夢中で周りをずものこと意識しずものことを考えると、保育する職員がその点を踏まえてより安全留意育した必要であった。	子どもの咄嗟の動きも想定し、職員のなども含め、十分な安全対策を心掛ける。	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	1.定期的に実施	1回/日	なし	子どもの視線が床にいかない状況の場合、引き続き床面の安全を継続していく。	1.集団活動中・見守り	なし	引き続きのある遊びでは広い空間を利用しながら、子どもの咄嗟の動きが多いあった場合でも安全が確保できるように保育環境を整えていく。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	広い空間を追いかけるという遊びで、物になり、周りを意識しずらい状況であった。	3.対象児から離れたところで対象児でいた	正規保育士は、1人を迫いかけて見ているという状況ではなく、全体安全的に確保できるように保育していた。看護師は離れたところで、本児の転倒を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見なった	正規保育士1名は、急にホールを出ようとした児童に付き添って、ホールから出ていた。会計年度職員(資格なし)は他の児童と遊んでいた。	なし	遊びによっては夢中になりすぎちなので、子ども達ちを落ちつけさせるような働きかけが必要である。	
776	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	23								3	3	17.5歳	2.女児	●●医療センターで●月●日に鼻の陥没箇所を鼻の穴から器具を入れて持ち上げる手術を行い、●日まで同病院に入院していた。顔面の手術傷などはなかった。鼻の外側からプロテクター保護を行い、●月●日にプロテクターを外す予定であったが、集団保育なので安全面を考え、●月●日までプロテクターをつけていた。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定実施	その都度	2.基準配置	園外保育先の公園であり、遊び慣れていない遊具あった。遊具が学童あり、幼児用ではなかった。	園外保育で利用する施設の確認を行う。	2.不定期に実施	頻	2.不定期に実施	頻	2.不定期に実施	頻	園外保育先の遊具その他いて乳幼児の使用に適合していたかどうかがある。園児は喜んで遊んでいた。	園外保育で使用する遊具の安全確認を園外保育の都度行う。	1.集団活動中・見守り	園外保育守での見守りは園内以上に行っているが、環境面で見通しが見えないる。	園外保育に行く公園等の確認をし、乳児に適した遊具かどうかの判断を行う。	1.いつもどおり様子であった	園児は活動お、特に大きなるはたの外保育園児発してり、ことなので園に行った。	2.対象至児の近対象児でいた	遊具の近員くは見守っていた。園児が遊ぶと園でいるときの言葉をいかけた。	2.担当者・対象児の動きをていた	園外保育に付き添った職員は園児全体の活動を見守ることのできる位置でで把握しようした。	雲梯にぶら下がっていた自身は雲梯をぶら下がることに自信があり、余裕があったため滑りた手落と考えられる。	慣れていても遊具であっても十分に注意することを園児に促す。	
777	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	18								16	12	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	基節骨骨折	2.自らの転倒・衝よによる突	1.あり	1.定期実施的に	都度	1.基準以上配置	保育者同士のコミュニケーションや、声の掛け合い。	保育者同士さらに声掛けと確認。目視の徹底。	1.定期的に実施	１２以上	1.定期的に実施	12以上	1.定期的に実施	１２以上	固定遊具ごっこで鬼中テションがってしまった。	遊ぶ前に、固定遊具の使用方法の再確認を行う。	1.集団活動中・見守り	保育時子どもたち体確認を行っていた。また、聞いていない。	痛い所・怪我した箇所を聞く。また、着替時身体確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと全く変わらない様子。	3.対象児から離れたところで対象児でいた	見守りながら対象児は遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	4方向で、対象児を含み見守りながら遊んでいた。	ぶつかった時に、すぐに確認はするが、遊びを止めて恐しまうこれがあるので状況を見る。	4方向の立ち位置、(監視・監視プラス遊ぶ1人・遊び2)声を出し合確認し合う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
778	令和6年6月10日	1. 認可	7. 小規模保育事業	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	7								2	2	14. 2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	乳歯陥没	2. 自らの転倒・衝突による転倒	1. あり	2. 不実施	2. 基準配置	新年度、異動職員が多くとってない職員の保育となり、危険個所の共有や安全対周知ができていなかった。	過去のヒヤリハットを見直し、戸外・室内での危険個所をあらためて確認。職員で周知共有する。事故予防マニュアルの見直し。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎回	1. 定期的に実施	1	公園に設置されている遊具や段差による対危機感がなかった。	環境を月齢に考慮した楽しみを。	1. 集団活動中・見守り	石製の椅子や滑り台、ジャングルジム等が配置された、比較的小規模の公園にて子どもの目線が上部にあり、周囲に目がかないシャボン玉をかける遊びを行った。	子どもの月齢や活動時期(年度初)を留意し、公広さ園や遊具の配置を考慮して活動場所を選ぶ。	1. いつもどおりの様子であった	シャボン玉を追いこけるでがちょっとしかし、目線がつよりシャボン玉ことで倒いなった。※年齢的な段階にいてまさはあった。	2. 対象児近で対象児見た	シャボン玉を吹きながら、そのシャボン玉を追いかけ子ども達の様子を見ていた。公園内にある段階でシャボン玉を追いかけて遊ぶ子供には危険を感じた為、段に登らず平地で楽しむよう促したが、その後もシャボン玉を行ったところで、当該児が職員の届かない場所で転倒。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	7名の園児で戸外活動を行い、階段に上がった際に飛び出しがいるため、階段付近にて声掛けながら、全体を見守った。	年度初めの一人ひとりの特性や発達段階に配慮した活動や見守りがなかった。	・再度、一人ひとりの子ど寧観察し、記録も参考にしながら、特性や個性を職員間で共有する。・安全に対し研修を園内外を園内外実施参加し、一人ひとり力の保育力の向上、安全への向上意識の向上に努める。	
779	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	18								2	2	17. 5歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折、左尺骨骨折	1. 遊具から転落・落下等の	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	慣れた遊び場で、担任2名でのとした。引率の職員数は十分であった方としては全体の見守りと別の見守りに分かれてしまい、対象遊具の見守りが出来ていなかった。	落下や滑りなどのある遊具には必ず見守りが出配置となるよう、職員数だけでなく遊ぶ遊具の数を適宜検討する。	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	52	1. 定期的に実施	52	滑落のリスクがあるスク遊具であった	高さがあり危険であったり、滑落のリスクのある遊具には大人が付き添えるよう配置を考える。	1. 集団活動中・見守り	年度当初であり、園児の高揚感が可能性がある。	園児の心理状況を踏まえ、遊びの前には改めないように危険のないよう注意しながら遊ぶ声掛けする。	3. いつも活動的であった(理由を記載)	年長児に進級し、本児が自信をもち最近特に活発・意欲的であった事、年度当初の高揚を踏まえたことなっていた事に気付けなかった。	4. 対象動児をていなかった	落下のリスクがある遊具のが来てお本児の見出らず、本児の落下の瞬間が確認出来ていなかった。	2. 担当者・対象児をていなかった	普段遊び慣れた園庭とは異なる園外であり、十分にりを考えスクえ、安全に来る範囲での活動となっていなかった。	遊具の数と人数を考えた活動をしていなかった。	園外保育の際は特安全に保育出に来る範囲での活動となるよう留意する。	
780	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	19								4	4	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	8. その他	1. あり	2. 不実施	2. 基準配置	職員の配置人数は問題はなかった。	ソフト面での改善ではなく、保育状況を改善が必要である。(該当項参照)	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	300	パネルシアターでは子ども達が決まったスペースに集まる活動であるため、実施者以外に子ども達を見守る職員が必要であった。事務作業はその時間でなくてもできることであったため、職員の動きに問題があったと考える。	パネルシアター実施者以外に子ども達を職員を配置する。	1. 集団活動中・見守り	パネルシアターを見守っている達る職員がいなかった。	パネルシアター実施者以外に子ども達を見守る職員を配置する。	1. いつもの様子であった	最後尾でパネルシアターをお隣にみており、は仲の良い子がいた。	3. 対象児児離れとこで対象児見ていた	パネルシアターを施いた士、して保育が実施した本児が、本児が他児じゃれ合ったことを確認している。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他児の食事介助、事務作業中であったため、動きはみていなかった。	パネルシアターでは子ども達が決まったスペースに集まる活動であるため、実施者以外に子ども達を見守る職員が必要であった。事務作業はその時間でなくてもできることであったため、職員の動きに問題があったと考える。	パネルシアター実施者以外に子ども達を見守る職員を配置する。	
781	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	16								2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上顎右側乳中切歯外傷性歯牙脱臼	2. 自らの転倒・衝突による転倒	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	散歩先の地図、写真などを、危険個所を共有している。	公園の写真などを、職員間で危険個所の共有をしていく。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	12	公園の危険個所などのチェックは到着しすぐに確認し、職員間で共有している。	職員間で危公園の危険個所(すべり場やすい場所、落下物の有無、障害物など)の共有をしていく。	1. 集団活動中・見守り	1歳児クラスコロナ禍となり、戸外での経験が減り、思いっきり走ったりする機会が減ったことも体つくりの観点から一つと考えられる。	子どもが危険回避できる乳児ようから体をへ期づくりしていく。また、危険個所を子どもたちへ声かけていく。	1. いつもの様子であった	走りたいが高まって気持ちまっ、先頭始めすぐで走ってのの転倒。	2. 対象児の近で対象児見ていた	全体を見て、本児がていては見ていた、本児からかけ走るのは見ていた子ちと追いかけたたちと角なり、転倒する姿なが見かった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他の子どもをみた。	公園の危険個所などのチェックは到着しすぐに確認し、職員間で共有し、子どもたちに声かけをしている。	職員間で危険個所を共有し、遊ぶ前に、その場所で遊び方のルールを必ず伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故				事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面					人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他													実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																			
782	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	14								4	4	15. 3歳	2. 女児	【本児】身長：約101cm、体重：約19kg【抱え上げた他児】身長：約93cm、体重約14kg	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	5. 他児危加れから害をえたもの	1. あり	1. 定期実的施	12	1. 基準以上配置	思い込みによる観察不足（落ち着いてでいた危険性がないと思った）	職員の配置を考え因（最低1名は全体を見る）、目際は職員間で声をかける	1. 定期的に実施	50	3. 未実施	0	1. 定期的に実施	50	周囲に硬い物のある狭い場所（食事用テーブルと壁の間）を遊びの場として普段机上しら遊ぶ場所でもあるため、制限いなかった	保育者から園児への声掛け（机上遊びをしない場合はテーブルスペースに入らない）、テーブルと壁の間隔を広げる	3. 個人活動中・見守り	周囲に硬い物のある狭い場所（食事用テーブルと壁の間）で遊ぶことの安全性を考えられなかった	常に安全な環境で遊べるよう職員間でいろいろ話し合い、（狭いスペースでの遊びを楽しんでいたため）他ち着安全べるつ落ちに遊場所をくる	1. いつもどおり様子であった	他児とごっこ遊び（本ちゃん役・他児が母親役）をしていた	3. 対象からたところ離れとで対象見ていた	他児と落ちて着いて遊んでいた、一時的に目を離した	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の見守り、給食準備	活動の切り替わりの時間で多の職員が方面を向けていた	活動が切り替わる時には特に職員間での声掛けを密に行う	
783	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	12		2		3	1	6		3	3	17. 5歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実的施	12	2. 基準配置	観察不足（全体の観察をしていなかった。）	職員同士の声の掛け合い。気になる子へ見守りをして傍に付く。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	・公園に着した時点で遊ぶ予定の遊具回りを点検したが、遊ばない場所の方の遊具の見回り点検を怠った。	・公園に着後は、全範囲の遊具や危険個所の点検を行う。	1. 集団活動中・見守り	異年齢の少人数で少戸外活動をすると、広範は、活動可能な範囲の活動場所を分けて使用した。	異年齢の数で少人戸外公園すると、目が行き届きやすい範囲の公園を選択する。	1. いつもどおり様子であった	滑り台をしていけな約束事を使用したが、遊びたびたびたり階段がまった	3. 対象からたところ離れとで対象見ていた	他の固定遊具で遊ぶ園児の見守った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	小さい年齢の子に添っていた際児の見ていなかった。	対象児の特性をしっかり把握していなかった。	対象児の特性を全職員で共通理解する。	
784	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	10				7	3			1	1	17. 5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		1. 基準以上配置	職員配置や危険個所の共有などに問題はなかったと思慮する。	特になし。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	毎日実施している教具の消毒の際に、点検にも行っている。	丸太は直径40センチ程度、高さ20センチ程度である。砂場にも、石や他の教具ものが落ちてることもなく、問題はなかったと思慮する。	特になし。	1. 集団活動中・守り	丸太は直径40センチ程度、高さ20センチ程度であり、高さも大問題はなかったと思慮する。	高いところからジャンプする際は、着地に気を付けるよう、声掛けする。	1. いつもどおり様子であった		3. 対象からたところ離れとで対象見ていた	園庭に園児（4・5歳児）が10名ほどいるため、おのおのが好きな活動（遊具、砂場など）していたため、全体を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には職員が1名しかおらず、他職員は保育室内で他児育を実施していた。	園庭での人園児の人数や活動内容、職員の配置は問題はなかったと思慮する。	特になし。	
785	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	16				8	8			2	2	18. 6歳	1. 男児	身長約118cm、体重約21kg発生時の天候は晴れ。最高気温18.8℃、最低気温6.5℃。比較的暖かく過ごしやすい日であった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	下顎歯肉挫傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期実的施	2	1. 基準以上配置	遊び始める前の遊具の安全点検をしていなかった。遊ぶ場所の範囲を指定していなかった。また、ブランコ近くに職員はついていなかった。落下の瞬間を見ていた職員はいなかった。事故直後、二次災害防止のため他児を1カ所に集めることができていなかった。	公園到着後遊び始める前に遊具の安全点検を行い、児童へ注意点を伝える。広い公園では遊ぶ範囲を指定する。担任不在の時は、遊具の使用を制限する。事故発生時は他児を1カ所に集め二次災害の防止に努める。救急を確認し、官から上の事故においては救急搬送またはただちの受診をする。事故後、可能であれば全員遊びに帰園する。「事故後の対応マニュアル」および「戸外活動安全対策マニュアル」を更新し、定期的に周知・研修を行う。	2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		遊び始める前に遊具の安全点検をしていなかった。遊ぶ場所の範囲を指定していなかった。遊具の使用を制限していなかった。当該児童は普段から動きが激しく、注意を要した。	公園到着後遊び始める前に遊具の安全点検を行い、児童へ注意点を伝える。広い公園では遊ぶ範囲を指定する。担任不在の時は、遊具の使用を制限する。「事故後の対応マニュアル」および「戸外活動安全対策マニュアル」を更新し、定期的に周知・研修を行う。	1. 集団活動中・守り	教会での卒園式リハーサル後であり、疲れや緊張感から注意力散漫になりやすい状況であった。職員1名は加配児童につき、もう1名も公園外へ出ようとする児童の対応のため出入り付近にいた。ブランコの危険よりも公園外へ出ていく危険の方が高いと思われた。職員同士は声を掛け合い、2名とも全体を見ながら役割を分担していた。全体の瞬間は見ていなかった。	広い公園では遊ぶ範囲を指定する。担任不在の時は、遊具の使用を制限する。リハーサル後は、園近くの遊び慣れた狭い公園まで戻っから遊ぶか、帰園する。加配児童がいる場合で、通常より園児数に対し職員数が少ない場合は応援を要請する。固定遊具には職員を一人配置する。保育中、職員同士声を掛け合う。	1. いつもどおり様子であった	8：09　登園。特変なし。風邪症状なし。保護者からの申引継ぎ事項なし。●●卒園式のリハーサルのため、教会に出向かって出発。教会に到着、リハーサル後、職員2名と園児16名が●●公園へ移動。5歳児クラス8名はブランコ周辺におり、順番にブランコを使用していた。	3. 対象からたところ離れとで対象見ていた	4歳児クラス8名が出入り口付近におり、公園外に出て行ってしまう恐れがあったため、出入り口付近から全体の見守りを行っていた。当該児童がブランコに乗っており、大きく漕ぎすぎてはいけないことを確認していた。落下の瞬間は見ていなかった。事故直後対象児のもとへ駆け付け、応急処置を行った。その後5歳児担任に応援要請を行った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園の出入り口付近にて、公園から飛び出すある加配児童についていた。	5歳児クラス担任は片付けの会に参っており、不在だった。	広い公園で遊ばせる時は、遊ぶ範囲を指定する。担任は、遊具の使用を制限する。園児数に対し職員数が少ない場合は応援を要請する。固定遊具には職員を一人配置する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制																			事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等					死亡 死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
786	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	6									2	2	15. 3歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	—	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施		1	2. 基準配置	・要配慮児が多いクラス(要配慮児を入れて)6名だったためその点で教育に当たった。(2歳児クラス3名のうち3名がインクルーシブで欠席。) もう1名の担任は年始だったため内もうりを主担が保育室で見ていた。 ・要配は2歳児4名に対して3名担任+要配慮児担当として1名配置していた。この日登園だけ、この日要配慮児を入れてO名だったため指定主任で教育に当たり、職員配置での不足は無かったが、要配慮児の見守りを考慮すると、迅速によってはO名付き担当つきではなかったか。 ・マニュアル等の周知はできていたが、要配の担当に関する研修等が不足していた。	・要配慮児への配慮が必要とするクラスでの保育内容や登園人数、メンバーによる迅速職場内において様々な想定をしながら、安全な保育を行うための適切な職員内容と迅速職場内について話し合っていた。 ・内職と要見交換が行えるように、園内研修(クラス内でも)を常に進めていく。 ・要配慮児と共に教育に出る際は他職員に入れ、配置に余裕を持たせる。難しい場合に遊ぶ場所、遊び内容をもう一度、担任間で話し合い、要配慮児以外の子も指定主任でも安全に保育できるようにする。 ・活動内容によっては、散歩時にもう1名付き添ったりする。自の人数により、その都度確認していく。	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	多数	1. 定期的に実施	1	・散歩に出もたち発達段階と所ていかった。	・活動計画において、活動内容(石畳等は転倒の危険がある場所等)について様々な定計画をしていてく。	1. 集団活動中・見守り	・柱のそばにいた際の対象児と他児の2人の距離が近かった。子どもが遊びにしてその後の想定できなかった。 ・2歳児が危険を意識できるよう声掛けが足いた。	・走って逃げるよ集団遊びをする際は、段差のある場所では平らどの石畳を選ぶ。 ・子どもたちに前にわかり易くルールを伝えていく。	3. いもり発活動的あった(理由を記載)	・あそびっが始まって、見ないるこ鬼からよとしそのあ	3. 対象児の見ていた	・担任1名は一緒にむっくりんを行っており、対象児から少しれたから様子見ていた。	2. 担当者・対象児の動きをいかった	・対象児離れた場所で1対1で関わっていたが、柱の除られる対象児の半身が見えた。	・始めは手をつで一所に留まっていがから、途中から逃げる集内容が遊び内団だった為、段差地の面石畳所で、1名の職員援助しきれなかった。	・要配慮児に出る際は配慮に余裕を持たせ、活動内容によりで散歩にもあれば一人付き添う。	
787	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	19									1	1	18. 6歳	2. 女児	無し	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	事故予防に関する研修を行っていなかった。	事故予防に関する研修を定期的に行い、全職員と共有することで危機管理意識を高める。							箱椅子が目立たなかった。	箱椅子を色々な立つ角度にどもがやすすることも意識する。	1. 集団活動中・見守り	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	1-2	箱椅子が目立たなかった。	箱椅子を色々な立つ角度にどもがやすすることも意識する。	1. 集団活動中・見守り	見箱に掛けとづい、体が、けは思声なとはるわかけかった。 足ずに足をこはは重をかけた。	ないを再知し。らと意し物こ乗るはと、方をすこ子にも危険認するもうし導く。 乗こと度周いて椅子用いるとを伝えを、物いこい再確る。も達安全意識するにに指いく。	1. いもり子お様であった	手洗い、身支度を自由に終えび遊びかった。足ずにとを友達を友達ながら段差にしようとしたところランス転倒してしまった。	3. 対象児の見ていた	担任保育クラスを全ながら子どもへ支度を掛けすい声促けをいた。	2. 担当者・対象児の動きをいかった	補助者は園庭から室へ移動中だった為、担任1名が園内、補助1名が園庭でを誘導した。	対象児は視野に入っていたる想定行動、転倒するとはわず思を掛けなかった。	子どもの動きを先読みし、可能性を知らせ予防に繋げていく。環境面の見直しを行う。	
788	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13		1	2	3	5	2			14	13	16. 4歳	1. 男児	特になし。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨近位部の若木骨折	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施		12	1. 基準以上配置	職員が子どもの遊んでいる様子をしっかりとと来かった。ハイマットでの正しい遊び方を伝えられねたりどもたちが一つの場所に集まってしまっている姿がた。	室内にいる子ども全員の人数に対して職員の人数は多かった。しかし、職員同士で話している時間も長かった為、室内ではメリハリをつける。職員の座る場所を全体が見れる位置にすることを徹底し、全員が全体を見れるようにしていく。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	特になし。	遊び方を間違えて危険な遊びを子対をかけるに声ようにてけようて	4. 個人活動中・子ども	ハイマットでいどもが遊ん子人数がたの多かった。	子どもの多い場合は、別の遊びに誘っく。 また、ハイマットの正し方て遊び伝えをいく。	1. いもりお様子あった	わいりてなくも通じていた、幼児室等に横になっていが見ため、ハイマットでも横になんでいることに違和感を持たなかった。	4. 対象児の見ていた	別のとをの職員目線を迎る我瞬間ていかった。	2. 担当者・対象児の動きをいかった	職員同士でこれからの動きを話し職員や午後のおやつを配膳いると食べいる職員がいて全体を見るいなかった。	特になし。	特になし。	
789	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	48			17	22	9				5	5	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足中指基節骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施		2	1. 基準以上配置		職員配置について検証し、職員配置を見直し、必要に応じて職員が園児への声かけを行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	外遊びの際、本児は雲梯の遊びを始めてまだ日が浅かった。	遊具から転落した児童が備えて、クッションのために遊具下のマット取り換える。	1. 集団活動中・見守り		雲梯等の大型遊具を使用する際の安全管理に努め、園児には雲梯や遊具から降る際の注意喚起を行う。	1. いもりお様子あった	いつもと変わり様子だった。	2. 対象児の近で見ていた	担任が雲梯で見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	園児の遊ぶ場所にそれぞれ職員が配置されていた。		雲梯や遊具の側に職員を配置し、事故が起きないように適宜声かけを行い、見守る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故年齢	性別	特記事項	事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				事故状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面																														
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳											発生時状況		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面									環境面			人的面										
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位			実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
790	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11				9	2		1	1	16.4歳	1.男児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指中節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	当該児以外の児の対応をしていたことと口頭での留意に留まり、対象児のみに直接と行き、理解できるように伝えることができなかったように感じた	口頭のみの注意で終えず、職員間で共有し、対象児の元に理解できるよう伝えるまたは職員間で共有し、職員長に声を掛けての判断基準を決める。	1.定期的に実施	230	1.定期的に実施	230	1.定期的に実施	230	午睡時のコットの間隔がとても近くなってしまったため、子ども同士が遊びやすくなっていた。	コットの間隔を再設定し固定する。まあコットの間隔を子ども同士の手が届かない程度に空ける	5.睡眠(午睡)中	入眠時であったが着い落ち着いた雰囲気で作りがあった。	午睡前に絵本の読み聞かせを行い、気持ちの切り替えを行うとともに、入眠時にBGMを流すなど雰囲気づくりを行う。	1.いつもどおりの様子であった	他児と戯れごっこしていた。	4.象児動見なかった	対象児以外の児の対応を複数行っていた。対象児が転倒の際は他児に意識が向いていた。(後ほどカメラでの確認)	2.担当者・対象児動きをいなかった	休憩中であったため他職員は該当クラスには不在(担任1名で対応)	状況判断および報告連絡相談の不足。	入眠する までの時間は4・5歳クラスにおいても2名体制で保育を行う。	
791	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	5							2	0	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折 ●月末に完治	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置	玄関対応に担当スタッフ1名になるタイミングだった。	玄関対応で少なくなった際に、担任が抜けて合同にしたり、施設長に声を掛けてもらう。	2.不定期に実施	3.個人活動中守り	4月初めに行う遊びではなかった。	2.不定期に実施	12	施設や設備等は今回の事故とは関係ないが玩具数パズルは同じものがなく取り合ないになる可能性はあった。	玩具の量などを見直していく。	3.個人活動中守り	4月初めに行う遊びではなかった。	子ども達にを発わせた合玩具を提供して遊べる環境にする。	1.いつもどおりの様子であった	他児とは使いも重なってしまい取り合う	4.象児動見なかった	担任はおよび玄関に行って迎え玄関に行ったため本児から目を離していた。	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	スタッフある少し離れたこと本児を見ていたが取り合い時声はが間に合わなかった。	担任が離れる際に声を他のクラスにかけずにいてしまったこと	必ずスタッフ1人なにはしなこと。周りにも声を掛けて見てもらえるようにする。	
792	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21	3	5	4	3	2	4	24	21	17.5歳	2.女児	発達面でアンバランスさがあり、発達検査を受けるなどしている。	8.その他	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置		職員の立ち位置に気を付けていく	2.不定期に実施	6	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		危険個所ないかを環境を考えるチームで危険個所をチェックする	7.その他	庭で遊ぶ室内児とにいる園児がいろいろな遊びをいる園児がいる状況。	職員の目視による子どもの確認をする	3.いつも発活動的であった(理由を記載)	月初旬まお昼寝お日課が組まれが3月末で、校前に昼寝ずり過ごしていた。	4.象児動見なかった	背後にいることはわかっていたが、びつこ来ることは予測できなかった。	2.担当者・対象児動きを見ていた	動きは見ていたが、防げる距離ではなかった。	職員の人数は十分であったが、日中の保育の担当では夕方担当のみ担当する職員であった	日頃より職員同士や子どもの様子を共有する	
793	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	2	12					3	2	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	事故発生後に報告書の提出、クラス内で共有	事故発生防止のため、職員間で共有する。原因・改善点を振り返る。	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	1.定期的に実施	毎日	フローリングの床	怪我になる原因のものかが点検する	1.集団活動中守り	井形ブロックが散乱しており歩行スペースの確保ができていなかった	コーナー遊びの充実を考え、歩行などする危険のない環境整備に努める	1.いつもどおりの様子であった	保育室を回っ走っていた	3.対象児児から離れとこで対見ていた	他児の検温をしていた	2.担当者・対象児動きをいなかった	離れた場所で遊んでいる他児を見ていた	朝の受け入れや検温で保育士の手が取られているもあり、マット上で遊んでいるブロックが散乱している状態だった	職員同士で連携し、危ない遊び方になっていないかやお もちゃの散乱等で歩行スペースなどの確保ができない状態になっていないか注意し、子ど遊ぶスペースなどコーナーの充実を作っていく	
794	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20							1	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第5趾 基節部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～4	2.基準配置	園庭にでていた園児20名に対し、担任が一人で対応していた。	保育士の対応人数を増員して見守りが必要。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	4～6	園庭内で死角があり、全てを把握できない	園庭内の物の位置すの考慮する	1.集団活動中守り	園児が慌ててて走ってしまったり何故慌ててしまったか、雰囲気？	事前に気をつけるようしっかりする	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子はなかった	3.対象児児から離れとこで対見ていた	園全体を見渡せる見場所守りいた	2.担当者・対象児動きをいなかった	ストッフがいない状況	他、見守スタッフの応援をする応援の意味	走るときなど声は慌てないよう掛けする関りが必要	
795	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	8							2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯が折れた	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	室内で遊ぶ際のルールの把握が薄かった。	室内での遊び方マニュアルなど必要であったかと感じる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊び方の工夫が必要だったかと感じる。その時期に風船を使って上に視線がいく遊びを行った事も原因の一つと考えられる。	8名の園児に2名の保育士は良かったが、子ども全員室内で走っ遊ぶ際に、順番を決めたルールは必要でと感じる。	1.集団活動中守り	子どもたち突然にすがの動きに対応することが難しかった。	順番、ルール等かっとりとも伝え、危険が無いように遊びを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの元気ようにいて風船を追いかけ子だった。	2.象児児の近象児見た	対象至で対見ていたが、転んでしまった子どもとしていたが、でに気をにられまった。	1.担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	一緒に見ていた職員も少し離れた場所から対象児を見ていた。	興奮していることもあるとの子どもたちの見ても思で、子どもの様子を見て事も落ちあるかと感じる。	その子どもたちの様子、動きをしっかり把握をしてき、一緒保育士と共有をしておく必要性があると感じる。	前日のたことを、動きをしっかりとしてき、つくる保育士と共有をしておく必要性があると感じる。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者						負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
796	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	3. 2歳児クラス	12									4	4	14. 2歳	1. 男児	当該児は注意散漫になりやすい。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	隆起骨折（橈骨・尺骨）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	研修で骨折時は激痛せない痛みと伝えていたことのない状況で骨折が起きやすいことが周知していなかったことで歩行中の危険性を考えていなかったため。	今回の事例を踏まえて骨折の起きやすい状況や痛みがありも動かせることを入れて職員研修等で発信していく。	1. 定期的に実施	1	3. 未実施	0	1. 定期的に実施	1	散歩時に道路があるクコンクリート部であったため転倒した衝撃で強くたたき繋かった。	コンクリート部や道路の場合は転倒時に大きな怪我や繋がりやすいため、十分に考慮し注意深く散歩に出る。	1. 集団活動中・見守りあり	手を繋いでいた他児が、手を繋いだ状態で本児が転倒し手首が内側に入りつい地面にしてまったため。	手を繋いだ状態で転倒してもすぐに手のひらをつけるように伝える。	1. いつもどおり様子であった	登園時に母と登園したが父とした機嫌が悪いと報告があり、担任からもいつもどおり様子で過ごしていた。	2. 対児の近象見た	象至対象を見た	担当職員は一番後倒した他児と別の児2名と手を繋ぎ歩いていた。本児は状況は常に入っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の職員は本児よりも前方にいた方が度々後方を気にしていたが、本児は目を離してはいなかった。	転倒が多い児と手を繋いでつらい転倒児を繋いでいて転倒する可能性が高いと状況の中で至近距離で見て保育クラスのことを熟知しているベテランフリーの職員だったため。	転倒が多い児と手を繋ぐ時は担任が見ることで注視していく、もしくはフリーの保育士に伝達を細かく伝える。また注意散漫になりやすい児であるため歩行が安定していると手を繋ぐように配慮する。	
797	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	7. 異年齢構成	24					11	13			3	2	17. 5歳	1. 男児	晴れ	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左肘顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	1	要因、特記はなし	常勤職員2名に加え保育補助も1名おり、適正の範囲内と考えられる。	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	12	要因、特記はなし	公園の柵は20cm程度でかりなどは当たらなかったので、適正の範囲内と考えられる。	1. 集団活動中・見守りあり	本児以外2人と遊んでいた。	友達に追いかけられた、押された、大人が急がせたことはなかったが行き慣れ公園でもちょっとしたことがあり事故につながることを全体に周知していく。	1. いつもどおり様子であった	保育者が保育園に話を帰ったときに、走ることもあるまま柵をいたずらにくいたきこった。	4. 対象児でいかった	対象動きを見ていた	保育者が公園に帰ることを児に伝えた	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の子ども達に水を飲ませていた。	普段の散歩公園だった。	保育士が急がせたことはなかったが、行き慣れた公園でもちょっとしたことがあり事故につながることを全体に周知していく。	
798	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	6. 5歳以上児クラス	21									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左肘靭帯損傷・左橈骨頭部骨折疑い	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1～0	1. 基準以上配置	年度初めに職員の替わり入れがあり、事故防止マニュアルの読み合わせが出なかったことで、職員の歩る危機管理意識が薄かった。	年度初めには、必ず事故防止マニュアルの読み合わせをする。また、変更点なども周知する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	ジャングルジムに台が組み込まれている遊具だったが、階段の床板に滑り落ちて10cm転落が起きやすい状況に氷鬼と言った加わってしまった。	遊具が、年齢に合っているのを園児に遊ばせる前に確認する。危険と思われる場所には保育士が立ち事故防止を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	保育士1名は地域の巡回が、一人は公園の場所も把握順や公園の安全性も解ずにお任せ出状発した。通常的に、こまめな人数確認は行っていた、道順の確認は実施していなかった。	園外保育は、事前に公園や道路を確認して実施する。行き先の時は、必ず保育園に連絡を入れる。園側も、散歩ルートの内容に間違いが出発時・帰園時等に確認する。	1. いつもどおり様子であった	当該児は衝動性があり注意が必要な児であった。転落した直後は、保育士が当該児に状況を確認するもうすぐ話せず、ただ左肘を痛いと訴える。発見時には、本児は立ち上がっていたが、おそらく転落し、四肢を地面に付いたようで手掌・膝に砂が付いていた。他の部位の痛みの訴えは聞かれず。	4. 対児の見象動をていかった	ジャングルジムに手の届く所にいたが、「疲れた」と訴える他児をベンチへ異動させていた。転落場所は目視できる位置にはあったが、転落の瞬間は見ていなかった。ジャングルジムで氷鬼を以前でも行ったこともあり、問題なしと判断した。しかし、今回の公園は初めての公園で、十分な安全確認をしていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	公園の遊具で、ジャングルジムとパネウきテーブルがあり、両方が見える位置にいた。転落の際は、他児のトラブルに対応していたため、当該児の事故は見ていなかった。保育士同士の合声の掛け合いが出来ていなかったため、転落時に気づくことが出来なかった。	当日身体計測があるので職員が忘れてしまい、出発時間が予定より15分遅くなってしまった。以前散歩に行った際にA公園（●●の近く）を通り、園児が次はこの公園で遊びたいと話していたため、今回はそこまで行くことにしました。しかし、その公園の手前のB公園で「ここで遊びたい」となり、予定を変更する。	配慮が必要な児童には、職員に確認をしあいながら安全に保育する。園外保育では、保育士同士の役割を決め、人数把握や子どもの行動の安全確認をする。	
799	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	7. 異年齢構成	25					7	9	9		3	3	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹（首・胸部・腹部・臀部）	鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるものにも	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	なし	なし	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	なし	なし	1. 集団活動中・見守りあり	一斉に遊び始めどもの子どもたちのいたもたちやり遊具中した。	遊び始める前の約束事を丁寧に伝え、遊び始めにはクラス等ごとに移動する促す。	1. いつもどおり様子であった	いつもどおりだったが、公園の遊具の異変で気味であった為、周りが居なかったがいつもどおりの公園で遊ぶ	2. 対象児で近象見た	象至対象児を見た	遊び始める前に注意事項を伝え、遊び始めのだけ公園を児に合した為、対象児全体を含め全体をみていた	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	1名は担当職員と共に見守った	1名不審物や危険なものがないか点検、もう	一斉に遊び始めはた遊びるよう合図を出してしまった。一斉出しまうとし転倒可能性を想像できていなかった。	遊び始めの際には、一斉に移動せず、数人づつ落ち着いて移動するよう促す。一斉に走りだすとなるとも伝えたちも気を付けられるよう伝える。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 | | | | | | | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制									事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 教諭・保育教諭・幼稚園教諭																																					
804	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6			2	1	3			1	1	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上橈骨遠位端骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊具を使った方法で使ってしまい、職員がそれに気付くことなかった。	再度遊具の適切な遊び方を園児全体に伝え、職員間でも経緯や状況を共有し安全に遊べるように意識していく。	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	-	引き続き、連結する際は固定し、安全確認をして遊びを開始する。	1.集団活動中・見あり守り	太鼓橋で大縄跳びの順番待ちをしていた本児が手すりに腰掛けたが、職員がそれに気付くことなかった。	遊具を使用して遊ぶときは、園児目を離さないようにする。	1.いつもの様子であった	自分の順番が来る時間かかり、その間に手がかりに腰かけてしまった。	4.対象児の見ていなかった	縄を回している最中で、ここなくできた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	昼上では、1名の幼児6名を保育していたため近距離には他の職員はいなかった。	-		
805	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	29			10	10	9			4	4	16.4歳	1.男児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	対人数上は問題なかったが、当日に突発的な体調不良で早退した職員が複数名いたため、通常に比べ余裕がない状況であった。玩具を取られた際に付近に職員がおらず、走りだした本児に対して止めることができるような位置にもいなかったことが要因と考えている。	・職員が少なく危険だと判断される場合は、調整時間をずらす等、臨機応変に対応する。また、一度に接触せずに1クラスずつ接種する等、安全対策を確保したうえで接種を実施する。・職員が少ない場合は、安全のために保育士同士の声掛けや連携といっそうより意識して行うようにする。・ホールでの合同保育時等、複雑と違う環境下や異年齢での保育の際には、スペースが広くなり人数が多くなるため特に職員の立ち位置には注意し、どの角度からも全体が見渡せるようにする。	1.定期的に実施	294	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	294	ソフト面のみ問題があったため、特記事項なし。	特記事項なし。	3.個人活動中・見あり守り	玩具は多少なりともなくもなく、適正であった。走りようスペースも設けるスズおらず、机上遊びでコーナーをしわけて過ごしていた。	特記事項なし。	1.いつもの様子であった	遊んでいるブロックを他児が取られ、取り返そうとして走った際に転倒した。	3.異年齢構成	1名の職員がホール全体の見守りをしていたが、本児の付近におらず、トラブルが付かった。本児が走ったり飛び出した際に止めようと適切な対応ができなかった。	2.担当者・対象児の動きをしていた	もう1名の職員はちょう保育室の清掃が終わったことを確認したので付近にいる園児と一緒に保育室に戻る準備をお始めており、保育室とホールを行き来していた。	保育者間士の声掛けが不十分で見守りがいなかったことが要因と考えている。	・その場を離れる際に保育士同士で声を掛けあい、それぞれの立ち位置が適正であるか確認する。・園児同士の喧嘩等でマンツーマンで対応しなければいけない状況になった時は、応援を呼び、全体から目を離さないようにする。・走ってはいけない状況の時に、何度注意しても走ってしまう園児に対しては、保育者がすぐに止められる位置に立つ。		
806	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				12	14			4	4	17.5歳	2.女児	身長：約110cm、体重：約20kg	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿脛骨骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	ブランコに関しては、普通のブランコ・タイプのブランコ・ネットブランコなど種類に関わらず約束事に入ら「順ぶを番ところを」と教える」のみの記載であった。	ブランコ全般に関しては「強く揺らしたり急に止めたりしないこと」「勢いよく着地しないこと」など基本的な注意点も加える。また、今回使用していたネットブランコに関しては、「脚を伸ばした状態で乗ること」「無理から脚を飛び出させないこと」と「乗っている子ども同士が接触しないように揺らせること」を注意点に追加する。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	該当遊具及び事故発生後の検証遊具の点検は、不備はなかった。	今回には開催されたため、改善点なし。今回に関しては、ハード面での問題はなかったと考えられる。引き続き点検遊具の点検を継続していく。	1.集団活動中・見あり守り	該当遊具は幼児2名での使用が可能であり、事故発生時は幼児2名に対し正規保育士1名が見守・補助事故発生時の方法について、使用方法に問題なし。	今回には関係ない遊具であったが、子どもに伝えるため、改善点なし。続き、具の使用法について、子どもたちに伝えていく。	1.いつもの様子であった	事故当日は本児の体調・身体状況ともに問題はなく、準備運動をしてから園庭に出て遊んでいた。本児と5歳児クラス女児の2名が、ネットブランコに横並びで足を伸ばした状態で乗っていて、微かに揺れている状態で突然本児が痛みを訴え、他児や遊具が本児の脚に当たった。地面に勢いよく脚を下ろしたりはしていなかった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	乗っているすぐそばで見守っており、揺やかにブランコを揺らしていた。（本児たちが「もっと揺らして」と要求する程度）急にブランコを止めたり揺らしたりはしておらず、ほぼ止まっているような状態で本児が脚を痛がったため、揺れを完全に止めた。本児にどこが痛いのかを尋ねるが泣いて答えないため、別の職員を呼んで事務所に連れて行った。	2.担当者・対象児の動きをいた	本児と5歳児の2名に対して保育士1名と配置は十分であった、他の職員は特に注視はしていなかっ。事故は生後は本児「痛い」と訴えていたため、担当職員とは別の職員が抱っこで事務所に連れて行った。	ぶつけたわけではなかったため、患肢のレントゲン写真を見ながら整形外科医と原因を分析した。今回は、両足ともに伸ばした状態でブランコに乗っていたが、乗っている状態で本人を整えようとするなどで患肢に不自然な力が入り、捻ったようにして骨が折れてしまったのではないかという見解となった。	ブランコは、背筋を伸ばして脚に不必要な力が入らないような体勢で乗るよう、保育士・子どもたちに伝えていく。また、今回は濫ったが、他児の脚が当たったり、大きくブランコを揺らして遊具が身体に当たったり、勢いよく地面に足を着いたりすることで大きな怪我をする可能性があることを念頭に置いて、遊具を使用していく。	
807	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41				21	20			3	3	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘剥離骨折・左上腕外側顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	遊ぶ前への不園児指導が不十分だったかもしれない。	見守りを際の立ち位置や注意喚起の声かけを的確にする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	園庭の地面の状態が走りやすくなっていたか。	園庭を整備し、少しでもつまずく原因となる物を取り除く。	1.集団活動中・見あり守り	２クラス合同で遊んでいたため、２種類以上の遊びが混在していた。	鬼ごっこをしている他の園児を園触れないように接触しないような工夫をする。	1.いつもの様子であった	鬼ごっこ自ごっこの際、鬼になり追いかけることに夢中だった。園庭に座っている園児に気づかず衝突、転倒した。	2.対象児の近で対象児を見た	該当園児目撃、転倒直後、肘を確認。曲げしも伸ばしでき、外傷や腫れ、赤みもないことから、濡らしたタオルで冷やし様子をみた。	2.担当者・対象児の動きをしていなかった	他の園児の遊んで様子いる様子を見た。	職員が園庭に座っていることが原因になることを周知していれば防げたのではないか。	危険を予知し衝突が発生しやすい場合には声かけをして回避する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷					マニュアル有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
808	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝（始業～午前10時頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	5. 4歳児クラス	21									3	3	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左上腕骨顆上骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期施	定実施	4～5	2. 基準配置	子どもの人数に対する配置基準に沿って保育活動を行った	今回の事故に対し、職員会議で経過を共有し、改善策を話し合い、当だけでなく職員皆が危機管理能力によるする	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12		転倒防止のため、園庭の地面を平らになら す。環境整備の際に定期的に整える	1. 集団活動中・見守り	突発的な出来事にできた対応できなかった	三輪車で際の約束事を、担任子ども一人ひとりに確認し、一緒に確認する	1. いつもどおりの様子であった	三輪車でこぎつ立ちこぎ乗ってをしてその車態で立ちこぎからペダルに体勢サドルに座ろうと左足をしペダル掛け、をに右足を上にバランスをとり崩し三輪車ゆっくり左側に転倒する	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭への水まきを終え、ホースをリールながら巻きを、遊ぶ子ども全体的に見ていた園庭で、子ども全体の見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見て（至近距離にいた）	固定遊具で遊ぶ子どもたちを、そばで見守りながら、園庭全体も見ていた職員		三輪車の遊び方、使用方法の確認、改善策を職員で話し合い共有した	
809	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	20									4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左前腕骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期施	定実施	3～4	2. 基準配置	児が左腕をぶつけた後、おんぶをする時や保育士の促しに対して、自分で動かず様子が見られた。又保護者が迎えに来た時には、他児と手をつないで嬉しそうに走って帰る姿が見られたため、けがの予測がつかなかった。	児が左腕をぶつけたこと、いりもおおきなしかった事慮を考し、対応必を行う必要があった。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	ジングルから飛び降りと怪我をする事がある。	具時遊ぶ時は職員がについて、園児方の遊び方を見て声や遊伝掛けびを伝える。	1. 集団活動中・見守り	ジングルで遊んだ児が飛び降りと予測がつかなかった。	ジングル等遊具で固定遊ぶ時は、遊び方によって同じ怪なるがようにはよう我可能性があるため、子どもたちに固定遊具の安全な使い方を伝える。	1. いつもどおりの様子であった	ジングルに自分で登り降りが、目かに段地面に２ら飛び降りと、ちもいた腕をけ。	1. 対象マーの児ンマン状（対象児した）	本児が遊ぶジングルにつき側でいた見ていた突目び降りができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた	園庭で他児がに遊ん所でいた。	本児の様子を職員間で共有して必要があった。	固定遊具を行う時には職員が安全な遊び方を伝え、危険な場面あった時には、そのつど声をかけて見ていくようにする。	
810	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	6. 5歳以上児クラス	23									2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右尺骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期施	定実施	1	1. 基準以上配置	活動内容が、廊下では狭いが不適切であった	保育内容、保育場所にクラ内で再いずクラス確認を行った	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		-	廊下など狭い場所での運動遊びは行わない職員など共有する	1. 集団活動中・見守り	他の活動後に、体を使って行い、身体を遊びて行いを、身体を落ち着かせる時間を取ったにもかかったことが原因あると考えるる	静と動の遊びを組み合わせ、無理は活動しない	1. いつもどおりの様子であった	活動の切り替わり後の落ち着いて遊びまで始めたこで、後、ちいまま、下ろ落ち踏みるとまずにが出ずに転倒した	2. 対象児を対象児で見ていた	廊下でで遊ぶ子、全体を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で遊ぶ子を見ていたため、対象児の動きを見ていなかった	-	慣れていない運動遊びを提供する際は、綿密に話し合いを行い配置等の確認をしていく	
811	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	7. 異年齢構成	42				14	14	14			8	8	18. 6歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左手小指基節骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期施	定実施		1. 基準以上配置	クラス会議で遊びの様子でのヒヤリハットを出し合い、次の日の保育に活かせるような確認がなかった。	子どもが大人数で遊ん場合は必ずるようにする。	1. 定期的に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		子どもたちもサッカー手になって、ボールに勢いきが、手受け止めたいよく。かなり柔らかいボールだったが少しもう柔らかいボールのがよかったのか。	子どもたちが扱ったボールの硬さや大きさを確認し、柔らかいものを用意する。	2. 団活動中・子ども達のみ	保育士が場面ではその場合を見てなかったこと、本人が遅れたこと、訴えが遅かった発見が遅れた。	保育者同士が掛け合いを、全ての遊びに対して見守る（一緒に遊ぶ）保育者がいるように。	1. いつもどおりの様子であった	自らボールで遊ぶことを選択し、一緒に楽しんだ。ボールで遊ぶことを選択し、女一緒だった。	4. 対象児動きをいた	異年齢児の活動でだったこと、子どもだけで遊べる5歳児も3、4歳児の遊び育者の保育が必要だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任から様子などを聞いたこと、子どもだけで安全に遊べる子ども遊びを見守っていた。	異年齢児育ち合同保育だった、保育者の人数が、子ども多かったクラスの多かったもの職員にはもも多かったもの子どもの様子を伝えること遊びてしなくなった。	誰も見て状況いない作らないようにする。遊び上がると盛り上がると激しいと動きなってしまうことを他のスにも職員伝達しておく。	
812	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	52				15	18	19			3	3	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左第3指中節骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期施	定実施	12	1. 基準以上配置	-	引き続き、マニュアルを活用しながら事故防止に努める。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	-	今後も現状通り安全点検を行う。	1. 集団活動中・見守り	-	少しでも痛みがあった体に時は、すぐに担任が知らせることを、ぐに知ることも達する子に周知する。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児で対象児の近見た	子どもがお袋からスタをしてに敷く子袋を取り布団をそに座っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た（至近距離にいた）		-	引き続き、子ども達の様子をよく観察しながら見守る。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的にしていたか | 他の職員の動き | 具体的にしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故年齢	性別	特記事項	事故状況							事故誘因	事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者				発生時状況	事故の転帰		負傷			診断名		ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
821	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	7								3	3	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足親指付け付根骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定実施	2～3	1. 基準以上配置	子どもが転倒しや歩いて歩いこけたりすい年齢、その歩いこけたりもり、大きな怪我を疑わな疑わなかった。最悪を想定して場、後の必要のの認と思われる。	怪我を疑い丁寧な視診の徹底。	2. 不定期に実施		3. 未実施		2. 不定期に実施	12	遊べるエリアを広げた	遊べるエリアを広げた	3. 個人活動中・見守りあり	歩行が不安定な子どもが不安定な子どもが	遊べるエリアを広げた	1. いつもお子様であった	もともと歩行が不安定なところがあるもともと歩行が不安定なところる	2. 対象児の近で対象児を見た	対象児の近で対象児を見ていた	1. 担当者・対象児の動きをいた(至距離にいた)	7名のこどもに対して2名の保育士が子どもと一緒に遊び、1名がエリア外で引き渡しの受け渡しを行いた	年齢的に転倒することに保育士が慣れてしまっていたこと、転倒した際の対応が外かったこと、落とした。	転倒や少しの怪我でも疑われるようなことに際しては視診、触診、子どもの様子など複数の職員で確認し、気になる様子から見られたら怪我の様子がなかったとしても保護者に伝えるなど丁寧な対応をとる	
822	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	19			8	11				2	1	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯牙破折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施	1	2. 基準配置	・夕方のお迎えが重なる時間帯で、送迎園児重ねて誘導後にてこと・担当保育者の危機管理意識軽視	・全体を見渡せる位置、危険と感じた時にすぐに仲介や状況把握ができる体制を意識する。・3～4歳児担任でタ方の保育の流れと活動内容、職員の動きから危険箇所を出し合った。合同保育（異年齢）活動内容を職員間に合わせてコーナー設置や教材提供の具体的対策を協議。明日から取り組みながら死角や危険箇所がないか、置する遊具につても検討を重ねていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1～2	保育室の広さと活動内容、動園線えた状況の判断不足	園児の自由遊びの姿から、危険個所の確認と行う改善を行う	1. 集団活動中・見守りあり	実態に応じた配置当職員の役割確認不足、不険が予想される児への注意喚起の欠如	配置職員の役割確認徹底、人員配置の工夫	1. いつもお子様であった	4歳男児に関心がありロッカーブックやごびを共有するこの遊びをこなしたなら4歳男児3～4人に対ディチしくの走げるこのも	3. 象からたい児離れたところで対象児をていた	象からたい児離れたところで対象児をていた	1. 担当者・対象児の動きをいた(至距離にいた)	保護者園児の使ももちゃおもの片付けを促しながら、遊ぶ子を見ていた	保育者の危機管理意識の欠如　保育者は危険知を察知し、幼への関係が十分でなかった。	騒々しくなり場合は①一度子ども達を集めて保育者を注目する活動（パネルシアター、スキルが素話でも大丈夫）で保育室の雰囲気を落ち着かせること②保育室での過ごし方の確認を必ずこと行う	
823	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15	5	10						3	3	12. 11か月	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	右頬部挫創	5. 他児危害を加えられたもの	1. あり	1. 定期実施	3	1. 基準以上配置	発生事故発生場所については2クラス職員は今年の職員の入職、2歳クラスの職員が2歳児サポートに入り、2歳児クラスの担任が0.1歳の合同保育に入った。職員の退勤時間とも重なり多くの子どもが落ち着いて動くことができなかった。	職員人数基準配置を満たしていたが、降園で退職員もいるので、職員の移動を減らし、落ち着いた環境を作る。	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	100	2. 不定期に実施	100	なし	玩具や施設の問題はこの事故は故連なし	1. 集団活動中・見守りあり	職員の連携を注意していたが、他児の対応を怪我の対応なっていて死角に起因となり事故てしまった。	普段から騒みつく傾向があった中、その日は特に他児に関わって騒みつこうとする姿が見られていたため、職員が交代するとき引き継ぎ情報を共有していたが、事故が起きてしまった。引き継ぎ職員間で情報共有をして、子ども達が安心して過ごせるように、どの職員がいても同じ対応ができるようにする。死角をなるべく作らないように考慮しつつ、死角になる場所もできてしまうことがあるので、その場合には子どもが遊びこめる環境を作るなどの安全管理に努める。	いつもお様であった	普段から楽しく遊んでいないものへの強が、相手くの反応にせずおもちゃに手を出すがいつもがあり、通子りの様子だった。	2. 対象児の近で対象児を見た	対象児の近で対象児を見ていた	2. 担当者・対象児の動きをいた	それぞれ傍観児を見ていた。見てめ、いなかった。	かみついた児は中に1歳児クラスの他児に1回、合同保育中も0歳児クラスの他児に1回、かみつで保育者がとっとがあった。落ち着かない状況の中で、職員の目が行き届かない瞬間があった。	注意不足や経験不足から作ってしまった行動が逸れてしまった。死角を作らない立ち位置や視野を広げて保育に取り組めるようにする。	
824	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11	4	4	3					3	3	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯冠破折根尖性歯周組織炎	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施	2	2. 基準配置	-	特になし研修は実施、研修報告あり、配置基準に問題なし	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	-	特になしはマットはマット炎防使用基準外のものは使用していないため問題なし	保育室内の環境面。広い空間での遊び方や遊び行動範囲の想定の甘さ。	保育室内をコーナー化し、一人ひとり落ち着いて好きな遊びを十分楽しめるスペースの確保。	いつもお様であった	鍋蓋で、「おうまさん」にりなり「ばかば」言いながらけた。	2. 対象児の近で対象児を見た	保育室内、全体を本児をがらの遊び守る。転倒時手伸ばしが防ぐことはできなかった。	2. 担当者・対象児の動きをいた	1人は保護者対応、1人はオムツ交換、本児には目が離れた	職員同士の声かけや連携、危険予測の甘さ、本児ごとへと玩具の正しい使い方や遊び方の声かけがなかったこと。	保育室遊びのエリアから出る際は、互いに連携をとり声かけをする。厳しい状況のときは「今は厳しい」など断る。職員一人ひとりの危機管理、危険予測認知を高めるための研修を行い意識を高める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面									ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
825	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	7				4	3		1	1		16. 4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	1. 頭部	脳震盪	3. 子どもと子どもの衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	園として、頭部外傷の際の救急対応について職員周知や研修がいなかった為、事故発生時に本職員が目から目を離し、子どもの痙攣に気付けなかった。	●当●日の職員会議にて「頭部外傷の際の救急対応研修」を実施し、今後最大限のリスクは減らしたとしても事故が発生した場合には、職員が子どもから目を離さずに救急対応ができるようにする。 後頭部外傷の救急対応については、応急手当マニュアルの2頭部外傷について読み合わせ、職員間に共有いただいた「頭つけ点とその対応」「発生後のチェックリスト」を確認の上、マニュアルやチェックリストに沿った救急対応ができるよう事故対策シミュレーションを行った。	月1回の事故予防研修を実施して終わりではなく1カ月後にどのようにしているのかなる課題を話合う時間を設けて個々の危機管理ていく高めていく	1. 定期的に実施	3. 未実施	1. 定期的に実施	48	遊びの対象年齢を確認の上、ルールを守って遊べていたが、マットを3枚使用し三方向に子どもが動けるよう環境設定していた為、衝突のリスクが高かった。又、部屋の広さに対してマット、自由に動けるスペースの割合が狭く子ども同士の距離が近くなっていた。	担任は、遊びの対象年齢だけでなく、園の環境に適した遊びなのかを考えた上、事前に施設長安全面問題なかに確認していい、問題ながば実施する。施設長がない場合は、実施不可。	1. 集団活動中・見守り	初めて取り組む遊びではなかったが、事故当日はマットの数を1枚増やした為、子どもが遊びに慣れていなかった。	安全を踏まえ、子どもが遊びに慣れるまでは、2グループに分け、少数で取り組む。	3. いつもと活動的であった(理由を記載)	普段は集団遊びに入らない方ことが多いが、ムに参加した。	2. 対象児近で対象児見た	対象児と他児の衝突突面を見た。	2. 担当者・対象児をいなかた	他児の対応を見ていた。	担任が他児の対応の為、パート保育士へ説明引継ぎし保育室を離れた、遊びの配慮事項が理解できていないパート保育士に保育士施ことにしてしまい、遊びのリスクが高くしてしまった。	パート保育士が実践したことのない遊びは、引き継がない。 パート保育士に引継ぐ場合は、安全面の配慮事項が分かり安心して保育環境を整えた上で引き継ぐ。	
826	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	9	0	0	0	7	1	1	0	0	2	2	15. 3歳	2. 女児		5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	左頬骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	当日は欠席が多く、職員配置には余裕を持った配置になっていた。いつもよりも園児数がすくなかったので職員は気持ちにゆとりがあった分、危機管理に対して意識が甘くなっていたことは否めない。人員に余裕があっても事故が発生することについて職員一人一人が考えていく必要がある。	月1回の事故予防研修を実施して終わりではなく1カ月後にどのようにしているのかなる課題を話合う時間を設けて個々の危機管理ていく高めていく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	普段と異席なる座席配置を行う際は、事前に子どもたちに分かりやすく説明	1. 集団活動中・見守り	お盆期間中園児が多かったため、通常前にて座席変更口頭の説明で、児に理解いなかた	保育欠席児が多かったため、直前に座席をしたのみ、当該はどこに座ったかしてっかり良い理解いなかた	普段なる配置の際は、事前にもたちに分かりやすく説明	3. いつもと活動的であった(理由を記載)	普段とは座席なる異席どこりの座席なのかがいたらないため落ちないため着様子あった。	4. 象動見児をていかっ	他児の着理当肯処理事に対応に当該児の泣き事故に	他児と衝場突面を見た。	1. 担当者・対象児をていた(至距離近にいた)	至近距離ではなかったが、担任が対応いたため、口頭で席にこう指示を出した。その後、配膳を行いながら当該児を見守った。	担任保育士が一人の児の応にいって、他の児の見守りや他の職員の声掛けの共有ができなかった。また普段より園児数が少なかったので危機管理に意識が欠ていした。	上履きのサイズ確認をしていく	
827	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	13									2	1	17. 5歳	2. 女児	令和●年●月●日直後に痙攣・意識障害にて救急搬送後、保護者の依頼で抗痙攣薬であるプコラム口腔用液を園で預かる。	8. その他	1. 負傷		1. 意識不明		部分てんかん	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	特になし	持病による発作に対応できるよう子ども児の疾患をし、職員へ周知する。発症前後の対応について、園長、主任、看護師、担任と役割分担をする。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	特になし	持病の発症（転倒防止）に対応できるクッション性のある床に敷く。	1. 集団活動中・見守り	特になし	持病が発症した場合、他児を速やかに別室へに誘導する。児が転作で転倒した際の想定ときを考慮して行動に注視し、安静にさせる。	1. いつもどおりの様子であった	室内に座りブロックで遊ぶ段等、普段の昼食後子の様子とな変わらなかった。	2. 対象至児近で対象児見た	普段と様子がなかった通常の保育と変わらず近くで遊び守った。	1. 担当者・対象児をていた(至距離近にいた)	普段と様子がなかった通常の保育と変わらず近くで遊びを見守った。	特になし	持病による発作に対応できるよう、普段と変わった様子があれば連絡し合う、必要に応じて事務所に報告し、発作に備え体制を整える。	
828	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	9. 夜間・早朝（泊り保育）	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	4	0	0	1	2	1	0	0		2	2	17. 5歳	1. 男児	自閉症愛の手帳総合判定２度	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	本児が該当の乗り物遊具に不慣れであったことを踏まえ、補助になどの対応が出来ていなかったことが原因と考えられる。	該当の乗り物遊具を提供する際は必ず補助が出来る位置での見守りを行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	51	提供場所や壁に緩衝材などがなかった。	緩衝材を該当遊具を用いて提供することは難しいので面ソフト策をの徹底する。	3. 個人活動中・見守り	子どもが少なく、より思い遊んでいたが、見守りが甘く、補助につけていなかった。	ソフト面、改善策に同じ。	3. いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	当日に初めて提供した遊具であり、本児も興味を持っていた。	4. 対象児動きをていかった	見守りを行ったが、保護者がお見えになった瞬間に目を離してしまった。	2. 担当者・対象児をていなかた	延長保育中ともあり、閉園ことを準備していた。	保育園の迎えが来た際に、保護者対応と見守りの分担がなされていなかった。	迎えに来る保護者がいることを想定し、その場を離れる際には代わりに見守りできるよう助けを呼ぶ。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
829	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21	0	4	4	3	5	5	0		5	4	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯髄炎	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		布を引きずって歩いていたため、持ち歩くときは畳むことを伝える。子どもの動きを確認をしながら危険なことは言葉で伝える。他クラスにも共有し、未然に防ぐための対策（職員の配置や改善策）を職員に周知したうえで保育に臨む。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具、施設の安全確認は行うことができたので、ソフト面で改善をしていきたい。		年長児になっての課業し疲れた可能性は考えられる。	部屋ですごしている子ども数が19名だったので決して多い人数ではなかった。お集まりをしたり、グループ毎で活動する人数で過ごすことが多くなっていく。	1.いつもおりの様子であった	普段と変わった様子はなく、おままごとまでいんでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	他児の着替えや水分補給を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の着替えや排泄のトイレの介助を行っていた。		生活行為の援助に保育者が集中してしまい、遊びの近くに位置づいている保育者がいなかったので、自分たちで遊べる年長児であっても、遊びの場にも大人がいられるようにしていく。	
830	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24				6	8	10			2	2	17.5歳	2.女児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	怪我をした際の普段の活動とは異なるだった。重大事故に繋がることを予測出来なかった。	怪我の種類や起こしやすい動き等について職員間で共有をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	検討した結果、特に要因は考えられなかった。	検討した結果、特に要因は考えられなかった。	1.集団活動中・見あり守り	検討した結果に要因は考えられなかった。	検討した結果、特に要因は考えられなかった。	1.いつもの様子であった	友だちと一緒に遊びや遊ごっこを行った。一緒にままごとをして近くに妹（3歳児）が遊びに来ていた。妹が遊ごっこ遊びをしていた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	他児が休息をとり担当職員に話をした為、他児と一緒にテラスに行き見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	3歳児の子ども達でトラブルになり、そう子が見られた為、担当職員の指示の下で、子達を近くで見ていた。	昨年度●月化より本児にとってはおらず、バランスを取りくいに環境性は慣れていの可能性があった。	お茶を飲む、声掛けをする等し気持ちをクールダウンする時間を設ける。また、気持ちが高ぶっている子どもの近くに職員が付けるように職員間で連携を取っていく。	
831	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				12	7				3	3	15.3歳	1.男児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	複数の遊びが始まったところであった。そこでの予測が出来ていなかった。	各遊びの場所を保障すると共に交わる際の予測を共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	昨年度末芝生化し、根付く芝で足している。	根付く芝の根付くのを待たず、靴を履いて過ごす。	1.集団活動中・見守りあり	検討した結果、特に要因は考えなかった	検討した結果、特に要因は考えなかった	1.いつもおりの様子であった	他児と一緒に水場と砂場を行き来した。	4.対象児の見ていた	色水遊びの場所を保障する為に取りを共に取りから移動園室内へ移した。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	担当職員が移動したことに気付き、全体を見ようと移動する。また水道付近の3歳児に声をかけていた。	昨年度より芝化し、遊びが変わっていると応する職ところで対員の予測が今までは通いかなくなっている。	園庭責任者の在り方の確認・予測がつくまでの異年齢活動一時中止	
832	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	13					13				1	1	16.4歳	2.女児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	運動遊び、戸外活動への導入、声掛けの配慮不足	活動前の約束やルールの確認と声掛け、スペースをとる環境設定	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	週1回	園庭が芝生化になり、養生したりで慣れていなかった	週1回の芝刈り機を担当者を決めて整を環境を整える	1.集団活動中・見守りあり	園庭が芝生化になった初日だった	かけっこの安全方の遊び保育士が一緒に遊び、指導する	3.いつもより発活動的であった(理由を記載)	園庭が芝生生り、本児や子が遊ぶ月遊ぶこと達ぶこと気持ちが高揚していた	2.対象児の近で対象見ていた	こども同士がかけっこを同時にスタートした同にトしため、声掛けとペースをとることが間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で全体の子どもを見ていため、すぐに対応できなかった	戸外では子どもの行動範囲が広がるため、ルールや約束を守りながら安全な庭での遊びを園全体に浸透させていく	週1回のミーティングにて事故防止について共有し、安全管理していく	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故年齢 | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転倒		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因						実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】												具体的にしていたか		具体的にしていたか			
836	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	1					1			2	1	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	5歳児でもあっても履いた靴下を履いた状態は、床がやすいとの注意意識が希薄であった。	事故予防マニュアルは年齢別にチェックがされているが、必ずしも年齢にとらわれず、一つの点検事項を理解してようにした。	1. 定期的に実施	1回/月	1. 定期的に実施	1回/毎日	1. 定期的に実施	1回/月	子どもが次の遊びの間に、靴下を履いたまま滑りやすい床の上に腰掛けした。	座って落ち着いて活動できるよう、絵本や玩具を設定する。	3. 個人活動中・見守り	遅番の時間帯に疲れているとされが、靴下を履いた状態で脱ぎ子止めずに転倒した。	疲れが出てきて遅番時落ち着いて遊ぶ遅番は、着いべるよう、遅番見直し絵本や玩具プロックなど座って遊び定すなど座べる設定する。	1. いつもお様子であった	通常通り変化なし	1. 対象マーンの児ンマン状態（対象児に後いた）	当児童向から正面に立っていたが、体の向かって左側をつけておりカートに向かおうと体を該当児童向けを童たとき当児倒した該転が。腕を伸ばが間に合わずることなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	水道の掃除をしていた。	職員がすぐに支援位置にいなかった。	座って遊ぶ遊び伝えよう、絵本や玩具を準備して環境を整える。幼児は靴下、上履きを履いてが保育が基本で使ある、遅番で使用する乳児クラスでは上履下、靴下を脱いでき、ぐしったりを過走回しりこえを伝えとを徹底する。	
837	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20			13	6	1			3	3	15. 3歳	2. 女児	言葉が遅く、●●センターに月2回通所している。言葉は、ほぼオウム返し。言葉の理解はできることもあれば、できないこともあるが理解力は乏しい。生活の流れはルーティーン化しているので、できている。登れる箇所は所かまわず登ってしまうこともあり注意している。落ち着きがなく部屋から出てしまうこともあり、職員が一人付いていないと危険が伴うこともある。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	夕方、園庭遊び中、三輪車、四輪車、追いかけっこ等の遊び	遊び方には危険が生じる場合がある為、過信せず遊具使用には同士の声掛けを必須にしながら見守りを行うようする徹底	2. 不定期に実施		1. 定期的に実施		2. 不定期に実施		遊具点検は月1回行うようにしている。鉄棒や雲梯などの運動遊具使用の場合は、保育者の人数や子ども達の年齢により使用できる。できない(×)を子ども達に伝えるようにし、×の札を見える数か所にぶら下げる等している。使用する場合は、職員がその場につくようにしている。	片付け、消毒の際に点検し、破損しているものは処分する	1. 集団活動中・見守り	本児は高いところに登ることが好きで、今回は高いところに登ることを忘れないようにと、声を掛けるもいつもと同じに声を掛けが、いつもは飛びのろ降りに降りる、いつもと体制違った。	高いところに登ることが好きなことを忘れない、目をないよう、気を離さないよう付け本児に危険を未然防ぐ徹底する。	1. いつもりの様子であった	本児の様子は通り活発であり、じっとせず回った。	3. 児童が後を追いながら遊んでいた。本児の素行動は目で追いながら他の声掛けを傾けた	本児の後を追いながら遊んでいた、本児早い目の声耳で追いながら他の声掛けを傾けた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	元気よく回っていると目に留まっていた。走りなく回っていたとは把握していた。鉄棒に登ったことは見ていなかった。	少し離れた場所にいても担当職員が、本児が鉄棒に一番近づいた職員にも咄嗟に声が欠けられると良かったかもしれない。	担当でなくても、ものを子ども守りを全体で子ども全体の把握をしっかりと行うよう徹底する	
838	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	33			11	10	12			3	3	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期に実施	5	2. 基準配置	ヒヤリハットの返り振り、職員有共有との行っているなど、環境などに意を面も注意をしていく。	事故の起きやすい場所や時間帯の周知を再度行う。	1. 定期的に実施	12回以上			1. 定期的に実施	12回以上	棚があることより、通路が狭くなっていたかもしれない。	躓きやすいものを置かない。	1. 集団活動中・見守り	夏祭りが近かったこともあり、楽しみで興奮したりしていたかもしれない。	週末や夕方は子どもも気分が高まりやすいので、落ち着く環境を作る。	1. いつもりの様子であった	普段から落ち着きの児ごくいるわけではない。	3. 対象児が離れたところで対象児をていた	年長クラスの保育士がきっちりという、他のクラスの子どもたちをかけていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他の児と同じように声かけを見て守っていた。	走っていることを注意されると思い、事故時に言えなかったのではないか。	転んだ際にすぐに気づけるように全体が見える位置に保育士がいるようにする。	
839	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	24								4	4	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右踝剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期に実施的	12	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	転んだ児童和感は違和感があった。職員かけの声や怪我をしなかった。	見守っていた2名の職員が転んだことの把握していた。転んだ児に声かけや怪我対して、の確認をすることができる状況であった。今後は、必ず大丈夫と判断せず声をかけるよう職員同士対応していく。	1. いつもりの様子であった	集団遊び参に自加していた。	2. 対象至児の近対象児見ていた	転んだことも把握はしていたが、痛がる様子ドッもなくドッジボールを続け走り回っていた問題ないためのであろうとドッジボールの流れを継続し、児への声かけも怪我の確認もしなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	それぞれ遊びの自由遊び子どもの中のびのをみていたため、現場はみていない。	児は、違和感を職員に伝えなかった。	転んだ際、児への声かけと怪我の確認をする。普段と違う状況や痛みなどがあった際は、職員に伝えるよう、子どもたち全体に話した。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳																事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
840	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	31			12		19			4	4	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	6	2. 基準配置	本児の普段の生活から、ボディイメージや予知能力が未発達であることを把握していたが、その点についての甘さがあった。	本児の特性を捉え、行動及びそれに対する大人の配慮(声かけなど)を担当だけ職員間で再確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	300	園庭が乾燥し滑りやすくなっていた。	園庭が乾燥していた時には、滑り防止に散水などを行う。	1. 集団活動中・見守り	本児のボディイメージが未発達であり、ボールの上に乗り上げ転倒したと思われる。	ボール遊び基本的な瞬発力をつける遊びや経験を日々の生活に取り入れる。	1. いつもどおりの様子であった	普段から遊びとしてボールをいたずらとしてボールの上にのってしまい転倒した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士1名は全体をみながら、離れた場所(プランコ)から本児の動きをみていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士1名はすべり台について4名の児童をみていた。保育士1名は砂場で10名の児童をみていた。保育士1名は対象児の近くに一緒にボールで遊びをしていた。保育士1名はブランコについて4名の児童をみていた。		本児の特性を捉え、行動を予測し声かけをする。	
841	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	26								3	3	17. 5歳	1. 男児	●月●日手に玩具を持ち走っていた時、地面にあった直径5cmほどの窪みに足を取られ前方に転び、置いてあったタイヤに顔をぶつけ、上右A・上左A歯上の歯肉を裂創し、嘱託歯科医(●●歯科医院)を受診する。打撲による歯肉の裂創と診断される。歯肉の腫れはあるが、歯への影響はなし。裂傷部を消毒し、自宅でロ腔内消毒用にアズレン含嗽散剤が処方された経過あり。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼	5. 他児から加害を受けたもの	1. あり	1. 定期的に実施	1～2	2. 基準配置	事故防止マニュアルに従い、事故防止に努めているが、一層強化するがあると考える。	●月●日にも同じ児童が同じ部位の外傷事故が起きており、事故の瞬間を見ていた職員がいなかったことから、子どもの動線や職員の付く配置担当間で再確認し、安全保育に努める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	保育室前の廊下スペースで読み聞かせを行っていた。	保育室とは違った時空間の過ごし方をしていたことから、通常子どもたちは、通常よりも子どもや職員の位置に配慮が必要である。	1. 集団活動中・見守り	読み聞かせは担任職員ではなかったが、いつも以上に子どもは嬉しそうに、気持ちの高揚があった。	職員にころでは子どもたちが落ち着いて参加ようけど含め環境設定をしていく。	1. いつもどおりの様子であった	当日は変段ごとに過ぎていった。	4. 対象児の見ていた	本児以外達移動しそれぞれの他児達が多数おそれぞれの動きが付いたため事故が起きた瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた	1名は●●児に部屋にいた。もは共に●●児と共に食後付け事項にいたため、その場にいない状況であった。		事故防止マニュアルに従い、事故防止に努めているが、一層強化するがあると考える。	●月●日にも同じ児童が同じ部位の外傷事故が起きており、事故の瞬間を見ていた職員がいなかったことから、子どもの動線や職員の付く配置担当間で再確認し、安全保育に努める。	
842	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	18	1	5	1	6	1	4			6	5	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	右上眼瞼創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	保育所独自の取り組みとしてもヒヤリハットPJを中心に常日頃事故防止に取り組んでいる。今回の事故発生時にも、本児の受傷の状況を複数で観察・把握し、経過を追った。異年齢で過ごす土曜日保育で、乳児が多い中職員配置は十分であった。	配置された職員間で保育内容、手順等声を掛け合い確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	乳児が多い中、活発な乳児が幼児クラスに過ごした。	乳児と幼児クラスの場所に設定して落ち着いた生活を別に着ち環境を整える。	1. 集団活動中・見守り	手洗いの水道からテーブルまでが部屋の対角となり導線が長かった。また、1歳児クラスの児童が多く射掛け椅子4脚と付きテーブル卓イス1台を準備していたが、1歳の児童にテーブル付き食卓イスは適していなかった。	洗面台近くにテーブルを設置し出席数に応じ児童の格に椅子の体備した準備する。	1. いつもどおりの様子であった	卓上いすを足を座げてとうしバラを崩れだっンスてそうした。	2. 対象児の近で象児を見ていた	象至対象を児ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	バランスを崩れそうのたて上座わうを倒だって、慌てて抱きてせた。とし少しとてテーブルなどを拭く配膳をていたが、危険を感じて抱きてきげらとせた。	朝のおや手前に行きるわるおにようにすにに誘いて導した。3名職員がいが、椅子を使用する本人の児の近くには誰もいなかった。	テーブル卓付きイスうて食卓を抱きあわて上げとしと	テーブル卓付き食卓イスは立ち上がったり危険も考えたに転落もそばにめついて離れないようにする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																													実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】										理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
848	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	7								1	1	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	下顎部裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	テラス階段付近の整備、危険周知の声掛け	職員のリスクマネージメント力に繋がる教育	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	テラス階段が遊びの領域となる	園庭と通視路の可視化による区分け	2. 集団活動中・子ども達のみ	遊びの中でルールや危険行動についての教育的導入ができていなかった	「危ない」を伝える保育を取り入れ必要がある	1. いつもどおりの様子であった	いつもあっても通ったことで対象児を見ていたが、鬼ごっこ中に逃げると死、ありたいに夢中になり、危険やリスクに対して注意が向かなかった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体的な動きとしては把握していたが、個人まではしていなかった	2. 担当者・対象動きをいなかった	他の保育に関わっていた	見守り体制の改善	テラスからの見守り要員を配置する	
849	令和6年6月10日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15		6	9					6	4	14. 2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	なし	更に全体へ目が行くよう、教員間の声掛けと人員配置の見直し。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	なし	1. 集団活動中・見守り	なし	本人の欲求の高まり察知し、出来るだけ早めに声を掛ける。	1. いつもどおりの様子であった	走り回る園で、先よりの走り多く「ゆっくり歩く」「踵から足つけてください」と声掛けを行ったが、本人の理解には中々及んでいなかった。	2. 対象至児の近く対象児を見た	日常的に行っている遊びであり、該当児に関してはプールを使った人保育者がマンツーマンでいた。他児については遊具等で別の遊びを行っていた。	1. 担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	他児については遊具等で別の遊びを行っていたため、全員が近くにいたわけではないが、全体を見回しながら保育を行っていた。また、全体を俯瞰する保育者も配置していた。	なし	本人の欲求の高まりを察知し、対応している保育者に声を掛ける。	
850	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	6. 午睡中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	29	0	0	9	15	4	1	0	5	5	16. 4歳	2. 女児	直近で同症状があり救急搬送された（令和●年●月）	4. 睡眠中(うつぶせ寝以外)	1. 負傷		1. 意識不明		てんかん	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	睡眠時のチェックの徹底・発作時の対応の確認と共有	1. 定期的に実施	12	3. 未実施		1. 定期的に実施		毎日	特になし	ハード面に改善すべき点が見当たらないため	5. 睡眠(午睡)中	特になし	環境面に改善すべき点が見当たらないため	1. いつもどおりの様子であった	健康状態とも平常とも変し、コット入眠した	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児をにし正面でチェ（5分毎にチェ）行った	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が咳込んだため、体を横に向け様子を見ていた	本児の持病による発作	発作に対する予防策はない	
851	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	57					30	27		5	5	17. 5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折（●日診断月●）	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	園外の遊びの場所において不ていた位置などを見直すべきこと修正ともしてられるとえる。	マニュアルの見直しをしている。遊具の使用方法を共通理解を解げる。	1. 定期的に実施	220	1. 定期的に実施	220	1. 定期的に実施	220	遊具である子供達は、正しい遊びの方法を理解し、月1回のチェック以外にも、特に起ケガが起きた場合には都度確認し改善していく。	月1回のチェックに起ケガが起きた場合には都度確認し改善していく。	1. 集団活動中・見守り	休みの職員はいなかったが、早番の職員が1人帰っていた。	職員の配置は、ドーナツ型の回転遊具やロープを渡る遊具、ブランコ、はめ込み遊具がつくようにし、遊び始める前に確認のお話をした上で、子どもの遊ぶ状況により、その都度伝えることとした。職員間で連携して危険な時は声をかけたり行動を止めるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	興奮状態である子どもが事故が多いが、心立ちにつながみる。	2. 対象至児の近く対象児を見た	気になるこどもたちがあるため、ツーマンとなくて、すぐ付ばしたり、そき意をいたり、立ちしてしまい、離れ乗りをしまい、職員に合倒しまう。	2. 担当者・対象動きをいなかった	それぞれ所でどもを見ていた。	ゾーニング考えを、ゾーングえ、ごと（鉄棒、回転遊具付近）に見ていることが職員が見ていることが適切であった。	職員の配置は、子どもの発達状況や状況そ遊ぶ状況により都度考え、職員間で連携していく。危険な時は声をかけたり行動を止めるようにする。	
852	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	18								2	2	16. 4歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	担任がマルニュアを活用していなかった。	マニュアルは、職員が確認できるところある定期的に内容の確認を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園庭の点検は、朝と定期的にはは行っていたが、遊ぶ直前の点検は徹底されていなかった。	園庭の点検は、朝と定期的には行っていたが、遊ぶ直前の点検は徹底されていなかった。	今後は、遊ぶ直前の園庭の確認も徹底する。	1. 集団活動中・見守り	いつも、準備体操を行っていたが、当日は体準備体操を行わなかった。	しっかり準備体操を行い、体を十分かして動かしから活て動する。	1. いつもどおりの様子であった	本児が、隠した帽子を鬼で育探しある保育士とおり、子ども帽子を遊びを楽しんでいた。	2. 対象至児の近く対象児を見た	本児の近くにいた、鬼とすぐ隠れて帽子をしてれた探いた。	2. 担当者・対象動きをいなかった	少し離れた所で全体の様子を見ていた。	本児の気持ちが高揚していたが、そのまま活動を進めていた。	園児18名で職員2名配置されており、子ども達と一緒に遊ぶ保育士と全体を見守る保育士がいたので、人的要因は満たしていた。はじめての遊びで、気持ちが高揚している時には、保育者が声かけ等により子どもを鎮静させてから活動を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
853	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	16		5	11					5	2	15. 3歳	1. 男児	発生時の天候：晴れ	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	怪我当該児の考察がかけていた。	職員間で活動的な子供には特別な配慮を確認し合う。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	1	毎朝の施設安全点検	毎朝全職員で施設の安全点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	とっさの出来事で出来ずに防げなかった	職員間で声を掛けながら合いながら予想し動ようにに未然に動けるに整える。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	室内活動活発	2. 対象児の近で対象見た	予想外の動きだった	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	とっさの判断にかける	対象児童以外も同時に見ていた	加配など必要な部分を事前に話し合う	
854	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	23				10	13			3	3	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	6	1. 基準以上配置	園外保育マニュアル沿って対応する	保育士はそれぞれの場所につき、立ち位置には問題はなかった	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	235	遊ぶ前に遊具、危険個所、危険物の点検を行う	点検を行った際、遊具に破損などの問題が見られなかった	1. 集団活動中・見守りあり	ブランコって突発で乗って突発的に手をしてしまった離	遊びを始めに遊具の安全確認方の約束事を伝える	1. いつもおりの様子であった	普段は、ごっこ鬼等友だちと身体を使って事がふいが、本児は、自ンコ択していた的に放まった。	2. 象児の近で対象児見た	保育士は全体的な安全把握をしながらブランコについていた。手を放した際、ブランコたらよる優先した。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	・別の遊(滑り具台)について・別園児鬼数名とごっこ	手を離ないに伝えるようにがりをしていた児が手を離した為、ブランコ当たらないように止めた。	・危険個所、遊べる範囲、遊具の使い方やマナーを保育士同士で確認し、子どもたちにも話をする。・立ち位置や役割を決め、遊具を取りながら保育にあたる。（子どもたちの動きを把握、約束を守っているか等）等の園外保育活動マニュアルに沿って対応することを常に念頭においておくこと。	
855	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	14								2	1	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	6	2. 基準配置	鉄棒マニュアルには「子どもを落とさない」補助についての記載があったが、鉄棒での事故発生時においては、補助が不十分だった。	該当講師に限らず、講師全員に向けて各活動及び器具実施にしてのマニュアル確認テストを実施。合格ラインを満たさない場合には活動を行わない。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	都度	1. 定期的に実施	12	なし	使用している器具や設備には問題はなかった。	7. その他	なし	体操教室実施における、環境設定・職員配置については問題がなかった。	1. いつもどおりの様子であった	いつもど様操おり子で体操教室に参加を行った。	1. 対象児とンマンの状態（対象接いた児）	対象児と師対象講は、マンンツーマンで鉄棒の前回り活動を行った。	2. 担当者・対象児の動きをていかった	担当保育士は、全見なる別のもの子ケンカ対応を行っていた。	鉄棒での事故発生時において、鉄棒アマニュアルを遵守「子どもを落とさない」補助が不十分だった。	該当講師への指導および、講師全員に向けて各活動及び器具実施に関してのマニュアル確認テストを実施。合格ラインを満たさない場合には活動を行わない。	
856	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	18		3	5	5	5			2	2	16. 4歳	1. 男児	好奇心があり、体を動かすことが好き。人と関わることが好きで、友達との距離も近い。筋力もついてきた為、巧技台にも積極的に挑戦している。週１回療育に通い、生活面や友達とのかかわりで出来ることが増えてきている。	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	前腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	保育士AとBで当該児の認識に差があった。新しくなった昼上の扱いに明確なルールを設けていなかったと、個所の危険確認不足	昼上での子ども姿から、ヒヤリハット危険個所を いまとめて周知する。昼上で保育する職員は、現場の子ども様子を伝え合う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	着地点には何も敷いていなかったが、ゴムチップのため、怪我をする可能性が低いと判断した。大型遊具飛び降から降り、怪我するかもしれないという危険予測が全体で認識されておらず、安全を守るための対策がとられていなかった。	昼上で保育をする前に、ヒヤリハットの一覧を確認する。職員は事故の点付着地点に立つ。	3. 個人活動中・見守りあり	当該児が以前同じ所から飛び、着地できていた姿を把握していた為、職員の危険予測が低下していた。又、当該児が普段行わない鬼ごっこを他児と楽しんでいたため、夢中になりスピードが出ていたが、続けてもらいたいと判断し、声を掛けずに見守った。又、夕刻のため全体が見えにくい状態だった。	子の姿に合わせて、昼上の数の同じかを共有する。事故にいる複員の職員士が方わりの着地点に危険個所がないか確認する。昼上で遊ぶの設ま は日でとする。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	当該児合わせて鬼ごっこを人ごっこして、当該児は逃げ児を事に集中した。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	ごっこ鬼ごっこ、三輪車乗るこった子ため、掛けをつ、つ周囲を移しながら守り見守り実施していた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	水道前付近2歳児心に見守りを行っていた。	昼上での保育に明確なルールがなかった。	昼上でのつのヒヤリハットを作成	
857	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	36	5			10	11	10		6	6	18. 6歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	左眼窩底骨折の疑い	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	幼児1クラスが外にいた状態で、●●組の子が順次出た来ていた。順次出ることで人数把握が難しくなること、職員の連携が難しかったなどの考える。	マニュアルの定期的な確認、職員の連携、声掛けなどの改善が	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	48	危険ポイントを意識できる点検ようなる工夫が必要	今後は点検しかり。玩具の点検は、危険ポイントを共有してしまう。	1. 集団活動中・見守りあり	この日は遊園庭で遊ぶ子の人数も多くなかったが、多い日もある為遊びの内容も考慮しながら過ごしている。今後も引き続いなど改善する必要ると感じる。	園庭で遊ぶ多くなるように決ぶ子がならいよう時間を決めるなどを引き続いき行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず遊んだ。	4. 対象児の見ていなかった	全体を把握する保育士はいたが、ぶつかった瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていかった	担当保育士は、全見なる別のもの子ケンカ対応を行っていた。	鉄棒での事故発生時において、鉄棒アマニュアルを遵守「子どもを落とさない」補助が不十分だった。	人員的にはいたが、ぶつかった瞬間は見ていなかった気がいたくのが対応遅かったため遅くなった。	全体を見棒レ守る、鉄棒アスレチックに、保護者対応等、役割分担を決める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
858	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16									2	2	16.4歳	1.男児	3歳児クラスから5歳児クラスまで、保育室の外側でテラスがつながっているため、行き来は自由に出来る。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左側鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突による事故	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	特になし	特になし	4.個人活動中・子どもごみ	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	昼食の準備が出来るまで、過ごしているので、自由に過ごる天くにでてあるテラスにそんでそのまま寝ていた。	4.対象児の見ていなかった	室内で、昼食の準備をしている職員Aと外遊びから室内に入ってきて、着替えをしている子どもを補助をしていた職員Bだったのでテラスにいる子どもは、見守れていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で、昼食の準備をしている職員Aと外遊びから室内に入ってきて、着替えをしている子どもを補助をしていた職員Bだったので、テラスにいる子どもは、見守れていなかった。	昼食前の自由遊び時間は、クラスをまたいでも子ども達が来ることも多く、スペースでも共有の子ども達の把握が難しい。	異年齢での交流は大事にしているので、各クラスの職員を連携をとり、職員を死角の場所が無いように、見守るようにする。	
859	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12	4	8							4	4	14.2歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	数	2.基準配置	『園内ルール』では、「保育士同じ場所にいないようにする」としていたが、保育者によって理解に幅がある為、立ち位置や動き等、より具体的な理解が出来るよう、園庭での保育士の役割分担等、保育の振り返りをしながら共通見解が必要。	園庭の使いて話し合いを行う。●日●日実施	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	園庭の使いて話し合いを行う。（●月●日実施）●年度～●年度～遊具の入れ替え等、園庭環境整備をしていく。（滑り台、鉄棒は●月●日、●日撤去済み）	1.集団活動中・見守り	●年度に『園内ルール』研修を園内で作成していく。少しずつ状況の変化も為、固定遊具方固定遊具の使い方の振り返りをしながら定期的な見直しが必要。	固定遊具の使い方で、現状の不確かな事を確認を行った。（●月●日実施）	1.いつもどおりの様子であった	日頃、チャンレンジした上り欲いた事を喜んだ。	2.対象児の近で見ていた	対象児のたいを上り持ちを止め、すぐ気受けめ、すぐ近く守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	築山等で遊ぶ他児の動きを見ていた。	『園内ルール』に沿って、側面から登る園児の傍に付き添っていたが、ヘリコプターが低空飛行して、園児にもヘリコプターを見せてあげようと、そちらに保育士の意識が向き、目を離してしまった。「付き添う」とは、どのような事なの保育者で共通見解が必要。	「付く」とは、高さのある場所では、降りるまで「手をつなぐ」「支える」等、園児の身体に具体的にサポートする。	
860	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	7									2	1	16.4歳	1.男児	今回の怪我が要因でできた傷に、本児がもとよりもっている『逆さまつげ』があたり、傷の治りが芳しくない。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左眼球、玩具衝突による打撲、擦過傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	こどものペースに合わせた保育が出来ずに、保育室を促し移動を促したため、子どもの癇癪を見極められずにとめられなかった。落ち着いた行動をとれていればあるいは防げたかもしれない。保育補助の方の経験が浅く、その点を加味したうえで保育士が全体を見るべきであった。	保育補助、パートの方に対する研修も必須である。3歳クラスには配慮が必要な子が2人おり、保育士等の配置をできるだけ慣れた者にする。	2.不定期に実施	50	2.不定期に実施	30	1.定期的に実施	30	使用して対象は対象年齢は日頃、中び込めの。Aは癇癪すと替え投まう	A児の気持ちにできる限り寄りながら、特の転換にはりをつけられる様に進いく。部屋を移動する、玩具を片付ける、などど状況によって事前に立て行動するようにする。	1.集団活動中・見守り	落ち着いてすごすべきであったが、片づけを促した激しく癇癪を起こした。	子どもの特性（今回はA）をよく理解する職員で対応できるそ様になる。特性を全員がしっかり把握をしっかりとしに行動できるように職員の教育をする	1.いつもどおりの様子であった	Aのそばでいっしょに遊んでいた	3.対象児離れとで対象見ていた	保育士は離れところ少しと全体の見ていたで遊び守った	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	傍で一緒に遊んでいたが、すごいた咄嗟のこと対応にできず起こった怪我こまった	今回の件では、Aに1対1で離れずに一緒に過ごしてもらうべきであった。	配慮が必要な子について、職員会議で共有し、その子の個性が全職員がしっかりと理解できるように、職員会議で合意し、共有し、アルバイト、スタッフ共に閲覧できる共有ノートを使用し周知する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者										事故誘因	ソフト面											ハード面											環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】																	
861	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				13	12	15			3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	マニュアルの整備、研修は実施しており職員配置も基準以上だったためソフト面での改善策はないと思われる。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	園庭の転倒した場所付近には石やボールなど躓く要因となるものがなく、また足が引っかかるような凹凸も見られなかったため、園庭内でバランスを崩し転倒したと思われる。	遊び庭園に目視確認をすることを改めて職員へ周知徹底する。園庭に子どもが入る前には、園庭を整地し、できる限り小石等取りをくすること。園児の足のサイズにあった靴を履いているか確認する。	1.集団活動中・見あり	特になし	保育人数に対する園庭の広さも遊びの動線も問題なく、使用している遊具も園児に対する当該児に遊ぐ必要とする園児ではなかったため、環境面においては改善策がないと思われる。	1.いつもお様子もりの様子であった	特に普段と変わりがなかった。	3.対象児が離れたところ対象見た児とで対象見ていた	園庭全体の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具（すべり台）で遊んでいる園児をみていた。	特になし	職員配置数は基準以上であり、当該児が必要な園児ではなかったため人的面においての改善策はないと思われる。	
862	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22				9	6	7			4	3	16.4歳	2.女児	特に無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨瘤骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	・運動に補助する仕方も子どもの様子を知あまり知らない補助員が鉄棒についた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	・点検の周知内容が人によって違った。	・点検リストを見もよって直し誰も安全に直ししたように安全に検ようにする。	1.集団活動中・見あり守り	・遊びの設定初た子ども興味を種目だ出こと子ども遊び最してい事ども自来ても、他のの姿同じとした。・子ども自分ないでき見こよしをとった。・子ども達に合わせた段階的に習得していくものは、子どもができるようなかからとやらせるのではなく適切な補助の中で行うようにする。	・活動を変えるときは保育士間で連携をとり連絡状況を確認し合う。・子どもの様子や、運動能力に合わせた種目を組み立てていく。・発達に合わせ段階的に習得していくものは、子どもができるようなかからとやらせるのではなく適切な補助の中で行うようにする。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	運動はあまり得意ないのが周りの子達の姿を見て真似をするように自分から上行ったり鉄棒に上行ったりすることの前回ったりを行った。	1.対象マーツンの児ンマの状態（対象接児していた）	鉄棒の補助について、いつもいろいろに来ところに来て自分から鉄棒に上に登った本児の左側に立ち手を離さないよう声をかけていた。本児が回わっ児の際に怖く手を離したのなり急に手をつかもうをしたのを離したのみ体をつかみ右側が左手のみ落下してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具の補助付けを自分付けていた。	・各場所保育士にが補助れにつき離れなつなかったた、危険につながこと場面に保育士が気がが出来なかった。	・子どもたちのやり気持ちい尊重すを尊重することも、危険につながることは避けることも考慮する。その判断が出来る保育士が補助につく。	
863	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17				4	7	6			3	3	18.6歳	1.男児	（1）●●クリニック（2）●●病院	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	10	1.基準以上配置	・誕生会やおやつ作りを実施する保育で、各保育者の具体的な確認が不十分であった。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	294	1.定期的に実施	294	・普段は違うテーブルだった配置された子ども。	・テーブル等に配置し、保育室内で安全に過ごせるようにする。・担任間で、配置を図式化などをする可視化を打ち合わせする。	1.集団活動中・見あり守り	・日常の保育で、移動時の対応して、安全教育ができていなかった。・普段は違う環境で子ども興奮していた際、気持ちが切り替わるように視覚的に環境を構成し、働きかけが不足していた。	・日頃の中で、安全教育で、教育室内での過ごし方を伝えられる保育者がいろいろ姿を見せていく。・保育内容の切り替わり、大事な事前の打ち合わせ、確認、子どもに関わる。	1.いつもお様子もりの様子であった	・本児が座ったコップにと座りこと保育者が保育者ら隣の席からくる取りくる促すこと、取り促れ、に行った。	2.対象児の近で対象見た児の対象見た	・おやつ喫食のために、の本児コップを席の隣の席ら用意した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・隣のテーブルがテーブルを本児に行こうと移動し、転倒した様子を見ていた。	・事故発生時のテーブル配置をしたのは、クラス担任ではあるが、入職1年目で経験は浅く、打ち合わせしていたものとは異なる設定の仕方であったため、子どもも普段とは違う動きになってしまった。全員が保育室の環境をイメージできるような打ち合わせができていなかった。	・保育者前で事前に打ち合わせをいい、その状況、子どもの様子に応じを行もに応じを行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修 実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
864	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	18	0	0	0	6	5	7	0		3	3	16. 4歳	1. 男児	1●●整形外科 2●●病院(治癒まで)	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	危機管理マニュアはあったが、職員間で周知されていなかった。また、平成作成後、修正しその年に作成し、修正しが行われていなかった。	保育士が持ち場を離れる際は声掛けをし、他の職員が児童の動きを把握しておく。また、事故防止マニュアルを全職員に対し研修を●/●に実施。誰もが対応出来るようにする。事故発生対応フローチャートも●/●に作成し、職員が見えるところに各教室に掲示した。	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	10	2. 不定期に実施	220	その時間のに必要のないものにはカバーをしていたが、一時的な椅子の置き場所にはしていなく、容易に登れる状態だった。	椅子や登りうる可能性がある場所にはカバーや目隠しを行った。	1. 集団活動中・見守りあり	保育室以外に椅子を置ききなく、重ねた椅子を置いていたが、カバー等していなかったから登しまった。	椅子カバーを作成し登れないようにする。また危険行為を児童に理解してもらうようにに伝えていく。室内では日頃から危険行動を行う児童に対し、注意をし落ち着いた遊びをするようにに促す。保育士が持ち場を離れる際は他の職員が児童の動きを把握しておく。	1. いつもどおりの様子であった	畳のマットで友達とと仲良く井型ブロックで遊んだ。しかし玩具が汚れてしまい、そばにいた職員れた。目に入った椅子にりなってしまった。	4. 対象動児の見ていきかった	常に児童守っていたが、事故が起こった30秒ほど、少し水目離道に汚れに玩具をいに目をしてしまった。	2. 担当者・対象動きていなかった	保育士が持ち場を離れる旨声掛けしたが、他の二人の保育者に聞こえていなかった	他職員に声対するが伝わっていないうちにその場にを離れてしまった。	離れる際は必ず他保育士に声掛けを徹底し連携を図り、児童から目をさない。	
865	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	37				14	14	9			3	3	17. 5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨外側顆骨折(左)	2. 自らの転倒・衝によ突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	-	安全管理について再確認し、どんな時も保育者同士の連携を忘れずに声かけを常に確認し合うことを徹底する	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	人工芝なので滑りにくく、足がからまった可能性がある	環境特性を踏まえ対応していく	1. 集団活動中・見守りあり	-	環境も踏まえて、早めに察知し可能な限り防止できるとよい	1. いつもどおりの様子であった	園庭で一歩きをしてとバランスを崩いたろ、し転倒し、左手をつい	4. 対象動児の見ていきかった	降園時の対応中だった	2. 担当者・対象動きていなかった	砂場付近に一人、すべり台一付近に一人いた	園庭全体を担当職員が保護者に起きた	保護者対応をする時に他の職員に声掛けをし、引き継いでいく	
866	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	39				12	12	15			5	5	16. 4歳	2. 女児	療育手帳B1　自閉症スペクトラム	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第3指　左挫創　第3指末節骨骨折	5. 他児危から加えられもの害を受けた	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	本児には、会計年度職員が1対1でついていたが、目を離さずに本児を見てほしいとはっきりお願いすることについての説明が不足していた。	上記の要因を踏まえ、本児へのかかわり方の再確認をし、業務内容を明確化した。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	288	1. 定期的に実施	288	-	出入り口は防止のため衝材の緩衝をつけた。	3. 個人活動中・見守りあり	療育通園施設保育園に戻ってきたばかりの環境	集団行動はとれないため、危険のない本児の行動に努める	1. いつもどおりの様子であった		1. 対象児とマンツーマンの態（対象児に接していた）	一緒に絵を見て、本一を離いた他児を手伝い、一緒に見ていた。瞬目してしまった。	1. 担当者・対象動きていた（至近距離にいた）	寝具の片づけをしながら、子どもの様子には注意を向けていた。	-	担当職員だけでなく、園全体でもって保育していく。	
867	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	7									1	1	18. 6歳	1. 男児	身長：約110㎝　体重：約18kg	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝によ突によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	ピアノの下に入ったり玩具を取ろうとそしてべる園児や、周囲の片付けをしている園児にしての対声掛けが不足していた。	園児1人1人に応じた状況の判断や危険行動を予測した関わり方をする。今後、事故予防研修を実施予定。（日程は未定）	1. 定期的に実施	3回/日	1. 定期的に実施	3回/日	1. 定期的に実施	3回/日	隣のクラスとの間のパーティションを閉めており、部屋から出て隣のクラスに声をかけた。	隣のクラスとの間のパーティションを開け、様子子が分かるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	英蓮で靴まで上下のまんで、片付け時も靴下のままで遊び、ためで、際にしまった滑ってあまった可能性がある。	「英蓮の上で遊ぶ時は裸足になる、英蓮から出て玩具を出て取り行く時は上履き」等の遊び方、片付け方のルールを作る。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児とかられたで対象児とで対象児とで対象児と

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他														実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】																	
868	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	79	3	8	18	16	17	17		20	18	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘上腕骨顆上骨折（ひび）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	体育指導の時間帯への配慮や児童の身体能力、基礎体力の確認不足。	児童一人ひとりの身体能力を見極めるとともに、活動前の体調の有無の確認をしていく。児童にも跳び箱を行う上での注意事項や跳び方の確認を行っていく。また、年少のクラスからの基礎体力、体の力を育む運動活動を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	運動をする際、遊具の安全実点検を実施したが、問題はなく跳び箱とロイター板の設置状況にも問題はみられなかった。	1.集団活動中・見守りあり	体育指導の時間帯への配慮や児童の身体能力、基礎体力の確認不足	児童一人ひとりの身体面、特性を配慮し、運動能力を十分見極め援助を行う。2歳児クラスより回の体育ローテーションと取り入れ、体幹や腕の力を育んだ上で跳び箱を行う。	1.いつもお絵の子であった	当日は6段の横向き跳び箱を1巡目は飛ぶこと成功している。2巡で、肘を痛めてしまった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象接していた）	本児が跳んだ時は、保育士が本児の左腕を掴み補助。跳び箱の前側に両手を付き、跳び越えた。跳びた際には、臀部箱が跳びにいたが、両足で着地した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	跳び箱は2台設置し、1台につき保育士1名が、児童に向かって左側で、児童の指補助をしていた。	保育士4名が活動に参加し、保育士2名が跳び箱の補助及び指導をしていた。もう2名は、並んでいる児童への補助や指導をした。	跳び箱頂部の中央から後ろ側に手をつく）指導を徹底する。保育士は、活動する児童の運動能力を把握し、共有していく。活動中の動きに目を配り、少しの異変に気づける体制を整える。	
869	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	20								6	6	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（右足すね）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	転ぶことを予想で保身ゆきたが自身のゆるみからし起きてしまった。	保育者同志で声を掛け合い防いでいきたい。	3.未実施		2.不定期に実施	約 4	2.不定期に実施	約 12	つまずくものがないよう、床面整備は気を付けている。	拭き掃除をする際には、細かなこも見を落とさないようする。	3.個人活動中・見守りあり	紙パンツを脱ぐ時は育かいて、んと脱がせるまで動きに注意する。	上記のような交換の仕方を担任間で共有し徹底する。	1.いつもお絵の子であった	トイレ準備口付近で入り口に行く機嫌よく歩きまわっていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象接していた）	トイレ担当ではなく、つ後の片付け担当であったが、本児が待ち回ってしまったため、先にトイレに行かせる事を伝った方が良いと思い、本児にかかわった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育者もトイレに行く子どもに逢にかかわっていた。	ものトイレを優先してこどもおやつの片付け後回しにトイレに関わる保育者を多くした方がよい。	トイレに人数を減らし待ち時間がないようにする、こどもが落ちつき着いてから片付けをする。	
870	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18								2	2	17.5歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨近位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	職員の配置確認不足、児童の状況把握不足、選択の状況ミスがあった	児童の状況把握、職員の配置及び、活動計画の安全性の徹底をはかる	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	30回以上	環境問題に問題なし	環境面での改善なし	1.集団活動中・守り	給食後の園庭での過ごし方について認識不足	終了職員の話し合いなどを通して、知識と経験を重ねると、保育者の動きを見ていて	3.いつも活発活動的であった(理由を記載)	普段通り	3.対象児とマンツーマンの状態（対象接していた）	他児の応をいたため周囲の状況の確認不足	2.担当者・対象児の動きをいなかった	加配児の動きを見ていた、対象児を見ていなかった	食後の集中力が低下する時間帯における鬼ごっこ、激しい活動選択が適切でなかった。	児童のコンディションや活動時間を考慮した活動の選択、転倒児童が出た際は、その都度一旦活動をストップし、児童の安全を確保するなど、活動の進行管理についても、再度検討する。また、歯科健診が行われていたとはいえ、発生から報告に時間を要したことについては早急に改善が必要。	
871	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	22								4	4	15.3歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	基準値以上の職員が配置されなされ、人数については問題はなかった。マニュアルについては年に1度、職員会議にて確認を行っている。	必要に応じてマニュアルを回数を増やしていく。（事故発生時の役割分担の確認・クラスの困り感を共有し事故防止に繋げる）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	特になし	引き続き、保育室内の事前確認を行い安全対策に努めていく。	5.睡眠(午睡)中	本児は他児を追いかけて走っていた。他児が机の間をすり抜けるなどが回りで走っていたため、それを追いかけていた本児は足がもつれたのかバランスを崩し、転倒した。机を設置したまわりにしておくことのリスクは認識していたが、スペースを分けるために使用していた。このため、日頃より子ども達の行動には注意してきた。今では机で遊ぶ子や走り回る子は無いなくなったため、気を付けながら対応していたが、今回の件で机は要因の一つであると再認識した。	スペースを分けるために使用している机を食事の片付けが終わった後に片付ける様にする。	1.いつもお絵の子であった	本児は日頃より、寝かしつけ中にはお布団にはおらず保育室内を走り回っていた。事故当日は、他児1名を追いかけており、小回りした際に足がもつれたのかバランスを崩し、転倒した。また、日頃より特徴的な走り方（すり足で走る）をすることがあり、事故の際もその走り方をしていた。	3.対象児とマンツーマンの状態（対象接していた）	本児の布団のスペースに員都合の職員がいたが、本児を一度戻すと、本児が遊びだすことを試み、あとは一緒に遊び始めてしまったところ、転倒した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児が遊び始めたのを見て、他の子寝かしつけを他の職員も継続していた。	本児を含め3名の子どもが寝かしつけの際に走り回る傾向にあった。複数で走り回ることでリスクを回避するために注意をしていたが、子どもに付いて寝かしつけを行っていたが、今回他児が走り始めた際には注意にとどまり、様子を見ていた。また、本児は日頃よりすり足で走る様子が見られ、転倒しやすい傾向があった。	当日は、本児と他児が走っているそれぞれの職員が際に注意を行ったものについて寝かしつけるの傍に行われていなかった。このため、本児の特性を鑑み、転倒するのではないかと予測しながら、怪我に繋がりそうな場面ではすぐに対応できるように心掛けていきたい。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者			発生時状		死亡	負傷		診断名	ソフト面					ハード面									環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位		事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																						
872	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	12		2	7	2	1		2	0	15. 3歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	午前中の遠足にて疲れていた可能性あり。前回も行事の後に人工芝で骨折事故が発生していることから足の踏ん張りが効かずに転倒した可能性あり。人工芝にはつっかかる部分、滑りやすい部分などなく、転んだ場所も異なった場所ということから、午前中の活動量の違いによる疲労が原因のひとつであるという可能性が高い。	行事の後、園児の疲労がみられた場合はその活動後の動をるする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	午前中、遠足で疲れていた可能性あり	午前中、遠足にて疲れていた可能性あり。そういった行事の後は園庭遊びは控えるようにする。また、遊具(プールヌードル)を持ちながら走っていたとのことで、遊具をもちながらの転倒であったため、手がきちんと着けなかった可能性あり。そういった遊具を持ちながら走り回らないよう気を付けていく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつも通りの様子であったが、午前中は遠足であった普もであったため、より疲労感あった段考えられる	4. 対象児の動きを見ていたかった	２人の保育士が子供たちの保育をしており、保育士が倒面をしていて１人が転倒をしたが防はできなかった	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	対象者が転倒した場面は目撃していたが、全体の保育をしなであったが、転倒を防とは出来なかった。	午前中、遠足であったため、たちも通りつの様子で疲労していた可能性高い。	遠足など行事の後は午後の外での活動は控えるなど、園児達のいてもっと配慮が必要であった。また、遊具を持ち走りながら回らないようにする、特に遠足など行事の後は保育士が子供の様子を注意してみていく。	
873	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	47			20	16	11		7	7	15. 3歳	1. 男児	特に無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	4	1. 基準以上配置	各遊具に付き、様子を見ながら処置やトラブルを対応をしていた。遊具で得意な子、挑戦した人子の人数に応じて、職員足りなかった。	オープンところを一か所にする。必要に応じて声を掛け合い、補助に付く職員を増やすなどの連携をとれるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	240	特になし	引き続き、これまで安全点検を実施していく。	1. 集団活動中・見守りあり	経験不足の初めての園庭で、年少児の行う際ねを教えつつ、手を放してしまわぬよう、傍でずっと見守る必要があった。また、万が一の事を考えて、クッション材等を下に敷いていなかった。	年少が鉄棒経験豊富になるまでは、職員がやり方を指導しながら、つくようにすることに、鉄棒の下にのクッション材があれば衝撃が吸収され安全に使用できていた。	1. いつもの様子であった	友人同士のトラブルのすぐだった、気高ルの後ため、持ちが高ぶった。	2. 対象児の近で対象見た	３つの鉄棒の中に立ち、全体が見渡せるようにしていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	各遊具につき、けがの対策やトラブルの対応をした。	新年度になってから、園庭で鉄棒をオーにとく、経験が少なかったことを職員間で把握できていなかった。	他クラスこども幼児職員全体で、振りでクラスの状況などをしていく。	
874	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	18				10	8			3	3	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	合同保育中における職員配置のなかで戸外において各職員の見守り位置の確認を怠ってしまった。後日検証し広範囲での活動において子どもの動きを把握できる職員の立ち位置を話し合う。マニュアルを見直し、戸外活動において子どもの見守り方や事故発生時のフローチャート、施設長・主任が不在時の報告や対処の確認、公園内の安全確認の仕方を追記するよう検討中。	マニュアルを定期的に読み合わせ確認し、事故防止徹底の意識向上を共有する。	1. 定期的に実施	280	3. 未実施	0	1. 定期的に実施	280	園外保育時、公園内環境の確認が足りていなかった。	活動前に公園内のクチェック徹底。危険個所の共有を必ず行い、子どもの子動きに合保育者の立ち位置を決めていく	1. 集団活動中・見守り	足場いでのには悪ところ活動をいけるとの付ける必要があった。	広範囲にわたる広場ではけるアを、保育者のが届くようにする。利用する下行い、危険個所確認や子ども最適な行動範囲把握し、職員に共有していく。	1. いつもどおりの様子であった	子ども同士で遊ぶことを好育少ことを、保育者から離れたところでいみ、保育者し離れと遊んでいた。	4. 対象児の見ていきかった	広い場所で他児から対象児を取り対象児の動き気れの把握できかった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	フリー職員が側につき様子を見守っていたがずにはつまずきが付かず出来なかった。	公園どもの子動きが広いでの掌握で希薄った。足場の悪い場所での遊びに注意が向かなかった。	危険個所を共有し中で子どもの動きを把握できる保育者の立ち位置の確認をする。検証結果写真添付。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育従事者									事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面								掲載更新年月日
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
875	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42			12	14	16			3	3	17.5歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	3.子どもの衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	職員の立ち位置について、業務マニュアルには全体を見渡すことに関しての記載はあるが、具体的な立ち位置や職員同士の間隔など明確な記載がなかったため、日ごとの全体把握の職員によって見渡せる範囲に差異があったことが考えられる。	本児の見て走った場所は大型遊具の後ろ側に位置し、走らないが約束になっているが所だった。全体を見守っていた職員もすぐに気づかず声かけられなかったので、職員の立ち位置に気を付けていく。	1.定期的に実施	245	1.定期的に実施	245	1.定期的に実施	20	特になし	遊具等による怪我ではなかったため、改善点は特になし。	1.集団活動中・見守り	前日以前から雨天等で外遊びがなかなか行えずに他動がさせていない状況が続いていたため、様子を見ながら短時間でも戸外に出ようと思っていた。本児も活発な性格のため、落ち着きにくい状況だったことが考えられる。また園の立地上、風が強く吹くと砂が飛んでしまい、周囲の隅に寄って足を取られやすくなったり、砂が舞げたところが埃りやすくなるため、転倒の要因になることも考えられる。	遊具の近くを走らないなど園全体での約束事を再度クラスごとに確認し、危険を予防できるようにした。職員会議や毎日行う朝礼等で情報を共有し、非常勤や派遣の職員も含めた全員が意識できるように開始した。また、風で隅に寄ったり表面が薄くなってしまった場合は、園庭の安全点検の際に砂を戻したり足したりすることでマ対応する。	1.いつもお様子であった	見りやすい、出しまだう。	関わり思い強い手をしたの思	3.対象から離れたところで対象見ていた	怪我直前の本児の動きは確認したが、走って走る様子つけすが走ってるを見て注意ことなできかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落ち着きがなかったり手が出やすい児に派ってらいら、周囲の様子を見ていた。同士が近くないよう心掛け、離れたところで見守っていた。	特になし	全体を見守る職員の立ち位置を意識、改善する。また、他の職員とも連携をしてすぐに気付けるそ配置の状況に応じて判断していく。	
876	令和6年6月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48	1	9	11	11	9	7	0	13	7	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨・尺骨 骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置		子ども達を誘導する際は一斉に移動することを防ぎ、落ち着いて移動するように声掛けを行う	1.定期的に実施	3	3.未実施		1.定期的に実施	1	室内では歩いて、落ち着いて行動するように声掛けを行う	1.集団活動中・見守り	保育者の子どもがあっていた保育者が反応できない状況であった	ある程度の距離を確保しな全体を見れるようにする	1.いつもお様子であった	本児は、母と父親して日は父親した。段る事で別ではない。	母居り特に父園普あ特なことい。	3.対象から離れたところで対象見ていた	全体の指導を担当し為、周囲の子見ていたため、ごに助けられる状況ではなかった	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他園児のし時児相手ていに、児っていることに気が付いるそのの瞬間の出事だった出ことが出来なかった	全体がざわざわ状態で、水分補給に一斉に集まる状況になり、競ってしまったのかもしれない	水筒は一に集まらない、分散して配置する。水補給タイミングをずらして、集中を防ぐ。	
877	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	6				9	2	7			3	3	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員の見守りの偏りが、誰かが見ているという意識	見守り方法の再確認（全体を見る職員の配置）	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	子どもが走りたくなるような広さ	机を並べる、部屋を仕切るなどして、広い空間を作らない	1.集団活動中・見守り	保育士も片づけに集中していた	見守りに専念するという意識を持つ	1.いつもお様子であった	片づけ前は机に座って絵を描いていた	4.対象児の見ていなかった	片づけに集中し、死角があった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片づけに集中し、死角があった	特になし	全体に目を配るよう指導する	
878	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18				9	2	7			2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	研修内容が落ち切れていない	個別対応での園内研修実施	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	300	平屋の園舎で見渡せる環境が望ましい。	現状では、見渡せる環境でないが、保育士が立ちポイントを工夫し見渡しをしてながら見守れる心がける	1.団活動中・見守り	保育士のよる力量が、5歳児は常に複数担任が難しく、大声ざを出さを得ない場合がある。	園庭が広くなるど使え分、子ども子スピードを走り回ることを走る配慮して、見守り子ども声かけを工夫していく	1.いつもお様子であった	他の園児ちと夢中で遊んいた	3.対象から離れたところで対象見ていた	鬼ごっこを声かけをしながらいた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児とともに見守っていた	保育士の力量に複数担任の対応が難しく、5歳児は運動能力が高く、制止の声が届きにくい場合がある。	マンツーマン保育でない限り、現状の配置基準で事故予防の改善はしずらいが、集団保育だからこそ体験できる子どもの遊びを制限することなく、見守っていけるよう声かけを工夫していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
879	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23					11	12		3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置		ボールの蹴り方だけでない体の使い方が身に付く遊びを行い、ケガにつながらない遊び方が身に付くようにしていく	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	活動も活発。今後も活動前の点検を実施し、職員間で情報共有、安全をそれぞれに基づき決定し、安全に活動できるようにきにしていく	1.集団活動中・見守り	右足でボールを蹴ったが足が上部を滑りなかった	運動遊び（ボール遊び）の経験を増やし蹴り方が身に付けるようにしく	1.いつもどおりの様子であった	ボールをとろうと右足がボールの上を滑り、左足を軸に左斜め後方に転倒。地面と上体の間に左腕が挟まった。	3.対象から離れたところで対象見ていた	広場を2つに分け鬼ごっことボール遊びをする子ども達を見守っていたところ、鬼ごっこをしていた子どもの2名が滑りと走っていったため、2名に声をかけた。本児らボールの児、鬼ごっこのその他の児も入れ視界に入れながら声をかけていたが本児のそばにはいなかったため助ける事ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児クラスがアスレチックで活動中の為、2名ともアスレチックに配置していた。歳児クラスも視界に入れながらアスレチックの活動を見守っていたが離れていたため本児を助ける事ができなかった。	ボールを投げる、蹴ると いった動きをこれまで以上に遊びの中で実施し子ども達付くようにしく	
880	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	25								1	1	16.4歳	2.女児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし。	引き続き、マニュアルの読み合わせと研修の継続。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守り	特になし。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	健康面等に変わりなし。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラス全体を見ていたので落下の瞬間は確認できない。※防犯カメラにて確認出来た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった。	特になし。	見届けられるよう保育を行う。	
881	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20				7	7	6		2	2	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	目じりの裂傷	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	一つの部屋の動なるさ遊びをさせていた。安全な環境について注意不足た。	安全に子どもが遊ぶ環境設定について職員で研修し、共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	玩具入れの安全性について	玩具入れの安全性について見直し安全に安全に対策を行う。	1.集団活動中・見守り	体操をするコーナーと玩具で遊ぶコーナーの区はっきりしていなかった。	体を動かす遊び、玩具を使った遊び、動き遊びの違う環境設定を考える。	1.いつもどおりの様子であった	保育室でし体操をした。	2.対象至対象児の近象見た	対象児のいそばが、転倒した時は、対応は出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児か離れ保護者対応した。	全体を見る配慮なかった。	全体を見つつ個々の子どもの動きに対応するように子どもの動きを予想する。	
882	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	30					15	15		3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左手関節捻挫（左橈骨遠位端不全骨折の疑い・左橈尺骨靭帯損傷の疑い）	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	みんなで一緒につ滑りたいという要望で、ビーなる応えるように気を付けて滑ったものの、本児が急にブレーキをかけたのが遅れ、勢いよく本児にぶつかってしまった。	滑り台は終わってから、次の子どもが滑りやすいように保育士は隅をあけるよう注意する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	園庭の遊び方は決めているが、公園ごとの遊び方（固定遊具）のルールの決めていなかった。	公園ごとの遊び方（固定遊具）のルール作りを話し合う。	1.集団活動中・見守り		公園ごとの遊び方（固定遊具）のルール作りを話し合う。	1.いつもどおりの様子であった	担当保育士で遊んでいた。	2.対象至対象児の近象見た	対象児童の他の児童がみんなと一緒に滑りたいと要望したこと保育士が応え、担当保育士が対象児童の前を滑った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守りをした。		公園ごとの遊び方のルールを確認、マニュアル作りを進める。	
883	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				10	10	6		4	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4～5	2.基準配置	職員間で、ケガに事故識、もの的に対する予測ができかった。	事故防止マニュアル、安全管理マニュアルの確認を繰り返し行う。園庭の危険箇所を職員間で再確認する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	足置き台が、子どもの動線上設置されていた。	毎日使用している箇所や事故につながる可能性を考えつつ、職員間で危険箇所について確認する。	1.集団活動中・見守り	異年齢保育時は、年齢ごとのあそび動のあそびに伴う違いにきがあった。	異年齢保育時のマニュアル、園庭危険箇所の作成・整備。	1.いつもどおりの様子であった	他児の対応した傍で立った。出したろ、あるあった。	2.対象至対象児の近象見た	他児の対応した。対象児に居が、本児が転倒した時は、他児の応をするために右脚を足場が触れてバランスを崩し、後ろに転倒。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の傍には担任がいたので、他児の様子守りをした	園庭で遊んでいた状況が把握できるように、全園児の状況をそれぞれの保育士が捉えられる位置に保育士がいたが、本児の動きが予測できていなかった。	子どもの突発的な動きを予測し、事故に対する危険性を再認識をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育従事者										ソフト面							ハード面									環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
884	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	14									3	3	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	鼻背部裂創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施	1	1. 基準以上配置	–	「子どもの行動は想像の範囲を超えることがある」という認識を常に持ち、保育を行うよう、職員会議で今回の事例について振り返り、意識の統一を図った。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	雨具掛けの下の角は落としてもらっていたが素材的には堅かっため。	雨具掛け下に緩衝コーナークッションを貼った。	3. 個人活動中・見守り	トイレに前に全員で座って待っていたため、密集した状況になっていた。	トイレに際は半分ずつ行くことにわけて行くことにした。	1. いつもどおり様子であった	「トイレに行くよ」との声かけに職員は職員の掛けたちり、本児はなるべくトイレに行こうとしたが、職員の足につまずき転んでしまった。	2. 対象児の近く	対象児を見ていた	職員と雨具掛けの間はとっかっそのの場所は思わなかったが、本児だが際が遅れてしまった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にはいたが、転びそうになった時に未然にことなく防ぐができなかった。	職員が立ち上がった後ろと職員の足につまずき転んだ。	子どもは場所係等はなくどころでもとすると、子どもたちと一緒に座るこはいろいろことを想定したうえで行動するようにする。	
885	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	21									3	2	16. 4歳	1. 男児	●/●ギブスが外れる。外傷部に気を付けながら普段の生活に送る。●/●最終通院予定	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施	10	1. 基準以上配置	●月●日園内での裸足保育を始めたため、裸足活動でのに慣れていなかった。	事故報告会(自園)で状況確認を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	天候等(湿気が多い)でも室内でも滑りやすい場所があることを確認し、職員間で共有する。	引き続き点検全点検を大切にしていく。	1. 集団活動中・見守り	午後の活動を14時半に終了していたため、活動時間が終了間際不足だった。	職員間でもちたちの様子に目視、確認を忘れない。	1. いつもどおり様子であった	普段と変わらない様子だった。	4. 対象児をいた	対象動見なかった	担任2名が全体の子どもたちのをみた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育補助はたちと一緒に走っていた。	子どもたちに、走ちりピードの配慮の声もすべきだった。	何時何が起こるかわからないので子どもたちの様子に目視、配慮、職員間での声かけを重視する。	
886	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40				14	12	14			4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施	4	1. 基準以上配置	職員間で使園庭の使遊び方、園いて話しいて話していて合えていなかった。	事故予防に関する研修頻度を増やす。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	293	1. 定期的に実施	293	午前中は雨ていため、ぬかるみができた。	園庭のたまり場やぬかるみ場所やカラーコーンを設置し、注意を図る。	3. 個人活動中・見守り	午前中は降ったが雨ていため、延長保育中は発ず、延長保育中は活かし状況体を動かしたいであった。	外遊び前だけでなく、地面も状況確認する。遊び方や雨上がり滑りやすい等、子指導する。	1. いつもどおり様子であった	体を動かして楽しく、活発にすることができた。	2. 対象児の近く	対象児を見ていた	園児が活発に走ったが、危なく感じ始めた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	延長保育中に、異年齢で園庭で遊んでいたため、他の場所を見守りした。	広い園庭で数鬼ごっこ、状況が重庭で遊んだ、遊具の場所を見守りすべき。	職員間での役割分担を明確にする。職員一人が役割だけでなく、全体を把握する。	
887	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40				12	11	17			4	4	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	8	1. 基準以上配置	一人は全体を見る、一人が遊具の中しているが、場所ラブルが起きると、見守りなら離れることあった。また園庭のハザードマップを作っていない。	一人守り必要な位置と職員周知した、別のトブルが起きる必要は遊具れることがあった。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	247	1. 定期的に実施	35	遊具点検の際には、目視では手破損や無いかチェックする。長面高さ、掴まる力を考慮した衝撃すに、地面を増し、地面を柔らかくする。マットの使用も考える。	遊具点検視で目なくて手触りでいる。子身地ものからまでの人ども長面高さが、子掴力それ異それぞれ異なる。また、一人の捉えるもの人ぞれまる人ぞれなる。一人の状態を把握する。落下時の状態にも問題がかもしれない。	1. 集団活動中・見守り	3歳児が14：15頃園庭で遊び始め、4・5歳児が14：30頃園庭で遊び始める。園庭の全てで遊んでとしていた。(滑り台、登り梯、登り棒、ジャングルジム、ソー、鉄棒、ゆら橋、ゆら橋)	子どもの人数や、年齢、発達を考えて、遊び工夫する。遊具の使用する。「今日は台と遊び滑り砂場使ってへ出るようにする。	1. いつもどおり様子であった	対象は端から端まで行けるようになった。梯子を対象の、外に出ると雲梯をする姿がある。	3. 象からたところ対象見ていた	担当は、最初は震えていたが、近く滑り子士のブルありから、同子どもが雲梯落下した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は鉄棒にいて、手をないよう、危ないよう、見ていた。一人は迎えるがいたので、支度をさせ保護者に返した。一人は滑り台近くの子ども達の遊び守った。	異年齢保育の時間になり、園庭に出ている子どもの数が多かった。また、見守り・補助が必要な遊具が多く、職員が遊具に位置せざるをえなくなり、全体を見る職員がいなかった。また迎えの子どもが来た時に、一人職員が園舎にいる職員を呼びに行き、園舎にいる職員に支度を頼んだ。玄関付近で園庭全体を見守っていた。	１４時以降の異年齢保育時間中に、３歳児が外へ行く時には、４・５歳クラスはホールで遊ぶなど、交代して園庭に出るようにする。一人は全体を見守り、一人は危険な遊具に位置し見守る。また、雲梯など見守りが必要な遊具から離れる時には、他の職員に声をかけ見守りを変わる。必ず補助が必要な遊具には手の届く位置にいる。迎えの子どもがいた時には、園舎にいる職員に声をかけ支度をしてもらう。	
888	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10		1	3	2	3	1			6	6	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性脱臼歯	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	1～2	1. 基準以上配置	–	環境面と同様	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	数	–	遊具等使用の不使用のため無し	1. 集団活動中・見守り	事故発生時は、子どもの人数は少ないが、広いプレイルで保育士一人で目届かせるのは難しさもあると感じた。	早朝保育時、8：00出勤の職員が来るまでは保育室の1室で静の遊びをするように、8：00からはプレイルに出てることする。	1. いつもどおり様子であった	普段かじっとプロック等で遊び座ぶよく、体を動かり、で遊ぶことの多い。	3. 対象児の近くで対象見ていた	友だちとの対象動捉えた行動は把握した、少し離れた場所で子といたため、事故は防げなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関で登園する子どもの受け入れをした為その場にはいなかった。	環境面と同様	環境面と同様	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯				人数	異年齢構成の場合の内訳								年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
																	うち保育士・放課後児童支援員等																																					
889	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)												17. 5歳	1. 男児	特になし。	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	定期実施	2	1. 基準以上配置	特になし。	遊具を使用する前に、その都度、遊具の扱い方、遊び方についての約束を園児に話す。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	特になし。	日々、破損等がないか点検していく。園児・保護者へ再度、遊び方の注意をする。	7. その他	特になし。	常に大人が見守り危険面を見られる場合は、声掛けをする。	1. いつもどおりの様子であった	保護者が負傷したことを認識していたため、園へ報告せずに帰宅した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡したあと、報告もなかったので、把握できていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡したあと、報告もなかったので、把握できていなかった。	特になし。	園庭で遊ぶ場合は、園児をしっかり見守ってもらう事を保護者へ伝える。	
890	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	6	3. 昼食時・おやつ時	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	2. 1歳児クラス	12									5	5	13. 1歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1～2	2. 基準配置	一時的にでも保育者が一つの場にまとまってしまうなどして死角が出てしまった可能性がある。	事故防止危機管理マニュアルにある通に、常に保育者の立ち位置を考慮し、子どもの行動に注意を払うことを徹底していくまた話し合った内容を随時更新していく。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	身体機能が未熟であるため、鉄棒下までぶら下がった上げたり、揺れたりすると反動で腕に上にがって反動で想以上の負荷がかかる。	鉄棒や遊具際には保育者が傍について遊ぶ始め前に危険な注意を、遊び始め前に遊具や広場を点検、安全を確認し遊びから始める。	1. 集団活動中・見守り	複数保育者がいることで担当を意識し、一人ひとりが見ようと意識が薄くなり、気をつけたつもり見てかったつもりでいなかったあったかもしれない。	本児が自分で遊び場所を認めつつ、遊具の安全に遊ぶ。保育者が手を添えるなど手伝い、応じて保育者が応じて保護者の応答をしてやるなどの手伝いをする。子どもや保育人数に応じて先を決め、安全に遊べるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	公園棒は鉄棒ではぶつかったり、滑り台を滑り、乗り体をさんりくかしんでいた。	3. 対象からの児離れとこの対象見ていた	鉄棒やシーソー、ベンチ辺りに立ち、鉄棒にぶら下がる子どもたちの様子を見守ったり、シーソーで遊ぼうとする子には遠ざけるよう所で遊ぶようにけんかに陥ったりもいたので一緒にしながら座ったりなどの危険がないように見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	滑り台や遊具棒、遊具などについて見守りつ、全体がるフリースペースにも職員が一人立って危険性をかけることで近る職員が対応するなど連携していた。	一つの遊具に子どもが集まるとトラブルや怪我に繋がるが可能性がある。	保育者が意図的に他の遊具に誘うなど子どもを分散させる工夫をし、安全に遊べるようにする。	
891	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	13									1	1	17. 5歳	2. 女児	膝が脱臼しやすい為、かばう癖があり、走り方がぎこちない	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足第5中足骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	–	重要事故事案として事故報告書№2を記入し、教頭、担当主任、担当主任で事故分析を行う	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	–	今回の事故に関しては、施設や設備が原因ではなく特にはめ特になし。	1. 集団活動中・見守り	金曜日でもたくさんの子どもたちが溜まっていただった状況と予想される	疲れが予想される週末はゆっくりすごしたいお子どもたちの状況に合った活動を取り入れていく	1. いつもどおりの様子であった	普段から多くこどもの鬼ごっこ中で児を避けることができる	2. 対象児の近くで対象見た	象の至で児を見た	至近距離で見られる象子どもたちが走ったためすぐに倒れなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	13名だったため、他の保育者はついていなかった	本児の生活の多さに対応でき対立切なかった	体力運動能力面において、専門家から子どもたちの現状に合った向上のための運動や遊びを教えていただく。子どもたちの現状に合わせた無理のない保育内容を取り入れ、子どもたちの不足していると考えられる能力面に必要な手立てを日々取り入れていく	
892	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	16	1	3	2	5	2	3			4	3	17. 5歳	2. 女児	本児は、身長約128cm、体重約37kgと体格のよい児である。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	異年齢保育の為、低年齢児のところに職員がつき、他児は見守りをしていた。	職員の見守り位置が重ならないように決め、保育にあたる。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	なし	壁床等、破損箇所ないか確認する。	1. 集団活動中・見守り	異年齢保育をいたした為、3歳未満児の見守り目が行きがちであった。	延長保育時は、事故・ケガ発生しやすい時間帯でもあるので、静かな遊びを4つ、コーナーに落ち着いて保護者を迎えを待てる環境を作りをする。	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをみんなで決めたが、本児は別のことがやりたかったが、ごっこ遊びの中で、同じクラスと壁タッチをしていたが、そのうちに、そのなかなかいなくなっても一人で楽しんでいた。	3. 対象からの児離れとこの対象見ていた	0歳児をみんなが見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	0歳児を見る職員、1歳児、2歳児、3歳児を職員児、以上児を職員見ればそれぞれ分散していた。	壁タッチの遊び自体危険という認識はなかった。	5歳児ではあるが、危険回避は難しい。壁タッチは、手の付き方に課題があるので、危険なのでやらないように子ども達を子に話をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の内訳								教育・保育等従事者										ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				診断名	事故誘因	マニュアル有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
893	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	20								3	3	16. 4歳	2. 女児	特になし。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨骨折 右前腕打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施	2	1. 基準以上配置	特になし。	遊んでいる付近で様子を見守る際、遊具で遊んでいる場合は積みり方や乗りのバランスなども気を付けていくことを職員で共有する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	特になし。	日々、危険な遊び方をしていないか見守っていく。園児へ再度、遊び方の注意点を声掛けする。	7. その他	足元をよくで見てソフトを積み木を踏んだこと。	常に保育者が見守り、危険な場面を見かけた場合は、声掛けをする。	1. いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に遊おり、体調もいつもどおりの様子だった。	2. 対象児の近で対象児見た	保育室で遊ぶ子も数名いた。保育室と対象児のいる遊戯室全体をみていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の様付近で様子を見ていた。	ソフト積み木に足をバランスを崩した時、手を出せなかった。	対象児の運動能力も考慮して、手を貸すなどの補助をすることも必要。	
894	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11					4	7		1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期実施	4	2. 基準配置	年度初めの職員の職入れが替わるでもあった時期の仕方に、活動の仕方に、もっと職員間での必確認が必要でした。	活動の際の安全対策について、職員間で確認を行うとともに、遊戯室での活動の際の職員配置を考える。	1. 定期的に実施	1回/週	1. 定期的に実施	1回/週	1. 定期的に実施	1回/週	着地場所が着地の衝撃を吸収するのに不十分だった。	着地場所を敷くマットを軟らかいものにしたり、何枚かを重ねたりして、衝撃を吸収しやすくする。	1. 集団活動中守り	必ずそば見守りが必要であった活動であった。その場を離れるのでは、他の職員に求めるべきであった。また、園児への指導が不足した。	職員が活動の様子をしっかりと見守りと、それができない状況になるのであれば、活動を一旦止めるか、他の職員にかけて依頼する。また、園児に対しても、遊び方や遊び方等について、きちんと指導を行うべきであった。	1. いつもどおりの様子であった	昨年からの馴染みある遊びの楽しみから繰り返し飛び降りた。	4. 対象動見ていた	事故発生の直前までは、職員が傍について見守り、助を行っていたが、他児からの呼びかけに対応するその場を離れ、事故発生時の状況を見かった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた	他の職員は、遊戯室にはいなかった。 園長は、遊戯室に活動し始めたことを確認していたが、職員が傍に補助をしていたため、声をかけることはなかった。	必ずそば見守りが必要でありな活動であっため、その場を離れるのであれば、他の職員に求めるべきであった。	職員が活動の様子をしっかり見守り、それができない状況になるのであれば、活動を一旦止めるか、他の声をかけて協力を依頼する。	
895	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	31					15	16		5	5	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘内側の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	1. 定期実施	8	1. 基準以上配置	職員の配棒を鉄棒の使用を定しな想い配置だった。	職員に対して安全教育の研修を定期的に行う。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	12	鉄棒の下が砂地であった。高い場所からの落下ではないが、落下した時にクッションになるようなものがあるとよかった。	落ちても怪我にくい素材を鉄棒の下に敷など、安全対策を行う。（ゴムチップマット、ラバーターフなど）	3. 個人活動中・見守り	園児の動きに合わせ、職員の配置を変える必要があった。	職員は、園庭全体の園児の様子を把握し、園児の遊びの状況の変化に迅速に対応するべきだった。	1. いつもどおりの様子であった	特に落ちがなり様着きかった不安なく、いおどりの様子であった。	3. 対象児離れたところで対象児見ていた	近くにいた職員は、本児が視界に入っていたものの、危険認知が遅く、「落ちると」と視点はいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた	他児の滑り台の虫探助や虫探しの対応をしていた。	・園児に対して、鉄棒の使い方や危険性など教育を行う必要があった。・職員への危険認知の研修必要だった。	・集会やクラスで活動時に遊具で方や危険性について安全教育を行う。・職員の安全研修の実施。	
896	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	26				7	4	15		5	5	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨骨折 右モンテッソリ脱臼骨折	3. 子ども同士もの衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施	1	1. 基準以上配置	危険と思うは感じるは部分の考察を以上に、細かなしものにいくべき要性があるのではないかと考えられる。	更に職員で考える場を増やし、自園で危険と思われるとは、また感じられる部分の共通理解と考察を増やしていく。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	毎日・都度	1. 定期的に実施	毎日・都度	遊具が周囲にあるが、スペースには余裕があるため、一人が運動しやすい場である。	運動・活動しやすいではあるが、保育室内と比較し、気持ちの高揚も伴い、児が活発に動くのでさらに職員が考えるとは、余裕のある人数で、遊具の配置や適所に必ずつくようにし、必要な場合は、遊具を移動したり片付けたりする。	1. 集団活動中守り	走るスペースの確保はできていたが、各コーナー分けの明確さが不足していたのではと考えられる。	引き続き、活動内容に相応しい十分なスペースの確保と必ず職員は適切な場所につき、子どもの様子を見守っていく。	1. いつもどおりの様子であった	他児（同クラス）と一緒に横並びに走った。	3. 対象児離れたところで対象児見ていた	朝の受け入れも他児と一緒に保育室で遊んでいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	登り棒・お相撲・絵本・ブロックのエリア・個別のそれぞれ遊びコーナーに職員がそれぞれ付いた。転倒の瞬間は、見ておらず、転んだ後に気づいた。	園児の人数に対し、職員人数に問題はなかったが、瞬間の職員の目線や姿勢が本児の転倒の際に間になかったと考えられる。本児と他児の距離感・体格差等も考えられる。	職員数が十分で、それまで見守っていても、目線や姿勢が対象場面からこれるとは考えるので、広いスペースでは、今まで以上に声の掛け合いや確認を徹底する。また、年齢差・体格差・運動機能の発達等にも十分に配慮し、安全を徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							具体的にしていたか		具体的にしていたか				
897	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	22				12	10		2	2	17. 5歳	2. 女児	事故発生は●月●日だが●月●日に違和感（口の中のできもの）を本児が家族に訴え●月●日に歯科受診しレントゲン検査により発覚する。事故発生時は痛がる様子等は見られなかった。膿が確認でき多少ぐらつきがあることで経過観察しながら必要な治療を行っていく。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上の前歯の1本の神経がなくなっている（レントゲン検査）	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	4	2. 基準配置	遊具の使い方を子ども達も日々認しく。	遊具でのけりを起こる事故を把握し見守りや必要な援助を徹底していく。ぶつかった場所などの確認を必ず行い、その後の様子も注視していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	50	1. 定期的に実施	240	遊具、玩具の安全点検を点検いて職員にせきなってしまうことがあった。日々の点検の確認を心がける。	遊具・玩具の報告を職員みんなで周知なし、必要じて対応に迅速をしていく	1. 集団活動中・見守り	運動会まえの練習や練で活動量が多くなっていた。生活の中ゆっくり落ち着け時間をもつように	見守る職員同士で掛もう声をけあい、よりを察知をきるにしたり、子どもたちも目を離す時間がないようにしていく。	1. いつもどおりの様子であった	事故発生時、発生後もともとわらいつも変わらない様子だった。	2. 対象児の至近で対象児を見た	・年中児名を見守り。いつも危険予想される箇所にいるように、本児から着いて危険いるいる本頃ちがないことからほかのそ守った。本児が故発生後報告する。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	・年長児を中10名を中心に見守り、年長児をみていたため事故発生時の本児には気付かなかった。	話がしっかりすると年齢だとその言葉しまい聞認になってしまうことがあった。	事故が発生した場合には程度にかかわらず、その後の様子に注視し、保護者に状況を説明、家庭での様子もみてもらえるようにする。	
898	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	19							8	5	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	コロナ禍で体を動かす機会が減り、体の動かしかたがうまくいかなかった。	子ども達に安全な走り方など体の使い方を知らせる。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	普段利用しないコミセン体育館での練習だったため慣れていった。	使用前には安全点検を行う。	1. 集団活動中・見守り	コミセン館の体での回数なくないに予行練習を行った。	保育園で練習を重ねてから、コミセン館で繰り返しする。準備体操をしっかりする。□	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	障害物競走だったため、他児に負けないように走っていた。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	担任は、スタート位置で対象児を含む4人を出し、そ送りた後、4ど走を場で子の人も達の様子を見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至距離にいた)	障害物のハードル、綱、跳び箱に1人ずつ職員が付き危険時にすぐ対応できるようにし、ゴールでは、職員2人がテープを持ちゴールする子ども達を迎え入れていた。	もうすぐゴールという気のゆるみとゴールしなければという焦りで、気持ちに体がついかずもつれた。	一緒に走る人数や職員の配置にゆとりを持たせる。競技中の安全確保について職員に周知する。	
899	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	29				14	15		2	2	17. 5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足首骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置		３ヶ月に１回は事故について集計をし、事故が起きやすい場所や時間帯など把握して、事故に再防止に務める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		今回の事故は、走っていた時に本児が自転倒した際の事故の為、ハード面において改善策にはの特なし。	1. 集団活動中・見守りあ	園庭で鬼をごっこする際は、外の所でよく広い勢いよるので、転んだりしないに、保育士の観察がより必要。	鬼ごっこ等、走ると子士でかったり、遊ぶ人限り、制時、時にはをよくたり子ども子に伝見守りに見うる。	1. いつもどおりの様子であった	普通にていたが、直線からカーブで転んだ。	2. 対象至対を児の近で象児ていた	対象児も、数名の他児ごっ含名の鬼ごっしていこ走ったため、本児だ時に手を伸ばしたがこ差しとができなかった。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至距離にいた)		走る時にぶつかないに前走ってはらう見ようていたが、ブなどを落とてなどの注意事項を詳しく話児ていた。	鬼ごっこ等に大勢ごっこ遊び活発に動く子ども達の様子は、人数や注意深く観察し、転倒にようを未然に防ぐに声をかける。	
900	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	18							3	3	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置		職員の配置については十分であると考える。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24	おやつ食べ終わりの片づけという時事で、テーブルが複数台設置されている状態が、本児の行動を誘引したと考えられる。	使わなくなったテーブル即片付から時、片付いく。	1. 集団活動中・見守りあ	・おやつが終わった園児から各々の所持品を始末する状況だったため、各々の動きがそれバラバラであった。・スムーズに進めていく為に対応は安心して任せており、特に声掛けはしなかった。・本児にとっては、机の位置が両手を置くのに丁度よいと思われる。	・保育者が両手を丁度置くことにより、子ども本人の後の活性化を想定し、前もって声掛けする。・各々のペースで動きバラバラのため、職員の職務分担を明確にしておく。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児で対象児を見ていた	対象児は、お子ども対応に1名、お片付けをしている子ども対応に1名、所持品の係っている子ども対応に1名、それぞれ担当していたもの、職員全員が内を把握していた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至距離にいた)	手助けの必要な園児に対して援助の対応をしていた。	・机がいつも出ていくなると、室内なりくたなるとこ狭くなり、子どもが机でしくなる。・机の付けの必要性に遊んだ状況が悪くなる。	・使用後の机を片付けく職員分担して決める。・スムーズに所持品の始末を進めている子どもに目を向け、次の行動への声掛けをする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
901	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	42								2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施的に実施	2	2.基準配置	-	・遊戯室での環境面は危険な状況ではなかったが、今後は子ども達に危険な動きが見られた場合は声をかけて注意したり、子ども達の瞬発力や判断力を身に着けられるような遊びも保育に取り入れて危険防止に努めたい。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	-	・遊戯室での環境面は危険な状況ではなかったが、いつでも事故は生じる可能性があることを念頭に置いて、今も、後ほど子ども達に危険な動きが見られた場合は声をかけて注意したり、環境を整備し職員間で危険防止に努めたい。	1.集団活動中・見守りあり	-	女児3～4名と穏やかに遊んでおり床に玩具が散らかったりおらずに、他児が走り回っていたが危険な状況ではなかったと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室に大型ブロックを組み立て車を作って遊んでいた所タイヤ部分に躓き転倒。大型ブロックのひじを打ち付ける。	3.対象児が離れたところで対象児をていた	転倒に気付きひじを押さえて泣いている。椅子を用意し右ひじを高くさせるように、氷を準備や。冷指先や痛みを確認を行い主治医教諭に伝えて母親に連絡し現状を伝える。	1.担当者・対象児を動きていた(至近距離にいた)	遊戯室から保育室に他児を移動させ、静的活動に変やごろ穏やかに過ごせるようにする。	-	対応はスムーズであったが木曜日で3件目の病院を受診して頂いたので前もってなどの情報をおきたい。	
902	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36			17		19			27	27	17.5歳	2.女児	身長：約108cm、体重：約18kg	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎前歯2本(AA)の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施的に実施	12	1.基準以上配置	重大事故起こった時、事故こった次の日には、職員周とも共に、原因として、策を合の話し合う。	園全体で事故について話し合い、情報の共有を図る。原因を考え職員配置や危険箇所について再度認識し、事故予防について意識し、取り組む。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	日頃より破損、紛失や損傷を知らせるよう早期発見、対応に心がける。	遊具の点検を行っている。今回は遊具に関連した事故ではなかった。	1.集団活動中・見守りあり	雨が降るカッパを着用中、長靴をはいてて鬼ごっこ遊んでいた。	天気や気候によって園庭等の危険度が変わるが、今回は雨のためカッパで視界が制限され、またぐつはの長靴で走り動きに転倒しやすいとえるあった。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り保育室の着替えを行い、雨のカッパを着用園庭でのえ外、雨のカッパを着用園庭ごっこをして鬼ごっこを遊んだ。	4.対象児の見なきていかった	他の場所子見ていた。	2.担当者・対象児を動きていなかった	他の場所子見ていた。	職員も園庭で遊び守った見ていが、子話たり対応等ると園庭で遊んでいる見守っいる職員が少なくなる。	事故が多い危険箇所には必ず職員を配置する。また、見守りに話し合う。クラスの子供を見ることがあるため、各子供の特徴を細かく知り周知する。	
903	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11				4	4	3		1	1	17.5歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	8～10	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	夏場で床が滑りやすくなっていたか、つまずきやすくなって可能性がある	活動を始める前に床に異常がないか確認する	1.集団活動中・見守りあり	普段は内履きを履いているが、夏場は育を行っているため、はだしでのしろがドッチボールの経験が少なかった。	活動を始める前に子どもに達ボールの転がし方や注意点を確認し伝える	1.いつもどおりの様子であった	本児は転がってボールを避けようとしたときに右足の指をひねって転ぶ。痛がっていたので、離れた所に移動させ様子を見る。	2.対象児の近で対象児見ていた	当至対を見ていた近くで転ぶしドッチボールを見守る	2.担当者・対象児を動きていなかった	その場に職員は1名いた為、他の職員はなし	本児は少し落ち着きがなく、注意落ちごろがある。	落ち着き場合は、注意して見守りしてゲーム中話をできるように集まるする。	
904	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	31								4	4	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	左頬部打撲擦過創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	12	1.基準以上配置	職員は、配置されていたが、ちょうど慌ただしい時間帯だったので、その瞬間を見逃してしまった。	落ち着いて行動できるようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	使用の都度	-	遊具、用具を使用していなかった。	1.集団活動中・見守りあり	-	活動の切り替りの時にも、目を離さないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室の片付けをした後、遊び友いかけ相手と別方向に走り出しぶつかった。	4.対象児の見なきていかった	2名は対象児から離れ少しところ児たとで、遊具の片付けを行った。	2.担当者・対象児を動きていなかった	2名は、保育室に戻り、他児の着替え介助、食事準備をした。	片付けが終わりかけた騒がしい時間帯で、「片付けが終わったら舞台側に集まって」の指示が上手く伝わっておらず事故が発生してしまったと思われる。	片付け前に事前に終わったにかかりどこまるとを見通しを持って行動できるように声をかけておく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
905	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	29								4	4	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足親指骨折（ヒビ）	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定実期に実施	3	1. 基準以上配置		職員全員がマニュアルを再確認する。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	床面の状況の確認	活動前に活動場所の環境（湿度や温度による状況）確認、職員の配置場所の確認、見直しをする	1. 集団活動中・見守り		事前に場所を確認しておくことで、滑るなどの危険を予測し、環境を整えて活動を始める。	1. いつもどおりの様子であった	しっぽ取りで、走った。	2. 対象至対象児の近象児見た	担任２名のうち１名は、しっぽを取られた児の待機場所（離れた場所）で、子どもたちの活動を見守りし、１名は児と一緒にしっぽ取り参加しながら全体を見守りしていた。	1. 担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	一緒に活動していた２組担任２名のうち１名は、しっぽ取られた児の近くで全体を見守りし、他の1名は児と一緒にしっぽ取りに参加しながら全体を見守りしていた。	活動への参加方法（見守り立ち位置等）	職員の配置場所を見直し、子どもの見守り方法、立ち位置等を確認し見直す。	
906	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	20				5	15			2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足小指の付け根内側部分	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期実的に施	12	2. 基準配置	子どもの関する共通理解が不十分だった。	トラブルになった際の行動や気になる子どもについて研修を行い、共通理解を図る。	1. 定期的に実施	13	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	12	床面が滑りやすかった。	転倒事故を減らすために床マットを敷く。	1. 集団活動中・見守り	食事、トイレ、遊びの部屋３つ、流いい場など多くの子どもが集まり場所で活動していた。	子どもの安全を見ながら、現在の遊びの部屋を減らす。	3. いつもより活動的であった(理由を記載)	トラブルになった際、保育士と一緒に、保育室に戻り、保育者とし保育室に戻ってばらくしてから相ろうとした。	3. 対象からたころで対象児見ていた	廊下と保育室にいる子どもを見ていた。対象児が保育室ト相児に戻りのラブルを職とすることに気付き足なが当たらいように入った。	2. 担当者・対象児をいた	食事、午睡、トイレ、手洗場、遊び部屋など、それぞれの場所で子どもを見ていた。	複数の場所を見守り必要があった。	遊びの部屋を減らすことで廊下の見守りを行う職員を配置する。	
907	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	16								2	2	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手人差し指第一関節骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期実的に施	4	2. 基準配置	跳び箱をする前の指導が不十分だった可能性が考えられる	運動遊具を使用する際の事前指導と個別指導を丁寧に行う	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日		点検はこれまで通り行う。使用直前にも点検、確認を行う。	3. 個人活動中・見守り	職員の人数と設定した運動遊具の種類、使用方法が適切だったか	跳び箱を正規の跳び方で使用するなら単、独設定をする	1. いつもどおりの様子であった	チャレンジ精神が意旺欲的に取り組んでいた	1. 対象児とマンツーマンの状（対象児にいた）	跳び箱は危険を伴う可能性がある遊び認識し、そばで見守る	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の運動遊具で子ども見、援助を行う	危険が伴う遊具と認識はしていたが、具体的な指導が不十分だった	運動遊具を使用する時の発達に応じポイントを確認しなおす	
908	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	26								2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨骨幹部骨折	3. 子ども同士突のよるものにもの	2. なし	3. 未実施		1. 基準以上配置		ヒヤリハット会議を3カ月に1回、行るが、今回の事故を受け、各クラス・園全体で話し合いを行った。	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	数	2. 不定期に実施	数	保育室内事故でのだった。周囲に障害になる物はなかった。	環境や物的ではなくも気持ち高ぶりと関よると考えられる。	1. 集団活動中・見守り	円になってをつくだけでないくり、肩をくんしたバをだいていたため、ランスを崩して転倒した。	周囲に危険は密集していた配慮すべきあった。	3. いつもより活動的であった(理由を記載)	ごっこ遊びが初めてあった、他児にが高揚していた。	2. 対象至対象児の近象児見た	対象児らのグループの把握をなそぎで、グループの対応を始めてし目を離ことだった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	同じ保育室内で別のグループの子とかわっており、対象児の泣き声で気づく。		対象児他数名の状況について細かく確認しておくことはできた。	
909	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	17		2	5	4	6			2	2	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左ひじの骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置		土曜保育の保育について再度注意すべき点を職員間で合い話し事故防止に努める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		園内のチェックリストで、遊具、玩具の点検を行い事故防止に努める。	1. 集団活動中・見守り		椅子の上の立った際は すぐに声 いた際に危険が を掛けた 行動が 、行動が 多い園児 な個別の対 などには 応を続け ていく。	1. いつもどおりの様子であった	ホールにて設置ある絵本コーナーにお椅子の立り、バラ崩しての上にトの転倒する。	3. 対象からたころで対象児見ていた	泣児いたため駆け寄り、静かな場所へ移動後、どこが痛いのかなかゆっくり聞く。おやつ茶を飲む際やハイタッチを促した右腕が動かったため主幹保育教諭看護師に状況を伝える。	1. 担当者・対象児をいた(至近距離にいた)	担当職員が本児の対応をしている際、他の園児や全体を見守っていた。		事前に整形外科の時間や休診の情報を調べ保護者の方に伝える事が出来た。その後保護者の方から●●整形外科が細かな骨まで見てくれる病院と聞く事が出来たので園全体で把握しておきたい。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面								
							人数	異年齢構成の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
910	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	21								2	2	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手指基節骨剥離骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置		事故後、職員会議を行い園全体で事故の内容を確認し再発防止をまた、事故が発生した場合は、保育者に伝えるように子ども達に伝え。健康教育でもけが合は同様の内容を伝えている。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	今回の事故は、現場を確認できなかったが、起こりうる状況を考え、机に椅子をしまう際に手指を挟まないような方法を、子ども達へ知らせていき、職員も全体で把握していくこととした。事故後、職員会議を行い園全体で事故の内容を確認し再発防止を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	机の高さと椅子の事故の原因である可能性があった。	今回の事故は、現場を確認できなかったが、起こりうる状況を考え、机に椅子をしまう際に手指を挟まないような方法を、子ども達へ知らせていき、職員も全体で把握していくこととした。事故後、職員会議を行い園全体で事故の内容を確認し再発防止を行う。	1. いつもどおりの様子であった	事故当時、本児は痛みをこえなく、いつもどおりいつとごした。	4. 対象児の見ていかった	事故当時、本児は痛みをこえなく、いつものとおり過ごしたため、気ことつぎなかった。事故は、一瞬の出来事と思われ、その見逃した。	2. 担当者・対象児の動きていなかた	事故当時、本児は痛みをこえなく、いつものとおり過ごしたため、気ことつぎなかった。事故は、一瞬の出来事と思われ、その見逃した。		事故後、職員会議を行い園全体で事故の内容を確認し再発防止を行う。	
911	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	19								2	2	16. 4歳	1. 男児	特記事項なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1～2	1. 基準以上配置	次々と園児の対応、業務多くの子ども応、内容が自由見てしてくれ遊びとも遊び守りいつて一人ひとは目いてはなかった。	片時も目を離さないということは困難。業務内容（コロナ対応）の見直し。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特記事項なし	特記事項なし	1. 集団活動中・見守りあり	出した玩具が多くの子ども応、内容が自由見てしてくれ遊びとも遊び守りいつて一人ひとは目いてはなかった。	玩具の種類や量を考慮し、子どもと玩具が設定する時は慮ることが、遊具の動線を確かめる。担任が設定する時は番補助等の担任以外が入る時も、同様の環境構成にしてもらう事前に伝えておく。	3. いつもより活発的であった(理由を記載)	人形や布団で遊び。他児も座って人形遊び。何らかの理由で、本児は人団で遊んでいるように思にかせることができるなる普段の園生活で高い場所に上り、衝動的に飛び跳ねたり走ったりする姿が見られた。	2. 対象至児の近で見ていた	事務所にの欠席児をし確認に行った給人日をに行ったり、人数取本活動ボード書きた部屋からは出ので、実際のはなかった。	2. 担当者・対象児の動きていなかた	部屋にいて、他児や対応の見の遊びを守り行っていたが、本児のつまずきには気がなかった。	担任2名も発生目とも、本児ずは、他児や女児らからまずき手ついて、ことかにいて、普段床した分た。から、本児は人の児間を動くことがあとる。	例えば、本児が走り回っていたとしたら、注意を促したりとしたりようにしたと思う。不慮に起こりうる転倒は、何人かの大人が見ていたとしても防げないこともあるので、対策が難しい。大勢いる個所には留意して目を向けたり必要に応じて環境設定を変える。	
912	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	15								2	1	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折・脱臼	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	園児にルールやマナーを繰り返し伝えきれていなかった	園児にルールやマナーを繰り返し伝え繰り返し何度も伝える	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	マット、運動器具には不備はない	運動器具など使用する場合、不備は再度確認する。年齢的に無理な高さではなかったと思われる。	1. 集団活動中・見守りあり	園児が真面目に取り組んでいなかったことを入ことた注意が聞きが出かった	園児にルールやマナーを繰り返し何度も伝える	3. いつもより発活発的であった(理由を記載)	他とのふざけた友達	1. 対象児とマンツーマン状態（対象児に接していた）	体操教室の先生の対象児見ていた	1. 担当者・対象児の動きていた(至距離にいた)	保育教諭はふざけていた園児を何度も注意した		危険行為をしていたら何度も注意する	
913	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11		2	3	1	2	3		4	4	16. 4歳	1. 男児	診断書（言語発達遅滞、自閉症スペクトラム障害疑い）	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置		引き続き1対1の配置をし、安全な環境を維持できる様にする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	随時	少しの段差でもロープを付け、転倒及び衝突リスクを下げる。	3. 個人活動中・見守りあり		好きな本の歩み寄る本士の引き続き読み寄る本に引き続き読み受け入れ、信頼関係を一層深めていく。	1. いつもどおりの様子であった	体の使い方も柔軟になり、思うように体を動かすことができるようになる。普段の園生活で高い場所に上り、衝動的に飛び跳ねたり走ったりする姿が顕著に見られた。	1. 対象児とマンツーマン状態（対象児に接していた）	本児にマンツーマンで関わった。	1. 担当者・対象児の動きていた(至距離にいた)	本児に目をかけながら4メートル先の場で洗手ていた。		・個別保育を要する児であり、当日も目を離すことなく丁寧な保育をしていた。成長と共に衝動的な行動や突発的に絡んだりはねたりする姿が顕著に表れてきている。引き続き、安全を考慮しながら注意深く保育していきたい。・職場と偏食が見られる（白飯しか食べず、栄養面の偏りもあり、骨が折れやすいように思われる。今までに以上に安全な環境を整えるとともに細心の注意も払っていきたい。また、これまでの保護関係のもと、保護者にも食事面と行動面の変化を共有し合おうと、本児の成長を見守っていきたい。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
																教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																	
918	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	7								1	1	16. 4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	室内の安全につ全面に再確認していて安全であることであると認識した。押入れの縁前一つ一つの縁の段ボールの衝突立ちの高さは安全でガードすることで覆うにする。	転倒した動き際の動きを予測し、子どもの背の高さは安全でガードすることで覆う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1回/日	1. 定期的に実施	1回/日	段ボールの衝突が置かれているため、押入れの縁にぶつかる予想していたので安全ガードが付けてなかった。	押入れの縁に安全ガードを付けた。	1. 定期的活動中・見守り	ジャンプしながら前に進んでいき距離感がわからずボールの衝突立ちにぶつかり、そのまま前方に倒れる。その先に押入れの縁があることに気づかなかった。	降園時間前の自由時遊びの間内で落ち着いて遊ぶように声掛けを子どもの様子に気を配り、動きが激しくなる前に声を掛ける。	1. いつもの様子であった	運動会に向けて縄跳び取り組んでいるので、対象児は「縄跳びする」練習をする」と言いながら友達とジャンプをしていた。	3. 対象児は離れたところで対象児を見ていた	保育士は室内全体の見えるところに立ち、他児の様子も見ていたため対象児の近くにはいなかった。対象児がジャンプしている様子は確認していたが、転倒する際に段ボールの先にある押し入れの縁に、鼻骨をぶつけることは予測できなかった。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	担任は一人のため、保育室に他の職員はいない状況だった。	室内でブロック遊びをしている子ども近くで、縄跳びの練習とジャンプをしていた。	ジャンプをし始めた時点で落ち着いて遊ぶよう声をかける。また座ってできる遊びを提案する。	
919	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	17								2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	-	多岐にわたる研修の実施	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	-	特になし	3. 個人活動中・見守り	コップ袋二重紐でのあったため、フックにかけた状態での開閉が難しくなっていた。	コップ袋の紐を一切重紐に切り替えると共に、コップ片付け時の注意喚起を行う。	1. いつもの様子であった		3. 対象児は離れたところで対象児を見ていた	コップ袋に入れるのに手間取っている様子を確認していた。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	他児の対応等をしていた。	-	園児一人一人に対する一層の理解と観察を行う。	
920	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	約12					約10	1	1	2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	職員会議や朝礼、職員回覧板	2. 基準配置	本児は日頃から活発で、ケガをしやすい。遊び方が激しいときのケガに気を付ける。	クラスで、遊び方の確認をする。外あそびの職員配置を再確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	業者の遊具点検異常なし。	子ども達の様子を見ながら、遊び安全に遊び方が見かく。	1. 集団活動中・見守り	本児は日頃から活発で、ケガをする。(年少年中年骨折)今回で3目。遊び方は担任が常にかけていた。	鬼ごっこ遊びの時は上にいることは伝えていたが、職員に周知し徹底する。	1. いつもの様子であった	鬼ごっこの時は遊具に上ないことは、クラスで約束していた。しかし追いかけられまいと逃げ捕まいまいようにて上勢つき慌てて上勢つきがつき落ちた。(遊具の本写真を診察医より)	4. 対象児を見ていかった	一緒に鬼ごっこをしていた。鬼役他とてめた児を追いかけていた。となり園わっていたため関係ない対象児見ていかった。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	鬼ごっこ外のを以外びをあそびていた。	朝の自由遊び時間特に8：00～9：00は保育士が揃っていない。保育室で朝の片付けをしている園児もいる。保育士間で連携をとり安全に気を付ける。	園児が外あそびに出たら必ず、保育士も外にでる。一緒に活動しつつ子ども目を話さないようにする。	
921	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	22								3	3	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第3趾末節骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	職員会議や朝礼に知て周知	2. 基準配置	午睡後で保育士3人は片付け、おやつの準備、加配児に付くなどの行動をしていた。	保育士の連携は日頃からできているが、再確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	水筒の置き場所は問題ないと思う。	水筒の置は場所は問題ないので改善策はなし。	1. 集団活動中・見守り	年長児で、活面は自立する。お飲むことにはいない。	上記のことから、改善策はなし。	1. いつもの様子であった	午睡後で履いなこ靴を履いていかったが、と折という事態になったのではか。	4. 対象児を見ていかった	担任は午睡後の付け、おやつの準備をいた。加配児で加配担当保育士は、加配ついた。児なので、お茶は自分で飲むため、その場所にはいなかった。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	上記と同じ。	午睡中は裸足になって上靴を履く前に、水筒を取りに行った。	午睡後も上靴を履くように声掛けをする。	
922	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	21								2	2	15. 3歳	1. 男児	骨折の為歩行禁止。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足腓骨螺旋骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		職員会や園内研修で戸外遊び、遊具の使い方等安全面の配慮、発達・発育と事故の関係、事故の生じやすい場所等を共有する。	1. 定期的に実施	25	1. 定期的に実施	25	2. 不定期に実施	園児の使用後確認		遊具の点検は定期的に実施している。異常の場合は早急に対応している。	1. 集団活動中・見守り	他に児ス、児スに遊んだ。１クラス、４歳クラ一緒で遊遊んぴたい遊具で。	ヒヤリハット事例や事故が発生した時は、予防策について、園児に指導する。	3. いつもの様子であった(理由を記載)	運動あそびをあまり好まない、鉄棒に興味を示し度した。日、４・５歳児の園児が雲梯をやっているを見て興味を味持ち、雲梯をやろうとした。	3. 対象児は離れたところで対象児を見ていた	●●●組担任A…園児が鉄棒でいるため、鉄棒と雲梯（小）が見れるところで見ていた。●●●組担任B…砂場・ジャングルジムの方を見ていた。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	●●●●組担任…雲梯（大）の近く。●●組担任…西の遊具●●組担任…●●遊具	雲梯に慣れていなかった。	雲梯に慣れない場合、雲梯の近くで見守りをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制																																												
				月	時間帯				人数	異年齢構成の内訳							教育・保育等従事者			年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面			人的面							その他要因・分析、特記事項	改善策	
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教諭・幼稚園教諭・保育						死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】			施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】			教育・保育成支援の状況			対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか			
923	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	59		8	5	15	12	19			15	15	17. 5歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	降園後の園庭開放時で保護者の見守り下であった。常時は園庭長で見守りを行っているが、園長・副園長が不在であった。	保護者へのの園だよりの見守りの強化の周知。園庭開放時に職員が立ち会う。	1. 定期的に実施	週1	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施		落下個所を確認。マットの状態も確認。	マットのなどた点検した異常な劣化の十分な厚さあり。	7. その他	短時間の降園で保護者の出入りや延長への移動など、人の動きが多い時間	園庭開放遊び子どもたちに指導。	3. いつも発で活動的であった(理由を記載)	運動会に向け、棒なるように、跳ぶ帳しようとする意欲が高いた	4. 対象動児の見なきていかった	降園後のため、子どもたが順次降園する、保護者の引き渡しの対応をいた。	2. 担当者・対象児をていた	クラス担任は降園児の保護者のへの渡し引き渡し対応や延長児を各クラスへ移動など、それ自分の役割を行った。	短時間の降園児と延長保育への移動など、それが動いて、園庭開放中の子ども達に目を向けることができなかった。	園庭開放長時に園長副園長のどちらかが園庭に立ち必ずを見守りをする。	
924	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	1									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右第5趾 右拇指 右第5趾爪剥離症	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	-	ヒヤリハットマップの見直しを定期的に行う	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	砂場から、水道までは少し離れている	砂場で泥遊び際は、近くに水道をいれたタライ等を置く。	1. 集団活動中・見守り	裸足で遊ぶ際に子どもたちに意点を伝える。	砂場で泥遊び際は、近くに水道をいれたタライ等を置く。水道に行く際は(裸足の時は特に)、走らないように促す。	3. いつも発で活動的であった(理由を記載)	水遊びが好きな事もあり、気持ちが高ぶった。	3. 対象児の場所に向かっていた。	少し離れた場所から園庭で遊ぶ様子を見て、本児が水道から水遊びをしていた。本児が保育室で替えていたので、目線を他児に向けていた。	2. 担当者・対象児をていた	砂場で他児と関わって、本児の動きを見ていた。	園庭で遊ぶ保育室で着替えをすがいて、1名ほどの子ども見場所ども見ちらえる子たちの動きを見ていた。	保育士同士の連携を密にする。子どもたちの動きによっては、落ちついて活動できるように話したり、静の時間を設ける。	
925	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11	0	1	2	2	4				4	3	15. 3歳	1. 男児	発達面の遅れはないが、日によって注意獲得行動、友達とのトラブルがみられることがある。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	6	1. 基準以上配置	本児の特質(そっかしい)は職員で共有しているが、発達上配慮が必要というところまでの認識は微妙な状態。	本児の特質(そっかしい)に配慮し、情報共有を行う。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	本児が欲しい玩具があり、気持ちに焦りがあったかもしれない。	簡易的なパーテーションを置いて動きを抑制する。	3. 個人活動中・見守り	本児の遊充実びがしていた分、気持ちが高ぶり、動きが機敏となった。	簡易的なパーテーションを置いて動きを抑制すると共に、「ゆっくりいいよ」等、個別に言葉かけをしていく。	3. いつも発で活動的であった(理由を記載)	咳はでていたもの元気は良かったが充実し、意欲的に活動していた。	2. 対象児の至近距離で対象見ていた	本児の近くでブロック遊びを見守った。移動先も入っていた。瞬時に転倒した間に合わなかった。	1. 担当者・対象児を見た(至近距離にいた)	一人はすぐ隣のコーナーで他児とごっこをしていたが瞬時のおままとを関わった。視関には本児の行動には対応できなかった。もう一人は別部屋で4、5歳児を保育していた。	職員数はいて、欠員がいたが、職員の動もあり、よいつもよりは職員数は少なかった。	欠勤の職員が時には、いつも以上に職員を連携をようにする。	
926	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス												15. 3歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		6. その他	1. 頭部	頭蓋骨陥没	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	降園時で担任と挨拶を交わ後、が他護者をしたの親の保会話をいてもか子ども目を離しめ事故起たとられる。	保護者には登降園時はもから目離さうよいをかけたり手紙で周知する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	1回/日	鋼像がにもやさしさもり高なっている。	破損など検員に、職員に設備の点検管つ協議ある設備等について、協議する。登ないよう張り紙で注意を促す。	7. その他	母親が他者を保護者話をしたの会話ため、子どもから目を離しまった。	保護者へもか離よ子ども目ないに促さうす。	1. いつもお様子のもりであった	母親から一人で鋼像離れて登いた。	4. 対象動児の見なきていかった	保護者引き渡し後だったで、室内降園園にてを待つ児そばいた。	2. 担当者・対象児をていた	保護者引き渡し後だったで、室内降園園にてを待つ児そばいた。		降園後でもあってもお園内いて危険方園内いな遊び方をしていかを配り、必要に応じて保護者にをいく	
927	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	16									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指の骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	特に無し	スポーツ教室参加後は、何事も無かったように思える場合も怪我や体調の確認をする。	3. 未実施		3. 未実施		3. 未実施		特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	慣れない場所、初めて会うコーチや他園の園児もいる活中での動であり、事故こりが起やすい状況だった。	落ち着かない児には適宜声をかけ、注意を促す。	3. いつも発で活動的であった(理由を記載)	サッカーとしてみたり、当教室でもいる楽しおり、日もいた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	コーチが指導をしてくれていたので、少し離れた場所から全体を見ていた。大勢の盛んに動き回っており、本児が動きまで本児の訴えも無かったため、どの時点で怪我をしたのか確認できなかった。	2. 担当者・対象児をていた	大勢の園児が動き回っていたため本児の動きは確認できなかった。、	特になし	保育士それぞれの見守り範囲を明確にする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面					改善策	ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳												死亡		負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因						実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
928	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	21				7	10	4		4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘関節部分骨折	2. 自らの転倒・衝よるもの突による	2. なし	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	–	今回の事故を職員全員に周知し様々な危険について予測、話し合い事故予防マニュアルの作成を行う。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	1	鉄棒の高さが飛び越えてみたいと思えるような高さであった。	鉄棒の使用方法（正しい使い方）を園児に徹底する。	1. 集団活動中・見守り	園庭遊びの際には、遊具の使い方を伝え、約束ごとの再確認を行う。	1. いつもどおりの様子であった	友達数人と鉄棒付近で遊んでいた。	3. 対象児が離れたところ対象見ていた	体調を崩した他児に声を掛け、様子を見てあげるための児場所配慮がでしまった。	1. 担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	他児とかかわりなく見ていたので細かい動きまで目が届かなかった。	迎えにきた保護者に対応や職員や他児員同士の声掛けが足りなかった。	個別対応が必要な時や保護者対応な場所を離れるときには必ず他の職員に声掛けをする。	
929	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	12									19	15	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝よるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	年齢による発達や運動能力を活動内容に活かせたか。	年齢による発達の理解や、個々の運動能力について更に職員間で共有する。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48～	ホールの床の状態(温湿度による状態)が運動遊びに適切だったか。(ワックスが効きすぎていないか等)	季節や気候によるホールの状態を確認し、運動遊びが行える状態か確認をすることを職員間で共有・周知する。	1. 集団活動中・守り	上履きを履き、ホールでの運動遊びのため、運動範囲での運動遊びとは違う身体の動かし方だった。	年齢や個人差による運動能力の把握、対応に努める	1. いつもどおりの様子であった	普段からある程度発達するが、気持ちがたかぶっている様子は任の話を聞き運動遊びを楽しんでいた。	1. 対象児とマンツーマン状態（対象児にいた）	運動遊び安全性を考慮し、2人距離とっつずつとりとりがでるよう行き走ることを図る。	2. 担当者・対象児動きを見ていなかった	ホールを使用する人数を調整するクラス毎、時間を決めしたた職員でいめ他のクラスしていた。	園児数は少なかったが、運動遊びは怪我が伴うと予測が重要。	園児数に関係なく、職員配置を2人以上にする。	
930	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	5									35	31	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝よるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	かえるの表現遊び中にふざけており、正し方ややりジャンプしなかった為、着地に失敗をした。	ふざけず落ち着いて活動できるよう注意をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	51	1. 定期的に実施	51	クラスは広く開けていて、転んでぶつかったりするものの近くってはいませんでした。	特になしです。	1. 集団活動中・見守り	クラスは広く開けていて、蹴いたりものもしても落ちてませんでした。	特になしです。	1. いつもどおりの様子であった	たまにふざけるあ向けも同様にそういう傾向がみられました。	3. 対象からたところで対象見ていた	担任として全体を見渡せる位置に居ました。ジャンプ着地直後は、けていたふざけるが、痛えみを訴えこと異変に気付きました。	1. 担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	リトミック講師はピアノを弾きながら今回の園児を特に注視してはいませんでした。	正しいジャンプの仕方をしてなかった。	ジャンプをする前に、いやり方を見せる。	
931	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	27									1	1	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯の位置の移動	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	なし	職員会議などの際に、ガイドラインの読みあい、それぞれの事故やケガについて具体的な改善策・対応を話し合っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	なし	室内の環境が適切か、新しい活動の都度、確認している。	1. 集団活動中・見守り	午後の時間帯の、室内遊びの展開が足りなかった・指導不足であった。	落ち着いて遊べるような環境設定。室内での遊び方に指導していく。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児が離れたところで対象見ていた	事故がきたはすかけ対応した。	1. 担当者・対象児動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と関わりら、全体を見ていた。	担任が不在であったり、園児の事故につながりそうな行動が不十分であった。	園児の性格や特性や、クラス全体を把握している職員が配置できない場合は、時間に余裕をもってを引継ぎし、十分に情報を伝える。	
932	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	21									4	3	15. 3歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の動揺	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	その日の内容計画は、当日の朝からの師からる。実施内容が多くクラスの子ども達の見ても状合いがあった部分が、十分に確認ができなかった。子が落ち着いて組め取りない要因とも考えられる。	その日に行う内容を外部講師と確認し、その時にどのような点に注意するか、その時に予測される子どもの動きまで共有し、声をかけあいながら事故防止に努める。事前に活動内容を確認できるようであれば、クラスの現状と見合う内容への変更を提案したり、クラスでもどのような点に注意をし見守り・補助などをするか話合い、共有する。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	240	運動用のマットを使用、マットに特に問題はない。	マット問題はない床に問題や題ためにない。	1. 集団活動中・守り	今回が2の体で目の操教ども意欲待ちぶった。マットを早たい方持ちから、押しようとなった。	時間を短くし、2グループ分かれ人数少行うこと落ちて行とち着いて取り組めるする。待っている時は、座るなど、他のケガにつながらないよう工夫をする。	1. いつもどおりの様子であった	マット運動の順番待ちのため、問題はなかった。	2. 対象児を近で対象見ていた	本児の近くにはいが、マンツーマンでの対応でのくかぶったきる出かっ活動（マット運動）を本児のとろでいるどもたちの対応が困難だった。	2. 担当者・対象児動きを見ていなかった	自分の担当するクラスの児童が対象児ていを見ていない。	子ども、講師・保育士も体操教室が2回目という点において、慣れや子ども動きの予測が十分な部分があった。全体を把握し、足りないところを補助できる助立場の職員（フリー）がいてもよかった。	人数を少なくすることで、ひとりひとりに目を向け、対応できるようにする。それでも対応が難しい場合には、フリーの職員の配置、内容変更などを考慮する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷		診断名	事故誘因	ソフト面					職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面										環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】						施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																									
933	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	4								4	4	15. 3歳	1. 男児	なし	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第一中足骨骨折、左第二中足骨骨折、左第三中足骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置		事故予防マニュアル、事故予防に関する研修の実施及び職員配置については問題なし。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	12	登り棒下部への安全マットの設置依頼を検討する。	7. その他		保護者が保育室に迎えにきてから、園児の引き渡しを行う。また、保護者への伝達事項がある場合は、園児の引き渡しの前に行う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	元々かなり活発な園児であったが、その日は雨で出戸外れず、走り回りたい気持ちが強かったことが予測される。降園時に、遊ぶ習慣があった。また、3歳児はやっていけない棒を経験あり、興味をもっていた。	4. 対象児を見ていなかった	短時間で済む話であったこともあり、話をする際に目を離してしまったこと。走り回るなどの行動をする本児に、口頭注意だけでなく、すぐにとめにいかなかったこと。担任がすでに母親に引き渡された状態であるしていたこと	2. 担当者・対象児を見ていなかった	遅番職員は、担任、母親に任、母親がいることで、自身の責務はないと考え、他児の保育に戻った。	園児が園庭で一人で出ることはない思という思込みから、目を離したこと。	保護者に引き渡し後に話す場合は、危険が予想される場合、他の保育教諭に園児の保育を依頼する。また、担任や保護者が話しながら、園児を抱くなどの対応をとる。常に子ども目から目を離さない意識を改めてもつことする。	
934	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	22								3	3	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	単純骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	遊び方：該当遊具方の遊び方の確認。事前に降り方の助言があると良かった。	安全な遊び方の指導を行う。	2. 不定期に実施	実施頻度1 回/年	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3回以上	遊具構造上の問題ではないが、劣化している部分もある為、修理を行う。	3. 個人活動中・見守りあり		保育教諭同士が連携し、子どもの遊び全体が見られるような配置を考えていく。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子	4. 対象児を見ていなかった	直前までで一緒にブランコでいい遊んだ。一緒に砂場に移動した。当該が、当該児が一人で汽車に乗り遊んでいた際の事故。落下の瞬間を保育士は見ておらず、泣き声を聞いて対応にあたる。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故があった遊具が視野に入る所で他児と遊んでいたが、注視していた訳ではない為、事故の瞬間は見ていない。事故後、園児をなだめたり外傷がないか目視の実施。		子どもの遊ぶ能力を把握し、援助・見守り等、適切な対応が出来るようにする事。	
935	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20	1	6	6	3	4	0	0	14	14	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突による転落	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	担任不在の為、職員配置の見直し。	安全面の改善を話し合う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	12	バランスストーンを部屋の隅に置いた。	バランスストーン置き方置きのの見直し。	1. 集団活動中・見守り	担任不在の様子で普段の様子を把握していなかった。	会議等で伝達をしっかりしていく。	1. いつもどおりの様子であった	ベランダで遊ぶ外で遊べなかったため室内で体を動かして発散して楽しだっかり散んそた。	4. 対象児を見ていなかった	職員で全体を見守っていた。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	職員全体で見守っていた。	本児ははしゃぎやすい性格である。	動きをセーブする。	
936	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	8								2	2	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		運動会の競技の跳び箱の活動中で教助師について行っていた（目前で見ていた）が、事故が起きてしまった。助走段階から跳び箱に手を着地までをイメージ活動すよう細心の注意を払い指導補助していきたい。	1. 定期的に実施	50	1. 定期的に実施	200	2. 不定期に実施	50		日々の点検はしているが、直接園児が触れるものだったり、行だも事の時使うものに関しては経年劣化していない丁寧に確認し手からうにする。	1. 集団活動中・見守り	運動ができる子からい普段べて補助にはついていたが手は出さなかった。	普段からできていることから大丈夫という概念を持たず声掛けや見守りを強化するようにする。	2. いつもと元気がなかった(理由を記載)	リレーの練習にやりたがらなかった。見学したいと言っていた。体調が悪いわけはないと思いつもより元気はなかったように思う。	1. 対象児とマンマン状態（対象児にしていた）	普段から跳べている段数だったので見守りはしたが手を出しての補助はしなかった。跳ん数いる対の反転の方に人だのこと手を伸べ差れなかった。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	もう一つ跳び箱の他児の補助をしていたため見ていなかった。		いつも跳べているからと安心せず常に危機管理をもって対応していく。	
937	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	62								6	6	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	特になし□	くもの巣遊具で遊ぶ際には必ず近く保育者が見守ることを再確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施	3	特になし□	善策なし。現在実施している点検を引き続き行う。改善	3. 個人活動中・見守り	子どもとくもの巣遊具での方の不遊び確認が不十分であった。	くもの巣遊具は必ず保育者が近くいる時に遊ぶ子どもと再確認する。□	1. いつもどおりの様子であった	動等や体普等は通り調段通で、友達と一緒に遊具でいた。	4. 対象動を見ていなかった	コーナーに付き、ってに見守いたため、事故発生時の本児の様子をいなかった。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	隣の複合遊具の見守りを行っていたため、事故発生時の本児の様子を見ていなかった。	遊具の見守り員配置が不十分であった。	遊具の見守りの職員配置を再確認し、声を掛け合っていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																							
938	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	26								3	3	16.4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	上前歯歯根軟骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置		適切な声掛けによる安全距離の確保、水分補給時のルールの明確化	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12		なし。(ハード面で事故に関係するものが水筒であり対応なし。)	1.集団活動中・見守り		教育活動の間の休憩において安全確保のための配慮を強化する。	1.いつもどおり様子であった		4.象動を見ていなかった	最も近くにいた職員は2m距離であったが視界に入っていなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	同室にいた他の職員2名も視界に入っていなかった。		役割分担のなかで全体を見る職員がいるように努める。	
939	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31				17	14			2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	(左手小指側ひじから下辺り)骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置		職員の配置も全体の見える位置にいた為、改善策なし。	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293	1.定期的に実施	293		園庭の広い場所で転んだ為、危険な場所ではなかったので改善策なし。	3.個人活動中・見守り	ごっこしていかをしてたり、よけきれなかった。鬼を	周りを見ることの都度くいくよう。	1.いつもどおりもりの様子であった	鬼ごっこしていた。	2.対象児の近で対象見た	全体を見位置に立ちくばった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	本児の転んだ場所が見えない位置でいたが、他児のトラブルに対応していた為、見ていなかった。		どういう状況かまで細かな所まで目を配る。	
940	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14								3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	挫創　約１０ｃｍ	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	-	色々な状況を想定したマニュアル作成と対策会議を行う。またヒヤリ・ハットの活用をする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	水槽が固定されなか	水槽はプラスチック製のを使い必ず固定する(カメの水槽は前の建物に移動)	1.集団活動中・見守り	-	職員は複数人で保育するようにする	1.いつもどおりもりの様子であった	2階ホールに他児4名と水槽のカメを見ていた	3.象からたところ対象児離れたで対象見ていた	５名のなかの１名をそのうちが排便をし、交換していた。片付けの途中で本児がカメの水槽に手をかけようとしたのを出すことができなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	他の部屋で２才児９人を２人で保育していた。	-	必ず複数の保育教諭で保育するようにする	
941	令和6年6月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	4	4	2	4	2	3	0	4	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	ソフト面に関して問題なし	1.定期的に実施	240	3.未実施		1.定期的に実施	240	特になし	ハード面に関して問題なにもし	1.集団活動中・子どもの	列でいる子ども同士の距離が近かった。	遊び環境について、見直しを行う。	1.いつもどおりもりの様子であった	特になし	2.対象児で対象見た	立っていた位置に対して反対に倒れてしまったので、手を出すことができなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	別室で0-2歳児を保育していた。	特になし	人的面に問題なし	
942	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16								3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第1趾末節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	担任と長時間保育士の入れ替えの時間で、手薄になってしまったところがあった。	保育士の入れ替えの時間だったため、手薄になってしまった。一人の子ども達を見落としてしまった所もあった。1人はオムツ交換の為にトイレ、一人は絵本を読み聞かせる、一人は全体を見る等保育士3人の役割を決め声をかけあうようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	220	トイレから出て、テラスに転倒し、机や椅子などが出てあり、玩具などが入っている棚がある。は片付けて直進できる状況になった。	保育室でトイレに行くことがないように、机を出し立ったり、衝突をコーナーの設定をする。	1.集団活動中・見守り	絵本を読むトイレで遠くの場所があったこと、保育室を出す原因となり転倒につながった。	絵本を読む場所を考え、走り出さずに絵本を見ることができるように、トイレに近く読み聞かせのコーナーを設定するべきであった。	1.いつもどおりもりの様子であった	他児が絵本を読んでいることに興味を示したのか、その方向に走っていった。	2.対象児で対象見た	見守れるように、全体を見る位置にいた児をの動きとなった。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	トイレでのオムツ交換をおこなっていたこと、死角になってしまったことで、他児に絵本の読み聞かせをしていたので、止めることはできなかった。	担当職員が全体を見ても、長時間移行の時間帯だったため、長時間保育士が見ると、という気持ちは薄かった。	移行の時間は特に注意するべきあるため、保育士の立ち位置や役割を自覚するように声をかけあうようにする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷		診断名	事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																									
947	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	47								3	3	18. 6歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2. 自らの転倒・衝によ突るもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度【回/年】	2. 基準配置	特になし	ずべてが見渡せる場所に保育者が配置できるようにする。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	特になし	ウレタンマットの下に滑り止めを敷いた。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	遊具での使い方、あそび方を改めて考察し、禁止事項について子どもたちに伝え、徹底を図る。遊具で遊ぶ際は見守りと声かけを徹底していく。	1. いつもどおりの様子であった	走ったり、跳んだり動かすことを積極的にしている。	3. 対象児の離れたところで対象見ていた	子どもたちのあそびに関りながら全体をもっていたりもみまもっていたが、事故発生時は対象時の近くにいなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見守りながら子ども達と関わる。	特になし	様々な場所を意識しながら全体を見守れるようにする。	
948	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17								2	2	17. 5歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右大腿骨骨幹部骨折	3. 子ども同士も衝突するにもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	この日は災防がそのシャワーを浴びた学年との兼ねで、予定通りに順番少ども全員がそのころがあった。他の合い通とし子を急せたが	行動するのに時間的余裕を持つようにする。子どもは廊下や保育室は必ず歩くよう伝え、徹底する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	随時	特になし	通り道には物を置かないようにし、できるだけ広くおく。	2. 集団活動中・子ども達のみ	シャワー場所と着替えの場所には保育士がついた、通りはつなかった。	シャワーを行う動線を広くするようにする。	3. いつもより活発的であった(理由を記載)	その日は暑かっで、シャワーを浴びることもきっかけで、ちょっとしまった。	4. 対象の動見ていなかった	シャワー場所にいた、対象児の動きをできなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他のクラスの保育士が見え位置にいた、逆走して子がくること、ぶつかることを予測していなかったこともあり対応ができなかった。	着替え等に手がかかり、どもが歩ところが向とは気がいなかった。	着替えのからる位置はの見えで、歩いていにくいように声をかけていく。	
949	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	16								3	3	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘粉砕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	死角になると為、注意よりするのよりとする	見守りをして徹底していく	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	特になし	業者に点検を依頼している。マットの所ではぶらないようにしていく	1. 集団活動中・見守りあり	保育者の見守りの立ち位置	死角がある為、見守る位置を再度確認する	1. いつもどおりの様子であった	普段は物おきさんが、遊ぶ先静子あるが、友達柵にぶつかるこ下がっていてられるようにふったのではないかと思われる	4. 対象の動きをていなかった	対象児が転倒に気付いた瞬間に	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった		対象児が転倒し他の保育者や他児が集まってのでいた気づいた	1歳児がぶら下がるには高さがあったため遊ぶのをべきであった。	床にマットがあるところがあるためちら誘いを導く。	
950	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	84				25	29	30		6	6	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕の骨下側の骨折(正式名聞いていません)	3. 子ども同士も衝突するにもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	職員への見守りの子徹底、ども達へ注意の注意喚起も行う	見守りをして徹底していく	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	特になし	業者に点検を依頼している。前を走ってよう向いてを掛けていく。	1. 集団活動中・見守りあり	職員の配置は適正であった、子ども達の見守り方を見直す	今回の事故を職員周知で周りを見直すし、	1. いつもどおりの様子であった	普段から走庭から回った、山り下ら駆けりできたり活発な子である。	4. 対象の動きていなかった	対象児が転倒した気付いた瞬間に	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった		対象児が転倒し他の保育者や他児が集まってのでいた気づいた	対象児が走ら振り向き際だったため、防ぐことは難しいと思われる(ビデオで確認)	保育者の今度確認をしていくを	
951	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	27								4	4	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第5趾中足骨骨折	2. 自らの転倒・衝によ突るもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	・常に体を良く遊かし児童で、転ん自だ時も自分でしっかりつい手ていたが、足をひねってんだことが要と思われる。	・遊戯室での活動で起こること を予測し、子どもたちと一緒に、考える機会を持つ。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	5	・床の状態はどうだったか検討したが問題なかった。	・遊戯室床のモップ掛け等行い、必要以上に滑らないようにする。	1. 集団活動中・見ありり	・しっぽを取られないように左右確認が必要な遊びは、バランスを崩しやすい。	・バランスを崩しやすい遊びは、広い外で行うようにする。	1. いつもどおりの様子であった	・意欲的に、しっを取りを楽しんでいた。	2. 対象児の近で対象見ていた	・全体を把握し、ゲームを進めていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・子どもの様子を見守っていた。	・必要人数の配置だった。	・遊戯室での活動内容の確認・検討を職員間で話す。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				発生時状		死亡	負傷		診断名	事故誘因	ソフト面									ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																					
952	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	7			3	1	3			1	1	18. 6歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左母趾基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施的に実施	12	2. 基準配置	保育士の危険予知能力の低さ	今回の事故容や以外の危険予知それの危険予知トレーニングを行う。	1. 定期的に実施	293	1. 定期的に実施	293	2. 不定期に実施	293	特になし	特になし	1. 集団活動中守り見あり	子ども達ってようはかけたもの、虫を出す動めた始めし対し、座る声をかけずないように声をかけらでと声をかけ保育士と一緒に虫を追い払っていた。	虫が居た場合は、子どもとは一緒ではなく、子ども達を着かせても、保育虫を追い払うことや隣の部屋に居る士とをとることを、職員間で共通理解をした。	1. いつもどおりの様子であった	保育士にようを声をかけられ、急歩足で歩きかけたが、歩き回っていた。	4. 対象児の見ていた動きをいかっ	虫と、他児に気いて、本児を動把握でいなかった。	2. 担当者・対象児の動きをいかった	他の職員はいなかった。	保育士年長だった児だため、虫追い払ことに対して、危険だとは思わなかった。	虫を追いかけた子ども虫にはしたものの、あまり危険とは思わなかったことに危険予知の低さを感じた、怪我後の報告の遅れも問題、意識の持ち方について、職員で話しあった。	
953	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	38			20	18				6	6	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施的に実施	1	1. 基準以上配置	雨上がりで長いおりで本靴でき、こにくかったことが予想される。転びやすい状態あったから付けていくとをみ必要があった。	保育士の人数的には十分あったが、特に履靴を履いている子に注意してみるようにすることを意識していくようにする。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	5	園庭がぬかるんで転び状おりやすい状態であった。	ぬかるみの分ないことで部遊ぶ遊ぶができるよう誘導したり、裸足ってよにあうをしく。	1. 集団活動中守り見あり	自由あそび時り、保育士はたが転んだ十分いたがとき手をかすことはなかった。	他の士で協力し合ながら、靴を履いている児には気をつけてみていくようにする。	1. いつもどおりの様子であった	喜んで戸外で、園庭を走っていた。	2. 対象至対象児の児の近使見た	担当保育士は近対象児をみていたが、だとは支ことはできた。	2. 担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	近くにはいたが、他児もいため手は届かなかった。	痛みに鈍感な、気づくのに時間がかかってしまった。	本児が痛がらなくてもすぐに受診をするべきであった。	
954	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	11								1	1	16. 4歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足甲の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施的に実施	1	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	12 3	1. 定期的に実施	96 48	1. 定期的に実施	48	なし	なし	7. その他	舞台の近くで並んでいたこと	舞台からと並ぶ離れたころで舞台の階段は、歩いて移動するようにする。	1. いつもどおりの様子であった	保育士と部屋の移動中、本児が舞台を登り、ジャンプ降りて子。	4. 対象児の見ていた動きをいかっ	遊戯室から保育室に戻る際はろに遊戯室から保育室に戻る際、本児は一番後ろにいた。中で途中で一番後ろから一番後ろに並んでいた。児後ないことに気付付いていないことづき、遊戯室をみいった。	2. 担当者・対象児の動きをいた	加配保育士は、別室で保育していたため、担当職員の保育は当みした。	遊戯室から保育室に移動する際、最後で児まだ上がっていたことに気付かなかった。	遊戯室から保育室に移動する際は、最後まで児ども子ども守り、危険な行動をする前に止めれるにする。	
955	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	18								2	2	16. 4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	右手第5指骨折(全治1か月半)	1. 遊具等から落下の転落・落下	1. あり	1. 定期実施的に実施	1	2. 基準配置	跳び箱を際の方使う遊び方補助の仕方でなかったことも要因のひとつとあげれる。	園児すべてのをサポートできる流れや順番を考慮した計画を立て実施する。	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	毎日	発達や理解の差、また体の動かしを考慮した上での適切な器具の提供ができていたかも確認する。	跳び箱の手上部に手位をつく示こと置を表ること、安全をこで、体をすることとして支えるこるとよう促す。	1. 集団活動中守り見あり	子どもの発達や体力、実施状況に応じて起こる可能性を予測した保育士の位置援の不足があった。	子どもの体格に合わせ、負荷かかりすぎないように回数調整をし、遊び数の段階を踏んだ保育をする。	1. いつもどおりの様子であった	転倒後、右手小指を触辺りる気にする様子は草はあった。保育士が尋ねると痛みがないとは答え、継続して遊ぶ。	3. 児童と対象児を見ていた	患部の腫れや赤みを確認するが、特なに変化はなかったことや、ここ本児の痛みがなかった訴えの遊び子を見守った。	2. 担当者・対象児の動きをいた	クラス保育中で、クラス担任のみの配置であったことと、怪我にのみなかったこと、報告がもあり、状況が把握できていなかった。	怪我の状況をクラス担任間で、他の職員とのみ共有されていなかったこと。	・怪我をした時は必ず上司または他保育士に伝達し、複数の目で確認したのち受診等適切な対応がとれるようにする。 ・全身の跳躍運動、腕の支持力を身につけられる遊びを継続的に取り入れる必要性を職員間で共有する。	
956	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	5	0	2	3	0	0	0		2	2	15. 3歳	1. 男児	特に無し	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	上腕骨内顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	2. 3	2. 基準配置	職員の配置分で不十あった。	1名の保育士が片付けするときには応援を依頼する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	随時	保育室の見環境直し。	棚だけで床面なく玩具等の安全点の安全検、確認をする。	1. 集団活動中守り見あり	保育室内での遊び方(走らない等)の伝達	危険が予測されるに、事前場合は、に知らせる	1. いつもどおりの様子であった	普段通りの様子で、靴下保でも脱ぎ後育士の後ろを歩いていた。	4. 対象児の見ていた動きをいかっ	他児3名と話している時、対象児は保育士の保育後をたった通った転倒する場面を確認できた。	2. 担当者・対象児の動きをいた	おやつを食べていた他児に付きていた、見ていなかった。	園児全員を把握できる位置ではなかった。	常に園児全員を把握できる位置となるよう気を付ける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】										理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
957	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	26								2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘　尺骨肘頭骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	6	1. 基準以上配置	活動の切り替え時は特に気をつける	室内での骨折する可能性があることを周知し、子どもが移動する際は気をつけて見守る	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	特になし	すれ違いしやすいよう子どもの動線を広く確保する	3. 個人活動中・見守り	他クラスの子どもの動きに気をつけながら、込み合わないよう配慮する	歩くときは周りの状況を付けることを繰り返し子どもたちに伝える、転んだ時に手が出るよう敏捷性を育ててい	1. いつもの様子であった	図鑑を取りに行くため歩いていたが周囲の確認をしていなかった	4. 対象児の見なきていかった	保育室中央で掃除をしていた	2. 担当者・対象児の動きていなった	保育室中央で掃除をしていた	全体を見守る保育士体制が必要	保育士が子どもたちの動きを把握し、動線を広く確保し、危険のないよう見守る	
958	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	10								2	1	17. 5歳	1. 男児	●●市●●センターに半年に１度受診。不注意の傾向の診断。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		引きつづき本児の様子を日々確認し、感情が高ぶりすぎないような早めの声かけ等をしていく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		扉にクッション材をつけた	1. 集団活動中・見守り	扉に指つめ防止がついていない	扉にクッション材をつけた	1. いつもの様子であった	朝の登園入室の受け入れの時間帯でも、部屋の中ち着かない状況があった。中で、自分の思いを友だちに受けてもらえず、感情がつい高ぶっていた。	2. 象至近で見ていた児の対児た	落ち着かない様子で、近くの友だちとの関わりの援助をしたが、急に部屋を飛び出したために、部屋を閉めたためにその行動をとめることはできなかった。	2. 担当者・対象児の動きていなった	他の園児に応えるため、室内ではある少し離れた場所にいた。		引きつづき本児の様子を日々確認し、感情が高ぶりすぎないような早めの声かけ等をしていく	
959	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	36	2	3	7	4	13	7	0	7	3	17. 5歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘刺離骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		安全計画の見直しを職員全員で行う。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	3		玩具の点検を月１回行う。	1. 集団活動中・見守り	安全マットに砂が溜まってマットの吸撃が悪い。	安全マットの砂を、月に１回、取り去り、マットの吸撃を上げる。	1. いつもの様子であった	いつもと変わらず、午前中は、運動会の玉入れ、体操を行い、そのあとは暑かったので室内で遊び、給食もよく食べ、午睡もでき、夕刻も元気であった。にうんをそばで、見ていてやっていたが、手を滑らせて地面（安全マットの敷いてある地面）に落下した。	1. 象マ一ンの児とツ態（対象接いた児）	うんていを対象児が、渡り始めてからうんていのあたに、立っていて見た。３分ってた。２くらいの渡ったところ下が、離れたので、受けることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きていなった	２人のうち、１人は、子ども補給の準備をテラスで行った。もう１人うんをしていは、ていない保育をしていなかった。	子どもが動きを合わせるときは、最初からまでの動きをそれぞれにつくりすぎないようにする。	子どもがうんていをするときは、最初からまでもの合そえて子どもに動きをそろえるようにする。	
960	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13	0	1	3	1	3	5	0	7	1	16. 4歳	1. 男児	特になし	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨遠位端骨折右橈骨遠位端骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期に実施	4	1. 基準以上配置	降園時、引後具ずとしいう帰ることが徹底していなかった。安全な滑り台の滑りをしていなかった。	降園時、園児を引き渡し後は、遊具で遊ばずに帰るということを再度全職員に周知し、子どもたちにも話をした。遊んでいる子を見かけた時は、声をかけるようにする。安全な滑り方を子どもたちに話した。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	毎日	特になし	特になし	7. その他	特になし	特になし	1. いつもの様子であった	いつも通り、祖母が迎えに来たため時間外担当職員が対応をした。	4. 象動を見ていなかった	降園時、引き渡した当日後の園児は把握していなかった。	2. 担当者・対象児の動きていなった	遊んでいる様子は見ていなかった。	保護者に引き渡した後の園児の行動を把握することに意識がなかった。	保護者に引き渡した後は、しばらくよしばらくは見守りにする。	
961	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21								2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨近位端骨折・左肘関節痛	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期に実施	12	2. 基準配置	特になし	職員全員が、安全に対して常に学び合ってひとりの様子を把握し、連携し合っていく。	1. 定期的に実施	48	2. 不定期に実施	48	1. 定期的に実施	3	床の状態に異常はなかった。	特になし	1. 集団活動中・見守り	本児が上靴を履いていなかったこと、事後わかった。故発生を	活動前、登園後は上靴を履いているか確認する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	楽しくて気分があがり、保育教諭の届かない声がない状況だった。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	全体の様子を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きていなった	集団から外れる子の対応をしていた。	特になし	危険を伴いそうな時は、気持ちが落ち着くよう、一度休憩をとるなどしていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
967	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	19									2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	2. 基準配置	-	自身で転倒し目立つ外傷等が無くても、転んだ時の体勢により児によっては骨折する場合があるので可能性を考慮しながら、見守りをするようにする。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24	-	施設・設備には問題が特になかった。	1. 集団活動中・見守り	-	活動時は安全に活動できる遊具配置を考えながら見守ったり、園児自身が回避の意識がもてるように事前に事前や最中に呼び掛けたりしていく。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	遊戯室全部を使い、サッカー遊び、トランポリン遊び、レスキュー遊びの中で全員がしたいことを選び体とを動かして遊んでいた。担任は、近くで必要なトランポリンのそばに位置しながら全体を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児に寄り添いながら見ることもできずつと見ることもできなかった。	遊戯室という広い場所で遊ぶ際は、全体を隅々までこの見守りが難しいため、本児の動きを見ることが難しい。	職員配置人数によっては、特に隅々まで見守りが難しい広い空間等、傍で見守りが必要のある遊具を避けるなど準備する遊具を厳選し、全体把握しやすい活動を考慮していく。	
968	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	22									4	4	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A外傷性歯の脱臼・外傷性歯の破折、左上A外傷性歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	子どもが全体に落ち着いて遊んでいると判断し、担任が1人で保育をする状況になった。また、本児が机上の玩具を取ろうとしたが、容器が深く椅子から立ち上がらないと取れない環境だった。	戸外から保育室に戻るなどの活動の合間に、担任がそわない状況の時は、お互いの立ち位置を確認し合い、全体の状況を把握することを徹底する。また、机上の玩具が椅子に座って取れる容器の高さを考え、浅いものに変更する。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24		事故との関連性は無かった	1. 集団活動中・見守り	-	容器の大改造をし、上がらず机上に善ち上がる玩具をとれるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	大きくなく変化は、落ち着いて遊んでいた。	4. 対象児の見ていなかった	落ち着いて遊んでいたため、他児に関わっていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所にいた。	職員の連携	行動をする場合、保育室から出る場合は、声を掛け合う。	
969	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	6									2	2	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	前額部挫創	8. その他	2. なし	3. 未実施	1. 基準以上配置	延長保育への切り替えと降園の時間が重なった。	延長保育への切り替えと、降園の時間が重なったため、遊びの場所の配置を変え保育を行った。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	48	・延長保育への切り替えと降園の時間が重なった。 ・0、1歳児の2クラスが一つのテーブルを使い、0歳児の遊ぶ場所が1歳児が通る通路になっていた。	・0歳児の遊ぶ場所が1歳児が通る通路になっていたので、遊ぶ場所の配置を変え、棚に緩衝材を付けた。 ・角が丸いが、棚だったに緩衝材を付けた。	3. 個人活動中・見守り	・延長保育への切り替えと降園の時間が重なった。 ・0、1歳児の2クラスが一つのテーブルを使ってお児の遊ぶ場所が1歳児が出入口に行く通路になっていた。	・0歳児の遊ぶ場所が1歳児が通る通路になっていで、遊ぶ場所の配置を変え、棚に緩衝材を付けた。	1. いつもどおりの様子であった	ロッカーに近くにお出し歩き出した所、いて保育者かぶつかり、跳ね返りにぶつかった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児の見様子がら、少し離れたところで0歳児クラスの子ども遊んでいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	1歳児の子ども保護者に渡し引き後、1歳児クラスに戻ろうと歩いていた。		事故防止のため棚等の備品には緩衝材を添付したり配置を見なおし対策を万全にする。	
970	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	62					30	32			10	10	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		事故内容への職員の周知・職員の意識向上	1. 定期的に実施	24	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施			遊具下に緩衝材を敷く	3. 個人活動中・見守り	いつもしている活動と油断があった	遊具近くでの見守り	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近で対象児を見ていた	雲梯のそばで渡る姿を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	雲梯から離れ少したところで渡っている様子を見ていた。	いつもしている活動と油断があった	遊具近くでの見守り	
971	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	64									6	6	16. 4歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	前々日の雨で、降雨がぬかるんでいたにもかかわらず関転倒危険性を察知することができた。	これまで起こった事故の事例、ヒヤリハット事例を振り返るとともに、園内で注意が必要な場所について話し合うことで職員の危険予知能力の向上を図る。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	園庭内に乾雨で乾ききら分及び朝露でぬかるんでいる部分があった。	みってすろをなってころを滑りぬにくくなっやすく砂を滑りは、撤きにくる。	3. 個人活動中・見守り	走ってことして遊ぶ想定した環境確認が不十分であった。	保育士がその保育内容を行う上で活動場所の危険個所がないか確認する。	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおり終わり、休憩の為保育室に一旦戻ろうとした。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児を子ども保育が保育室に戻ることを含めも室によっていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の子ども子ども見保育室にて向かった。	他の子どもの対応ものをしながらどもを見ていたため、注意を促す声掛けができていなかった。	落ち着いて保育室に戻るよう声掛けをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制													事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者			年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育						死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
972	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	55									11	10		15. 3歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	子どもの危険な行動に気付けなかった。	職員が過去のヒヤリハットや怪我が起こった状況等の振り返りを行うことで、危険予知能力の向上に努める。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	25	1. 定期的に実施	24	本児がこの場所で遊んだ経験がなく、土管の長さが分かっていなかった。	3歳児の築山の使い方を再検討する。土管分の端が分かる目印をつける。	3. 個人活動中・見守り	気持ちが昂っている様子に気付けなかった。	子どもの動きに注目し、気持ちが昂っている時には無いったん子ども落ちに着く声かけをする。	1. いつもどおりの様子であった	運動会の練習中、自分の終わりと待っていることが苦手で、いつも自分の番ではないときどころでいたんだ。	2. 対象至児の近対象見た	近くにはいたが、危ない動きが危ないの児童を見ていたの児童で手を出すぎ、又は、受けとめることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所で遊んでいる子どもの多くが一緒に遊んでいた。	本児にとっては初めての場所で、遊び方や土管の距離感なども十分認識できていないにもかかわらず他の児童と同じような遊び方をしていたことに保育者が気付けなかった。	土管から転落するかもしれないという事故予測をして、有事の際には直ちに対応できる位置で保育者が見守るようにする。	
973	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	28									2	2		18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		活動に合わせて職員の増員をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施			遊戯室は開放的になり子どもの動きが活発になり場所がないので、遊び方に十分気をつける。	1. 集団活動中・見守り	各コーナーにあった広確保さの人数と、場所を仕切る。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	友達を追いかけていて、以上に情緒面は、高揚つも気味であった。	2. 対象至児の近対象見た	縄跳びを回していた職員のすぐそばを対象児が通り抜け、縄跳びを固定するルにたった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当していた遊びのコーナーを見たため、対象児の動きを見ていなかった。		情緒面で高揚している様子が見られたときは、早めに声をかけ気持ち落ち着かせるようにする。	
974	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	84	5	12	14	20	20	13			20	16		16. 4歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	園庭から園室内へ入る際、職員りはあったが、ゆっくりゆっくり回ってる転倒という予測はできていなかった。	転倒するおそれのある歩き方など怪我につながる可能性も考慮し、危険予測し、適切な声掛けが必要。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施		園庭につまづくような突起物はなかったが転倒の因となるようなものが無いようにする。	園庭の凸凹整備や障害物の有無の確認を常に気を付ける	1. 集団活動中・見守り	入室の為の混雑や動線は適切であったか	入室のタイミング・子ども動線を考慮し、転倒などが起こらないよう気を付けていく	1. いつもどおりの様子であった	1人でくるくるとゆっくりながら回ら歩いるバランスを崩し、地面で左肩を打撲。	3. 児対象至児離れたところで対象見ていた	室内へ入る子どもたちを見ながら、5歳児にとおもちゃの片付けをしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にてきた児の着替えや給食の準備についていた。	子どもの予動きを予測しながら見守りできていたか	転倒するおそれのあるある動きかもしれないと危険予測をし、事前に適切な声掛けを行う。	
975	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40				13	13	14			5	3		17. 5歳	2. 女児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左足首靭帯損傷	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	12	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、実施、職員配置基準も満たしているため、特になし。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	48	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため特になし。	1. 集団活動中・見守り	特になし	園庭遊びのマニュアル通りに職員を配置し、見守っていたため、特になし。	1. いつもどおりの様子であった	転倒した際に、該児童に「大丈夫？」と声を掛けたが、該児童は特に痛がる様子もなく遊びを続けていた。	3. 対象児離れたところで対象見ていた	子どもと遊ぶ担当、全体を見渡す担当に別れ、園庭遊びの見守り行った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んでいた児童が転倒したところを見ていた。	新年度ということもあり、子どもからの訴えに頼るだけでは怪我の発見は難しかったと感じている。5歳児年長であることから、痛みを我慢することを踏まえ、「痛かったら我慢しないで教えてね」と声をかけるなどの対応が必要だった。	今回のケガから職員間で保育を見直し、改善策を職員に周知した。	
976	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	53									4	4		17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	特になし	なし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	293	1. 定期的に実施	12	八角ジムの中心部には芝が敷かれていたが、周囲にはなかった	八角ジム周囲に芝用マットを敷く	3. 個人活動中・見守り	特になし	なし	1. いつもどおりの様子であった	とジムで降ちて、友だち八に登っりようとして手が滑り、転落した。	3. 対象児離れたところで対象見ていた	対象児がジムで遊んでいる事は認識していた他児対応をしていた。八角で転落した瞬間は見ていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具（八角ジム含む）全体を見守っていた。対象児が転落した瞬間をみていたに駆けすぐつけた。	特になし	なし	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
977	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	20								27	25	18. 6歳	2. 女児	特に無し。	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足甲の剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	特になし	職員の危機管理意識を高める	2. 不定期に実施	3	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	3	特になし	廊下の正しい歩き方について、掲示等で園児の注意を促す	7. その他	特になし	トイレ前が園児とした水溜等が、無いか注意する	1. いつもおりの様子であった	いつも通り、順番を守ってトイレにこうとしていた	4. 対象動児の見ていかった	担任の保育士の一人は、トイレの中で指導していた。もう一人の保育士は、トイレから帰った園児の保育のため、保育室にいた。また廊下を歩いていた他のクラスの保育士が気付いて、担任に知らせた。	2. 担当児の者・対象動きを見なかった	担任の保育士の一人は、トイレの中で指導していた。もう一人の保育士は、トイレから帰った園児の保育のため、保育室にいた。また廊下を歩いていた他のクラスの保育士が気付いて、担任に知らせた。	特になし	トイレだけでなく、廊下の園児にも十分注意する	
978	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	13								1	1	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第五弛趾骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	10	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	随時	2. 不定期に実施	随時	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は随時行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	こどもの年齢と特性を考えたところ、ねらいに即した環境ではなかった。	・こどもの年齢や特性を踏まえた遊びの工夫をする。 ・遊びの内容とねらいを考慮して場所を選ぶ。 ・遊びの内容によって上靴を着用する。	1. いつもどおりの様子であった	13人で「引っ越しゲーム」をしている最中で、場所を移動していた。	4. 対象児の動きを見ていかった	ゲームを見守っており、全体を見ていたが衝突の瞬間ではなかった。		保育士1名の配置であった。	動きの激しいゲームであるため、より広い場所を選択するほうが良かった。	こどもの年齢や特性を考慮し、あそびの内容に合わせた場所を選ぶ。(近隣のグラウンド等)	
979	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30				10	10	10			3	3	15. 3歳	2. 女児	右鎖骨周辺に腫れ。40℃の発熱が続く。CT検査MRI検査したが、骨は正常。首から右鎖骨周辺関節に膿がたまっているとのこと。●/●から2週間入院となる。血液検査結果は異常なし。	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右胸鎖関節関節炎	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	事故発生後の事故内容の把握確認に曖昧な部分があるため、生事故から予測される対応につながらない可能性がある。	事故発生後の対応について統一した対応ができるように職員周知する。また 事故内容について、現場検証や防犯カメラの記録映像の確認を行い、事実把握に努める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	●●●●バランスボール「(マックス65㎝サイズ)10年前に購入。使用時は直径50㎝程であった。適応犬推奨のボールを使用していなかったためバランスをとることができなかった。	バランスボールの撤去。他に怪我につながるような玩具がなどに、適応した玩具を使用する。	1. 集団活動中・見守り	自由遊び多種多様なため、見守り範囲が広くなり、把握が不十分ってしまった。	自由時間の園庭見守り職員配置人数を3人増やす。担当者の監視範囲を園児の見守りを行う。監視が不だと判断した、当視能判断時には、可能な遊びに限定する。	1. いつもおりの様子であった	特に変わりなし	4. 対象児の見ていかった	3歳児クラスの担任は2名いたが、発生時2人とも室内作業をしていた。		園庭の監視担当者(応援の職員)は至近距離ではなかったが、園児の見守っていた。	監視担当者が園児と一緒に遊んだりなどして見守りより出来ない時間作まった。	園児の怪我を発見した場合は、必ずもれ担任のもとへ連れて行き、正確に状況説明をする。状況が分かられば担任を園児を発見場へ連れて行き話を聞くようにする。	
980	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	58				39	19				6	6	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	2. 基準配置	本児が転倒場面は、担当保育教諭が離れていたため、状況は本児確認は本児で遊んでいたもの情報とで行った。	園庭遊びの様子の状況把握を、役割や声分担や声を掛け合うなど連携を取りながら安全に遊べるように見守りを十分にする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	適宜	ブランコ待ちの列があり、常設のタイヤが狭くなっていた。	なっていると安全ころを通行できるように、子ども全ての動きに注意できるように、安全ども を払い、状況に応じて、全に通行できるよう促す。	1. 集団活動中・見守り	好きな遊び組ようを十分に取り組めるに、個々の遊びの理解を丁寧にしていく。	遊ある狭ところが、中いと勢いと抜と危ぶだと認識できるよう、その都度伝えていく。	1. いつもおりの様子であった	ブランコタの柵とイヤの間抜をけていた。	3. 対象児の見ていた	周りの子ども達の声掛けで本児の転倒に気付き、声をかけ状況把握をした。本児が腕の痛みを訴えたため、職員密へ同行し患部を冷やす処置を行った。しばらく冷やし、様子を見ていたが、午後になり、再度痛みを訴えたため、確認したところ腫れがあったため動かさない方がよいと判断し、固定した。その後、迎えに来られた保護者へ状況を伝え受診していただくことになった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた		ブランコ待ちの列があり、タイヤとブランコ柵の狭い通路でのトラブルが起こりやすいアクシデント認識を持つこと必要であった。	遊具と遊具の間の道幅が狭走、転倒、ぶつかったり、人にぶつかったりするなど危険が多い事をもう一度子ども たちへ伝え、伝えていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面				人的面											
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】											理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
981	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								2	2	17.5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	5.他児危から加害をえたもの	1.あり	1.定期実施	1	1.基準以上配置	子どもが階段前に並んでいた。また、そこ保育士がつくことが出来ていなかった	子どもが階段前で待つこと移動よるできる職員配置をとる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	その他考られる要因・特記事項なし	上記の為、改善策はなし	7.その他	建物の構造上、保育室に戻るためには階段を使用しなければならない。子ども達だけで階段の昇降するのは危険な為、必ず保育士が付き添っている	階段の前は椅子付きのテーブル等に腰掛ける。少人数づつ集まる等広いスペースを作る	1.いつもどおりの様子であった	朝の集会後の移動時	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	自分の上靴を取り箱前にいた	2.担当者・対象児を見ていなかった	フリー保育士はテラス前で外ぐず子を見守っていた	互いに先頭をめぐって自分先にと主張していた	並んで待つことでトラブルが起きているので、並んで待つのではなく、各自準備が出ら担当保育士の所へ行って次の指示を聞くようにする	
982	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20			7	6	7			2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左頬部裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全の不備によるの	1.あり	1.定期実施	12	1.基準以上配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	玩具の点検は行っていたが、使用中に不備が発生した。	週１回のおもちゃの洗浄、消毒時の点検に加え、使用前には点事前に点検をする等点検の回数を増やす。	1.集団活動中・見守りあり	使用前はな異かったが、カチューシャを外す際に金属部分がむきになった。	おもちゃを頻回に行ない、安全確認をしっかりと行う。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	母が保育参加に来ており、いつも以上にちはまった。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	食事の配膳を行いながら全体を見ていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	子どもたちに片づけを促しながら、子ど他もの対応をした。	当該児童は保護者と一緒に遊んでいたため、保護者に任せていた。	子どもたちが保護者と一緒に遊んでいるとき、保育士がこまを配りながら遊びの様子を確認する。	
983	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	23								2	2	15.3歳	2.女児	右目弱視。当日は雨天だった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	基節骨亀裂骨骨折から骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施	1	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	300	特になし	施設、遊具、玩具点検は安全定期的に行っているため特になし。	1.集団活動中・見守りあり	広いスペースでなく、部屋の入口付近にタオルを掛けを置いていた。	設置場所を改善する。（室内の広いスペスはテラスに設置する）	1.いつもどおりの様子であった	当該児童トイレ帰ったときからきたこと。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	他児に１対１で関わりら、当該児童をみていた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	描画活動をしていた。	視力が弱いこと配慮かわり見守りができていなかった。	他児とかかわりながらも、当該児童の動きを意識・把握し、危険予測を行いながら、行動に応じた言葉かけや対応を行う。	
984	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	2								1	1	12.11か月	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下前歯２本脱臼、歯槽骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全の不備によるの	1.あり	1.定期実施	1	2.基準配置	・０歳児の発達予想される動きを分析していなかった。 ・玩具の使い方を正しい方できていなかった。	子どもの発達に合わせた正しい玩具の使用方法、環境構成を定期的に確認し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	木製玩具につかまり立ちすることの危険性に気づけなかった。	木製玩具は本来の遊び方法で遊ぶように、子どもがつかまり立ちする時のみ支えにはしない。	1.集団活動中・見守りあり	・本児はつかまり立ちを頻回に行う発達段階であったが、保育士は本児が一人で木製玩具を支えにつかまり立ちすることをなかった。 ・事故要因として、本児が木製玩具のスロープ部分を噛んだまま、姿勢のバランスを崩したことも考えられる。	・木製玩具につかまり立ちをしたまま、その玩具のスロープ部分でいても原因として考えられるため、玩具は用正しく使用し、つかまり立ちを支えるする際のえにしない。 ・怪我をした木製玩具と同じ高さの棚や立ったままとしているものを噛む可能性のあるものは撤去する。	1.いつもどおりの様子であった	おやつを食べた後が良く、つかまりして機嫌かちをいた。	4.対象児の動きをていかった	１名の児おやつをおやつ食べながら、遊びせながらのコーナーの本児の動きを確認していた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	※保育士1名で保育していたため、他の職員はいなかった。	子どもの動きと玩具の正し使い方を認識できていなかった。	子どもと１対１で過ごす時（食事、おむつ交換）は、一人もう一人子どもを安全なサークル内に入れて、見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制													発生時状	事故の転帰																												
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項			死亡	負傷			事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
985	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	55			30	20	5			2	1	17. 5歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	特になし	施設、遊具の安全点検は行っているため、特になし。	1. 集団活動中・見守り	コーナー遊びには参加せず、アスレチック型遊具で遊んでいた。	児童が目的をもって遊べるよう、遊びのコーナーを複数設置する。	1. いつもどおりの様子であった	当該児童および周囲の園児の話から聞き取ったことろ、危険な遊びをした様子はなく、ロープをスロープ持ってロープ降りた際にバランス崩して転び、く手を付けなかったと考えられる。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	園庭でコーナー遊び開しており、当該児童の瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園して児童入れの受け入れのため門付近におり、当該児童からは離れていた。	・複数の職員がプールの準備を行っていた。 ・プールの準備をする職員、こどもたちを見守る職員の人数を決めていなかった。 ・定められた登園時刻を過ぎて登園する児童の受け入れのため、職員が児童から離れることがあった。	・園庭にいるこどもの人数や遊びに合わせて教職員の人数を増やし、見守りながら遊びを展開できるようにする。 ・プールの準備をする職員は1名とする。 ・登園時刻(9:00)を遅れないよう保護者に再度周知する。 ・プール設置後の教員配置(グラウンド側と園庭側への分散)について、グランドには1名、園庭には2名以上と、具体的に決めて見守る。	
986	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	19			6	6	7			2	2	18. 6歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	眼球打撲、網膜振盪症	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置	特になし。	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため特になし。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	特になし	施設、遊具、遊具の安全点検も定期的に行っているため特になし。	7. その他	自由遊びのコーナーの間隔が狭い。	コーナーの間隔を広くするため、机の位置を変更した。机の角、側面に保護テープを付けた。	1. いつもどおりの様子であった	積み木で遊んでいたが、次に遊びに移行しようとしていた。	2. 対象至近で対象見た児童ていた	傍で積み木のコーナーを見守っていたが、当該児童がバランスを崩した時には手が届かずに支えられなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園する児童の保護者対応をしていた。	児童の行動を予想できていなかった。	児童の行動を予測し、事前の声かけや環境の改善を行う。	
987	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	12								1	1	17. 5歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	施設、遊具の安全点検は定期的に行っているため特になし	3. 個人活動中・守り	マットを使用し環境に配慮しているため特になし	受傷の際もマットの使用をしたが、今後もマットはもちろん、余裕を持ったスペース、安全確保に努める。	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりいつも体操をした。	2. 対象至近で対象見ていた児童	立った状態からリッジを活動する見守っていた。		1人担任のため他員はいなかった。	いつもどおりのひとつではあるが、怪我を可能性があることを十分に理解し、より注意して取り組む必要があった。	受傷時もマットの傍で見守っていたが、すぐに補助ができる手を添え等おく等での配慮も必要であった。	
988	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	62								7	5	17. 5歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	数	1. 基準以上配置	特になし	マニュアル有り、研修、実施、職員配置基準も満たしているため、特になし。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	300	1. 定期的に実施	52	特になし	施設「●●」での事故であるため、施設所管。	1. 集団活動中・見守り	特になし	今後も園育で守り保の見守りを強化していく。	1. いつもどおりの様子であった	ブロックを積み上げて遊んでいた際、バラを崩転倒した。	3. 対象から児離れたところで対象見ていた	各遊具につき、遊びの援助や見守りを行っていたが、瞬間は他児が事故の瞬間に注意いき、該児童の転倒には気が付かなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	移動しながら見守りをおこっていたが、事故の瞬間は見ていなかった。	役割分担して見ていた、他の対応を離児で目を離す瞬間が発生した。	引率人数の増加、および常に死角が無いように見守る等、職員配置を工夫する。	
989	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	31								10	10	17. 5歳	2. 女児	なし	8. その他	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	拇指末節骨骨折、拇指爪下血腫	8. その他	1. あり	3. 未実施	2. 基準配置	合同保育中、開園時間帯のプールの職員の見守りが不足していた。	研修の実施、全職員で事故防止マニュアルを見直し、確認をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	指はさみ防止クッションが挟まってなかった。	指はさみ防止クッションの等見直しをする。	1. 集団活動中・見守り	クラスの達も一斉に時間子ども一人一人が動でない、色々な場所で一人が違うきをおり、動きを員をずっとることができなかった。	担当職員を中心に職員を他と話し、特に分担する、危険場所（ドアの開閉）は、必ずを離さないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	おやつを終わり、廊下にある水道で、をコップ片付け室内に入ろうとした時に、先に食べ終って遊び食べている様に道で、食べ友達の様に子なり、サッシの入ってドアを思いで閉じ切りしまった。	4. 対象見ていた児童動きをていかっ	まだ、お食べをいた室子かやつ食べ子がいの、廊下の様が食べ子がいた、ドアを閉ものの気にけなら、食べていたの対応をしていたため、ドアを閉める瞬間を見られなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の様子も気にかけてはいたが、それぞれ担当子ども一人一人の様子を中心に見ていたため、対象児がドアを閉める瞬間は見られなかった。	サッシのドアの閉は、危険ことを認識し、閉めた時にさ指はさみ防止クッションを用意し、挟むようにしたが、外れていたのに気付かなかった。	サッシのドアには、閉めた時に隙間ができるよう、指はさみ防止クッションを新しく付け替える。また、全てのドアにきちんと挟まれているか点検し、劣化しているものは付け替え、はずれていないかを、常に確認するようにする。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | |

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者			事故時状況						事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】										理由	具体的にしていたか		具体的にしていたか			
996	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	3	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	30								3	3	18. 6歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	マニュアルにそって安全ニュアルにて、応援・報告をしなかった。	職員会議で安全ニュアルについて話し合う機会を増やし、対応について繰り返し確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園外の遊具を使用するにあたり、安全な使い方を知らせなかった。	遊具の安全な使い方を知ると共に、保育士の安全確認を行う。	1. 集団活動中・見守り	遊びの数が多い為、保育安全者が確認すべき場所が分散してしまう。	遊びの数を限定し、保育者の目が状況を作る。	1. いつもお様子であった	本児の手の届かない遊具で遊ぶ。	2. 対象至対児の近で対象児見た	本児が一人うんていをと言った手を為、諦えたり近くせずで見守っていた為、落下する時に助けることが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	校庭でドッチボールなど、他の遊びをみていた。	遊びの数が多かった為、目の届かないところがあった。	使用する遊具を限定する。遊びの約束を子ども行う。	
997	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	13								1	1	18. 6歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置		見守りの人数を状況に応じて考えなどを見直していく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		点検時以外でも安全面にはの都度認していく。	1. 集団活動中・見守り		マットの安全状態等使用できるか、見守りができるか体制を考えていく	1. いつもお様子であった	逆上がりをしていて、鉄棒から離れてしまい、マットの上で左肘を打った。	3. 対象児からたどで対象児見ていた	園全体でないかを見守ったので、普通に練習した対象児はいなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	外遊びから入って午睡準備をしている担任の子どもたちがいて	一人なをできることしている時は、5歳であっても力の方がまだでいることが必要があった。	鉄棒などを運動をするにあたっては、保育士も指導方法の仕方などを学ぶ必要がある。練習するときは、必ず見守り大人が必要。もちろん子どもたちと一緒に練習するように伝える。	
998	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	63				22	22	19		3	2	18. 6歳	1. 男児	同じクラスの子ども同士の衝突だったが、当人の身長が低く相手との身長差はあった	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	事故予防に関する職員意識が甘い	職員全体で研修に積極的に参加するとともに、園内でも事故予防に関するマニュアルを遵守するよう職員へ指導していく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	倉庫の横や裏は死角になりやすい	倉庫の奥に職員を配置し、危険のない見守る	3. 個人活動中・見守り	危険な遊びをしていないか、死角になる場所での子どもの動きを予測しながら見守りができていたか	遊びの場で友だち同士声を連携をとりあいながら、ことで見逃さないようにする	1. いつもお様子であった	園庭で友達とかくれんぼをして元気で遊んでいた	3. 対象からたどで対象児見ていた	倉庫の奥に立ち、全体を見守った	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	遊具につき、他の子ども達と一緒に遊んでいた	かくれんぼをしていた為、子どもは死角となり場所にいた	かくれんぼは子どもが死角になっていると理解した上で、危険のない見守る	
999	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	29				17	10	2		3	3	16. 4歳	2. 女児	健康状態や発育などに特記事項はなし。	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	園児数に適応な人数の配置は出来ていた。	事故の発生状況等について情報共有をし、事故防止についての意識を高めていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊具からの転倒などではなく、平面での衝突・転倒が原因である。	今回は上記のような事案だが、引き続き、遊具や施設の点検を定期的に実施し、安全な施設設備環境を整え、維持していく。	3. 個人活動中・見守り	遊具で遊ぶ子、鬼ごっこをするなどを子、様々な遊びが展開された。	遊びに空間を分けるように、コーンでなどする。区切	1. いつもお様子であった	園庭での遊び自由で、本児は遊具(ジャングラング)遊んでいる具立た。	3. 対象からたどで対象児見ていた	遊具(ジャングラング)登っている側ついて本児の他にいる児の防ぐことが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	別の場所で遊ぶ、他児様子を見守っていた、見ていなかった。	連携を取り、分かれて等を行ったが、動静把握が十分だった。	子どものよく見守り、衝突ごっこを防ぐことができるように、声掛けなどを行う。	
1000	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	6				2	3	1		2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2. 自転車倒れ・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	担当保育教諭が2名本児の見ていて近くで見守る状況があり、特に本児以外の幼児がふざけて本児のふざけている様子はなかった。	職員間でのりづくりに体づくりの課題を周知し、体づくり切さを共有する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	身体の硬さや運動不足、瞬発力の低下など	当時、園庭に特に危険なもの障害物などはなく、のびのびと遊んでいた。	3. 個人活動中・見守り	なし	見守り体制は整っていた。	1. いつもお様子であった	鬼ごっこで鬼から逃げようとしたに、本児のすぐ前のを走っていたにぶつからないように走るスピードを緩めるようにバランスを崩し、右足を捻った。	2. 対象至児の近で対象児見た	本児が良く見える位置で見ていた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	同じ鬼ごっこをしている他の幼児の様子を見ていた。	なし	園庭に6名の園児に対して2名の保育教諭が見守っていたため、体制は十分に整っていた。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者						事故状況					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								掲載更新年月日
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】										理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1001	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	23								27	25	16. 4歳	2. 女児	特になし。	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第3跡基節骨骨折 約2か月間の局所安静加療	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	特になし。	職員の危機管理意識を高める。	2. 不定期に実施	3	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	3	特になし。	廊下・園庭に監視カメラを設置する	7. その他	特になし。	午睡中・トイレに行く幼児の際は上靴を履くように指導する。	1. いつもどおりの様子であった	担任の先生を見つけて、喜んで駆け寄った	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象接いた)	駆け寄った園児を受け止め際、誤って足で踏んまった(その時は、踏んいうなとは自覚はなかったし、園児も痛いと言わなかった。トイレ後保育室に戻って靴を履くと訴えた。)	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	まだ、ほとんどの園児は午睡中であり、廊下には他の保育士はいなかった。	特になし。	午睡中・トイレに行く幼児は上靴を履くように指導する。	
1002	令和6年6月10日	1. 認可	7. 小規模保育事業	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	2		1	1					2	2	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	年度末でども長ちも成長ちし保育もしやすい為、安全への意識が薄くなっていた	保育中のケガ防止のための注意喚起を定期的に行い、年度末の保育でも十分に配慮できるようにする	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	常時		保育室の何もない床での転倒の為、改善策はありません	1. 集団活動中・見守り	保育中、のズボンの長くていることに気づいなかった	常に子どもの姿をよくて、ズボンの長いにいち早く気づき対応するべき	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	ピョンピョン足ねび跳ら保育士後をつ移動いたして	2. 対象至対象児の近象見た	園児を隣の保育室に移動せました。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	保育室に掃除機をあてていた	園児の裾がかかっていたことに気づけなかった	子どもの姿をよく、危険を伴う原因は取り除けるように細やかに配慮する	
1003	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	92		20	20	25	27			23	22	14. 2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	●/●初診時：臀部・両足打撲 ●/●再診：右踝のやや上の骨にひび、全治のびに週間の二 ●/●受診：全治1ヶ月に延長 ●/●受診：完治したとのこと	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1＋α	1. 基準以上配置	梯子付近には複数の保育教諭が、当該園には保育園が園児がいた。	水分補給や片付けの際保育教諭は、園児が各遊具から完全に待機場所へ移動することを確認してから遊具から離れる。待機場所で園児に水を行う保育教諭はお茶タイムの間、園児が待機場所を離れないよう指導する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	なし	1. 集団活動中・見守り	水分補給のため園児の園動を促す当の見守りが該遊具の手薄になった。	水分補給の際保育教諭は、園児が各遊具から完全に待機場所へ移動することを確認してから遊具から離れることに加え、遊具に職員一人付近に園児が遊戻っない全体配置し、園児が遊具にてこう全体をる。	3. いつも発で活動的であった(理由を記載)	水分補給アナウンスと音楽れ、園児が待機場所へ向かっていたが、本児は雲梯付近で遊んでいた。	4. 対象動見ていなかった	雲梯の付近にいた園児の園児の対応や清掃をしており、該園見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	水分補給時間帯のため、ほとんどの職員は待機場所で園児にお茶を飲ませていた。雲梯付近にいた他の職員は近くにいた他の園児を待機場所へ移動させるため声掛けをしていたが、当該園児への声掛けはなかった。	遊具付近に残っている園児を確実に待機場所まで連れて行かった。	各遊具の見守り担当者はシフトによる固定する。担当園児が待機場所に移動したことを確認してから遊具を離れる。お茶休憩中は園庭に職員を配置し、園児が遊具に戻ってこう見守る。	
1004	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20								2	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	シッポに取られ気が れ 他児と接触 転倒する	保育士の見守り時の配置の見直し 侵入防止ガードの設置	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		ガードの設置 遊具の位置の変更	1. 集団活動中・見守り		遊具の位置変更 ガードの設置。	3. いつも発で活動的であった(理由を記載)	だんよ活発にふり動いていた。	3. 対象児離れとで対象見ていた	象からたところ	本児が接触した遊具周りでは近づいては危険を子どもたちに伝える事。事故予防の場所その場所付近で見守る。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	職員会議で危険個所の確認職員配置等再発防止へ向け確認する	特記事項無し	子どもたちの遊び方 伝せ方 見え方 見守り時の配置場所の確認	
1005	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	35	1	4	8	8	7	7		16	16	15. 3歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置		職員の目が届くように職員間の連携を行うよう、周知確認を行った。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	コンビカーを使用する年齢を守れていなかった。	対象年齢の子どもが使用できるように職員に周知確認を行った。	7. その他		三輪車を含め、年齢に合ったペースで遊びが出来るように、場所の配置直した。また、スピードが出すぎないようコースへと変更した。	1. いつもどおりの様子であった	三輪車よりコンのスピードをとる好出すが出来るんでコンを遊ぶことも多かった。	4. 対象動見ていなかった	担任は、周登クラス辺で、所しても子どもの保護者の対応を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	三輪車やジビカーで遊ぶもたちん子ども全体を見守っていた。対象児が転倒した瞬間は見ていなかった。		年齢や発達に合った遊具や玩具で遊べるように、指導や配慮を適正に行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因						実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1006	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	8								2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置		職員会議で今回の事故を振り返り、今後の再発防止に話をした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		跳んで着地するのではなく、止まってから降りることを徹底するように、着地点にマット敷などを全てできるようにする。	1.集団活動中・見まもり		活動や子どもの状態に合わせて、準備するコーナーや遊びを考慮し、安全に保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	全体の遊びを見ながら本児にも目を向けていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の遊びを見ていたが、至近距離ではなかった。		トランポリンの使用の際には、側に付く。	
1007	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				7	9			3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折、左足間接捻挫	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	・事故が起こった際の職員の見守りの位置は適切であったか？理由）事故が起こった瞬間は、誰も目撃しておらず、斜面で遊ぶことに対する注意届がいきていなかった。	・職員の見守りの位置について、特に自由保育の時間帯のこども達の遊び方に留意しながら、危険度が高い場所の視認性を確保できる位置を職員間で共有し、日々の保育で実践する。	1.定期的に実施	1回/週	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	1回/月	・現状の斜面は、こどもたちとって遊び好の遊びであり、ストレスにつながっており、発散なお喜ばれているが、転倒や接触やよるのもあり、安全面に配慮する工夫が必要であると考える。	・園庭設計専門業者に、斜面の形状を活かしながら、こどもの心理に基づいて安全に事故を防げる園庭の在り方を再検討する必要がある。	3.個人活動中・守り	・4月から園を使い始めたばで慣れていない3歳児が、ルール守って遊ぶとなのか！？	・斜面を滑るときはかならずお尻をつけてすべることを徹底させる。 ・斜面を滑るエリアをカラーテープで色分けしているが、このルール厳守を徹底させる。 ・日々の保育を通じて、子供たちの様子を感じながら、ルールを守って正しく遊べないと判断した場合は、一時的に斜面利用を禁止する必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	斜面で接触した園児同士がぶつかってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	斜面に向けた背をかたでの監視になった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の方を向いていたが、斜面から位置遠いから位置の監視になった。他園児とのかかわりに注意を取られて、接触時の状況を把握できなかった。		・職員の適切な見守りの位置について、特に自由保育になる時間帯のこども達の遊び方に留意しながら、危険度が高い場所に対して視認性を確保できる位置を職員間で共有し、実践する。 ・突発的に、適切な園児の見守り位置での監視が難しいと判断される場合は、斜面利用を一時的に禁止にする。	
1008	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18	0		6	7	5	0		1	1	16.4歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼（上顎前歯2本）、口唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	事故の発生は、園児が保育室内で走っているのを保育者がとめることができたことに起因するとするとえられる。	保育室内では走らないことを周知徹底する。危機管能力の向上に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		転倒による事故を想定し、原因になる無いか常時チェックする。	3.個人活動中・見守り		全職員で延長保育を担おり、職員が異年齢の園児の対応に慣れていなかったら、園児の特性を理解している職員が担当する。	3.いつもと活発的であった(理由を記載)	延長保育の時間に起きた事故であり、通常の保育・教育の時間と比べ活発に活動していたと考えられる。	4.対象児の見ていなかった	延長保育の時間め、担当職員が園児の特性を知っていなかったといえる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、0・1・2歳児を担当、園バスに乗、翌日以降のクラスの準備や事業を行った、保護者のお迎えに対応していたため、見ていなかった。	事故発生時の担当職員は0歳児担当の職員で、異年齢の園児の対応に慣れていなかったといえる。	延長保育の時間において、園児の特性を理解している職員が担当する。	
1009	令和6年6月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	19	0	6	6	4	2	1	0	4	4	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	安全管理マニュアルに遊具の適正年齢の確認さ年齢の確認が記載されていない。	園内での確認ルール化	1.定期的に実施	12	3.未実施		1.定期的に実施	12	対象年齢児の確認ができていなかった	園児がそれを使いたの遊具を使いがちも、対象年齢から外れている場合は使用しないようにする。	1.集団活動中・見まりあ	園児一人に付き一人に付こうきとは困難	年齢幅が広い異年齢活動を行う際は、遊具のない公園で活動する、もしくは室内保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく遊び始めた	2.対象至児の近対象児を見ていた	対象児が遊具を昇っていた下でもう一人の園児が、対象児が落下する瞬間に手を伸ばし受け止めた、勢いがよりもちをついた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	活動全体を見守っていた。	普段と違い、春休み期間のため一時利用が多く、注意がばらけてしまっていた。	保育士の加配ができないのであれば、上記のような状況であれば違う場所での活動を検討すべきだった。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故年齢	事故状況								事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面			その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面						その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡					マニュアルの有無	事故予防研修						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育・育成支援の状況				対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き					
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因		負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか				
1010	令和6年6月10日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	14								8	8	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨幹部骨折 左橈骨骨幹部骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	職員配置適人数は適切であった為、遊具を見守る職員の配置の見直しや安全対策に研修会の開催（内容や回数）の見直しを行う必要があります。	事故予防の為に大型絵具の使用方法や配こうする危険を教ず上げて、職員ぞのように取り組んでいくのを図り合う機会を作ります。また、●●事故の応対報告、体温の推定に関わる安全管理及びの評価機関に依頼し、想定される遊び中事故、その対応策をアドバイスいただき、その内容を職員へ実施していきます。事故発生後に、改めて●●●第一回目開催の正式申込をさせていただき、保育園の安全管理研修（外部講師）についても計画させていただいております。安全管理研修は、全保育士職員が対象で、保育中の安全管理や事故予防、事故後の対応などを専門的に講義していただきます。日程調整中になりますが、2月頃に開催予定になります。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	設備（遊具）には問題はありませんでした。壊れた箇所などもありませんでした。	今後、巡回視察や外部機関に評価をして頂く際にも、ドバイスや改善事項の意見をいただき改善していきます。日頃より遊具などについてもアルコール消毒など定期的に行っておりますので、その際にも不具合がないか確認をしっかり参ります。	1. 集団活動中・見あり	20×20×60立方体のブロックなどは敷いていませんでした。中の士の行き付いた状況りました。	バランスを取りブロックの上を渡る事は、体操教室でも頻繁にしていますが、必ず保育士が目を離すことなく見守り、至近距離に配置し、子どもを支えられるようにすることや、体操教室と危険が想定される箇所には安全マットを準備する など、想定される危険に対して準備を行っておく必要があります。	1. いつもお様子であった	●○●○（●○）の順の連続ノートに（●順ごとに変ページ一で敷く順ばいご色順が抜け、順同じいっと抜トラボ ボ ンをしてを手をもれんぶ ましたと無色ゆみ ます。●●は日はアーピ ジ グ のとと ジ の 詳 細 機 関 に 依 頼 し て 調 べ て 頂 く 中 事 故 、 その対応策をアドバイスいただき、その内容を職員へ実施していきます。事故発生後に、改めて●●●第一回目開催の正式申込をさせていただき、保育園の安全管理研修（外部講師）についても計画させていただいております。安全管理研修は、全保育士職員が対象で、保育中の安全管理や事故予防、事故後の対応などを専門的に講義していただきます。日程調整中になりますが、2月頃に開催予定になります。	4. 対象児の動きをていた	立方体のブロックの橋ではいが、視線が反対側の遊具に向いていたので倒れはいませでした。	2. 担当者・対象児のきなかった	サーキットの遊びのそれぞれ遊具に子見付き、を見守りました。跳び箱の山に１名とプールバーの渡り名を配置しました。	運動遊びをする時は、いつもは上に子どもが沿 ゆ に動きます。また、子どもの月齢や発達に よって動きも 様々なので同じ 遊びでも 接助が いる子ど、そ うでないときがいることを把握する必要があります。接助が必要なときは特に配慮 し、転倒しそうになっても手を差し伸べられるように構えておく必要があります。また、遊びの中で起こりうる事故の想定も 事前に職員間で考え、その対策を行っておく 必要があったと考えます。	子どもの動きを予想して起こりうる危険を予測し、その場所に配置されたら責任を持って子どもの援助にあたる必要があります。また、外部機関からのアドバイスや研修会、同様の事例共有などを今後行っていきます。安全管理に対して全保育士職員の意識を改めて高めていく教育が必要だと考えます。	
1011	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	10								1	1	16. 4歳	2. 女児	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	保育所内では、事故予防に関する研修をアクシデントが起きた時など不定期にしかいなかったので、職員会議等を利用し、定期的に事故防止の研修を行っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	マットは敷いていたが、雲の高め梯子（140㎝の高さの所に、5㎝のマットを敷いていた）だった。	雲梯は左へ右へ高くなっているので、個人や年齢に合わせて使用する場所（高さ）を考慮する（本児の身長は99.4㎝）。マットの敷き方も見直す。	3. 個人活動中・見あり	本児からはいと見補助ないと見守ってたが、児の経験や技術を考慮して補助すべきだった。	子どもの身長、運動発達に補助応じたやり、道具の使用方法について、改めて園やクラスで話し合う。	3. いつもより活発で活動的であった（理由を記載）	雲梯を２回補助ずつ行う。３回目で保育士の補助を一人で梯子に上まで進ませる。	2. 対象児の近で見た	児１歳と共４歳名で、園庭４０に出て雲助梯子に梯の援助をしから全体を全守り見る。２回目は本児の体を支えの補助したが、３回目に「大丈夫」と言われたため傍で見守り、対象児が転落する際に受けられなかった。	2. 担当者・対象児のきなかった	4、5歳クラスの児の部屋遊びを見守る。もう１名は給食数の変更をする調理室に行った。	高さがあり、怪我をする可能性があ雲梯を保育士一人で見ていた。	個々の運動発達に応じて、援助の必要な子どもには、必ず保育士が側について補助をする。	
1012	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	94	5	8	16	18	23	24		29	29	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	今回保護者情報提供があるで、当該児童が骨折れやすいという情報を把握していなかった。	保護者からの情報を全職員に周知する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	床が固く、ひざ打ったまずに思わぬ衝撃となった。	足元にマットをどのようなクッション敷くなど対応をする。	1. 集団活動中・見あり	るあるよ思わぬ事故になる。段がとり、	なるべく、避段、マッゴザ座にトや上ようにのるする。	1. いつもお様子であった	クラスを発表ため、高さの見るひな壇にて立ちつ座って、立ちがった力上時に脱ずしたにひざまづいた。	2. 対象児の近で見た	すぐそばすぐ見ておく起り、すに助け様にこ子を確認。	1. 担当者・対象児動見た（至近距離にいた）	クラスのたちがまってお職員そこ座りは全にいたばそれ、転ぶというよが、というは「膝をついた」という認識であった。	今回保護者情報提供があるで、当該児童が骨折れやすいという情報を把握していなかった。	今後は常児童重点的に見ながら保育する。	
1013	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	191	4	15	26	37	58	51		31	31	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	担任は指導に気を取られ、安全に対する意識が低下した。外部の研修を者て受けて者いないのは、認識つあっ応がいないので、にばがきた。マニュアルがあったにもかかわらず、それを生かせなかった。	全体を把握して指示できる職員をできるだけ配置する。危険について気がついたことをすぐに伝えるとともに全職員に共有する。安全についての意識を高める。職員会議にて報告することで、職員全員が常に安全についての意識をもてるようにする。また、事故予防についての町内研修を、計画中。新たにチェックリストを作成し、誰でも適切な対応ができるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施		レンガ歩道の縁があ歩道危険である。	プランターなどを置いてもたらい勢い通らないとプランターなどが子身に自身ができるように意識を促していく。	1. 集団活動中・見あり	縄跳びの指導に注意が向き、にの危険して危機感なにが足かった。	起こりう事故やつ予測回避よ方容るできる遊び方容る。園庭の混雑をた活動の避けめに時間を改善する。	1. いつもお様子であった	短縄跳び練習後、担任声をから大縄かけれ、跳びをていた。	2. 対象児の近で見た	縄跳びに対する意欲や自信がもてるよう、跳ばずに走り抜ける遊びを提案した。大縄跳びの片方を担任が持ち、片方を朝礼台の足にくくりつけていた。縄を走り抜けやすいようにそどもの動きを見ながら縄を回すことをしばらくしていたが、足が引っかかったときに咄嗟に持っていた縄を放すことができなかった。	1. 担当者・対象児動見た（至近距離にいた）	大で遊ん縄跳びで以外いる子どもたちに対し、跳び縄の指導をした。	他のクラスの遊びとのの関連で、ガ歩道近で場所でびでいて縄跳び行った上に、レンガ歩道にて向走り抜けようにしまったため、事故につながった。	活動内容や場所を考慮し、子どもの動きを予想し、連携しながら広視野でとも安全に、遊ぶことができるよう、場所や距離、向き考えて活動する必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1014	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	17								12	11	16. 4歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	3～5	1. 基準以上配置	●月以降のヒヤリが少なくなっていたため、●月●日会体会で意識をよく高めるように話していたが、危機管理がかったと感じられる。	もっと職員一人一人の危険に対する意識を高めなくてはならない。チェックシートを定期的に行い、意識を高めていきたい。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	2. 不定期に実施	5	設備面では設備の不備はなかった	3. 個人活動中・見守り	交通安全教室があった。準備のために園庭にいる職員が移動するだった。	久しぶりであったこと、遊具使いを子どもたちと確認すればよかった。	1. いつもどおりの様子であった	久しぶりに園庭で遊べることが嬉しく、船の先や遊具からジンを遊んでいた。	3. 対象児の先生が離れたところで対象児をていた	対象児とともに離れたところで、遊具からプレイしていた場面は見ていたが、子どもたちが呼ばれ、そちらを見てる間に事故が起こった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	担当クラスの子どもに呼ばれに砂場に行ったり、交通安全教室に準備に遊戯室に移動しようとしていた。	ジャンプをしていることを点検見た時点で危険だとし、注意した。	危険察知の意識を高め、危険と感じられる場面では、事前にやめるよう言葉をかける。	
1015	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	22								2	2	16. 4歳	1. 男児	卵アレルギー	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	卵アレルギー	6. アナフィラキシーによるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	マニュアルの徹底が不十分であった。配膳の仕方についての詳細を記したマニュアルがなかった。	マニュアルの徹底。配膳手順の詳細を記したマニュアルの作成。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	13	1. 定期的に実施	12	提供するのそれぞれの献立や個人カード、弁当箱の中ふたを開け実際ふたとして食品を照らし合わせている徹底。	6. 食事(おやつ)	夏みかに普段なり段と配膳担当職員が異なっていた。	だいたい同じ職員ができるようにとにしたが、誰でも間違いないよう徹底。確認を2名以上の職員で行うことの徹底。	1. いつもどおりの様子であった	提供された食事を食す。	3. 対象児の先生が離れたところで対象児をていた	食事の内容間違いをすべて持ちまま、その提供食べ終わった瞬間該当児目を離しており、該当食材の喫食を止められなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	弁当箱に白飯を入れ際、同時に2つの弁当箱のふた開け、飯をよそ後、ふたを閉じた際、ふたが入れ替わっていることに気付かなかった。	食べまでの配の過程のふた食べ箱を開けて内容を確認されず、間違いないかなかった。それぞれ複数確認おろかにそなった。	喫食までのそれぞれの行程や献立や一品ずつ個人の食品と実際の食品の確認を何度も行う。他児入れ替わりこちらいようにつずつ確実に配膳する。	
1016	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	33								2	2	17. 5歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	事故発生時には保育教諭2名で保育。事前内に活動容や流れについて通常は4歳児担当で保育教諭も日はこの保育をしていたが、日頃保育こからに入ることがあった。	危険を予測した上で、保育内容によっては保育教諭保育の配置を増やす。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	毎日	特になし	遊ぶ前に状況床を確認する。	1. 集団活動中・見守り	３２人の内、約１０人ずつかけっこをしていた。スタートには立って不規則に人数が不足したため、隣との間隔が狭く、走りにくい状況であった。（１名は、この活動は不参加）	少人数で、隣との間隔を十分取って、活動を行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わりなく、体を動かしていた。	3. 対象児の先生が離れたところで対象児をていた	主で保育をしていた。スタートの合図し、走っている児が見えなかったため、走ったり、ふたが入れ替わっていることに気付かなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見なかった(至近距離にいた)	他児が泣いていたため、一緒に手をつないで、走っていたところ、本児が転倒する瞬間は見えたが、転倒を防止することはできなかった。	通常、預かり保育を担当している保育教諭が日欠席。急遽、他年保育教諭が保育にあたる。	近距離で見守り・声かけを行う。安全に活動できるよう、職員を追加で配置する。	
1017	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)												18. 6歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折の疑い	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3		保護者に対して、園庭遊具の使い方の周知が不十分だった。	表示や声かけ等で、降園後の使い方や保護者の見守りについて周知していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	１２＋１	1. 定期的に実施	24	自由に遊べることがあること。	遊具を撤去する。撤去までの間は、遊び方に保護者へも周知できるようにする。	7. その他	降園後の園庭遊びについて、保護者への起意喚起が十分だった。（保護者の見守り、遊具の使いについて）	遊具の使い方について、メールや表示等を活用し、保護者へも周知する。	1. いつもどおりの様子であった	活発で体力を動かして遊ぶことが好き。この日も母親と弟と園庭を走って遊んだ。	4. 対象児の見ていなかった	降園後の事故のため、不在	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	降園後の事故のため、不在	降園後の遊びについて、保護者の見に任せていた。	降園後の遊びについても、危険な遊び方をしている場合には声かけをしていく。	
1018	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	14	3	2	2	3	2	2		3	3	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	不全骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	おやつ後降所前時に降の自由時子どもの間でもたちも気持ちも高ぶり、規範意識が薄れる。	おやつ後の時間は落ち着いて遊べるように集団遊びや静かに遊ぶもの遊びを考え、運動など体を動かして遊ぶ場合は安全意識を持ち、職員の見守りを徹底する。	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	年長児は、なんなど運動エアーでいたが、小ステージから跳びながら縄跳びを跳る等危険意識かった。	運動するエリアについて子どもが予想外のことを想定しながら安全に安全な場所べるよう設定する。	3. いつも活動的であった(理由を記載)	運動会で縄跳び行う縄跳びについて上手でできるように跳び変ら縄跳びを跳んでいた。高さ20cmのステージから小ジャンプ、そこからなりし縄に引っ掛かり、転倒した。	3. 対象児の先生が離れたところで対象児をていた	他にも運動エリアで主に年長児がフープを使って運動でいた。高さも２０cm程度で危険度が低いと思われ注意等声かけはせず、見守りをした。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の対応の園児をしていたため、見ていなかった。	本来の縄跳びの安全な使いかたとは高さ２０チセンチ低いステージだったため、危険度は低いと考え安全意識が低かった。	おやつ後の自由時間は特に安全意識を高めてもらいたい。子どもたちの見守りをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																						
1019	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	35			11	12	12		4	4	16. 4歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷			2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置		安全研修の内容の定期的な再確認。ヒヤリハット記録での事象対策等職員間の周知。	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		特になし	1. 集団活動中・見守りあり	物的危険度はなかったため園児への職員の危険意識が低かった。	職員が活動中の園児の見守りと事故防止のための安全意識の向上について再度確認する。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	対象児に、加害児とともに遊びに夢中になり、興奮状態だった。	4. 対象児の見ていなかった	他の園児に対応しており事故発生を故見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きをいなかった	他の園児に対応しており事故発生をていなかった。	自由あそびまた帰びり前の時間も気持ちの解放感から規範意識が薄れていた面もあった。	職員間で連携を取り、園児全体の見守りを徹底する。鬼ごっこ一ルのある遊びができるように日頃から多く取り入れ遊べるようにしていく。	
1020	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	24							2	2	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷			2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	6	2. 基準配置		基準通りの配置であった。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48		転倒の際、つまづいた物や危険な物は特になく、溝や凹凸などもなかった。	1. 集団活動中・見守りあり		本児の履いていた外靴はサイズが大きかったり、脱げにくいなったりしているようなこともあった。また、かかとを踏んでいなかった。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	芋植えを楽しみにして、早植くえ持ちえたいで焦ちりで畑へ向かい転倒する。	4. 対象児の見ていなかった	他の子どもと畑に向かっていたため本児の転倒した瞬間を見てなかったが、裏っていたの情で声をかけると、転倒ことは言わず「芋えれなかった」と答えたため芋を植え対応した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	グループ(5人)ごとに順番に芋を植えていたので、それ以外の園児を保育していた。		畑へ向かう時は走って行かないよう、改の行動が落ちて着いてできるような言葉をかける。	
1021	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	26							3	3	17. 5歳	1. 男児	無し	2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	なし	なし	1. 集団活動中・見守りあり	なし	なし	1. いつもおりの様子であった	活発で運動遊びを好む。ドッジボールも積極的にしみ、楽観争心も高い。事故発生前も何度もボールを追夢中で追いかけていた。	3. 対象児の見ていた	ドッジボールコートの対角線上で2人の保育士が保育活動を注視しながらゲームの進行や声掛けを行っていたが、転倒した手を伸べることが差しることができる位置ではなかった。	2. 担当者・対象児の動きをいなかった	1名同じ場所にいたが、少し離れた場所で他の作業をおり、注視していはしなかった。活動子はおり、険を感じる場面では気づいたをかけていた。	職員の危険に対予測が十分ではなかった。もの安全の対掛け分かった。	1. ルール説明をする際に、ボールを使いかけすぎるとどうして危ないのかということをおおらかやさ説明した。友だちと鬼ごっこ遊び合うなどルールをそどもたちと一緒に考えていく。2. 夢中になって過度にボールを追いかけていたら、無動ものボールを追いかけるを鬼ごっこ遊びの中ルールを取り入れ、ルールを取り入れ、ルールを取り入れ、

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1029	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	11								2	2	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	左側腕肘関節のひび	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度【回/年】	1	2. 基準配置	保育士の子どもへの理解、潜在危険への理解と把握が不十分だった。	保育のチェック表を活用し、日々の保育の振り返りや評価反省をしながら保育を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊びの状況から職員の配置を考える必要があった。	職員同士が声を掛け合い、遊びの見守りの死角を考える。	1. 集団活動中・見守り	走ると危ないことを伝えることができる立ち位置で見守る必要があった。	子どもへの確な対応、指示や迅速な指導ができる立ち位置を確保する。	1. いつもどおりの様子であった	登所時からいつも変わった様子も元気になく過ごしていた。友だちがだしたので、もっだ走りした。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	すぐ傍ではなかったが、現界に入る場所で対象児を含む子ども達の遊びを見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他児のお迎えに保護者の方が来られたので、保護者対応をしていた。	子どもの遊びを予測し、保育士間で声を掛け合ったり、見守りの立ちの位置を子どもに合わせてしたりすることで、もっと丁寧に見守りができた。	子どもの動きを予測して、保育の流れを組み立てる。	
1030	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	22		2	8	7	5			3	3	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	乳中切歯損傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度【回/年】	1	1. 基準以上配置	異年齢での集団保育中であった。	基準以上の職員で保育を行ってお、職員配置上では問題なかったが、異年齢での集団保育中であり、それぞれ発達や把握して見守る必要があった。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	対象児の前方でN児が転んだ箇所が、マットとフローリンの境目であった。少しの段差、摩擦の違いでも転倒のリスクを高めた可能性がある。	園児の動線上にマット等、転倒リスクを高めるものを置かないようにする。	1. 集団活動中・見守り	片付け中、歩きながら子どもが同じ場所に集まるような状況であり、園児同士で衝突するリスクがあった。	歩いている状況でも園児同士の衝突のリスクがあることを職員間で確認する。	1. いつもどおりの様子であった	・転倒した他児の見た目こうなったように行こうと近づいた。 ・服の裾を両手でなが持ちら歩いていた。	2. 対象至対象児の近象児見た	対象児の動きい側で見ていたが、粗暴の出来ぐ事でことなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児を含め、全体の動きを見ていた。	対象児の方から歩き、衝突や転倒の際に手が出にくいことを認識できなかった。	服の裾を持ったり、ボケットに手を入れたり等、咄嗟にかが出ない状況で歩くと危険であることを子どもたちと確認する。	
1031	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	34				17	17			4	4	16. 4歳	2. 女児	特記事項なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	1～2	1. 基準以上配置	・業者がい知って保護者たのの近くるこき柵デッ知るだで、見がが木外にまったとキまめ。	・保育士は、子どもたちの把握し、もと途況の様子を状況には、近くに行き、危険のない よう時、危険のう声を掛け、見守る。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	・知って保護者を見てとしてキっの者を外に乗っていた。	・特に複数の子どもといる場合ので、危険な場合ので降りるように声掛けする。	1. 集団活動中・見守り	・担任はにいすぐ園庭にいたが近くなかった。	・園庭にいる子どもたちが行動を把握し、危ないこと意を払うのう注意を払っていく。	1. いつもどおりの様子であった	・いつも活比較的発方で、特もあり、にいつも通りの様子だった。	4. 対象児動をていなかった	・担任は桑園庭の木のにあったりに、本児のすぐおらすぐに、動きを把握ていなきかった。	1. 担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	・本児は、0歳児クラスのすぐ前のところの外デッキに、0歳児クラスにいた保育士は、本児がしたの転倒を見た。0歳児クラスの保育士は、●歳児クラスの子ども一人と一緒に本児を起こし、担任に転倒したことを伝えた。	・外にいる担任が見近くで見える位置にいなかった。	・園庭をあらゆる方面から子どもたちをいくよう、見てよう、声を掛けい、声を合わく。	
1032	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	14								1	1	16. 4歳	1. 男児	事故当日　A整形外科でレントゲンを撮り、上腕骨顆上骨折と診断される。ギプスで固定する。●月●日B病院を受診。手術はせずに、このままギプスの固定を2週間続けて様子を見る。 完治までは1～2カ月かかると言われる。 ●月●日　経過は順調。ギプスの固定で様子をみる。 ●月●日　家でギプスが外れた為、受診。 ●月●日　経過は順調。ギプスの固定で様子をみる。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	特になし	事故マニュアルの確認・再検討を行う。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	柵の下にクッションブロックを敷いているが、設置部分の金属が露出していた。	金属部分の保護	3. 個人活動中・見守り	ブランコは付近ではない遊ばないように伝えていた。	先生が見ない所では遊ばないよう伝えていく。	3. いつもより発活動的であった(理由を記載)	普段は追いかけっこをしていることが多い。柵で遊ぶことはない。	4. 対象児動をていなかった	ブランコ付近で遊んでいる子にかけとした際、柵が手を離した瞬間を目撃した。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	他クラスの園児と遊んでいた。	この日は担任が休みで、他職員が入っていた為、本児と普段行動をとったのかもしれない。	園庭で遊ぶ時、1名は子どもと遊ばず全体を監視する、他職員が入る時は引継ぎをしておく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制								教育・保育等従事者																																							
								人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																							
1033	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21				5	12	4		2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	基準以上の職員配置はできていたが、事故発生時、他児の対応をおり、事故発生時、他児の対して本を目ていなかった。	事故発生時の状況をもう一度全員で振り返り、見守りの死角が生じないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	マットの上で遊ぶ際には上靴を脱ぐ指導をしていたが、靴下の状態でマットに出たため、滑って転倒した。	マット外に出る時は上靴を履くというルールが身につく保育をする。	1.いつもどおり様子であった	友達と一緒にレゴブロックをして遊んでいたが、別の遊びに移ろうと思ったのか、移動する際少し小走りになった。上靴を脱いでいた為、くつのまことのまもありランス崩して転倒。	4.対象児の動きをていなかった	同じ部屋にいたが廊下側により、転倒時に気づくことができなかった。転倒後本児に駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスを移動し、保育に入るが、転倒していることに気付き声をかける。担任が傍に行ったので、全体を見ながら保育する。	それぞれが他の児の対応をしていたため、本児が転倒しそうな状況にあることに気付けなかった。	保育士が２名いた名とも転倒時に児に目が向いなかったため、役割を明確にし、死角が生じないような保育を徹底する。	
1034	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				22	23			4	4	17.5歳	2.女児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外側靭帯損傷・右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	基準に則った、職員配置をしていた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	事故現場について、地面の凹凸はなく、ぶつかる様なものもないため、危険な個所はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	園庭でスキップして遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象児をていた	園庭で少し離れたところから見守っており、転倒に気づきすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外のクラス内の児の対応をしていた。	特になし	特になし	
1035	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	29								2	2	17.5歳	1.男児	特になし。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	モンテジア脱臼骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	-	今回は本児の不注意で転倒しているが、改善点としてクラス全体で戸外遊びの約束を再確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	-	現場は見良しの良い平らな地面だった為、改善点なし。	1.集団活動中・見守りあり	-	遊ぶ前に園子ども達への声掛けの徹底	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り様子であった。体調は良好、笑顔もあった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の見守りと職員配置を考え、すぐ場所にいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すぐに園長、主任に知らせる。母親連絡に電話連絡。	職員の連携は取れており、主任や園長まで連絡はすぐに行えた。事項に関する改善点は特になし	通常通りの業務を行っていた。問題はなかった。	
1036	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12		6	6					3	3	13.1歳	1.男児	身長約７８cm体重約８キログラム。歩行開始１４か月。低体重のため、病院でホローを受けている。発達が緩やかである。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕手指骨折（小指と薬指の間）	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	職員の保育経験の年数が浅い（１名、７年目、１名３年目、１名１０年目）保育はあるものとしては担任は数年ぶり）で、危険がなかったり時の立ち位置が十分わかっていないがある。	子どもを守ると要の保育士の位置の確認。子どもが転倒した際、体のチェックの仕方について職員で共通理解をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	施設が古く段差も多い、通常は柵に扉がついてて、必要な時だけ開けるようになっている。あとから既成のもので、柵の脚などにぶつける可能性もある。	柵の脚は、緩衝材で包み、ぶつけても衝撃を少なくする。	1.集団活動中・見守りあり	-	保育士の人数はいるが、どこに視点かを置くという大切。全体で共通理解をしていく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	２歳児が移動し、同年齢のほぼ同友達もふく室に２名入ったので、本児も付いて行って際、つまづき転倒する。	4.対象児の動きをていなかった	部屋に入ってきた２歳児を見て１歳児担当保育士①がA児の耳が赤いことに気づき、２歳児担当保育士③に知らせる。A児の耳を見るために保育士②がつま先を立ててほふく室に入っていく子どもたちに背を向けて座る。保育士②は他の１歳児を見ている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児ていた。	-	移動が確実に終わってから、気にことを確認をする。子どもに育を向けない。	
1037	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55			12	20	23			4	4	18.6歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左側上腕骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	個々の遊具ついて危険性や対応性についての研修ができていなかった。	各遊具について、安全に遊ぶための対応について確認し、職員間で共通理解する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		雲梯が少し高めの位置にある。	雲梯の下はマットを敷くことにはしている。	3.個人活動中・見守りあり	園児がいろいろな場所で遊んでいた。	遊びによって必要な場合は、主任保育士が保育の応援に入る。	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒に何度か雲梯に挑戦していた。	2.対象児の近で対象児をていた	雲梯で遊んでいる様子を目でながら追いながら、隣の棒にいて登り登っている園児の対応をしており、対象児が対象児落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、それぞれ砂場、色水コーナー、鉄棒近くで他の対応をしていた。	雲梯で遊んでいる対応でこと園児ぐきろいなかった。	雲梯で遊ぶ園児がいるときは、必ずそばに職員がいなかった。	雲梯で遊ぶ園児がいるときは、必ずそばに職員がいるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1038	令和6年6月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	0	0	0	9	2	5	0	2	2	17.5歳	2.女児	無	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	60	1.定期的に実施	60	1.定期的に実施	60	特になし	特になし	1.集団活動中守り	安全に関するルールはあったいればたれぐらいであれば大丈夫という保育士の見通しで活動を進めて、実際の園児と保育士の行動と保育士の見通しに乖離があり、事故が発生した。	あらかじめゲームルールや帰還ルートを園児に伝え、保育お手本を見せる。また保育士同士でルール確認の話し合い、共通理解をする。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	初めて行ったゲームだったこともあり、園児が興味でたちまち盛あっ	2.対象児の近で対象見た	至近距離にいたが、ゲーム中の園児もいたため全体をみてお対応をしたが遅れてしまった	2.担当者・対象児の動きをいなかった	ゲームの順番を待っている園児の対応をしており、見ていなかったため	全体を見ている保育士はいるが、園の咀嚼に対応できなかった。	初めての活動の際は、いつも以上に想定外の事が起こる可能性を考慮し、イレギュラーに対応できるよう職員の配置等を工夫する。	
1039	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11								1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置		事故の起きいる時間帯の職員配置について再度職員間で話し、違から視点考えられることに基づいてマニュアルの見直しが必要でか検討し、職員の立ちの位置について再度し声かけをし子どもを見守る体制をとっていった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	子どもの合わせて机の配置を変えることり、落ち着いた気持ち持ちで行動できるようになったため、上面での改善策は課題なし。	1.集団活動中守りあ		室内の環境の見直し、いろいろな生活や活動の中での子どもの行動を予測しながらそれに合わせて環境を変えていくようにしていった。職員の意識が変化してきた。室内で走ることが事故につながったが気持ちの面でも落ち着いて行動できるような魔、時間や空間のゆとりなどについて職員間で話し環境の見直しなどをする。子どもの状況に合わせて机の配置を変えた。	1.いつもどおり子であった		3.対象児から離れたところで対象見ていた	他の職員が保護者対応をしていたため、担任は降園準備をしている3.4.5歳児を見守り・支援・声かけ等を行いながら全体を見渡していた。対象児が回りの男子どもに刺激を受け、慌てて降園準備をしていたため気をつけるように声をかけたが転倒してしまう。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	保護者対応していた。	保護者対応をしていた。	担任一人で対応することが多いためどこには何かあるときには声をかけ応援体制が取れるようにしていく。職員間で声を掛けあいながら安全にすごせるようにした。	
1040	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	97				33	28	36		10	10	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆上骨折	1.遊具から転落・落下等の落下	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	研修等をいて、危にての危機管理の意識や危険を予測する力が十分でではかった。	職員会議やミーティングで危機管理について学び、実践を活かせるようにもっとさせていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	12	地面はバイオクションが敷かれていたが、雨で地面が少し削れるのと雨が地面に凹かを確認し、平らにする。	雨の後はこまめに地面に凹がない整え	3.個人活動中守りあ	橋高ろ一番ころ手のいと一つまでの前上ぶらり、ことができるのばだった。	橋高ろ一番ころ手のいと一つまでの前上ぶらり、下がよなかりることがあるので、一人に一人に合った援助をていく。	1.いつもどおり子あった	橋高ろ一番ころ手のいと一つまでの前上ぶらり、下がうたなっがしく返るれるにことれ繰り挑戦すがあった。	2.対象児の近で対象見た	橋立のこまめに凹がない平らにする。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	砂場や登り棒、ジャングルボールなどそれぞれの遊具や遊びに保育者が他ども見ていた子どもたちが整えた。	低いところでは、両手でぶら下がり、両足で着地し安全に遊べていたが高い所になるとバランスを崩し、片手でぶら下がったりお民かぶらり着地したりするなどの姿が見られた。その都度、保育者が援助していたが、けがにつながるかもしれないという意識がなかった。	両手でぶら下がることやひざを曲げて両足で着地することなど体の使い方を具体的に知らせたり、一人一人の力に合った援助やアドバイスを行い、安全に遊べるようにする。職員会議やミーティング等で「けがにつながるかもしれない視点」や遊具の安全な遊び方について再確認し危機意識を高めていく。	
1041	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32								3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左モンテッソーリア骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	降園時間帯で、迎えに来られた保護者の対応をするため、一瞬目を離してしまった。	降園時間帯の職員方を間で話し合い、子どもと約束を確認する。また、保護者対応する保育士は、場を離れることをもう一人の保育士に伝え、危険のない保育室全体の子どもの様子や遊びに目を向けるよう伝える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施		椅子を並べて遊ん場所が、周りに棚やピアノがあり、空間ではかった。	園児の椅子置き場所や、遊びのコーナーの空直しをする。	1.集団活動中・見守りあ	担任が目を離し時間帯に園児に使用していた。	日頃から一人一人安全面を意識し使用できるよう、椅子の使い方（持ち方、運び方、座り方など）や、危険性など子どもたちに伝えていく。	1.いつもどおり子であった	普段は外で遊びなどを待つが、当日は雨のため室内で過ごした	3.対象児から離れたところで対象見ていた	迎えに来られた保護者対応をしており、椅子を場面を見ていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	遊びの様子は見ていたが、転倒を防げる距離ではなかった。	「大丈夫」「ケガをするような遊びではない」という思いが職員にあった。	「大丈夫」と思い込まず、思いもよらない行動をすることもあるので、様々な危険を想定して見守るよう周知する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面								環境面			人的面									掲載更新年月日
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的にしていたか	他の職員の動き	具体的にしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1042	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	19								4	4	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折(右足)	2.自らの転倒・衝よるもの突	1.あり	1.定期的に実施	12	職員の配置基準は満たしていたが、事故発生時、休憩に入る職員ために主児に入っており余剰人員がいればよりかにもれたかもしれない。	主活動中は休憩を控え、最大人数で保育ができるよう、調整を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	施設や設備に問題はなかった。	活動内容に合わせ遊戯室や戸外など場所を選択していく。	1.集団活動中・見守り	本児は、他児との接触を避けようとしたかもしれない。	グループ分けをし、人数調整、並び方の工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	音楽に合わせて体を動かしたところ、自ら足がもつれて勢いよく転倒した。	2.対象児の近象児を見た	全体を見守っていたため、子ども転倒した瞬間手を伸べられる距離では無かった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見守っていたため、子ども転倒した瞬間手を伸べられる距離では無かった。	運動会のオープニングの際、全学年で踊る演目の導入であった。躓けるあるもの足を場面の子ども発達段階に十分に沿えていなかった。	手をたたいたり音楽に合わせて体を揺らしたりするなど、個々の子ども発達段階を踏まえたねらいを検討する。	
1043	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	31								7	7	13.1歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	-	職員会議等で情報共有	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	-	ハード面は要因はられないので改善特に点はなし	1.集団活動中・見守り	-	該当遊具は2歳以下は使用しないようにする。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近象児を見た	遊具に四つん這いの状態から滑ったが、間になかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具に四つん這いの状態から滑ったが、間に合わなかった。	-	該当遊具は2歳以下は使用しないようにする。	
1044	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46				21	25			5	5	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆部骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		遊具の傍に必ずついて危険を回避をする	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50	1.定期的に実施	50		着地の際の見守り	1.集団活動中・見守り	活発な動きを好む	子どもたちと雲梯の遊び方を再確認する	1.いつもどおりの様子であった	日頃から活発で遊具をこなしている	2.対象児の近象児を見た	雲梯にぶら下がる正しい遊び方だったので見守った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもと遊んだり見守っていた		本児の特性を把握し、危険を回避できる場所で見守る	
1045	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置		今回の事故について、全職員で共有し、発生後の対応等について確認した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		マットの安全点検を常に行う安全をう	3.個人活動中・見守り	ボールを追いかけて走って	身体を上手によるように使える	1.いつもどおりの様子であった	転がっていったボールを追いかけ、ボールをつかむ時に、転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	園庭で遊んでいる全体を様子見渡せる位置で、見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の遊ぶエリアを狭め、担当職員1名で見守りできるようにしており、他の職員は保育室内にて別業務に当たっていた。		ボール遊びを広い場所や動きやすい場所で行うように提案する	
1046	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75				25	22	28		7	7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置		子ども自身遊びなれた遊具で緊張感が薄れイナミックな遊び方になっていた。「できる」という油断が事故につながるので、注意して見守り必要なら子ども注意喚起する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		保護マット上に落下したときもかかわらずこまった。使用している園児の体格と遊具が適正かどうか判断する。	3.個人活動中・見守り		午前中の天気等によっては、注意力が落ちている時間帯である。状況によっては遊具の使用に制限を掛けたり、注意喚起のために子ども達へ声を掛けたりする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯は大遊具好きな日頃から繰り返し遊んでいる	2.対象児の近象児を見た	他にも雲梯で遊んでいる子どもりおり、そばにはいた本児が本人が落下した際手を伸べられるほど至近距離ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内にそれぞれの位置で見守り・保護者への対応を行っていた		日頃から取り組んでいる遊び方で、保育士も危険を感じなかったようであるが、今回の事から注意深い観察や時には遊び方・使用時間帯等制限を掛けることも考慮していく	
1047	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	9								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の上腕骨上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	園児数に対しての職員配置については充足しているが、遊びの範囲が広く職員の目が行き届かなかった。	職員の目が行き届く範囲に遊びを限定する。遊具を利用する児には必ず職員が付く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12		雲梯を利用する際は必ずマットを敷くよう徹底をする。	1.集団活動中・見守り		保育者の目が届く範囲に、遊びを限定する。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児を見ていなかった	他児がぶつかりあっし遊びをしており、対応をしていた為、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の問いかけに対応していた為、見ていなかった。		遊具を利用する際は、職員が必ず見守る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1048	令和6年6月10日	1. 認可	10. 事業所内保育事業（認可）	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	77		15	16	15	17	14		11	11	18. 6歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	8	1. 基準以上配置	常には、園児には、走ってはいけない危険場所や危険場所・行動について、話し合う場を設け、実際に検証したりして周知していたが、一人一人ひとりの園児の特性への不十分であった。	事故が起こりうる場所・事を話し合うだけでなく、園児の特性を踏まえ、事故が起こりうる可能性を共通理解し職員間で連携をとっていく。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	2	視覚的に、危険（走ってはいけない）等の対策がとれていなかった。	安全配慮フェンスそれぞれのコーナーを仕切ることで、走りたい場所で走れない環境を整える。	1. 集団活動中・見あ守り	視覚的に、危険（走ってはいけない）等のとれていなかった。	安全配慮フェンスそれぞれのコーナーを仕切ることで、走りたい場所で走れない環境を整える。	1. いつもどおりの様子であった	友だち数人と、じゃんけんゲームで遊んでいた。イメージ力意識を強いられる子どもが、とんけんでしまい、さからそうよう走る。	2. 象至対象児の近象見た	象児だけでなく、周囲の児を見ていた。象児が出した時に、その園の児の対応をした。	1. 担当者・対象児の動きを見た（至近距離にいた）	止める間もなく、走りぬけていった。	普段から、衝動的な行動が多くその日、対象児にはも他の児別ことを危険ついて話が、対象児の特性を踏まえ児の行動への認識の甘さがあった。	対象児の特性を把握し、起こりうることを分析し、そのために何をすべきかを常識等で全職員が把握し、対策・対応できることを考えて実施していく。	
1049	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	1								2	1	18. 6歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	事故後の研修が十分できなかった。	いつ事故起きても同じ対応ができるように研修の回数を増やす。事故発生後のマニュアルを設置し定期的に確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	・クッションスツールは１９年程使用しており、かなり柔らかくなっているので、使用可能年数を超過している可能性がある。 ・Webカメラを設置していたが、事故後の確認を怠り、保存期間を経過していたため、事故状況の確認ができなかった。	・クッションスツールは全て処分した。 ・定期的に確認しているものの確認の記録や確認者等の記録がないので、詳細に点検項目を作成し、確認日、確認者等の記録を残すようにする。 ・Webカメラの動作確認を定期的に行う。 ・事故が発生した際は速やかにWebカメラの確認を行い、証拠保全に努める。	3. 個人活動中・見あ守り	・クッションスツール(208cm×28cm×28cm)の上にマット(88cm×88cm×4cm)を重ねた所に座り、備品の本来の使用法では使い方をしていたのが要因である。	・座らせる場合は椅子や床に座らせる。 ・清掃や消毒等を行い、通常の使用方法では状態はない状態が生じた際は、児童に近づかせないようにする。 ・テレビを見せるのではなく、一人一人をきめ細かく保育する。 ・子どもがいる間は環境の維持に努める。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り元気であった。	3. 対象児離れたところで対象見ていた	象からたところ見た事故当時を離れず見ていたが、このようにションスツールから落ちたか明確ではない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた	（施設側）ガラス越し保育室の見える隣の事務室にいた。保護者の迎えの知らせを受けたので保育室に向かう意向でいたが、保育室に向かう直前に事故が起きた。 （保護者側）保育士２名とも保育室内の長机に座っていた。	–	・保育室で子どもを見ている職員ではなく、事務室にいる職員はが開錠しに行くように、職員の動きを見直す。 ・子どもから目をとと離すことのないよう、保育士同士の連携を確実にする。	
1050	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	12								2	1	16. 4歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置	生活の切り替わりの時間（延長保育）と保護者のお迎えの時間で見守り体制に手薄なった	保育者同士の声掛け連絡と引継ぎを徹底する	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	12	園の生活として、16時半頃は生活の切り替わりの時間（延長保育）と保護者のお迎え時間、お迎え後、親子で遊んでいる人が重なる為、混雑する	延長保育園児は16時45分に入って、これまで16時30分に入いたが、16時30分に保育室に入るようにする	3. 個人活動中・見あ守り	職員（保育者）がのえに対して、子お迎え時間帯護者応をおり、ども保育士を見守る職員が手薄なった	見守り体制が生じい、職員同士の声掛けが必要な他職ス時は、クラス員を呼ぶようにする	1. いつもどおりの様子であった	園庭のうんぷんでいる下がって遊ぶ、ところ手が外れ片支えたも落ち下。その際の、バランスを崩して体の面を身自と地に巻き込むに転倒。	3. 対象児離れたところで対象見ていた	象からたもの子どれた様子見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていた	園庭で他児の園児の見	職員（保育者）がのえに対して、子お迎え時間帯護者応をおり、ども保育士を見守る職員が手薄なった	見守り体制が生じいが必要な他職ス時は、クラス員を呼ぶようにする	
1051	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	24				9	15			1	1	17. 5歳	2. 女児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるものも	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	異年齢児で遊ぶ際の子ども同士の遊び方や力の差について、情報の共有が不足した。	個々の性格や力を把握し、異年齢で遊び方について、全職員への情報共有を行なう。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見あ守り	園庭での場所遊び方の注意が足あった。	相撲遊びの際は、マット等の上で行なのマットなど、相撲を行なう際のルール話し、園児に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	5歳児男児3人が相撲遊びしていた所へ、一本児も一緒に相撲をした本人さって相撲した右転際肩から倒する。	3. 対象児離れたところで対象見ていた	象からたもの子どれた様子見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	他の園児の横で、止を故防ぐ図った。	年齢の異なる園児における間に対の差して不足があった。	相撲など、子ども体を思いきり運動遊びをする際は、注意深く見守り、異年齢で行なう場合は、遊びを変えるように伝えることも必要。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因						実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
1052	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	17		4	3	1	5	4		4	4	17. 5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	事故予防研修などに参加し、職員間で事故予防の知識を高める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	48	特になし	季節の物替事の入れ替えや行事前に、所長または副所長が施設の安全点検を加えて行う。	3. 個人活動中・見守り	特になし	じゅうたんの上で、回転したり、ジャンプすることにケガにつながる子どもはいることを周知する。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	いつもより感情が高ぶっている印象はあったが、本児が好むブロックでいつものように遊んでいた。	2. 対象児の近く対象児見ていた	2人の職員が見守るほぼ真ん中に本児が位置しており、本児からの距離はそれぞれ1.5・2.5メートル程度。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもと遊んでいた。	特になし	職員の位置を職員間で共有し、見落としがないようにする。	
1053	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	6	9. 夜間・早朝（泊り保育）	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	8	1	2	2	1	1	1		2	2	25. 学童(認可外)	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕部単純骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	子どもたちを見守り「危ないよ」と声かけしていたが、子どもたちはシーソーの動きをとに今回のように至るうになることは予想できなかった。シーソーが思わぬ動きしたことが原因で骨折よりなけがに至った。	シーソー遊び本来の遊び方を本人は予測されるような荒い遊び方をする園児がいる場合には、保育室からシーソーを撤去する。	2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		遊具の本来の遊び方以外の使い方をしていた。	遊具を正しく使用しようと。また、危険が予想される場合遊具には撤去する。	1. 集団活動中・見守り	当該児童と他児は年齢差もあり、活発に激しくなることに注意が必要。	年齢差の子どもたちの活動時間には、それぞれが遊びの工夫をする。	1. いつもお子様の様子であった	異年齢児との交流の中であった	2. 対象児の近く対象児見ていた	子どもたちを見ており、「危ないよ」などを声かけしていたがシーソーで遊ぶことで至ってなく繋がる事故に発展するようなけがとは予想がつかなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	乳児が就寝していたため乳児の傍にいたが、子どもたちの遊ぶ様子を見ていた。	特になし	危険が予想される遊びをしている場合は、遊具を撤去する。	
1054	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	21								2	2	16. 4歳	1. 男児	特に無し。	6. 水遊び・プール活動中	1. 負傷		2. 骨折	1. 頭部	(1)頭部打撲(2)左後頭骨骨折(3)左硬膜下血腫	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	数	2. 基準配置		職員の動きについて事前に打ち合わせをする。活動に必要な職員の配置をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施			コンクリート製のプールの中では行わない。	1. 集団活動中・見守り	水を溜めていないコンクリート製のプールで、滑りやすい泡遊びを行った。たらいの外にこぼれた泡を拭き取れていなかった。	子どもの行動を予測して、活動内容に適した場所を選ぶ、活動を考える際に危険なことは考えないか全対策を十分に行い、担任だけで判断が難しい場合は、周囲の職員に相談する。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	女児が先にプールの外に出たくなったプールを走りし、いのこぼれた泡で滑って転倒した。	3. 対象児の近く対象児見ていた	他児が泡を見せた際に「すごいね」など声をかけつつ全体を見ていたところ、本児が走ったと児出したとに気付き「危ない」と声を上げたと同時に転倒してしまい、止めることに合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	先に女児とプールの外に出替えの援助をしていた。	先に女児がプールから出たため、本児が負傷した際、職員が1人だったことで、こと走ったことに気付いてもすぐに止めることができなかった。	活動をする際には、事前に職員の動きを細かく確認する。必ず担任2人体制で常に危険がないよう子どもたちを見守る。子どもの動きなどで気が付いたことがあれば担任同士でその都度声をかけ合い、けがや事故を防ぐことができるよう連携する。	
1055	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	6								1	1	14. 2歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第三・第四中足骨骨折（ひだりだいさんちゅうそくこつぶんよんせいうつきこっつ）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施		2. 基準配置	特になし	職員間の連携により、事故に防止策に取り組むこと。また、事故を実施した際に研修をすることが必要である。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	随時	特になし	遊びの設置見直し遊具の使用方法の見直し	1. 集団活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもお様子であった	サーキットの上を歩ったり、ジャンプしたりして遊んだ。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児の手を持ちジャンプ佐いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の対応を行った。	子どもの予期せぬ行動を想定いなかった。	子どもと遊ぶ中であらゆる危険を想定しながら関わっていった。職員同士連携を取り合いながら保育をしていく。	
1056	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	8	1	7						3	3	14. 2歳	2. 女児	降園時ということで、0歳児1名も一緒の部屋で保育を行っていた。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左母趾基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	降園時につき、0歳児担当保育士がバス降園担当になっていた。0歳担当保育士が、その時たまたま部屋から出ていた。	部屋を出る時は、他のクラスに応援を頼み、しっかりと見守りできる体制をとる。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	4	おもちゃ付けの片付けもいたのもいでは、タイミングが悪いことが考えられる。	2歳になってもまだ歩行はしっかりしていないところもあるとのので、しっかり、転んだ時に普段と様子が違っていたら早急に病院受診ができる体制が取れるよう、園長等に報告を入れる。	3. 個人活動中・見守り	降園前の0歳児と合同保育で2歳児と合流した後、保育室に残り部屋に移動だった。	居残り保育の部屋に移動するために部屋を片付けたが、片付けをすきには見守りできるよう部屋を片付けるのでかりもの見守りも行う。	1. いつもお様子であった	玩具の片付け保育者一緒に、保育室の移動を待っていた。	2. 対象児の近く対象児見ていた	マンツーマンではなかったが、至近で本児は見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス全体の様子を見ていた。	部屋を出たその時は保育士が2名になっていた。	部屋を出るときは、ヘルプを出し、他の保育士にもうしてもらうようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1057	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	65					33	32		6	6	17.5歳	1.男児	ホールにて年長中児で運動会ごっこをしていた。リレーを2回した後、ホールに引いているトラックを他児と走って、自ら転倒した。運動会練習後に、疲れと気分高揚している状態で走ってしまった為、転倒の原因になった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位端顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	・子どもの動きできた対応なかったため	・園内研修により、日々の遊びの中での危険意識と高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・危険予知訓練をなっており、その中には危ないと想定できる場所ではなかったため。	・園内研修により、いろいろな場所や想定で危険予知訓練を行い、意識をもつ。	1.集団活動中・見守り	・十分な配慮していなかった。	・危険予知訓練を行い、職員で周知しながら訓練を行っていく。	3.いつもより発活動的であった(理由を記載)	リレー直後で気持ちがいつもぶつかった。	4.対象児の動きをいつかった	近くには いたが、目で園児を追いながら、レーでがいるループどのようにしたらいいか他の職話をし、ビスを片付けた。	2.担当者・対象児の動きをいつなかった	ステージ近くで、体操の曲をかけて体操を一緒に体を、走っている園児に同じ方向で走に声掛けをしていた。	リレー後、気持ちが高ぶっており、職員もそれに気づききれなかったが、声かけだけで終わってしまったことがあった。	・活動や行動の節目には気持ちが落ち着くようにけをし、次の行動に移せるように予知訓練を行い、一人ひとりの意識を高め、職員で周知できるようにする。	
1058	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18								3	2	14.2歳	2.女児	なし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲、下口唇裂傷	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	なし	引き続き安全点検を遂行しながら、園児が安全に過ごせるように職員が連携しながら保育をしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	立った状態で着替えをしていたことで、転倒したときに床に顔を打ち	床にクッションマットを敷き、そ着替えを立ち状態の上で着替えるように、子どもの発達に合わせて、座って着替えをするようにする。	3.個人活動中・見守り	身体能力が十分に発達していない衣服の着脱時に体バランスが崩れることが多かった。	子どもの発達や状況に対応し、担任が連携しながら対応することが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	着上回りし崩れた順調ぐことができず、体のバランスが崩れた。	1.対象児ツーマン状態(対象児接いた)	対象児の着替えを援助しながら、象児をきる(上衣を脱ぐ等)見ていたが、対象児が転倒するにしが瞬間に手を伸ばしが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	対象児のところで、昼食後の片付けや午睡準備(着替えの援助等)をしていた、声かけができなかった。	事故の起こしやすい場面の保育状況に応じた共有情報が十分にできてなかった。	全職員で安全管理・事故防止対策について共通認識を持ち、子ども安全を最優先とする意識を徹底する。	
1059	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25					10	15		2	2	16.4歳	2.女児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	一斉に水分補給を促すタイミングであり、職員、園児とも園庭から園舎への移動の流れがあった。	事故予防について職員間で話し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	水分補給は保育室で行っており、園庭から園舎への移動であった。ジャングルジムは、園舎とは反対側に設置されている。	居残り保育中の外遊びの時は、職員の目が届きやすいよう、水分補給をテラスで行うこと。	1.集団活動中・見守り	水分補給のタイミングで、職員は保育室へ移動する園児に対応しており、園庭全体の見守りが十分ではなかった。	居残り保育中の時遊びは、職員の目がきやすいよう、水分補給をテラスで行うこと。	1.いつもどおりの様子であった	居残り保育中、園庭で自由に遊んでいた。	4.対象児の動きをいつかった	他児へ水分補給を声掛けしていて、園庭全体の見守りが十分ではなかった。	2.担当者・対象児の動きをいつなかった	他児の水分補給の対応をしていて、園庭全体の見守りが十分ではなかった。	水分補給のタイミングで、職員は保育室へ移動する園児に対応しており、園庭見守りが十分ではなかった。	水分補給の際は、まず高い所にいる園児が地面に下りたことを確認してから、全体への声掛けをする。居残り担当保育士同士、連携を取り、水分補給時の体制や場所等について、安全に対応できるよう見直す。	
1060	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71				24	22	25		13	13	15.3歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	(1)上左AB外傷性歯の打撲(2)Stom	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	ゴールしたら一度よ止まるように声掛けができていなかった。待機場所が障害物に近ところにあった。	ゴールの傍に職員がいてスピードを落とすように戻れるようにする。待機場所を障害物がないところにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	ゴールの待機場所が手洗い場の付近であった。	待機場所に周り障害物がないところにする。	1.いつもどおりの様子であった	ゴールしてままるとシートろうとそのシートろと余っに近くた手の場のとメントに戻ると勢いてあった洗い場のセットに口元をぶつけた。	4.対象児の動きをいつかった	他のクラスの園児がかけ終ったがこわってなかったのでみていなかった。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	ゴールした園児を見ながら、待機場所にいて対象児を見ていた。	ゴールした他の園児が、スピードを落とすように声掛けができなかった。	ゴールのそばに職員がいてスピードを落とし戻れるようにする。	
1061	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	3								3	0	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨々折	8.その他	1.あり	3.未実施		2.基準配置		事故予防に関する話を全職員で共有する。	1.定期的に実施	約50	1.定期的に実施	約50	1.定期的に実施	約290	保育士の目が離れていた。	必ず一人は手洗いつく場によう。(トイレも同様)	1.集団活動中・見守り	手洗い場やトイレ室は保育室から死角となる。	子どものいくところには、必ず一人はつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きをいつかった	一人は、支援を要する子もについて別の部屋で昼ていた。一人は、給水の準備をしていた。人は、人どものトラブルに対応していた。	2.担当者・対象児の動きをいつなかった	3歳児クラス以外の年齢児クラスの子どもを見ていた。	トラブル対応には必要だったと思うが、給水の準備は、全児手洗い修了後でも良かった。	手洗い場(トイレ)に一人つくようにする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制												発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面					人的面						
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項			死亡		負傷			診断名		マニュアル有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1062	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9				4	5			1	1	18.6歳	2.女児	雨天の為、ホールでの活動。	2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第5指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		その都度、全職員で振り返りをし分析や改善を検討すること。今後も子どもの活動には静と動のバランスを考え、安全に配慮し安全で楽しい活動に留意する。	2.不定期に実施	適宜	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	適宜		施設や設備等は耐久年数や老朽化を考慮し、安全に機能し保育を行うことができるよう日頃より見守りを心掛けとる。不備を補って行う。	1.集団活動中・見守り	本児は、外野でボールを取り、内野の友達を当てることしく、ボール積極的に追いかけ、取っては投げることを繰り返して活動いた。	ゲーム中に休息を入れ、ずっとよく動くお子様に一つずつ深呼吸タイミングをつける。	1.いつもどおりの様子であった	本児は明朗活発で、ルールを理解し守り、集団遊びや運動遊びを日頃より好む。当日も集団遊びに意欲的で、園内野では上手にボールをかわし遠くへ投げ、外野では積極的に動いて取ったボールで、内野の友達を当てることを楽しんでいた。	2.象児の近で対象児を見た	日頃からしている遊び子どもは遊びでルールを理解している為、担任はコートのすぐ傍で全体を見ているので動き守った。	2.担当者・対象児の動きをいつも見ていなかった	他の職員はいいなかった。		今後も運動遊びの時は、子ども達の動きに注意して見守ったり援助したり安全に遊べるようにする。	
1063	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16			2	2	8	4		4	4	16.4歳	1.男児	以前にも、家庭で転倒して同じ歯を打っていた。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷			5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		2.基準配置	部屋でのごし方を約束して、少過ごしたころで様子をみながら他児に関わっていたが、本児はすぐにくしゃくしゃ動きたくなるが今回特にとっさのことあり行動だったので止めれなかった。	再度子どもたちと安全な遊び方を確認する。また、子どもたちの行動に全体職員が意をはらうようにする。	2.不定期に実施	12	1.定期的に実施	52	2.不定期に実施	12	毎回食事をとるため、机を部屋の隅に出した状態でいた。(食事は遊戯室広い場所で全児とっている)	できるだけ広いペースがとれるように机の配置を変える。	6.食事(おやつ)中	慌ててしまったばズルりとう為の底すいたこと滑ってまった。また、度付る滑口てしまった。	飛バ取に行こ上靴少や状態になっことなりて重なり、丁片ていに込み打ってしまった。	上靴を新しい物に変えてもらった。	1.いつもどおりの様子であった	持っていたのピースを意図的投げてなくしまったのでまったのを見て、慌てて取りこうとしてしまった。	3.対象児離れとこで対象児を見た	まだおやを食べなを終わらい園児に関わっていた。	2.担当者・対象児の動きをいつも見ていなかった	他の園児に関わっていた。	なし	食べ終わった子どもの遊び方を工夫したり、もとちと子どおやつ後の過ごし方を確認すると共に、複数の職員が注意をはらうようにする。	
1064	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59				20	19	20			5	5	17.5歳	2.女児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨近位骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	特に無し	子どもが園庭で走る時は、周りの子気を付けて走るよう指導する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特に無し	遊具周りは障害になるような物は置かない	1.集団活動中・見守り	特に無し	園庭は常通しに見くおく	1.いつもどおりの様子であった	園庭のロハウスに肘を乗せて前にたれていた。	3.対象から離れとこで対象児を見て	3.4.5歳児59名が遊園庭でいた全体を見渡せるに、職員とはお職員距離いてりをいた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	3.4.5歳児59名が遊園庭でいた全体を見渡せる場所に、他の職員とはお職員距離いてりをいた。	特に無し	保育士は出来るだけ子ども近くに立つ	
1065	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	17.5歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左手関節打撲傷、左肘打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	プールサイドからの監視の配置はしましたが、プールの中は担任のみで行っていた。	職員をもう一人増やしたちの配慮しながら状態に配慮しながらプールあそびを行う。	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1	プールの広さが人数に対してあまりなくて余裕がない。	プールの際で待つのではなくもう側少しからスタートする。	1.集団活動中・見守り	一斉に取だ児拾とりが組本は焦りたいの焦りあったと思われる。	全員が一斉に取りの組むのでグ分をはなくループなどを順番にけし順番に行う。	3.いもり活活動的であった(理由を記載)	プールの活動は大好きで積極的に参加していた。	4.対象動見ていかった	石拾いのを準備をなが的などもの動いた。	2.担当者・対象児の動きをいつ見なかった	プールの子ども中のもたは担任のみで行っていなかった。	プール活動にてきても動れて子どもの動きも活発的に保育士の目届きくなっていた。	職員同士で人数の把握を必ず行い、子どもの状態についても情報共有を行う。	
1066	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19				1	18				2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	普段から他の雲梯でもそうというあそびをしていた	今回の事故を踏まえ、子どもたちと雲梯での遊び方について話合いをする。また、職員同士も話合い、監視場所等についてもその改善する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	とくになし	今回の事故を踏まえ、子どもたちと雲梯での遊び方について話合いをする。	1.集団活動中・見守り	とくになし	今回の事故を踏まえ、子どもたちと雲梯での遊び方について話合いをする。また、職員同士も話合い、監視場所等についてもその都度改善する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	4.対象動見ていかった	配置基準に1人、加え1人を守り外全体で監視していた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	総合遊具付近で当該園児の他の園児の監視していた。	とくになし	今回の事故を踏まえ、子どもたちと雲梯での遊び方について話合いをする。また、職員同士も話合い、監視場所等についてもその都度改善する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアル有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																													実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1067	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	2	14						2	4	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	保育士がとまごとコーナーにいなかった為。	保育士同士声を掛け色んな方向から見える位置にいるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	260	柵や棚の位置	ジョイントマットでの上で危険のある骨折のことを再度職員間で確認し環境の見直しをする。	3.個人活動中・見守り	落ちていた玩具や使った玩具はにもつながるその都度片づけるようにする。	床に落ちている玩具に触ってはいけないことを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	玩具で両手がふさがった状態で移動していた為。	4.対象動物見ていた	室内遊びの見守中、本手がふさがっていることに気付けなかった為。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午後おやつの見守り、応対をしていて見ていなかった為。	見守りや位置に保育士がいなかった為。	声を掛け合いながら常に見守りやすい位置に人員を配置する。	
1068	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	82	2	10	7	26	18	19		14	12	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	危険予知、園庭での監視体制。	予想される危険を察知し、箇所箇所に職員配置をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	毎日	遊具は毎月点検をし、遊具の下にも人口芝を敷いている。	安全点検を今後も危険があれば至急個所があれば改善をする。	1.集団活動中・守り	一つの遊ぶもの子人数や距離に注意する必要がある。	一つの遊ぶもの具で子人離間意見で見守る。	1.いつもどおりの様子であった	最近、雲ができに最がようなり、まで雨ことを喜び、いつも通り、気のお合うお友と繰だちと返し遊んでいた。	3.対象児の友と遊びいた、離れた場所から全体を見ていた。	他のクラ一緒にいたも、職員は、離れたら全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	他のクラも一緒に遊んでいたため、近くにいた職員が落ちもいた下はとっさのことだった伸びたを差し伸べることができなかった。	分散して見守ったが、保育士の予想危険度の中に入っていなかった。	子どもの特性を知っておけば事故に合わない注意を払うとともに、職員同士の連携をとっていく。	
1069	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	13								3	3	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨転子部骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	他児の動似ようをみるとすが、無理な体制となりやすい。	段差で遊ぶ時の注意点を改めて子どもに知らせ、保育士も危険個所から目を離さないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	未満児用遊具が少ない。園庭が狭い。	遊具を減らす。園庭を広く確保する。	3.個人活動中・見守り	屋外遊びについての安全対策が足りなかった。	屋外遊びに前にもあそび方について知らせる。入る子どもに安全な遊び方について知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	屋外遊びを楽しんでいた。	2.対象児の見ていた近象児を見た	他児の対応をしながら児の側にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		他児の様子を見ていた。	遊具で子どもの動きにくい場所もあるので確認しにくい。	職員間で声をかけながら、安全確認を行う。	
1070	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	2								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕の骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	現園長報告　その場からの報告、その後の保護者への連絡、連絡帳、病院送ってはスムーズであったように思える	今後も急時の対応を職員全員が迅速に対応できるよう訓練した継続したい	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	鉄棒下の安全確保を要す	何らかのクッション材を敷くなどの措置	1.集団活動中・見守り		可能な限り人員を増員し目が届かないようなことを努める。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近象児を見た	鉄棒近くに職員はいたが、落下するという予想ができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びを見る職員以外は、園内での業務に従事していた。外遊びの他職員は他の園児を見ていた。		できる限り職員を遊具の近くに配置し、更に広い視野で見守りを行う	
1071	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64					37	27		9	6	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折・左尺骨遠位端骨折	1.遊具等の転落・落下	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置		・マニュアルの作成を・園内研修を実施する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	鉄棒の下にマットを敷いていなかった	直接地面に落ちた時に衝撃を緩和するように下を敷くマットを敷く	3.個人活動中・見守り	保護者がいる時にも鉄棒の上に立って遊んでいた	鉄棒の遊び方、鉄棒の上に立つとどかなる子と再度確認し、間違った使い方をすると怪我るにこりえる。を繰り返し伝ことを	1.いつもどおりの様子であった	普段から保護者がいる時にも、鉄棒の上に乗って遊ぶことがあったようだ	4.対象児をいなかった	保育室で子ども午睡の援助をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいる子ども達を見守っていた。	園庭は見守りはいが、お迎バス、午睡の時間が重なる時間で人数が少ない時間帯であった。	出来る限り外の人員を増やすと共に園庭にいる職員は、特定の子どもを見るのではなく全体に目を向ける。	
1072	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	34								3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	異年齢クラス一緒に園庭で（戸外）活動をする	子どもの行動を見ながら注意して走ると声をかけていく	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	2.不定期に実施	290		人数に対して、走るのに十分な広さがある場所の確認を行い、場所の使い方を見直していく	3.個人活動中・見守り	練習後で自由に遊ぶ時間になり開放的になっていた	普段から気を付けることを声掛け、意識を持たせていく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会練習後、戸外遊びが始まりぴにくいた	4.対象児をいなかった	他児の対応をいた為、見ていなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	周囲を見ながら園庭にいた。転倒した際に状態の確認をする	友だちとの衝突、転倒	遊ぶ前の声掛けや、保育士が目の行き届く場所に分散して立つ、見守るなど、職員の立ち位置を見直す	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教諭・幼稚園教諭・保育					死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1073	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	5			1		4			6	6	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左大腿打撲・下腿出血・筋損傷	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備にもよるの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	事故予防して関係修報告のみとなった。	事例研修・分析を行うことで環境構成の作り方、危機察知能力を培っていく	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	290	2. 不定期に実施	・玉入れネットが破れていたため、カラーポリ袋代用でネットを使用した。	・風を通さない素材を使用していた中で使用をやめる。	3. 個人活動中・見守り	・急な変更で余裕が始めなくしまった。・突風が吹いた。	・風を通さない素材を使用していたのでやめる。	1. いつもどおりの様子であった	・他の職員と共に確認を行った。その際、突風が吹き用かけがったため、抑えにとかこの転ためにとかを行う。	2. 対象児の近で対象児見た	・園児に動きの確認を行った。突風で転がった片付けの抑制を行った。	1. 担当者・対象児動きを見た(至近距離にいた)	・近くにいた職員は全員転がったかごに気を取られ玉入れのボールが倒れてきていることに気付かなかった。少し離れた所から見ていた職員がボールが倒れてきていることに気づき「危ない！」と声をかけるが間に合わなかった。	・競技中は用具が決まっている為、ボールを持つ担当が持ちしかし、競技では為対応がおやこれなかった。・競技中ボールを押さえて押さえた理由を、職員が理解を全員が理解なかった。	・急な変更を定変する際も各職員の決予・職員の共通理解を図る。	
1074	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	22				14	8			3	3	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	通常、同じ行動とっとも、なくてきたの本人職員油断があったと思われる。	改めて、気をつけて遊ぶことに伝えと、職員りないことを確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	スイミングの教室で、年長児は、1 4時以降4名と少なく、年中児との合同保育だった。16時頃スイミング教室から戻ってる園児のおやつ担当を年長児の保育教諭が行い、年少児、年中児の保育教諭が、戸外遊びの園児の対応をしていた。	木登りは、教諭に伝え、誰かの見守りをするもしくは、教諭に伝えるよう共通理解をする。	1. いつもどおりの様子であった	身体を動かすことは好きで、鉄棒で逆上がりを連続で10回以上したり、うんていやコランでとどんどん登ったりしていた。体自信はにあるが、木登りには挑戦したことがなかった。	4. 象動見なかったきていた	年長児の担当保育教諭は、スイミングから戻ったきのおやつを担当したり、戻ってきたりつのおやつを出なかった。木登りをいた本児の状況に気付いていなかった。	2. 担当者・象児動きていた	年中児担当の2名、年少児担当の2名の計4名の保育教諭が戸外で活動する子どもたちの見守りをしていた。桜のまは、ブランコのすぐそばにあるが、年中児と年長児の合同保育時であり、年中児の特別支援対応の子の支援をしながらの見守りであったことから、本児が登っていたことに気付いていなかった。本児の泣き声が聞こえたことで、すぐに対応した。	危険な行動が見られた際は、担当職員は外も気をつけようとする。	年長児の担当保育担当スイミング教室がスイミングの子たちのおやつの対応が終わるまでは、子どもは自身も出も戸外にいる職員へお願いるのを伝えるよう徹底する。	
1075	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	41				13	10	18			12	12	16. 4歳	2. 女児	●は毎週レントゲンを撮り経過を見る。●～●は２週間程度骨外れないよう固定の装具を着用。●●日完治。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	配置職員我を怪したとの距離が遠かった為。	鉄棒での遊び方を見て、鉄棒の上にってる可能な限り、助けれる距離を保つなどの意識の共有を会議等で行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		使用して鉄棒等に破損は無し。の問題は	1. 集団活動中・見守り	園児がな遊びを行った。様々	鉄棒での遊び方を見て、鉄棒の上にってる可能な限り、助けれる距離を保つことができるよう職員の配置箇所をバランスよくする。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒の技上術が向上し、繰り返していた。	3. 対象から児離れたところで対象見ていた	園庭西側に担当を主に	2. 担当者・対象児動きていなかった	園庭東側に担当を主に		鉄棒での遊び方を見て、鉄棒の上にってる可能な限り、助けれる距離を保つことができるに、余裕をもって見守ることができる配置を行う。	
1076	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具から等の転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	マニュアルに実践研修を丁寧修にする必要があった	鉄棒など危険を伴う遊具で遊ぶ前に、必ず実践研修を行う。また、園長と担任ども子の状態に合わせた安全指導も行う。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3		設備に問題はないと考えられるが、鉄棒など危険を伴う遊具で遊ぶ前に、必ず実践研修を行う等事故発防止に努める。	1. 集団活動中・見守り		鉄棒をするときは1対1で必ず行う。	3. いつもより発活動的であった(理由を記載)	前回りがはじめてうまくて何度も挑戦し時に事故が起きた	2. 象児の近で対象見ていた	対象児は見ていたが、周囲に数名子どもがお一人集くだけ中しいだった	2. 担当者・対象児動きていなかった	もう一人の担任もいたが、近くにいる、別の子どもを見ており、届くではなかった	子どものの気持ちを落ち着かせ、必ず1対1で集中して指導できる環境を整えるがある。クラス活動から全体活動への切り替わりの時間帯であった。	1対1で保育者も子どもも落ち着いて鉄棒ができるように、指導環境を整えること、16時など保育がが切り替わる時間帯には行わない。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者					事故時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									年齢	性別	特記事項		発生時状	死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1077	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	28								2	2	16. 4歳	1. 男児	身長約109cm、体重約18kg、既往歴・持病なし、アレルギーなし、発達・発育状況は多少落ち着きの無さやこだわりの強さが見られ、●●センターを受診予定である。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2. 自らの転倒・衝よる突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	なし	職員の立ち位置を常に確認し合い、声掛けなどコミニュケーションをしっかり取りながら保育することを今後も意識していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	なし	今後も必ず安全点検を行いながら、事故防止に努めていく。	1. 集団活動中・見守りあり	なし	動線上に机など障害物がなどの確認を行う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	身体を動かす事が好きで、落ち着きが見られる。	2. 対象至児の近対象児見ていた	荷物の移動によく行動ある行動だったが、少し走った。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	夕方のお集まり後で、子ども達の行き来があるので、各自の役割配置にはきちんとした。	なし	落ち着きの無さも見られるので、「ゆっくり歩こうね」などの声掛けを行いながら安全に移動できるようにする。	
1078	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	28								2	2	16. 4歳	1. 男児	身長約105cm、体重約17kg、既往歴・持病なし、アレルギーなし、発達・発育状況は良好である。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	3. 子どもも同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	なし	職員の立ち位置を常に確認し合い、声掛けなどコミニュケーションをしっかり取りながら保育することを今後も意識していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	なし	今後も必ず安全点検を行いながら、事故防止に努めていく。	1. 集団活動中・見守りあり	なし	今後もルールの再確認を行い、子どもに伝えるまでもも達に伝えていく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	身体を動かす事が好きで、成ぶが好特に跳ぶことできる。	3. 対象児が離れたところで対象見ていた	目の届くところにいたが、いジャンプする瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	夕方で降りしている園児もおり、1名で保育していた。	なし	いつも行っている遊びをしていたが、ルールを守れなかった、再度子ども達に話をし、危険回避に繋げる。	
1079	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	48	3	11	6	5	14	9			10	9	16. 4歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	当日の職員の配置について不足はなかった。	ただし、改善策として園庭・室内の子どもの状況や変動に応じ、職員の配置人数を対応していくように連携をはかる。	1. 定期的に実施	54	1. 定期的に実施	54	1. 定期的に実施	54	事故後、固定遊具の再点検を行った、特には不備は見られなかった。	今回不備は見られなかったが、引き続き、遊具点検をしっかりと行う。	7. その他	木製遊具の固定(滑り台等一体型)で数名のこどもが遊んでいた。	職員が立ち位置ち位置、職員全体で再確認をした。また、子どもの状況などしっかりと伝達を行う。	1. いつもお様子であった	最近雲梯が上達してきたもとりから、自分活動とり取りでいのして組んだ。	3. 対象児からたところ離れで対象見ていた	他にも固定遊具で遊んでいる子が数名いた為、周りの様子が見えるように、少し引いた場所から見ていた。(雲梯も含め見える位置に対象児が遊んでいる事はしっかり認識していたので、落ちたことに気付き、すぐに駆け寄った。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	木製遊具に近くにはいが、全体的な様子を見ていたので、対象児の動きはみていなかった。	保育士の視点では合ふざけ合う様子は要なく、順番で雲梯をしていたこと重なること認識。しかし、様々な原因が事なが重なる可能性があるが不足していた。	活動している園児の人数に合わせ、流動的に職員配置や立ち位置を検討する。また、来る“出来ない限り”に“出来ない”に、ケガなどのリスクを予測しておく。	
1080	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	4									44	40	16. 4歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	-	4．5歳児はほとんど雲梯ができるが、途中で降りることもある。今回は得意な子どもで体を大きく揺らしながら進んでいたため途中でしたと考えられる。大きく揺らさない、滑らないようにしっかり握るなどの約束を徹底する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	再度検証した結果、縦棒2本はうまく渡れるようになるとい勢いがついて、体が横にぶれ落下しやすいので、横棒入れ、体がぶれず棒をしっかり握られるように、遊具製作業者●●●●に依頼する。	転倒した人工芝が敷いてあり、安全は確保できていたと思う。	1. 集団活動中・見守りあり	-	特に戸外遊具の固定において、使用前の確認と滑りやすい状況に無いかを確認する。	1. いつもり子であった		3. 対象児からたところ離れで対象見ていた	同方向の別遊具でいる遊ん遊る園児を注視しており、いつもの動きだったため危険という認識がなかった	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	27名の園児に対し職員2名体制で戸外遊びを行っていた。対象児に1名、あと1名の職員は別方向で遊んでいた園児を見ていた。	-	殆どの4．5歳児ができるが、体を揺らしすぎたり最後まで行きつかない場合の降り方などを再度徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故年齢	事故状況								事故誘因	事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		性別	特記事項	発生時状	事故の転帰						ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因		負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																			
1081	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12								1	1	17. 5歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左撓骨尺骨遠位端骨折	1. 遊具から等の転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	・今回は当該園児が降りようとしたミングで、意図的ではなかったにしても、他児が回転遊具してまったことが要因と考えられる。	・遊具の使い方・遊び方を子ども達と一緒に確認し、正しい遊びができるように繰り返し指導する。・職員を配置するとき、危険のある場合は必ず職員を配置するようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	3	・回転遊具はさやろ方、使用事を守らないと険もるれる。	・回転遊具の他、他の固定遊具の点検をおこない、問題がないか、不調具合がある場合は修理をおこなう。	1. 集団活動中・見守り	・午後の時間は、子ども達の気持ちが開放的になっていても、動きもやや活動状況であったように考えられる。	・子ども達の心の状況や体(疲れ具合や集中力)などを見ながら、自由遊び面において環境の工夫と必要と考えられる。	3. いつもより発的活動であった(理由を記載)	通常は、伸びがりのタイプで、あまり回転遊具などに激しい動きのものに乗ったりすることは少ないだったほうが、この他児と一緒に楽しむ姿があった。	4. 対象動物をいた	同じ園庭で、対象児の近くにはいたが、他の対児の対応をいたため、転倒した瞬間は見逃していた。	2. 担当者・対象児の動きをいた	通常は、年長児も複数の職員で保育しているので、この時は一人の担当職員は、室内の掃除をおこなっていた。	・対象児の動きだけでなく、回転遊具を動かしてまったこの園児の動きを職員がとめられなかったこと大きな要因と考える。	・年長児といえども、園庭で遊ぶときは2人以上の保育者を配置する。また、回転遊具の使用をするときには、必ず保育者が近距離で見守りをおこなうようにする。その対応がとれない時は、他の職員にヘルプを要請する。	
1082	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	34		9	9	5	11			7	6	14. 2歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置		毎日ヒヤリハット報告を実施し改善を図っていたが、新たに「ヒヤリハット告書」を作成し、書面での記録・改善を合わせて行っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	遊具が多すぎるので減らす。(職員の見守り散漫になるため)	固定されていない遊具で必要のものは撤去した。また、ブランコの隣接間隔が狭かった為、一つ飛ばしでブランコを外した。	1. 集団活動中・見守り	朝の送迎時間帯、園庭に以上児・未満児が自由に遊んでいた。	朝夕の送迎時間帯は、園庭に以上児・未満児の遊ぶスペースを明確にした。	1. いつもの様子であった	負傷した児童(2歳児)はぶつかった児童(5歳児)と隣同士でブランコに乗っていた。負傷した児童(2歳児)が別のブランコに移動しようとぶつかった児童(5歳児)の前を横切り、ブランコをこいでいた児童(5歳児)とぶつかった。	3. 対象児から見ていた	担当職員が状況が危ないと思い、現場に向かっている最中に起きた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の受入れや担当クラスの園児と関わってお、上記職員は故現場の近くにいたが目が届いていなかった。	登園の時間帯、2歳児は朝上児が園庭に出て遊んでいた。2歳児は朝のおやつがあるための時間帯に保育室に戻る日程となっている。事故発生時、おやつの準備をする職員、外から保育室に子どもを誘導する職員、登園してきた園児を受け入れる職員とバタバタしている状況だった。	朝夕の送迎時間帯がどうしてもバタつくので、担任が担当クラスの園児だけを見るのではなく、担当場所を離れる時など声を掛け合いながら合同で見守るよう今まで以上に徹底していく。また、職員の立ち位置を図で示し必ずその周辺で子ども達を見守るようにした。	
1083	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	147								6	6	14. 2歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の打撲	2. 自転車による転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置		職員配置等ソフト面でのこれ以上の改善は現状難しい	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		静的活動と動的活動が混在しないよう環境設定を工夫する。遊びのゾーニングの検討	3. 個人活動中・見守り		大多数の子どもが同様の活動を行っている中でのトラブルに目をつけつつ、それ以外の活動も子ども達の活動の保証できるよう職員間のポジショニングを考える	1. いつもの様子であった	他児は保育室中央にてをスを踊っていたが、当児は両付近にダンスを踊っていた、該児は両手にブロックをまとまった持ちごとコーナーの一方の走ってへんき転いだ	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児と共にダンスを踊っており、該児だんには向けた背を状態であった。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	当該児がいを走っていて様子を目視したが、距離が遠かった為間に合わなかった。		大多数の子どもが同様の活動を行っている際、そのトラブルに目を配りつつ、それ以外の活動も子ども達を見守るようにした。	
1084	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	14								3	2	16. 4歳	2. 女児	転びやすい。とっさの行動が不得意である。	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 上肢(腕・手・手指)	右手首の骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	園庭に3クラス一緒になって遊んでいた為、場所によっては混雑している部分があった。	とっさの行動にも対応できる全体を把握し、職員間でもしっかり連携しながら見守っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	使用時	3クラス同時に遊ぶには、園庭の広さと遊具が十分ではない。	園庭に出る人数や月齢も考えていく必要がある。	1. 集団活動中・見守り	他のクラスの担任との連携と、配慮が必要な子どもの把握が不十分であった。	子ども自身への、周りの状況を見ながら危険回避できるような習慣付けと、職員間の連携の徹底。	1. いつもの様子であった	健康状態良好。普段との変じ化は感じられなかった。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	園庭で遊んでいた子どもの子体を守った。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	該当園児の近くで、全体を見守っていた。その他の職員も、それぞれにそれぞれたちと遊びながら見守っていた。	職員数も多かった為、注意が分散してまった。	職員の数に安心せず、職員一人ひとりが周りの状況をしっかりと把握できるようにしていく。	
1085	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	24				12	2	10		4	3	17. 5歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 下肢(足・足指)	左足薬指骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	-	活動をする前にどのような危険が潜んでいるかを想定して児童及び職員と共有する。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	-	屋外遊技などの場所で広い場所で行う。	1. 集団活動中・見守り	活動内容に対して多人数が多かった	人数制限	1. いつもの様子であった		2. 対象児の至近で対象見ていた	一緒に活動ながら児童の様子を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	一緒に活動ながら児童の様子を見守っていた。	-	活動中も接触や転倒などに気をつけ声掛けを行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教諭・幼稚園教諭・保育						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
1086	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	4	1		2		1			3	3	17. 5歳	2. 女児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指先裂傷	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	これまでに問題視してなかった場所での事故なので、改めて危険個所を職員で協議する。	危険個所は日頃から子ども達には約束事として口頭にて説明しているが、危険であることを文字・イラスト等で可視化させる。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施		危険個所は日頃から子ども達には約束事として口頭にて説明しているが、危険であることを文字・イラスト等で可視化させる。	これまでに問題視してなかった場所での事故なので、改めて危険個所を職員で協議する。	7. その他	水道メーターの蓋が重い物なので、子どもが持ち上げないと思いでいた。	保護者の方には、用件が済み次第、子ども目をさずかに下離さずに下離してもうよう意識してもらう。	1. いつもどおりの様子であった	降園の時間で、保護者に引き渡しを済ませた後、同クラスの友達と玄関先で遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	遅番の担当職員が、保護者２名を対応して（伝達事項等）、子ども行動に入っていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園の時間帯で、保護者の姉妹の下の子ども取られ（2世帯各同クラスの姉妹・兄弟）年長ども子には親と帰るまでは敷地内から出ない事だけを伝えていた。	保護者に引き渡した安心感があった。水道メーターの蓋を開けるがなかった。	危険な場所の再確認と可視化による注意喚起の声掛け。	
1087	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	25								3	3	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施		1. 基準以上配置	築山の上でお追いかけごっこしていて、逃げるのに必死であった。	築山の追いかけごっこの際は注意して遊ぶよう指導した。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	その都度（週１回以上）	園児本人が追いかけごっこに夢中で、周りが見えなくなりこった故。	特に修繕ができない箇所であるため、改善はできないが、注意するよう指導を行った。	1. 集団活動中・見守り	ある程度、注意を払いながら遊ぶ箇所である。	あまり起こる事故ない箇所であるため、当面は注意しながら見守る。	3. いつもより活発的であった（理由を記載）	友達と追いかけごっこしていて、いつもより活動的であった。	3. 異年齢児が離れたところ見ていた	築山を何人かいかけごっこしていて、気にはかけていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	たまたま目を離している際に転んだため、目撃はしていなかった。	－	子どもたちへ危険な箇所であることを伝え、注意するよう指導を行った。	
1088	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	21			8	6	7			1	1	16. 4歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	登園や朝の会前の時間帯であった、危機管理と日常保育について配慮不足であった。	施設内・室内での過ごし方故、事故防止マニュアルの徹底を職員に図る。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	－	廊下での単独転倒なのためなし。	1. 集団活動中・見守り	玄関には園児受入3名。担任は各クラスで対応。以上児園児は自分クラス行き、朝クラスに自分クラス行き、朝未満児は各クラス誘導。クラスや廊下には園児達が朝の準備の為、多数いる状況。	目配り声掛けを再周知し徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	9時ごろ登園し、いつも通りの様子だった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	クラス担任は、クラスで子ども対応をしていて、登園したお廊下を走っていたのを見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時間帯は、登園児童の受入職員3名、他の職員は各クラスに入った。他の登園して来た児童（未満児）の対応をしていた為、対象児の転倒は見ていなかった。	－	施設内・室内での危険性を再確認し、見守りや声掛けを怠らないよう配慮する。	
1089	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	28				18	10			2	1	16. 4歳	1. 男児	特記なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第４指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	職員配置を考え、なを死角部分が起こす事故やすい場所、個々の特性などに配慮する。	前の人が滑り、居なっを確認して滑り降りる事や、職員を見直し事故防止に努める。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	24	特になし	遊具には問題なし。	1. 集団活動中・見守り	園庭遊具しい方や方を遊び方を正しい使び方を対象児に徹底対象周知していなかった。また、言葉かけ等が不足した。	事故が起きた原因を分析し、どのような行動危険なのか理解をしてもらえる関わりをする。	3. いつも発活発的であった（理由を記載）	普段から一見発面があるが、戸外あそびであったり担任が1人あったとから、普段も落ち着きが注意しなければ状況だった。あそびの中で気分が高まり、危険な行動をしまったらと考えれる。	4. 対象児の見ていなかった	園庭全体の見守りをしていたが、対象児を気にしてしまったことを対象にけることはできず発生してしまったことを対応するができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体の見守りをしていた対象児を見ていたが、対象児を特にというはでおらず事故発生して迅速なすることができなかった。	対象児を特に気にかけるが必要があったらず、全体の1人としてしか見守りを行っていなかった。	常に対象児の行動がわかるよりを整え、迅速に対応できるようにする。	
1090	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	19			7	5	7			1	1	17. 5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	年中児男児。定型発達児。	事故予防研修はっているので、職員もしっかりマニュアル通りに見守る事ができて、一瞬でケガがになることを今一度周知しく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	365	特になし	公園の遊具、設備は問題なし。	1. 集団活動中・見守り	特になし	環境面での改善策はなし。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通発でり、活発でに遊んでいた。	2. 対象児の近くで対象児を見ていた	滑り台のにいたそばした。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	プランコのそばにいた。	年中の男児。発達・発育に問題なし。順番に待ちをして、合場所集に行こうとしていたので転倒するとは思わなかった。	集合などに声掛けをするは、具に行って、園児の近くで声掛けしながら一緒に歩いて移動する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 教育・保育等従事者 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転倒 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 負傷 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者										ソフト面									ハード面									環境面				人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
1095	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	36	0	0	0	11	16	9	0	6	6	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	二の腕骨折	1. 遊具からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	6	2. 基準配置	子どもの思いもよらぬ行動（遊び等）に対して見守り、対応等の心構え	園庭で士の保育士位置を含め、安全面での再確認を行う	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	ほぼ毎日	1. 定期的に実施	ほぼ毎日	対象児が中して遊んでいるときの思いもよらぬ他児の接触により、びっくりして転落。	他児にも安全な遊び方について丁寧に伝えるとともに職員間でも原因や安全面について話し合い、共有し、実践につなげていく。	1. 集団活動中・見守りあり	上記記載以外にアスレチックが滑りやすくなっているとも考えられる。	ペンキかえ等ぬりなことで滑り防ぐ、丸太の下に落ちた時の考え方、丸太ウレタンマットは、設ころる。	1. いつもどおりの様子であった	対象児が園庭のアスレチックの丸太を渡っているところに下からお友達にツンツンされ、（対象児は、お友達が見界に入っていない状態だったのか）びっくりし、そのまま約70㎝の丸太から転落。強い痛みを訴えることなく、腫れや青あざ等がなかったことから保護者にその旨を伝え、帰宅となる。	3. 児から離れたところで対象見ていた	対象児にとってはアスレチックにいても慣れることあり大丈夫だろうという思い夫という思い、担当職員の任は、児の見をした。他に声かけるべきだった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	園庭で遊んでいた全園児が、園庭からお部屋に入る時間帯ということもあり、園庭玄関側の遊具片付けを促しや保護者対応、お部屋への誘導を行っていた。（対象児の至近距離にいたわけではない）	保護者の時間お迎え時間、園庭お部屋から入る時間帯、保育士の立ち位置、安全見守りや崩れすがすいが条件なっも考えた原因と考られる。	毎日、朝、園庭での3, 4, 5歳児合同保育があるので子どもの安全を最優先に保育士の立ち位置等再確認を行い、実践していく。	
1096	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	23	0	0	0	0	0	23	0	21	19	16. 4歳	1. 男児	・食物アレルギーのため、乳、卵、豆乳、サラダせんべい、米菓子除去食対応	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		1. 意識不明		アナフィラキシー	6. アナフィラキシーによるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	検査結果を待って対応する。その間は、医師と保護者のアドバイスに従う。	原因がはっきりするまでの間、乳、卵、豆乳、サラダせんべい、米菓子除去。蕁麻疹などのアレルギー症状出ないか、食後は注意して見守る。園内研修等を通して、救急対応とエピペン使用について、再確認する。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	検査結果を待って対応する。	食事中は定員一人ずつ席を固定し、掛けることで防ぐ。	1. 集団活動中・見守りあり	原因不明のため、検査結果により再度対応を検討する。	原因がはっきりするまでの間、卵、豆乳、サラダせんべい、米菓子除去。蕁麻疹などのアレルギー症状出ないか、食後は注意して見守る。	1. いつもどおりの様子であった	おやつを食べ終えまでは、異状なし。その後、アナフィラキシー症状。	2. 対象児の近で見ていた	対象至児を見られたので、救急搬送し、実施。	異常が見られたので、すぐ本児に送を検討	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	他児への対応。	不明	除去食対応の徹底、経過観察、アナフィラキシー症状がみられたときの対応の徹底。	
1097	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	23								2	2	17. 5歳	2. 女児	1か月間の固定	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手中指骨端骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置		特になし	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日		特になし	1. 集団活動中・見守りあり		特になし	1. いつもどおりの様子であった	毎日の体操（走り、柔軟～その他）全てにおいて、積極的に参加しんで楽しでいる。毎日もいい当日つもと変りなく、体元気に動に取り組んでいた。	2. 対象児の近で対象見ていた	本児の逆立ち練習中外部講師が、側につき本児の動きがの見声掛ける。バランスが崩れるようになるタイミングで本児の足をかまえ補助する、体勢が崩れてしまう。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	体操の内容レベル別に各コーナーに分かれ、各コーナーに担任（２人）外部講師（２人）がついていた。	歩きにあたって、本児のやるはずの十分だったは？と任同話し分析することができた。	腕の力を強化する時間をしっかり設けるようにし、引き続き、各コーナーに大人が見守り～多く着き、見守り～声掛けを持つよう配慮する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
1098	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	10								2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足骨折(脛)	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置		特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園内の施設・遊具・玩具については定期的に安全点検を行っているが、園外遊具についてはその都度目視による点検を行っている。	特になし	1. 集団活動中・見守りあり		特になし	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近で対象児を見ていた	繰り返し遊んでいる当該園児をかけ守った。時々サポートをしながら対応していたが、保育士を他園児の声に気取られた瞬間に転落し、手を伸ばしたが間に合わなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故発生場所の隣にある小さな滑り台の全体を見守りながら、当該園児の様子を見ていたが、瞬間的に手の届く距離ではなかった。		園児が高い場所で遊んでいる場合は、その場を離れず、目を離さないようにする。他園児の呼びかけがある場合も、安全管理を最優先とし、一声かけて待ってもらい、安全確認ができてから対応するように心がける。	
1099	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	6. 午睡中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	22								5	4	13. 1歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		1. 意識不明		熱性けいれん	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	1～2	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	特になし	特になし	5. 睡眠(午睡)中	発熱によるけいれん	こまめな検温、健康観察を行う。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近で対象児を見ていた	午睡から覚めた様子を見ていたが、癌爆を起こしたことに目をすぐに救急車を要請した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	午睡時間書類記入のため近くのテーブルに座り事務作業をしていた。癌爆後は動画撮影、事務所へ連絡。	発熱による発熱けいれん	こまめな検温、日々健康観察を行う。癌爆が起こった場合は、救急車要請し救急搬送。癌爆時の動画撮影。水分補給や休息はこまめに行う。感染症発生時にはその都度保護へ配信を行う。	
1100	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	17	0	0	0	8	5	4	0	2	2	16. 4歳	1. 男児	今年度より特別支援保育を受けている。普段から活発であるが、認知・適応、言語理解でのアンバランスさがある。気持ちが昂ると、指示が通らない事がある。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置		特になし	1. 定期的に実施	1回/週	1. 定期的に実施	1回/週	1. 定期的に実施	1回/週		特になし	1. 集団活動中・見守りあり	遊戯を行楽しみにしており、興奮いるが見れ、気持ちが昂り全力で走った事があり止まり切れず転倒したと思われる。	子ども達が昂り興奮していたので、一度始まる前に話をし昂ったをかせた方が良かった。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会練習が楽しみで興奮気持ちが高ぶっている様子。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	遊戯の最中で、担任の近くも本児も、移動の際に担任全員走った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任含め、全員で遊戯を行っていたので、担任一人いたが、もう一人の担任は自分の児を見ていた為。		特になし	
1101	令和6年6月10日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15		1	7	3	4			3	1	18. 6歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨にひび	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置		園庭遊び前に子ども達と園庭遊びの際に気を付けることを話す。写真を使って説明する。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1		施設の安全点検・遊具の安全点検を年4回に増やす(6、9、12、3月)	1. 集団活動中・見守りあり		園庭遊び前に子ども達と園庭遊びの際に気を付けることを話す。写真を使って説明する。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近で対象児を見ていた	近くで見ていたが、急に飛び降りで声を掛ける時間はなかった。手を離すついちまで、すぐ駆け寄り怪我がないかチェックした。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	別の子ども達を見守っていた。		園庭遊び前に子ども達に園庭遊び前に気を付けることを話す。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的にどのようにしていたか | 他の職員の動き | 具体的にどのようにしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位																										
1112	令和6年6月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	34									4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	事故予防に関する研修を再度行い、事故防止に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1回/日	適正年齢に合わない遊具を利用しない。	1.集団活動中・見守り	保育者が見守り並んで雲梯で遊んでいたが、保育者がいない方向からジャンプをし雲梯を掴もうとして落下。	約束事（保育者と一緒に雲梯を行う。保育者が見えないところ、いないところへは行かない。並んで順番を守って遊びに参加する。など）を再度確認し、子ども達に声掛けを行い伝えていく。保育者の立ち位置を再度話し合い、確認を行う。年齢に見合った遊具か再度見直す。	1.いつもどおりの様子であった	順番で並んで雲梯遊びを行っていたが、並んでいる反対方向から雲梯もうンジャンをとびつる。雲梯を掴むことが出来ずに落下し、左腕を強打してう。	2.対象児の近く対象児を見ていた	順番で並んで雲梯遊びを行っていたので、他児の雲梯の見守り・援助を行う。並んで雲梯遊びをする姿があったが、何度か並んだ後に反対側からジャンプをしている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具（階段や滑り台など）の見守りを行う。		約束事（保育者と一緒に雲梯を行う。保育者が見えないところ、いないところへは行かない。並んで順番を守って遊びに参加する。など）を再度確認し、子ども達に声掛けを行い伝えていく。保育者の立ち位置を再度話し合い、確認を行う。	
1113	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36					15	21			2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	転び方で骨折することもあるという認識が薄かった。	危機意識を持ち、危険はいつも隣り合わせであることを意識していること。事故防止委員会や研修を通して共通の理解をし保育にあたること。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	園庭の状態や遊具地周りの柔を点検し固いは耕し、凹凸時には均しているが、隅々まで管理届いていなかった。	毎日複数の目で園庭の状態をていき、異常があ時は細目に情報交換をし必要がある。	1.集団活動中・見守り	遊ぶ中で走った際に何つまづいて転んだ。手の方が悪くにつながった。	普段の遊びの中での怪我だが、職員は常にそれぞれの子どもの様子が気になりながら見守り、危険が伴うようならば子に声を掛けに防げるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと中庭のの走ってその際に転び、内転したまま手をつき怪我がった。	2.対象児の近く対象児を見ていた	事故発生で子の様子で近く数の複数のもの子どもをみていたが、事故前に他児ラブルの仲立ちしていて時に事故が起こったに駆けに駆け付け看護師に報告した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた幼児遊具付近で複数のこどもの様子を見ての児の様子は見ていなかった。	常に十分注意をして子どもたちを見ているが、気を引き締め見守る必要がある。	常に子どもの行動を予測し、様々な場面に危険の可能性があることを職員同士共有・連携して注意を払っていく。	
1114	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	12	なし		1.集団活動中・見守り	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	園庭を元気に走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	転んだりぶつかったりする様子も見られなかったので、本児の様子に気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人員の職は、園庭他にいの園児を見ていた。	両足を滑らせながら急ブレーキをかけた時、横向きになってと（右足）に全体重がかかったのではないかと考えられる。	日常の遊びの中で、いろんな部分の身体を動かすことを経験していく。子どもたちに繋がることどんなことがあるか等 気になることを付けることを伝えていく。	
1115	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26					8	9	9		3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	3.子ども同士や衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3～4	2.基準配置	本児、しゃがんでいるがんでいろにこっていたが本児に気づかず走りこんで衝突し、転倒した拍手子に右手首を殴打した。	園庭あそびの際の職員の配置を見直し、危険が伴いそうな勢いがある時には、早目に声をかける等職員の喚起を徹底した。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	なし		3.個人活動中・見守り	職員の見守りの見直し。	園庭あそびの際の職員の配置を見直し、危険が伴いそうな勢いがある時には、早目に声を等注意を職員の喚起を徹底した。	1.いつもどおりの様子であった	走って回って児童は遊びのあそこんで遊んだ走っるものらかったとみられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1対1で保育する年齢ではないので、自分の範囲の子たちの様子を見て、状況せしに合わせて対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所からの子どもたちのあそびを見守っていた。	本児が、しゃがんで遊びのあそこ本児に気づかず走りこんで衝突し、転倒した拍子に右手首打しを殴打した。	園庭あそびの際の職員の配置を見直し、危険が伴いそうな勢いがある時には、早目に声を等注意を職員の喚起を徹底した。	
1116	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53					16	21	16		4	2	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	逃げることになり、他児の動きや狭い場所などに向かず、危険を察知することがかった。	周りの様子に注意しながら遊ぶよう伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	一日通して暖かく、体もすく動きい日であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が鬼ごっこしていたのを園庭見ていの中で守っていたが、園児も走っていたので、喧嘩に防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭全体が行き届くよう、保育士4名の保育士を配置していた。	楽しく鬼ごっこをしている中で、周りを見ながら走る事ができなかった。	毎日体操や器具を使用した運動の時間等で他児や周辺のものを避ける瞬時に判断をしたり、瞬発的に動かしたりする力を養っていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面									ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
1117	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	2. 施設敷地内(園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	12								2	2	16. 4歳	1. 男児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右モンテジア骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	午前中5歳児が中心になって組木の家を作っていた。その家の上にこの時間4歳児(未児)と女達1人がふって遊んでいたが、落下もないしれない という認識が甘かった。	年齢発達ごとの危機管理についての認識の甘さが事故につながったと思われる。各クラスごとの発達と遊び危険さがクラスごもの発達と遊び危機環境について話し合った。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	240	固定遊具については危険な遊び方等の共通認識をしているが、組木については作り方で形状変わるので、いつもと違う場面の危機管理が必要。	組木遊具の安全な使い方について職員間で周知する。	3. 個人活動中・見あ守り	久しぶりに5歳児が午前に盛りがって上手に組木の家が4歳児の目を引いたと思う。4歳児には危険なかったと思われる。	組木で作った家園庭はある。4歳児用で、入室片付けておくべきだった。	1. いつもお様子もりの子あった	本児は活発で、友だちともかかわり毎日元気に遊んでいる。友だちとすることにも興味関心があり、事故の時も一緒に遊んでいるそうやっている。ことに手を出してしまったためと手を払いのけられてバランスを崩してしまった。	2. 対象児の近で対象児見た	組木はバランスよく組まれていて上にのぼっても不安定ではなかったため仲よく遊んでいる二人に危険を感じなかった。そばで見守り背を向けた直後の落下だったため、担任は大変驚やでいた。4月担任が変わり4歳児の発達、運動能力個々の様子等十分把握していなかったため危険に対す甘かったとも思われる。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	4歳児が57～8名戸外に担任とともに出ていた時、0歳児担当職員(前年度3歳児のクラス担任)が戸外で掃除をしながら4歳児の子どもたちを見守っていた。落下し担任以外の職員もすぐ気づいて駆け付けられる場所にいたためすぐ対応したが、遊んでいる様子から危険は感じなかったとのこと。	新年度クラス担任変わり、見守り視点の甘さによる認識の甘さ事故であると思われる。	どんな遊びにもリスクがあることを踏まえながら見守っていく職員間で危機管理マニュアルを再確認し	
1118	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	46			17	14	15			6	5	15. 3歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘の骨がにヒビが入る	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	自分の場所ほしくて来なかったことから、突き飛ばすようなしまっすぐ応てた。	押してしまった子どもは、自分のパーソナスペーまったあり、他児の関わりが難しいことを把握し各職員にも共有する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	250	1. 定期的に実施	12	築山にあるトンネルは視界が限られ職員がつづらい場所もある。	子どもの数や状況に合わせて、使う玩具や遊ぶ遊具も考えていく。	3. 個人活動中・見あ守り	迎えの時間ということもあり、保護者と話している者と全体に目が行きづらい。	職員の人少なって数もなっる為、クラス関係なく職員間で声掛け、子子様子を見守る。	1. いつもお様子もりの子であった	築山で遊んでいた。一緒に遊びたいという思いから、友達に近付いた。	4. 対象動物見なかった	対象児の見動きから目ておらず、横たわり泣いていてあり付いた。	2. 担当者・対象児をていなかった	築山上には職員はいたが、トラブルや泣き声に気付かなかった。	職員の築山での危機管理の理意識が薄く、トラブルに気付かなかった。	築の転倒性ある遊具の近には必ずつき、子ども同士のトラブルにも瞬時に対応できるようにする。	
1119	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	77		12	14	17	19	15		11	11	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	12	2. 基準配置	・雲梯で危険に慣れが生じ安易に考えての遊びに繋がった。	・雲梯に付いた職員が危険を生じなときにはその都度注意を促していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	52		・問題が生じた全員に職員に伝えていく。	1. 集団活動中・見あ守り		・遊びに生じてきているときはその都度声を掛けていく。	1. いつもお様子もりの子であった	・雲梯がなたに好き順番に並び何回も楽しんでいた。	2. 対象至児の近で対象児見た	・雲梯のこの場所にやって子の見様子を様子いる。危ないと掛けきたいた。	2. 担当者・対象児をていなかった	・他の職員は自分場の持ち場を見ていた。		・全体を職員を見る危険を感じたに声を掛ける。	
1120	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	19			7	6	6			3	2	17. 5歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕の左橈骨・尺骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1～2	1. 基準以上配置	雲梯付近に監視役いたが、他の危険が発生しその場を離れてまった。その際に、該雲の園児が雲梯を何本か飛ばしてやろうとして落下し、骨折し、誰もその現場を見ていない。その後カメラ防犯で経緯を確認した。	雲梯は先生が見守ているときに遊ぶというルールを子どもに伝え。雲梯を園庭の中でも見やすい位置へ移動した。	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	240	雲梯付近に監視役が他の遊具に移動しまうと視役の見えない位置であった。	雲梯を見の位置へ通しい位移動した。	1. 集団活動中・見あ守り	雲梯付近位置役しの定位置に監視を配置していたが、他の危面場なの遊具がありの危険がありてまった。その時に何本か飛ばしてしまった。	監視役が雲梯付近を離れる見守と雲梯れないきは使用しないルルを作った。	1. いつもお様子もりの子であった	夕方の合同保育での外遊びの時間に何の雲梯を飛ばしてしまっ進もしてうとしたかみ損ねてしまった。もし、損落いらなに立ちるその上がの場が、ちすから動かなかった。	3. 対象児離児とで対象児見た	象からたところ児を見ていた	1. 担当者・対象児をていなかった	担当職員と事務職員で協力し事務所へ搬送し三吊保へ連絡し、お迎え時保護者へ連絡し、お迎え時保護者もにカメラ確認した。	何本か飛ばして梯をやる危ことや安険ことな遊びに全方ついて子どもたちへ周知されていなかった。	安全な遊び方、遊びの使いや方を伝えく。	
1121	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	51		6	5	11	12	17		18	14	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	数	1. 基準以上配置	唐突に走り出した対児に対し、静止掛けの声ができなかった。	鉄棒・縄跳びなど、動きが大きくなるあそびを実施している時は、周囲の子どもたちへの一層の注意をし、こまめに声をかける、タカの鷹組あそびについて、再度配置の見直しを行い、整理していく。一外に出る時間をおやつ後から15：00からに変更し、職員が必ず園庭あそび及び門扉、お迎え時応にについてから子どもたちを戸外に出すように変更した。また、お迎えの保護者がきたお子どもたちには、帰りの支度をすることを伝えることもに、すぐに向かえるように見守りを強化する。	1. 定期的に実施	290	1. 定期的に実施	290	2. 不定期に実施	290	特になし	なし	1. 集団活動中・見あ守り	保護者のお迎えあり、園庭でのお迎えあり、そびが煩雑になる時間で、子どもたちのへの中かなり、あそこの集中が続かった。突然定外のすを合がる場合があった。	上記も記した通り、子どもが外へ出るための職員の時間や動きを再確認し、事故防止に努める。また、子どもたちにも話をして、お迎えが来たら、遊びに区切りをつけて、お迎えの保護者と帰ることを、ことあるごとに伝えていく。	1. いつもお様子もりの子であった	縄跳びには周囲の子を見ながら過ごしていた。	2. 対象至児の近で対象児見た	縄跳びをしていた子どもが「ちょっと休憩」とと縄跳び外れ縄のもっとからたのもまま、憩のたちが尽るのを待ち様子待ち周囲の見ていた。	1. 担当者・対象児をていた(至近距離にいた)	それぞれの持ち場にいて、子どものをたり、子あそびたり、お迎えの保護者にお応をしていた。	縄跳びの子どもたちが休憩に入った時点で、時点で、縄を寄せなどの配慮があった。	道具を使った遊びをして場合そ場の集中を見守りつつ、早目に道具を寄せて、片付けに入る配慮する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																						
1122	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)		1. 施設敷地内(室内)	28				10	10	8			3	3	17. 5歳	1. 男児	精神的、運動発達的に同年齢の児と比較し、若干幼い印象の児である。穏やかな性格ではあるが友だちは多くなく、性質や興味が似ている特定の男児と気が合い、普段からままごっこなどをして一緒に遊ぶ様子が見られる。	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他		3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨不全骨折(ひび)	3. 子ども同士の衝突による	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置		・室内で遊んでいたため、園児それぞれの遊びを見極め、危険が感じられる際は声を掛けるようにしていく。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	210	1. 定期的に実施	210	・遊びの空間設定、玩具の量、使い方などへの配慮。	・静と動を分けて遊ぶ空間を分けることや、玩具などがかりそうの適意り用りけるを明確にしていく。また玩具の適正な使い方を知らせていく。	3. 個人活動中・見守り	・夕方は一日の疲れが出やすい時間帯であることや保護者がみえるので、園児たちも何となく落ちず、気持ちがこもられる。	・室内で遊ぶ際、動の分工夫、動のエリアには机や椅子などは片付けて広いを確保をるとでいく。夕方の時間帯で次々と見える対応も中、の仕方ていえと考えく。	1. いつもどおりの様子であった	・いつもように楽しのよう遊びしていた。	3. 対象児が離れたところで対象見ていた	・至近やところ離れたという、同じ部屋子どもたちと遊びながら、体をしていた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	・至近やところ離れたという、同じ部屋の子どもたちと遊びながら、全体を見通していた。	・全体を見守っていた。	・今回の事故を受けて、改めて全体を見守る危機管理の際に、研修で『意識的に『見る』』ということに焦点を当て、園全体で周知していく。	
1123	令和6年6月10日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)		2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	87			19	22	24	22			9	9	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他		4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	なし	なし	1. 定期的に実施	245	1. 定期的に実施	245	1. 定期的に実施	245	なし	なし	3. 個人活動中・見守り	なし	なし	1. いつもどおりの様子であった	キックボードに遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	他の園児と遊びが見守った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と遊んでいた見守っていたりしたものいなかった。	なし	なし	
1124	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中		2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	12		2	1	3	3	3		2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置		事故(防災)防止委員会を開催し、事故についての職員の意識を高める。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	240	なし	施設・設備には問題なし	7. その他	雲梯棒での遊び方	雲梯棒を使用して遊ぶ場合には必ず職員が近くに補助なが使用する。	1. いつもどおりの様子であった	雲梯棒に下がって次の棒を掴もうとした際、両しまいて落下してまった。	4. 対象児の動きていかった	近くに職員はいたが全体の動きを確認するし少間、目をしてまった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	園庭の別の危険個所で他の様子を見ていたため、見られていなかった。	危険を伴う状況への保育教諭の危機管理不足。	どういった状況が危険につながっていくのかを改めて話し合い、監視の仕方を考えていく。	
1125	令和6年6月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)		2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	23			12	3	8			5	5	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置		事故(防災)防止委員会を開催し、事故についての職員の意識を高める。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	240	なし	施設・設備には問題なし。	7. その他	クライミングでの遊び方	クライミングを使用して遊ぶ場合には必ず職員が近くに補助をしながら使用する。	1. いつもどおりの様子であった	クライミングを登ろうとしたときにろうとした足をせまってしまった。その際、顔の近くにあった手で持つ所に強くぶつけてしまった。	2. 対象児の近で対象児見た	クライミングに本児以外の他児が遊んでいたため、対一ではクライミング近児も遊ぶ一は見れていなかった。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	園庭内の整備や保護者対応を行っており、本児の動きは見ていなかった。	危険を伴う状況への保育教諭の危機管理不足。	どういった状況が危険につながっていくのかを改めて話し合い、監視の仕方を考えていく。	
1126	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後		1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	18								2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	2. 不定期に実施	10	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守り	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもの機嫌ごいつ通りよくしていた。	2. 対象児の近で対象児見ていた	近くで、全てこども全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	子ども達の降園の準備をしていた。	昼活動後と外でのもあり、いることがりがしてことら気持ち高揚いたが考えれる。	クラスで、こども達と怪我に繋がる危険な行動について確認し、移動時は歩くことを意識するよう伝えた。こどもが通る動線には安全確保の対策を徹底する。	
1127	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	3. 昼食時・おやつ時		1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	16								6	4	14. 2歳	1. 男児	てんかん・熱性けいれんの既往なし	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		1. 意識不明		小児良性てんかんの疑い	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	3～4	1. 基準以上配置	なし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	特になし	6. 食事(おやつ)中	なし	特になし	2. いつもより元気がなかった(理由を記載)	「いただきます」をしたもぼりの後やおりして自分で食べるお子がなかった。最初の一口は援助されたが、その後は自分で食べていた。	2. 対象児の近で対象児見ていた	当該児童の児童後席の食事介助を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	他の児童の食事介助を行っており、当該児童の動きは見ていなかった。	なし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1128	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17								1	1	18.6歳	1.男児	●/●～インフルエンザAに罹患し、自宅療養中で受診ができなかった。自宅安静中でいたシーネ固定を外していたため、経過が長引いている。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左　小指PIP関節骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具安全点検の検を定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中守り	特になし	活動中、もりの様子みま制があったため、特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	5歳児クラスの好きな遊びであるドッジボールで、試合形式ちが高揚していた。	3.対象児離れたところで対象見ていた	全員参加で試合形式で行っており　担任保育士は審判をしながらも見守りしていた。クラス	2.担当者・対象児の動きをていなかった	担任1人で保育を行っていたため、他の職員はいなかった。	ドッチボールを楽しみ、気持ちが高揚していた。	活動中は、こどもたちはもたちけ声をかけ、高揚時には一旦集合し、落ちも着いて活動を再開する。	
1129	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13								1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼(右上A)	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	今後も研修等を通じ、一人一人の危機管理意識の一層の向上に努める。	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	特になし	定期的に点検すること安全実施すにとを確ヒ、ハ安ヒ加ヤリ員の気づきし、事故防止に組む。	1.集団活動中守り	子ども数に対してコートが狭く、ボールをようていた児童に該児童に離れた所に3人の児童もボールを受けと当該児童の勢いよったため。	子ども数に合わせてコートの大きさを考慮し、1つのボールにする危険密集事性を伝え、約束をしてからドッジボール開始する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりなく元気に過ごし、達と一緒にボールチ遊びをしていた。	3.対象児離れたところで対象見ていた	担任はドッジボール審判のため、ドッジボールコート外側中心に立ち、全体を見ていた。当該児童は外野のためドッジボールコート外におり、当該児童がボールを受けようとした時、他児3名が当該児童と重なったため、当該児童にボールがぶつかった様子は見えなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	1人担任で5歳児13名を見守っており、所庭には5歳児以外にはおらず、他に当該児童の動きをていた職員はいなかった。	特になし	見守りの立ち位置や視線の角度を、子どもの動きや状況に応じて対応する。	
1130	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53		12	2	17	22			6	6	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	左側頭部打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	事故後発見した職員が、頭を本が打っていることに気づかなかった。	些細な傷に思われても油断せず、園内に看護師がいる場合には看護師に診せる。看護師がいない場合も1人で判断しようとせず、周りにいる保育者と連携を取りながら対応を考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし。	1.集団活動中守り	園庭で複数の遊びが混在していた為、転倒に繋がった。	遊び毎に、エリアを区切り安全に遊べる環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で鬼ごっこ中になっていた。	4.対象動の見ていかった	鬼をごっこしていることは知っていたが、当該児童を常にわけではなかったが、転倒後に気付いた。転倒は監視カメラで確認した。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	少し離れた場所で他児の見守りを行っていた。	保育者が分かれて見守っていた。当該児童を近くにも保育者がいが、事故発生時には当該児童を見ていなかった。	保育者同士声を掛け合い、エリアを見守っているか明確にすることで見落としがないようにする。	
1131	令和6年6月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34			18		16			5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2～3	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	随時	1.定期的に実施	随時	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に実施している、特になし。	1.集団活動中守り	後ろを向いて走っている児童に、多数が一斉に走ったため、ぶつかり状況だった。	人数を分けたり、ルールを決めたり子どもが走るトを向いているが、後ろを向いて走る危険な行為が見られたら、すぐに声をかけ注意する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は気方が後ろにのかを向いて走った。ことに中ていた、注意に対象が散漫になった。	4.対象動の見ていかった	担任2名が2クラス合同で児いこをしていた。園児が入り乱れて走る状況で、園児逃げからなかったため、園児一人ことは状況だった。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	全体を見守っていた。	全体を見ていた職員が、当童が該児ろを向いて走っていることに気付いたが、声をかけ前に転倒してしまった。	走るときは前を見て走ること、声をかける。	
1132	令和6年6月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	3								2	2	9.8か月	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	年齢別リスクチェックに抱っこひもの扱い、体位変換の留意点についてを追記する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	特になし	特になし	5.睡眠(午睡)中	他児を起さないこよう焦ってしまった。	おんぶでは抱っこなどなく、ぶつ無理のない体位にするべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	当該園児が体位変換中に体勢が崩れてしまったためつながった。しかし事故後も再び眠りにつき、起床後も特に変わった様子はなく、高熱などもなかった。	1.対象児ンマン態(対象児した)	起こさないように焦ってお寝かしつけたり、前抱位よりこひもを緩めた時、当児がずれまった。転落してしまった。	2.担当者・対象児の動きをていた	正規職員休出ており、休憩対応の職員が定められた時間にいなかった。	特になし	特に怪我がなかったため経過観察として軽度としたため、今後はより注意深くみていく。個人の判断ではなく、すぐに上司に報告し怪我の状況を複数の職員で確認していく。保育にあたっている複数の職員で連携を取り、対応していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																					
1133	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	8		1	1	3	3			2	2	16. 4歳	2. 女児	なし	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期実施的に実施	7	2. 基準配置	特になし	職員間で事故が起こった際、子どもの過ごし方について確認し合うとともに、職員配置について見直しを図り、共通理解する。	1. 定期的に実施	2回/月	1. 定期的に実施	2回/日	1. 定期的に実施	毎回/週	特になし	特になし	7. その他	跳ぶ、転がるなど運動遊びを十分に行ってこなかった。事故発生時の時間帯の長時間利用児は幼児がほとんどなので、使用する保育室は未満児保育室ではなく、幼児保育室の方が適しているのではないか。	運動遊びを保育の中に取積極的に取り入れていく。17時30頃になると幼児が未満児保育室に移動し順次ご降たが、その時間帯は幼児がほとんどなので、未満児が幼児保育室に移動しては どうか検討する。	1. いつもどおり子ども	年上児がフェンスに登り降りをしてのるを真似をしてフェンスに登った。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	●●組保育室内での未満児のき者し未迎えた保護者しながら、対応をし対象児等がテラスで遊ぶ様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各保育室まの戸締まり等を行っていた。	職員は対象児等に「危ないよ」と声をかけたが、かけだけでは伝わらなかった。	子どもの危険な行動に対しては、言葉かけだけでなく側について制止するなど安全面に配慮する。管理当番にあたる職員の戸締まり等の時間を工夫する等し、2人で保育にあたるようにして職員配置を見直していく。	
1134	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	88	3	6	10	20	26	23		16	16	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施的に実施	24	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	288	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	288	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	先頭保育者の歩く児を、年少児を真ん中に３人ずつ手をつないでいるため、２人で手をつなぐ場合に比べ、年少児がバランスを崩しやすい状況にあった。	保育者の歩く本児の後ろ、２人で手をつぐ。手をつないで歩くことに慣れていない園外散歩に出る際は、初めての園外散歩であった。	1. いつもどおり子ども	年少児とつないで出かける、初めての園外散歩であった。手をつないで歩く年少児が転倒したため、一緒に転倒した。	4. 対象児を見ていた	園児８８名での園外散歩中であったため、先頭保育者の後ろ本児と、中、後方の引率を担っていた担当職員には、あの担当職員は見ていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	先頭保育者は、本児の転倒する様子を至近距離で見ており、手を差し出間に合わなかった。転倒後すぐに外傷は確認した外傷が、園に戻るまで受傷に気づかなかった。	口数の少ない児のため、痛みを訴えられなかった可能性がある。	転倒し手を着いた場合は、外傷だけでなく、骨折の可能性があることを考慮し、視診を行う。道路を横断する際は、転倒の危険があるため、早足にはせず歩いて横断することを指導する。	
1135	令和6年6月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	25								2	2	18. 6歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期実施的に実施	6	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎	1. 定期的に実施	毎	基準配置は満たしており安全な配慮はできていたが、緩やかな勾配のある斜面では、気を付けて下に伝えるべきであった	遊ぶ前に、戸外で遊ぶときに気を付けることを子ども達と考えあい、守れるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	芝山ができこぼしている個所もあった	芝山の整備を実施する。	1. いつもどおり子ども	いつも通りであ、緩やかな芝山からで下った	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の子どもと活動中であった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の子どもと活動中であった	特になし	特になし	
1136	令和6年9月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30				16	14			2	2	17. 5歳	1. 男児	自閉症スペクトラム症	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位端骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特にありません。	職員会議の中で事故の検証をし、遊ぶ時の注意事項を落ち着いて聞く時間を持つよう確認した。	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度(遊具使用前)	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特にありません。	特にありません。	3. 個人活動中・見守りあり	特にありません。	特にありません。	1. いつもどおり子ども	ホールにて降園前遊び自由遊びで４歳児と５歳児と１４名児名中、遊ぶ積み木の取り合いになる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の「やめて！」の声でトラブルが止まったが止めようとした間になかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児のトラブルの仲裁に入っていた。	遊ぶ前に積み木で遊ぶ時の注意事項を落ち着いて集中して聞く時間を持つようにするべきであった。	保育教諭の立ち位置の確認をする。遊びに入る前に繰り返し遊具の使い方などを伝えていく。口頭で伝えても忘れてしまうので、禁止事項を絵に描いて掲示する	
1137	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	48		12	10	12	14			6	5	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	本児の遊んでいた遊具には付いていなかった。	職員の配置では、危険性の高い遊具の使用を控えるなどの工夫が必要	1. 定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守りあり	遊具の周辺りに職員を配置していなかったため、危険を回避できなかった。	職員を配置し、高所で遊んでいる園児の行動には十分に注意をはらう。	1. いつもどおり子ども	遊具の上に立った りした。	4. 対象児を見ていなかった	遊具の傍にはいがその間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内にまんべく配置されていたが、その瞬間は見ていなかった。	全体的には職員配置していたが、特に危険性に高い遊具（高さもあり、ジャンプや昇り降りには危険が伴う場合がある）には職員は目を離さず見守る職員の配置が必要であった。	危険性の高い遊具（高さもあり、ジャンプや昇り降りには危険が伴う場合がある）には職員を配置する、目を離さない、また、どの職員がどの遊具を見守るか、全体を見守るのかなどの役割分担をしっかりと決める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
1138	令和6年9月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9			3	3	3		1	1		18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	本児が落ずかずてたちまちふざけまいたくなる状況が予測されたにも関わらず、本児に対して働きかけがていなかった。	紙芝居や遊びを集中できるような工夫を行う。一対一の関わりが必要な場面において、それが難しければ他の職員の応援を頼む。又、子どもたちが集中して取り組めるように遊びの工夫を行い、子どもの様子やメンバーに合わせて玩具を考えながら、遊びを提供していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	床などが滑りやすくなっていかないを確認し、特にを問題はなかった。	1.集団活動中・見守り	ステージ上にリュックなどの荷物を置いたまま、子ども目を離すすぐ取りに行けるよう、ステージ上の荷物は、リュックなどの荷物はステージの向かいにあるステージ上に置き、子どもたちが遊びを行うことにより、子どもたちが遊びに集中できる環境設定を行う。	ホールで遊ぶ際は、リュックなどの荷物はステージの向かいにあるステージ上に置き、子どもたちが遊びを行うことにより、子どもたちが遊びに集中できる環境設定を行う。	1.いつもお様子であった	お迎え時間が近い園児たちが2階ホールのステージに一列に座り紙芝居を見て過ごしていたが、保育士がお迎え園児対応で中断、その間本児が作成し、チェックとしまっておいた紙の側をそっぱに向かって投げ、それを拾いに他の園児が走り出し、本児が追いかけ、他の人の側を持ったまましゃがんでいた他園児の背中に覆いかぶさって転ろうとした。その際転落、左側を打撲し、傾斜を負った。（ビデオ再生により確認した）	4.学童保育・放課後児童支援員等が直接ホールまで迎えに行き、1階に降りて来園者の後者とに引き渡すようにする。	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	本児が落ずかずてたちまちふざけまいたくなる状況が予測されたにも関わらず、本児に対して働きかけがていなかった。	紙芝居や遊びを集中できるような工夫を行う。一対一の関わりが必要な場面において、それが難しければ他の職員の応援を頼む。又、子どもたちが集中して取り組めるように遊びの工夫を行い、子どもの様子やメンバーに合わせて玩具を考えながら、遊びを提供していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	床などが滑りやすくなっていかないを確認し、特にを問題はなかった。	1.集団活動中・見守り	ステージ上にリュックなどの荷物を置いたまま、子ども目を離すすぐ取りに行けるよう、ステージ上の荷物は、リュックなどの荷物はステージの向かいにあるステージ上に置き、子どもたちが遊びを行うことにより、子どもたちが遊びに集中できる環境設定を行う。	ホールで遊ぶ際は、リュックなどの荷物はステージの向かいにあるステージ上に置き、子どもたちが遊びを行うことにより、子どもたちが遊びに集中できる環境設定を行う。	1.いつもお様子であった	お迎え時間が近い園児たちが2階ホールのステージに一列に座り紙芝居を見て過ごしていたが、保育士がお迎え園児対応で中断、その間本児が作成し、チェックとしまっておいた紙の側をそっぱに向かって投げ、それを拾いに他の園児が走り出し、本児が追いかけ、他の人の側を持ったまましゃがんでいた他園児の背中に覆いかぶさって転ろうとした。その際転落、左側を打撲し、傾斜を負った。（ビデオ再生により確認した）	4.学童保育・放課後児童支援員等が直接ホールまで迎えに行き、1階に降りて来園者の後者とに引き渡すようにする。	
1139	令和6年9月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	19			6	7	6		5	3		17.5歳	1.男児	前日は雨が降っていま降った。地面が滑りやすかったかもしれません。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2，3)回/年	1.基準以上配置	クラス担当では当番当い職員も引一緒にしていて率た。	公園での注意事項を徹底する。職員の配置の確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	遊具なし	2.不定期に実施			施設内でこったは起事故ではないの改善点無。	1.集団活動中・見守り	前日、雨でが降った。地面にはえるとあり、滑りかもしれません。当日は曇り空でした。	事前に滑りやすい状態かなどの声掛けを行います。	1.いつもお様子であった	近くの公園で遊べる時間が多くて楽んでいた。即弾を拾い、手に掘りしめ鉄棒方向に走り出した。（本人は他の園児に即弾を見せたかったと話しているが、走っていた方向に他の園児はいなかった。）	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	遊具では遊んで園児守った。児が走っていることは確認していた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	保育などは遊具やいい園児の場所で見守った。走っているのは見えたが、転倒するところは見ていなかった。	走り出したは確認した、転倒すると考えていなかったが声掛けをかった。	周りをよく活動するよう見て園児一人ひとりに声掛けを行う。園児がどこにいるのか職員で声を掛け合う。	
1140	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26					11	15				3	3	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	3.子ども同士衝突によるものにも	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	リレーごっこ時、バトンを使用せず遊んでいた	外遊び時、リレーごっこに発展した場合バトンを使でも、トンわせる	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	リレーに使用するラインが薄く、ラインの内側を走ったため男子のスピードが出た	リレーをこったこなっ時点でラインを引き直す。全体リすること回すを徹底する	1.集団活動中・見守り	保育士が見全体を位置で見守っていたが、園児のにいなかったため	リレーごっこ時、バトンを使用させ傍に立ち用児のうちを当配置する	1.いつもお様子であった	元気に登園し、リレーごっこもこしよ並んだ	2.対象児近で対象児を見ていた	担当職員は、園児の行動をの見ていたが、一瞬のことのことがなかった	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	他の職員も、園児の行動をの見ていたが、一瞬のことで、止めることなできなかった	リレーごっこのルールが徹底されていなかった	外遊び時を随時、指導する	
1141	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22										2	2	15.3歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕過剰骨折	5.他児危から加害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	子どもの特性が事故に発展する可能性がある問題点。子どもの特性について把握し、家族と共有化を図る。	情報の共有・事故防止にむけた安全教育を継続する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	園児の特性で、事故防止・禁止ようにするヤリハット報告書の記入	共外まに環にこれ通り整備に組で取り組む。	1.集団活動中・見守り	普段の保育は2名体制だが、事故が起きた時はホールでの活動に1人、お部屋に1人という体制だったため、目が行き届かない時間があったと推測される。	部屋にいる職員もホールの様子を見に来たり、線上歩行が終わったがホールに残っていないかを確認する必要があった。	1.いつもお様子であった	怪我をした女児は通常通り怪我をさせた男児は、手出し団活動苦め、個別対応を要するため、普段から気付けて担任が見ている	2.対象児近で対象児を見ていた	ホールでの行って線上歩行のりをいる。	2.担当者・対象児を見ていた	クラスでの午睡用の布団を敷いた。また、線上歩行が終わったクラスに戻るので、戻ってきた子の受入れをしている。	3歳児は定期的に線上歩行を行うことで、自分の意志のコントロールと歩行のバランスを取りながら歩くことを楽しんでいる。（線上を歩くときは、つま先とかかとをくっつけて歩くため）しかし、男児は目の前のお友達が邪魔だという気持ちから本児を引っ張り、怪我に繋がる。	このように怪我をさせた男児や行動は日常的に見られるため、保護者と共有し、保健センターに通始め、共通のとらえ方、関わり方の様子を現在も検討中である。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面					人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度/【回/年】					実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】															
						教育・保育等従事者										うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																					
1142	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	1	2	1	5				3	3	15.3歳	2.女児	ほふく室・兼乳児室にて	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の亀裂骨折（ひび）	2.自らの転倒・衝によるもの突	2.なし	3.未実施		2.基準配置		マニュアル整備し、それを基にして職員をに対象にした研修や話し合いを定期的に行う。	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床面の材質は一般的なものではあるが、必ずしも滑りにくいとは言えない。	毎年1回、ワックスがけをして滑り止めに努めていたが、床面のワックスやコーティング剤などの素材を調べて滑りにくい加工ができないか、また、転倒してもケガにつながらないような工夫ができないか検討する。	1.集団活動中・見守りあり		場面の切替わり時の児童の行動特性の中で、保育者が注意すべきことを、過去の事例を含めながら、所内研修や士同士の話しなどで確認していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	避難訓練が終わり、元気であった。補給を終わらせていたため、自由な状態になった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	他の子が遊んでいるを真似して、子も同じの様をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	水分補給の準備、後片付けだったので、十分に対象児の動きを注意し切れてなかった。	友だちが自転しているのみ分も真似して自転した。そのときに遠心力でバランスを崩して肘をつき形で床に転倒した。	いろいろなものが重なって怪我をすることになるので、児童一人一人の成長に伴う運動能力や判断力を把握し、その時々の機械等も考慮した上で、怪我をしやすそうな時は、「危ないことをしている」旨を声がけし、怪我に繋がりやすい行動を防止する。	
1143	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11								1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期実的に施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育士が場をとどその離れるときも全員に活動を中止するべきであった。	保育士が1人の場合など運動用具を1か所とし活動を行う。または保育士がその場を離れるときは止して止める。保育士をもう一人配置。	1.定期的に実施	実施頻度(3 6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3 6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3 6)回/年	下に敷くマットがショッキングであったらよかったのではないか。	活動始める前に落下防止等の事も踏まえたトの堅さなど考えて設置する。	1.集団活動中・見守りあり	・鉄棒のにしてマットの上にかめ下にしたらマットを重ねれば落ちた少なかったのではないかと思う	下に敷くものはクッション性のものなど確認して配置する。	1.いつもりお子で棟であった	体調面も問題なかったが、前に並んでいた子がやったため自分もできると思った。また保育士が活動を中止する時「待ってね」といったのを「やってね」と聞こえたとの事。	4.対象動物を見ていなかった	自分一人しかいないので鉄棒の所には必ず付いたが、子どもに呼ばれてしまったために動故に遭った子に対して背を向けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		友だちが自転しているのみ分も真似して自転した。そのときに遠心力でバランスを崩して肘をつき形で床に転倒した。	担任以外の職員の補助を配置し死角を作らないようにする。配置できなければ中止または無理の範囲で活動していく。	
1144	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17				2	6	9			2	17.5歳	1.男児	肘の脱臼歴あり、落ち着きにくいことが見られる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	職員の怪我防止の意識が不十分だった。	子どもの遊ぶ姿を把握し、朝のミーティングで怪我防ついて声を掛合った合った、話しいけりをしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(16)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	安全に遊べるよう、遊びにあったスペース分が不十分だった。園庭のスペース分けが分だった。	園庭の環境構成を定期的に、安全に遊べるよう見直し見直していく。	3.個人活動中・見守りあり	遊び（追いかけっこ）に夢中になり、サッカースペースに入りて走りで来ての度か注意ていた。	子どもの合動きに直わせスペースの改善。	1.いつもりお子で棟であった	落ち着きないと注意なろがあり、高いところ段を降りと階段を降りのがる姿ある。怖がある。	4.対象動物を見ていなかった	追いかけっこに夢中になりサッカースペースに入り込んでいたので何度か注意していた。お迎えに来た保護者と会話したあと、反対側のサッカーゴールを付近に園児が集まっていたので園児の見守りをしていたため、転倒したことに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・子どもが見つけたっけばを持って一緒に見ていたため、転倒に気付かなかった。	降園する園児の対応をしながらの遊びの見守りなので、全体を見たり、個を見たり、一緒に見守りをしている職員の立ち位置などの把握と職員間の連携が必要だった。	自由遊びの職員の見守り方、立ち位置、連携の取り方を園再確認し、子ども達の動きに合わせて子ども達が安全に遊べる環境の構成、見守り方を園内研修や会議で話し合い職員の共通理解を図る。	
1145	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	13								2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定実期に施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	予防という観点でマニュアルの事例を具体化、研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	改善策なし、使用した積み木に破損等不具合はなかった。	3.個人活動中・見守りあり	親子遠足を楽しみ、気持ちが高ぶったもしれない。	子どもの状況に応じて、保育教諭の見守りを確実に行うべきであった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	親子遠足を前に、登園は、それに好きな遊びを行いた。対象児は、木を積み木を積み、並べ、橋渡のようにして歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	クラス全体が見える場所で、他の子ども一緒に絵本を読みていた。本児が足を踏み外す瞬間に気づいたが、転倒する前には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の保育室にて準備を行っていた。	特になし	担当保育教諭２名で、子どもの状況により、見守りを確実に行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者					事故の転帰					事故誘因	ソフト面					職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡					マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度/【回/年】							実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】							理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
1146	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	140	7	11	17	36	31	38		15	5	15.3歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷			4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指中節骨骨折、裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	人数に対する職員の配置には問題はなかったが、遊具以外の危険個所についての安全意識が不足していた。	施設設備、園庭の点検のポイントを園内研修を実施して想像力を働かせ意識高く対応できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約290)回/年	焼き芋をするための石で組んだ竈を園児が虫探しのため崩して遊んで日頃から石が散乱していた。撤去しようと前の週に石等を集めていたが、安全措置を取らずそれをすぐ撤去しなかったため、園児が手に取り遊ぶ要因を作ってしまった。	危険なも見のを発見した際は、園児が近づいて手に触れないようにすぐに安全措置を講じ撤去する。	1.集団活動中・見守り	あそびが子ども主体性になっていても、指導が疎かになっていた。	施設設備の緊急点検を行い、散乱している石を撤去した。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	4.対象動児の見ていなかった	職員がネットフェンス越しの近くにいたが、事故のあった児の際に背を向け他児の遊びや片付けの状況を見守っていたため、遊び本児のを把握していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食前の片づけのタイミングと重なっていたため、片付けをしている他児を注視していた。		職員の立ち位置を工夫し、視野を広げて子どもたちの状況を把握し、危ないと思われる場面ではすぐに声をかけ安全対策をとる。	
1147	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26								2	2	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	慣れているはずのリズム運動で、それほど危険がある運動場面でもなく、また友達と接触があった訳でもなく、打ちどころが悪かったと思われる。本児がしっかり保育者に痛みの状況を伝えてくれたため、すぐに事故への対応ができた。	今後も、園児へ何か身体への違和感を覚えた時や事故が起きた時は、ちゃんと保育者に伝えることができる関係性を重視していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)/年	特になし	遊具などし関係ないたが、特になし。	1.集団活動中・見守りあり	ホールと広いという場所が本児を開放気持ちになったかもしれない	今後もリズム運動の時は、子どもの動きに障害となり物や人が子どもの動きとなる排除や人と衝突いそうな子どもの動線を考慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	普段から少々遅れ欠席、活発なため、他の園児より動きは激しい。	2.対象児の見ていた	担任が全見えかを位置指導し見ているが、事故が起こそう面でかったが、したのと激し転倒でもなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	担任以外の職員は、授業園児わっていた。	特になし	日頃から園児への指導として、転倒身体に痛みを感じたりには、保育者に伝えるこ来ることを後も引き指導続いく。	
1148	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	2								2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	5.他児危から加れの害を加えたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	安全への配慮や子ども達への注意喚の起が足りなかった。	安全に遊びを行える遊具(マット等)を用いたり、場所の確保をする。子どもの様子を良く見て、安全に遊びを進めるような援助をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊ぶ場所確の安全足りなかった。	怪我をすしないと予測という予測して、安全な場所を設定する。	1.集団活動中・見守りあり	ビニールテープで直径1mほどの円を作り、相撲を押しをした。遊び上が盛り本格相撲的に発展してしまった。	個々の特徴を見極め、怪が繋がないように援助をする。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象動児の見ていなかった	側で遊ぶ様子を見、怪我をしないよう声を掛けて知らたが、他児の対応で目を反らしてしまった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	各遊びの見守りをした。	運動会直前だったこともあり、気持ちの高揚が見られていた。	行事前ということを考え、落ち着いて過ごせる環境を作る。子ども達と遊び方のルールや気を付ける事などを十分に確認する。	
1149	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	24								2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足の脛骨骨折(ひび)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		引き続き、十分な職員配置と一人一人の様子を確認し、必要に応じて遊具の使い方などを丁寧に教えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		活動前に状態態を確認し、使用できるようにしく。	1.集団活動中・見守りあり		こども遊び方の繰り返し行なっていること。	1.いつもどおりの様子であった	何回か遊んだ遊具だったので、動かし方に慣れてきていた姿があった。	2.対象児の近距離で見ていた	対象児の動きを遊具の下からバランスを崩したことに付い見てたが、補助が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	現場と逆の側で他の見守りを行なっていた。		・十分な職員配置とこどもの様子を確認し、とっさの判断、行動をしていく。・必要に応じてやり方などを確認し、担当間で見守り、徹底していく。	
1150	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13	5		8					4	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	5.下肢(足・足指)	下腿骨幹部骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	多数の園児が自由に走り回ったり、遊んでいた。	遊びのエリアを分ける	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(49)回/年	2.不定期に実施			個人の運動度提ぐに手を差しできるよう注意を払いながら保育する。	1.集団活動中・見守りあり		走るスペースと遊ぶスペースを分け、それぞれスペースを確保する。	1.いつもどおりの様子であった	ホールで遊びだったため、走ったり、フープ、ブロックなど遊具で遊んでいた。	3.対象児離れたところで対象見ていた	対象児の近距離で見守っていたが、滑って転ぶ前に対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	ホール所にそれぞれの担当場を見守っていた。		個人の運動の発達度合を把握し、すぐに手が差し伸べることができるよう注意を払いながら保育する。日頃から体幹を育てるような遊びを取り入れたり、ホール遊びの前に準備運動のようなものを取り入れたりしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因							実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1151	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	22								18	18	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	右大腿裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・穴の隣に蓋があったにも関わらず、蓋をしなかったこと。 ・行きでは、穴に落ちる事のないよう注意喚起を行ったものの、帰りに声がけを怠ったこと。 ・道路の右側でなく、左側を歩いていたこと。	・事前に下見をし、ルート上にある危険箇所に対する共通理解をする。 ・常に園児から目を離さず、危険個所への注意喚起を行う。 ・別のルートを選ぶ、穴を塞ぐと言った対策をとる。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	事故のあった側溝の穴においては、車のヤの蓋みで蓋が外れてしまったことが予想される。	事故後すぐに役場に連絡。事故状況説明など説明し、後日穴をふさぐ。もらいでもらう。	1.集団活動中・見守りあり		事前に危険箇所を発見した場合、関係機関とも連携しすぐに対策を講じるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	買い物が終わり、いつもに比べると気持ちが高揚している中歩いていた。 １２人の園児が２人１組になり６列で歩いており、本児は前から２列目を歩いていた。	4.対象動物を見ていなかった	園児の様子を確認しながら先頭を歩いていた穴へが、の落下前後は進行方向のみ見ていた。	2.担当者・対象児のを見ていなかった	最後尾で手園児と手をつないで歩いていた。		ルート上危険箇所にある危険箇所に目を配るとともに、幼児に、幼児自身も危険を察知しようと声を掛ける。	
1152	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16								2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左手中指)	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		マニュアル、職員配置等の不備は見当たらない。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年		施設、設備等の不備は見当たらない。	1.集団活動中・見守りあり		保育の状況等の見当たらない。	1.いつもどおりの様子であった	普段から好運動が好きで、跳ぶ箱にも積極的に取り組んでいた。	2.対象至児の近で対象見ていた	跳び箱に相び常に当至近ていた。	1.担当者・対象児のを見ていた(至距離近にいた)	保育をしていた職員は全確認をしていた。	当該児は跳び箱をいためが、怪我の可能性の考慮した個別的な注意喚起した。	童び箱べてあっ跳ばでもとてまめを注意しく。	普段できていることであっても、こ声かけ、ことでもまめに注意をしていく。	
1153	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	6								2	2	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼、歯槽骨骨折、下唇・口唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置		ゴザを置く位置を広い場所にする、再発防止に向けて全体で話し合う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き、安全点検を実施していく	1.集団活動中・見守りあり	食事後、掃除が滞ったため、足が滑った。	危険予測をしながら声がけしていく。ゴザ時間は、水道れから離れるところに置くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段より張り切っていた。	2.対象至児の近で対象見ていた	対象児と対側でゴザ一緒に運ぶようとしていた。	2.担当者・対象児のを見ていなかった	休憩を交代するため、申し送りをしていた。		子どもたちの動きや状況に応じて職員も移動し、全体を把握できるようにする。	
1154	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	13								1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇・下唇の裂傷、上左前歯１本の骨折（歯根破折）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	片付けの仕方（手に持たず、押し付けてしまいていたこと）	片付けの際には押したり引きずったり せず、手に持って片付けるよう再度片付け方を知らせる。また、片付けの様子をこまめに確認し、危険な場合は声を掛け、すぐに対応する。職員全員で改善策を共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		施設等設備等の理由ではなかった為	1.集団活動中・見守りあり	・保育室を出て右手側に玩具を片付ける為、押して片付けるには方向を変える必要があり、その際にバランスを崩す可能性がある。また、子ど児達が廊下を行き来する為、すれ違う際にバランスを崩す可能性も想定される。	・片付けは子ども達と一緒に押付けることが ない よう、子ども達が持って片付けないは保育教諭が片付けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	・押してしまう習片付けとなった。慣	3.対象児が離れたところで対象見ていた	・気を付け片付けるようにとの声掛けの応なった。	2.担当者・対象児のを見ていなかった	・職員配置の為、見ていなかった。	子ども達が一緒に片付け出し、動きが予測できなかった。片付け玩具ってたことは押付けるは片付けられた。	・片付けは際の子どもの動きを見回せる位置に保育教諭がつくこと片付けに定期的に声掛けし、対応していく。	
1155	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2					2			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・腎部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	1歳児クラスへ移動した際に上靴を脱いだため、すべってしまったと考える。	運動遊びをする際は上靴を履くか裸足になる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施		1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	クラだ同じ友ボールちとのスで投げて遊んでいたため、動きが活発でテンションも上がった。	2.対象児の近で対象見ていた	一緒にボールで遊んでいた。本児は背を向けて転んだ際に、転倒の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児のを見ていなかった	別部屋で片付け掃除をしていた。		特になし	
1156	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	86	7	16	15	16	16	16		15	13	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左手親指)	3.子ども同士突き合いによるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	職員の動きの面で一人一人の役割分担や配置などが曖昧な部分があった。	目の数キーブを題材にした職員の動きの研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	2.不定期に実施	実施頻度(週1)回/年	十分なスペースを確保はしていたが、定的に構成変更しているので落ち着かない雰囲気になったり、ところがあった。	環境構成を変更した場合は子どもの様子を注意深くく。また、子どもに伝えるご方を意ご。	1.集団活動中・見守りあり	絵本を読んで子どもたち著ちの丈で、大丈夫だと思っていた。	子どもたちの様子を見ながら、職員で集めるグループを分けて、ゴザを配っていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりなく、いつもとりないつも足とく変わらない様子であった。	4.対象児の見ていなかった	子ども絵本で集めて、ふ立てていたたざっこと立ったなかった。	2.担当者・対象児のを見ていなかった	おやつの片付け室内の整理整頓をしていた。		トラブルくやひどくふざけてふいるではなかったため、見ら状態れると思った。	担当職員は全体の状況を把握したうえで読み聞かせを行う。また、補助が必要であれば連携を図り、場を整える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1157	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10									2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第1中足骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		安全な移動方法を指導する。転び方(受け身)を指導していく	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年		滑りやすいなっていない定期的な定点検を行う	1.集団活動中・見守り		活動の切替毎に全体に声をかけ静メリハリをつけられるなる配慮をする	1.いつもどおりの子であった	いつもとわらず変いたが、運動会に見立てあそび合間動たあった	3.対象児離れたで見ていた	日常的な(活動)の一分行動)で水分イレく時間だ、対象児のみでは補給やなく、クを見ているなく全体で見る時間であった	1.担当者・対象児動きをていた(至近距離にいた)	特別支援保育児の担当者であるが特別な活動ではかつめ、担任と同様に全体を広く見ている状況だった	落ち着いて歩いて移動するという声(配慮)が足りなかった	日常的な活動つでも動の前に声をかけて落ち着いて行動できるように配慮する	
1158	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39			16	12	11				4	4	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		職員同士で声を掛け合い、配置を工夫していく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		施設、遊具、玩具全点の安全点検を継続して行っていく	1.集団活動中・見守り		全体への目配りと共に、固定遊具周辺に配置し、見守りを強化する	3.いつもより発で活動的であった(理由を記載)	当日は中職生の体験が場体験があり、朝学から中触れ事を生合楽しみに、普段気高いも普段棒より持ちが高いも普段鉄棒持ち揚げた。全く興味を示さないが、朝から鉄棒遊びを行っていた。	4.対象動を見ていた	事故直前棒子見ていまで遊ぶを見ていたが、見守っても、見つけた虫せたを来たミングで付近目を見た鉄棒から離した。その直後に本児から鉄棒落下した。	2.担当者・対象児動きをていた	砂場、滑り台、サッカー等の遊びを見ていた。	子どもを目を離した	子どものからさ動きから目を離ないにする	
1159	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	10									3	2	17.5歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(右前腕腕)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	活動範囲を決めた り職員配置にも配慮したが、怪我に可能性を考え、さらに配慮していく必要があったと考える。	園外保育というこ動とを踏まえ、いつも以上に配置に気を付けていく。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園外施設遊具でのだったと外活動で体力いりなたえる。	園外施設の遊具の使い方、遊び方を確認から、見ていく守ようにする。	1.集団活動中・見守り	園外の遊具と事で慣れていなかったためと考えられる。	遊具にも慣れていることを考え、等の下等の応をる届く落下所で見ていく場守っく。	1.いつもどおりの子であった	いつもとわらず変ず、機嫌園外活動に持ち備えた。	2.対象児の近で見ていた	対象児の姿を守ったが、落下際に届くはいなかった。	2.担当者・対象児動きをていた	他の子ども達の遊び様子を見ていた為、見ていなかった。	園外保育(スケーター)というは進境の中で体し動ものたためはと考えれる。	子ども達運動を把の姿量を提し、普段以上に休息を取ま早めを上げた、に活動を切て過ごしていく。	
1160	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	69		11	16	22	20				6	6	16.4歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破損	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	定期的に事故防止につ再発いて研修の必要性。	マニュアル容と有効性を評価し具体的で実践的な内容が含んでいるか確認し職員が理解できるようにする。複合遊具使用時のマニュアル作成	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	定期点検に危険共と険個所をつけた合の情報共有が場が少なかった。	今まで同様点検し職員と共の情報共有を同時に行う。必要な修繕については早急に行う。	1.集団活動中・見守り	年齢ごとになる怪我がらないための行動予測が不足していた。本児のいた場所危険な場所という認識が低かった。	一人ひとりがあらゆる予測がられるように立てるようになる。	1.いつもどおりの子であった	いつもとなく変りに、入受け際にもいまとにつうにれていた。	2.対象児の近で見ていた	事故が起きる直前、本児と関わりと見ていた、他児へのことのため見を離した時に起きてしまった。	1.担当者・対象児動きをていた(至距離にいた)	子どもたちの集まっている場所に担当職員が分て着き、所庭全体を見ていたが、本児の怪我をした時には居場所は確認していた離した。	本児の遊んでいた場所は死角になり場所やすい場所だったため、職員1人は見やすい場所に立つべきであった。	死角になりやすい場所の確認、保育士の配置場所の確認。	
1161	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26			10	6	10				3	3	15.3歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	上前歯左右損傷	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	日常から未満児用複合型遊具の遊び方は注意喚起していたが、夕方、本児に疲れが見られていたことと前日まで●●県に帰省し帰ってきた翌日ということも要因と考えられる。また、転んだ際に手をつくことが以前から難しい本児でもあったことも要因と考えられる。	引き続き、複合型遊具の遊び方を丁寧に伝え、転んだ時に手が地面につけるよう、リズム運動等で、手をつく動きを積極的に取り入れ、下半身強化と怪我防止に繋げ、遊具につく保育士の見守り位置の確認も随時行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12) 回/年	未満児用複合型遊具は、安易に走った傾向がある。	未満児用遊具は、歩いて使う再び約束を再確認し、見守り保育士が必ず1名側につくようにする。	1.集団活動中・見守り	夕方で疲れが出やすい時間帯であったことも考える要因と考えられる。	遊ぶ前に、遊具際遊ぶ際束事項をわかりやすく伝え、保育士の見守り位置の確認をしていく。	2.いつも元気なかった(理由を記載)	里帰りでは●●県から帰って翌日来省きた出来事で、帰省もで疲れもあったことも要因考え、夕方帯の時間は疲れが出ていたとされ、のさらに疲れが出ていたと考えられる。	2.対象児の近で見ていた	本児がつてこまずいまうと想ましたと定外でのあったあで、本児出ことの手ないも含め、顔面が出ていたこと防ができかった。	2.担当者・対象児動きをていた	他の遊具の補助や遊びの見守りに徹していた。	疲れが出時間帯で、本児の遊び方をかな遊びに誘っていくであった。	状況次第で遊びの方法を具体的に提案しながら、保育士の見守り場所も随時確認し合いながらに過ごしていくようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面						人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修							施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因							実施頻度/【回/年】					実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】									理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1162	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	8								1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	数分の時間での出来事で、痛みを訴えることもなく降園をした子どもが園内でのことなのかはっきりしていない。	子ども達がいるところには必ず保育教諭がいて、ちょっと場を離れる時でも職員間でかけ声を合いかけ目をるするように。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	縄跳びで遊ぼう思い歩いている、けこまっ痛みはなかったのでも報告しなかったとの事。	ホールで運動遊びをすると、広い場所を確保して、傍に保育教諭がついて見守る。	1.集団活動中・見守り	縄跳びで遊ぼう思い歩いている、けこまっ痛みはなかったのでも報告しなかったとの事。	ホールで運動遊びをすると、広い場所を確保して、傍に保育教諭がついて見守る。	1.いつもどおりの様子であった	活発に動いて遊んでいた。	2.対象至児の近対象見た	ホールにいた園児保育教諭で跳び準備をしていた。ケガをした園児は縄跳びをやる為準備していた。	2.担当者・対象児の動きをいた	おやつ後のホールでの自由遊びで降園したもいたので、そのクラスの園児だけで遊んでいた。	縄跳びで遊ぼう思い歩いている、けこまっ痛みはなかったので何も報告しなかったとの事。	子ども達がいるところには必ず保育教諭がいて、ちょっと場を離れる時でも職員間でかけ目をるする。	
1163	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	38				19	19			3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折顆上骨折(ひび)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	職員が揃うまで、保育室に戻らないようにしているが、玩具を片付けに子どもたちだけで保育室に戻ってまった。3名の保育士は、保育室に行ったことを把握していなかった。	出入り口付近には必ず士がいるようにし、声掛しや連携をとりを安全意を保識の受けを見直しをしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育室に入ないよう入口に鍵があり、保育室内のロッカ一窓は付近の普段はしているが、その日は出入り換えめ、どちらも施錠していなかった。	子どもの様子を把握するとともに、保育室に入らない、入り口に張り紙をし、付けに鍵をする。	1.集団活動中・見守り	片付け中子どもたちが同ラブルを発生してもと保護者対応して、子ども手にホールから出て行ったのを気付けなかった。	特に好奇心が強く、活発な子どもについて、クラスが違っ職員間で情報を共有し、特に目を離さないよう注意を払う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体調不良で休んでいたしの友達が、から登園がしたので興奮気味だった。	4.対象動見ていをなかった	休んでいた子が登園して、5歳児の男児ちが気姿を走ると、全に遊ぶ姿ようあり、安ようけや声掛対応に追われていた。	2.担当者・対象児の動きをいた	5歳児だけでなく、4歳児の間でトラブルが発生し、仲立ちしていた。送ってきた他の保護者が放出し、保育士に伝えにきて初めて気付く。	縄跳びで遊ぼう思い歩いている、けこまっ痛みはなかったので何も報告しなかったとの事。	周りの子どもたちの対応をしていて、ホール子どもたちが出て行を気付けなかった。	勝手に保育室に戻らないことを再度確認し合う。	
1164	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14								2	2	17.5歳	2.女児	保育者の話を聞いていないことが多く、個別に伝える必要があることも多い。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	マニュアル周知徹底。	現在も行っているが、安全指導を共行うと共に職員の振り返りをしっかり行う。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	室内外の保育の環境を徹底する。	現在も行っているが、保育環境の整備に安時全点検時に早急に対処していくようにする。	3.個人活動中・見守り	集団への同指示時に個別に配慮を怠らないようにする。	子どもの遊びの邪魔を確認し必要に応じて環境を再構する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	室内を行ったり来しておき遊んでいる。	3.対象児離れるところで対象見ていた	本児の見ていることを、遊びを見て、上履を履くよう声掛けをが、たかのをしなかった。	2.担当者・対象児の動きをいた	他児の遊びを見ており、確認していなかった。	保育者同士の声掛の再確認を行う。	一人一人の特性や、遊び組み状況を保育者間で伝え合い、連携して見守っていく。	
1165	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26			6	9	11			3	2	17.5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	・片付けする際をに、子どもの危険予防の事故発生防止に、子どもの行動の不十分だった。子どもの場面で、注意事項の再度確認する必要があった。	事故発生防止保育中の安全管理マニュアル（保育中の安全対策）について、子どもの動きを想定した事故防止に向けた配慮の再確認。子どもに対して遊具の遊び方の徹底と片づけをする際の決まりの確認。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	・ソフト積み木（1個）を両手に抱えていたこともあり、不安定な積み木の上を歩いうまくバランスを取れず転倒した。手に持っていたこともあり、転倒時の姿勢の受け身が取れず、けがにつながったと思われる。	ソフト積み木で遊ぶ際は、十分な広さと危険物が無い個所が確認をする。積み木が不安定な置き方が見られる場合は、保育者が改善し子どもが遊ぶ場の安全確保に努める。	1.集団活動中・見守り	片付けの際、目の前のソフト積み木の上を渡り、片付け箇所まで移動しようとした。しかし遊びの楽しかったと気持ちと周囲に気を取られたことなどにより、足元への注意が不十分だったと思われる。	子どもに片付けの際の約束事を再確認した。職員も片付けの際、子ども一人一人の様子を捉えて、危険と思われる環境要因と子どもの行動を把握し事故防止に向けた保育を実施する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊びの楽しいちからか、いつもよりはってすきっぱいて行動しています。すん付けとする意欲が見られた。	2.対象至児の近対象見た	本児を含む周囲のと児ども共にすぐ側で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいた	他児の遊び場の付けを見守ったため、動に入らなかった。	縄跳びで遊ぼう思い歩いている、けこまっ痛みはなかったので何も報告しなかったとの事。	すぐ側で保育者が見守っていたが、本児の行動予測が不十分であった。また、周囲の子どもへの声掛や片付けがあり、未然に防ぐことが困難だった。	あらゆる行動を予測しながら、安全面に意識を高くもつことを確認し合った。異年齢保育時は子どもの状態を引き継ぎしながら、子どもへの関わりと職員の配置等の連携を図り保育にあたる。	
1166	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22				15	7			2	2	18.6歳	1.男児	普段は混合保育ではなく、各年齢保育を行っている。土曜日は、登園児童が比較的少ないため、混合保育で過ごすこともある。（その日の登園人数により）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第3中指骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	密集度低く、ダイナミッ遊び可能な環境構成では意識は立てられず、衝突、転倒に至る。	もダミッ遊び可能な環境構成では意識は立てられず、衝突、転倒に至る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊戯室ステージの近階段付近死角。階段、保育室からホールまでの距離に勢いが出る。	遊ぶ区切っ空間を、使空天井を工夫する。	1.集団活動中・見守り	ボール遊び大縄とび飛び縄を一緒に行っていた。（空間の使い方）	遊び大縄の種類の選定を慎重に行う。保育者の立ち位置。一緒に遊ぶときの視点のおきかた。（全体把握・近くの対応）	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒にゲットボールを向かって入れて活発に遊ぶ。	3.対象児離れるところで対象見ていた	大縄飛びを担当したため、離れたところから見ているという状況であった。	1.担当者・対象児の動きをいた（至近距離にいた）	他の子どもと遊んでいたもっとり、死角からの飛び出しにすぐには対応できなかった。	2人で保育できる範囲の設定ミス。保育者の立ちの位置のバランス。	異年齢で活動することもっと考え、活動場所の設定、道具の準備をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的にしていたか	他の職員の動き	具体的にしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1167	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				19	20			2	2	18.6歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首軟骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	鬼ごっこ範囲を定めていなかった。個々の運動能力に把握していなかった。	個々の運動能力と適正の確認を行い、いろいろな場面での事故予測を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	バランスを崩した場所が、砂場と土の地面の境界付近だったため、地面の固さの違いに体応できず、バランスを崩した可能性がある。	鬼ごっこをするに適した場所の設定を行う。	1.集団活動中・見守り	熊の出没等でなか外で遊べない中、久しぶりの外遊びではしゃいでしまった。	目の前の場だけでなく、事前の状況にも気を配り、激しく動いて遊んでいる児童には注意を促す。	1.いつもどおり様子であった	友達 6～7人とごっこ遊をしていた。	4.対象動児の見なきていかった	園庭で、他児とまじごと自然使う自然物を採集していた。	2.担当者・対象児の動きていなかった	雲梯であそぶ他児の様子を見守っていた。	障害物もなく、日々の遊びの中で見られる遊頻繁にあったため、他の危険を伴う他児を見守っていた。	子どもの自ら取り組む育ちを見守りながらも、園庭での様々な事故予測を行い、全職員で安全意識を高めていく。	
1168	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4			1	2	1			1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	職員配置とするに一の場にいた人が、降園のため対応の近距離ではあったにでた	子どもの場所なるべく離れないよう、降園対応に出る職員にし確認する、保護者にも等着替えの対応をお願いする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床にくずなかなが、してまった腕てた	つまずくカ所は際に固さのある床にいてつい	古い床にの段ないか	1.集団活動中・見守り	何かに躓いバランスを崩したと本児の話から察する	子どもの遊んでいる場から離れないように、人員体制や保護者対応を見直すこそうするとでおんぶ等の危険性のある遊びや状況に対応できる体制となる	1.いつもどおり様子であった	いつものようにおやつを食べたあと、自分の遊びに向かい合った	2.対象至児の近で児見た	職員は、同じ場で児の見守っていたが、その時たまたえの対応にかわり、その間に対象児が転んでしまった	2.担当者・対象児の動きていなかった	他の職員は他の持ち場にいた。また、お迎えに出る職員が動していることあり、一緒にいる担当職員が、その場を離れてしまった	職員の持ち場や合間がこったため起しま	場を離れる際に声をかけるなど、複数の職員の連携を徹底する	
1169	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12								1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側顆骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	クラス任がともだいはいつ代替ラスにいる保育ともう人は、席かっ歳児者が代替クラスに入っていた。	担任がどちらもいつも違う保育者の時は、子ども達の行動や心情にいつも以上に気を配ると共に保育者同士のコミュニケーションを密にし、子ども達が死角にならない環境を作っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		定期的に安全点検を徹底していく。	4.個人活動中・どもの	A社活動と活動の間の切り替えが苦手なため、担任がA君作った遊び道具をその都度片付けたり、壊したりすることのないようA専用のおもちゃ箱を作ってくれていた。その箱の中を怪我をしたし本児が触れた事でAが体当たりしたようだ。	Aのおもちゃ箱の置き場所またはすタイプを考はミングを考え、トラブルにならないように環境を作りながら、トイレの時も園児が安全に行動できるよう職員配置で声掛けしながら作っていく。	1.いつもどおり様子であった	トイレに園児全員で行ったが、本児はAとは部屋にはいってしまった。(多少個別配慮が必要)	4.対象動児の見なきていかった	クラスの子どもトイの介助をしていた。	2.担当者・対象児の動きていなかった	隣の保育室でクラスの子ども達を保育していた。	クラス任がともだいはいつ代替ラスに入っている保育ともう人は、席かっ歳児者が代替クラスに入っていた。	担任がどちらもいつも違う保育者の時は、子ども達の行動や心情にいつも以上に気を配ると共に保育者同士のコミュニケーションを密にし、子ども達が死角にならない環境を作っていく。	
1170	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15		4	4	4	3			3	3	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特記事項無し	安全委員会で早遅番の再確認を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特記事項無し	ホールの見環境の見直しを行った。	1.集団活動中・見守り	特記事項無し	ホールの見環境の見直しを行った。	1.いつもどおり様子であった	一人遊び子を好むなので、一人でトンネルに一人って一人遊びをしたりの子ども子どもしりの様子を見ていた。	2.対象至児の近で対象児見た	対象児や子周りの遊ども遊んでいる様子を見て対象児トンネルから来る瞬間を見ているため迅速に対応できた。	2.担当者・対象児の動きていなかった	お互い声はかけあっているが、全体を見る職員、対象児以外を見る職員が決めていたため、対象児はいなかった。	特記事項無し	安全委員会にて、保育者の立ち位置や役割分担などを再確認し全員で周知した。	
1171	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	30								2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	片付けが終わった子から順に、広場に誘導した。	午睡準備や掃除などの保育士が分かれた時の保育の流れを確認し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特になし(遊具や玩具での事故ではない)	1.集団活動中・見守り	広場担当者と、睡眠準備担当者(保育室)と分かれた。職員が分かれた。	配置が分かれた時の遊びルールを子ども達に確認する。	1.いつもどおり様子であった	普段からやすい子であった。	3.対象から離れ児ところで対象見ていた	対象児と大は別に縄跳びを回していたので、すぐには対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きていなかった	障がい児の動きに取られ、見ていなかった。	見守りの保育士が保通常よりなくなっている中で、特定の遊保育士が入ってしまった。	人数に応じて、事務室やフリーの保育士に声をかけてヘルプを出す。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1172	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18								5	4	15.3歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（右腕）	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	おやつ後の遊びは、子どもがじっ中集中遊（絵本、お絵かき）にすべきだった。	保育者同士、密に連携をとり、声を掛け合いながら子どもから目をはないように努力する。限定的な(絵本など)遊びに集中するような環境を設定する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	場所が広々と活発に動けるホールであったので、今後は保育者の目が行き届く場所（保育室など）に限定して遊ばせる。	清掃、片付けなどで保育者が少数の場合は、事故に繋がる可能性がある物（遊具）置いておかないようにする。食後でもあり、保育士の目が届く場所（保育室）で遊ばせる。	1.集団活動中・見守り	おやつ後遊設定おすぐやさしてのびのびとしゅうボール遊び（走る）などしてはは適いなかった。	おやつ後、おなはの、絵本、絵かきゆっくりした遊びにする。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	●●の生徒が嬉しくもいるくもいつもより テンションが高く、走っていた。	4.対象児を見ていた	全体的に見守っていたが、園児1名が他の保育室に入ってきそうになったのを止めようとその場を離れ、その間園児と殴り振り返ると既に当該園児が倒れて泣いていたため、事故の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きでなかった	おやつの片付け・着替え、保育室のの掃除をしたため見ていなかった。	事故発生担任の声掛時間が分だった。	全体から目を離す場合は、同じ空間でかたづけをしての他の声をかけ、全体を見てもらっている状態でその場を離れる必要があった。	
1173	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								1	1	17.5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	1.基準以上配置	事故発生時、他学年は給食時間だった（配慮が必要な児童いる）ため、お遊戯室のびに保育士を2名以上配置する事が出来なかった。	活動の内容に応じ配置人数を考慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(200)回/年	ズックのマジックサイズザイズは適いるか。	保護者に動伝え、動きやすい物に交換して頂く。	1.集団活動中・見守り	１１時まっぐり取ごっこあそ等に組み、半の時間はお遊戯室で動的を行った。ごっこ始とや勢い活発な場面見た。	特に動的な活動は、準備体操などをたり、ルルを確認する。また、士の見守りやりけが届くに配慮する。	1.いつもの様子であった	運動会前で練習する事が多かったが、事故当日は、練習がなく、自由遊びをたっぷり楽しんだ。お店屋さんごっこが主流で、他学年も自由に行き来しながら大変盛り上がり、本児も気持ちが高ぶっていた。そのままの気持ちでお遊戯室あそびに移行した。	3.対象児離れとで対象見ていた	鬼ごっこ中で、どの子が走り回っていたため、目をどもにけが全体声掛行った。が転倒際、ぐに駆付けた、とは出来なかった。	2.担当者・対象児の動きでなかった	他の職員はお遊戯室にいなかった。	遊びが盛りとスピードが加速しい、園児が自分セーブが事がセーブしてう。声掛けも届かない時もある。	遊びの内容容に合わせて、遊ぶ人数を制限し、ルルを変える等配慮する。	
1174	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	49				15	17	17		6	5	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手指環指 基節骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	危険な要素がある時は、速状況を見守置を位置し移動しるに必要がと思われる。	発生した事故につの再発防止策として、危険と思われる遊びをしては場所保育者が速やかに保移動に移動し、見守ることを職員間で合し話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	危険な要素ある時は、速状況やかに見守れる位置に移動し配慮する。	特に危険状況ではなかった。	1.集団活動中・守り	当時、３人という少人数でポール遊びをしており、遊スペースも十分ススに確保されており、特に注視し見守る状況ではなかった。	特に危険な状況はなかった。	1.いつもの様子であった	遊戯室にボールを投げてキャッチする遊び本めを、３人行った。	4.対象児を見ていかった	他の園児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きでなかった	他の職員は、それぞれのコーナーを担当していた。	初めは、離れた場所で投げていたが、投げるうちに壁いと思われる。	安全な遊びから瞬時に危険な状況に変化する可能性があるので、見守りながら察知し、安全な遊び方を知らせていく。	
1175	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	10								1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	いつもしていたはいてびとはいえ、高さがあるので注意しながら見守る。	職員が危険があることを認識し、見識守る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	いつも楽しんでいる姿を見ていたので、油断してしまったのではないか。	いつも遊んでいたはい、危険こと伴うこと想定として見守る。	1.集団活動中・見守り	職員の「そろそろ終わりにして帰ろうか」という声掛けを聞いて、急いで鉄棒に向かっていたので、気持ちが焦ってしまったのではないか。	時によって職員がけもの声子行動に影響んなを及ぼす想かを予想ながらかけしを声をる。	1.いつもの様子であった	いつも遊んでいるように鉄棒にぶっ上がっ、身体を前後にそうしていを揺らとした。	3.対象児離れたところで対象見ていた	高さがあるので、至近距離で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きでなかった	４歳児・５歳児が分かれて活動をしていたので、他の職員は５歳児の保育をしていた。		これまで通り、高さがある遊具であることを認識し、子どもの動きを見守る。	
1176	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30				9	11	10		3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		以前から椅子やテーブルなど物を置かないようにしていた。死角であることを職員で共有、再認識し、子どもたちの様子を注意深く見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	６０センチの幅なので、身体が大きい年長児足で、体が届いてしまうことがあるが。	職員が注目意をかけないこと場所ことを意して見識守る。	1.集団活動中・見守り		これまで通り、職員同士が担当役割分担を確認し保育を行う。	1.いつもの様子であった	午睡後は、気のこ友だぶ多ちと遊ぶがいちとことがいが、バイマンこをしたことはなかった。	3.対象児離れとで対象見ていた	対象児を入視野にれながら、３歳児の着脱に関わっていた。	2.担当者・対象児の動きでなかった	おやつの準備や、遊びに関わっていた。	子どもたちがどんなちな遊びを楽しんでいるのかを把握する必要があった。	全体を視野に入れながらも、個々の状況を把握し、理解し、職員同士で声を掛け合う	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教育論・幼稚園教諭・保育教諭					死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】			教育・保育・育成支援の状況			対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか				
1177	令和6年9月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	1. 朝（始業～午前10時頃）	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	30	6	16	8					8	7	14. 2歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	2. 顔面（口腔内含む）	頚部圧迫による点状出血	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2. 基準配置	近くにいた保育者が他児に気を取られた。	事故予防マニュアルを確認し、職員への周知を行う。クラスの「安全チェックリスト」を作成し、毎日3回（朝・昼・夕）実施する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	手の届かない場所、高さに収納場所を確保すべきだった。	遊具を撤去し、手の届かない場所に保管する。	1. 集団活動中・見守りあり	その場で遊んでいることを確認したが、その保育士が他児に視線を向けて時に視界から外れた可能性がある。	合同保育職員中の配置を見直し死角がないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	朝から健康視診を行いつつ本児の様子を見ていたが、いつも通りいり元気に遊ぶ姿が見られた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	複数の子どもを見ていた本児から目を離すと瞬間がしば起きてしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが、各保育者に当たっていたため目を離してしまった。	・遊具自体に危険性がないかどうかの確認、所定の場所に片づけられているかの確認ができていなかった。 ・児童がいる保育室に保育士がいていない時間があった。	声を掛け合い死角を作らずに見落としないようにする。	
1178	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	43			15	13	15			2	2	18. 6歳	2. 女児	発生時の天候は快晴であった。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右腕上腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2. 基準配置	土の減り点検項目がマニュアルになかった。	今後、点検項目に入れ実施していく	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故に関与しては いない場所だが、土ていた場所をそのままにしていた。	山土を盛斜面やゆるやかにした。	1. 集団活動中・守りあり	普段通りに斜面の登り下りができていたと思いた。	子どもたちと遊び方の再確認をする	1. いつもどおりの様子であった	数人の友だちとごっこ遊んでいた。	4. 対象動見ていなかった	園庭内の場所で子どもたちと遊んでいた。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	事故直前は見たが、遊びの内容は把握していた。	鬼に捕まらないようにすることに夢中であったため、普段よりも急な斜面を降りようとしたのではないか	夕方で周辺が薄暗かったため、その時間帯は遊ぶ場所を変えるなどの工夫をする	
1179	令和6年9月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	73			13	18	22	20		16	16	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右上腕肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（12）回/年	2. 基準配置	早朝にった雨で地面（土）がおされており、さら落ち葉にも落ちあった滑りやすかった。	行事中（焼き芋）の事故であった為、職員の意識が焼き芋の場の安全管理に集中してしまった。広い視野で子ども達の動きに目を配っていくようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	築山の盛土が削れてきている為、滑りやすくなった。	削れてきている盛土を補修する。	1. 集団活動中・見守りあり	年齢が上につれて動き発にきが活発なった。	点検と確認による改善に努める。	1. いつもどおりの様子であった	行事中で、対象外の為気分が高まった児が高ともある。	2. 対象至児の近で対象見た	他の園児に注目していた瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	着地に失敗し転倒する様子を保育教諭が見ていた。園児の様子を確認すると共に、簡易処置を施し保護者への連絡を行った。	焼き芋体験中であったため、園児全体に分散して遊んでいたことが要因だと思われる。	子どもの経験と体力に合わせて遊びを見取っていく危険を感じたは行動しないと判断する力も育てる。	
1180	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	43			13	12	18			5	5	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢（腕・手・手指）	右足甲側頭部軟骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1. 基準以上配置	事故防止マニュアル容の内容について理解していなかったが可能性が考えられる。	今回の事故について事故防止マニュアルに沿って確認し、再度職員間で事故防止、対応について共通理解する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(舗時)回/年	今回の事故については、施設の設備に関しては、施設の要因は設備に関しては、施設の要因は設備に関しては、施設の要因は

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者										ソフト面								ハード面								環境面				人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳																																											
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																										
1187	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41			13	15	13				5	4	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	異年齢児が合同で活動することにより、危険な場面や介助の必要な遊具に職員の意識が集中し、全体を見て対応する職員がいなかった。	異年齢児が合同で戸外遊びを行う場合、担任以外の職員を配置し、園庭全体の動きを把握し、各職員に適切に情報や指示が出せるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	2.不定期に実施	実施頻度(4～5)回/月		上記に記載したとおり、安全点検等を定期的に実施しており、今回の事故にハード面でのはめ改善策は見当たらない。	1.集団活動中・見守りあり	・各々が主体的に活動や遊びを選ぶことができる環境を提供している。 ・兄弟同士、異年齢児同士の交流からの学びも多いことから、異年齢児の交流を積極的に行っている。 ・クラスごとの活動でない場合、クラスの子の活動内容の把握、補助や介入に難しさを感じていたが、それについて話し合うことがなかった。	・戸外で異年齢児が遊ぶ時には、人数の集中を避け、時間差で戸外に出る。 ・異年齢児交流の際は担任制を意識せず、職員ごとの担当とし、子ども達の発達や行動特徴についての情報の共有を心掛け、それぞれが対応できるようにする。 ・異年齢児交流の際は、園児同士で動くことがないんぶをすると転倒し怪我をする可能性があることも含め、未満児にとって危険につながる活動に制限の必要があることを子ども達にも繰り返し丁寧に伝え、子ども達自身が判断して危険回避できるよう促していく。	1.いつもどおりの様子であった	・戸外で異年齢児と自由遊びをする時は、姉を含めた4歳児と一緒に遊ぶ姿が見られる。	4.象動を見なきていかった	・事故発生時、2歳児は砂場やブランコで遊んだ。担当保育士も砂場やブランコに配置していた、対象児を見失ってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・各々の学年、クラスの園児の活動に目を向けており、園庭遊び中央で遊んでいた児たちを見ていなかった。	・3歳未満児13名を含む41名が園庭内の様々な箇所で固定遊具やスクーター、砂場遊びなどをしており、保育者5名がそれぞれの判断で対応していたことで、見ていない場所が発生した。 ・固定遊具やスクーターなど転倒や落下が考えられる箇所に保育者の注意が集中し、園庭中央という箇所に油断があった。	・異年齢児で合同保育を行う場合、職員の配置を明確にし、死角すなくすようにする。 ・職員（遊具のとご（遊）の職員配置を行う。	
1188	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23			6	9	8				3	3	15.3歳	1.男児	●月●日に●●病院を受診した。経過は良好のため、今後何か異常だった場合に受診をするようにとのことで治療は終了となった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折、急性硬膜外血腫	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	体を動かして遊ぶのが好きで、何度も遊んでいる遊具であったため、ほかのことに気を取られ、そることができなかった。	まだ3歳児なので、身長高い上に遊具とはそばで援助が必要	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	前回の安全点検の際に鉄板が砂をかぶっており見えていなかった可能性がある。遊具の縞やペンキの剥がれについて、その前の週に修繕をしてもらったばかりであったので、確認不足であった。また、●●幼稚園はすでに同じ遊具に対しネットを張っていたのに対し、対策が遅れていた。	落下防止のための措置を作ることと、遊具の下にマットを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	固定遊具遊びをする場合は、年齢や発達に応じて援助をする	一人一人の年齢や発達に応じた対応を園庭において行う。	1.いつもどおりの様子であった	固定遊具が好きで、いつもの通り嬉そうにハングリングに上っていた。	2.対象児の近象児見た	対象児は離れたところで他の対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達とかかった。	職員間で声掛けや全体で声掛けが不足していた。	屋外遊びの時は、職員の数を増やしたり、声掛けをたくさんくる。子どのどもがなにをしているか注意する。	
1189	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	8									3	2	13.1歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	第一関節骨折（左手母指）	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備にもよるの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	事故予防に関する取り組みがなかった。	事故予防に関するマニュアルを作成する。園全体で危険箇所がないか改めて点検し、ハザードマップを作成し情報の共有を行う。ヒヤリハットを活用し職員の危機意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施		リスクマネジメントの欠如	安全点検に施設長だけの取り組みではなく、職員で意識しあい取り組んでいく。衝立を含め、種々な用具においての点検を行い安全を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	子ども達しが活動している時ではなかったことで、子どもの動態や状態の把握に油断があった。	用具を使用する際は、周辺の状況確認を行い、特に子ども姿や動きに注意した上で取り組む。	1.いつもどおりの様子であった	午睡前のあり、おむつ交換を終えた場所の近くになっていた。	4.対象児の見ていなかった	他児のお交換が終わり、衝立の外側になった横になった児に付かず、本児のそばで衝立の本の処理をしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	寝かしつけをしていたため、離れた場所になった横ていた本児を見ていなかった。		保育担当者は保育室全体に目を配り、園児の動きを予想した上で対応できるようにする。おむつ交換前後の待機時、安全に待つことができるような環境設定を心掛ける。	
1190	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	43									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左全腕骨骨折、左肩前腕皮膚そう痒症、右手挫創	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置		園児に、鉄棒利用前に友だちを押したりしない、等指導すること。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年		固定式の遊具であるため、引き続き月1回の安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり		鉄棒利用時は、保育教諭がそばにつ見守りていること。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子はなかった。	4.対象児の見ていなかった	鉄棒だけでなく、年長児全員が園庭で遊んでおり（砂場、ボール遊び）、園庭が長方形ではなく、特殊な形（かぎ型の土地2個をつないだような土地）であることから、死角がないように担当職員2名が目を配らせていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋内で他の年齢の保育を担当していた。		園庭で遊ぶ場合は、保育教諭又は保育支援者をさらに配置し、見守りを強化する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的にしていたか | 他の職員の動き | 具体的にしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1195	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15								2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・指)	左上腕打撲傷	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	職員の配置基準は基準を満たしていたが、保育保護応答ことが増えて幼児に目届き発生してしまった。保育保護応答ことが増えてくるため、職員を見直す、または活動の見直しや内容の見直す必要がある。	事故発生の時間帯では送迎による保護者対応と保護者が増えてくるため、職員を見直す、または活動の見直しや内容の見直す必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故発生した遊具（滑り台）の階段は木製であり、丸太でできているため雨天によりすべりやすかった。	雨天後に滑りなどの危険がある遊具は、その都度使用を検討し安全に活動できるように配慮する。	1.集団活動中・見守りあり	他のクラスの保育士も含め必要職員数は配置されていたが、担任1名が保護者対応を行っていたことと、園庭に出てすぐに発生した事故であり、広い範囲での活動であったことから対応が間に合わなかったと考えられる。	送迎により保護者対応などが多く見られる時間帯などは園庭の使用をずらし落ち着いてかなら遊ぶなど、事故防止のための工夫が必要となる。また、園庭での自由遊びにより死角や動きに上っては目が行き届かない場面も発生するため、子どもたちの動きを予測し、あらかじめ事故発生の事故危険のある箇所に職員配置するなど危険防止対策をする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りであったが、事故発生後は落ち気分が落ちこむ箇所もはっきりとはいない子で他疼痛箇所や痛みの度合えるが状態であった。	3.対象児の見ていた	園庭での活動で、本児が滑り台へ向かったとは確認したが段しい動きをする園児ではなかったため対象児の近くにはいなかった。他の園児の対応をしており事故発生の現場からは離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応にあたった。	対象児の動きを確認していく、遊具から見ようより形で対象児を見ていたため、他の対応児の中に事故発生、現場に合間に合わず対応が遅れてしまった。	事故が発生しやすい遊具に園児がいる場合は転落、転倒の可能性を考え、配置漏れがないよう職員同士の声掛けの工夫を行う。	
1196	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	37								4	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨顆内部骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(学期ごとなど随時)	2.基準配置		運動遊びにつ動について、事前に活動内容及び安全対策を講師と共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	運動遊びで、雲梯下のマット上の砂中においても取り除くも必要があった。	雲梯下のマット上の砂の除去を、毎朝行っるが動時も状況で除去対応することとした。	1.集団活動中・見守りあり	2クラス合同活動中であった	雲梯下のマット上の砂の除去を、毎朝行っているが、継続とする。	1.いつもどおりの様子であった	運動遊びで、雲梯安全地の砂中の砂の除去を、毎朝行っるが動時も状況で除去対応することとした。	2.対象至児の近で見ていた	保育教論、外部講師と箇所に分かれて講所に分かれて見守りを行っていた。雲梯での見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育教論、外部講師と箇所に分かれて見守りを行っていた。での活動を見守っていた。	運動遊びで、雲梯から雲梯への移動、気持ち、時ちとバランスがとれたことも考えられる。	活動場所の安全確認。事故を予想した園内安全対策研修の実施。	
1197	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19					10	9		2	2	16.4歳	1.男児	早朝、露が出ていた。９：００頃は天気も良く遊具の状態は問題なかったが、本児が遊んでいた桜の根周りの落ち葉湿っており、それを踏んだ本児靴底は濡れていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年他適宜	2.基準配置		今回の事故状況の情報共有をするとともに、園内研修で原因を検討し、園全体でお互いに事故防止に努めることを再確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		点検項目の見直しを行い、当日の気象状況も考慮に入れ、細心の注意を払う。	3.個人活動中・見守りあり	本児が遊んでいた桜の木の根周りの落ち葉が朝露で湿っており、それを踏んだ本児靴底は濡れていた。	当日の気象状況や行動予測をしながらを見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	湿った土の上で遊んだ後、ジャングルジムに登り始めた。	3.対象児の見ていた	ジャングルジム横のシーソーに他児4名が遊んでおり、落ちな支いようにいえながらを見守っていた。すぐに駆け寄ったが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところにあ固定遊具、滑り台周辺を見守って見おり、近くにはいなかった。		広い園庭、種類の多い固定遊具で遊ぶときは、普段よりも多くの職員で見守れる体制を整える。あるいは運番勤務保育教論の出勤後に戸外遊びに移行する	
1198	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22								2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左眼窩底骨折	3.子ども同士の衝突によるものによるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	事故予防、発生後の初動や判断がスムーズに進めるよう、ヒヤリハットの活用や、マニュアルの周知を再度職員に図る。	飛び出し等のないよう、遊びの様子の把握や、死角ないよう職員配置の確認が必要。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		死角となる場所の把握を職員間で子様子把握しいもの把がら遊具や用具の配置を設定していくようにする。	3.個人活動中・見守りあり	保育室内や廊下など、他クラスも含め保育士も必要数は職員配置されていたが、急な対応が出来なかったと思われる。	出入り口付近の幼児の動きを観察し、危険のないように遊びのコーナー配置を行う。職員配置に余裕がある場合には、特に自由活動中には保育者の死角が出来ないように意識しながら保育にあたる。	1.いつもどおりの様子であった	登園時はいつも通りであったが、事故発生後は担当職員は甘えこをせがむ様子があった。	2.対象児の近で対象見ていた	支援員がして付りきっきなくはなく、必要にくくに応じての援助の為、近く見守なからるよう形でした。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	担任は、全体的な把握の、周囲の幼児の対応をしていた。	近くで見ようで支援にあたっていたため、突発的な事故が遅れてしまった。	入り口付近の職員の動きや配置等に留意する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1199	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20								3	2	17.5歳	1.男児	当日は晴れのち曇り、前日は曇りのち晴れの天気で雨は降っていなかったので滑りやすいことはなかった。靴も通常の靴を履いており、歩きにくい状態ではなかったと思われる。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	ジャングルの最上部にせず登らない等の検討をする。	事故予防マニュアルの再確認と研修の継続をする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	今回の事故に関連する施設・遊具でのの異常はなかった。	施設や遊具等の安全点検を継続する。	1.集団活動中・見守りあり	ジャングルジムのすぐ近くに保育者が利用していた園児に意喚起しながら保育をすれば、事故の予防になったかもしれない。	ジャングルジムは高所から危険性がある施設・遊具を利用させる場合は、すぐに保育者が利用園児に声をかけ注意喚起をする	1.いつもどおり様子であった	悪ふざけもいくいおりで体調が様子もなくいつもどおりの様子であった。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	19名の園児が園庭の様々な施設や遊具で遊んでおり、特別に支援を要する園児もいて、3名の担当保育者が園児全員の至近距離で保育することは難しく、ある程度離れた位置から全体の活動の様子を把握していた。	2.担当者・対象児を見ていなかった	他の職員は、自分の担当クラスの園児を保育していたり、事務室で執務にあたっていた。	ジャングルジムは高所から危険性があり、保育者は近くに利用園児に声をかけながら注意喚起をする必要があった。	ジャングルジムなど高所から落下の危険性がある施設・遊具を利用する場合は、1名の保育者がすぐ近くに利用園児に声をかけながら注意喚起をする。	
1200	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22								4	4	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	3.子ども同士突き合ったもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	園児は、合奏の練習後の放感から体育館を行ったっていた。職員は楽器の片付けを優先してしまった。	片付けを優先するのではなく、園児を配る。また、走らないよう園児に指導をする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	お遊戯会の練習の為、使用する大道具等があり視界が遮られていた。	子どもたちが見えるように遊具や使用する道具等の整理をする。	1.集団活動中・見守りあり	事故発生時の配置は基準配置以上の職員がいたが、それぞれに片づけを優先してしまう。	職員が園児に目をよこすように配れている。	1.いつもどおり様子であった	合奏の練習後、自分の荷物にいて後を歩ろ方を走ったた他児がぶつかったことで転倒する。	4.対象の動きを見ていなかった	合奏の練習後に体育館から退場し、体育館へ戻る際、園児に関わっていたため対象児が怪我した所を見ることができなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	職員4名が配置していたが、それ楽器の片づけをしていたり、他児に関わっていたため対象児の事故発生状況を見ることができなかった。	楽器の片付けを優先してしまい園児目を配れる職員がいなかった。	楽器の片付ける職員、園児を担当する職員と分担する。	
1201	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23				13	10			3	3	16.4歳	1.男児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	加配保育士が、本児の行動を分析し、予測して保育する	本児の走るスピードや、加減を予測して保育をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	不備なものをみつけ、主任へ報告する	毎月の点検簿、日誌へ確認	1.集団活動中・見守りあり	散歩コースの見直しと危険箇所の確認	1ヶ月以上利用していない散歩コースは、事前に下見を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	久しく利用しない散歩コースでの散歩が楽しい様子	3.対象から離れたところで対象見ていた	本児の勢い、スピードが速く追いつけなかった。また、対象児と若干距離があるとろで本児を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児のスピードについていけなかった	担当者が側本児にいなかった	加配が必要な園児の園外活動の際には、常に担当保育士間が連携・状況を確認の上、行動を共にすることとする。	
1202	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28				12	10	6		2	2	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	鉄棒から落下時、すぐの状態を確認したが、体調にケガの状態はなく、手指腕が動く状態だった。本児のお迎えの時間も差し迫っていたことから、母親を待つこととし、状況説明後家庭で様子を見守ってもらうよう伝えた。	保育教諭が近くで見守っていたが防ぎきれなかったので、極でできる限り補助するなど至近距離での対応が出来るように する。母親に病院受診を強く勧めれば良かった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒自体に問題はなかった。	安全マットを常時設置する。	1.集団活動中・見守りあり	発生時、鉄棒のそばで保育者が見守っていたが防げなかった。	鉄棒から手を離してしまったり、滑ってしまったりすることを常に予測し、瞬時に対応できるようにする。子ども達にも鉄棒の使い方を丁寧に指導し落下防止に努めていく。	1.いつもどおり様子であった	鉄棒がでようきなくなり、嫌しそうに取り組んでいた。	2.対象至近児の対象見ていた	対象児が手離してしまった瞬時に対応できなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	他の方向児の全体把握と見守り中。	子ども達が近い時間帯で、開放感もあり活動的になる。そういった時こそ、注意換気する。	鉄棒から手を離してしまったり、滑ってしまったりすることを常に予測し、瞬時に対応できるようにする。子ども達にも鉄棒の使い方を丁寧に指導し落下防止に努めていく。	
1203	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24								2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	ソフト積み木が、軽いため、中心の上に足をのせないとバランスを崩しやすい。	ソフト積の端木の端に立つと、バランスを崩しやすい事を職員に再周知し、園児にも知らせる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	積み木が、ずれることもある。	園児が、積み木に上がることで、バランスを崩し、転倒するが可能性があるので、ヒヤリハットとして職員に周知しておく。	1.集団活動中・見守りあり	積み木の端に足をたためる。	一つの積み木ではなく、つこなげることで、幅が広くなるので工夫して遊べるよう配慮する。	1.いつもどおり様子であった	高いところに上がってみんなみた。	2.対象至児の近児見た	バランスくずにそうになった時、すぐをそなった。駆け寄っ	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	積み木がずれたので、駆け寄った。	積み木の上で、バランスを崩もあることを念頭に置く必要があった。	一つの積み木ではなく、つこなげることで、幅が広くなるので工夫して遊べるよう配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故年齢	性別	特記事項	事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育従事者				発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】																										
1204	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30								5	5	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置		安全対策を考慮し職員の指導する場所や補助に付く立ち位置の見直しをし、子どもの状況に応じての判断力を身につけていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		使用する事前点検をしっかりと行い、危険のないように設置していく。	1.集団活動中・見守りあり		子どもたちが活動を実施する前に適切な諸説明や注意事項をしっかりと促し、子どもたちがどの位理解しているか確認をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない姿であった。	2.対象至対象児の近児を見た	とび箱の前でし斜め補助をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	保育士2名、主任は全体の見守り、副園長はもう1台のとび箱の補助をした。		指導や補助につく前に的確な指示ができるように、事前の打ち合わせや担当者同士の共通理解を行い、知識と対応力を高めていく。	
1205	令和6年9月10日	2.認可外	20.事業所内保育事業(認可外)	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	7	1		1	1	1	3		5	4	17.5歳	1.男児	既往症 左肘ひび	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	4.上肢(腕・手・手指)	左肘完全脱臼・内側上顆骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	祝日の為、連携機関の病院が休みで対応できず、母親が#8000にした連絡したが時間がかかってしまい、その後救急車を呼んでもらった	緊急を要する時は、直ぐに救急車を呼ぶべきだった	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝チェック)	特になし	施設・遊具は特に異常なし	1.集団活動中・見守りあり	移動でき台滑りだった為、向きが子供の進行方向を塞いでいたので、跨ぐかけてきっかを作ってしまった	遊びによって滑り台を移動する必要があった	1.いつもどおりの様子であった	友達を誘いに行った帰り滑り台で待った所に行こうと近道をごうとして	2.対象至対象児の近児を見た	本児の様子を見守りながら滑り台の近くにただ、転んだ際、支えたり転ぶのを防ぐ事が出来なかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年齢によって遊び方の内容が違った為、それぞれの場所で対応していた	担当職員は、滑り台で遊んでいる子どもの様に付く事で、滑り台を跨ぐのを防いだり、転んだ際に支えることができたかもしれない。また、他の職員も死角にならない立ち位置での保育や全体を見る職員が居れば良かった。	担当職員は、滑り台で傾いたものを付けるが必要があったが、本児を良くしようとして、滑り少し離れてしまった	担当職員は、滑り台で遊んでいる子ども達の様に付く事で、滑り台を跨ぐのを防いだり、転んだ際に支えることができたかもしれない。	
1206	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24				5	11	8		17	11	16.4歳	1.男児	●●市役所の発達検査を行っている。結果はまだ出ておりません。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		園児たちが移動する前にはぶ才ルールを伝える。気になる園児がいた場合体制を整えてから行うこと。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年		視覚からわかるポイントカードを貼った。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が全体を見きれていなかった。	園外に行ときは1人担任はもう1人補助を付ける。	1.いつもどおりの様子であった	●●市の発達巡回があり、保育園で名前が、保も理解が遅いあった。	4.対象の動きをていなかった	違う園児を見てたため該当園児見れなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	1人担任のため他の職員はいなかった。	園庭で他児の対応をしていたため該当園児を見ていなかった。	園庭で他児の対応をしていたため該当園児を見ていなかった。	園外に行ときは1人担任はもう1人補助を付ける。	
1207	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	105			6		52	53		8	8	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果剥離骨折、右足関節外側側副靭帯損傷	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	ヒヤリハットなど事故が発生しやすい箇所の再確認	怪我が多い場所の確認と職員への周知	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	怪我した場園庭の場所凸凹していた。	園庭全体を整地し、平らにした。	1.集団活動中・見守りあり	毎朝、職員清掃で園庭を確認しているが園庭が少しでも凸凹していたら早急に平らにしていく。	広い園庭での子どもの遊びの動きを職員が分更担に見ていく。	1.いつもどおりの様子であった	朝からの健康状態は良かった。	3.対象から児離れたところ対象見ていた	対象児が転倒した際に職員そばにいなかった為、転倒を防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもを役割分担を明確にする。	職員が園庭から離れる時は、今以上に職員どうしで声を掛け合う。	遊びに夢中になる子どもを把握し、まわりを見て危険がないか確認する。	
1208	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	164			6	55	50	53		10	10	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左頭骨骨幹部骨折、胸部打撲傷	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	ヒヤリハットなど事故が発生しやすい箇所の再確認	怪我が多い場所の確認と職員への周知	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	泥除けマットの角が少し浮いていた。	泥除けマットを撤去した。	1.集団活動中・見守りあり	スペースが少ない所での遊びに注意する。	午後になると体力ある面も落ちる為、遊ぶの場所を限定する。	1.いつもどおりの様子であった	朝から健康状態は良い。	2.対象至対象児の近児を見た	対象児が転倒した際に、職員がいたが転倒を防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもを役割分担を明確にする。	降園時間に怪我をした為、お迎えの保護者対応の短時間化	遊びに夢中になる子どもを把握し、まわりを見て危険がないか確認する。	
1209	令和6年9月10日	1.認可	7.小規模保育事業	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6		3	3					2	2	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右上眼瞼裂創・右上眼瞼参筋肉損傷	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	コロナ感染拡大中も染で子どもの咳やくしゃみの後始末中であった。	2人の保育士の一人は必ず子どもの見守りをする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保護者を待つ場所として区分け、手拭掛きる付きのタオルかけを使用していた。	今までの金属製のフックを使用した木製のタオル掛け(木製品の寸法を圧で裏ら、室高壁に物注で作製依頼したため)から、プラスチック製のフックに変更し、フックの位置を圧縮況の身長(個別)より下にくるようにした。また、同様のタオル掛けを汚れ物置けとしても使用していたが、その使用を取りとめ、籠の中に各園児の分の袋を入れ、袋の口を大きい洗濯ばさみで縛ふちにとめる方法に変更した。	1.集団活動中・見守りあり	いつも走りやすい子、動き子が走りやすい子について特に注意する。	走っている子ども子は膝に乗せて着かせ、手遊び等で気持ち保育士に向かせる。	1.いつもどおりの様子であった	1才児で活動なため、座る場所を一番奥にしていた。	2.対象至対象児の近児を見た	保育士A:絵本の読み聞かせ 保育士B:くしゃみの感染防止の消毒をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士Aは迎えの対応をしていた。	絵本を与えて待つよう指示をしたので、子どもの動き数秒注意がそれていた。	2人のうちどちらか一人は必ず見守りをするようにし、保護者対応等は声をかけて待ってもらえるようにする。園児が落ち着いて遊べるよう、昨年から椅子に座って遊ぶようにしている。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故年齢	性別	特記事項	事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				事故発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
1210	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16				9	7			3	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		身の回りや足元の危険を予測し、子ども達にも声を掛けることや危険箇所などへの職員の配置を話し合っておく。現場の写真を検証して、事前に危険な箇所を明確にしておく。子ども達にも、森での危険な箇所について説明しておく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	昼食後の自由遊びで、各々好きなことをして遊んだ。降り子ども達へ始める前の注意点を伝えていなかった。	必ず全体を見る職員を作り、危険がる事に繋がることを制止できるように、子ども達に危険な場所について考え、全体で共有していく。	1.集団活動中・見守り	森の中の斜面を自由に駆け下りていた。道幅に対する危険予測が不足しており、職員1名が観察しているだけだった。興奮に対しても、現場についてどうなの危険に対する声掛けが出来ていなかった。落ち葉により、地面の状態（見・わからみ）や転倒につながるような危険な箇所の確認不足。危険を予測した見守りが出来ていなかった。	全体を見る人、危険箇所につく人を必ず決めておき、すぐに発見できるようにする。もり遊びの活動内容について安全も考慮し、細か く決めていく。季節により、地面の状態（見・わからみ）や転倒につながるような危険な箇所の確認不足。危険を予測した見守りが出来ていなかった。	1.いつもどおりの様子であった	スピードが出て、止まろうとした時、足をつまった。	4.対象児の見ていなかった	全体としての場面では見ていたものの、対象児の動きは見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名撮影をもう1名は職員の周りで遊んでいて子とはしながらでいい。対象児を見ていなかった。	職員同士で自由に遊びをさせる上で密な連携を取れていなかった。全体を把握する職員がいなかった。	危険が伴うことは、十分に考えられる為、場所や危険箇所を予測し、安全が確保できる遊びを密に話し合う。	
1211	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								6	5	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1.2)回/年	1.基準以上配置		補助方法指導の徹底	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年			1.集団活動中・見守り		着地の方法をその都度伝え徹底	1.いつもどおりの様子であった	列に並び一人一人順番に跳び箱を飛んでいた	2.対象児を見ていた	跳び箱の上に立ち、補助をした	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の補助や見守り		補助方法の変更	
1212	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	33				19	14			3	3	17.5歳	1.男児	●日（●）の体操教室中に今回の負傷部位を2回踏まれ、痣になっていた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	目新しい遊具で子どもたち興味深かった	落ち着いて遊べるよう、子どもたちに遊び方を伝える	1.集団活動中・見守り	支援室内数が多く、賑やかだった	落ち着いてゆっくと遊べるよう、子どもの配置を配慮する	1.いつもどおりの様子であった	すべり台を数回滑って遊んでいた。他児の衝突見受けられ、本児等は行けず、も「急になった」と言っていた。	3.対象児を見ていた	各遊具に1人と2人が付き、定員人数を守るように守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各遊具に1人と2人が付き、定員人数を守るように見守っていた。	特になし	特になし	
1213	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28				15		13		3	3	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨・脛骨のらせん骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	3歳児男児の嘔吐の処理に複数の職員してしまった	嘔吐処理の時点でほかの職員を頼む。また梯など使用する際は職員が必ず配置につくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	特になし	遊具点検指摘事項はないため	1.集団活動中・見守り	担任計3名のうち2名が嘔吐処理に関わってしまった。	嘔吐処理を行う場合はほかの職員に呼び、他児の活動状況の確認も怠らないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯で5名ちと友だちと遊んでいた。	4.対象児の見ていなかった	子どもの動きや活動を確認していたが、3歳児男児の嘔吐の処理にあってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもの全体の動きや活動は確認していたが、嘔吐の対応やほかの3歳児の動きを見ていた。	降所前の戸外遊び	降所前に戸外遊びを行う際は、人員を増やして対応する。増やせないときには戸外遊びは行わない。	
1214	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40								39	33	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	年長になる事もり出来増えたのでき、遊びに大担にてき大なった。	子どもたちと一緒に遊び方を確認する必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	登り棒付近にソフトブロックが置いてあった。	ソフトブロック登り棒にて設置ローあるをを撤去した。	4.個人活動中・子どもみ	色々な挑戦始めるようになり大担にいた。事なっ方遊びが大きな遊びを作り、危険をしている園児にすぐに気付けるようにする。	職員が園庭で死角いるように、危険な遊びをしている園児にすぐに気付けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	何事にも活発で、いつも園庭で元気に遊んでいる。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の遊具でとって遊ん子とって関わった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には職員が複数いたが、視界に入っていなかった。	近くにいた職員が音で気付き、駆け付けた。	目の前の子どもたちだけではなく、視野を広くして、全体を見守ることが必要。	補助方法の変更	
1215	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45			3	11	16	15		5	5	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手前上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		危険箇所の把握補助の配置確認	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		職員による点検、落下遊具の移動	1.集団活動中・見守り		補助の配置の確認	1.いつもどおりの様子であった	屋外で自由遊びをしていた	2.対象児の見ていた	2メートル方ほど後にいて子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもを集めていた		補助の配置の確認	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要					発生時の施設・事業体制									事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】															
1221	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	11							2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	左上腕亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	担任は４名だが、勤務時間の関係で２名が退勤しており、事故発生時は２名の保育士が対応していた。２名の保育士は事故発生場所と少し離れた場所で、それぞれ他の子ども達と遊んだり対応したりしていたため、事故を未然に防ぐことが出来なかった。	遊びの中でシートを使用する際には、引きずって出すのではなく、使用したい場所までたたんだ状態で持っていき、周りを上く見てからなげるように声を掛け、それを習慣にする。また片付ける際も同様にしてしまう、もう1度おもちゃの取り扱い方や遊び方などをクラスで話しあい、職員間での情報共有を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	今回はソフト面や環境面で要因が強く、ハード面での要因については問題はなかった。	転んだ要因については、おもちゃを使用する出し問題があり、保育室で遊ぶスペースは十分あったため、問題はなかった。	1.集団活動中・見守り	遊ぶ前におもちゃの出し方、使用の仕方を確認せず、好きおもちゃを出してし始めていた。	毎日のこあがおもちゃを使用する際に、おもちゃを出す必要があるときは必ず遊び方の確認を行ってし、落ちし、着いべるに環境を設定する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通ごおり、特にわったことはなかった。	4.対象児の見ていなかった	少し離れた場所で子と遊んでいた他の一緒にいたため、事故を予測できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員の動きは把握していたが、他の子の対応をしていたため事故を予測できなかった。	いつも遊びんでいるおもちゃのだ子と遊ぶ達も遊びなれているから大丈夫と安心ありがり、職員の事意識が止薄かった。	子ども達と遊んでいたり、対応していたりしていても、常にクラス全体、子ども達全体に目届かなければならない。また保育士同士の動きも声を掛け合い把握しながらするようにする。	
1222	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	1							1	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	左尺骨近位部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	特になし	遊具として不備があったものではなく改善ではないと考える。	3.個人活動中・見守り	いつもていびであった為、担任も安心していた。	手を滑ら可能ある想注見ことも性もことを定意深く守ることがが必要だった。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至で対児の近象見た	至近距離てみてものの落下ではいたの、時に手を防止ことなだしるはできたかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	別の対応、その場にはいなかった。	いつも遊びてい行るあった為、担任も安心していた。	手を滑ら可能ある想注意深くことが必要だった。	
1223	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	124	17	8	21	25	28	25		24	24	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	左腕肘下骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	職員配置	職員研修を深め、回数を増やし職員の意識を高めていくことが必要。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故で設備問題はなかったため、改善点はないと思った。	今回の事故で設備問題はなかったため、改善点はないと思った。	2.集団活動中・子どものみ	保育者が側なで遊具にいなく、未ぐに防ぎとがなかった。	その場をにも保育同士離れしても育声を掛け合い、危険な状況を判断し子どもを安全に見ようにする。	1.いつもどおりの様子であった	同じクラスの友達5人で固定遊具（大型のブランコ）で遊んでいた。本児は綱の上にていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	泣いている様子で気づいたクラスの他のスから様子をきいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子ども達の遊びがっての広いので、箇所に固定遊具（大型のブランコ）で遊んでいた。本児は綱の上にていた。	声掛けてジャンプ児が本児と過信しまま、保育者が側に不在で防ぐことができなかった。	改めてクラスの園児にも乗り方の確認や怪我をしたことを伝え、どんな遊び方をしたのかを話合い、職員と共有する。	
1224	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60			14	18	13	15		18	18	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	鉄棒の遊び方の問題及び保育者が現場を離れる際の仕方に問題があったように思う。	保育者が場いない場合の鉄棒遊びをしばらくの間休止する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	ハード面には問題は点はないと思われる。	ハード面の対策としては鉄棒の下にマットを敷くと思われるが、鉄棒は屋外にあるため難しいと思われる。	1.集団活動中・見守り	園庭という広いスペースで事故が起きないよう職員も分散して配置していたが、通常の鉄棒とは異なる遊びをしていたこと、その遊びが落下する危険が高かったことを認識していなかったことはケガの要因になっている	鉄棒での遊び方や危険性を指導すること、職員自身もそれを学ぶ必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	本児は自分の能力以上のことにチャレンジしていた	2.対象児の近で対象児見た		2.担当者・対象児の動きをていなかった	別の子ども見守りもの対応をしていた。	現場を離れる際に鉄棒から降りる声掛けをしたのにもかかわらず、おりるのを確認する前に現場を離れてしまったのも原因の一つと考えられる。	保育者が現場から離れることによるリスクがある場合は、離れる際の意と注意したことが行われたのかを確認して現場から離れる	
1225	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19							3	2	15.3歳	1.男児	晴天、強風等特になし	1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	右鎖骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	年1回の研修を設けているが、外部講師による研修を別に1回計画したい	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	今回の転倒も障害物がない園庭は走った時の事故の為、ハード面には問題無かったと分析している。	平地で走っていた時の転倒であり、転倒した周辺を確認したが、凹凸がない場所での転倒であった。今後、園庭の凹凸が見受けられたら、その都度整備していきたい。	1.集団活動中・見守り	おやつを食べた後、保育室内で昼寝タイム（小休止の時間）を過ごし、外でびたいという気持ちが高まっている中での事故であった	屋内の活動から屋外の活動に切り替わる際の気持ちの高揚により、予想しづらい事故が起こる可能性がある。また、週末の夕方で疲れが重なっている状態では、過ごし方の工夫を検討していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	朝からいつもの元気な様子で、転倒前も変わらない様子だった。	2.対象児の近象見ていた	複数の園児が園庭で遊んでいる中、担当は全体を見渡せる配置で他児と遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	転倒した時には、同じ園庭にいたが、瞬間は他児に付き添っていたためにいなかった。	週末の夕方暑さの事故でした、日々の疲れが足れたが考える。	週末にか供子けて子供の体力をよく観察し、周りの職員同士声を掛合って事故を未然に防げるようにしていきたい。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故				事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																								
1226	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15								3	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	外部研修はコロナ禍で実施できていない。	キャリアアップ研修を含め、外部研修を受講し職員間で学び合う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		使用前に安全確認を行う。	1.集団活動中・見守り	4歳児に一人加配している。加配の職員も戸板の補助についたが、この時他の園児についた。	戸板登り中のはもう1名加配した	3.いつも活動で活動であった(理由を記載)	戸板登りが出来るようになり、勢いがついた。	2.対象児近で対象児を見ていた	担任は戸板を押さえながら補助を行った。本児が戸板のぼりが出来るようになり、一人でやりきれるように見守っていた。対象児が落下する瞬間に戸板を押さえ、手を差し伸べようとしたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児動きをいた(至距離にいた)	板の反対側を押さえも同じ戸板を押さえは防げなかった。もう一人も離れ他の子を見ながら、児を対象見ていた。	休で子どもの落ちるで喜びで気持ちが高揚した。	日明けの活動のリスクと活動に向の状況に応じて声かけや体制を検討していく。	休日明けの活動に向けて園児の状況に応じて声かけや体制を検討していく。	
1227	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22								3	3	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	機骨円遠位端骨折	4.玩具・遊具等施設・備品の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・遊戯の始練習を始める前に足元にラインの紐があるので気を付けるよう呼びかけて注意を呼びかけていなかった。	・子ども達にライン上の紐が引っ掛かり足がかれることを伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	・ラインの紐が少し浮いている箇所があった。	・紐が浮いたり安全対策をした。(トラックのの下にくぐらせ固定した。)	1.集団活動中・見守り	・ラインに引っかかって転こけとかなかった為、注意が不十分だった。	・様々な想定をし、考える危険性を防ぐ対策を行う。	1.いつもどおり様子であった	・通常通り練習に励んでいた。	3.対象児から離れて対象児を見ていた	・正面に1名、支援児のそばに1名、後方に1名の配置で遊戯を見守っていた。	2.担当者・対象児動きをしていなかった	・全体に目をおりながら遊戯の指導をしていた。		・担任の役割や配置は現状通りだが、人員配置に余裕があるときは見守りを増やし、安全面の確認を複数で行うようにする。	
1228	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				7	7			2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	いつもいつも遊んでいるご身ごっこ装の衣装このだったのでいる様子で遊んでいつもは見ていつも同じ認て見ていた。	スカート丈や着用して危険がないかなどをこまめに気にかけるようにし、園児にも長ズボンなどが心配な際には声をまめに掛けていくようにする。また、現在も行っているが、子どもたちにも定期的に変身の衣装の使い方などを話す機会を持つようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	登園時の私服についても、スカートにおいては危険なため園では不可に、また絡む恐れや引っかかる恐れがあるなどの長い衣服も避けるよう周知している。 今回のごっこ遊び用のスカートについても、絡む恐れが少ない長さのものであったが、子ども自身がドレスのように見せるため下げて履いていたようで、そのためスカートを踏んでしまい転んでしまった可能性がある。	玩具の点検を入念に行い、使用年齢に再度確認していく。	1.集団活動中・見守り		今回は夕方の合同保育中であったが、そばにいた保育士は対象児しっかり見ていた。今後、合同保育でのイベントなど話ししっかりと保育士と意識をする	1.いつもどおり様子であった	いつも通りいつ友達いまま遊びを行っている際、身用カートを	2.対象児近で対象児を見ていた	ままごとコーナーのそばで別の園児と遊びながら様子をみてコーナーのそばで別の園児と遊びながらドレを着ていたス走ったスカートを長くしないよう時折ながら	2.担当者・対象児動きをしていなかった	他の担当は、それぞれにいる園児の様子を見ている。30分ごとに園児の名前人数確認や、様子の確認を行っている。		職員同士の確認、声の掛け合いなどを強化する	
1229	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25				13	12			3	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	捻挫または骨端先端症	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12) 回/年		特になし	1.集団活動中・見守り	3.5歳児異年齢保育 身体を動かす活動の中で予測子どもれるものへな配慮が足りなかった	人数、年齢だけではなく、個々の活動内容によっての得手不得手や身体を動かす子どもの動作を把握事前に職員間で必要な情報の共有を行う。	1.いつもどおり様子であった	大人数での活動時、人前に出る・話す事などがあるため、集団の遊び時保育士にいて活動に参加していた。	3.対象児から離れて対象児を見ていた	3歳児・5歳児（5名）にルール説明、指示をリーダーとしていた。	1.担当者・対象児動きをしていた(至距離にいた)	5歳児担当保育士は子ども達と一緒に活動に参加しながら、全体に声を掛けたり、見守る。3歳児補助保育士職員は、対象児が集団遊び等が苦手であることを把握していたので、近くで声を掛けたり見守りながら対象児の左側に座っていた。	異年齢保育で合同の活動になっていた為、3・5歳児が混合さ一人一人一所の把握や見守りが十分ではなかった。	職員同士が体を動かす活動での危険性を再確認し、各職員が見守りおこたらないように配慮する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1235	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24								3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯髄の損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		事故防止に関する研修の内容やヒヤリハットの共有を継続していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き、ケガ発す誘物を放置しない よう徹底する。	1.集団活動中・見守り	普段通り行っていた発的にコットを飛び越えてしまった。	コットの間隔を十分にあけて配置する。	1.いつもどおりの様子であった	・普段通りコットカバーを外す作業をしていた。いつもは反対側に移動する際に最後まで歩いて移動しているが、この日は最後まで歩いて行かず途中でコットを飛び越えてしまった。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	・クラス全体を見渡しながら他児が運んでくるコットをワゴンに回収した。転倒した瞬間には合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	・廊下にてトイレの見守り。・おやつの準備のためテーブルを運んでいた。	コットの扱い方に慣れが生じてつい飛び越えようとしてしまったのではないか。	コットの扱い方、作業の行い方についてクラス全体で話し合い、約束事などを再確認する。	
1236	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年		引き続き設備等の点検を継続	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象見ていた	子ども達全員１８名を見て見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子ども達18名全体を見て見守っていた	特になし	特になし	
1237	令和6年9月10日	1.認可	7.小規模保育事業	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	2	5	3					4	4	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実	2.基準配置	特に無し	危機管理マニュアルを再度全職員で確認し、対応の仕方を徹底する	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年			1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	特に無し	特に無し(ハード面の原因とは考えれない為)	1.集団活動中・見守り	運動能力が発達し、走ったり跳んだりとダイナミックな動きができるようになったことが顕著しい年齢である。	保育士が目を離す時、たんだりしている園児への声掛けを徹底していく	1.いつもどおりの様子であった	・他児とわりの関わりでジャンプして自ら転倒	4.対象動見ていなかった	・降園する児の保護者対応に向かうところだった	2.担当者・対象児の動きをていなかった	・排便した園児がいたので交換をしたし、離れたところで転んだ様子を見ていた	室内でジャンプすることの危険性の周知が園児して不足していた	室内で走ったり、跳んだりしている園児への声掛けを徹底していく	
1238	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33	0	0	0	12	8	13	0	0	3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置		職員は、一人が監視役として立ち遊びの全体を把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		フェンスなどに登らないようにする	1.集団活動中・見守り		職員は、一人が監視役として立ち遊びの全体を把握する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児が離れたところで対象見ていた	フェンス近くの雲梯で遊んでいることは確認していたが、本児フェンスにとったは、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	雲梯、フェンス以外で遊んでいる子どもを担当していた。		子どもの遊びを予想し、危険を感じた時には注意を促す	
1239	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23								3	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置		職員の意識向上に向け研修への参加及び職員会議での共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(291)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(291)回/年		ホールで、の活動中、マットなどの場所でいの転倒は怪我につながる事を職員全体で共通理解していく。	1.集団活動中・見守り		担任間だけでなく、職員間で共有意識を図り意識を高めていく。	1.いつもどおりの様子であった	前に並ぶ友だちが活動に不参加であると誤解を招いて順番を追い越した。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	本児が順番待ちの際に、他児を追い越したことは見ていたが別の場所で補助をしていた為、直ぐに手や声をかけることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	配慮が必ども児についていた為、対象児は見えていなかった。		園児の行動をよく観察し、適切な行動がとれるように声をかける。危険な事例を把握し、十分に注意を払うと共に子ども にも伝えていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1240	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左の小指基節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置は適正人数のため改善点はなし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	体を動かすスペースとしてなものも障害になるなく壁やパーテーションも平面で突起物はなため改善点はなし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	遊びのルールも理解できる年齢で職員が見守るなかの実施のため改善点はなし	1.いつもどおりの様子であった	おしりを状おこついたのでのごつ態にで、当該げこと児は逃げことに死になっなり、周りてが見えいなかった。(原因①)	3.対象児が離れところで対象児をていた	担当職員は児童全体の動きを見た。		当時保育士はひとりだった為、他の職員の動きはなし。	おにごっこを始める前に大縄をしており、興奮状態の児童がいる中でのおにごっこ開始となった。(原因②)	以下の改善策を改めて徹底するよう園長から職員に周知した。①激しい動きを伴う遊びを行う場合は、開始前に「お友達やお互いにぶつかったりしないように気を付けて遊ぼうね」などの呼びかけを行い、園児の注意も喚起する。②遊びを行う前に、興奮状態であることが確認できる場合は、すぐに開始するのではなく、休憩を入れて児童を落ち着かせてから開始する。	
1241	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	2	3	1	3	2	4			3	3	14.2歳	1.男児	言葉の遅れがあり、療育に通う。食物アレルギー(卵、牛乳)がある。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇裂傷、上歯打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置		動きが激しい子どもに対しては保育者が必ずつく。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		足場の狭ろところに行かないよう声をかける。	1.集団活動中・見守りあり		全体を見られる位置に立つ。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	テラスのを片づけていて片づけている時に発生した。	2.対象児の近で対象児見た	一旦保育室に入ったが、走りながらテラスに出てきたので防ぐできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	保育室内に居たため、見ていない。	テラスに保育者はいたが、本児に気づくのが遅れ、転倒を防げなかった。	常に本児の居場所を確認し、事故を防げる距離で見守る。	
1242	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	47				13	15	19			3		17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員配置や研修体整えている	基準以上の配置及び、定期的な研修を実施しているため	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	成長ともに手が木も届くでは木ら落下した。チェックではが枝に影響を見ていた。	同一場所での怪我のため、園児場員の職ら位置する	1.集団活動中・見守りあり	入室する職員は、クラス職員のみに声を掛け入室の安全確認を職員の意識ことけていた	クラス単位でなく、連携協力体制の対応中で対応していた	1.いつもどおりの様子であった	園庭出始めに、あ活動まりでは的いが本が、んのぶらろう戦した。仲しみめ、遊に集中せず、後は台や砂場で遊んいた	4.対象児の動きを見ていかった	本来は保護者外遊びを望しい要が出たが、念児がでいたとに付いたその見ていた	2.担当者・対象児の動きを見なかった	活動を控える児童応し、保育士が遊び	カリンのにはぶら下がるが、を伝えいた	担任以外でも、園庭ルールを守るこの児童を都度園児に伝えいく	
1243	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26				9	9	8			1	1	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第三趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	昨年の事故に関して全職員にもらう機会を持ち、看護師、園長への迅速な報告を確認し合ったが徹底できていなかった。	もう一度、職員に迅速な報告の重要性を強く発信する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	コットはできるだけ1台ずつ離して敷くようにする。	5.睡眠(午睡)中	本児が見せたいもあり、皆がについていたところ、走ってしまった。	コットがあるところ敷いて走るではと危ないとという事を子ども達と確認する	1.いつもどおりの様子であった	保育者にいたいあり見せものり、焦って動き、してまった。	2.対象児の近で対象児見た	子ども達は寝床につく時間で、トイレに行く子が駆人とコットの方に向かう子いた。3歳児10人は先に横になっていた(眠っている子が多かった)保育者は全体を見られる位置に立っていた。本児が見せたいものがあると言って、駆け寄ってくる姿も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	3.4.5歳児の担任は休憩に入っていた。		子どもの予ども達を予測し、走らないで子動すむ声掛けをする。「後で見に行くからそこで待っ子ってね」などと。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】										理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
1244	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14								5	4	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5中足骨頭部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定実施期に施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	・トイレの扉の側で見ていた職員が、子どもが扉にもたれた際に、危険を感じ手を伸ばしたが間に合わなかった。 ・転倒した後に患部の確認を十分にせず、保護者への連絡が確実に出来ていなかった。	・トイレの扉の側で見ていた職員が、子どもが扉にもたれた際に、危険を感じ手を伸ばしたが間に合わなかった。 ・転倒した後に患部の確認を十分にせず、保護者への連絡が確実に出来ていなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	1対1でって中で見守っていた中での事故だった為、特になし。	ズボンを際気をこを達なども子に伝ながら守っく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭から時の入室だった為、少しか落ち着かない様子はあったが、受傷時トイレの中では周りに園児等はおらず1人でいる状況だった。	2.対象至対児の近象児見た	職員1人がトイレの見守りをしていて、初めは本児以外にも子どもが排泄をしている状況だった。本児が最後の1人で残っていて、ズボンを履く為に扉にもたれて扉が動いた瞬間も見ていた。止めようとしたが手が間に合わずに転倒してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレには一人の職員配置だったため、他に見ている職員はいなかった。	・トイレの個室内での危険について、認識が不十分だった。 ・転倒した後に患部の確認を十分にせず、保護者への連絡が確実に出来ていなかった。	・繋がったかどうかの確認等をしたり、子どもがズボンを履く際に危険な履き方をしていないかの確認をしながら見守る。 ・事故があった際には、負傷箇所の確認を複数職員で行い、保護者への報告を徹底する。	
1245	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12								2	2	17.5歳	1.男児	先天性骨形成不全	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下肢脛骨骨折(ひび)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定実施期に施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	本児の身体的特徴を理解した上で次の活動の為準備の為本児側への配置ができていなかった。	今回の事故について全職員に周知し、配置人数だけでなく保育室内での保育者の立ち位置についても改善していく。	3.未実施		3.未実施		3.未実施		運動遊びをするために机や棚を寄せて広くした保育室が開放的に感じられたと推測する。	園児全体で室内で過ごし認日々を意過方を確し、職員も意識していく。	1.集団活動中・見守りあり	本児は過去に2度して経緯があり、十分配慮していたが、咀嚼の動きは対応できなかった。	各園児がどのように遊んで深しているか観察し安全に配慮する必要があった	1.いつもどおりの様子であった	体調良好いであり通りつもあそんでいた。	2.対象至対児の近象児見た	近くにはいたが、いまずいた瞬間は目を離していた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他の園児のお対応をおり、見ていなかった。	本児は過去に2度骨折している経緯があり、十分配慮していたが、咀嚼の動きは対応できなかった。	各園児がどのように遊んで深しているか観察し身園児自身安全に遊べるように伝えていく。	
1246	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	108	10	16	20	20	22	20		18	15	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定実施期に施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	っこすけで転倒するはいが、大きがにけると弊がるという予測までに至っていなかった。	職員や、会議で子ども達の育告を行いヤリハットや事故報告に基づいて改善かように意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭のゴムチップに素材に破損はかった。	引き続き、定期的な点検を心掛ける。	1.集団活動中・見守りあり	運動でこへの味が、子どもが自主的にかけを姿が見られるようになった。	会後っ興高まりにこしむ多くるも楽しい体の動かし方を伝えて行き運動能力を高めていく。	子どもたちの主体的な遊びの為、制限を掛けたくないが、怪我なく遊びを楽しめるよう日頃から十分に体を動かし、正しい	1.いつもどおりの様子であった	走る際、腕の振り方に特徴があり、時手出づらい	3.対象児から離れたころで対象見ていた	1名は園庭全体が見える位置で遊びを見守り、もう1名は他児の遊びを見ていたが、他児に話しかけられ、対応していた。転倒は把握したが、詳しい転倒の原因は把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には対象児のクラスが遊んでいた為、他の職員はいなかった。	運動会以降かけっこの経験を重ね、走り方も上手くなっていた為、遊びを子どもに任せがちになってしまっていた。 また、対象児は腕の振り方に特徴があり、転倒時手が前に出づらいと思われる。	子ども同士の競争心や楽しい気持ちが高まり危険に繋がらないよう、声を掛けたり、遊び方を確認していく。	
1247	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定実施期に施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	運動会に向け、ソーラン習組節に取りんでいて、両手横を広げ移動し、両足を上げた際、バランスし転倒した。	活動中の子ども動きに十分留意すると共に、けがをしない体をようなくり日頃の保育に組みこんでいく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	片足を上げたときにスをバランし崩した	夢中になっているあるぬ転倒、怪我にもなりそうなとき達に床に滑ら共にいるとしたいか使用する時は点検する。	1.集団活動中・見守りあり		子ども身も自分注意して参加できるよう指導を行なう。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児童が楽しみにしていたもあり、いつ意楽しことりも、より取り組んでいた。	2.対象至対児の近象児見た	転倒した際すぐに駆け寄りこした。すぐ隣の職員を呼び、怪我をした園児を事務室に連れていく。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	一人担任のため、他の職員はいなかった。		活動中の子どもの動きには、十分留意する。 転倒をした際には早ぐ手が出て体を支えられるよう、日頃より怪我をしないような体つくりをしていく。	
1248	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	4								4	4	14.2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲、歯肉・唇の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.基準以上配置	特になし	ヒヤリハットをもとに様々な事例から保育士の関わり方を全職員に周知していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	今後も通常安全点検を行う。	3.個人活動中・見守りあり	今後も園庭が滑りやすくなっていないか園児が遊ぶ前に点検を行う。	体のバランスがとりにくい年齢であることを理解し園庭整備をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	砂場で遊ぼうと小走りで向かう時に足を滑らせ転倒する	3.対象児から離れたころで対象見ていた	砂場、鬼ごっこ、入室準備をしているそれぞれの園児についていた。本児が砂場に向かっていることは把握していた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	本児が転倒しそうなった見ていたが、補助が間に合わなかった。	保育を担当する保育士間でのこの特性につ把握していく。	一人ひとりに合わせて対応さを職員間で共有していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制													事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因分析、特記事項	改善策	ハード面									その他要因分析、特記事項	改善策	環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯		発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】				施設の安全点検	実施頻度/【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度/【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度/【回/年】			教育・保育育成支援の状況			対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか				
1249	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(園外・校庭等)	3.2歳児クラス	9								3	3	15.3歳	1.男児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上ＡＢ右上ＡＢ外傷性亜脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	職員の危機管理意識が足りなかった。	ハード面、環境面、人的面でについて、状況に合わせ考えながら保育を行い、危機管理意識の向上に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	鉄棒をしない時の提示や制限が不十分であった。	活動の内容に合わ遊具を整理子どもに分かりやすく知らせる。	1.集団活動中・守り	身をかがめるなどして出す動きなど、運動面での取組みが不十分であった。	様々な運動遊びの中で、身をかがめるなどいろいろな身のこなしを取り入れた活動を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	滑り台を終えた園庭を歩き、鉄棒のぐるした。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	対象児が滑り台をすべり終えた後、鉄棒の方へ歩いていく姿を見た。鉄棒の側にあるジャングルジムで見守りをしていた担当クラスの保育士が対象児が転んだことに気づいてすぐに駆けつけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒で遊んでいたもはいなかったので、砂場など遊びほかの遊び見守りをしていた。	尿意を訴えもがいので、ひとりの保育士が子どもの対応をしていた。	固定遊具を使った活動については、見守りの保育士の人数に合わせて制限をして、探索している子どもも見守りも行えるようにする。	
1250	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	18								6	6	13.1歳	1.男児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下唇裂傷	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	職員配置数に不足はなかった	子どもの動き、活動に合わせた保育士の配置を行い、職員間の連携をよりする	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	園庭とテラスの段差	安全点検を継続ながら、危険と思われる箇所については速やかに対応していく。	1.集団活動中・守り	園児15名が一斉に園庭に出ていた。	段差など、バランスを崩しやすい崩れでは停で保育士が目を離さず見守り、必要な援助をしていく。園庭では小グループに分けて保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	室内では泣いていたが、園庭に出ると泣き止んだ。	2.対象至対象児近対象見た	担任は園庭からテラスに向かう本児を追いで見ていたが、他児に目を向けた瞬間に本児が転倒してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員も、園庭で保育士が遊んでいた。	発達や動きの子が子が園庭で発達や動きの子が子が園庭で為、動きに適切に対応できなかった。	保育士が子どもの安全を見守り、対応できる様、保育や流れや動きを見直す。	
1251	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59	5	10	10	12	11	11		13	11	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上左A外傷性打撲	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	手をつないで走ったりかけっこをした場合予測が不十分であった。	・追いかけっこ遊びをする際には手がないことを園児に教える。・手をつないで走ったり、追いかけっこをしている様子を見たら制止する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	本件について面による要因はなし。	-	1.集団活動中・見守りあ	事故当時、園庭ではけんけんばやフラフープ、追いかけっこ遊び等、複数の遊びを行っており、職員による見守りに間隙が生じやすい状況だった。	・子ども人数や様子に合わせて機供できる遊びを調整する。・職員の状況により、園庭に配置する職員を柔軟に変更する。	1.いつもどおりの様子であった	ふだんどおりの様子であり、追いかけっこをあま他児をつなでしまった。	4.対象動きを見ていなかっ	ドの様子むしまり、走ってもった。	砂場の方から全体を見るようにしていたが、ケガをした園児が転倒した前後は、フラフープ遊びの園児の動き（他の園児にフラフープが当たりそうになる）に気がとられていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、室内で保育をおこなっていた。	職員数が少なくなる時間であったため、室内に比して園児数が少数だったの園庭での見守りを最小限の人員でおこなっていたことから、結果的に見守りが行き届かない状況が生じた。	全体の職員数の変応して、実効性ある見守りが園児の活動場所や活動内容を適切に促していく。	
1252	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	55	4	11	8	11	10	11		13	11	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上左BA～上右AB歯槽骨骨折。 上左A～上右A外傷性牙脱臼	3.子ども同士も衝突するものによるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	●●公園を活動する場合、これまで土管・築山使用する機会が少なかったため、土管・築山周辺での活動時の危険予測が不十分であった。	・●●公園での自由遊び中に土管くぐりと築山からのジャンプが同時におこなわれそうな時には、ジャンプ遊びの園児に声掛け・制止して、交錯を防止する。・●●公園で活動する際には、公園でのお約束として土管くぐりと築山からのジャンプは周囲を確認しながらおこなうことを園児に繰り返し伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	本件について、園のハード面による要因はなし。	-	1.集団活動中・守りあ	公園内は見比較的見はいい通しいが、職員の位置によっては土管の内側や出入りの様子は死角になりやすい場所であること。	●●公園土管・築山内の活動を際は、１名は土管の内側や出入りを把握できるで見守ることを徹底する。	1.いつもどおりの様子あった	ふだんどおりの様子であり、土管・築山の周辺で遊の周辺で遊んでいた。	4.対象児の見ていなきていった	公園の出入口付近で、全体をよ見るようにしていたが、ケガをした園児がジャンプした前後は他の園児をしたが、本児がみ込んで泣いていたことで気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園のもう一方の出入口付近で全体の様子を見守っていた。	環境の特性に応じた危険想定の著積不足。	活動の可能性がある環境（場所）での活動内容ごとに、危険想定のリストと処置・対策の定期的更新をおこなう（職員会議等の活用）。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面					人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度/【回/年】					実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】																
1253	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	11								2	2	17. 5歳	2. 女児	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	4. 上肢(腕・手・手指)	左環指手指切断	4. 玩具・遊具等設・設備の不備によるもの	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	鋏の使用長年経験の長児に起き、該当児は認識も経験も深く「起こり前ええ提」で活動に取りでしまった。	マニュアルの活用頻度の見直しを、活動前に確認する。鋏は遊びの楽しさを倍増もするが危険な教材であることも常に認識して保育に取り入れる。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	広々とした床で作業をし、身体は自由に動く鋏集中環境ない。(机上で作業をしなかった)	鋏使用は机上で行う	1. 集団活動中・見守り	友だち同士共同でハサミを使用した(ハサミ操作の獲得具合が異なる。一方は器用で一方は不器用)ガムテープをハサミで切る(粘着部分の裁断は子供用ハサミは適さない)子どもはガムテープを鋏で切るべきではない。	ガムテープを切るとき、鋏は使わない。ハサミを使用するときは一人で使用し、共同では使わない。切る姿勢に気を付ける(床で使わない)椅子に座って安全周囲に気をつける	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	・友だち一緒に共同活動することを楽しまい、ハサミを使用に注意が足りない・	3. 児童からたちが離れとこで対象見ていた	・子どもたちにゴミがあり、片付けが片付けられ	・象たちの周にゴミ、をして目を離した時ハサミでの切る起友だち指事故がこる	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・ホールに使用しているもし散乱していていたり、目をづけていた	ハサミを使用している時保育士が目を離していること。友一ハサミを使用すること了承したこと	ハサミを使用する時は目を離さない。一人でハサミを使用することを伝え、共同では使用しない	
1254	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	23								1	1	17. 5歳	1. 男児	8. その他	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	4. 上肢(腕・手・手指)	切傷	2. 自らの転倒・衝によるもの突ころ	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	本児に足のけがはなかったが、2名の他児が足裏をケガ、裸足保育であるため、結果的に被害がかった事は否めない	裸足保育が直接的な原因ではないが、裸足保育実施については別途検討している。食器の片付け方、子どもの動線や職員配置について直後に検討する。食後の動きが激しい時間帯には複数の職員が見守れるようにしていく	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	食器片づけの動線の方に、遊びの方に、始める子たちの動きの目	保育室内備品等は備えにくい(他クラスの子に食後に睡眠準備の為移動をする為、配置を変化させることで年少、年児に年も影響がある)	7. その他	当該時間は「食事」「片付け」「遊び」、保育士は「片付け」「見守り」「掃除」「下膳」など慌ただしくなる。子ども一人ひとりの動きに対応しきれない事もあった	食器の下膳は複数年担任の年少、クラス保育士に依頼む他、落ち着いて片付けが出来るように声掛けを、特に落ち着いて片付けが出来るように声掛けを、特に先走りやすい子への注意喚起をしていく	1. いつもどおりの様子であった	普段から先へや向先へ急ぎ傾向とすいがあった。当日は自分で遊び始めて子たちが向いていたかもしれない	2. 対象至近で対象見ていた	食器片づけの子たちの列の対面に立ち、食器直を重ねた、食べ子への声掛けを行っていた	食器片づけの子たちの列の対面に立ち、食器直を重ねた、食べ子への声掛けを行っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人担任の為、事故直後の担任の発声により、応援に3～4人の職員が駆けつけた。割れた食器を片付けたり、当該児以外に足を怪我した子を介抱したり、看護師への連絡に走るなど手分けして動いた		上記に記載した事と重複するが、子供も職員も動きの激しくなる時間帯である事から、事故予防の視点から隅のクラスの職員が片付けや湿みの薄い子への声掛けなどを分担することで一人担任の負担を減らして行くて	
1255	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	17								6	6	16. 4歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突ころ	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	職員配置は適格がしたもの見し対応するまでの時間が短く掛け声が掛けが出来なかった	ランニングなど園庭全体を使用する際は転倒等など倒時に素早く子ども子への気付きが出来るように対応する	1. 定期的に実施	実施頻度(毎週末)/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎週末)/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎週末)/年	園庭を半分に分け3才児クラスのみ使用したがいつもよりも狭い環境だったら	ランニング等動きが活動は園庭が確認し活動を広さ大きい場合は狭いと考えられる場合は活動の内容を変更する	1. 集団活動中・見守り	ランニングやかけっこの際は前方見よく行うこの子と一緒に走ってもよく行う子と一緒に活動する	ランニングなどで園庭を使用する際は園児数に対して適当なスペースかどうかを確認し列が長い場合は分割するなどの対応をする	1. いつもどおりの様子であった	動きないしいでいる元々少人数児っもの大本の近くあるる	1. 対象児とマンの様子(対象接児していた)	当日はおた当番保育者と一緒に先頭で活動を行った	象マンの象態(対象接児していた)	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス本職員も本児やクラスの様子を把握をして活動を行った	他の職員の動きを見ていた	園庭での活動が混雑していると思われるときに直ぐに見ていた活動直しや職員配置の検討などを随時行うように確認を行う	園庭での活動時は必ず環境設定は問題がないかどうかを確認する	
1256	令和6年9月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	62			20	24	18			5	5	16. 4歳	1. 男児	・園の夏休み保育期間、新学期準備の週・朝園庭31℃（最高気温34.6℃）／湿度59%、暑い日が続く夕方園庭での異年齢保育	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折顆上骨折（固定8週間）	2. 自らの転倒・衝によるもの突ころ	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(　1　)回/年	2. 基準配置	この日、保育基準を満たしているが、通常より少一人状況の保育を進めていた。	夕方の保育は園内基準の【6人】を守った保育体制で行う。保護者対応等で見守りから離れる必要がある場合は、職員室に応援を求める。	1. 定期的に実施	実施頻度(　1　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		当該設備は遊びの環境としてだけでなくターザンロープと遊具の仕切り（安全）・色分けによる遊離場所目印（防災）等のもあるため現状変更なし。	1. 集団活動中・見守り	夏休み最終日、2学期始業準備の職員体制・環境が普段と違う時間帯あり。	年間の活動の切り替わり、人数が普段と違う日の夕方の戸外遊びは、事故のスクリの発生リが高い事を念頭に、職員体制・配置考慮・遊びの見守りを行う	1. いつもどおりの様子であった	ひとりでびっくりし、タイヤ付近ごとりあ恐ろうタ近ごしイで過ごし、タイヤを飛び越えとしていた。	4. 象動見なった児をていかっ	タイヤ遊びは援助がいらずに保育を進められる状況下と判断して、発生時の保育者はそれぞれ別の場所にいた。H・同時刻付近の幼児を呼びに対応の為に園児にトイレ付近に向かっていた。K・タイヤ近くのコンポスト付近にて虫探しの補助F・ビリの木の下で年少児とおままごと遊びをして遊んでいた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	※普段のコアクラス・2号認定学年担当は、学年会議の為園庭にいなかった。M・砂場の樽側にて、年少児と過ごす。日線は砂場内。I・砂場寡ん中辺りから砂場付近で、年少児と追いかけっこをしていた。目線は砂場方向。	園庭にいる職員は、事故の瞬間を誰も見ていなかった	職員は目の前の遊びに入り込みすぎず、全体を見まわす保育も同時に心掛ける。全体を見の職員の配置、各学年担当者、担当園児の所在を常に把握する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故年齢	性別	特記事項	事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面				人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1257	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	12								2	2	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭部骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育補助しも職員に対して子どもが鉄棒をしている際の援助方法についての指導が不十分であったと考える。	子どもが鉄棒等の固定遊具で遊ぶ際に援助方法について保育補助員への指導を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	鉄棒の下にクッションがその落下点も地面に近くであったが、右肘つき、右先が強く受けてしまったと思われる。	引き続き、鉄棒使用時にはクッションをとすることも徹底するとともに事故防止につき、素材へのものの変更の検討する。	3.個人活動中・見守り	登園時から園庭に出ていため、保護者が子どもを託された担任職員は鉄棒のにつくことず、補助員の対応となった。	園庭に出る際には、状況により鉄棒等の怪我につながりやすい遊具については、使用制限などの対応を行う。	1.いつもりの様子であった	対象児は、朝保護者と別れてから、気持ちを立て直すまでに時間がかかり、一人でいることが多い。気持ちを切り替えるまでは友達の遊びには加わらず、一人でいることが多く、砂場ではなく、鉄棒の方に行った。	3.対象からたところ見ていた	担任は、登園保護者から申し送り事項を聞いていた。しかし、対象児が鉄棒のことには気づかなかった。	1.担当者・対象児をていた(至近距離)	対象児が鉄棒の行ったことに気づいて傍に行き見守っていたが、落下する瞬間に体をることができなかった。		園児が鉄棒をする際には体を支える位置で補助する。子どもに鉄棒をするには声かけ、いてことを伝える。	
1258	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外保育先・公園等)	7.異年齢構成	25			17		8			3		17.5歳	1.男児	無	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨遠位端骨折	2.自ら転倒・衝によって突るもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	・児童が事故ケガをした際の自身の感じる痛みや不調を保育士へ伝える個々の力を配慮し、導いたり、補ったりが不足していた可能性がある。 ・保育者の事故発生時の対応において、様々な状況を想定した、ケガの重軽傷度を、複数の職員で見解・判断する必要があった。	・ 児童へ「痛みや不調を感じたらすぐ伝える」ことや自らの命を守ることに繋がる重要性を伝えていく。また自らそうしたことに気付けるための危険予知訓練を活動の中で取り入れていく。 ・転倒があったこと、怪我をした際には、速過を見る必要がある旨を速やかに園長、看護師に報告し相談する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(144)回/週	・鬼ごっこ公園にないあったでのので、公園の遊び選択（安全性を担保）し、中から遊ぶ子ども達を中心に遊びを提示し、選ばる。	・コンクリート部は、大けるなる走ルール子ども共で、そ子様リリ分るがのでないも達と決めく。後、ものどを子見守る。	1.集団活動中・見守りあり	・ 遊びう前も際喚を行い子走注意起を行いにに注意怪我発生リスクを軽減することにできえる。し、コントクリート部分を走ることは禁止した。	・ 起こりる重大事がうる故につながる行動を子ども事前に確認したり、遊びの途中に、危険を察したら行動を止めて危険であることに気づかせる、または落ち着かせる。役割分担の明確さを重要にし、お互い声を掛け合い確認する。	1.いつもの様子であった	鬼ごっこを、鬼役の児から逃げようとしていた。	4.対象児の動きを見ていかった	事故発生状況報告書にある保育者①が全体を見ていた。しかし、事故直前に、園児の動きに対し、保育者①が移動したあ、保育者②や③に声がけをして全体把握の交替を伝えられず連携がとれていなかった。事故直後の園児が転倒して痛んでいるところを気づいた。	2.担当者・対象児動きていなかった	全体把握ために子どもを見ていたの児らに介入した。	・職員に子どからの取りよるも聞や丁寧な経過観察ができていなかった。 ・事故発生後、子どものケガ共有が職員間でしっかりできていなかった。 ・事故発生時や、子どもの情報共有と同時に、必ず、園長、看護師へ報告をする。	・事故発生時は、子どもの聞き十分を徹底経過観察をしっかり行う。 ・職員間で怪我がこ起きたことを共有する。	
1259	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23								3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折 外上顆骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	職員の数として配置基準以上いたが、1名は水分補給、1名は固定遊具についていたため全体の把握が十分でなかった。	複数職員場合は、職員は偏ることがないような場所で保育を行う。ヒヤリハットを用いて周知し、事故事例の認識を増やしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	園庭ではブランコ、滑り台、ジャングルジム、鉄棒等の固定遊具の下にはゴムチップが埋め込まれているが、今回転倒した個所は、特に何もない場所だったため、固い地面に直撃してしまった。	今回の怪我は、物的環境が大きく起因する事故とは考えにくいが、子どもたちが思いっきり走り、遊ぶ園庭では玩具にぶつかったり躓いたりしないように環境を整えていく。	1.集団活動中・見守りあり	３名の保育士が、それぞれの役割確で連携れていかったので、本児が怪我に至った状況を見ていなかった。	常に子供の活動ができの把握ができる場所に育を行う。	1.いつもりの様子であった	特に変わった様子はなく元気に外に出てい遊びした。	4.対象児動見ていかった	ジャングルジムで遊んでいる子に目を守った対動き分把握ていかった。	2.担当者・対象児動きていなかった	１名は保育室内で園庭に出ることして、１名は水分補給の準備をしていたため、対象児を見ていなかった。	手を引っ張られた時も、対象児が抵抗して強く引っ張られたりしたわけではないが、予測できない力が加わったため、とっさに対応できなかったためと考えられる。	死角になる場所を意識しながら園庭全体の子どもの様子を見守るようにする。子どもたちに対しても、些細なことでも怪我につながるということは伝えていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制												発生時状況		事故の転帰				事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項			死亡	負傷			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1260	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20								7	6	16.4歳	2.女児	特になし	6.水遊び・プール活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部裂傷／外傷後てんかん	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	・室内に入った上きに靴の手を離し、児から目を離してしまった。 ・水泥の急な走り出しがあった。 ・水着を着たままで、ラップタオルから左手しか出ていない状況だったため、転倒の際に顔面に防で動作が片手だけで、出しづらかったと思われる。 ・テラスから入室し、トイレまでの導線があっすぐであり、走りやすい環境であった。	・プール指導中に排泄をしたがる子どもには、プールに近いトイレに連れていく。 ・必ず保育士が1対1で付く。 ・行く時には、体をよく拭き、ラップタオルを着せずに急がずに歩いていくことを守らせる。 **トイレに行く際は必ず保育士がついて手を繋ぐようにする。**	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	・水泥の急な走り出しがあった。 ・水着を着たままで、ラップタオルから左手しか出ていない状況だったため、転倒の際に顔面に防で動作が片手だけで、出しづらかったと思われる。 ・テラスから入室し、トイレまでの導線があっすぐであり、走りやすい環境であった。 ・泥が点つった状態開は、4歳児クラスの絵のおしちゃの壁と軽くて角張っていた。	・角張っている棚には緩衝材を貼る。 ・室内で子どもが走らないように家具の配置を変えない。 ・月に一度の施設安全点検では、全部署で子どもの不測の行動を想定して、危険個所はないかチェックをする。	7.その他	・テラスを通って、4歳クラスロで手をいで行ったが、入室の際、後ろを向いてシを両手で閉めて走り出した児を止められた。	・全職員でマニュアルを見ながら確認をす遊びの指導案に配慮を盛り込む ・プール活動中のトイレは通視しんだトイレではなくて近いトイレに行く。	1.いつもおり様子であった	プール指導を楽しんでいる途中、保育士にトイレに行きたいことを告げた。	1.対象児とツマン状態（対象に接していた）	自分から、児をトイレに連れて行くことを他職員に申し出た。 間にラップタオルを着せ、ラップタオルのポックの間から左手を出させ、テラスを手を繋いで歩いて行き、出入口チョッの前で足拭きマットで足を拭かせた。児と1人保育士が入室後、1人保育士が両手で後ろを向いて出入口チョッを閉めた際、児は駆け出して転び、前額部を打った。痛いと泣いている児が立ちあがる際に両手を床に着えた。その後、泣いてトイレまで行き、便座に座らせ、出血を確認し、近くの職員に声をかけ、隣の部屋の事務所へ知らせに来た。	2.担当者・象児の動きをいなかった	担任4人はプール指導中で1人保育士と児を見ていなかった。保育室内に保育補助(非常勤職員)が勤務をしていた が、大きな音（転んだ際）に気づき保育士が駆寄り、発覚した瞬間はみていなかった。1人保育士はトイレへ連れていくと言った時、1人保育士（担任保育士の一人）は自分で連れて行こうと思っていたが、1人保育士が経験者であると思ったので、自分が連れて行くことを連絡した。	特になし	・基本的な事故防止策と事故後の対応について、事故防止マニュアルを作成し全職員でマニュアルを身に周覚、学び直す。 ●1●2●3から、全職員対象にオブジェ「潮見を重天事故から守るために」を職員研修とする。こどもの命を守るために、声を掛け合い、伝えつらいことも口に出して言えるチームワークカを育てていく。 ・一人一人の子どもを把握するための資料を作成することで、手伝いに来た職員がわかるようにしておく。	
1261	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	87	4	12	18	16	17	20		8	4	17.5歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節内骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	子どもたちの転倒はとだが、骨折には及ばなかった	ヒヤリハット報告において職員全員に周知し、転倒した場合の予測力を高める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床が滑りやすい状態ではなかった	床が滑りやすくないか、点検をする	1.集団活動中・見守りあり	とたどたとしが楽中にしが夢なってまった友だちのやり方に不満になっ	転んだ時にとっさるの手を加が片とっ足が強くなる為、両手をつことを知らせていく	1.いつもおり様子であった	トイレに際、友だちとはしゃいでいた	2.対象至対象児の近見た	廊下にいるこどもちをしっかり把握しきれていなかった	2.担当者・象児の動きをいなかった	各クラスにいた為、その場にいなかった	複数人でははしゃぎすぎている時は、声をかけ様子を見守る	トイレに行く際の子どもにもしっかり目を向ける	
1262	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	25								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨内上顆骨折	1.遊具等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	外遊びの際、職員は2名以上を配置して全体を見守れる場所に配置していたが以前事故対策で話し合い鉄棒への配置は行われていなかった。	外遊び中の職員の配置・見守りポイントについてマニュアルを作り全共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き、定期的な安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり		・子どもが鉄棒をする時は大人が側に見ようする・子どもが必ず視野に入るように大人の立ち位置を考え対角線に立ち連携を取りながら見守る	1.いつもおり様子であった		4.対象児の動きをいなかった	全体の見守り行ったが、砂近に場付近で事故発生時の対象児の様子はみていなかった。	2.担当者・象児の動きをいなかった	全体の見守り行ったが、故発生時の対象児の様子はみていなかった。	鉄棒付近には職員の配置がなかった。カメラで確認した ところ、児と対前練習中で事故に場面ある本は補助が必要であった。	・職員の鉄棒に対する危険予知を高める ・子ども3歳棒をする時は大人が側で見守れるようにする ・子どもが必ず視野に入るように大人の立ち位置を考え対角線に立ち連携を取りながら見守る ・子ども達に鉄棒をする際の注意を伝える	
1263	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	31				12	10	9		4	4	17.5歳	1.男児	事故発生当時（8月）の身長約110cm、本児が遊んでいた高さ183cm、ぶら下がっていたとすると70～80cmの高さから落下したと予測される	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	・梁遊びや雲梯遊びをするにあたって、保育士が必ず傍に付いて見守るのかどうか、担任間の約束事が曖昧となっていた。 ・高所遊びでの子供の姿の共有、また危険予測についてもバラつきがあり、担任間で、雰囲が不十分であった。 ・雲梯遊びに対するねらいと意図が明確でなかった。	・約束事として、必ず保育士が、手を触れさせば子供に触れられる距離だけ、保育士が付けないときには子供たちに説明し、行わないことを共通認識とする。約束事は見氏で全職員に周知し、全職員の見守り方を統一する。 ・申し送り時等に、高所遊びでの子供の姿を担任間で共有し、それ以外にも都度児の姿を共有していく。 ・新たな活動が子供間から始まったタイミングで、その時の子供の姿、活動の様子に合わせて配慮点を担任間で出し合い、どのような活動を行っていくか職員周知する。 ・子供の今の姿を捉えながら、ねらいや意図を明確にしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	・梁の高さや雲梯遊びや一回転するなどして、適切のか。 ・マットが適切であったか。	・梁をどうようの場所で使用が、梁の職員会議で再度検討する。 ・マットの硬さや使用感を再度検討する。	3.個人活動中・見守りあり	・朝の時間に雲梯遊びを行っており、子供達の体が十分にほぐれていなかった。 ・暑さもあり、汗水で体を動かせない日々が続いていたが、新しい遊びの施策を見い出せていなかった。 ・夏の間の保育環境作りや運動遊びに対して、準備不足だった。 ・担任間でロッカの保育や子供の袋についての話し合いの時間が十分に取れていなかった。	朝の活動時に身体を動かす場合は、体操などをしてから始める。担任間で意識的にミーティングの時間を設けると、話し合いの時間を確保し、実施していく。室内環境について（遊びの展開も踏まえながら）、職員間で再考し、環境の見直しを行っていく。	1.いつもおり様子であった	雲梯遊びは慣れていたが、一回転は練習中だ。一回できることが嬉しくて、何度も挑戦していた。	3.対象児の児離れたこで対象児を見ていた	マットを出した8:45以降、保育士は“遊び慣れているから大丈夫だ”と安心大うっ感しのあり、雲梯遊びを注視して近くで見守っていなかった。	2.担当者・象児の動きをいなかった	保育室内で他児と絵を塗りしていたB保育士は、本児の様子を視界には入っていたが近くで守っていなかった。旧保育士は同室別コーナー類棚前の衣で他児と話をしており、本児の様子を見ていなかった。	・個々の運動能力の把握ができていなかった。今の子供の姿から考えられる次の段階の姿の見通しがとれていなかった。 ・コロナ禍を過ごし、経験値や育ち、発達、成長等、これまでの子供の姿とは違っていると言う視点が抜けていた。 ・夏場で室内遊びが多くなっており、体を動かす体力、筋力も落ちていた。	・子供たちの日々の様子から、次の段階にいく姿を予測しながら、見通しをもって保育を行っていく。 ・今の子どもの姿を高有しつつ、どのように発展っていけばよいのか全担任間で話し合い、保育の今後の展開を考え、実施していく。 ・個々の運動能力を担任間で都度確認していき、共有する。チーム保育を意識し、保育する。 ・コロナ禍前までの子供とは運動発達が違うということを念頭に置き、時代、家庭、育ちの背景を捉え、一人ひとりの運動発達を理解していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面								ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教育・保育教諭・幼稚園教諭	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1264	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	36									2	2	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯打撲、下口唇内側切傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2~3)回/年	2.基準配置	職員配置をしても、本徴の特徴がないことも考えられる。	引継ぎ時には必ず、クラスの状況、配慮すべき園児について確認をし引き継ぐ。	給食の後等、食べこぼし等で床が滑りやすいと感じた場所は水拭きをし、油分をしっかりと取っていく、また、水拭きの際は水気が残らないように仕上げる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	床が濡れているなどしていなかったが、何らかで滑りやすかったとも考えられる。	給食の後等、食べこぼし等で床が滑りやすいと感じた場所は水拭きをし、油分をしっかりと取っていく、また、水拭きの際は水気が残らないように仕上げる。	3.個人活動中・見守りあり	室内のテーブルの配置、間隔がなかった。	活動内容に対して、子どもが活動する導線が妥当であるか確認をして遊び等を提供していく。	1.いつもどおりの様子であった	絵本を見る為、絵本コーナーへ移動。絵本を1冊手にして歩席にいても歩席にも途中に転倒する。	4.対象児の見ていなかった	・室内での自由遊びであり、ほとんどの子どもは自席で遊んでおり、本児も落ち着かない様子はなかったため、本児だけを目で追っていたわけではなく、全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・もう一人の保育士が、本児の近くにおり、泣き声に気づき、どこが痛いのか聞き「口の中」が痛いと答えたため、口の中確認。出血確認。担当職員へ伝え、看護師を呼ぶ。	この場面では、怪我はしないだろうという思い込みで対応をしていないか。	子ども達が突発的な行動をするものであるという視点をもって保育にあたる。まずは、子ども達の様子をしっかり見る。	
1265	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	18									3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左下口唇歯牙貫通創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	保育者同士の声掛けが不足し、事故発生時にトイレに付き添っていなかった。	保育者が声を掛け合いイレに行くときは付き必ず付き添うようにする。	トイレに必ず保育者が付き添い、目を離さないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	保育室とトイレが離れた場所にある。	トイレに必ず保育者が付き添い、目を離さないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	生活の切り替わりの時間であったため、クラスや落ち着かなかった。	複数の保育者の役割分担を明確にし、声を掛け合いの動きを把握する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもよりも早いの出りえめ、気持ちはやや高ぶっていた。	2.対象至対児の近象児をいた	お迎えのため、トイレを済ませるよう声をかけたが、他児に対応していたため、姿は見えていたもののトイレに同行しなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	布団の片付けや他児への対応のため、本児を見ていなかった。	複数担任で、役割が明確ではなかった。声掛けが不足していた。	複数担任では、声を掛け合い、互いの動きを把握する。必ずトイレには保育者が付き添う。	
1266	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	5		2							2	2	15.3歳	2.女児	低月齢児	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	園外活動中の事故発生については、園外活動マニュアルのみにとどまり訓練や研修を行っていなかった。	園外活動での注意点や事故発生時の対応について再度周知する。	園外活動で使用する公園の遊具だったため、対象年齢や安全性についてや安全確認できていなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園外活動で使用する公園の遊具だったため、対象年齢や安全性についてや安全確認できていなかった。	公園で遊ぶ際には対象年齢を確認し、安全に使用できる員同か職員か安全に使用か職員士で検討する。	1.集団活動中・見守りあり	対象年齢に合わない遊具を使用し、安全管理が不十分だった。滑り台とブランコに分かれて遊んでおり、各一名ずつ職員を配置していたが、滑り台では傾斜面側に職員がついており、階段側を見守る職員がいなかった。	遊具を使用する際は、対象年齢や使用方法を確認し、使用する場合は落下や転落の可能性がある位置に職員を配置する。安全性が保たれない場合、複数の遊具を使用しない。	1.いつもどおりの様子であった	滑り台の階段を頂点まで登りきったところで、反対方向を向き、階段を逆走し始めた。階段を降りながら下を覗き込んだところで足を踏み外し、転落に至った。	3.対象児が離れたところで対象児をていた	傾斜面側に付き、他児の見守りをしていた。階段を逆走する本児を見かけ、危険性を感じ、傾斜面側から見守っていた。注意したようとしたが間に合わず、転落してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ブランコで遊んで2名の見守りをしており、対象児のみていなかった。	滑り台にいて遊付いる職員は危険を察知した時点で、動く必要があった。また、他職員も周囲の状況を配るあった。	本児の特性を理解し、危険を察知した際にすぐられる位置に保育者を配置する。職員間で連携を携り、危険を察知した時点で声を掛け合う。	
1267	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6		2			4				2	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右前額部挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(適時)	1.基準以上配置	保育室を補助員に任せ、正規が廊下に出ていたため。	緊急時のマニュアルを、保育室、早番遅番で使用する部屋に用意した。子目を離さず、保育、保護者対応する。	机と机の狭間く、椅子もある状態だが、その間で走り出す予測ができなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(５２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	机と机の狭間く、椅子もある状態だが、その間で走り出す予測ができなかった。	空間を広げたり、障害物やつながる物、環境ではないか再確認する。	1.集団活動中・見守りあり	片付けを終らえてから延長番の部屋へ移動するため個々に片付けをした。	移動する時間までに片付けを終える。絵本を読む等落ち着いた環境になってから次の活動をする。	1.いつもどおりの様子であった	他児から投げられ、怒った本児がけとして転ぶ。	4.対象児の見ていなかった	保育室か子どもを離した状態で対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣いていた児っこを抱いた。	保育室から出て保護者対応ら護をたた児をいなかった。	室内全体を見る位置に立って保護者対応を、詳しく伝えること時ありがは保護者を室内に招き話をする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1268	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25			11	14				3	3	16.4歳	1.男児	児童状況票に、母から“目が離せない、よく動きます。”と記載してあった。園でも注意を払っていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第2指骨折(ヒビ)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	基準以上経過配置おり、大縄根らな声掛けしていたが、まさか倒れるとはおもわず、初動が遅れてしまった。	順番待ちを支柱を支柱から遠い場所にする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	支柱が子どもの力でも若干傾くので(土台はしっかり地についていると思うが)乗ってしまうと土台が支えきれずに倒れてしまったのかもしれない。また園庭もアスファルトのように平ではないので、傾いてしまったのかもしれない。	支柱が子どもの力で傾かないように、ネジ止めしっかりと固定する。また安らな場所を探して実施する。	1.集団活動中・見守り	大縄の支柱傍で順番待ちしていたので、容易に支柱を触ることが出来た。	支柱と大人の中間地点で順番待ちをすることで、容易に支柱を触れないようにする。	1.いつもお様子であった	いろいろな物や事柄に対して興味を示した。	3.対象からたった児離れとこで対象見ていた	大縄を回しながら、飛んでいる子・順番待ちしている子を見ていた。	2.担当者・象児の動きをいなかった	園庭内で遊びを他の子逢がいたのでいたらを見ていた。	大縄の支柱に関心を持って触ったので、職員は声掛けをした。	大縄の支柱に関心を持って触っていたので、職員は声掛けしていたが、傍から離すべきであった。		
1269	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21								2	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	箱椅子の持ち方はルール通り持っていたが、歩いて本児が出す形で歩いており、バランスをやすし崩しやすい歩きあった。	箱椅子の持ち方を再検討する。安全な椅子の運び方を再確認する。(○したようにどかことをしたら○らるう自で考えれるに話していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育室内フンはローリングであり、供たちの転倒防止のために素足で生活している。今回はハード面に対しては該当する特記事項はなかった。	特記事項なし	1.集団活動中・見守り	本園では箱の椅子の丁寧な持ち方のマニュアルがあり子供たちに指導している。今回は本児がつまづき先立ちで歩いていたりしていて興奮したようで、あったことから椅子を持って元の場所に戻すことはわかっていながらも意識はまた違ったところにあったのではないかと分析する。	今回のことを受けスタッフ全体でマニュアル正再度マニュアルに戻りしい持ち方がようにすることを振り返り返り行い、子どもにもした。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	つま先で歩いり、ジャンプした活動的な様子はみられていた。	2.対象児の近象見た	象至対をいた	正規職員(保育士)は椅子を片付けて子ども園児の補助をしながら園児の目を声掛け誘導を行った。	2.担当者・象児の動きをいなかった	その他正規職(調理師)は椅子を片付け終わった園児が3階から2階に移動するために室内入口のあたりに整列し待機するようにかけながら周囲ていをみた。	子供の歩きについては職員スタッフは気にかけていなかった。普段からつま先で歩いたり落ち着きがないこともあり歩き方の癖についてスタッフはわかってはいたが指摘はしていなかった。ヒアリハットとしても共有はできていなかった。	これからは園児の注意し事故様子に事故が起きる前に声掛けをしたり、傍から離れるようにすることを改善していく。	
1270	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10								3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	本来、外ではないところに入って追いかけっこをしし、方向転換の際、転んで肘を強打してしまった。	園児はもちろん職員にもルールの徹底をし、事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	園庭(表面は砂)と通路(表面はラバーゴムのラバー)では、摩擦抵抗が違で、急な方向転換時には、転倒しやすい。	通路のゴムの表面のラバーは、だ時の事故防止のため、とはできないので、ルールの徹底をする。	1.集団活動中・見守りあり	ルールの徹底と安全を確保する方が、ないなかった。	ルールの徹底と追いかけっこをする場合、他のグループが危険かないでなで確認をし実施する。	1.いつもりの様子であった	とても活発に動いていた。また他園児とも喧嘩をすることなく遊んでいた。	3.対象からたった児離れとこで対象見ていた	離れとこ守て転ろ見ていた。ただ瞬間は、逃げ児で、見ていなかった。	1.担当者・対象動きをいた(至近距離にいた)	発生非常時に職員が近くに、直ちに視したのでにかり、すぐよ状況を把握し、担任を呼んだ。	園庭にて遊ぶ自由時間でしたが、遊ぶ前に遊ルール説明がなかった。	毎回、外遊びの際は、ルール説明を追いかけっこをする場合は、先生に相談してから遊ぶようにする。	
1271	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	7								5	4	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	マニュアルがあるものの不適切対応(抱っこも含め)のマニュアルが不十分だった。	抱き方のマニュアルの作成をする。(写真など)	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5～12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き実施する。	1.集団活動中・見守りあり		マニュアルに対して実施しているかのチェックシート及び看護師、主任によるチェックの実施を徹底。	1.いつもりの様子であった	午睡から目覚めて、15時のおのおやつのお前にひとの遊びをしようとしていた。	1.対象マーン児とンマン状態(対象に接児していた)	隣の部屋の事務員が合い、指を喜んさしたので、抱っこしに近くに寄った。	1.担当者・対象動きをいた(至近距離にいた)	ゆっくりと右に倒れていく様子は見えたが、手が届くは範囲では、助けられなかった。	抱っこの仕方が適切だった。普段不安定な抱っこはしないが、時は抱っこしまった。	０歳児マニュアルを見直し、全体の保育士に周知をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1272	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	14									3	1	17. 5歳	1. 男児		6. 水遊び・プール活動中	1. 負傷		4. 創傷（切創・裂創等）	2. 顔面（口腔内含む）	下顎裂創下顎打撲傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	2. 基準配置	保育の慣れが危険への知への意識の希薄さに繋がっていた。	ヒヤリハット活動の推進、他の事故事例を共有し、危険予測能力を培い、重大事故を未然に防ぐ。	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（毎日）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（毎日）回/年	パタパタブールを置いて水遊びをする事には空間が狭かった。	パタパタブールの位置を変更、水遊びの空く遊び間を広くした。	1. 集団活動中・見守りあり	滑らないようにゴザを敷いていたが、ゴザが重なっている箇所があった。	子どもが安全に楽しく水遊びができる事前に危険個所が無いか、しっかりと確認する。	1. いつもどおりの様子であった	園児同士で水の掛け合いをし、いつもより気持ちが高揚している様子がみられた。	2. 対象児の近く対象児をみていた	担任保育士全体を見守り、遊びをしている児を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きをていた（至近距離にいた）	他２名の職員は特別支援加算職員のため各担当児を見守っていた。	子どもは気持ちが高揚すると危険な行動をとりやすいことを予見できなかった。	気持ちが高揚している当該児の様子を把握した上で、どのような行動が想定されるか、想定した保育計画を立てる。危険予測を行いながら見守る。	
1273	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	6. 5歳以上児クラス	20									4	4	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢（腕・手・手指）	左中環指靭帯損傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（３～４）回/年	2. 基準配置	職員が目を離した本場面で本児が跳び箱を跳んでしまった。	跳び箱を行うときの保育士の位置や子どもへのつき方を確認し、何か起きたときには声を掛け合い動きにくいようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	運動器具を使った活動を行った経験が少なかった。	運動器具を使った活動を行う際には、職員が安全な遊び方を伝え、安全に遊ぶことができるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	運動器具を使った活動を行う際の注意事項について、話し合いを行っていなかった。	子どもたちと跳び箱の安全な遊び方やむ時の約束を再確認する。	1. いつもどおりの様子であった	跳び箱の中、職員が目を離した場面で跳び箱を跳んだ。	3. 対象児が高いところで対象見ていた	他児が電気を消したため、電気をつけようと、目を瞬離した間であったため、制止ができなかった。	1. 担当者・対象児の動きをていた（至近距離にいた）	他児のトラブルの対応や、加配児の個別対応、少し距離れた距離での見守りを行っていた。	子どもの動き や、職員が離れる際に声を掛け合っていなかった。	運動器具を使った活動を行う際には、職員が安全な遊び方を伝え、危険な場面があった時には、その都度声をかけ気をつけて見ていくようにする。	
1274	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	7. 異年齢構成	11				6	4	1			2	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面（口腔内含む）	眼窩低骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（２）回/年	2. 基準配置	公園内での職員の立ち位置	職員がどこに付くか、また園児に公園内での過ごし方のルールを指導する	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	3. 未実施		1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	公園は十分なだったが砂で滑りやすかった	走って遊び場所を考える を考える	1. 集団活動中・見守りあり		遊び方を決めり、園児にルールを指導する。	1. いつもどおりの様子であった	転倒してもなかなか前に手が出ない	3. 対象児離れたところ対象見ていた	本児含め数名を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見ていた。		誰がどこ（誰）を見るかを決めておく	
1275	令和6年9月10日	1. 認可	10. 事業所内保育事業（認可）	10	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	2. 1歳児クラス	4									1	1	13. 1歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（４）回/年	1. 基準以上配置	１歳児６名担任１名パート１名事故当時は４名の１歳児と保育者１名で園庭で土を慰ったり、ケーキ作りをして遊んでいた。走り回る子がおらず、みなしゃがんで遊びに集中していたため、保育士は１名で見守ることが出来ていた。危険に関する認識、想像が足りなかった。	段差は子どもの様々な動きを経験するために必要と考えるが、危険を伴うため、段差の上り下りをする園児の後ろ又は横に寄り添い補助をする。子どものやりたい気持ちを側がないよう見守をしつつ安全を確保することを常に意識する。事故の振り返りを職員間で行い、安全に対する予測、展名、対応に柔軟性を持っていけるよう、話し合いや、学びを定期的に行う。	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（毎日）回/年	あるやなる滑りが滑りすくなり上ため、掃除をていき行う	段差は子どもの様々な経験に動きを経験するために必要と考えるが、危険を伴うため段差の上り下りをする園児の後ろ又は横に寄り添う。段差のへり等に土がついて滑りやすくなっていないか、石や砂、土等、歩行や段差の昇降の妨げになっていないか常に点検、整備をする。	1. 集団活動中・見守りあり	本具は玩に児方とのい促育かう機嫌ょくきた。保先差本片はがおるあと、保落たベルおう青向けたのが要考えると育士がちシャをとを拾うと中因る。	子段差降りるこ先る。もの子後は実ら瞬守る	2. いつもと元なった（理由を記載）	午睡中に突然夜泣きのように泣き出す。午睡出す後も眠いと言ってきをする、内科健診が嫌で大泣きするなど、いつもと泣く様子が見られている職員間で話していた。おやつ後は落ち着き、外に出たいと言い、機嫌よく遊んでいた。	1. 象マンの（対児象接していた）	本児が玩具を行ったり取ったり、保育士もつ行ったり、ダンを持っていてた。プカー両手に嬉しいにした。保育士が他児の方にいるとてきた。向かいてい	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	室内で他児をしていたため、見ていなかった。	保育士のからき後ろついていたが、本児段差の下ところを下と足をとと、他児を見ながら、ろ児を見ながら、シャベルをめをした。	他児着ごしの集中で、本児の動きに触れる。	落ちてっ段差るでも降りろどもと子に触れて守だった。	
1276	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝（始業～午前10時頃）	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	24				11	11	2			2	2	15. 3歳	1. 男児	・天候　気温25.5℃湿度50%	7. 登園・降園中（来所・帰宅中）	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	口唇切り傷、乳歯上前歯打撲→乳歯神経損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（ ）回/年	1. 基準以上配置	普段から移動することを伝え、幼児動きが大きくなることを予想する。	職員の配置、配慮を今後注意する。	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	子どもの導線の確認、点検箇所について再検討する。	危険個所について予防策を実施する。	1. 集団活動中・見守りあり	職員の立ち位置が適所だったか、遊ぶ入る子ども前にも達に、気をつけることを伝えていたか	上記の事項で検討、伝達を行う。	1. いつもどおりの様子であった	朝の支度してコーナー（部屋）に入室して遊んでいた。場所を移動にする時に突然走りだした。	2. 対象児の近対象見ていた	本児の近く（1メートル以内）にいたが、転倒際に手が出ずこできなかった	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他の職員（1名）は加配児についた為、別室にいた	入口付近に机があってた。	机の位置をずらし、普段室内で移動する時はぶつからないことを伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度/【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度/【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度/【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1277	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	17								3	1	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置は適正人数のため改善点はなし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施		1.定期的に実施	実施頻度(260)回/年	特になし	体を動かすスペースとして障害になるものはなく、壁やパーテーションも平面で突起物はないため改善点はなし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	かけっこは、児童が興奮状態になりやすい活動のため、児童の様子を確認しながら、その場の状況に応じて活動を見直していく。	1.いつもどおりの様子であった	ホールで2歳児5名がかけっこをする。ホールでの活動が好きな当該児は普段と同じく興奮しており、何度か転倒することがあった。転倒時に職員が当該児に様子を確認をするが、泣くなどの様子はなくそのまま走る姿が見られた。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	職員は同じホール内で5名の児童全体の動きを見ていた。当該児だ際に様子を確認したが、補子、つなぐ走り様子活動の動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	クラスで室内遊びをする12名を職員2名で見ていた。	フリーの職員が本児をいたためいつも変わった様子があったのか分かず本児が転倒際、いつ泣いていたということが遅れた。	①児童が興奮状態の時は職員がそばにつき、落ち着いて活動できるようにする。②活動時に児童の転倒があった場合には、すぐにクラス内で共有する。③歩き方や普段と違う様子があった際には、視診を必ず行い、看護師、上席者に報告をする。	
1278	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14								1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	鉄棒をやっている本児の保育者がつねにそばいていなかった。	鉄棒をするときは、必ず保育者がそばにつく。事故後対応策会議を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(44)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(88)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(44)回/年	鉄棒の高さが約80cmでマットを敷いていた。	年齢に応じた環境たとえるが、引き続き点検が必要である。	1.集団活動中・見守りあり	保育者が保育室にいたが、他の活動におり、鉄棒は子自にできる状況だった。	自由な保育の時間には鉄棒は出さず、設定として行う。	1.いつもどおりの様子であった	体調は普段と変わらず	3.対象児が離れたところで対象見ていた	保育者は、同じ保育室で制作をしている児についていた。本児の様子は目で確認できる距離にいた。制作を中心とした室内活動にしていたが、子どもたちに体を動かしてほしいという思いから、保育室に鉄棒とゴムとびのコーナーを設定した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他に職員がいなかった。	自由な運動遊びとして鉄棒を設定していたことが怪我につながった。	安全な運動遊びの設定が必要。	
1279	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	72	6	17	19	16	14			20	19	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	●月●日疑い●月●日骨折骨顆状骨折●上腕骨顆診断	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	今回、運動会の練習としてのリズムの感染拡大で少人数で行っていたものを、3年ぶりに大人数でのした所に十分に子ども同士の接触防止の配慮確認ができていなかった。	ホールにおける大人数の保育活動を開始することについての、職員間の事故防止の認識と、分担を改めて確認した。特に、入れ替わりの場合に子どもの状態を確認しピアノでの動きを進めることを共有した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		安全保育について、共通高認識を深める。	1.集団活動中・見守りあり		子どもたちの動きを確認し、次の作に移ように動る職員確認する。	1.いつもどおりの様子であった	リズムで、ピアノの音に遅れないように、ピアノの音に遅れないことと飛び出しためと、他児との接触に年齢と能力を考慮して場合全にしようと行く。安意くと説明して	3.対象児が離れたところで対象見ていた	全体リズムとしての７０人に及ぶリズムは、コロナの感染が落ち着いてなり、できることに関する心があり、安全への認識が緩くなった。各クラスごとに安全配慮について確認して行うことができていなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	全体で集まるはコロナ後で始めたばかりであったが、職員いた為児童の状況を確認しつつ次のリズムに入るなどの配慮が不足した。		日々のリズム活動の中で、クラスごとや幼児、乳児に分けての場面では安全はできていたが、乳児・幼児一緒に行う場合の安全な確認が不十分だったので、合同リズムの際の安全確認をクラスごとに行うことを改めて共有した。クラスの入れ替え時の子どもの様子をクラスの担当者がピアノ演奏者に合図して次に進めることとした。	
1280	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14								3	2	17.5歳	2.女児	●/●～●/●まで家庭の都合で休んでいた。●/●に遊戯室へ移動している。●/●の登園は５日ぶりであり、遊戯室での生活は初めてであった。	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨外側外顆骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	一斉に移動したので、ってしまう園児がでてしまった。	４．５人のグループで移動し、園児ばらつかないように徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	クラス部屋（フローリング）だが屋上の床材とは異なっている。	床じきにゴムチップを使用した素材を安全の使用をしている。劣化等の点検を続ける。	7.その他	通常は自手洗が自手洗場に場為、使用室の場用するが、●/●～遊戯備で使用で、環境の変化きき境の変化生じた。	環境の変化を最小限にとどめる。屋上の場を使用せずトイレ手洗い場を利用する。	1.いつもどおりの様子であった	●/●～●/●まで家庭の都合で休んでいた。●/●に遊戯室へ移動している。●/●の登園時は環境が変わっており気分が高揚し、屋上で走り回りたくなってしまった可能性がある。	2.対象児の近で対象見た	屋上には正規保育士が全体を見た。	2.担当者・対象児の動きていなかった	正規保育士1名⇒遊戯室にて待機、パート⇒うがい・トイレから帰ってくる園児の受け入れ、保育実習生⇒屋上から遊戯室にもどる中間地点で園児の見守りをしていた。	一斉に移動したので、ってしまうがでてしまった。	４．５人のグループで移動し、園児ばらつかないように徹底する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰						事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度(回/年)	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度(回/年)	遊具の安全点検	実施頻度(回/年)	玩具の安全点検	実施頻度(回/年)	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1281	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20	3	5	4	3	2	3			24	21	18. 6歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	左手指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		職員の立ち位置に気を付けていく	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年		危険個所がないかを環境を考えるチームで危険個所をチェックする	7. その他	テラスを走ることの危険性を子どもたちに伝える	職員の目視による子どもの確認子動きの確認をする	1. いつもどおりの様子であった	登園したばかりでだらりとも来るのを心待ちにしていた	3. 対象児が離れたところで対象見ていた	走ってしまってくはわかったが止められる距離ではなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	動きは見ていたが、防げる距離ではなかった。	職員の人数であったが、走らないように止めれなかった	日頃より職員同士で子ども様子を共有する	
1282	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	23									4	3	16. 4歳	1. 男児	なし	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第4指末節骨亀裂骨折左第4指挫滅創	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(15)回/年	1. 基準以上配置		破損個所や対応については職員全体で把握し、ドアの開閉は職員が必ず行う。その旨を子ども、職員共に周知し、子ども達の安全に留意する。	1. 定期的に実施	実施頻度(252)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(252)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(252)回/年	ドアストッパーが破損していた。一度修理をしたが再度破損し、業者に依頼する予定だった。職員間で該当ドアを使用しない事の情報共有が出来ていなかった。	すぐにドアストッパーの修理に依頼し修繕を行った。	1. 集団活動中・見守りあり		配慮が必要な児の動きや、全体の流れと保育士間で情報共有を密に行う。	2. いつも元気がなかった(理由を記載)	外遊びから室内に戻るを嫌がっていた。	1. 対象児とマンマン状態(対象児に接していた)	本児と一対一で対応していたが、本だけに集中でしまいで入れて、見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のほとんど職員は入室し、トイレ誘導などしていて見ていなかった。		当日の配置や予想される児の動きなどクラス士間で情報共有を行い、対応を考えておく。	
1283	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	13									4	3	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	配置等問題なし	職員が子どもの動きを予測できずにしっかりと見ていなかったため	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3. 未実施		1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	ハード面に問題はなかった	ハード面に何も問題はなかった	1. 集団活動中・見守りあり	室内活動の為、運動遊びの環境を保育士が作っており、園児の動きかり見ていなかった	同じような状況の際は、静かに遊べるように、準備まで、が終わるこまで過ごすよう、保育士は準備をしながら常に園児の動きを把握していく	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの登園し遊び出す。	4. 対象動の見ていなかった	保育士1名にて4歳児13名の室内活動した。運動環境を室内で作っていた。遊びの環境で作っていた同じ空間に入るが子どもをを見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名担任の為他の職員はいない状況	ソフトブロックで遊ぶ際は、①必ず近くに保育士がいること。②高く積んで登らない、というルールだったが、職員が近くにいても、見ていなかったため事故の発生に気が付かなかった。	必ず園児の動きを視界に入れる準備をするようにする。また、同じような環境の際はソフトブロック等で遊ばないようにする	
1284	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	9									4	4	13. 1歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足第1指基節骨折	3. 子ども同士の衝突によるものにもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		緊急時にすぐ対応できるように複数の保育者で見守るようにした。また、遊ぶ前に園児への声かけを行い、職員も予防的な声かけをするよう職員間で確認した。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		ポリカーを使用する場合スペースのホールで行うにした。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもたちは、足でいた。	少人数であそぶ場合、遊具の状況により、人数を調整する	1. いつもどおりの様子であった	乳児は裸足であそぶ場合、遊具の衝突の際はリが高くなる。	2. 対象至児の近で対象見ていた	1人で5人をみていたため、全体把握されれ、咄嗟への状況の瞬時の対応が難しかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ場所に職員はいなかった。		1人で少人数の子ども見る場合、咄嗟の状況に対応できるような人数、遊具の設定を心がける。	
1285	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	18			6	7	5				2	2	16. 4歳	1. 男児	日常生活の中で、人間関係・社会性、集団活動への参加や、食事面（偏食）での課題があり。生活の中で個別対応する場面が多く見られる。市の発達支援センターの巡回発達相談歴あり。また発達支援センターのプログラムにも参加している。身長約110cm、体重約21kg	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	右眼下切創、右眼視力低下の疑い	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	故予防する事に研修が不定期であり、今年度の実施であった。事故への意識が低下していると思われる。	職員に対して定期的な安全チェック実施の呼びかけ、また研修による安全対策への向上意識をはかっていく必要があり	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	水道の角の部位は元々保護していたが、室内の安全チェックで水道の縁の部位も固さがあり、そこに ぶつかる可能性も予測して、縁全体にも保護する必要があると気づいて対策をする事ができなかった。	水道の縁全体に保護を実施	3. 個人活動中・見守りあり	やや離れた場所で見守りをしていた職員は、手洗いのため水道へ移動している事を把握していたが、見守り場所から数メートル距離があったため、バランスを崩して転倒した際、介助する事ができなかった。	他の子は着席していた状態であった。集団活動と同じ生活で他の子と同じタイミングで一緒に着席できるよう対応する。	1. いつもどおりの様子であった	個別対応した後に室内の水道に歩いて向かっていた。	3. 対象児離れたところで対象見ていた	２～３ｍ離れた場所にいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どものトイレの見守りをしていた。	個別対応後、特に不機嫌な様子は見ておらず、通常通りの歩行で歩行道に向かっていた。そばには職員は付添っていなかった。	室内で他の子ども達の見守りをしていて付き添えない場合、もし職員に見守り状況によっては付き添いをお願いする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名
1286	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30				15	15				3	3	17.5歳	1.男児	転倒する際に手が出にくい	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	転倒により左前歯亀裂
1287	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	12									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	急性硬膜外血種
1288	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				10	15	12			5	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折
1289	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	15				14	1				2	2	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	なし

No	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
1286	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	何も落ちていないところでも、上履ついた水や砂がしっかりと転倒するかもしれないスクを職員で把握していたのと同時にトイレ安全・衛生管理マニュアルが実施されていなかった。	今回の事故で他にようなことがこりを職員同士で合いスクマネジメントを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	トイレ近くでの転倒であったため、トイレの環境を見直す必要があると考えた。トイレは、室内と戸外からの両方から利用できるため、砂ぼこりが多く確認される。また、扉ひを中断し、無ってトイレへ来る子も多いため、室内れやすい場所は水濡が落ちていることがある。エントランス部分は子どもの靴を多く確保である。が、決められた枠内に収められるように管理マいているため、靴子への衝突は考えにくい。トイレは保育者にとっては死角になりやすい、子どもの行動からしてもトイレから出た子は走りやすく、リスクが高いエリアとい える。	他のトイレに比べ、登園時に利用していたトイレは、室内外からの出入口が分かれていれ、定期清掃は第、子ひかさ時間帯を実施する。が、れ手がみるため、ただ、トイレ前の子様が必要、子どもが使用後は流れる可能性があるため、関係職員の共通や安全のとりの色をすぐに保護手の長手袋をの最低レベルを定義し、を機能した職員が対を機能した際にすぐに処置できるように、子ども、大子、を様大きなことを、ーを、れるの方れを必要ときなに、子どもが付き急で行動を観察する、発の変化を、ことが必要材で臨機応変もやすく、臨ッ速な可能性があるこで、扱い素材に変更する、ラップフィルムにおかさ方法を改善がみられた。家庭にそ とたちに危険情報を 発知していく。
1287	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4) 回/年	2.基準配置	・園内で事故予防を行っているが、外部の研修になかなか参加できていない。	・外部研修に積極的に参加し、事故予防の意識を高めていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備や遊具、玩具点検は、適切に行っている。	固定遊具では、園児個々の力量を把握して見守る必要がある。ジャングルジムは特に年齢により目安が適切か検討していく。
1288			1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		突発的な事故のため、防ぐことは難しいと思われる	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		鉄棒を行う際は、手を離さない意識を離さう注意する喚起
1289	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	本児による転倒の為。	マニュアル読み合わせやケース会議を開き全体で共有を行う。職員に配置等問題はなかったが、リスクについて再度検討を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	公園の広場だった為、死角等特になかった。	特になし

No	掲載更新年月日	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策
1286		1.集団活動中・見守り	トイレは角やすい死角りやすいため、テトイレに行ってい ライイレ行う子の情報をしづらかった。	トイレに行く大人をかけるようにえが、戻ってから声を掛けるよう伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りであるが、なかなかなかなか見られず大人のにいろとかに来て遊びを見つけていた。	2.対象至対象児の近で見ていた	本児に近の児だ児ス児に配慮したスタッフ一人を見守った。	2.担当者・対象児動きをていなった	同室内にスタッフも一人が、全体が見ていた。	自由中で的にレ人レに人の位置であった。	保育中に本児は、本は、トイ死角大立ちを意識していく、発達に応じて、前に転びやすいところいて声掛けをいけるよう。	トイレがなく死角とならない大人位置をしていく、発達に応じて、前に転びやすいところいて声掛けをいけるよう。
1287		1.集団活動中・見守り	原因となる要因は見当たらない。	子どもの身長より高い遊具では、危険を考慮して守る必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	・いつもと変わらない様子であった。	2.対象至対象児近で見ていた	・ジャングルジムとクラスのに担任1名が危険のないよう守っていた。	2.担当者・対象児動きをていなった	・担任も1名は、砂場あそびをしていた。	・充分な体制で安全な環境の中で保育していた。・当該児は怪我の翌日アデノウイルスを罹患。体調がよくなかったとが考えられる。	・子どもは、体調や気温により変化しやすいので、見守りを強化していく。
1288		1.集団活動中・見守り	鉄棒で前回りができなかったことが不慣れで途中放ってしまった。	子どもに注意する面にクッション材は敷いている)	1.いつもどおりの様子であった	前回りができるようになったので、ひとりでした挑戦ところ、しまった	3.対象児離れるで対象児ていた	保育者は、迎えに来た者のを保護担当来て保護対応した	2.担当者・対象児動きをていなった	園庭全体の見守りを行っていた		鉄棒使用を禁止することはできないので、見守りを強化していく	
1289		1.集団活動中・見守り	広場の砂地が滑りやすいと考えた。遊ぶ際にここで鬼ごっこする等の制限には至らなかった。	砂地の滑りやすさや子どもたちに伝え、職員も再認識する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこに自ら参加などと加わるこ段ないわ様子であった。	3.対象児離れるで対象児ていた	鬼が始まった後、全体の様子を見ながらの子と遊び鬼ごっこ守り他もを始めた。	2.担当者・対象児動きをていなった	他の子達ごっこ外を始めていた。	走っている際に転ぶことを予測出来ず、届かない位置にいた。全体を見ると他の遊び保育士と役割分担ができなかった。	全体を見ると他の遊び保育士と役割分担を行いながら、鬼ごっこ等が始まった際には保育士1人は参加する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者									事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位																													
1290	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	20									4	3	17.5歳	2.女児	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(13)回/年	1.基準以上配置		今後もマニュアルや研修を活用して事故予防の取り組みと事例の共有を継続していく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年		施設点検も今後も継続していく	1.集団活動中・見守り	木の根っこの隆起が大きかった	本児が自分の体を支えたり、身のこなしも巧みなために、個別の対応はしていなかった。起伏のある場所だったので起こりうる事故を想定して対応する	1.いつもどりの様子であった	鬼ごっこを散策したり動きたに変わりはつもの様子だった	4.対象児の見ていた	公園につくと、いつもみんなが自由に走り回っていた。木児が林側に行ったことは把握していたが保育士のない辺りを走っていた。事故の瞬間は見えなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は階段の下にいた本のことは見えなかった	職員４名のうち、３名は個別対応が必要な児階につき階に段のいた。そのため上子ども６名に1人の職員がついていた。	基準以上の配置ではあるが、個別対応児が多いため、人員配置があればと考える。保育士の見える範囲で遊ばせるべきだった。	
1291	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	12									4	4	12.11か月	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上A打撲、口唇擦過傷、上唇小帯の軽度裂傷	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(1 2)回/年	2.基準配置	・職員配置は特に問題なかった。	・保育士に近くの複数の子どもが場合、一人一人の動きに対応できる距離で保育する。	1.定期的に実施	実施頻度(1 1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2 2)回/年	・遊び布団の上で遊んでいたが、園児2人の位置が近すぎた。	・遊び布団の広さと子ども人数・動きを鑑みた上で、危険ないように保育していく。	7.その他	・少人数だったため、起危しまり得る対ての意識が薄かった。	・遊びの内容によって、様々な子動予測ししきるにしく。	1.いつもどおの様子であった	・仰向けの状態で保育士と遊んでいた。	2.対象児の近で対象見ていた	・対象児と遊んでいたが、いくに児がを寝返りを打った時に咀嚼の対応が出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・他児を保育しながら対象児の動きも見ていたが、対応できる距離ではなかった。	・子ども寝返りが際をしに本児とぶつかることを想定していなかった。	・子ども様々な動きを想定し、対応できる位置で保育する。	
1292	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									2	1	17.5歳	2.女児	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員は子どもたちがスムーズに行動できるようグループごと数名ずつ呼ぶなどの配慮していた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	●年度に大規模修繕をし、当園の保育環境・設備が大変きくわった。	施設・設備なに不慣れを事故もあると思われるため、子危測できる危険箇所についてはポスターを貼るなどして周知する。	6.食事(おやつ)中	職員は子どもたちがスムーズに行動できるようグループごとに呼ぶなどの配慮しており、子どもたちも落ち着いた状況の中、起きた事故だった。	対象児は転んで机にぶつかってるため、机の間の距離をできるだけ離すようにした。	1.いつもどおの様子であった	児は給り取りこうとしていたが、慌ててはなく、まただち突してまった。	4.対象児の見ていた	給食の配膳をしていたため、個々のに対応して事発生時発生児は対象の動きなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなった	給食の配膳をしていたため、個々の子ども対応して事故は対象児の動きを見ていなかった。	特になし	職員は全目体にも目配るようにする。	
1293	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19									3	3	17.5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定実期施	実施頻度(14)回/年	1.基準以上配置	なし	引き続き事故報告やヒヤリハット、改善策を職員間で共有していく	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	テラスはくく滑りいい材質、ぬれたり物が置いないようから注意しているので、引き続き注意していく。	1.集団活動中・見守り	担任の立ち位置は子ども見守り位置	担任の立ち位置は子どもを見守れる位置。引見守り続き見守り行っていく。	1.いつもどおの様子であった	園庭に出るために靴下をはいたままをテラスを移動、ホールからテラスを通り、園庭に出る途中であった。前の園児との間隔があいたためテラスに出て走ってしまった。	3.対象児離れとで児見ていた	ホールに残る子ども見ながら、児がテラスに出るを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は園庭で外に出た子ども8~9名程度を見守っていた。もう1名はテラスで靴を履く子どもたちを見守っていたが、他児2名がけんかになり仲立ちに入った瞬間であった。	靴箱での混雑を避けるため、準備の終わった12~13名が移保育士と移動、残った子どもが前にいる子どもと距離が開いてしまったことで焦ってしまって走ってまったと考えられる。	残った子どもが順に一人ずつ移動するのではなく、2グループに分けることで、保育士に続いてゆっくり移動できるよう配慮する。	
1294	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	20									5	4	14.2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定実期施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	着脱時の職員配置を再検討する	当該クラスの着脱時の職員配置を1名から2名にする。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎週末)回/年	特になし	環境設定(棚、玩具設等)の振り返りと改善の繰り返しを行う	1.集団活動中・見守り	走り出した際に口を頭で知らせる必要があった	手の届く距離で見守りを行い、危険じた速やを感じた際は止めることができるようにする	1.いつもどおの様子であった	戸外遊び後、室内にて着脱ままに時ぐ脱とずに、転倒した。	3.対象児離れとで児見ていた	着脱時は子どもの人数に応じて2~3人の保育者が近くで見守り、着脱で困難なところを援助している。保育者がその場を離れるときは、声をかけ合い、離れた保育者のエリアの状況を他保育者が確認できるようにしている。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他保育者は手洗い、トイレについて本児の行動は見ることはできていなかった。	本児がどの程度、一人で着脱できるか把握るかが十分でなかった。	子ども一人ひとりの着脱状況を把握する。職員配置については定期的に検討、確認をし、行っている。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者						死因	負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1295	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	5								2	2	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 基準以上配置	前日まで旅行に出かけ、行事後の状況も重なり本児は疲れていてあり、バランスを崩しやすい状況が重なってしまった。	引き続きマニュアルを活用しながら事故防止に努めていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	棚にクッション材を貼り、室内床のマットも張替えを今年行う。今後も現状安全点検を行う。	1. 集団活動中・見守り	子どもの少ないことで見守っていたが、1歳児の発達やその時の状態を改めて確認し、危険のないように見守る。	1. いつもどおりの様子であった	前日までいつも明んでいて休みが行った事であった。少し疲れていたことは予測される。	2. 対象至児の近で対象見た	5名の1歳児に絵本の読みを聞かせていた。	2. 担当者・対象児の動きをいた	1名は、給食の配膳準備をした。他2名は、他クラスの応援及び保育日誌の記入を進めていた。	常に傍で子どもの動きを見ていると付近で転倒すると出なかった。	1歳児の発達を踏まえ、すぐに手を出せる位置での見守りや、1名が食事の準備でその場から離れる際に他の職員に声を掛けて保育に入るなど職員同士の掛け合いをすることを確認する。	
1296	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	12								2	2	16. 4歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	眼打撲角膜びらん	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	劇ごっこ中で使用する衣装このすで使用する紅白帽子であったため、いつもかぶりなれている外用帽子に比べて、ゴムの長さが本児に合ってなかった。	劇ごっこで使用する紅白帽子ゴムは、一人ひとりに合った長さに調節をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/日	子どもたちが使用するものは事前に確認を行う。	1. 集団活動中・見守り	主活動の終盤になり、子どもたちが集中力が始めていたことが要因と思われる。子どもたちの早めに活動を切り上げるような配慮もあった。	子どもの何気ない姿でも大きな怪我につながることを保育者は常に意識し保育を進めていく。	1. いつもどおりの様子であった	本児は椅子に座り、劇ごっこに加していた。劇の流れが一通り終わり、最後に歌を全員が一列に並ぶため立ち上がったり、座ったりしている子がいた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	劇ごっこ子どもたちのために並び椅子に座ってが一列に座っている様子なら、劇ごっこの進流れを進めていた。	2. 担当者・対象児の動きをいた	保育室にある電子ピアノを弾き、子どもたちの姿を見守っていたが、目に当たった時は練習が終わり、片付けを始めようとしていた時であった。	カラー帽子ゴムを張り当たり子ろ用したゴムの引り目る測ると甘かった。	見通しを持った活動計画し、子どもが自分で扱自分で物で怪我につながるものはないか分析を行い、小さなことでも職員間で周知し怪我防止につなげていく。	
1297	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	18								2	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯肉の裂傷と歯の打撲、及び口唇の裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置		なし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3. 未実施		1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週		なし	1. 集団活動中・見守り	他児に手を引っ張られてしまった。久しぶりの散歩ルートだったの為、周囲の環境に気を取られ、歩くことに集中できていなかった。	今まで以上に個々に合った声掛けをし、安全歩よに散歩ができるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	帰園間近であったこともあり、本児の歩くスがのピードゆっくりとなっていた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	散歩列先頭にいた担任は前方から、全体の動きを気にかけ個々にあった声掛けをした。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	散歩後列担任は後方から、全体に見合った声掛けをした。	散歩列全体を見ていたが、対象児だけを重点的にはいなかった。	今回の散歩時の（手を繋ぐ）ペアを変更し、散歩時は最前列で様子をみていく。	
1298	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	25								4	3	17. 5歳	1. 男児	既往歴なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位部骨折、右上腕骨外上上側骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	・想定・予測を考え、その計画の日を立てるようにした方が良かった。	・年に一回話し合うのではなく、常に危険があることを伝えつつ、職員が話し合える機会をつくっていく。そして、職員同士の共有が必要。	3. 未実施		3. 未実施		3. 未実施		・どんな遊具で遊ぶか、年齢に合っているかを調べてから遊ぶように遊ぶようにする。	・その日の職員体制や公園の配置など、危険が隣り合わせになっていることを踏まえて、どのような活動をしていくか考えていけるようにする。	1. 集団活動中・見守り	・遊び慣れていると鋪覚えと、いろいろな遊べにいろいろ遊べるようにしてしまった。	・職員間で話し合ずを行い、どのように危険がないか確認をするようにする。	1. いつもどおりの様子であった	・元気に遊ぶ姿があった。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	・公園内の職員配置が不足分だったため、しっかり職員配置を決められるように指導をしていく。	2. 担当者・対象児の動きをいた	・公園内こどもあるが広いこと為、遊ぶ決め、全職範囲を決員が見られるように指導していく。	・職員配置は大目に配置をしたのことえにそのが甘えてしまった可能性はある。	・しっかりと一人ひとりが責任を持って、子ども達を見守るようにしていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位				マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1299	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	23								2	2	16.4歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性左上BAA歯 歯牙亜脱 臼・左下口唇挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	当日になって、水遊びの人数やしたことで、想定よりも活動が広すぎて保育になって余裕がなくなってしまった。	安易に計画を変更しない。グループに分かれて活動する際は、見通しを持って、園児の人数を振り分ける。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	ポーチの地面は、やや躓きやすい材質であった。	・ポーチ際かで遊ぶ際は、躓いないように注意して遊ぶことを、園児に知らせていく。・躓かないように、園児に声をかけたり、にっさとっと手を出せるようにする。	1.集団活動中・見守り	子どもたちが片づけを後、最後の確認をしなかったツが一つ残った。	・子ども目を離さないように、立ち位置から気を付ける。・片付けの際は、玩具等に片づけ忘れがないか、最終確認をする。・活動内容をしっかり考え、実施する。	1.いつもどおりの様子であった	通常どおり、登園に参加していた。	4.対象動を見ていなかった	・園児４名がポーチに残り、水遊びの最後の片付けをしていた。・片付けが終わり「お部屋に入ろう」と声をかけた。保育者が部屋に入ろうとしたところ、本児の泣き声がした。転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	室内で他児の対応をして本児を見ていなかった。	・子どもから目を離してしまった。・活動前はの担任職員制は、体は安全であると判断し、補佐の職員を頼まなかった。	・子どもから目を離さない。・園全体制や活動内容を確認し、必要に応じて補佐の職員を置く。	
1300	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	9								5	1	13.1歳	1.男児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左下B 歯 外傷性歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	事故チェック表に「床ていたら、直ぐ拭き取る。」とあるが、乳児のよだれ当することが認識できていなかった。	事故チェック表の各項目の意味や理由、状況等について、複数人で読み合わせをし、理解を深める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	よだれでこと滑がきていなかった。	よだれでこと滑を予し、よだれ垂れたら拭きたにれるになどを意よ	1.集団活動中・見守り	子ども目を見守いたが、直ぐに手を出られる場所にはいなかった。	保育士は出来るだけ子どもに対応が出来る位置で保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない。	2.対象児の近で対象児見ていた	他児の対応を、後本児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	保育室で他児の対応をしていたため、転倒した瞬間は見ていなかった。	本児が後から来るは事はかっていたに危険のところだったので見守っていた。	0歳児は足腰が不安定なので、何があるかわからないと意識し、常に緊張感をもって保育をしていく。	
1301	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右5指中節骨骨折	3.子ども同士衝突によるものにも	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		5歳の発達特性とともに、その子の特性を理解し、安全な遊び方や自分を守るのの指導を重ねていく。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年	●●公園の滑の石の台では、児童が上がったりは、遠くが滑ったり、下りできる登りでき環境たこと。	達を達者が遊ぶ子の様子を見ながら、登る滑り台と滑る場所を場所と滑る場所を分けて遊ぶよう工夫する。	3.個人活動中守り		子ども達の状況（滑る子、登る子、子どもがいる子）を滑り台の滑り下で子ども達に知らせるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	気持ちが高揚した様子はなく、いつも通りと一緒に身体をしかし遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	滑り台の上に登り、滑り台に上って、滑り台にくる子の援助を行った。	1.担当者・対象児の動きをていた(至距離にいた)	滑り台の下で、子ども達の全様子、全体を見守っていた。		子ども達に合わせて、安全に遊ぶことができるようにクラス全体で約束事の確認をする。危険な様子が予想される子には個別に声をかける。	
1302	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	33					18	15		5	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	怪我後の良過

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者					死亡								マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等 教諭・幼稚園教諭・保育					死因		負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】							実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
1303	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	裂離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	痛みがなくなったという本児の話を鵜呑みしまった。	怪我をしたた時など園に連絡に来てもらうなどの対応を考える。			3.未実施		3.未実施			実施頻度( )回/年		あらかじめ公園を利用する前に遊具や環境面のチェックを行う。	1.集団活動中・見守り	遊ぶ前に準備運動なかった。	遊ぶ前に準備運動をする。また靴をきちんと履けるか確認する。	1.いつもどおり様子であった	他児と鬼ごっこした。	4.対象動児の見ていなかった	全体を2名の職員で見守っていた為、転んで瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを ていなかった	他児が遊具で遊ぶのを見守っていた為、見ていなかった。	他児に気を取られていた。	全体を見渡せるように保育者を配置し、移動する時は都度声を掛け合うようにする。	
1304	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室庭・校庭等)	7.異年齢構成	24			7	8	9				3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	一般的な発達理解と、配慮の必要な子の理解についての学習	事故予防マニュアルを作る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12) 回/年	園庭を平ならす。ベンチの老朽化がない点検する。	月１回行る園庭整備面地面をことの頻度を上げ必要であればベンチの交換も検討する。	1.集団活動中・見守り	園庭での内容や、配慮の必要な子に合わせて守り位置をえく。	各、園庭遊び全てに再確認する。	1.いつもどおり様子であった		3.対象からた児離れとで対象見ていた	対象児が参加していたドッチボールの審判をした。	1.担当者・対象児の動きを ていた(至近距離にいた)	担当職員と別の方向から、他の遊びを見守りつつ、ドッチボールから離れた対象児を見た。	子どもの行動理解	対象児を含め、子ども達の気持ちの受け止めと、子ども達が大人に声をかけられる信頼関係作りについて学ぶ。	
1305	令和6年9月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	11				5	6				2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨頭の骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	保育の前に、その保育の内容（木登り）について担当者で確認すべきだった。	事故防止マニュアルを再読し共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12) 回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・守り	2人体制での出だが木登りする意識に甘さがあった。	木登りを全面禁止にはできないが①木の状態、高さへの考慮と判断を行うことや、必ず木登りをしている子を見守れる保育体制をとれるかという状況判断分担をその場で行う②木に登らせる前に枝ぜい枝がないか点検し、安全かどうか大人が判断する。	1.いつもどおり様子であった	非常に活発で、一人の児がはめた遊び（木登り）につられていった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象接いた）	すぐに2人の女児の側で守り下した間の前に間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを ていた(至近距離にいた)	本児からやや離れた（8m位）ところの遊びの様子を見ていた。危ないとは思いつつ止めなかった。他児の安全を確保しつつ、すぐに園に連絡、状況を説明する。担当者2人は本児が隠を打っていない事や大きな外傷が無い事を確認したので、一度園に帰園してから病院に向かうことを考えた。	木登りの危ないさを言葉より伝えていたが、本児のそばにいた保育士に落ちないようにろうという甘さがあった。登られる高さや立ち上り落下することをイメージしていたのは疑問が残る。もう1人の保育士も先輩として木登りとしていて危機感を持っていたはずだが、「危ないよ」と声をかける程度で終わってしまい、何が危ないのどんな危険が予測されるかの声掛けや共有が充分では無かった。枝れ枝が折れたことで落下したが、それも含めて登る前の安全確認が不十分だった。	木登りのマニュアル（危険回避の手引き）をもとに、再度研修を行う。自然の中での危険についての子ども達への安全教育を行う。保育者達は今後も野外保育の安全について検討を行って行く。	
1306	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	22									3	2	15.3歳	2.女児	無	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	事故の際、園庭全体を見守っている職員はいたが、雲梯棒のみにつく者は保育実習生しかいなかった。職員は、3歳児が雲梯棒をやっている事は確認していた。その直後の事故であった。3歳児の運動能力としてブライしたの子であったが、下に着地する動き、身体を振って前進する動きの確認ができていなかった。	事故防止マニュアルを再度見直し、職員配置を行う箇所の場に職員がつけない際は、遊具等の使用は禁止とし、園児に分かるよう呈示する。職員が配置さ点が配れた時点で使用許可とする。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(144)回/年	雲梯棒は、3歳以上児向けの遊具だが、身長が少し低い場合は、ぶらさがった時に少し高さがある。	雲梯棒を使用している場合は近くで見守り、声がけをしながら子注意を行う。また、危険が考えられる場合は静止する。	1.集団活動中・守り	園庭に出普子人わ合職際、段ども数にて員、2名～3名と全体把握する名が員1名いる。	全体把握をする職員が所定の場所への配置その職員はてエリアを見守るのか、確認ってし合って遊び出す。方のルールを適宜、子ども達と話し合う機会を設ける。（危険予知訓練と連動する。）	1.いつもどおり様子であった	ブランコ遊びから移動し、雲梯棒で遊び始めた。友だちが先に雲梯棒を渡っていた。同じように遊び始めたが、2本目まで渡れ、左手を軸にして3本目～右手で移動し際、棒を握っていた左手の力が尽きて棒から離れ、身体を回転させながら右腕から衝撃吸収入工芝の上に落下した。本児はすぐに泣いて痛みを訴えた。	3.対象からたち児離れとで対象見ていた	担任は1名は、園庭遊びをしている全体把握しつ全体をした。棒には、実側にいた児が、対象児するにし伸ばしの合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを ていなかった	担任２名のうち、もう１名はサブでは集団で動かっていた子と一緒に遅れて園庭に出だった所だった。	担任2名と実習生1名で園庭、3歳児の雲梯棒の使い方を定期的に声掛けしていたが、本人のやりたい気持ちを優先し、横渡なくむ縦に進ことを黙認した。	①外遊びの際、職員配置のエリアを分けて（ブランコ・すべり台・雲梯棒）必ずつく。②遊具の制限ア）職員数を考慮し、遊具の使用を行う。イ）休みの遊具には呈示をつける。③事務室の職員とのの連携をし、応援要請をする。④運動遊びの際、スモールステップで自重を感じ、着地、横振りの習得の流れで運べるようにする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 実施頻度/【回/年】 | 遊具の安全点検 実施頻度/【回/年】 | 玩具の安全点検 実施頻度/【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き 理由 | 担当職員の動き 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢				死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】																		
1311	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	2								3	2	15.3歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.基準以上配置	リトミックを行った際に子ども同士の距離が近かったため、本児が止まった際に後ろの子が気づいて止まれる距離が確保できていなかった。転びそうになったら手を離して良いと事前に伝えておけば良かった。	十分な広さを確保した室内で友だとの間隔を十分に取りながら、職員同士で声を掛け合いながら、危険箇所や子に配慮行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	子どもたちが身体を動かすための十分なスペースが確保できなかった。子どもの身体能力を把握して順番にするなどの配慮ができていなかった。	子どもの数や活動内容によって、室内の使い方を考えたり、遊戯室などを使うなどの対応をしていく。その子どもたちの様子によっては、半分分活動も行う。	1.集団活動中・見守りあり	身体を動かす活動の際には、子供も高もたちも気分がいつもと違う動いも周りの状況ないも理解配慮うべきだった。	子どものその日の状況を見ながら、活動内容を考えながら保育士間で連携を取り、動きが危ない子などの側に着いたり、子ども同士の間隔が十分に取れるように声掛けをしていく。職員で取り職員の配置を行っていく。	1.いつもどおり子どもの様子であった	リトミックをのメダカを行っていたところ、本児が止まるタイミングと思い込みと思いうとに気付きこまれけてしまい、後ろから来た他児がぶつかってしまった。その際に両手を合わせていたため、手とが出来なかった。	3.児童が対象児を見ていた	象からたところで対象児を見ていた	ども一緒にリトミックを行いら、全体を見た。全体の対象児の動きに気付くことが出なかった。	1.担当者・対象児の動きをいて(至近距離にた)	ピアノを弾きながら見ていたが、ピアノに集中ものこと本児が止まってしまったタイミングも見ていないタイミングもあった。	ども一緒にリトミックを行ったため、止まってしまったタイミングに、後ろから子どもが止まったことが出来なかった。	一緒に行うことも必要だが、子どもたちの身体能力を理解して、危険が伴いそうな子の近くで行っていく。十分に距離を取って行よう事前に子ども達に伝えていく。	
1312	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32					15	17		2	2	16.4歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	職員会議や園内全体研修にて全職員に共有するが書面だけになって確認にしまう職員もいた。	全職員での研修の工夫と事例を用いた内容をつこ増やすことに取り組みたい。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	当該アスレチック設置場所の隅で、更に、当該児が上がろうとした所は倉庫や園舎側からなるため死角になる。	保育士が全体を見渡せなが動きをすこの行動範囲を少しでも定めて死角をつくら配慮ようない指導した、想定されるリスクを知らせる。	1.集団活動中・見守りあり	園庭から帰る室内で片付けの場面に一斉替に切りとあった。	死角を作らないよう工夫と配慮を保日々の中でて知らいきたい。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	私もやってみたいというと片付けの時間という急ぐ気持ちでぶつかってしまった。	3.児童が対象児を見ていた	象からたところで対象児を見ていた	児が場所ケ至っ足時の足まで足よくみて。	2.担当者・対象児の動きをていた	その時、居室は当クラスのみであった。	危険の予測や、保育の方法が未熟。	こどもに背を向けるような行動にならないよう、保育中の見守り方や付き方、また、一人で見守っていて危ないかもしれないと想定したら、片付けを他職員に連携を求めたり、片付けは後で行う等、配慮や工夫をすることを日々伝えていきたい。	
1313	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30				17	13			4	3	16.4歳	2.女児	当日は朝方まで雨が降っていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	危険に対してしまい、気が緩んでしまった。保育士の全目線が目線にいなかった。	考えられるリスクを想定し可視化していく。年3回、全体または各クラスで確認する。こどもの位置・人数確認を常に行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	着地時の衝撃を緩和するために風呂マットを敷いてあったが、専用のものでなく滑りやすいはやすい上、衝撃を吸収しきれなかった。	固定遊具の下に敷く遊具用ショックンマットを購入する。	3.個人活動中・見守りあり	雨上がり遊具を拭いたがり滑りやすい状況だった。	雨降り後は滑る危険等があることもにらせ、危ないこと遊び方をする。	1.いつもどおりの様子であった	太鼓橋で遊んでいる最中に両手でぶらぶら下がっていた体勢から左手を離し、一つ先の棒を掴んでいた右手首が回り回転するように滑り落ちた。	2.対象児で対象児の近を見た	象至で対象児を見ていた	本児から1m離れた場所から、本児の遊びを見ていた。順番を並んでいたこどもに声をかけている時に本児が滑って落ちることを見てすぐに駆け寄り外傷を確認し、近くにいた職員に声をかけた。	2.担当者・対象児の動きをていた	一人は全体が位置の他の職員はそれぞれこどもあそび向きに合っていた。	並んでいるこどもたちに意識がき、対象児に注目していなかった。	落ちることを想定して、いつでも助けられる位置につく、並んでいるのルが見られたら、対応している間はあそびを一度止める。	
1314	令和6年9月10日	1.認可	6認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	11								3	2	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部挫創、頭部打撲	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	本児の日頃の動きの伝達が不十分だった。	子どもたちの状況に応じ応援を呼ぶ。また、靴を履いている児童がいる場合は、靴を履き終わるまで全員玄関内で待機する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日都度)回/年	外階段縁が角ばっていた。	●/●から『階段縁のカバーおよび階段滑り止め』について検討。業者と検討中、●年●月●日に階段滑り止めと縁の補強工事終了。	1.集団活動中・見守りあり	職員3名と子どもたちが点在していた。	階段ではなく、階段を下りる場所にまるようにする。階段近くには必ず職員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	身体の動きが不安定な時もが、歩行可能発あるる成長あるはおおむね相応である。	2.対象児で対象児を見ていた	象至で対象児を見ていた	門の外を覗いていた為、階段に座るお話し、座ったのを確認した。	2.担当者・対象児の動きをていた	対象児以外の対応をしていた。	落ち着かない様子が見られたが、園児の情報共有がされていなかった。	クラスに入る保育者が日々変わるため、活動の前に子どもの特徴やクラスの様子を共有する。本児の近くに保育者を配置する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制													発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】					実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】														
1315	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	7									2	1	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		環境設定や保育者の立ち位置や声掛け等を再確認し対応していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		粗大の種類や量が子どもたちの育ちや発達段階に見合ったものになっていたかどうか精査し必要であれば増量や更新をしていく。	1.集団活動中・見守り	本児の活動量して、粗量が大の十分ではなかった。	粗大の下マットく・敷本児の活動量にわせて十分な粗大を設置していく。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	ランチルームで体を動かしていた。本児の好きなキャラクター(ウルトラマン)になりきっていた。気分があがり、それまでは粗大で座っていたがジャンプをして降りる。	2.対象児の近で対象見た	他児の玩具の取り合い、粗大に近くが側についていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	見守りの ため、部屋線上にいた。		その場にいた職員それぞれの役割分担が明確になっていたかどうか、子ども一人ひとりの特性や気質、健康状態を把握し共有できていたかどうかなど2ミニカーッョンの量と質を高めていく。	
1316	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13									3	3	17.5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	担任が休暇のため保育士が入フリー保育士が、保育園が入職したばかりの職員だったため園長も入る。	保育士が多くいたためいつもはできないの巧技台での雲梯あそびをしたが、2人が所押さえていないと危険だったため2人が動けない状況になっていた。危険な時にすぐ動けるような遊びにする。	1.定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	高く積んある積み上で安定ソフト積み木が乗ったりと高くある積み木の上からジャンプをしていたこと	高く積んある大木不安定に上にソフト積み木が乗ったりと高くある積み木の上からジャンプをしていること	高く積んある大木の上からジャンプする遊びは危険であるので熊の様子を見ながら注意をしていくようにする。	1.集団活動中・見守り	巧技台の雲梯、ポールを出しる時に積みジャンプするびもいた危険づいて	遊び始め前に職員同士で遊べるように遊び遊ぶ談しきなにはがつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	その前までは別の遊びをしていたが、他児がいない時に大型積み木のところきてジャンプしようとして、不安定に乗って転落した。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	本児が大型積み木に行く前に不安定な積み木があるのに気づいたが、雲梯をいたためすぐにはそのうち大型積み木からおさえていたが、そのうち大型積み木からこどもが離れたためそのままにしてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	フリー保育士は雲梯のもう片方の巧技台をおさえていたのもう片方を見ており、パート保育士は加配児に対応したいたため見ていなかった。	日頃から遊んでいた遊びだったため、高さも関わらず、子ども保育士は慣れていて注意が足りなかった。	大型積み木が積んでいる状態は片づけてあるものとして、遊ぶものでは ないことにした。遊ぶ時には、積み木を下ろしてあそび、高いものには乗らないと決めた。	
1317	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	27					15	12			4	3	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(回毎週/年)	2.基準配置	配置基準については問題なく、遊具に職員に職員ついた状態でいた、事故ってにしまった	遊具の使用対象年齢について考え、使用する職員数名が複数名等工夫していく	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	危険の無いようなんが、年齢が6-12歳であった	使用する職員数名等安全に遊べるようにするそれぞれができない際は使用しない	1.集団活動中・見守り	遊具の使用対象年齢が6-12歳であった	使用する職員数名等安全に遊べるようにするそれぞれができない際は使用しない	2.いつもと元気なかった(理由を記載)	登園の際で通ならこと家に思いにはなることありが機嫌が少かった	2.対象児で対象見た	当該児以複子一人も数名と一緒に危険に無いよ回転遊具を操作した	2.担当者・対象児の動きを見なかった	ブランコ等、回転遊具以外に遊びのつきたちが安全に遊ぶことができるよう見守っていた	遊具の使用対象年齢は把握し、安全に配慮しながら用いたものの想定を超えて起きまったことを想定しておくこと	想定を超える可能性がある事を想定し、子どもたちがケガ遊ぶことも事故等なくべるようにする	
1318	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34					16	18			6	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	1.基準以上配置		4、5歳合同で散歩に出かける際、人数が多い中、全体把握と共に、一人ひとりの子どもの姿をしっかり把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		該当なし	1.集団活動中・見守り		子どもの変化や異変小さな変化に気付けるよう、子どものを子様子をしっかり把握するよう。	1.いつもどおりの様子であった	異年齢児手をなぎ、しっかりとなぎ、しっかりと歩いた。	4.対象児の動きを見ていた	歩みがゆっくりゆっくりと児言葉掛けの言葉をしていて、本児を、本児が足をじいた間に気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他児の様子を見て、本児の様子児にはかなかった。		散歩時に歩いている時にも、子どもの様子ものを誰も見ていないという状況がないように声掛け合を掛けよう。	
1319	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	11	3	8							3	3	14.2歳	1.男児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根脱臼	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(回１２/年)	2.基準配置	ベビーカーの乗り降りのやり際のやり方を変更した。その時に危険箇所、注意点等話しきしていなかった。	ベビーカーに乗る子に必ず保育士が一人つく。ベビーカーは開けたままにせずもたらすに閉める。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	ベビーカーで乗り降り口斜面にはいたが置いたかしベビーカーの斜面になっていたが、対策をしていなかった。	平坦な場所にベビーカーいたが、転倒という予測をしていなかった。	転倒、事故が起こという予測して、必要に応じてマニュアル作成も考える。	1.集団活動中・見守り	玄関内で靴を履ども、靴が終わりベビーカーでいたと子どもと荷方を見て保育士が1名だった。	ベビーカーで待ち機しる子ども、靴をとる子見を士をも、履くもを保育士それぞれ1名ずつ配置する。	1.いつもどおりの様子であった	段ばらに興味がいき、動きが活発な子どもであった。	2.対象児で対象見た	玄関で靴を履く準備をしていた子どもと準備をしていた子どもを保育士1名が両方の様子をみていた。ベビーカーに乗って待機していた子どもを保育士1名が両方に向かったが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	園庭でベビーカーに乗っていた0歳児を保育士1名がみていた。園内でおむつを交換をしていた保育士が1名だった。	玄関内と外を保育士1名ので見はなおむつ交換職員士が見てきた。	おむつ交換など突発的な状況でも、子どもを保育人員をしっかりと確保する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故				事故状況						事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の制									教育・保育等従事者		性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等				発生時状	死亡	負傷		診断名				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位																												
1320	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24			7	10	7			3	2	17.5歳	1.男児	先天性の遠視・乱視あり。右の内斜視強く１歳８ヶ月で手術しており矯正眼鏡をかけている。２歳児クラスで入園後、３歳児クラスくらいまでは、不注意や身のこなしの不安定さから転倒や打撲など怪我が多かった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足人差し指・第一関節の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１～２回/年	2.基準配置	安全チェックリストの全体での年度末近くなっている。	安全チェックリストの確認は年度当初にしか行うようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(4回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守り	今回のような送迎の時間は人数が日中より少ないので、大人の人数が少ない時間でもコーナーの制限を過ぎずにごした。	今回のような送迎の時間は人数が日中より少ない時間でもコーナーの制限を過ぎずにごした。	1.いつもお様でもりの様であった	この頃は中で関が多く、来持ち兄弟かるが、気がからいすぎて大声ときすしまいからかけこと兄弟わる多くきし人をあった。	4.象動見をていかった	全体の様子を見ながら遊びに加わったり保護者対応をとっていた。見弟でのじとれあいをは目撃し、声を掛けて注意を促すも、低学年の姉が話していた本児がジョイントマットにつまずいて見ていなかった。	2.担当者・対児の動きをていなかった	本児に対して特別な配慮はおらず、他児の対応や成長保育に向けて付けの集まりを促しした	本児の遊びが一区切りしたタイミングで遊びが見つからず、背中に乗りかかる姿や追いかけっこにつながってしまった。抽象だからこそ押し合ったりじゃれ合うとうな関わりが日常的にあり、体系明けでより一緒にいることも多かった。それらに対して大人の声掛けや関わりが不足していた。昼夜の瞬間に大人が気付いておらず、もっと前のタイミングで指我をし、痛みがあったのかもしれない。	遊びの切り替わりのタイミングで次の遊びを見つける手助けをしていく。体系明けや双子の姉が近くにいる際により強い関わりになる可能性があると意識し、職員間で周知していく。また今回のように一度声をかけて注意を促した後は、その後の本児たちの様子を継続的に見守っていくことを意識していく。	
1321	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4						0	一時保育室4	1	1	14.2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上第二歯乳側切歯の歯茎の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	事故が起きた時間帯にあたっていた保育士が、通常の担当ラス幼児の担当保育士だため、園児の関係性を同じ合いつくお把握していなかった。やや興奮状態わりていたが、様子を見守っていた。	一時保育室は、通常の保育とは異なり、毎日登園しているわけではなく、園児も毎日違いクラスの雰囲気も異なるため、保育士はその様子を把握している必要がある。担当保育士が病休などで、違った保育士が保育におたる場合は、人数が少なくなっても複数の保育士で保育にあたるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	普段は、園児が絵本を読んだり、個別遊びで椅子がわりに使用していた巧技台だったが、園児の転倒時にぶつかった可能性があり、カバーをかけるものでる必要あったと思われる。	巧技台は、一時内保育室内なに保育に置いことした。	1.集団活動中・見守り	午前中は、園外取れ保育を入れ、体をたくさんしてたく動発過ぎいる。一時保育では、時のため、その度、室の不になり、保育士配慮が必要になる。	午前中は、園外取れ保育を入れ、体をたくさんしてたく動発過ぎいる。一時保育室では、時のため、その度、室の園児安定は不になり、保育士配慮が必要になる。	緊急時に代替保育者があた場合は、特定の保育士が園児の様子や保育の内容の情報共有をしている中で行うようにする。	3.いつも発で活動的(理由を記載)	午後の保育で、普段の女性保育士では、男性保育士が入って、普段の約束を忘れて友だちかけっこ遊びで楽しんでいた。	2.対象至対児の近で対象見た	至近距離で見ていたが、園児の動園児を追いを切れず、保育士目の前で保育士の目の転倒した正面の様子を把握よく把握できなかった。	2.担当者・対児の動きをていなかった	同じ部屋の入口で、保護者連絡をの記録をつけた。	遊具や玩具は、使用の仕方があり、今回具については、常はでとして使用る。は、持ってとて小走りしていたため、座ぶ遊ぶ勧めるを置くすることがあった。	午後になり、園児の注意力が散漫になる時間帯には、遊びの工夫が必要だったと思われる。保護者の迎えなどで、園児が落ち着かなくなるので、特に男児には体操や体を使った遊びをたっぷりして、その後、落ち着いて過ごせるような保育をしていきたい。	
1322	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	13								2	2	16.4歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨幹近位骨折部骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	務ク担任。勤務番による不在。戸外遊びの不足。前のルール確認が出来ていなかった。職員間内の危険個所と連携不足。	公園遊具の使用方法と安全確認のマップ作成。職員の危険個所予測と連携強化。園児への遊びへの前のルール確認の徹底。ヒヤハット作成と共有強化。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(６)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	公園遊具点検、危険所の安全点検、個有を全体で行っていない。	幼児クラスに子ども一緒に公園の写真に撮し、危険箇所や使用上の注意点、年齢制限の確認なを行い安全マップを作成する。	1.集団活動中・見守り	当日退園する最後登園し、いつもとは違う公園を選択。	普段と違う公園を使用する際の安全確認、使用の確認、職員同士の情報共有と連携化の徹底。	1.いつもお様でもりの子あった	いつものように遊び、いつもと気持ちいるようで、遊具ができていて、公園の遊ぶ。内回り、をしたりをしたりもいつもとと変わらない姿だった。	3.象かられたっ対児ところで対見て	全体の様子を確認していた。また、電話対応をしながら目の前のもたちの動きをフォローするのに精一杯だった。事故が起きた時、もう一人の職員の位置まで把握していなかった。	2.担当者・対児の動きをていなかった	遊具には最初付いていたが、他の園児が鬼ごっこに誘いそちらに付いていた。標旋状使の遊具を使用ことは確認していたが、事故が起きた時には、その場にはいなかった。	安全を確認おり、子どもに対して過信してしまった。職員同士のコミュニケーション不足。	起きると起きこの事ようだ。電話を取り遊離の時や遊ぶ時に声掛け、子ども安全を子どもの話すべきだった。	
1323	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	24			8	8	8			3	3	17.5歳	1.男児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～3)回/年	1.基準以上配置	保育者がその場からそら離れてしまった。	鉄棒で遊んでいる園児がいる時は近くにつくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(100)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	よく訪れる園外の児童遊園で、遊具によく園外の児童遊園で、遊具はなかった。	なし	3.個人活動中・見守り	鉄棒にぶら下がっている時にはそばについていたが、他を見るために少し離れた時に、該当児がこれまでやったことのない動きをしてしまった。	鉄棒にぶらがよい時にれず守りるはに見を続ける。	1.いつもお様でもりの子あった	健康面は通いつも映像でいう(技)みて離れまった。	3.象かられたっ対児ところで対見て	鉄棒には他についていて職員体を見た。	1.担当者・対児の動きを見てた(至近距離にいた)	近くにはいたが、すぐに受けとめることができなかった。	鉄棒から放し手をしてたこと。頭のイメージでいきが、を使かった。	手を放さないこと、足かとら外すようにすることを園児に伝ぶらっているが下いるような時には離れずに見守りを続ける。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1324	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	17									3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	子ども自身がどこかでつまずいたことを分ないのできなかったので、使用前に説明などの把握やりとりがあればよかった。	子どもに使用方法を確認させることで、危険な個所を確認させる。	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２９３)回/年	ボールプールの状況の確認と、使用状況の把握ができていなかった。	使用前にプールの状況を確認し、子ども使用方法を説明することで、危険な個所を確認させる。	1.集団活動中・見守り	普段しなそびたためだった子どもは興味で蓋あったことに対し危険を想定して行うことで、危険を想定した保育ができなかった。	初めて行う活動に関しては、特に子どもの動き色々想定した上で行う。	1.いつもどおりの様子であった	楽しい気持ちで自分でプールに入ろうとした。	4.対象動見ていた	危険を想定していたが、全てなかった。全体見ていたのを出入補助ていてりをしなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	プールの外に出るボールを拾ったり見ていて、プールの中に入って補助職員がいなかった。また、危険を想定出来ていなかった。	危険を想定していなかった子近なので、もの近くくを見た。	保育者が子どもの動きを想定し、事前に環境を整備する。	
1325	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	143	5	22	27	28	33	28			28	28	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔内切創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		自由遊びの時間の園児への配慮をきめ細かにする	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		保育室内の危険なものや机などの配置に注意する	3.個人活動中・見守りあり	今回の怪我はブロックを貸してほしい、貸したく ないで立ち上がりつい押してしまったことで転倒し まい床にぶつけてしまった。「貸してだ」の言葉なしに動いてしまった心理的なことも要因となったと思われます。	園児に普段より手を出す前に声合う再度指導するようにする	1.いつもどおりの様子であった	特にいつもと変わった様子はなかった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	2人体制の保育を行っているが、またまた一人の保育教諭がトイレに行き、一人で全体を見ていた。すぐに転倒傍に気づき出血に行ったが口から出血しうがいをさせた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	各クラスでの保育		子供たちへの指導を行う。	
1326	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				10	8	7			3	3	15.3歳	1.男児	本児は早生まれであり、他児よりも発育がゆるやかであるという特徴がある	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下唇貫通・上右A歯埋没。	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.基準以上配置	当該児は早生まれであり、ふらつくことがあった	当該児の行動を予測し、そばで見守る	1.定期的に実施	実施頻度(4８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２６４)回/年	机が保育室の中央付近にあったため、移動するスペースが十分ではなかった	机の位置を端につけ、保育者が常につくが机にようにしている	1.集団活動中・見守り	保育士は常駐していたが、該当児が転倒した近くおら場所にはず、止めることができなかった	危険が予測される場所には常に保育士を配置する	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりはなかった	3.対象児離れとこで対象児を見ていた	該当児と離れた場所で他児のトラブルを仲介をしていた	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	全体を見ていた	該当児が早生まれであり、歩行が安定していることは理解していが、それに対する対応が十分でなかった	保護者より該当児の家庭内での様子を詳しく聞き取る	
1327	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	14				7	4	3			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし。	事故予防に関する研修を定期的に実施する。散歩マニュアルや人権保育等の園内研修、もしくは職員会議を定期的に実施し、議事録にも残してその場にいない職員も学べるように行う。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	園外なので特になし	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	下り坂だったため、手をついた時に普段の時転倒時よりも力が加わってしまったことが考えられる。	散歩は、手をつなぐ相手の歩幅、身長を考慮する。	1.いつもどおりの様子であった	手をつないでいるSを気遣いながら歩いていた。	2.対象至対象児で対象児見た	保育士Aがすぐに気づき、起本児を対応。保育士Bに伝こ本応。保える。保育士Bが本児の手首の状態を確認する。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	保育士A、B、Cが各位置で子ども児の様子を見ていた。	本児は普段ち着きなく動いているため、気をつけて歩くように事前に声を掛けた方が良かった。	散歩時だけでなく、日頃から安全な歩き方に転倒に気をつけることを園児に話す。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度/【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1328	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	32		9	7	7	9			5	5	18.6歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足薬指亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	年長児ということもあり普段から自分のことはしっかり伝えられる子なので、痛がる様子もなく通常に歩いていたのでけがをしているという判断に繋がらなかった	誰も躓いた瞬間は見ていなかったので、たぶんあの時だろうという憶測になってしまった。子どもの動きや遊びに職員全員で見渡せる位置に配置できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	床も靴下も履いていると滑りやすくなってしまう帰るる子と遊る子が混在しているのでおもちゃが散らかっていた。	帰り支度の時は焦らずゆっくり落ち着いて支度するよう声をかける。使い終わったおもちゃは、その都度子どもと一緒に片づけるように気を付ける。	1.集団活動中・見守り	コーナー設定はしているが、遊び方によってはおもちゃがぶつかってしまうところがある。月齢の低い子が混在して遊びしてしまう	年長児の力も借りながら、遊び方や方片付け方を一緒に行うことで自然とよい学びとなる。	1.いつもどおりの様子であった	通常と変数わらず数名の友達と遊んでいた。	4.対象動きを見ていなかった	コーナーで他の子どもたちと遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	月齢の低い子どもたちの遊びの中にいたトイレでおむつ交換をしてた	しっかりしている子何かあれば自分で言えるという信頼関係があった。	過信せずに細かいことでも声をかけていく必要がある。	
1329	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	14								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指第3関節付近の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊具(ボール、縄跳び、平均台など)を使った遊びを行う際のルールや危険性への認識が足りなかった。	職員会議、カリキュラム会議等で周知を行なう。その中で成長の発達度合いに合わせた遊びを設定できる様に研修会等を開催するなど学習を進める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	広い公園でボールを使った遊なでボールが良く転がりピードが出てしまったのではないかと考えられる。場所が不適切だったか。	ボール遊びは園庭で過ごり返し遊びボールに慣れるようにする。園外に遊具(ボール等)を持って行く場合は、必ず園長/主任へ許可を求める。(マニュアルに加筆し、周知徹底する)	1.集団活動中・見守り	コロコロドッチボールは発達にあった設定ではなかった。コートを2分して対戦形式にしていた。(4歳児には難しかった)	・発達にあったルール設定を行なう。 ・安全教育(転がし方/取り方など)をゲーム前に行うようにする。 ・ゲームのルールも対戦方式ではなくボールに親しむルールにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	コート外に転がったボールを勢いよく走って取り行った。	2.対象至児の近象児見ていた	コートをそれた出めびとしたのようと声をかけたが、聞こえなかったのをことなできるかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見守っていた。	・転がるボールを走って勢追いかけて取り行ったこと ・対戦方式にしたこと ・コートの広さ	・園児から目を離さず、保育士がその都度声掛けを行なう。 ・年齢にあった遊ばせ方を行うこと。 ・ルールの説明をしっかり行う。 ・広い場所でボール遊びを行なわない環にする。常に保育士の手が届く範囲にする。	
1330	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	8								1	1	17.5歳	2.女児	当日は就学時健診があり、児童数が少なかった。(6人/17人中)そのため園庭を走る(鬼ごっこ)こと を許可した。園庭の地面が乾いていた。通常は木を撒くが、撒かなかった。登園児童が少なく、普段より園庭の密度が低い状況だった。走りやすい、スピードが出る、転びやすい。1歳児で就学に向けて不穏を無くしていたため、体力的な原因も考えられる。昨年度より、園内外の活動中によくつまずいたり転んだりすることがあったので、担任・主任保育士が保護者へ口頭でお伝えしていた。	1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・登園児が少なかったことで5歳児は通常かっとでは行われない「鬼ごっこ」を許可してしまった。	・通常時と違う状況は園児の心理/行動も変わるので注意する ・リーダーによる研修の実施、保育者が活動中に予測するべきリスクを職員間で共有する ・重大事故防止通信の共有(読み込みや読み合わせ、意見交換など)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭が乾燥していたが、水撒きの等のすべり止め対策を怠った。水撒きは、風が強い時か夏の時期しか行っていなかったので、今後は園庭を使用する前にクラス担任以外の職員が水を撒くようにする。	園庭が乾燥しる時は水撒きを行なう	1.集団活動中・見守りあ	事故当日は登園児が通常の半分程度で園庭の密度が低く走り やすい状態だった。園庭は狭く5歳児の体力を考慮した内容にすべきだった	園児が少場合ないでも、園庭で広は控える。園児の成長や体力に配慮し広さにあった遊びを考える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園庭で広回り走り遊んでいた。	2.対象至児の近象児見た	園庭の大鬼ごっこを部分をことしました。ゴリアで使用していた。その中で担任保育士で転倒が起きた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	通常の半分程度の児童だったので担任補助は昼休憩の中で園出ていなかった。	・事故発生時の5歳児クラスの在籍児は17人なので、園庭で遊ぶ際も常に保育士を2名配置していた。当日は就園児が6名と少なかったために名のみの配置だった。 ・当該児童の最初の主訴と現認した保育士が「鬼ごっこ」と認識し「鬼」に注意を集中してしまった。もう少し鬼全体を点検していれば、早く発見できたかもしれない。	・園児数にかかわわず、常に保育者を2名配置できるようにする ・転倒事故の場合、打撲、切り傷、擦り傷等の箇所だけでなくもっと広範囲についてて点検を行う。 ・一人の保育士だけでなく、園長/主任へ報告し確認を求める。	
1331	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9				4	5			3	2	16.4歳	1.男児	園外保育で、小さい川でザリガニ釣りをおこなってた。	1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士も同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	異年齢保育の中で配慮が必要な児童に対し、すぐに対応できる距離での見守りができるよう、タッフ間で情報共有を行い、担当を決める。	異年齢保育の中で配慮が必要な児童に対し、すぐに対応できる距離での見守りができるようスタッフ間で情報共有を行い、担当を決める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	今回該当なし	今回該当なし	1.集団活動中・見守りあ	活動開始から時間が経過し、さらに、うまく釣ろうとした子ども が不安定な場所へ移動してしまった。年長児1人だけが移動したので、スタッフもそれほど危険と感じなかった。	危険な場所へ移動しそうになった時年齢なに関係なく、止める。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり、友だちと交加わり参加していたが、慣れない場所での活動であった	3.対象児の近象児見ていた	数人ずつ固まってはいた広がっていた。数人ずつ固まって活動したので対象児の届く範囲ではかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	数人ずつ固まって活動していたので、近くにいる子どもの見守り中に集中した	ザリガニ夢中になり、徐々に不安定な場所に移動釣りを行ってしまった。	安全な場所を選んで、釣りをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制													発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
1332	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨端軟骨板骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	事故例について職員会議で検討する。	職員体制にゆとりをもたせるため、引き続き採用活動を続けていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	椅子やテーブルが、保育室にセットしてある。	椅子やテーブル等の配置等に留意する。	1.集団活動中・見守りあり	多動・情緒の不安定な児に対する応が不十分。	自由遊び時間帯に遊びが見つから子に対する配慮する。	1.いつもどおり様子であった	登園後、あそびこめずにいた。	4.対象児を見ていなかった	保育室内部屋にパーテーションの部品を取りに行った。	1.担当者・対象児動きをていた(至近距離にいた)	担当職員の後を追ってていったため、声を掛けたが止められなかった。	他児との関わりが、特定の保育士に固執する。	日頃から、保育ではら室内では回らないような環境を整え、子どもたちにも伝えていく。	
1333	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	54				27	27				4	4	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	直接の目視無し、怪我の把握が後手になっている。	スタッフ配置の確認、目視できる配置に動く。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	動線の空間確保が十分であったとはいえない。広く確保した方がよい。	椅子の配置、動線(移動)の確保。安全配慮。	1.集団活動中・見守りあり	椅子のおいて位置に、一考必要。	移動、移行時のケガが多いことを想定し、リーダーによる保育士を配置及び環境設指示確認指示していく。	1.いつもどおり様子であった	いつもと変わらず、元気な様子であった。	3.対象児からいろ児離れとで対象児をていた	保育室内を見位全体を位置におり、対象児からは離れた。	2.担当者・対象児動きをていなかった	散歩、園庭に出て室内には保育士一名のみだった。	衝突するつて、子どもたちに注意喚起しなかった。	室内を走遊びする事前に子どもたちに危険であることを事前に伝える。	
1334	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	28									2	2	16.4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘下骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事務室モニターでの確認・記録	さらに子どもたちの安全確保につとめるようにする	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	4.個人活動中・子ものみ	テラスから園庭が見えるので柵につかまり下りて子どもが見られるようにする。	トイレ・手洗い等用事が終わったらすぐに部屋に戻る。徹底する。	1.いつもどおり様子であった	園庭で運動遊びをしている様子を柵につかまり見ていた。	4.対象児を見ていなかった	給食を取に給食に行っていた。担任は部屋に子をいた転倒所はなかった。	2.担当者・対象児動きをていなかった	他の職員も給食を運ぶことにしまった。	運動会の練習を観てしまう子どもたちが増えていたのを職員がもう注意すべきだった。	給食をとりに行く場合、テラスのこともも少し気を少し付けて声をかけるべきであった。	
1335	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				4	7	11			5	5	16.4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯のぐらつき	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.基準以上配置	長方縄の回し方については、保育士は、ものを見ら、ピード等配慮いた日当該子様提回けではなかった。	時間帯や、子どもの疲れ具合や様子をみて、遊びの実施の有無や方法を検討する。日頃担当していない職員がクラスを担当するときは、子どもは、遊びの興味や様子、力量につい、で等、担任保育士よりこまやかに引継ぎを受けるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	長縄は、台に付属片がされ、側の縄が固定されており、保育士1名でるものの使用。	引き続き、長縄跳びを行う際、水道や固定遊具から離れた広いスペースを使うようにし、他の遊びや順番を待っている児とぶつか場所を確保する。また芝生等着地場所が不安定なところではやらないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	それぞれの遊びが入り混じることはなく、長縄の順番を待つ児は、長縄より2m近く離れたところに、線を引き並ぶようにしていた。サッカーと長縄は、広いスペースを確保するため、時間差をつける等声をかけあい、遊んでいた。	長縄を行う際は、周囲の状況を確認し、職員同士声をかけあう。長縄の台付近には、子どもが近づかないよう子ども達に伝える。子どもの様子をみて、足元がよろけたり疲れがみえたりしたら、縄ぶのを終わりにする等配慮する。	1.いつもどおり様子であった	長縄をする前は、砂遊びや友達達がトにに行をで待のスで座つ、そのまま会話を楽しんでいた。	2.対象児の近で見ていた	長縄を回していた。本児は、1回目からスムーズに10回跳ぶ。2回目の途中で足にひっかかり、すぐ回すのをとめ、そばにいこうとするが間に合わなかった。	2.担当者・対象児動きをていなかった	それぞれの持ち場の遊びのところにいて、そばには他の職員はいなかった。	シフト勤務に伴い、朝・夕方の時間帯は、クラス担任以外の職員が、保育に入る状況がある。	保育士の配置、メンバー(担任以外の保育士が入っている等)、子どもの遊びの状況等、全体を把握し、どこに識がついて見守るか、遊び方について、他クラスの職員と相談して決めていく。	
1336	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	1	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	24									2	2	15.3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	子どもたちが片付けからトイレに行けイレに行く時間で落ちつく雰囲ない気ではあった。	クラス全体が着かなく時間の保育士の位置や連携、子どもへの配慮を検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	毎朝の点検で時に問題なかった。	毎朝の点検で時に問題なかった。	1.集団活動中・見守りあり	他児は片付けの時間ではあったが、本児は遊びの最中で、周りは落ち着かない雰囲気ではあった。	クラス全体が落ち着かなく時間の保育士の位置や、子どもへの配慮を検討する。	1.いつもどおり様子であった	いつもと自同様で遊びしんでいた。	4.対象児を見ていなかった	いつもと保育で遠くてはあった児が見守りをした。	2.担当者・対象児動きをていなかった	他の職員はへどもたちがいたので、入りトイレで見ていた。	クラス全体が片付けとトイレに行くが時間で落ちつかない雰囲気ではあったので、保育士が2ケ所に別れて見守っていた。	クラス全体が落ち着かなく時間の保育士の位置や、子どもへの配慮を検討する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1337	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27				14	13			4	3	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	なし	2.自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		園に「事故防止と事故対応マニュアル」があるので、今一度内容を皆で確認する。遊ぶ場所や配置人数などは整っているのであとは保育士が事故を防止するためにこどもの動きをどこまで予測できるかであるので、マニュアルの読み合わせ、今回の事故を例に挙げ、何がいけなかったのかを皆で考える園内研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		今回、屋上の床で顔をぶつけているので、ハード面での改善点はなし。	1.集団活動中・見守り	ジャンプするという遊びを保育士が保育士が手を差し伸べられる距離でいるので行っていなかった。	保育士がそばにつかないと安全ではないと思われる活動について、体験は制限まで禁止とする安全策はするも安全と必要であることを確認する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象からたった児の離れたところで対象児見ていた	屋上では靴のまだ履くのまだ履いて手の補助をするため、対象児のはいなかった。	1.担当者・対象児をいた(至近距離にいた)	他クラス担任（4歳児）が一番近くにいて、自分のクラスと合わせて見守っていた。		十分側にまで付けるまで、遊びに始め待つことも必要ということを職員間で確認する。	
1338	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16								3	2	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故に至った状況と似たような場面(保育士に子どもが不意に体を預ける、抱き着く)が、他児も含め過去にもあったことで、小さなヒヤリハットもリスクとして共有していく。また、危険について保育の中で園児とも共有していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		廊下は、子どもが走りたくなる構造(直線)であり、出会い頭の衝突などリクが高い場所として認識し、より丁寧に見守り、声掛けを行っていく。	1.集団活動中・見守り		見守るべき対象に対する体の向けや立ち位置を、より意識していく。	1.いつもどおりの様子であった	興奮しているといった様子はなかった。	4.対象動見ていなかった	トイレの子を守り、背中見おり、後に来た当該児の視界姿が入っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	廊下にいた職員は1名であり、他職員の目はなかった。		保育の場面が分かれるとき（今回は保育室とトイレ）には、できる限り、その中間地点に保育士が立ち、それぞれの死角を補い合えるようにしていく。	
1339	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	81	9	13		17	21	21		14	14	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	なし	鉄棒のあそび方について具体的に話し合い、安全対策等確認していく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	敷いてあるけのマットは古いものではないが、厚みが足りなかったのそれだけでは防止につながらなかった。	敷いてある備え付けのマットに加え、新しくマットを購入する。	1.集団活動中・見守り	園庭はいろいろなクラスの子どもたちが遊んでおり、興味を持って1歳児クラスの子も鉄棒のところまで来ていた。危険がないように鉄棒遊びに保育士が1歳児クラスの子どものそばについていった。	1歳児クラスと4歳児クラスの遊びの場を別ではでス間連携を取り合い、場を別なのにすると危険のないように声をかけ合い、保育者が保育ついていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちとのあそび声を掛け合いながら、ののあそびを楽しんでいた。	2.対象児で対象児の歪対象見た	該当園児そんあがあそでいる様子を掛けながら見ていた。1歳児クラスの子に危険がないかそばについていた。	2.担当者・対象児動きを見ていなかった	他児のあそびの様子を見守り、配慮児のそばについていた。	鉄棒遊びでの1歳児クラスと4歳児クラスの遊きは違うため、遊びの場を別にし、保育士が付き添う必要がある。	・保育士が子どもたちが危ない動作をしそうなときは適切な動きができるよう声を掛け、必要な際に子どもの姿を支えられるよう、手が届く範囲で子どもにつくようにする。・そばについた保育士は該当園児の様子を的確に把握し対応する。・乳児クラスについては、幼児クラスが鉄棒をしているときは危険のないように違う場で遊ぶなど、担任間で声をかけ合う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面								改善策	
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1340	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51			15	18	18			5	5	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足薬指基節骨剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		ござの使用について、マニュアル記載に追記する。(ござの劣化具合を確認し、劣化したものは処分・修理する。子どもたちがござで遊んでいるときは、ござがきちんと敷けているか、ゆがみや危険がないかの確認を行う。子どもが扱いやすいござのサイズにしていく。)	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	ござの劣化具合を確認し、劣化したものは処分・修理する。	1.集団活動中・見守りあり		コンクリートなどの危険な場所はごちゃごちゃきちんと敷けているか、ゆがみや危険がないか、ペースが込み合っていないか等確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よくごっこ遊びやちゃんこ遊びをしていた。	2.対象児の近くで対象児見ていた	子どもたちの遊びを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちの遊びを見守っていた。	靴下をはいた状態でのけがであり、豊郷の表みが大きな傷れではなかったため、遊び続ける様子を見守ってしまった。豊郷を冷やすように担任保育士A様から伝えたが、「痛いから冷やしたくない」と、冷やすことを全員問意示和み、豊郷を冷やすことを見合わせた。安義に対する判断を他の職員や主任、園長に報告するなど、担任だけでなく、複数で子ども達の様子を見ていくべきだった。また、夕方父がすぐに迎えにいらっしゃったが、その日に園内で情報共有すべきであった。	受傷に対する見立ては、クラス内だけで判断せず、フリー・主任・園長等複数の職員で判断していく。また、報告についても、すぐに行い、園内で情報共有していく。子どもたちのござの使い方や敷き方に危険がないかしっかり見守っていく。また、子どもたちの行動を予測し、危険につながることのないように職員間で連携し見守っていく。	
1341	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	5								1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置		担任保育士Aがそばで確認していたが、児童がバランスを崩して倒れることも想定し、より近くの真横につき、手を出して支えられる位置にいると よかった。事故防止マニュアルの項目にマット運動の記載がなかったのでマット運動をする際、安全に行うための留意点等を検討・作成し、全職員で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	使用してマットは、運動用マットの方が設備面で改善は必要なし。	1.集団活動中・見守りあり	マットあそびを始時間帯であどめたが１７時半頃、子どもの疲れも溜まっていて考える。	夕方以降時間帯は子どもの疲れが溜まり、集中力が低下しやすいため、運動遊びは控え、心にゆとりを持ったり過ごせるあそびを行っていくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通子ありのであり、マットにからてのンプしむ。だち代ら4回目程でバンスしからにしする。	2.対象児の近くで対象児見た	担任保育士Aが子どもの近くでマットを支えながら、対象児の動きを確認した。児童から着地瞬間する見たが、支が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は５歳児クラスには不在で、隣の4歳児クラスで保育を行っていた。	対象児がバランスを崩す瞬間を担任保育士Aがそばで確認していたが、すぐに手を出して支えなかったため。	マットあそびを見守る保育士は、より安全を確保できる位置(真横)につき、イレギュラーな動きにも子どもの身体を支える等の対応ができるよう留意する。	
1342	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	65			21	25	19			5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具からの転落・落等・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	子どもに注意喚起が対して十分だった	日頃から、高いところから跳び下りる危険性について十分伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	設置基準に合った固定遊具である後も安全に配慮しながら継続使用していく	引き続き遊具の安全点検を全行っていく	1.集団活動中・見守りあり	子どもの挑戦したいという意欲を尊重しつつ、安全に活動できるような関わり方について職員全体で考えていく課題	保育者は間隔をとって子どもの様々な子どもの動きを観察し、危険な動きをしている子どもがいるか安全に配慮しながら見守る	1.いつもどおり様子であった	いつもできることを保育者もとっておうとしていた。	2.対象児の近くで対象児見ていた	日頃はジャングルジムのこの高さから跳び下りることは出来ていたので、いつも通りの動きなら安全できに着地できていた。また、保育者が声をかけられた時はすぐに跳び下りしているところであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子ども見ていを守った。	日頃できているのもはもうできるという思い込みであった	子どもは様々な動きをすると人一人が意識して見守る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1343	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16			8	8				4	4	14.2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷			5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	乳中切歯打撲・脱臼	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	・初めての校庭練習だった。トラックの大きさは園庭と同じだったが、地面の感覚は少し違う印象であった。	・身体を使う遊びが苦手な児が「楽しそう、やってみたい」と思えるような保育内容にする。 ・怪我、状況を職員周知し、事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	コンクリート部分や傾斜があることを認識していたが、改修だという認識はなかった。	公園の管理者に危険管理能力の向上に努める。	1.集団活動中・見守りあり	2，３歳児の園外合同の保育であったが、いつも行き慣れた公園であったので、特に通常と違う保育の実施ではないという認識であった。	行きなれた場所ではあるが、園外保育では園内以上に危険が潜んでいるという認識を保育者がしっかりと持って保育に当たる。	1.いつもどおり子あった	帰る準備に向けて移動中であった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	生近場所付近にいたが、子どもの行動予測が不十分だった。	事故発生	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の園児見ていたため、対象児は見ていなかった。	コンクリート部分は危険個所という認識をもっと持ち、その場所から、園児が把握がよかった。	配置場所の確認に加え、危険個所を、保育士の立ち位置にする。降園を促すに際して、経路に危険を伴うものがある場合は、歩いて移動するなど、事前に注意喚起を行う。	
1344	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	32								8	8	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回以上/年	1.基準以上配置	・初めての校庭練習だった。トラックの大きさは園庭と同じだったが、地面の感覚は少し違う印象であった。	・身体を使う遊びが苦手な児が「楽しそう、やってみたい」と思えるような保育内容にする。 ・怪我、状況を職員周知し、事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回以上/週	・トラックの大きさは園庭と同じだったが、地面の感覚は少し違う印象であった。	・転倒の際、手が出て危険回避できるよう体幹を鍛える運動遊びを日ごろから設定する。 ・近隣小学校校庭を借りて、事前に練習を行うことで、本番の日に安全に行えるよう準備をする。ただし校庭の状態は、天候にも左右されるため、当日の様子で、整備を行い対応していく。	1.集団活動中・見守りあり	・初めての校庭練習だった。	・転倒の際、手が出て危険回避できるよう体幹を鍛える運動遊びろから設定する。	3.いつもより発活動的であった(理由を記載)	・本人：ことに必死で走るあった。手；毎回コーナーいくのインスでアウトで、トコから抜くよう続けた。	2.対象児の近象児見た	・担任2名、走る目で追った。	1.担当者・対象児をていた(至近距離にいた)	・運動会担当職員他4名、トラック上に配置し、走る目でお姿を追いた。	・慣れた環境での環境練習で、危険が予測されたため、運動会当日使用するいつもと違う環境下でのおいて、園児安全に練習できるよう配慮であった。	・個々のリレー練習状況や走り方を事前に共有し、事故防止のため必要な方法は子どもたちに伝え、安全に実施できるよう対応。	
1345	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	36					18	18		4	4	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	・おやつの時間だので、保育士の目が行き十分に行き届いていなかった。 ・保育士基準を上回る人数で保育を行っていた。	・怪我が起きた際のフローチャートを機能する。・遊ぶ際のルールの確認を毎回行う。・状況に応じ職員の配置と役割分担を確認、再検討する。・怪我が起きたらすぐに事務所に報告を行うことを再度周知した。・●●●●に●●に関係部安全議を行い、現状の問題点や話し合い、再発防止について職員間でシェアを再考した。・●●●●は、●●●●の安全確認事項・なぜ・現状の検討・問題点や対策などの研修を行い、現状の確認と再発防止について確認を行う。・●●●●は、●●●●に、緊急安全会議の反省をもとに職員で話し合い検討会に数年掛んで一年毎の反省・検討会を行う予定。・●●●●は（●●）に園長・副主任・該当クラスの職員で反省・振り返りを行い、職員の配置やかどもたちとの約束事を確認して改善していく。	・おやつの時間だので、保育士の目が行き十分に行き届いていなかった。 ・保育士基準を上回る人数で保育を行っていた。	1.定期的に実施	実施頻度(１８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	・危険なになってしている。 ・ステージの上ことの遊ぶ人だったので保育士が慣れてしまっていたが。 ・遊ぶ際のルールを確認していたが、もっと子どもの様子を確認べきだった。	・おやつの時間や夕方に保護者対応等で子どもを見守る職員の目が少なくなるので職員の配置や遊び方に配慮が足りなかったため安全管理と怪我の対応をしっかり共有する。 ・遊ぶ際のルールの確認を行ってから遊ぶ。 ・安全に遊べるようにホールの環境を整える。	1.集団活動中・見あり	・園児にて、がけた向け怪我あったことを伝えルを、ルを確認して遊ぶだった。 ・遊ばせる前、ホールやステージの環境整備をしっかり確認を行う必要があった。	・使用していない固定遊具は片づける。 ・園児に向けて、怪我があったことを伝え、ルールを確認してから遊ぶ。 ・遊ばせる前、ホールやステージの環境整備をしっかり確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	・おやつの際はいつも通り子だったが、おやつ後少し落ちなかった。	4.対象児の動きをていかった	・事故の際、職員はホールに３名で保育をていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	・事故の際他のクラスの職員は各クラスおやつを食べたり、遊んだりそれぞれの保育を行っていた。	・おやつの後の職員の役割分担がしっかりと行われていなかった。	・ホールで遊ぶ際に怪我が起きることも想定しての人数の配置職員を行う。 ・本児が落ち着いていないことを感じていたので、側についてに声をかけるようにしていく。	
1346	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20								3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	・こりうへ起る事故の認識が不十分であった。	様々な場面での危機管理のについて、ことも今後に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	上履きが、とはけんかった。	上履きの出し足で貸だけく裸過ごすに、今後取入れをする	1.集団活動中・見あり	遊びのコーナー区切りがなく、重なってしまった。	遊びのコーナーが重なったこと、要因の1つと考えられるので重ならないよう遊びの環境設定を検討する。	1.いつもどおりの様子であった	特に何かわをするわけでも室内をフラくフラとした。	3.対象児離れとで対象見ていた	象からたところ見た	本児に付いたり離れた場所で見守ったり、または近く参加しつつ全体を見ていた。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	本児に付いたり離れた場所で見守ったり、それぞれのコーナーで子どもたちと遊んでいた。	それぞれのコーナーで遊びつつ個々の行動を先読みしきれなかった。	本児に声掛けや他に興味が持てる遊びに誘うなど働きかけをしていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故状況								事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		事故年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1347	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25		7	6	12				3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(21)回/年	1.基準以上配置	砂場の枠についてのヒヤリハット報告は事がっていなかったので、職員間で危険という認識共有していた。砂場の枠を何度も柵ので遊ぶことに対して、危ないという意識が子ども達もできるよう説をしておく必要があった。また、柵からぞっと砂場用のあいうシャベルを右手に持っていたので、集中してボール遊び出できるよう、シャベルを置くように声をかけるべきだった。	ハイシリッピの法則を用いて、ヒヤリハット案件の積み上げの大切さを職員間で共有し、ヒヤリハッ事例会議にて積極的な情報共有に努める。「剣が流行っているので、長いシャベルを持って遊ぶ児が増えている」など、子ども達の様子を職員間で共有し、遊び方など事前に周知できる体制を整える。	1.定期的に実施	実施頻度(16)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用前毎)回/年	砂場の縁がアーチ状のコンクリートだが、最近は子ども達も縁をのりこえるなど、枠のいろいろな使い方をしている。縁の周りに砂があると滑りやすいことを職員全体で共通認識し、朝の安全点検にて確認し、必要であれば周りの砂を掃き出すなどして補正する。また、戸外遊び終了前に、片付けの習慣として、子ども達と一緒に出した砂を戻す習慣をつけ、縁の段差を少なくするよう努める。	1.集団活動中・見守り	3歳児のトイレに付き添っている保育士が1名いたが、保育士2名が見守りながら保育を行っていた。本児も危ないと感じる行動をしていたわけでなく、走ったりせず、無理にボールを追いかけることもなく、ゆったりとサッカーボールのパスを行っていたため、職員に危険という認識がなく、声をかけなかった。	日頃の保育中にヒヤリハットしたことを以上にこまかく積み上げて、職員間で些細なことも共有する。	1.いつもどおりの様子であった	もとより登園し、20分後ころ2階から同じ母と園児と一緒に移動し、外遊びをする。友達と二人でカールをとぶ。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児と友達との3人グループには、職員が介入したが、事故の時は、ゆったりとボールのパスをしていた状態で、児童数も多くなかったため、特へ見守りながら、他の子ども達にも関わっていた。二人は他の砂場にて興味敷き砂遊びをしていた。もう一人は、壁や柵付近で、全体を見ながら保育にあたっていたが、転んだ瞬間は見ていなかったため、あとから防犯カメラにて確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は3歳児がトイレに行いたいとの事だったので、室内に入り、同行してした。もう1名は砂場にて、他児とともに遊びしていて、対象児を見ていなかった。	「見て見て」と言ってくる児童も多いため、気持ちを満たすために丁寧に関わりたい思いと、全体を見て全員の動き把握したい思いの間でジレンマを抱えながら保育をしている。今回は、対象児がいつもより遠く離れていたが、他児と楽しそうにボールで楽しく遊んでおり、危険を感じていなかったため、他児の対応をしていた。無理と充分な人員を配置していても、子どもの背ちに必要な人員が確保できていると感じることができないは、大人を必要としているように思われ無理では多くなっている。	子ども達の気持ちを満たしつつ、安全に配慮できるよう全体を見る職員が必要なため、子どもたちに理解を得てもらえるよう、「〇〇先生は、全員を見ないといけないから今は遊べないの、ごめんね」等と適宜伝え、全体を見る時間を作る。	
1348	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	9								2	2	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左側鎖骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	遊具につ必要があった、引きしがったり時間帯もあり、園庭遊びへの職員配置に臨機応変に対応するがあった。	職員が行動できるように、職員配置には臨機応変に対応していく。また、遊具や子遊びの様子に合わせて職員がつことできるよ設置場所を工夫していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具の安つ性については定期的内部、外部の目を確認して行っている。	1.集団活動中・見守り	台な遊具づけ遊場がなりにくいと、滑りどの遊びを片づり、子ども遊びの広すぎにくいたり、子ども職員や人数、遊び容の内容に適した環境を整える必要があった。	ども子安全に遊べるよう、保育教諭や人数にて遊び場ていることに、職員で声を掛いに対応ような職員立も考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	友達や保育教諭と一緒に砂場で遊んだ。滑り台に入り、そちらに走って移動した。	2.象至対を入児近で象見た	対象児が砂場から滑り台に移動した姿が目に入ったため、対象児に待つよう声をかけながら、滑り台に移動しようとした。対象児は階段を上り始めていた。2段目に足をかけバランスを崩した瞬間に、走りながら手を差しし伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	担当職員よ待つよ声をこ気視線をけ、対象児は階段を上り始めてり、バランスを崩した瞬間に走りとしたろ間に合わなかった。	子ども達が遊場所と、単独で遊んでいる子どもが離れてしまったことが、それの場所で遊ぶ子どもの人数に偏りがあったこと、携帯が出て、連携のとれなかったことがあった。	子どもの動考線を再度考え、職員同士で連携がとりやすい遊びの場の設定をしていく。また、常に子どもの人数と職員の配置ができるよう、声をかけあい連携をとっていく。	
1349	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	11								3	3	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定実に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		園庭の危険個所を見直し、環境点検マニュアルに記載する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		年齢に応じて段差の場所にはクッションマット等を敷き危険を避ける。	3.個人活動中・見守りあり		なし	1.いつもどおりの様子であった	活発に動きまわり、転ぶこともあり、ころる。	3.対象児からた離れたところで対象児見ていた	全体が見える位置で見守り、危険と判断した際に近が寄ったが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は砂場。1名は走り回る児に対応していた為、本児の転倒には気付かなかった。	転倒の可能性を想定し、側について見守る必要があった。	常に運動発達面を把握して安全に見守ることに活かす。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況										事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者								事故誘因	ソフト面								ハード面									環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1350	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	85		19	16	13	17	20			9	9	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	研修で行ったシミュレーションが実践に繋がっていない。場所を分けたシミュレーション研修を行っていたが遊具や物を使った怪我の想定が出来ていなかった。	遊具・物を使った怪我を想定した研修を取り入れていく。	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	普段から怪我を行っている児童であっても鉄棒から事故を想定が出来ていなかった。	鉄棒の下にマット敷き落ちた際の衝撃が少なくなるように事前に準備をする。設置日：令和●年●月●日(●)マット2枚（長さ97㎝×幅48㎝×厚さ5㎝）	1.集団活動中・見守りあり	職員間で園庭での危機管理が足りていなかった。他エリアの動き(移動の時間など)の予測が出来ていなかった。	遊び方の危険性を子ども、保育者が理解しておく必要がある。考えられる怪我・事故の予測を立てる。子どもの姿の共有を職員間で行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく園庭に出て他児とともに走るして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	園庭の中の他児の観察や児童と活動、他職員との共有をした。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	園庭の中他児の観察や児と活動した。	普段から鉄棒をしている児の運動能力を考え、落ちることも想定する。想定をしていても子どもが挑戦して能力を超えてしまうことも考えられる。初めての行動に大人がついていない。(教えるだけでついていない。)職員の立ち位置鉄棒での怪我が多くなっていたがつかいかたの伝達が出来ていなかった。	運動能力の向上を目的として、身体を動かす機会を作る。状況を伝達して他の保育者も怪我の個所を確認するようにして多角的に見るようにする。教えた職員が全体に周知新しいことを急にせずお画・ねらいを周りに伝えて行う。	
1351	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58			20	15	23				7	6	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕尺骨骨折、橈骨一部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	起こりうる事故や子どもの子行動の予測が不十分であった	職員全員が理の能力向上に努める	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	日々の遊びや活動に慣れ、遊具の隙間から予測しなかった	総合遊具での危険個所を把握し、子どもが遊ぶ際には近くで見守る	1.集団活動中・見守りあり	異年齢児で多くの子ども遊んでいた	園庭で遊び時間配分、職員の配置、園庭での遊び方の確認や見直しを行う	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に総合遊具の上で遊んでいたところ、転落をした。防犯カメラの映像から、対象児が遊具上でネットに移動しようとしたが友達の方に振りと返り、その際遊具から両手を離しお足が宙に浮いている状態となりバランスを崩して転落したのが確認できた	4.対象動物を見ていなかった	総合遊具に周りにいたが、他児に呼ばれ台ばれん方にいたため、対象児が落下した瞬間は見ていなかった	2.担当者・対象児を見ていなかった	遊具の方を見ていた職員はいたが、対象児が落下した瞬間は見ていなかった。対象児の位置が遊具の上なっていたと思われる	対象児のすぐそばに職員がついていればバランスを崩した時に支えることができたかもしれないが、全体を見守る中では防ぎきれない事故であったと感じる	複数の方向から全体を見守り、遊具使用時は目を離さない態勢を作り、また総合遊具での危険個所を把握し近くで見守る態勢をとるようにする	
1352	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3.4)回/年	2.基準配置	特になし	子どもの状況や行事によっては、基準をみたした職員数であっても保育にあたる職員の数を増やしたり、1日の活動の計画を立てる際に、体を動かす遊びと落ち着いて座って遊ぶ等、メリハリを付けた活動内容を考慮したりしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日）/年	特になし	砂場玩具倉庫とブランコの狭い通路は、木の根が出やすい箇所があるため、柵や抜けないようにし出来ないように掲示をして職員と周知を図った。	1.集団活動中・見守りあり	発表会前の室内活動が中心で午後のおやつ後まで、園庭に出ることがなく、十分に体を動かすことができていなかった。園庭に出ると発表会練習からの緊張感も解放され、全体的に子ども達の気持ちが高ぶっていたと考えられる。	静と動のバランスを考え、1日の活動の計画を立てる。	1.いつもどおりの様子であった	普段も鬼ごっこを楽しむ姿が多い。6歳児の当日位で鬼ごっこ園庭を走った。	4.対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこの他、ブランコ、ジャングルジムで遊ぶ子がいたのに、ジャングルジムに付きながら、全体のこどもの様子を把握。本児が鬼ごっこをしていることは、把握していたが、転んだ瞬間は他児と会話をしていたため、見ていなかった。泣き声に気づく と同時に、一緒に遊んでいた子が担当職員を呼びに来たため、すぐに本児に駆け寄った。	2.担当者・対象児を見ていなかった	園庭にいた職員が1名だったため、他の職員は、本児が転んだ瞬間は見ていない。担当職員が本児の対応にあたるところからは、事務をとっていた職員がすぐに園庭にでて他児を見る。また、転んですぐは、腕を上げられており、他の職員が肩を冷やす対応をした。	通常であれば、職員の付き方は問題ないと考えられる。全体的に気持ちが高ぶっていたこどもが多かったことから、普段以上に一人一人の動きを見ておくことや落ち着いて遊ぶ遊びに誘い掛けることも必要であったかもしれない。また、担当職員が、普段より子どもの気持ちが高ぶっていたことに気づいていたので、事務をとっていた職員と複数で保育にあたってもよかった。	基準を満たした職員数でも、子どもの状況によっては、保育には、保育にあたる職員を増やす。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故				事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修			職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項			死因	負傷状況	負傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
1353	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								4	4	18.6歳	2.女児	①●●接骨院　②●●整形外科クリニック（骨折の診断を受ける）	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	4.上肢（腕・手・手指）	左モンテジア骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員の人数や立ち位置には気を配っていたが、子ども達への事前の注意喚起の声掛け等が十分ではなかった	「事故防止マニュアル」を職員間で共有し、事前に防ぐにはどのようにいくべきか考えていくなど研修の機会を設けていく。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	安全面には十分留意したが、事故が起きてしまった。	人工芝をあ敷いてあり安全面には十分留意していた。引き続き、安全点検を行なっていく。	1.集団活動中・見守り	戸外遊びが楽しみで気持ちの高まり等があったかもしれない。	遊びだす前の注意喚起、ルールの再確認やもの子ど姿に合わせてのび展開が必要だった。	1.いつもどおりの様子であった	健康面なもいつもらどいない状況で登園する。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	屋上の滑り台等、その他遊具で遊んでいる他児を見ていたため、対象児と他児の接触を防ぐことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	屋上のプレイスペースのその他の遊具で遊んでいる他児を見ていた為、見ていなかった。	接触して転倒し、骨折をしてしまうことまで見通しが持てずにいた。	本児の怪我の状況を園全体で周知し、職員間で共有していく。	
1354	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								4	4	18.6歳	1.男児	今までに自宅で4回けいれん発作を起こしている。4歳6ヶ月の時に、無熱性けいれんを起こし、4歳8ヶ月で焦点性てんかんと診断される。	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹（首・胸部・腹部・臀部）	咽頭炎	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置		子どもの病気・症状についての理解を深める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年		誤飲の無いように玩具は使用しない	3.個人活動中・見守り		興奮状態にある時は、別室で穏やかに過ごせるようにする	1.いつもどおりの様子であった	午睡はしたなかったが、いつもと変わらず遊んでいた。	2.対象児を離れた近で対象見ていた	急な発作で対応できるよう1対1の個別配慮を行った。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	午睡時間後、保育室で他児の対応をしたり、トイレに誘っていた。		急な体調の変化に気付けるよう、午睡起きの検温を必ず行う。	
1355	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	21								2	2	17.5歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左腕橈骨尺骨骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	園外保育についてのマニュアルがあり、職員周知をしていたが、事前の当日、対象児年齢の十分な確認を怠ったため、子ども達に遊具の使用を認めた。	遊具の対象年齢を確認し、対象年齢に達していない遊具は使用しないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具の対象年齢が6～12歳となっていたが、当該児は事故当日6歳未満であった。	子どもの活動時の年齢能力、運動能力、判断力等を日々の中にた合保育で十分に把握した総合判断上で的に、使用する遊具の制限を行う。	1.集団活動中・見守り	複合遊具内の複数ヶ所でもがしていて、保育士は全体を把握できるのを保育の位置で見守りていた。その、本児が落下した際にすぐに救出できる保育士がいなかった。	使用する遊具や場所を制限し、必ずすぐに救出できる場所で保育の見守りをまた、子どもに使う方も達に遊具や安全に使用できる法を考える事の大切さも知らせていく。	3.いつもより発活動のあったを記載）（理由	公園の複合遊具の雲梯合中をしよう、地上２０センチほどの高さの踏み台から伸ばし手を、掴もうとしかし手が届かず、飛び移ろうとジャンプしたが、雲梯を掴み落下をねてした。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	複合遊具で本児を含む6名が遊び、広場で少名は2、砂場で2名は2の子ども が遊んでいる様子を全体を把握しながら見守っていた。複合遊具は中央にアーチ状、右に雲梯、右に鎖のはし、この遊具があり、本児は保育士から見て右側の雲梯をやろうとしていた。保育士は本児が飛び移る様子を見ていたが、瞬間に声を掛けた り、受けはめることが できなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	公園中央加付近で加配の遊びを見守った為本児の様子は見ていなかっ		子どもの特性、性格能力や特性、等を十分に把握していると保育いう土の過信があり、想定以上の行動を取ったと考えていた。	自己判断を過信せず、少しでも危険を感じた、有事の際に教出が出ない範囲の遊びは制限する、具体的に使用する遊具について子ども達に伝える。	
1356	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	9								1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	5.下肢（足・足指）	右足第５趾第二関節骨折（右第五趾基節骨骨折）	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(50)回/年	2.基準配置	運動指導についてのマニュアルはなく、見守り、援助の手立てについての共有事項になっていなかった。（踏み切り、跳躍、着地の一連が見届けられる、立ち位置は取れていなかった。）	運動指導について、すべき配慮事項について、作成する	1.定期的に実施	実施頻度(96)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(40)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	※木製の箱、踏切台の隙間、継ぎ目に瞬間的に挟まった可能性もある。	ウレタンシ等の衝突安全性の高いものに替える。	1.集団活動中・見守り	思い思いせとは、遊ばせる設定は、年齢り、２種の組み合わせにクスの組みがあったかもしれない。	それぞれの遊びが提の安全に供できる環境構成に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	跳び箱をよ飛べるようにしたり、嬉しさからそれより、までいつけをし助走で勢い余って、失敗した。	2.対象児を近で対象見た	跳び箱を飛び越えた先での介助の児のため、跳び箱のいい傍らたが打撲の見れておらず、どのような原因が加わったのかは判断できない。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	複数担任の混合クラスではある、5歳クラスの園庭で外遊びについた。	跳べるようになった気持ちから、勢いがいがちになることは、想定できたとなくも言えない。	落ち着いて跳べる、見声、静跳め、掛け、工止夫する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				事故誘因	ソフト面									ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳												死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1357	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	15		3	5	2	4	1		5	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	4.上肢（腕・手・手指）	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	乳児クラスが早く帰る際に集める時に、幼児クラスに職員が手薄になる。	翌日より、乳児クラスが帰る時にクラス幼児を一度集めて、乳児クラスが帰るまで、水分補給を待つことしした。	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	園内に遊具無し	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)/年		遊具の危険箇所のそばに職員を配置するなど、連携を図る。	1.集団活動中・見守り	乳児クラスが早く帰る際に集める時に、幼児クラスが帰るまで、水分補給を待つことした。	翌日より、乳児クラスが帰る時に幼児クラスも一度集めて、乳児クラスが帰るまで、水分補給を待つことした。	1.いつもどおり様子であった	アスレチックの台やコランコ滑プランクが好きで、公園とに、着くものアスレチックンプランコで遊ぶ。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	乳児クラスを見送った後、砂場とアスレチックの間にいた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	3名は乳児クラスと共に園に帰り、1名は砂場の側にいた。	乳児クラスが早く帰る際に集めに、幼児クラスに職員が手薄になる。	翌日より、乳児クラスが帰る時に幼児クラスも一度集めて、乳児クラスが帰るまで、水分補給を待つことした。	
1358	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33	2	2	6	6	9	8		15	11	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	4.上肢（腕・手・手指）	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	危険予測の甘い見の通しのため	ヒヤリハット事例の検討会を定期的に行う(年1回程度)	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	園庭が少々隆起ているため、着地時点にバランスを崩しやすくなる。	園庭の改良工事	1.集団活動中・見守り	危険予測として甘い見通しであったためにようなこのな事故が起きたと分析する。	遊具の正しい使い方をするような声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	同学年の滑と台外登っ友りよりてきこざけあっていた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	5歳児のため、近くで見ていたという、園庭全体を見回しながらていた。同じような光景を見たこともあったので、別段気にしなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	担当職員の立ち位置を鑑み、別角見守りを行っていたので、対象時の見続けることていなかった。	危険予測として甘い見通しであったためにこのな事故が起きたと分析する。	滑り台に上った際に危険で上に、についての声掛けを行っていく。	
1359	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45	5	5	12	7	16			7	7	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	4.上肢（腕・手・手指）	左橈骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	行動範囲がっ広てきた乳児は、姿にかけているが、特に組の動きは、５才児の動き着目ちて遊んでいるが、保育にとっ定外の者にとて想ていた。	毎日の引継ぎの中で、ケガや病気、日中の保育、職員体制についての引継ぎはなされているが、朝、クの子ごの過ごし方については、その日の早番、遅番に任されているが、改め朝チーて、クチームの保育日案を立てる。	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	新年度、園庭環境が変わっていることり、通用した先でもにきてあるとするがた。	ターザンロープの点台の土返りや高い地盤おらしておや屋根を掴りの周りを掴して（柔らかくして）	1.集団活動中・見守り	本児の落下の瞬間を見落としたのは、全員がなんと全体がなく見ていた状況あったに近い動きをこのの１才児の全体が交えて遊びに無理がなかったか、検討する	乳児組と幼児組の遊ぶ時間帯を工夫する。乳児が先に出てひと遊び、幼児が出ると物理的な人数も考える。	1.いつもどおりの様子であった	朝の受け入れは母より、「元気」と引き継いだ	3.対象児から離れたところで対象見ていた	担任Dは、本児がターザンロープでいつもの遊びたのいたが、落下した瞬間は見ていない。いつもと泣き声に異変に気付き、対応した。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	本児は、近くにいた保育士Gに落下痛いことを伝え、全体を見て保育士Aに伝え、担任Dに引き渡した。	お迎えが時始まる間帯でもあ、全体を把握士保育士が渡した子ども、引き子ども、残っている子の人数把握に迫われた。	個別対応の子ども と付いている職員のどこにいるのか、職員全体で把握する。（○くん○○ちゃんと○○くんは保育士Xと事務所にいます、など）	
1360	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	20			6	6	8			2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	4.上肢（腕・手・手指）	右手4中手骨々折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル通りに行えていた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	本児の性解を理めら本格し褒めると気になってしまい手加えたびことたべるこのため手減を引っ減りあるを伝えるすべきだった。	保育園で被害を防ぐことはないようにしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	空手を友保育士や見せ空手を達士たりこっしたりごっこしていた。	2.対象至児の近対象見た	空手ごっこをしている子どもこを達の見守っていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	他の子ども達を見ながら、ごっこをしている子ども達の近くにいた。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1361	令和6年9月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	4								3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	職員配置数に問題はなく、保育士1名加配。保育者ミーティングでヒヤリト事例研究や安全研修の内部研修等を行っている。	事故防止マニュアの振りや安全対策についての見直しを毎年研修計画に入れ、施設のハード面・ソフト面について随時見直す。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	2つの遊具は故障もなく、保育者が紐結び安全であった。高さ・安定性は問題なし。	遊具の適切な使用法(時・場所)を、大人遊び立ての組み方は保育者の配置が見守りができるしなまい。	1.集団活動中・見守り	配慮が必要な近くに保育士が、児童が同時に7名おり、介助業務のため一時的に目が離れてしまった。	配慮が必要な児童の担当制を取り入れているが、担当・役割を明確にして目を離さず、安全に遊べる助・介入の仕方を保育職員に研修。	1.いつもどおりの様子であった	2つつた遊具の2段目に本児と他児2名でもう一方の遊具の移動かったが、他児の前にいた本児が押してしまった。	4.象動見ていかっ	配慮が必要とその他児遊びを見ていたが、本児との遊びが直前まで穏やかだった、一気に登園した子ども・介助あいさつのため、本児が落下する際、一時的に目が離れた。	2.担当者・象動見ていなかった	保育士1名：登園支時の身支度・保護者対応・受け入れ保育士1名：2歳児担	4歳児2名の他、支度にかかる3歳児4名、2歳児1名が一気に登園め、人員を必要とした。	担当保育士は、配慮が必要な児童から目を離さない。全員登園が完了するまで大型遊具の組み立てや高いところに登るしない。	
1362	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	30								6	6	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5～6)回/年	2.基準配置		落ち着かない時間帯での自由遊びを見直し、集まりなどで落ち着けるようにする。おやつ後は集まりを、落ち着く時間を作ってから自由遊びへと誘っている。	1.定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2 4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年		定期的施設点検時や危険個所(棚の角、角等)にた際にはその都度、保護・改善を行っている。	1.集団活動中・見守り	おやつで机を使用していたため、机は使用せず、畳スペースやマットで遊べるように設定し、一ヵ所は手作りの仕切りで囲む。事故が発生した車ーナーは仕切りがなかった。また、降所準備を終えた子が順番にくるため落ち着かない環境であった。	・自由遊びの際は、年齢に合った座って遊べるように机や仕切りを使ったコーナー作りを行う。 ・降所準備後は集まりを行うように改善。子ども達が遊びに集中できるように遊具を見直し、遊ぶ場所をわかりやすくする等。保育室内を走ることがないよう仕切りをして環境設定の改善している。	1.いつもどおりの様子であった	車の遊具に両手に持ち、友達を追うように歩き出しよき際倒。	3.対象からた児離とで対象見ていた	保育士2名が保育室のコーナーにつ保育士が、保育室内を走ることがないようにコーナーが分かれるようにする。また、子どもが落ち着いて遊べるように遊具や環境を随時見直し、改善していく。遊具を持ったまま歩いたりぶつかったりしないように繰り返し伝えていく。感染の終了する迄で転倒や他児との衝突を回避できるよう、保育士が本児の側につくようにする。	2.担当者・象動見ていなかった	別の部屋にて、保育を行っていた。	保育士が少ない人数にも関わらずコーナーを4か所配置していた。また、見守りがしっかりできなかった。また、遊具を手に持って歩き出した場面での声掛けがなかったため転倒時に手がつけないことへ繋がった。		
1363	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	100				32	34	34			10	9	15.3歳	1.男児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折、右橈骨骨折、右尺骨骨折	1.遊具から等の転・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	必要な園児には保育者が声掛けを、援助すりしたりすること、改めてを確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	本児が自由遊びの中で使用にするは、まだ難しい遊具であった。	下マットで敷いてマットの位置や機能が維持されているか、その都度確認していく。 雲梯にをあるを、保育者が園児の経験や力を考慮し、子ども一人ひとりが、自分の力がその遊びに適しているかを考える機会を十分に持つことと共に、保育者もその園児の力量や発達段階を踏まえて、必要なら声をかけたり、制止したりできるよう、適切な位置どりを行う。	1.集団活動中・見守り		園児の経験や力を考慮し、子ども一人ひとりが、自分の力がその遊びに適しているかを考える機会を十分に持つことと共に、保育者もその園児の力量や発達段階を踏まえて、必要なら声をかけたり、制止したりできるよう、適切な位置どりを行う。	3.いつも発活活動でたを(理由を記載)	事故は朝落ちが室内育者注意するこ当日から着き、保内で保からを受けること。園庭近しで最出し梯子時間は雲梯のすぐ近くにあった。ではやり長い遊んでいた。	2.象の至児の近で対象見ていた	雲梯のすぐそばに声かけをしながら雲梯で遊ぶ様子を見ていた。他児にも遊ん子たちがいた、他児を見ていた時勢着いめ、園児ていたとは体しを崩するこ地ころだった。	1.担当者・象動見ていた(至近距離にいた)	雲梯のそ雲梯で遊ぶ様子、他児で遊ぶ様子を見て落が遊ぶ様子をいた。瞬間ちは見ていない。		当日は遊具で遊ぶ楽しさを最近知り、何度も繰り返し雲梯から手を離し着地をすることを楽しんでいたが、何度も繰り返してするうちに手にたがり入らなくなり、自分の意思とは違うタイミングで雲梯から手を離すことになったと考えられる。自由遊びも終わりの時間に近づいていたこともあり、急いでいたことも考えられる。	遊んでいる子供の、今の状況に注意を払い、それに応じた声掛けや対応ができるように、職員間で声を掛け合い連携しながら、見守っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1364	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	33								33	29	18.6歳	1.男児	R●.●月、自宅でどこかにぶつけて「右前歯（上）」ぐらつき・ひびあり、固定した」と保護者が予防接種歴等調査票に記入。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口腔歯牙損傷	3.子ども同士のもの衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	歯・顔・関わわ場合、事故起きた場合は、すぐに連絡するというマニュアルが守れなかった。	歯がぐらつく・折れる等があった場合、救急処置を適切に行い、保護者連絡を早急にする。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	施設の広さ・人数は適切だったか。	施設の配慮をし、チームを制限するなどの人数すを制限をしく。	1.集団活動中・見守り	担任不在のため、跳び箱練習はせず、体をしたり、子どもの希望でドッジボールをすることになった。	毎日のカリキュラムの中で、午前は遊戯室の活動で、午後は遊戯室での決めこと遊びとしていることが多いが、担任がいない場合は、部屋での遊びも視野に入れることも必要。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象至対児の近象見た	ゲームの審判として、中央に立ち、ボールが行き交う様子やこどもたちの動きを見ていた。ボールが相手チームからも来ボールに投げ入れられ、女児がボールにあたったと思い込んで手に持って いたボールを渡していた。そのボールを数えたて他児（男児）が発見にボールを拾えた。本児もボールを数えたくて、その男児の持っていたボールを数えようと近づいたときにぶつかった。両測定の動きを止めることはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	本児とは反対側のチームメンバーとして、一緒にゲームに参加していた。ボールや園児の様子を見ていたが、担当職員様、ふつかるのを止めることはできなかった。	本児が歯をぶつけた直後に、僕を庸らしたがいて、他の職員は園児の様子に気づいてしまったと子ども ボンについてしまったと子の対応にかかりきりになった。担当職員は、僕をぶつけた本児を含む他の児童を連れて保育室に戻って、本児の様子を見ながら子どもたちの保育にあたった。	ケガをした子が出た場合、すぐに職員に連絡し、ケガや保護者がつたえた場合、すぐに職員を出してもらう。	
1365	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19								2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	3.子ども同士のもの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	近くの園児を見ていた為、怪我につながる行動に気付けなかった。	配置場所に責任を持ち、全体の子どもの動きを意識して目視し、危険を予測していく。全職員へ事故発生について周知し、再発防止に努めた。	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	設備としての問題はなかったが壁面の穴にの行動や危険性についての認識が不十分であった。	明クリ塞を透を掛けることないし、穴なル板で手を入れた足るできよう。	3.個人活動中・見守り	穴で遊ぶ中と外間で遊ぶ仲間の中とお互い状況や動きを把握することができていなかった。穴遊びの中で守れていなかった。	穴で遊ぶ場合は入4人まで、座ったり、おもちゃを持ちこまな空ちゃい等の間遊び約束事を再度確認した。	1.いつもどおりの様子であった	他児２人と一緒に遊んだ。	3.対象から離れるところで対象見ていた	周囲に目配りをしながら、いる子どもといるたち遊んだが、象児の近いる子どもの動きが遊びでできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていった	問題なし	子どもの動きや変化を捉えることができなかった。	事故におけるを検討し、全体で周知をしながら危険を予測していこと。	
1366	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯肉挫傷	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	リスクマネジメントにて検討を行い、職員に周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36) 回/年	周囲がこっとしていた。	遊具に遊ぶ子ども達に注意を促す。（鬼ごっこは出来るだけ離れた場所で行うようにする。）	1.集団活動中・見守り	鬼にタッチされるのをうとまるのかすまり、反対側の滑り台に注意できなかった。	鬼ごっこする際は、をてドやをコントきたよ声をけ周り見ーズ動きロールでるに掛いく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼にタッチされるのをうとしのそて、下にをて倒。	3.対象児離れとで対児見ていた	坂の上から下に駆けたスピードがスが出やすい箇所にい箇所に立ち、注意を呼びかけた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	滑りやすい箇所に注意を呼びかけた。	タッチされるのをうこと、またするとの時にわかとそ発生するリスクに対しての予測が足りた。	危険箇所に近づけないで、子どもの様子を観察し、危険を予測し回避する。	
1367	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18								21	20	17.5歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顎部裂傷	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	本児の行動による怪我なので、その他では問題点はない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	本児の行動による怪我なので、その他では問題点はない。	1.集団活動中・見守り	特になし	本児の行動による怪我なので、その他では問題点はない。	1.いつもどおりの様子であった	早くうがまいを済び持せ、遊び気持ちたい、ちから、慌てて空洗ちかった手に場にいい場に行った。	3.対象児離れとで対象見ていた	他の園児の食事の様子を見たり、アレルギー児や体に配慮が必要な園児、支援が必要な園児などの様子を見たりしながら、廊下にいろうが行った園児の様子を見守った。本児が転ぶ様子を見て、慌てて廊下に出たが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	保育室で、他の援助が必要な園児を見た、食事の片付け、遊びの準備などをしていたため見れていなかった。	特になし	怪我が起こった時の人的・物的環境は問題はなかったとで話し、この合ったが、園児の動きは予測できないことあるので、十分に気をつけようと確認した。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 | うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度/【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度/【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度/【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				発生時状		死亡	負傷		診断名	事故誘因	ソフト面							ハード面									環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項		事故の転帰	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他													実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1372	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	42									4	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第五中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(約5)回/年	2.基準配置		研修を定行期的に行い、実施回数を増やす。保育士間の連携を密にし、目が行き届くようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	築山の表面に深さ5cmほどのくぼみができていたので、使用前には注意を促していた。	築山は、内部を通っている土管野入り口部分の保護テープの修復及び難しく土管の入り口付近は、使用禁止となっていた。表面は使用禁止となっていなかったが、今回の事故を受け全面使用禁止とする。（令和●年●月●日に撤去）	3.個人活動中・見守り	短時間勤務保育士が帰ったことで人員が不足した。	短時間勤務保育士が返る時点で室内に戻ち代わりの保育士にもらうなどする。	1.いつもどおりの様子であった	他児と追いかけっこをして、築山を走った上下りしていた。	4.対象児の見ていかった	他児への対応などのため、本児の動きは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見てなかった	他児への対応などのため、本児の動きは見ていなかった。	園庭に出た時、保育士は四人いたが、短時間勤務保育士の勤務時間が終わり保育士が一人帰ったため三人となった。一人は降所児への対応、一人は配慮の必要な子への対応をしており、一人で全体を見ていたため、本児の姿を把握できなかった。	活動場所や活動内容を考える。または、対応が難しい時は、主任保育士などに入ってもらう。	
1373	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30				11	7	12			3	3	18.6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	長時間保育時での遊具の扱い方について周知の曖昧さと職員間伝達不足	園庭遊具方ついて職員間で再共通理解する。事故当時の担当者も含めて、状況職員配置・分析し職員配置・声掛けについて確認する	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	個々の子どもの身体能力がこの遊具に合致していたか、登り棒から降りることは高度な身体能力を必要とする為、日頃簡単に降りる能力を持っている子も落下があることを予想し、それに応じた配慮が必要であった。	大型遊具は登り棒緩和を設置する。この遊具を使用する年齢が満たさない場合は、「お休みマーク」を付け、子どもが視覚的でやすいようにする。	3.個人活動中・見守り	気持ちが高ぶっていた年長組と他の年齢との思いに温度差があった。年長組は落ち着かない雰囲気の中、長時間保育のルールを確認しないまま遊び続けていたため、危険への配慮がなされていなかった。	長時間保育を始める前に、遅番保育者メンバー確認・本日の確認を行い、長時間保育を始める。保育者の人数を考慮して見守りの状況を話しあい配置につく。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	年長組は長時間保育より入る前より、園庭の広い場所で鬼ごっこや築山登りごっこをして、とても気持ちが高ぶっていた。大型遊具では鬼ごっこをしないあったが、長時間保育時もその気持ちのまま登り棒から降りる際、棒を掴み損ねて落下する。	2.対象児の対象児見た	長時間保育者は3名であった。保育者は子どもの安全確保を配慮し配置位置にいた。1名の保育者が鉄棒と登り棒付近で子どもの様子を見ていた。保育者が鉄棒の子に気を取られていた際に、本児が落下した。側にいた保育者は、他の保育者に声を掛け本児の様子をみる。	2.担当者・対象児の動きを見てなかった	落下側にいた保育者から連絡を受けた他の保育者は、すぐに未満児運番にいた看護師に声をかけ、看護してもらう。すぐに医療診断と治療を要する為、医療機関と母親に連絡し看護師が付き添って診察を受ける。	延長保育時間は、保育者の数が決まっている。子どもの様子をしっかりと把握し、どのような保育を担当する保育者が共通理解して保育にあたることが必要であるべきであった。	保育者の数が決まっているどもの様子をしっと把握し、どのような保育をする担当する保育者が毎回共通理解して保育にあたる。	
1374	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	8									4	4	6.5か月	1.男児	該当なし身長約80cm体重約10kg	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	・スロープ（手作り玩具）の場所が壁に近かった・スロープの傾斜が子どもの発達に合っていなかった	・スロープの設置場の移動・玩具（傾斜が緩やかなもの）の買い替え（スロープステップ）	3.個人活動中・見守り	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象至対象児で児近象見た	・保育士2名が遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・ランチスペースで他児の介助をしていたため、見ていなかった。	なし	なし	
1375	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	14				5	6	3			5	4	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	遊具の年齢対象が6歳から12歳になっていた	遊具の対象年齢を確認する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	事故の起こった遊具は市の公園にある遊具です	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	園児に安全を留意して遊ぶように促す	1.いつもどおりの様子であった	普段通りであった	3.対象児離れとで対象見ていた	見守りをしていた	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	対象園児を含め、見守りをしていた	特になし	特になし	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								改善策	環境面			人的面							改善策	
				月	時間帯		発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
1380	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	17.5歳	2.女児	身長約115㎝、体重約25kg、太り気味	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左くるぶしの骨のヒビ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		マニュアルの確認や見直しをしていく	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	高さ50㎝程の緩やかな築山	緩やかな斜面であり、園児の運動面の発達を促すための環境であるため改善の必要なし	1.集団活動中・見守りあり	対象児は年中入園で入園あり、極端に運動経験が乏しかった。体格的にも太り気味	入園以降、運動面の向上を目指しを取り組んでいた最中の事故。本児に合わせた運動能力向上を図る。	1.いつもどおりの様子であった	1日通して、歩きお等も変様わった様子もなく、痛みを訴えることくもなかった。	4.対象動児の見ていなかった	担任1名は室内で着替えをしている園児の状況を見ていた。園庭を担当していた担任も他児のトラブルに対応しており見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で活動していたのが年長クラスのみのため、他職員はいない状況であった。		1)運動発達面で気になる子、発達に遅れのある子等、気になる子については、保育者間で連携しあって目を離すことがないように努力する。 2)日常の運動遊びを通して反射神経を養う。	
1381	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	31									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	バランス遊び遊具で遊んでいたが、離れたところから見守っていた	バランス遊びの遊具には、付き添いが必要	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室、保育士1名で保育	自分たちで遊べるが、もう1人保育士が つく体制をとる	1.いつもどおりの様子であった	バランス遊具は得意ではないが、チャレンジしていた	3.対象児が離れたところで対象見ていた	気にかけていてみた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	いなかった	保育士の配置確認が曖昧だった。	保育士の配置確認を確実にする	
1382	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	5									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折・脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		年間の怪我や事故事例についても、ヒヤリハットとを合わせて応策をしていく必要性考え、合わせてマニュアルを見直しく。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(49)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年		怪我につながるあるつれの遊具については、使用を控修したり、園児に安全に締し、安全が使用でき処るよう置る。	3.個人活動中守り	・絨毯が中央保育室中央にあったため、滑りやすい状況だった。 ・絨毯が保育室中央ではなく、隅にあったため、滑りやすい状況だった。	・絨毯は保育室の中央に置き子どもの動線にかからないようにする。また担任が保育室に常にいる時は出ない時は絨毯を撤去する。	3.いつもと活発的活動でもあった(理由を記載)	週末明けに友達とあったことで普段以上に気分が高揚しており、動きも落ち着きがない様子であった。先に遊び始めている友達の様子が気になり、本児も早く遊び始めたかったように思われる。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	登園して来る子どもの引き取りに保育室と廊下、テラスを行き来していたが、クラスの落ち着きのなかったり保育室に起こった。本児以外にも登園している園児がおり、そちらに援助している時に起こった。	担当職員1名で対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			特に普段以上に気分が高揚している園児に対しては普段以上に注視し、危ない行為で対に気付き、怪我をすぐに声をかけるようにする。	
1383	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.基準配置		ヒヤリハットを記入し職員へ周知	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年		引き続き、施設点安全点検を行い、危険個所を早期発見、早期対応心がけを心がける	3.個人活動中守り	年少児が園庭を掘ったこで穴だが、埋めずにそのままにしていた。	園庭整備を常に行う穴があったときは対処する。園庭は掘らない よう、全園児に周知(砂場を掘る)	1.いつもどおりの様子であった	友達とよかわくり、走って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	対象児が鬼ごっこをしていた際、担任は目いなが他児の対応をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を子どもの動きを追いながら遊びを見守り、事故の時は他児の対応をしていた。	園児への指導不足穴に気付きながらも放置していた	各クラスで園庭で穴を掘らないことを周知。職員は、穴や石を見た時はすぐに対処する徹底	
1384	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71				8	28	35			10	10	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（右肘）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1回)/月	2.基準配置	雲梯がでうよりるるなりたいが焦てとら きにと、きく持ちこと、出てえる。	今一度、雲梯の安全な使い方を知らせた	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(25)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	霜や露、遊具が冷たいつも通りができない。	子ども様子は、常にできる全て捉えるよう見ておけるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	常に子どもの目を必要には配る必要がある。	子ども様子は、常にできる全て捉えるよう見ておけるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯を楽しんでいた	4.対象動児の見ていなかった	保育者はいたが、他児も見ていながら守ったすぐにけがかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者は近くにいたが、他児も現野ながら守ったすぐに助けることができなかった。	本児掛注意を促すことを考えられる。	危ないことや、予想される子どもの動きに対しては、注意を促す声掛けを行うことで、本児が気づけるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1385	令和6年9月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11			2	9		3	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	職員配置は既に基準以上だが、危険個所に配置する必要があった。危険予測について考え必要があった。	保育者の立つ位置を見直し、転落の恐れのある場所に近い所から見守る。引き続き事故予防についてのミーティングを行い、原因や防止策について話し合い実行する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	遊具を、安全に使用できる構造にする必要がある。	滑り台上部に落下防止用の柵（手すり）を取りり付けた。	1.集団活動中・見守りあり	一度に遊具を使用する人数を制限する必要があった。	すべり台や上に登り遊ぶ人数を制限していたが遊具を使用する場合、一度に遊ぶ子どもの人数を3名までとする。使用する遊具を、ブランコのみ、滑り台のみ。など、その日に遊ぶ遊具を限定する。「追い越さない」「押さない」などの外遊びでのルールを子ども達に定期的に伝える。	4.具合悪かった。(熱発・腹痛・風邪・気味等理由を記載)	前日に体調不良（嘔吐や発熱）で休み。当日は発熱など は発熱なく、給食後に与薬あり。	3.対象から児が離れたところで対象見ていた	対象児を含め、遊具の上で遊んでいた児童、隣に登る順番を待った児童を見ていた。対象児が後に並ん後で滑りをすべったので、滑り口にしゃがんでいた先に滑る声をかけた。	2.担当者・対象の動きを見ていなかった	ブランコ、遊具の下で遊童ぶ児童を見ていた。別の児童を見ていた。	滑り台の脇にも保育者を配置する必要があった。対象児の体調が万全では全い可能性があった。	児童を見守る位置を変え。子どもが落ちやすい場所、ブランコなどのぶつかりやすい場所に配置をする。事故がありやすい点を、具体的にも子ども目線になって検討する。	
1386	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								2	2	17.5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	特になし	特になし	7.その他	降園後、保護者が対象児に背を向けて、様子を見ていなかった。保護者が対象児に、遊んではいけないと注意をしたが、対象児は動きを止めなかった。	降園後は遊庭で遊事ばないを、保護者とも再度伝える。（園だより、掲示、口頭など）	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	保護者が迎えに来た為、気分が高まり、保護者の制止を聞かなかった。	4.対象動児を見ていなかった	通常保育後のため、保護者へ引渡した は、長時間保育やその他の業務を行うため。	2.担当者・対象の動きを見ていなかった	通常保育後のため、保護者へ引渡した は、長時間保育やその他の業務を行うため。	特になし	特になし	
1387	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	13								1	1	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中節骨骨折	5.他児から危害を加えられた もの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	便所に子ども一人で行かせる時の言葉がけが足りなかった。	常にあらゆる危険性を想定できるよう定期的に危険予知トレーニングを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	扉には手を挟まないように緩衝材が挟んであったが、勢いがついたので、緩衝材は潰れ指を挟んでしまった。	緩衝材が扉の上部の1か所にはあったが、もかけい中央部にはが、子どもが手をすや分にも、子ども分らに緩衝材をつけるようにした。	7.その他	扉は指を挟むという危険性があることを徹底なとされてなかった。	子どもたちに扉の開閉の危険性を再度知らせて、扱いつい方て話して合った。	1.いつもどおりの様子であった	10分程前に皆で一斉に排泄に行き、本児も排尿したが時はもその便をおしておらず、その後担当者に申出で行くことった。	4.対象児の動きを見ていなかった	定期的に排泄に誘い、クラス皆で一斉に行くときは担任もついていたもきき子どもたちの動きも把握できていたが、今回は本児のみでありの一人で行かせたため本児の動きを把握できていなかった。	2.担当者・対象の動きを見ていなかった	隣の年長クラスの担任も、自身のクラスの子ども一人便所に行ったことは把握していたが、隣の年中組のもも子どいたことを把握できていなかった。	担任が、便所に誰がいるのか自分のクラスの子しか把握できていなかった。	便所に誰がいるのかも含めて、年長児し、年長組担任とも声を掛け合っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1388	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77			21	30	26		7		7	17.5歳	1.男児	・左腕の脱臼経験あり。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	・運動会前に保育安全マニュアルの読み合わせはしていなかった。	・運動会前に再度マニュアルの読み合せをし、安全に対する危機管理を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	・休憩していた付近に、木製ベンチ、木製テーブルが設置されていた。	・休憩場のベンチテーブルの数を必ずだけにし、通行すくしする。	3.個人活動中・見守り	・運動会の練習の長所とともに子供たちが出ていた。本児は体が出て疲れたので、足元がふらついたのではないか。	・激しい運動の後は、室内よりにしてくなる体を休ませる。	1.いつもどおり様子であった	・運動会後の練習後、お茶を飲んで休息を取った後の出来事だったため、疲れが十分回復しなかったことが転倒の原因と思われる。	4.対象児の見ていなかった	・保育士はお茶を飲むように声をかけていた。また、活動の合間に休息を取れるようにしていた。本児の近くで、クラスの子どもと一緒に異年齢の活動を見学した。他の職員に本児の異変を知らされ、すぐに本児を事務室へ運び、保護者へ連絡を取った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・運動会の取り組みに必要な人員配置、戸外自由での遊びでも、見守る保育士はお本児の異変に気付いたすぐに担任・副園長を呼んだ。	・本児は運動の不器用さがあり、疲れやすい。	・本児に休息を取るように声をかける。運動器具や運動遊びでは、様子を見守り、必要に応じた援助をする。	
1389	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11									1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折、右橈骨頭骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	4、5歳児のどちらも担任が指定休、運番で不在であった。	4、5歳児どちらか担任が必ずクラス保育が始まる時間帯にいられるようにシフトを組んでいく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床が滑りやすくなっていたのではないか。	毎日の清掃、定期的なワックスをするが、施設老朽化もある。床のリニューアルを希望していく。	2.集団活動中・子ども達のみ	遅明けでトイレマットがお子敷いず、子どもに呼ばれた職員がトイレを見にいってしまった。	保育が始まる前にトイレマットを敷いり、保育環境を整えておく。	1.いつもどおりの様子であった	普段からく動くよく子だ	4.対象児の見ていなかった	どもに呼ばれ、子どもたちに声をかけ、部屋離れていた	2.担当者・対象児の動きをいなかった	保育室に職員は1名のみであった	職員が部屋に誰もいなくなってしまった。	隣のクラスの保育士にかけ、声、両方のクラスに目を向けてもらう。	
1390	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13									2	15.3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	芝生が整っていないに着地した	芝生が整っている場所にオン合遊ライ型複合遊具を置く	3.個人活動中・守り	いつも通っているので、安心して守った	一人ひと人の発達段階を把握し、手の援助を添えるなどの助をしていく	1.いつもどおり様子であった	いつもとともに友だちと一緒に遊びんと戸を楽しでいた	2.対象至児の近で対象児を見た	飛び降りて着地した瞬間はひねったように見えなかったが、痛みを訴えたため患部を確認した	2.担当者・対象児の動きをていなかった	戸外で離れていたところで他に4人いたがすぐには状況を把握しなかった	いつもラオン複合遊具かジャンプしているので、担任は大丈夫と過信し信した	子どもの発達状態や精神状態を把握し、過信しないで適切な補助、援助をする	
1391	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				10	15		2		2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	3.子ども同士も衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	今後も事故予防の話し合いを行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	引き続き安全点検や石拾いなどを行う	1.集団活動中・守り	かけっこの際の子ども同士が近かった	かけっこ競争遊びでは、間隔をとってることを走るができよう配慮する	1.いつもどおり様子であった	いつも通り	2.対象至児の近で対象児を見た	一緒にかけっこしていた(前方を走っていた)	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	かけっこ以外動いるの他児で近くの見守いた		今回の事例をもとにケガにつながることを子ども達と共に考える機会をつくる	
1392	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	44							2		2	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨骨幹部骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	1人は、玩具を出ていた。1人児は、への対応をたので全体を見る目が足りなかった。	予め遊びの環境を整え、必ず1人は全体を見るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	環境設定に配慮が足りなかった。	事前に安全に遊べよう環境を整える。	1.集団活動中・見守り	保育教諭の連携が出来ていなかった。	他児への対応をする場合は、教諭の連携を取り、必ず1人は、全体を見るようにする。	1.いつもどおり様子であった	遊戯室を反時計回りに走っていた。	4.対象児の見ていなかった	テラスにどもいるに声をかけるに掛け対応する目が離れた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	遊戯室の舞台上にある積み木を取る為、目が離れた。	対象児に走ると危ないということは、伝えていたが、この直前には伝えなかったため	対象児に走ると危ないということを知らせ落ち着いて遊べるように予め環境設定を整えておく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 | うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1397	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10									2	2	15.3歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	子ども一人ひとりの様子をしっかり把握していく。	重大事故訓練だけではなく、危険予知トレーニングも定期的に行い、環境、子どもの動きから予想できる危険に対して、保育士が対応できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもの様子であった	保育士や一緒に手洗い友達と一緒に手洗いを行った。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	担当保育士は少し離れた場所で他児の手洗いの世話を行ったが、視界には入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食事の用意を取りに行っていたため、対象児は見ていなかった。	片付けた手から手洗い移動しないで、もっと落ち着いて落ち動けるような方法を考える。	片付けてから、落ち着いて手洗いに誘っていく。	
1398	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	右目外傷 性眼球打撲　右 撲　目眼球前房出血	5.他児から加害を加えたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・給食の片付けする保育士と、遊ぶ児童を育園士を明確に分けて保育にあたっていなかった。	・保育士の役割を明確化し、給食の片付けをする保育士と遊んでいる児童を見守る保育士を分けるようにする。また、玩具の適切な遊び方について子どもたちへ指導をする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	・特になし	・玩具に危険性が十分に確認する。	1.集団活動中・見守り	・給食(片付けを含む)すを担当保育士と、遊ぶ児童を見る保育士を明確に分けて保育にあたっていなかった。	・室内用の玩具の遊び方を再確認するとともに、使用方法や遊び方が見てわかるように掲示をする。	1.いつもの様子であった	いつも遊ぶ児童Aと一緒にコンで遊んでいた。普段から活発な児童同士である。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	給食の片付けをしていた。対象児からは少し離れたところから、適切(コマで児童同士が戦いごっこをしている)遊びの様子は確認している。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児が学クラスで児童Aとコマで遊んでいる様子を確認しているが、室内で遊ぶ他の児童をみていた。担任保育士の休憩対応として保育に入り、普段保育にあたっていない。	・年長児であることから、玩具の遊び片付けを子ども同士で任せていることがあった。	・室内とテラスに分かれる場合は、保育士の役割分担(見守る範囲)を明確にする。・遊びの様子を見ながら、危険だと感じた時には、注意し、指導をする。	
1399	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	126									8	8	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	大人数で園庭で衝突・走ること転倒するリスクがあることを理解していなかった	運動会の競技で怪我や危険のあるものは予防・対策を講じる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	特になし	園庭に危険物や破損等不備はなかったとられる。	1.集団活動中・見守り	多くの人数(10人)で一度に走っており、誰か一人でも転倒すると園児同士の接触が避けられない状況であった。	かけっこ競争の走る人数を10人から5人に減らし、スタートラインの一人一人の間を開けることで他児接触げるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	身体状態良好で、ど意欲いつおりに参加していた	2.対象児の近で対象児見た	スタート近ラインくに立て並ぶ置をしていた。	1.担当者・対象児動きを見た(至近距離にいた)	ゴール付近でスタートする本児や見守する他児り、テープを備、また、ゴール後の園児を誘導する職員それぞれ役割分担をしていた。	多くの人数(10人)で一度に走っており、転倒すると園児同士の接触が避けられない状況であった。	かけっこ競争の走る人数を10人から5人に減らし、他児の接触げるようにした。	
1400	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47			16	18	13				4	4	18.6歳	1.男児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特に無し	園庭にいる人数は適切で、園庭全体が把握できる位置で保育士が配置されていたため改善点はない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	特に無し	遊具点検不備なく、周りには視界を遮るような物はなかった為、改善点はない。	3.個人活動中・見守り	特に無し	遊具に他児が密集することなく、保育士は近くで見守り声かけ、適切な対応をしていた為、改善点はなかった。	3.いつも活動的であった(理由を記載)	運動会に向け取り組み、いつもより気持ちが高まっていた。	2.対象児の近で対象児見た	担当保育士は、砂場で遊んでいる3.4人を中心に見ていた。運動会に向けて、気持ちが高まっているように感じられる子が多く、砂場から手を離さないよう声をかけながら見守っていた。他児が砂場から落ちそうになり助けていた。その時に本児が突然登り棒から手を放して倒れたため手を差し伸べることができなかった。	2.担当者・対象児動きを見ていなかった	園庭で他児と関わっていたため見ていなかった。	特に無し	登り棒についていた保育士は本児の様子を把握し、声をかけたり見守ったりしていたため、改善点はない。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1401	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7								1	1	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	クラスの園庭遊びには担任保育士と障害児担当保育士、園長の配置体制をとっていた。ドッジボールには担任保育士が配置していたが、まだ開始前で担任保育士は他の保育士からの伝達事項を聞いていた。	保育士との会話中でも目線は常に子どもの動はどもを把握きをする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	外野から移動する際にも子ども同士の距離が近すぎた。	保育士は、子どもが飛び出すきっかけを作らないよう、子どもが近づくときいよう状況に合わせて誘導する。	3.個人活動中・見守り	外野にいた本児は、内野のA児が「当たった」と言った」と言葉を発し思いたと込み、内野に戻った際にA児の後ろに立った。	友だちとの適切で安全な距離を伝え、誘導する。	1.いつもどおりの様子であった	外野は相手チームの内野を当てると自分のチームの内野に配置する初に配置の外野は、自分のチームの外野は当外たの児が当たって来た野に内野に戻ることるができるルールとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッジボールの遊びにつくためにコートの外にいたが、他の保育士と会話中に目線をコートから外して本児が内野ってことおり、本児に戻くるはずは、転んだ瞬間は見たが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	他の遊びを見守っており、見ていなかった。	遊びの開始直前であめ、もが移動するとはいなかった。	保育士が別の対応をする際、もたちの動きを止めると、他の保育士との連携をする。	
1402	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26								2	2	18.6歳	2.女児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節挫傷・右上腕骨顆上骨折の疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	慎重なタイプだった、木ジャンプに慣れてきていた。	普段から職員も同じ職員を配置して必要な声がけができるようにしてたが、子どもの様子の変化等、見極めた声がけができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	子どもが飛び降り時に握り飛ぶ右の枝を、再度剪定しる枝をつかる物が無に引るいようした。	1.集団活動中・見守り	特になし	クラスで話し合いで、木ジャンプで飛び降りの際には、手がひっかからないように気をつけて飛ぶ足張ってジャンプをするように伝えた。	1.いつもどおりの様子であった	握っていた枝がひっかかり、バランスを崩した。	2.対象児の動きを見ていた	対象児の介助の体勢をとっていた。しかし対象児が落下する瞬間に手を差しべたが間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きをいなかった	待機場所の園児を並ばせていた。	特になし	怪我が発生するかもしれない事を想定しながら、介助ができるように心がける。	
1403	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				12	11			4	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	・遊具ご育園とに保育士を配置しとり、援助すべきという認識が十分でなかった。	・遊具ごとに保育士を配置するようにした。遊具が隣同士であっても、2つの遊具を1人の保育士が見ることはしないようにすることを全体周知した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(220)回/年		ブランコの数が園児の数に対して多かった為、数を2つ減らした(4→2)、ブランコ横に保育士が、ブランコにがつき、ブランコを揺らし過ぎた時等には、すぐに援助ができるようにした。	3.個人活動中・守り	・遊具の遊び安全方の指導が十分でなかった。	・クラス全体で遊具の遊び方や数量を材を遊び、行った。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	・ブランコに乗れて慣れており、強いコ、槽に、保育士が「ビュンビュンと危ないよ」という保育士が掛けた、本は「大丈夫」と注意方を緩めることはなかった。	2.対象児の近で児を見ていた	危険予知力が足りなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	本児の学年(4歳)の園児と他学児(3歳)の園児が分かれ、砂場等に園児が分散しており保育士・補助者も分散していた。	園児が分散していた、遊ぶ保育士の(援助)の配置(数)が十分ではなかった。	遊具ごとに保育士を配置するように遊具が隣同士であっても、それぞれ遊具に1人、もしくは必要に応じて2人以上の保育士(補助者)がつくようにした。	
1404	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61				10	9	42		3	3	17.5歳	2.女児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第3足趾中足骨骨折・右骨折第4足趾骨中足骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	岩山の利用人数を見直した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	岩山に柵を設け、出入りを一つにし人数を一つずつ出入りにしやすくした。	1.集団活動中・見守り	特になし	岩山に柵を設け、出入りを一つにし人数もわかりやすくした。	1.いつもどおりの様子であった	跳んでみたいという気持ちから、速にも掛け飛びた。友人自びりを分降り	2.対象児の近で児を見ていた	遊具の見ていで守ったが、足を痛めた様子が見られたので駆け付けた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	職員間で連携をとり、他の遊具や、安全確認に漏れがないよう配置についていた。	着地時片足前方に重心がかかってしまった。	子どもの好奇心、自主性を大切にしながら引き続き安全面して考慮して見ていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制														事故			事故状況								事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者							発生時状況	事故の転帰							ソフト面									ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳												年齢	性別	特記事項			死亡	負傷			誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等									死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1405	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56			15	18	23		5	5	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	子どもひとりひとり人の様子をしっかり把握していく。	重大事故の練習だけではなく、危険予知トレーニングも定期的に行い、環境、子どもの動き予想から危険できる危険に対して、保育士が対応できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	保育士がいる友だち一緒に集団で遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	担当保育少し場所で集団をお見ており、視界に入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にて他児と関わってお対象児は見ていなかった。	活動前に準備体操をしたが、不十分であった。	手首、足首など、しっかりもう少し念入りに準備体操をしていく。	
1406	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35			10	9	16		5	4	17.5歳	2.女児	天気の良い日が続き乾燥していた	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	マニュアルの確認ルールの確認等はしていたが、今年度研修等はまだされていなかった	年度初めだけでなく年度途中での確認を確実に行えるよう計画を立てる	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭にはトイレがないため園内に戻る必要がある	園庭からトイレへの最短距離である3歳児室をつなぎ通くし、もたちにやわかりすいよう表示をつける。	1.集団活動中・見守りあり	天候の良い日は乾燥ばいきしていることり、廊下の床面は滑りやすかった	子どもたちだけで対応なく靴をすることを徹底。クラスでは全職員が幼児全体で走らないことを徹底。クラスだけでなくクラス全体で走ったり、廊下の床面は滑りやすかった。

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 教育・保育等従事者 | | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他														実施頻度/【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
1411	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	63			11	22	30		6	6	17.5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	4歳児数名で雲梯で遊んでいたが、保育士は1.5m離れたところから時折様子を見ていた。	雲梯遊びでは落下する可能性がある事を職員に徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(16)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	雲梯の一番高いところで148cmの雲梯であり、低いため子どもが油断して遊びやすい。	低いが落下に備えて厚みのマットを置く。	3.個人活動中・見守りあり	職員の共通理解として、雲梯等の遊具を使用する際には、マットを置くことなっていたが、事故発生時は園児の地面に着くマットを外してしまっていた。「足が地面にからトをほしい」という声に保育士が応え、マットを外してしまっていた。	雲梯等の遊具を使用する際には、必ずマットを置くことを全職員に周知徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯が出来るようになり、喜んで何回もぶらぶらしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	雲梯から1.5mほど離れたところで4歳児3名と遊びながら、雲梯の隣にあるジャングルジムで遊ぶ園児の様子も見守っていたため、対象児が落下するのにくぐのが遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	園庭で、他の園児と遊んでおり、見ていなかった。	それぞれ保育士の保育が見られるとおり、見ていなかっただろうと油断があった。	遊具で園児が遊ぶ際は、一つの遊具に一人以上の職員が付き添うようにし、職員同士で暗黙の了解ではなく声を掛け合う。	
1412	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	1	16					5	5	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	口唇裂傷、上Aの外傷性歯の脱臼の疑い	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつも発で活動的であった(理由を記載)	よく動く。	4.対象児を見ていなかった	保育士の後ろいて見ていなかった。	2.担当者・対象児を見ていなかった	少し離れたところで他児とでいて視界に入っていなかった。	保育士の起こってしまった事故。保育士は、他保育士や子どもの配置に気を常に全体の見れる場所で安全確認に心がけながら保育する。	すべての子どもがいずれかの保育士の目に入り子どもの遊びの様子、心の動きを把握し、したい遊びが見つかる環境を作る。	
1413	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	29							4	4	15.3歳	2.女児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折 上腕骨骨折 左肘内障	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	ヒヤリハット事例を広く解釈し、素早く対応するとよかった。	芝生との段差を土を入れて平らにし、歩いてる入室すう周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	地面に凹凸があったため	地面の起伏状態の確認	1.集団活動中・見守りあり	おやつを楽しみに入室して入室持するちの高揚があった。	歩いて入室する	1.いつもりの様子であった	友達数名と一緒に入ってって走室しした。	3.対象からたちの象見児離れところで対見ていた	クラス全名の保育士が２方向から見守っていた 一斉室は危険がのでクラスの入室は俳数名ずつ入るように促していた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	それぞれ自分の近くのを見てもいた	歩室うもえず入室ようとしすると走ってに子に伝く。	職員数を増員する	
1414	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61			17	17	27		5	5	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	保育士の配置等に問題はないと考える。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	固定遊具の種類、保育士の配置の仕方等、危険な点はなかったと考える。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもりの様子であった	友達や保育士と関ながわり遊ていから登った。	3.対象からたちの象見児離れところで対見ていた	遊具の近くで児の動きを見ら、子がでいる助をした。対象児が落下する瞬間に駆けが寄った間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	他の子の遊びの補助をすぐにしていたので、対象児から目を離した。	保育士が対象児を差しすぐに手伸ばれるべ位置いて見守ることが必要。	複数人で遊ぶ時には、保育士が傍についてしたりないよう遊び方を遊び伝え、今後も職員は傍で補助や様子を見守り、危険な時はすぐに対応できるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷		診断名	事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1415	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17			3	7	7			3	2	16.4歳	1.男児	体幹が弱い、保育者と話す時、視線が合わなかったり、答えなかったりする。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	職員それぞれが全ど子子の様子に留意していた。本児の車の乗り方も注意するほどではなかったので様子を見守っていた。	子どもは行思動をすることを職員で再度徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	三輪車や三輪車に乗る場所には問題がなかった。	問題はなかったが、遊具の点検も丁寧の今後も丁寧に行っく。	3.個人活動中・見守り	三輪車に乗ってだちいつとして友にこうて追いとして慌てた。	慌てたり、ピードを出し過ぎないように子に知らせる。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	午前中に生活発表参観があり母親に来ており、よいつもはしゃぎていつはいだ気分で遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	いつも一緒にいる友だちと三輪車を楽しんだため、離れたところから安全に見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいつなかった	時々は、本児の様子を気にしていたが、他児と遊びに参加していた。	それぞれ保育士の気をつけてくれるだろと油断していた。	同じ遊びをしていなくても、声をかけたり安全に遊んでいるか保育士同士で声掛け合いを、確認をしていこうとする。	
1416	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	14			3	3	3			3	3	14.2歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	乳歯の前歯の外傷 歯の脱臼の疑い 歯肉裂傷	2.自転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	今後も事故予防のための話し合いを行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	移動の際、バランスを崩して転倒したと考えられる。	子どもの行動を予測する。	1.集団活動中・見守り	手には何も持っておらず移動したところでの転倒ども予測して動して必要がある。	今回は桜の木の根っこでつまづいたわけではなかが、ようなどがらに落ちち葉遊びを平らでした場所へ移動して遊ぶ。	1.いつもりの様子であった	行きたい方向に木の根がはっておこったり、そこで歩いを為転倒した。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	対象児が場も子様子守り遊ぶ対象見ながらでいた子逢を見ながら、ちょっと目を離した時に倒した、急いで駆け寄っていった。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	遊びや遊具で子ども遊んでいた。	保育士の立ち位置は本当にそのままでよかったのか、見直す必要がある。	子どもが転倒する予測できる場所に保育士が立ち、安全に遊べる環境作りに努める。保育士は全子ども全体が見える位置を確認して子どもを見守る。	
1417	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23			2	2	2			2	2	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	該当児が欲しいものを取り直線上の台があった。	本児の特性を理解し台を移動すべきだった。	1.集団活動中・見守り	片隅に乗ると倒れ台やすいだった。	台の配置場所を変更する。	1.いつもの様子であった	ご飯を食べ終わ食べと取り行その直線上に台、ありの台に乗り乗んだ。	2.対象児の近対象見た	対象歯を食ぶ終本を行ったが線がそに台、ありの台に乗り乗んだ。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	少し離れたところに1名の保育士がいたが助けられなかった。	該当児のものがあったら避けず直線的に行動する特性を理解し事前予想できなかった。	本児の特性を理解し、事前に危険防止の声をかける。	
1418	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33						15	18			18.6歳	1.男児	身長約120cm、体重約29kg、発育・発達状況、肥満	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨内側上顆骨頸部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	マニュアル記載の使ル記棒の使用人数が適切でなかった。	横並びでは使用せず、1人ずつ使うようにし保育士の見守りを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒のマットが劣化してきて、クッションの下が弱くなって働きくいた。	新しいマットに交換する。	1.集団活動中・見守り	個々の力量に合わせた適切な援助をする。	保育士と一緒に取り組むことまで離れ、着地手をないさと繰り返しこうえく。	1.いつもの様子であった	普段はボール遊びや鬼遊びをしており、固定遊具の遊びに慣れていなかったが、クラスの友達にクラスが鉄棒をする姿を、挑みて見ていた。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	他児から逆上がりをみてほしいという要望があり、対応したため、落ちる瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをいた	異年齢保育来事で、園庭で保育士は分散して、子どもに子ついていた気づかなかった。	子どもの経験の有無や体格・発達等を考慮し、担任保育士ではかったため、子達のもの発達に合わせた、瞬時の対応ができなかった。	保育士同士で子ども発達を共有し援助の仕方を考える。取り組む際は必ず保育士が見守ることを徹底する。	
1419	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42						13	15	14		6	6	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	基準配置は満たしていたが、すべての子ども動きは十分とは言えない。	鬼ごっこ自由まごっこ遊びをにわる衝突を予防して早めに声をかける。	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設、設備の不備による事故ではないため	1.集団活動中・見守り	本児の前方から走ってきた他児走った	鬼ごっこ見保育士が前を見ていないが、他児が衝突すると危険でしてるれないう予測できかったのでを掛ける。	1.いつもの様子であった	鬼から逃げるため、必死で走っていた。	4.対象児を見ていた	衝突の瞬間は他児の様子を見ており、対象児を把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きをいた	衝突の瞬間は他児の様子を見ており、対象児の動きを見ていなかった。	子どもたちは捕まらないように逃げることに必死で、前方しっかりを見ず走ていた。	遊びに子ども発達の可能性があることを、知らせ、見周囲を見走ながらることの前に確認する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面										環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡						マニュアルの有無	事故予防研修						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位										実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1420	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	33								2	2	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	特になし	7.その他	机と机の隔や歩間隔が狭い。机から椅子が飛びしている。玩具がちる。机や等、遊びのコーナー設定が不十分。	机と机の間隔を広くとり、遊び容の内容に応じ、机の数を増減し、着いるべらにすぐ落ち遊ぶ。飛び出し椅子や落ちている玩具を片づける。	3.いつも活発に活動的であった(理由を記載)	ブロックで作った物を保育士に見せる為、鏡に他児の保育室を歩き回って、足元いて元をいなくまって転倒した。	4.対象動見ていた児をいなかった	作った物を保育士に見せる為、教と楽しく歩き回っていた為、危険と感じるように遊んでいた為、少し様子を見てからかけると思い、声かけのタイミングが遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はなし。	特になし	特になし
1421	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18								1	1	17.5歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	子どもが怪我をしたり故意を起こすと想定していなかった。マニュアルが不足していた。	マニュアルの確認や研修報告で会議に出席できない職員にも大切なことを会議録だけではなく、口頭で伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(242)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	早番職員の安全点検時は遊具の破損等安全個所を、登り棒で遊ぶ時には職員がとマットを敷いて、この日に対象児に言われたマットは敷いてなかった。	登り棒でにこどもが遊ぶ時は職員は言うことを確認する。ボール等が固定遊具にぶつかっていないか、遊び方の様子を確認し、あれば場所を撤去し、その場から動かす。	3.個人活動中守り	登り棒から降りてきたボールが飛んであった。	固定遊具の付近に危ないと思われるものがあったらその場から動かす。	1.いつもどおりの様子であった	対象児の動きつもの緒であった。特に動しいが、動きが激しくなった。	4.対象動見ていた児をいなかった	戸外中も全体の遊びを把握する位置にいたが、対象児が登り棒で足を滑らせたのを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス担任はクラスの児の保育をしていた。職員は職員室と2階の部屋を行ったり来たりして行事の準備して、担当者や対象児の把握をしていなかった。	寒さで足が鈍くなる子が活発になる子、約束が守れる子、忘れがちな子等子どもの動きを把握したり、危険なものがないかの確認を常時心掛けることを保育士の少し薄らいでいた。	特になし	特になし	上記の意識をもっと高めるようにする。戸外遊びは複数クラスで行い、複数の職員で把握できるようにする。
1422	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19								2	2	17.5歳	1.男児	活発で、走ることが大好きである。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(各1)回/年	1.基準以上配置	遊戯室内を周るマラソンを行ったしぶりの際、園児がもたくさんだったため、張りもも切ってしまった。勢いがつすぎて、体が斜めになった状態で、右肘に全体が乗っ重てしまった。	遊戯室で走る形ソンを周る際は、久ぶりのマラソンを行ったことを緩めて、競争を持ってよ意識を走ると意識を持たせない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊戯室内周の円周は、勢いが付きすぎると円周を周る際に、体が斜めにやがなりくく、負担がかかる。	遊戯室内周での円周を周る際に体に負担がかからないよう、競争させない。	1.集団活動中・見守り	子どもたちは、競争意識が芽生えており、走りたいという気持ちが大きかった。	マラソンは競争でなく、良いとこは丁度ペースの知らせた行った。また、競争とし、ようとしたき、ペースがなったなどに走るのを止めるのる。	1.いつもどおりの様子であった	本児は走ることが好き大で、切って参加した。	2.対象至児の近で見ていた	子どもたちは全体の様子を把握できる位置に、危険がないように、繋がり様ども立ちにそうがれた時はクラス全体に声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任一人の対応のため、他の職員は各職保育に入っていた。	転ぶ時に両手をつくことが出来なかった。体になった状態で転んだ際、手ず、右肘に体重がかかった状態でしまった。	転びそうになった際は両手をつくことを繰り返して、遊び中に取り入れていく。マラソンを行う前に毎回スピードに気を付けるよう言葉をかけてから行う。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度/【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度/【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度/【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1427	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	14			10	4			2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（ひび）	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	本児は、家庭にトリプランがあり、毎日ジャンプすれば手が届くと思っていたのではないか（母親の分析）	園児が遊んでいる場所から、離れる場合は、他の保育士かの声をかけ遊具から遊び目を離さないようにする	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(260)回/年	園外の施設という、とても珍しさ全てたこと遊びあの遊びる	公園使用時の約束を伝え、事故につながりそうな園児の行動を抑えている	1.集団活動中・見守り	集団での散歩ということも自由な動き制限が必要あった	公園に着いたら、遊具使用時の約束を確認する	1.いつもどおりの様子であった	何に対しても怖がってもなくチャレンジする	2.対象至児で対象児でいた	本児を含め保育士の近くで遊んだ人場が４人でいたがその離れた園児を目で追ってしまい、本目ていまから離れしまった	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	ブランコで遊んでいる子も見つつ、全体も見ていた	本児の身体の大きさから考えると、雲梯に飛びつくことであろうと判断してしまってた	危険を伴う遊具では、必ず目を離さない	
1428	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22							3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	園庭遊び時の約束、再確認（職員も）園庭遊び時の大人の配置の再確認と検討	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	施設・設備面での必要な事故改善なかったため	1.集団活動中・見守り	特になし	環境面での改善が必要な事故ではなかったため	1.いつもどおりの様子であった	園庭を走って移動していた	3.対象児から離れたところで対象見ていた	年長児が半数位で少なく、保育士と補助員の人で保育をした。全体を見守り立ち育た。転倒した本児の様子を見ていた為すぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きをいた	全体を見位置に降り、遠くからみる児の様子も見ていた	特になし	人員数、立ち位置は特に問題はなかった	
1429	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23							2	2	18.6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	跳び箱がよくべることが嬉しくても繰返し跳び、何回りんだが手方が雑になっていた。	出来るようになった時こそ、雑になったら遊び油断せずにつくを知る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じ外遊び戸を楽しんでいた。跳び箱べるようこと喜び行った。	2.対象至児で対象児見た	跳び箱の横についたのぐに補助なかった。	2.担当者・対象児動きをいた	戸外で離れたところが３人いたが助けられなかった。	対象時のたいを跳び気持ち先優ぎた	跳びたい気持ちを受け止めながらも疲れたり、手の着き方が雑になったときに遊び油断せずに止め断せずに手をつく手ことを知らせる。	
1430	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	14							4	4	14.2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	4.上肢(腕・手・手指)	右環指中節骨骨折、右環指挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	複数の職員がいたことで、「誰かが見ろう」、「誰かが石を受けとろう」という意識になっていた可能性がある。	職員同士声を掛け合って園児の安全守っを見ていく。	1.定期的に実施	2.不定期実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期実施	実施頻度(１００)回/年	園外保育での事故で、下見の時間が遅かったこともあり、事前に危険に予測できなかった。	下見の際に、園児の行動を予測して危険な箇所や物がないか確認をする。カートから降ろす前に、児の安全を確認をし、保育者同士の安全を確認できるような配置をし、常に声を掛け合う。	1.集団活動中・見守り	事前に危険な物（今回は石）を園児の手に触れられない場所に移動させていなかった。	陽がある時間に園外保育の実施し、除いた下見が良い方が危険に気付けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	園内ではないような大きな石を見つけ、気に入って持った。	2.対象至児で対象児見た	対象児が持っており、石から教諭ろろ保育後がついた児の泣き声に気を取られた際に、対象児が転倒してしまった。	2.担当者・対象児動きをいた	それぞれ別の動きをした。	危険を断守ったを離してしまった。	専属でつく際は、他の職員と声を掛け合って、対象児だけでなく全員の安全確認が取れるようにする。できない場合、順番にカートから降ろす。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		教育・保育等従事者									年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡					マニュアルの有無	事故予防研修						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者						死因	負傷状況	受傷部位	診断名									実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】							理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
1431	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	8									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	5.下肢（足・足指）	左第一中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	活動と活動の間（片付け）は、子ども達がいろいろな行動をとっているので、全体を把握しずらい。また、片付け終わった子に、次の行動の指示がしていなかった。	危険やけがに繋がるような子どもの行動について、職員会議等で話し合い、各保育士が子どもの危険やけがが予測ができるように意識を高めていく。室内で走ってしまう子がいる場合は、声をかけ注意を促すだけではなく、危険やけがに繋がらないように、その子の動きを止めるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(16)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(320)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(16) 回/年	室内片付けと進むと重ねに隅にうたのが机たり隅にうたしまめ、室内なや状況が広走り状況がりすいとしなっった。	室内遊びの片付け後の環境を考え、配置を工夫して、やすい状況を作らない走り作ようにする。	3.個人活動中・見守り	室内遊びの片付けと進むと重ねに隅にうたのが机たり隅にうたしまめ、室内なや状況が広走り状況がりすいとしなっった。	室内遊びの片付け後の考え、配置を工夫して、やすい環境に走り環境にすならないようにする。	3.いつも活発で活動的であった（理由を記載）	室内遊びの片付けが進むと重ねに隅にうたのが机たり隅にうたしまめ、室内なや状況が広走り状況がりすいとしなっった。本児は衝動的に動きやすい。	3.対象児の隅れたところで対象見ていた	室内ごと付けて本離児はいたをいて、とは離れていた。本児の行動見が、声をかけるとしまかみてた。	-	他の職員は保育室内にいなかった。	ごとと付け片付けた走り行動をしまま片付けるため、止め掛けてた。	子ども達それぞれに行動している時には、特に目が離れやすいので、クラス全体に目をとこと心掛けるる。一人ひとりの子どもの特徴を把握し、その子に合った配慮を考え実践する。	
1432	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝（始業～午前10時頃）	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34			22			12			6	6	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	4.上肢（腕・手・手指）	右肘頭骨折	1.遊具からの転落・落下等	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	対象遊具への予測が十分にできなかった	各遊具での遊び方、補助の仕方を職員間で見直し統一する	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	対象遊具での遊び方、また注意点などの把握が不十分であった	各遊具に想定される事故を予測し、適切な見守り、付きをしり添いをしていけるようにする	3.個人活動中・見守り	一人一人の遊びの状況をしっかり把握できていなかった	子ども達と遊びながら、全体の状況を把握しているよう広い視野で見守り、立ち位置にも気をつける。また職員間で声をかけ見守っていくようにする	1.いつもどおりの様子であった	進んで遊び道具遊び取り組んでいた	2.対象児の近で対象見ていた	対象児を含む人の数児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見ていた	遊んで遊びの時間り、付き添いが不十分あった	遊具の遊び方を再度子ども達と確認した り、職員同士で声を掛けあうなど、子ども達が遊具を使用する際の注意事項を話し合い見直していく	
1433	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	115		25	29	31	30				22	22	15.3歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	4.上肢（腕・手・手指）	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	研修内容を再確認し予期せぬ事故や怪我を想定し対応の仕方を考える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3) 回/年	特になし	チェックリストに「マンホールの安全か」の記載はあるさらに細かく「マンホールの及び周囲コンクリート部分が露出していか」周囲まで確認できるようにする。	3.個人活動中・見守り	特になし	雨等で土マンホールが流れコンクリート部出て土しが出たらし分いたなり、ショットをたり、クッンマットを敷く	1.いつもどおりの様子であった	室内外において喀おいち着かず動き回る多ことが い。	3.対象児離れたところで対象見ていた	児の動本は転きいたことをぶ予測できなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	児の動本は見て転きいたことをぶ予測できなかった	特になし	特別支援児で予期せぬ行動が多いが行動の把握に努めるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1434	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	20								2	2	15.3歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	片付け中、泣いている他児の対応をした保育士と片付けが終えたに集まるように指示を出していた保育士とに分かれて子の予ども達の予測ききを事分不十分だった。	子どもの考育士の配置、広い視野等、常に全体を把握していけるように、子動線を考えて子どもの姿から周りを見る意識が低くなる事がある。また、落ち着いて視線が低くなり、他児の姿が入りなくなる可能性があったと考えられる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	イチョウを拾って集めて子どもが周りを見る意識が低くなる事がある。また、落ち着いて視線が低くなり、他児の姿が入りなくなる可能性があったと考えられる。	様々な子どもの動きを予測し、子どもを見護せる士の配置、危険箇所の共有をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	接触した他児も対象児もどちらも走っていたなかったが、転倒した際に手がつけずに左肘から転倒し一箇所に体重がかかったと予想される。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	泣いている他児をしており、対応をし対応をしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	片付けが終わって集まっている他児の対応を、接触した他児は見ていたが対象児の動きまでは把握できていなかった。	対象児は、昨年も転倒に手がつけず、顔を打ってしまったため、頭部を保護するが手が出ず、転倒しやすい事が予測される。	準備体操、バランス感覚や瞬発力等、体力を意識した遊びを取り入れたり、日頃から、転倒しそう時や転倒時には手をつく声をかけたりしていく。	
1435	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								1	1	17.5歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	保育士は基準配置をしていたが、広範囲でなを遊びてどもの子どもたちを見守るには配置人数が不十分だった。	1人が見守れる範囲で遊ぶ場合は、基準以上の職員を配置する。また、その人員が場合の居ない場合は、遊びの内容、遊ぶ範囲に留意していく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	「隠れ鬼ごっこ」をしていた為、隠れられる近くや木、の付近で遊んでいたため、衝突や転倒をしやすい状況があった。	衝突や転倒をしに広くい、開けた鬼ごっこなどの走って園庭で遊ぶ遊びを実施していくようにした。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、走って遊に回んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を見守ってはいたが、咀嚼に助けることができるではなかった。	-	-	広範囲で遊び色々なもの子どもたちを見守るいたちは数分でに職員人数が不十分であり、咀嚼に助けられる位置に職員が居なかった。	1人が見守れる範囲、また咀嚼に助けられる範囲を外れて遊ぶ場合は、基準以上の職員を配置する。また、その人員が居ない場合は、遊び内容、遊ぶ範囲を工夫していく。	
1436	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53				18	19	16		5	5	16.4歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下口唇貫通創、歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	築山のボールを走って追いかけた。上からボールを転がして、ボールの安全を確認、周知する。	ボール遊びの安全方法を確認、遊び方を周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	ボール（サッカー、キャッチボール）に対して、ボールの数が多かった。	経験させたい必要な準備遊び必要や配慮について、職員間で話し合い、遊び必要に通理解し、遊び必要に（玩具等）を環境設定をする。	1.いつもどおりの様子であった	特になし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒で遊んだ子どもに危険のないよう、鉄棒の場所から向こうの側にした。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	鼻血が出た児の処置を行った。	ボールについた鼻血を出した子どもの対応をするためにその集団遊び、固定遊具等にコーナーを離れた。	遊びのコーナーを離れる際には、保育者間で声をかけ合う。	
1437	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59				26	33			5	5	16.4歳	2.女児	身長約100cm、体重約16kg、4歳児として平均的発育。鉄棒が好きでできることが増え、毎日1回は鉄棒で遊んでいる。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕　顆粒骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育士は近くにいてもをいるを知いた違もに声をかけれ、行した落しまった。	今回の事故後に子ども一人一人の運動能力の差を担任でないと把握しきないことや戸外遊び中に鉄棒に子っと一人つくことは不可能であるため、確実に傍について見守れる時以外中止としていく。全年齢の子どもに目で分かるようにイラストボードをつけるようにした。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	鉄棒の上には埋め込み式でがマットがある。そのに運動用マットを敷いている。今回はマットを超えた地面だった。	下保育士が見守って遊ぶ際にはマットの敷き、敷きのやり方を工夫して範囲を広げる。	3.個人活動中・見守り	子どもがようにできるなって自信がつき挑戦い意欲が増し、一番高い鉄棒にチャレンジしてて、鉄棒の高さと運動能力切ではなかったと思われる。	全年齢の対象児に、理解できる範囲で改めの遊具の方（新たなイラストボード含む）や園庭でのリスクについて話し合った。	1.いつもどおりの様子であった	「やりたい」と思うことは諦めること失敗してもなくすることは戦しができるようにこの自信からへのステップへと挑戦したい。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒で遊んでいるこどもたちが近くにいて、どんなこと瞬意識向いたのでは、咀嚼にトライしている場で子ども声をかけられずにけられたことにしてのかは、見にはを、鉄棒に行こうとした際に落下してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	担任は、フープをフープを使っている子どもたちにけられ見ていた。1名は、「オオ今のミさん今何時」の何鬼ごっこ、1名は砂場、1名は子散名ども遊、1名は集団遊びを行っていた。	担任でないと子の運動ともその能力が発揮こまで把握できるしい、鉄棒をやっていることは担任以外も知っている保育士が、各々の場所で子と遊び、確実を保育士を決めていなかった。	イラストボードで有効使用の子ども見るにも分かるようにしたいと保育者りたいと保育者士にかけるようにした。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 | うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他													実施頻度(回/年)					実施頻度(回/年)		実施頻度(回/年)		実施頻度(回/年)															
1446	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	3.昼食時・おやつ時	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									1	1	17.5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝よる突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(回/年)	2.基準配置	・給食後付けの片付中は担任保育室により、教人が保育室からテラスで遊んでいた。	・行動範囲が広がる場合は、他の園児の行動を見守る体制を作る。	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	・鬼ごっこの場所をいたがアスファルト舗装されていたと。	・アスファルト舗装されている場所ごど機敏にことはせずに、縄跳びやパなどの遊びし、遊びの内容に留意する。	4.個人活動中・子ものみ	・午前中能は調査を行ったため、体は疲れて考える。	保育者の目の届く範囲で、安全な過ごし方を指導する。	1.いつもお様りの子であった	・いつも様通りであっ子たが、運動能力調査後で、普段使わない筋肉を使い、体は疲れていた。	4.対象児の動きをいていかった	・給食後付けの片付けをした。通常、子ども達は保育室から場所で縄跳びやバーを両足で跳ぶ遊びをしていたところ、故意に鬼ごっこをしようと子ども同士でたのを始め担当は、子ども担任は気付いた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	・隣のクラスの職員、職員室にいる職員は、テラスにいることも気付いていたが、しっかりと遊びを見守ることはできていなかった。	・職員が達子どもの鬼ごっこの危険性に気づき、声をかけることができかはなかった。	・5歳児の一人担任であることを意識し、子どもが戸外で遊ぶ時は、他の職員とも連携できるように体制を整える。	
1447	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	31									43	5	17.5歳	2.女児	自分の思いや状況を言葉にすることが苦手である。質問されると委縮してしまう。自ら遊びを見つけてあそぶことは難しく、友だちの姿を真似て遊ぶことが多い。姿勢の保持が難しく、寝転んだり壁に寄りかかったりすることが多い。誘われるとクラスの中で友だちと場所の共有ができる。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他児危加れもの から寄をくらた	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(回/年)	1.基準以上配置	運動会の後の本児疲れ床に寝転んでいたのかもしれない。(日々、いろいろと寝転ぶ姿はある)	寝転びたがる時ふるとなる、ほとんど室にこるすと(安心して休息できるよう)をクラスの一ルとしてこと浸透させる。他の場所ではこと寝ているようなことないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	本児が寝転んでいた場所は、制作用箱の収集する場所になって、制作途中の作品や空き箱が雑れて為、他児から寝ている姿が見えにくいであった。	保育室出入口付近整理整頓を、子ども見えるように、体をたいや、ぴたは室こ。ふ	1.個人活動中・見守り	本児に寝転ぶ日ごろに姿はの者ん。保寝転ぶ者ん。保寝転ぶ者ん。保寝転ぶ

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								改善策	環境面			人的面							改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡			診断名		マニュアルの有無	事故予防研修						施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項		対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
1449	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26								4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置		ヒヤリハットの要因の分析の徹底と職員間の周知を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(2４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年		環境設定を行う際は実施する安全点検を毎日なるように職員による検漏れなく行う周知する。	1.集団活動中・見守りあり		滑ったことが要因ではないが、今後事故防止のためにも遊戯室の床に走っていても滑りにくくするワックスを塗布した。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室にピアノを合わせてリズム運動中で、腕を上げながら走るリズムをしていた。	2.対象至児の近で対象児見た	子どもたちと一緒に運動をしながら、一人ひとりの動きかを確ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離ではないが、全体が見える位置で保育中の子どもの動きを見ていた。		怪我に繋がりそうな動きを職員間で共有し、子どもたちに伝えていく。	
1450	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13		1	2	5	2	3		4	4	16.4歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士突によるものにもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	職員は園数児の人数に対して十分に配置できていたが、十分に見守れていなかった。	土曜保育時の危機管理の徹底	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	なし	活動前後の再確認	1.集団活動中・見守りあり		こども は、集中すると自分の状況が見えず急に走り出し、園児と衝突することを予測できなかった。	土曜日保育における保育者の危機管理意識の改善を全職員で確認する。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で５歳児の近くに追いかけられて喜んでいた。他児とけっこをしていた。５歳児が走って走っており、前方への意識が薄かったため、３歳児に激突し、倒れて地面で右肩を強打したと考えられる。	2.対象児の至近で対象児見た	対象児の現近くで見ていたの、保育士が衝突を予測して、声をかけたり阻止することができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	片付けを子終えた子ども保育室に入ると ころについて 現場を見られていない。	対象児の現近くで見ていたの、保育士が衝突を予測できなかった。	子どもの動きが危険につながると判断した際の保育者の速やかな対応について確認する。・子どもの動きを予測し、声をあげて知らせたり、行動を阻止したりできるよう、危機管理意識を上げると同時に子どもの理解をすすめる。・複数人で子どもを見守り時には、必ず声を掛け合い、保育士が互いの行動を視野にいれつつ、子どもの見守りを徹底できるようにする。	
1451	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23								4	3	17.5歳	2.女児	●月●日に再診し、完治の報告を受ける。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		痛み等体に異変を感じた時には職員に伝えるように子どもに話をした。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３００)回/年		特に関連なし	1.集団活動中・見守りあり		保育者の話を聞いたり、作業をしたりする時には床に座るのでなく、着座または椅子に座するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	室内遊び時に床に座ろうとした。	4.対象児動を見ていなかった	他の子どもとわった。	2.担当者・対象児動見ていなかった	支援児についていた。		子ども一人一人の様子の変化に気づけるように、目の前の子どもだけでなく広く子ども様子を見全体を把握するように努める。また、子どもには痛いと思った時にすぐに近くにいる保育者に伝えるように話をする。	
1452	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26								2	2	18.6歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	飛び箱に直接補助していかった。普段が飛び箱に直接補助をなかった。とちい、職場体験学習の中学生が来て居た。	中学生が居る普段と違う場合は、子どもたちの心情を想定し、より安全策を講じる。飛び箱に直接補助を常時つけるか、飛び箱は実施しない。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	事故発生時、飛び台と箱その他組合わせみ運動用具を配置していた。リスクが複数ヶ所あるであった。	リスクを防止するために、配置運動減する用具を事故を下げ事故ため	1.集団活動中・見守りあり	複数のイベントにもの子ども集中や注意したのなかもしれない。	リスクをイベントは、子どもがひ内容に集中して取り全組めるにため、施リスクを伴うイベントは、子どもがひとつの内容に集中して取りよる実内容にめるにため、施設を組める。	3.いつも活発的であった(理由を記載)	明らかに活発として子は表れていないが、体験して居る様子は来て居た。	3.対象児離れたで対象児ていた	園庭全体の運動あそびをした。	2.担当者・対象児動見ていなかった	他児のイレ 付き介助 に行き、現場 (園庭) を一時的に離れていた。	職場体験学習に来た中学生に意識が向いたとられていると考える。	子どもの心情や状況、職員の動きに関わらず、安全組みができるような配慮や対応を徹底する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】				教育・保育・育成支援の状況			対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか			
1453	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	10～15								2	2	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	乳幼児は未だ鈍麻であるため、何かあったら保育士に伝えるよう徹底できていなかった。	何かあれば必ず保育士に伝えるよう、毎朝、園児に指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	砂場の土壌の減り段差が大きくなっていたことがあった	砂場の土壌を補充する	3.個人活動中・見守りあり	戸外遊び食べ物や飲物は戸外から給食の部屋に戻すときに多くの子どもが戻ってきていることを知らず、見守っていたが、声かけや注視していなかった。	戸外遊びから部屋に戻る場合は慌てて走る等により砂場付近でケガが多いことを知っておき、慌てないように促したし、注視する。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に部屋に戻ったため走った	4.対象児の動きを見ていなかった	戸外で一緒に遊んでいたが、こけた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に遊んでいたため	友達と遊んでいるから、油断して注視していなかった。	砂場はケガをしやすい場所と認識し、油断しない。	
1454	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	0	1	3	1	2	8	0	6	6	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	夕方遅い時間の合同保育で、クラス担任ではなく他クラス担任とパート職員で保育していた。	保育士複数名で移動に付き添い、安全管理の徹底を行うように職員間で確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	夕方の静の遊び時間後だったので、保育室から広いホールを通る際、突発的に身体を動かして遊び出した。	引き続き、施設の不足面について、職員共有し補修いく。	1.集団活動中・見守りあり	夕方の合同保育の移動で気持ちも高ぶり、5歳児が突発的に側転をしていた。	個々の子どもの課題や普段と異なる思いの出し方等、共有をしたが合同保育で共有しきれず、パート職員を含め職員配置等、職員会議でも話し合った。	1.いつもどおりの様子であった	他児がホールで側転する姿を見て、本児でも真似してみやってみた。	3.対象児が離れたところで見ていた	合同保育室への移動中ということもあり、先に向かう5歳児の姿を見守りつつ、4歳児の子どもと一緒に階段を降りて移動していた。階段の危険回避のため、先にホールに到着した数メートル先の対象児への対応が遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他保育者中も保育中であり、移動には1名の保育士が中心となって付き添っていたため確認できていなかった。	個々の子どもの課題と異なる思いの出し方等、共有をしていた合同保育における保育の進め方、パート職員を含め職員配置等、職員会議でも話し合った。	●●委員会で事故の分析をし、朝夕の保育体制や遊び提供の仕方について話し合う。移動時は特に複数名で対応できるように確認する。また、5歳児中心に子どもとも安全な遊び方、場所を話し合う。	
1455	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	34								25	21	17.5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	普段の中でなかなか落ちないものの、ケガをしていき着いてきちんと行動できるよう声掛けをする	子ども達に気を付けるよう注意する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特にない	特にない	7.その他	保育の流れで気持ちが高揚したことが多いだったので、飛び上がったりしていたように思う。	保育教諭も子どもたちの状況を把握して配慮したりしていた。	3.いつもより活発で活動的であったを記載)	対象児は通いつもりでしたが、テンションが高いように感じます。	4.対象児の動きをていなかった	担当職員中児に対象の近くにいたのですが、ケガをした瞬間はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育教諭も同じ状況です。	対象児がこのような行動をとることが予測できなかった。	特にないです	
1456	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折の疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		活動場所が複数になるときは全ての様子が見渡せる場所に保育士は位置する、または複数体制で保育が行えるように他の職員と連携を取りながら保育をすすめる。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年			1.集団活動中・見守りあり	窓ふき掃除のためにイスの上にあがることを許可していた。	全ての様子が見渡せる場所で活動をするイスの上にあがることは危険という指導の徹底をする。	1.いつもどおりの様子であった	掃除に意欲的であった。	4.対象児の動きをていなかった	保育室とテラスに分かれたそれぞれ次の声をかけていた。	-	一人担任であり他の職員は近くにいなかった。		子どもの状況を把握し、危険予測をしながら適切に対応できるようにする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 教育・保育等従事者 | | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1461	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23								3	2	16.4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	「氷鬼」で遊ぶ時に職員がルールを児童と確認するとしていた。	遊ぶ前に、児童に周りをよくみて遊ぶように説明を実施する。また、前方をよく確認すること、遊具の近くは通ってないと、友達の引っ張らないこと、の服を掴まれたり、遊び中に気になることはその都度伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	園庭が平坦ではない。	園庭のでこぼこの修繕。	1.集団活動中・見守り	鬼から逃げるため、慌てており、周りを見裕がなかった。	園児に周りをよく遊ぶように説明を実施する。また、前方をよく確認すること、遊具の近くは通ってないこと、の走ってないこともを伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	氷鬼の鬼から逃げるために動いている姿が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児の全体は観察していたが、対象児は細かく見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	多くの人数を見ていたため、対象児は見ていなかった。	自由遊びでは少人数のグループなどでそれぞれ好きな遊びをするので、一人ずつを細かく観察する事は出来ない。	園児の周りをよく遊ぶ見て遊ぶように説明を実施する。また、前方を確認すること、遊具は近くは通ってないこと、の走ってないこともを伝えていくとともに、一人ずつ動きを確認し、事故の危険性について意識を持っておく。	
1462	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19								5	4	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	足場の悪いところで遊ぶ時の注意喚起が不足していた。	児童に足場の悪いところで遊ぶ時の注意喚起を行い、日々の保育中でその都度伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	朝露でタイヤが湿ってお滑りやすくなっていた。	足場の悪いところの修繕。	1.集団活動中・見守り	足場の悪ころいてを歩いたが、転倒するまでは考えられなかった。	児童に足場の悪いところで遊ぶ時の注意喚起を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつものタイヤの山をいようにイヤを歩いたが、足を滑らせて転倒する。	3.対象児から保育士が対象見ていた	園庭で遊ぶ児童の全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	多くの人数を見ていたため、対象児は見ていなかった。	自由遊びでは少人数のグループなどでそれぞれ好きな遊びをするので、一人ずつを細かく観察する事は出来ない	タイヤの山は足場が悪いため、ケガのリスクがあることを説明し、遊ぶ時は気をつけるように注意喚起を行う。	
1463	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62	12	28	22					15	15	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	テンションが上がってしまうと危険につながる。	一人一人の遊びをしっかり把握し、安全面での対応をしっかり行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き、安全管理を定期的に行い、年齢に応じた遊びの配置を行うようにする。	1.集団活動中・見守り		一人一人の遊びをしっかり把握するとともに、危険を回避できる距離に職員が付くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から元気な本児であり、いつもの様に活発に遊んでいた。	3.対象児から保育士が対象見ていた	職員間で立ち位置を連携していたが、こけたり、本児が出した手ことが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で、それぞれの園児を見ていた。		遊具の数を減らすなどの対応を行い、安全に遊びを楽しめるようにする。	
1464	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	33								3	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右肢脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置		特記事項なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		特記事項なし	1.集団活動中・見守り		片付けにつく職員、給食の段取りをする職員と並行しての時間であった。子どもたちを十分に見守れるような職員体制を見直していく。また、普段より突発的な行動が多く見られる本児の為、常に側で見守れるよう加配保育士の配置を行う。（1●より配置）	1.いつもどおりの様子であった	普段から落ち着かなく、走みの姿がられていた。事故も当時片づけをせず保育室を走っていた	2.対象児の保育室を見ていた	普段から、保育室内では走らないよう注意をしている当日も「走いよ」と声何度もかけ様子を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちと一緒に玩具の片付けをしていた職員給食の準備に取りかかっていた職員1名	室内ではいた本児を走った止められなかったこと	室内では走らないことを、子どもたちもっとに徹底していく注意を掛けてのなかった場合は、抱きかかえてるのさせて、別の場所で、ことに興味が向くよう促すべきであった	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面							改善策
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳												死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
1465	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30			7	9	14			6	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	夕方で集中力が低下しやすい時間帯である。	職員間に周知し、怪我予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特記事項なし	特記事項なし	3.個人活動中・見守り	予測しない子どもの行動だった。	一人一人の個性や様子を把握し、子どもの行動を読みとれるようにする。	2.いつもと元気がなかった(理由を記載)	運動会の練習時期でもあり、疲れがあり、ぼんやりしていた。	4.対象児の動きをていかった	担当の子ども達の動きを見ていたが、一瞬目を離したタイミングで座りこんでいた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	3・4・5歳児合同での戸外遊びで、それぞれの年齢の見守りや保護者対応をしていた。	園庭の固定遊具やには周囲気を付けていたが、固定タイヤ周辺には配慮なかった。	1日の静と動の活動のバランスを考慮する。保育士は子どもの行動を常に確認できるようにする。	
1466	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	—	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	事故当時、担任保育士の静動把握が甘いところがあった。	事故後、全職員対全象に安全・事対策防止についての園内研修を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今後も常に安全点検は丁寧に行う。	1.集団活動中・見守り	事故発生時、保育士二人の内一人は竹馬の指導をしており、竹馬をしてないが複数の遊具で遊んでいる状態だった。そばには付いたが、遊び方の指導まではしきれなかった。また、他のクラスは園庭にはいなかった。	集団活動を行うときは、職員の役割分担や、遊具の安全点検に参加しない子どもたちの内容についても少し綿密に計画を立てるようにする。	1.いつもの様子であった	他児と可能式遊びまたはおうちごっこしておままごとをそんでいた。	4.象児を見ていかった	運動会に向けて竹馬のクラスの５名に対して行っていた。事故当時は竹馬に向指導を行った。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	遊具の近く（３メートル以内のところ）で、本児が遊ぶ様子を見ていた。	当日、担任保育士４名の代わりの入っていた。	担任不在の時は、他児の動きが把握しやすいよう、みんなで遊等活動に切り替える。	
1467	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14			2		12			1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指の骨端線損傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、職員配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に実施しているため、特になし	1.集団活動中・見守り	ティエ（空間づくり道具）はマットでルール周知ていなかった上すうが使用されていなかった	遊具、玩具の使いを改めて共有する正しり方てる	1.いつもの様子であった	走る様子も一人でなく、ティエを運んでいた。普段から遊んでいるびでおり、扱いにも慣れていた。	3.対象児離れたところで対象見ていた	子どもたちの遊びを全体を見位置守っていた	2.担当者・対象児の動きをていなかった	別の場所で保育中の、発生時の様子は見ていなかった	対象児の見動きを遂して、状況が把握できかった	・子どもたちの様子を常に見守り、不測の事態に適応できるようにする・改めて子どもたちの安全な使い方を伝える	
1468	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17								3	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自転車・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	幼児クラスはどのクラスも必ずいる正規保育士配慮なども子どもがいるため、と保育補助を配置しており、事務所からの応援体制もとっている。	事故当日は事務所からの応援も入り、３人職員配置して要所につて見ていて守ったが、並んで待っている子どもは声かけだけで、待つも椅子に座るときに落ち着いて待てる環境設定をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	肋木や技巧台などの遊具を出して遊ぶ時に、遊具だけでなく、子どもの待機場所や待機の確認方法が不十分だった。	体育で遊具を使って遊ぶときは、遊具の扱いの安全と同時に子どもの待機の方法も確認し、座って待つなどの工夫をする。	1.集団活動中・見守り	順番待ちの時の子どもの状態を十分に把握できていなかった。	遊び待っの準備や待ってる子どもの状況を把握し、落ち着いて待つ環境を設定する。	1.いつもの様子であった	登所後、体育遊具で遊んでいるときも、いつも通り元気であった。	3.対象児離れたところで対象見ていた	体育遊具を使用していた。	1.担当者・対象児をていた(至近距離にいた)	体育遊具を使用していた。	職員が体育遊具につき援助、待っている子どものそばに職員を配置していなかった。	順に並んで待つ場面では、落ち着いた環境設定を行い職員を配置する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面										
				月	時間帯			人数	異年齢構成の内訳												死亡	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因						実施頻度/【回/年】				実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】																	
1474	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	12								2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根破折	5.他児危害を加えたもの から	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員基準配置も満たしているため、特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設、遊具、玩具の安全の検も定期的に行っているため、特になし。	1.集団活動中・見守り	特になし	不慮の事故であり、環境面の改善策は特になし。	1.いつもどおりの様子であった	次の活動に移るため、絵本を片付けていた。	4.対象児の見ていなかった	絵本を片付けたこどもたちを次の活動に誘導する並ばせていたため、当該児童の見てなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	絵本を片付ける他児を見ており、当該児童を見ていなかった。	こどもたちはプール活動の前で興奮しており、早く片付けて並ぼうと乱れている状態だった。	担当職員は、準備が出来てからこどもたちを並ばせる。こどもたちへ、落ち着いて行動する声をかける。	
1475	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	3								2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		3.火傷	5.下肢(足・足指)	下肢熱傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(9)回/年	1.基準以上配置	活動細則に、コンロや鍋などの設置方法や取っ手の設置や法つい決めなかった	活動細則の見直し→使用するコンロや鍋は、電磁調理器・熱源体型の電気鍋など安定性のあるものとする。火元に近づく際には保育者が一人ずつ対応する、活動時間を午前中に限る等、調理・草木染の活動全般に対して細則を改善した。	1.定期的に実施	実施頻度(1～6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	安全第一レイアウトや保育の内容に即したものなどの夫ようなイアアを整備する	1.集団活動中・見守り	草木染のため熱湯の入った鍋をガスコンロにかけ浴尻用テーブルに設置。傾く可能性があった状態で、体力的、体のバランス等が未熟な2歳児3名をそれぞれを椅子の上に乗下のまま立たせ観察させたため、体勢を崩した結果、鍋に触れてしまい、熱傷事故に繋がった。夕方活動していたため、体力・気力とも充実していなかったことも事故の要因と考えられる。	活動の事前報告、活動時間の設定、熱源・鍋の選択、保護具について等活動細則に加え、職員に周知する。	1.いつもどおりの様子であった	クラスの他児は外遊びをしていたが、本児含む3名は室内に残り、草染の活動を希望した子残った。一緒に活動した3歳児が体勢をたため崩し鍋が傾き、予期せぬ状態で熱湯をかぶってしまった	2.対象児の近く見ていた	鍋の中を覗たいという希望があり、椅子に載せてしまった。鍋が傾いたときに、切るができたかが、に湯のかかった2名を室内の水道を流し受傷部分を冷却した。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	室内には クラス担任2名がいた。隣室にいた保育者は、泣き声を聞き駆け付けしなかった1名を隣室で保護した。		火気に近づく場合は1人ずつ保育者が対応し、安全に活動することなど安全対策をマニュアルに加え、職員に周知する。	
1476	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6		1	2		2	1		2	2	16.4歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		園内研修をしているが、参加できていない職員もいるのでマニュアルの徹底をする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		園庭の危険個所（滑りやすい場所など）を図面化し、周知徹底する。	1.集団活動中・見守り		一斉に自由あそびをするのではなく、乳・幼児児にて保育をする。	1.いつもどおりの様子であった	楽しくて見ておらず、周りが見えず、背面方向転倒しにぶつかったり、その際から右ひじを人工芝に強打した。	2.対象児の近く対象児を見た	園庭にいる園児名を全体的にみた。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	園庭にいる園児6名を全体的にみていた。		乳児担当、幼児担当を決めて置き、遊ぶ場所や範囲を乳児と幼児で分け、園庭にでる前に園児たちにルールや約束事の言葉がけをする。	
1477	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20								2	2	16.4歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から転落の等の・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		事故予防に関する研修が不定期実施なので、定期的に実施して事故予防に関する職員の意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		園庭遊具の安全点検の回数を増やし、危険個所がないかハザードマップを作成職員が共通認識できるようにする。	1.集団活動中・見守り		滑り台から飛び降りるあそびを禁止する。	1.いつもどおりの様子であった	「お片付け」の言葉に反応して、急いで飛び降りようとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児りにいる際に「お片付け」の声掛けをしい、焦せてまった。滑り台の上に	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	急いでいる姿で、差し伸べるべき。		園児が滑り台にいないことを確認してから「お片付け」をするようにけ言葉がを園児を焦らせないようにする。	
1478	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24								1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	5.他児危害を加えたもの から	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、要員配置基準を満たしているため、特になし。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし。	1.集団活動中・見守り	特になし	目の届く範囲り、環境面は特に問題なし。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特に変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者は他児の側におり、全体を見守れていなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	担任1人ため他の保育士はいなかった。	保育者は他児の側におり、全体を見守れていなかった。	全体が見渡せ、未然に事故防止ができる位置で見守る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面			人的面							
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因							実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
1479	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	27								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	体育遊具の年齢に合わせた遊び・安全性についての認識が不足していた。	体育遊具の年齢に合わせた遊び・安全性について周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	跳び箱を向きにして縦設置使用していた。	使用する対象児童に合わせて跳び箱向きを横にする。(児がく手をつ位置の目印を向きに合わせて調整する)	1.集団活動中・守り	子どもの集中力が低下しやすい午前中に体育遊具を使用していた。	子どもが集中して集活動しやすい午前中に体育遊具での活動を行う。	1.いつもどおり様子であった	園庭で跳び箱を跳んでいた。	2.対象児近で対象児を見ていた	跳び箱を一人ずつこを声をかけながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体や他児の見守りをしていた。	傍で見守りをしていたが、補助が不十分であった。	児の腕と支臀部を支持し、児が手を巻き込まないように補助をする。	
1480	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	2.午前中	3.施設敷地外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	30								5	4	18.6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	なし	引率等適切な人数配置、また練習時の練習にも問題はないと考える	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(頻繁)回/年	市民グラウンドで会の運動中であった。グラウンドの土がいて乾いたため、やすっことらないなったも考えられるので、水をなど土せて撒くして、湿ったおいを良たのかもしれない。	職員がグラウンドの状態を認認識し、危ないラの確認し、危ないが故が起こるよう、まの事こりに環境えを整える。	1.集団活動中・守り	カーブで、ライを踏んそうなり、踏んではいけないという気持ちはいけないからはいけないとしたため、足がまってはまってしまったのである。	カーブでよどに走ればいいかなど、具体的に子ども話し、確認の後、練習を行うようにする。	1.いつもどおり様子であった	本児は、リレー等、運動会をやるとの練習ととも気を毎日取り組むんでおり、当日一生懸命に走っているも、転倒にてしまった。	3.対象児離れとこで対象児見ていた	転倒した様子を見ていたが、すでに立ち上がり走り出したため、最後のゴールまで見守る。本児も直後は、あまり痛さを感じなかったためか、リレーで最後の子が走り終わるまで応援に夢中になっていた。リレーが終了し、おゆうぎの練習に入る時に、初めて手が痛いことを訴え、職員が様子を観察したところ、手を動かすことで痛みを感じる様子で、数日してしまった可能性があるかもしれないと判断、他職員に園児とともにすぐに帰園するよう伝える。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記と同様。担当職員の判断により、職員1名が、当該児に添い帰園。園副園長・主任にケガがあった状況・様子を報告。主任・事務員が保護者と病院に連絡し、保護者とともに副園長が付き添整形外科を受診した。	なし	なし	
1481	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	1	6	2					4	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	発生時に担任が2名いたが、保護者の対応子の他の対応名が延長保育室から離れたり、他の保育士も保育職員や保護者対応などで、本児が室内を走った時に止められなかった。	その場を離れる時は職員の体制などからみて離れるようにする。保護者対応に時子は必ず子どもを見守る保護者と者にわかあたる保護者対応をする者にわかれる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守り	延長保育室の為、0～2歳児が合同でし保育をしており、3クラスの保護者に来が次々に来ていた為、人の出入りが頻繁で落ち着かない状況であった。	落ち着かない状況になるとされる為、子どもが落ちる保育内容を着け用意しておく。	1.いつもどおり様子であった	マットの座った上で、突然出ていが、走り出す。	4.対児の見ていかった	担任が2名保育室にいたが、1名は他の保護者子どもの靴が見当たらないと言われ、保育室を離れ靴箱を探して確認行った。1名は対象児のよだれがひどく、口をのびたくためのタオルを隣の保育室に取りに離れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外に保育者名いが2名たが、保護者対応などをしていた。	保護者が常に出入りすることと担当保育者保護応をおり、保育室内が落ち着かないであった。	職員が持ち場を離れる時は必ず状況を確認する。保育にあたる保護者と対応にあた保育者で役割を分担し、必ず子ども目を離さないようにする。	
1482	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17								2	2	16.4歳	1.男児	自閉症スペクトラム	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右小指末節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	今回の事故を全職員で情報共有し、マニュアルを再確認する等、危機管理意識の強化を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	トイレの点検の扉が十分ではなかった。	設備点検を定期的に実行する。	5.睡眠(午睡)中	当該児童でついてにはトイレ行かせるべきなと一人ずつまった。(こどもの安全が確保出来ていなかった)	・他の人がいる場合は扉はけないけるもたらる。・保育士もトイレに同行する。・定期的に扉を検する。	1.いつもどおり様子であった	午睡中に尿意を訴えて一人にトイレに行った。	4.対児の見ていかった	他児の睡眠時の呼吸チェックやかけしをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の睡眠時の呼吸チェックをしていた。	普段は排泄にはけ添うが、午睡時間で落ち着いての時、当該児で行かせてしまった。(後で職員も見様子を見に行くもりだった)	トイレに行く際は必ず付き添い、様子を見守るようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面										ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】										理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか			
1483	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	17									24	15	15.3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	固定遊具の園内研修などでいたが、予測不能な場面での仕方の認識が不足あった	固定遊具の遊び方などもう一度職員間で話し合い、再発防止に努めたまた、急なアクシデント（排泄の失敗など）でその場を離れる時など対応の方法まで内細かく入れ、共通理解を図った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設・設備面は、大型遊具の下には通常より厚い人工芝を敷いているため要因は考えられない	乳幼児の安全な遊具を選択している。今後も安全性を確認した上での導入は大切にする。	1.集団活動中・見守りあり	大型遊具での際は、子どもがトイレや排泄失敗などその場から離れるもある	急に離れることも視野に入れ、大型遊具や園庭での活動の際は、配置は基準以上に見守りを行うとともに、離れる際は、確実に別の職員に交代できるようにする	1.いつもどおり様子であった	担任の指示でも聞くことが、落ちついてきちあとる。	2.対象至対象児で近象見た児ていた	トイレの失敗があったためトイレ介助のため真横に離れ、他の職員は手の届かない場所で立っていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	至近距離であっても、手が届かなかった。	滑り台の斜面に立っていることかなかった	遊具の遊び方をこどもたちと共有し、事故防止を防ぐ	
1484	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41			21	20					7	7	17.5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	3.子ども同士突衝によるものにも	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	イベントを行っていたのでも、子ども集中して集中まったが、つって転倒する可能性が普段より高い。	行事や普段と違った活動の際は人数や接触しないよう十分に見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもの数に対して人スペースが狭かった。	もう少し広いスペースで行う。	1.集団活動中・見守り	２クラス４１名が集まった。	クラス毎に行う分散して行う。	1.いつもどおり様子であった	園庭で演者しやぼんバフォーマンスを見ていた。	3.対象児から児で対象見ていた	本児も動いていたので、側にいなかった。	2.担当者・対象児を動見ていなかった	少したにいたろので、転んだ瞬間は見ておらず直後に気づいた。	子どもの気持ち高揚した時の行動の予測ができていなかった。	危険な状況をすぐに回避できる子様々な予測動しく。	
1485	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	90	11	15	16	16	17	15			20	19	17.5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨全骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園庭に居た職員と事故の状況確認を行った。	職員全員と改善の検討を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	震梯の下全ゴムマットを敷きて詰めて、ケガの軽減を行っている。	再度ゴムマットの直し引き行い安を全確認を行った。	1.集団活動中・見守りあり	震梯で対様子を見ていた。落下を阻止できる距離には居なかった。	職員全員と改善の検討を行い、園児に再度震梯の使用指導を行い、職員間で意識しては見守りこととした。	1.いつもどおり様子であった	いつもは見ているだけだった対象児が、仲の良い友達がやっているを震梯初め、棒を上手くつかめずに落下した。	3.対象児から児で対象見ていた	対象児の様子を見ていたが、落下を阻止できるにはかった。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	対象児の様子を確認はしていたが、落下を阻止できる距離に居なかった。	職員の見守りが、落下場所に近くておれば、小限度に抑えられたかもしれない。	職員全員と改善を検討を行い、園児に再度震梯の使用指導を行い、職員間で意識しては見守りこととした。	
1486	令和6年9月10日	1.認可	7.小規模保育事業	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	4	6	7						7	6	15.3歳	1.男児	なし	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲による前歯の陥入	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	特になし	事故を検証し、事故原因を究明するとともに課題を整理し、再発防止に努める。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ケガをした手洗い場の縁にガードを付けた。	6.食事(おやつ)中	食事が進んでいた。	食事が進なんでいた時は、切り上げるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段より落ち着きなく、食事もなかなかまた。	2.対象児で対象見ていた	何度も当該児童に声をかけていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	当該児童がようやくしいの声をかけ給食を終了させた。	当該児童は給食の促されたことが嫌だった。また、果物を食べていないことに気づいた。	当該児童は、平静さを失うら姿れることを職員同士で共有する。動揺している時は、当該が落ちるような対応をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制									教育・保育等従事者		事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																					
1487	令和6年9月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	49								17	16	18. 6歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	下肢骨折	8. その他	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	環境整備のマニュアルの中の園庭のに園庭についての砂で記載がなかった。	定期的にマニュアルの見直しをおこなって改善していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の土の状態がよくない。(砂利が多い)	砂を入れ地を行った。	1. 集団活動中・見守りあり	土が滑りやすくなっており水を撒くことの対応をしていたが、活動をしている間にしまった。	水をしっかりき、滑りやすい砂利は取り除く。滑りやすいコーナーには土の補充をする。	3. いつもより活発的であった(理由を記載)	リレーをしていたため、勝ちたい気持ちと焦る気持ちがあっていつもより張り切っていた。	4. 対象児の動きをでいかった	次の走者等の準備にあたっていたため、本児が走りだしたときはいたカーブ曲ではあまり追えていない。	1. 担当対象児の動きをでいた(至近距離にいた)	他の園児ながら走っている様子は見ていたが、こける時に対応はできなかった。	競争心からどの園も焦りで、転倒しやすい状態になる。	興奮するとそのような状態に陥りやすいので、ことを踏まえ保育者は声かけりの強化に努める。	
1488	令和6年9月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	35				14	21			4	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	様々な事止ついて周知してきたが、危険の予測が不十分だった。	引き続き、園内のみでなく他施設での外傷等の状況や改善策等は職員間で共有し、園内での事故予防に活用していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具については、不具合はなかった。	引き続き、毎月1回安全点検として施設・玩具等の点検を実施する。	4. 個人活動中・子どもみ	従来の活特守りを必要とする園児とはしておらず、注意を向いなかった。	日頃から見守りを園児でなっても、遊具は特に注意する。	1. いつもりの様子であった	普段と変様わった様子なかった。	4. 対象児の動きをでいかった	全体を見、一緒に遊びたり、緒に参加していた児に気付けなかった。	2. 担当者・対象児の動きをでいかった	砂場周囲で2号認定の5歳児に声をかけた際に、本児が落下するところに気付いた。	3歳児がブランコを利用する際は、保育教諭が一人ブランコをしている児が、本児が4歳児だったため、遊具近くの見守りはしていなかった。	遊具使用時は遊具近くに職員を配置する。	
1489	令和6年9月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	22								4	3	16. 4歳	2. 女児	マッキューン・オルブライト症候群の1つの疾患として線維性骨異形成症がある。骨の密度がうすくもろくなっている。歩行は困難でハイハイで自力移動はできるがそれ以外の手段としてはバギーか抱っこである。	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	本児がずっと泣いていたためかしいといい気持ちが強くとっさに股を開いた状態で抱してしまった。本児は原疾患のため両開にすぐ脚せずにこうして抱っこすると言われていた。	正式な抱っこ方法や整の寝かせ方など写真にして毎日職員間で確認しあってかくようにする。大人が目につくところに写真を掲示する。またギプスの時は正規職員が対応しマニュアル作りをしてから会計年度におろしていく。ギプスがとれた後、足を守るカバーや車いすを利用する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	本児の使用等が適切であるる定期的な点検が必要	抱っこを少しでなくするよう、重い力を使用する行う極力抱っこすす用が机・椅子等の高さ調整、マット等の使用を行う	3. 個人活動中・見守りり	職員室にできない時間帯であることが通ったり場所を通ったり、ここ広いを机間（39 ㎝）を通ったりすること。	職員室は用に供されないので子設定ていので子供室の入口下黄色の線立ってるこること。本児なるる。本児もこのでしもこのこる。職員室は立ち勝手に入室でないを職一すでる。	1. いつもりお様子であった	怒ったりりがりが疾くなるのが多いもそれは患のある。	1. 対象児ンマン多の他も	象とマーンの象状（対児した）	本来であれば教室に戻り午睡をするところだったが、本児の意思（職員室に希望）を尊重しないことは大切なことが予測され、に教室で寝ている他児に迷惑をかけるので職員室に連れてきた。ここで機嫌がなより教室に帰れたら良いと思った。	1. 担当者・対象児の動きをでいた(至近距離にいた)	職員たちは自席にいて、昼食をとっていた時間であり、ここ室で入室たきを職員室にいた職員は全員。	本児のかわりついて、ルーを明確にし、異対応ていはとき合うことが必要であった。	決まり事を守っていない時点で声を掛け合う。	事ってすぐ抱っこ室にいて、昼食をとっていた時間であり、ここ室で入室たきを職員室にいた職員は全員。	1. 対象児の動きをでいた(至近距離にいた)	他の早朝担当保育士、担当保育士、担当保育士も上記と同様。	当該児童によると「足が痛いと気付いたのは、家に帰ってから」と言っているが、ひねった時やその後違和感を感じていた可能性がないとは言い切れない。また、当該児童は、無自に自分からあれはすぐに伝えることが出来るが、その他の保育士には伝えづらいという姿があるため、夕方の長時間時には、違和感や痛みを感じていながら言い出せなかったということが考えられるため、帰宅してからの発覚となった可能性がある。	『自分の身体に違和感があれば、近くの大人に伝える』と、日頃から意識させる。活動の節目に、もしかしたら困ったことがあったら、「何かあったこと、体調なと、不良はないか」と問いかけて、こどもが訴えやすい環境を作っていく。	1490
1490	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	17		4	6	2	5			2	2	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨端線損傷	8. その他	1. あり	1. 定期実施	実施頻度(14)回/年程度	1. 基準以上配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(100～300)回/年	特になし	施設、遊具、玩具安全定期の検的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	ジョイントマットイジョイントマットのジョントかずかなな段差の足がかかった可能性がある。	わずかな段差でも怪我につながるとが、という認識全員で確認し、事故防止に努めていく。	1. いつもりお様子であった	ジョイントマットって玩ん立ちと座ったジョイントに座児と他具で遊んでいた。立ちがったにねっが、時は感じず、て遊びて続けた。その痛みじるが普段通りにり日した。	3. 対象児児ったっ児ん児で見て	対象かたろ対象見ていて	早朝の長時間の保育士が全体を見守っていたが、当該児童が足をひねったことに気づかなかった。クラス保育中は、当該児童から訴えが無かったため、担任保育士は気付かなかった。夕方の長時間担当保育士も気付かなかった。	1. 担当者・対象児の動きをでいた(至近距離にいた)	他の早朝長時間担当保育士、クラス担当保育士、夕方長時間担当保育士も上記と同様。	当日、ジョイントマットの部分にかわずかな段差があることを認識していたが、クラス保育士は、当該児童の足の様子を見て、特に問題はないと判断したため、特に対応はしなかった。	『自分の身体に違和感があれば、近くの大人に伝える』と、日頃から意識させる。活動の節目に、もしかしたら困ったことがあったら、「何かあったこと、体調なと、不良はないか」と問いかけて、こどもが訴えやすい環境を作っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面											
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
1491	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	56								4	4	17.5歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突に	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	戸外遊びの監視職員は、最低でも3名確保する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	当該児童が転倒したゴムチップ舗装の部分は、明らかに危険な造形や滑りやすい素材というこないもないため、ハード面での不備はないと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	普段はゴムチップ舗装の部分は、「給食用カートが通る道なのでは走ってない」と園児えが、戸外で遊んでいる園児の数がまだ少なかったため、勢いよくしまった。	ゴムチップ舗装の部分では走らないよう、ルールとして繰り返し園児に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	友達と追いかけっこで遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていた	最終的には56名の園児が戸外に出てくる予定だったが、事故当時はまだ20名ほどしかおらず、保育士1名は園児同士のトラブルの対応をしていたため、気がつかなかった。もう1名の保育士も大型遊具の死角にいたため、当該園児の訴えを聞くまで気がついていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室にいる園児の給食の援助や、掃除、片付け、睡準備等をした。	見守りの職員を3名確保できていなかった。	・できるだけ職員3名を確保し、死角を作らない配置を行う。・見守り職員を3名確保できない場合は、遊ぶ場所を限定する工夫する。	
1492	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	33								3	3	16.4歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突に	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	職員で危機予測の確認をする職員で話し合ったことをもとにマニュアルを作成する	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	引き続き施設等の安全点検が安全定期的に実施する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	気持ちが高揚し、遊びに夢中になっていた。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	担任保育教諭は、当該児童が友と一緒ごっこに楽しんでいる姿を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児童から離れたところで見ていた。	転倒してケガをするという予測ができていなかった	・普段のこどもの姿を把握している職員の配置に留意する。・職員間で、危険なあそびなどにつながる動きに共通理解をつい遊びに夢中になると繋がることもあるこどもの様子を見守り、必要に応じて声をかける。	
1493	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	4								4	4	15.3歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突に	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	普段から椅子から立ちあがる際に机と椅子の隙間から立っており、椅子を自分で引く練習をして、その動作を直せていなかったこと。職員配置も4人で配置していたが、給食準備でそれぞれが役割にあたっており、近くに職員が配置できていなかったこと。	椅子を引いて、机から離れて立つ練習をすいて習をるもの近くに職員を配置する。子どく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	椅子・床等机の設備に問題は無いと考えられる。	応じた大きさの椅子を使用し、床もクッションフロアとなっている。椅子転落骨折年齢に椅子落ことしたは今回がの事例である。	1.集団活動中・見守りあり	給食準備で4人の職員それぞれが役割にあたっており、お守りしてはいたが、見守りに職員が配置できていなかったこと。	できる限りの近くに職員を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であったが、いつもの机と椅子の隙間から上という行動に危険性があった。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	当職員は特に決めてはいない、職員子に座っている子ども手ていた洗いる状況をしたが、全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食の準備のため、その他3人の職員が給食配膳、排泄、午睡備とそれぞれの持ち場割にあたっており、児については見ていなかった。	準備のため、その他3人の職員が給食配膳、排泄、午睡備とそれぞれの持ち場割にあたっており、児については見ていなかった。	近くに職員が配置できていなかった。	職員4人のなかで、給食準備前だしいなかではあるれが、ど務を時間すら等をして、職員1人を子どもの近くに配置する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
																教育・保育等従事者																																			
																うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等																																			
1494	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29				9	10	10			2	2	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故防止についての研修・点検は行っているが、子どもの予想しえない行動に対する安全性の認識が不足していた。	木登りをしている際のルール（遊び方・安全性）について周知する。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	他の枝にござがもかかっており、一枚をひっかけようとして手を滑らせた。	木登りの際の約束を職員間で再検討し、3～5歳児に伝える。	1.集団活動中・見守り	木登りをしている際、保育士は少し離れたところで他ごとをした。	木登りをしている際は、すぐそばで見守りにし、近くで見られない時は、木登りをやめるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	運動神経が良く、遊び方を工夫するのも好きな園児である。	3.対象外児離れたところで対象見ていた	夕方の合同保育時間は、3～5歳児がグランドで全員が過ごいる。全体を見守るが、お迎えの保護者対応も行っているため、当該児を見れていない。	2.担当者・対象動きをいなかった	他の場所からグランドの全体を把握していた。	木登りをしている際、保育士は少し離れたところで他ごとをした。	木登りをしている際は、すぐそばで見守りにし、近くで見守れないときは、木登りをやめるようにする。	
1495	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	10									2	2	16.4歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	事故が起こった場合は昼礼周知を行い共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施		1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	特になし	チェックで主末しリスト職員と月末に点検している。	1.集団活動中・見守り	屋上で裸足でボールやとしっぽとしっぽを楽しんでいたため、その際に負傷した可能性が高い。	屋上園庭へ出る際は、靴を履くように徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	ボールやしっぽとり等の遊びをしていた。	2.対象児の近象見た	対象の至対象見ていこちにやとりこ	1.担当者・対象動きを見た(至距離にいた)	こどもにやとりこ	当該児から、負傷したとや痛みについのなかった。	着替えを行う際には、ケガや打撲ないか視診や触診を行う。気になることがあった場合は看護師や事務所に相談する。（保護者受連絡、診等）特に園外へ出た際には、ダブルチェックを行ったり、声をかけ合って確認する。	
1496	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	44									2	2	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘内側骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、配置基準も満たしているため特になし	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	鉄棒の下にはマットを敷いていたため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	友だちと鉄棒で遊んでいた。	4.対象児をいなかった	本児が遊ぼうとしていた鉄棒の横で保育士1名が見守っていたが、砂場他保育士を呼んだ場児が保育士を呼んだことで鉄棒から離れた。（鉄棒に背を向けていたため、転落した瞬間は見ていない）	2.担当者・対象動きをいなかった	ボールを見ておお園児守りで遊ぶ園児は見ていなかった。	鉄棒の傍で園児たちを見守っていたが、砂場児が保育士を呼んだため、鉄棒に背を向けてしまった。	・鉄棒で遊ぶ際は必ず、保育士が側につくことを鉄則とし、保育士が離れるときは、園児に待つように伝える。	
1497	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19									3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼（下の前歯が揺れる）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置では1，2歳児35名を保育士6名で対応しているため監査では要員配置は満たしていると判断している。	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	施設、遊具、玩具等の安全点検は定期的に行われているため、特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	玩具など持ったは何も持ず、保育室を周る歩いていた。	4.対象児をいなかった	A保育士は、児童4名と糊を使って制作をしていた。B保育士は、ままごとのおんぶ紐の装着を手伝っていた。	2.担当者・対象動きを見ていなかった	C保育士は着替えの準備や、部屋に落ちている玩具を片付けていた。	転倒した瞬間を見ていなかった。	常に保育士2名体制で全体を見守ることを意識し、保育士間の連携を図る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者				事故状況					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の内訳									年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1498	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	26									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	保育者が一名体制の時の遊びのルールを明確にする。	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	危険な個所がないか再確認し、問題があれば養生する必要等、必要な対策を講じる。	1.集団活動中・見守り		全体が見位置に保育者が立ち、見守る。	1.いつもどおりの様子であった	友だちとこっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこしている児童に気をつけるようにかけた。他児と関わったため故の瞬間ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	行事の準備を行ったため、屋上にいなかった。	他児からタッチの力が強かったので、施設構造物に手をついた。	成長とともに力が強くなっていることを自覚させ、加減したり、思いやりの気持ちを持ったりできるような話し合いの機会を増やしていく。	
1499	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	4			2		2				2	2	15.3歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首複雑骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアル有り、研修実施、職員配置基準も満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	施設、遊具、玩具の安全点検を定期的に行っているため、特になし	7.その他	門付近に自転車を停めていた。地面はコンクリート状。	「児童を自転車にせたまま離れない」ということ、保護者に注意喚起する。(●月●日園だよりにて、通知済)	1.いつもどおりの様子であった	職員に挨拶をして、保護者の自転車に乗った。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者へ引き渡しだっため、他児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見守っていた。	児童が乗った自転車が倒れる危険性について、保護者に認識の甘さがあった。	職員は他児を見守りつつ、門を出るまでは、可能な範囲で児童の見守りを行う。また、登降園時に保護者へ注意喚起を行う。	
1500	令和6年9月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12			4	5	3				2	2	16.4歳	1.男児	身長約105㎝、体重約18kg、可動マットの高さ（103cm）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨・尺骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	管理者の管理不保育足。事不備による危機管理の低意識の低下。職員知識、スキルの危不足。危険個所の共有不足。	事故発生後、次の日より、保育専門家による保育指導の実施。即日既に全職員に意識調査等振り返りを行う。職員全体で該当事故の振り返りを行い、危機管理意識・それぞれの保育スキル向上に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(96)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	マット厚みとクッション性の不足。	様々な遊具に対応するために、遊びに合ったマットクッションを用意・購入する。	1.集団活動中・見守り	対象長児の身動きが高ほぼ児の能力児の子発の予子の子発の予測が甘かった。	事前に職員間で話し合い、行いした内容であるか、配慮が十分であるか確認をして活動から行う。活動前にしっかりと活動内容・危険箇所を子ども共有し、子自険回避できる知識共有をしておく。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	運動あそびに積極的で興味や関心がかつ高ことり、ションコントロールが難しい様子があった。	2.対象児の近で見ていた	手の届く範囲を見ながら、配慮や声かけを行った。故が起こった際の見守りを声をかけようとした際に本人形支えが出来なかった。	1.担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	対象児の目で見ていたが、マットで前転や横前転に寝転がる活動を見ていた。	難易度の高い活動を事前準備をしてしまった点（準備運動が少なく、子ども達の運動機能の発達度合いの予測が甘かった）細かい事前打ち合わせをせず、工程が伴う箇所を2ケ所作った点。また経験則に基づき、判断で環境構成をどろうの配置を行ってしまった点。	子ども達の運動機能の発達に合わせた、軽度なら始め、準備ができてから徐々に難易度を上げていく内容を検討する。活動を行う際には自身の経験則に頼るのではなく、知識や複数職員で確認して環境構成・活動内容の確認を行う事を徹底する。	
1501	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外保育先・公園等)	7.異年齢構成	40				18	22				4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨・尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		今回の事例を踏まえ、要因について職員会議で検証を行った。再発防止策として、公園で危機管理意識を強くもち、事前に複数の職員の立ち位置を確認しておくこと、子どもの動きの確認、お互いの声出し等の強化を徹底していくことを共通確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鬼ごっこしていることは捉えていた。固定遊具に乗りながら追いかけとガることもあった。	公園に到着時に、固定に乗りがらかけることがること、ケガをもに伝えておくこと。子ども一人一人の動きを注意深く把握する。	1.集団活動中・見守り	保育士4名は、子ども見守り、個所に気をつけていただく。子どもの動きに制できかった。	保育所外の公園にき事前遊園に固定遊具を、危険個所について共通認識する。保育士の立位置をより意識し、子どもの動きに留意していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	所外に出放持ちて、開放持ちになると同時に、鬼ごっこで気高い児の気高揚した。	4.対象児の動きをていかった	担任は、伴遊具を伴遊識に意識をしながら、本児の行動は本児の把握したが、のとっさの動きに、止がでかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児以外の子ども活動していた。それぞれの保育士が、自分位置で危険ないように他児の動きを見守っていた。	職員体制として子ども活動と保育士の配置人数は適切であった。とっさの動きに対応できなかった。	職員間でヒアリハット等、事例確認を行い、子どもの安全保育、危機管理についての意識を高める。子どもに対して、「安全に遊ぶためのルール」ということを分かりやすく伝え、意識啓発をしていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転倒		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因							実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1502	令和6年9月10日	1.認可	7.小規模保育事業	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	2	6	3					4	4	14.2歳	2.女児	上顎右前歯から乳歯3本脱臼	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		今後も上記内容を実施していく	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施		1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		今後も上記内容を実施していく	3.個人活動中・見守りあり		今回は何もない広いスペースで1人で転倒したが、できる限り注意して見守る	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらずごいた。発生前までBブロックで遊んでいたが、発生もお時は何お持ってず1人別のスペースに移動いた。	2.対象至対児の近で対象見た	対象児がいに近くことは把握していたが、事故発生時は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	全体を見られるような位置にはいたが、事故発生時は見ていなかった。対象児から離れた位置で他児をみていた。	一瞬目を離した際に起きてしまった事故の為、全体をできる限り子どもの異変に気付けるよう職員間での連携をはかる	
1503	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13		6	7					4	4	15.3歳	1.男児	事故の日は足は腫れておらず、様子を見ていたが、時々痛がる様子があり●日に受診。骨折と判明。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第4・5中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		事故発生時の見守りの配置の検証と再発防止のための言葉かけを見直す	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		今後も継続して点検していく	3.個人活動中・見守りあり		今後も挑戦したいと気持ちに寄り添い、見守る	1.いつもどおりの様子であった		2.対象至対児の近で対象見た	対象児が高い場所にすぐ登ったすぐ隣で見た。同時に隣に目を途端に対象飛びました。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	園庭には他学年の職員も沢山おり、それぞれの場所で子ども守った。	適切な距離で見守ってはいたが、挑戦しようという体勢であったことには気づけていなかった。またそこから飛び降りることの危険性をわかりやすく伝えることが必要だった。	本児の気持ちに寄り添い、発達段階を理解し、適切な言葉をかけるようにする。	
1504	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	82		1	25	25	31			6	6	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下腿打撲傷、右腓骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	おもちゃをしっかりとばなしたまま遊び次に移ることを容認していた。	出したおもちゃを放置せず、その都度片付けるように周知徹底する。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	うんていが滑りやすくなっていたのではないか。	うんていに止めなどをするか検討する。	1.集団活動中・見守りあり	うんていの見守りが薄くなっていたのではないか。	うんていの付近での発生率が高いので随時先生が危険ではないか確認する。	1.いつもどおりの様子であった	うんていにぶらさがった。	4.対象児の見ていなかった	うんていで別の近くの園児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の職員と園庭でバランスよく距離を取った見てうえで見守りをしていた。	園庭に園児がいた。	各学年で時間差をつけて園庭を使用。	
1505	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27								32	27	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		運動前の職員間の事前の注意事項の確認。コーナーでは転倒に注意するよう事前に話を行う	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年		リレー練習はできるだけい場所で行う。園庭に凸凹がないことを事前に確認する　運動前の事前の注意事項の確認	1.集団活動中・見守りあり		2人以上の職員で必ず見守る　運動前の職員間の事前の注意事項の確認	1.いつもどおりの様子であった	スポーツデイのリレー練習中にコーナーで転倒	3.対象児から離れたところで対象見ていた	リレーで走っていた児童をみていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	リレーで走っている児童をみていた。転倒後に児童のもとに行き怪我の様子を確認し速やかに医師による受診を行った。		担当職員と違う場所で、別の職員が児童の様子を見守る運動前の職員間の事前の注意事項の確認	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者						発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項			死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																												実施頻度/【回/年】			実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】									理由	具体的にしていたか		具体的にしていたか			
1510	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				15	8			2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折(左腕)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	職員の配置基準は満たしていたが、戸外遊びでは動きがある、それぞれのクラスを見守るのに精一杯で全員分の一体りきれなかった。	子どもの性格や動きの特徴、その体調や日など把握している保育士が遊びを見守る。検討内容の検討内容と検討充実回数を多くする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	チェックにされている項目だけのしかお子リストに載されていない項目点検できず、子どもを上で安全点検をしたお子の安全点検の検ていた。	遊具子の動作測を予測をしている安全に日々の様子ども安全を確保に、考えられる子どもの動作をしている。きき、の確保きき、の努める。	1.集団活動中・見守り	5歳児と一緒に園庭を使っていた為、園庭が広さ広く感じるスペースがあった。また、小滑り台の側が狭かった。	子ども多い園庭で鬼ごっこ思い走りはえ子人数が時は、なぜ鬼ごっこ遊びを控え安全に行公園えるに行く。また、小滑りまさい台をンスひっつけて後ろ側なにはは通れないよう。	1.いつもどおりの様子であった	午後からの活動で午睡もしていなかった為、見た目は変わらなかった。	3.対象児離れところで対象見ていた	4歳児は活動きが活発で、2・3人のグループがあちこちに散ばっていた為、全ての動きが把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4・5歳児合同で遊んでいたが、自分のクラスの子どもの動きを中心に見ていた為、4歳児の動きまで把握できなかった。	職員の配置基準は満たしていたが、職員の立位置が同じ方向であり、死角であった場所での子どもの動きを見守ることができず予想ができなかった。	園庭の見守りを同じ方向からでは、手前と奥、又は左右に分かれて見守る。戸外遊びでは、子どもの動く範囲が広いので配置基準より加配しし見守る。	
1511	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	1	9	4					3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙破折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	保育室を移動した直後で、園児達が慣園児の着替え等の一時的に目が離れた。	保育室を移動した際に、保育者で役割分担をし、1名は読み聞かせや手等で落ち着かせ遊び児を落ち着かせながら目が届くように工夫する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	0～2歳児が合同保育した時の保育室の環境が適切であるか。また、保育者が全体を見渡せるようにいるか。	未満児が合同保育時になる時間の保育室の環境の環境や職員の動線役割分担を見直す。	1.集団活動中・見守り	保育室が変わり、気持ちが高ぶっている園児への配慮なかった。	環境が変わっても落ても着いて過ごせるように、遊びの工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	保育室を移動して高保育室が、声かけをしくしくかけたが、ことが楽しくなかった。	3.対象児離れところで対象見ていた	他児の着替えの補助を、本児に走らないようかけ、そ声はたが、ばに行ることはでなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれに他児にかかわったり別の作業に当たったり、本児から目が離れていた。	合同保育時の職員役割分担や動きが不分だった。	職員間で合同保育時の対応を再確認し、見直しを行う。	
1512	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	4	7						4	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼歯根破損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置		今まで以上に安全に配慮し子どもたちの様子を見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	点検はしたも、今のまで安全で使いたものだったた夫丈夫だと思い込んでいた。	おもちゃ箱の周りクッション材ドした。やり素	1.集団活動中・見守り	子どもの見ながおや様子ら、おや子ら、つ後の片をしていた。職員もい	子どもに関われ職員数に応じて、遊び具のに見る環境をする。	1.いつもどおりの様子であった	体を思ようにかせるようり、いろとに興をもってようこと遊ぶことを楽しいたが、体のバランスを保つは分ではかった。	2.対象至対象児の近見た	おもちゃ箱の横で、数人の子どもの様子を見守り、見対象児がスバランス崩すところていたが、間に合わかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをしている子どもたちの見守りをしていたため、見ていなかった。		今まで以上に職員同士声を掛け合い、全体の子どもたちの安全を見守られるようにする。	
1513	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10								1	1	15.3歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指末節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		今回の事故を研修でも共有し、普段の活動の中に危険が潜んでいることを伝え、活動に応じて職員の配置を増やす。また配置が難しい場合は活動の内容を見直し等を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	3.未実施		1.定期的に実施	実施頻度/毎日	椅子が倒れた時、背もたれ足部分に指や指が挟まれないよう、クッションの役目になるスポンジを貼り付け、椅子が倒れた時の対策をとった。	1.集団活動中・見守り	園児の椅子が重たく滑りが悪いため普段も扱いが難しい。	動きのある活動の場合は、今回のような想定外の動きを考え職員配置を見直し、活動や環境の見直しを行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発に過ごす事が多く、当日の椅子ゲーム取りでも楽しくに参加していた。	3.対象児離れところで対象見ていた	担任は椅子取りゲームのため、ＣＤデッキの音楽をかけ方へかって歩いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日は欠席園児が4名で出席人数が少なかった為、担任一人で活動を行ったから。	ＣＤデッキをかける職員と園児を見守る職員が必要だった。	ＣＤデッキをかける職員と園児を見守る職員を配置し、とっさの園児の行動にも対応出来るようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期			発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面			人的面							その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育					死亡	死因	負傷状況	受傷部位		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】			教育・保育育成支援の状況			対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか				
1514	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39	2	6	10	3	9	9			4	4	17.5歳	1.男児	身長約110cm、体重約19kg	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右中指末節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	職員の安全意識、知識技能の向上及び事故予防の目を養うことに上限はなく、不断の教育の積み重ねが必要であると思料する。個人及び組織として総合的な事故予防力を身に着けるための園としての取り組みを積極的に行っていく必要はある。	職員に対する事故予防に関する教育機会を積極的に作為為く。	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1.定期的に実施	週1～2回、こどもが使用する前に安全点検を実施	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	本件に関しては特になし	本件に関しては特になし	1.集団活動中・見守りあり	本事故は、大型固定遊具下のやや狭隘な場所で発生しており、広い場所で走り回るよりは子ども同士の衝突等事故発生の蓋然性は高くなると考えられる。極力ことの遊びを制限するルール（今回の場合は大型固定遊具下は走らない等）は設定したくはないが、その危険性を事前に子ども達に伝えることで事故を防げた可能性はある。	必要に応じて、園庭におけ方について、子どもに都度伝えるこ機会を設ける。	1.いつもどおりの様子であった	負傷した園児は普段と変わりない様子で登園。当該園児はおやつを喫食後、保育室で遊んだ後、に園庭へと出ていく。当該園児が園庭において友だちと追いかけっこをして遊んでいたところ、総合遊具の下をくぐって出てきたところで友だちと接触し、バランスを崩しスライディングするような形で転ぶ。	3.対象児が隠れたところで対象見ていた	転んで泣いて痛がっている当該園児を、近くで園庭全般を見守っていた職員が気付き対応した。当該園児の右手中指に擦り傷（爪の下辺りの皮膚めくれ）があることが確認できたので、無線で幼児保育室にいる職員に連絡を入れ、処置を依頼する。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	当該園児の幼児保育室に戻って来た際に、職員が患部を冷やして処置をした。そのタイミングで母（実際には祖母にあたるが養子縁組による母）が迎えにきた、転んで怪我をした旨を伝えた。	本件には関しては特になし	本件には関しては特になし	
1515	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	31			3	12	8	8			2	2	18.6歳	1.男児	身長約110cm、体重約19kg、令和●年●月初旬、家庭保育中、園外において右腕（今回と同部位）を骨折している（治癒済）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	職員の安全意識、知識技能の向上及び事故予防の目を養うことに上限はなく、不断の教育の積み重ねが必要であると思料する。個人及び組織として総合的な事故予防力を身に着けるための園としての取り組みを積極的に行っていく必要はある。	職員に対する事故予防に関する教育機会を積極的に作為為く。	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1.定期的に実施	週1～2回、こどもが使用する前に安全点検を実施	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	当該遊具は折りたたみが可能で固定遊具ではないため、設置時の安全性には十分留意が必要な遊具である。そのため、安定性の観点から当該園児がバランスを崩した可能性は否定できない。	・当該遊具設置の際は安定性の確保に十分留意する。・当該遊ぶ遊具で遊ぶ際は直近に職員を配置し、安定性の確保を留意しながら遊びを援助する。	1.集団活動中・見守りあり	園全体の職員配置状況から、より必要な箇所に職員を柔軟に配置できる状況ではあったため、教育機関箇所に職員加配要である情報を園全体で情報共有できていれば本事故を防げた可能性はある。	園内において適切に情報共有を行う体制を整える。・園内の見化活動を・困った他職員を頼れる信頼関係のトランポリンシーバーの活用	1.いつもどおりの様子であった	当該児童の様子はいつも通りであり、ケガの原因が当該児童の体調等に起因したとは考えにくい。鉄棒で遊ぶ際に、通常行うような適切な遊び方ではなく側面から鉄棒に登る姿があった（補助なし逆上がり等ができないため側面から登って鉄棒に掴まろうとした推察）。	2.対象児の室近に対象見た	鉄棒とマット・平均台の間（マット・平均台寄り）に配置し、それぞれの遊具で遊びすぎ子ども達を交互に見守りをしていた。当該児童を含む数名の子が鉄棒のように登って遊ぼうとする姿があったことから、当該職員はそのことに注意をし、引き続き見守りを実施していた。平均台には鉄棒で遊ぶ子どもよりも低年齢（主に3歳児）の子ども達が遊んでいたことから、平均台側により注視をして見守りを実施しており、当該園児落下の瞬間に対応することができなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	同部屋内において、鉄棒やマット・平均台設置側とは反対側ンポリン遊び、バンスト遊びロックボックスいても達の見守りを実施した。	鉄棒とマット・平均台の遊びが同時に展開している環境において、そこに遊ぶ子ども達の年齢等を考えると、それぞれの箇所に職員を配置することとの検討及び判断が必要であった。職員一人一人の状況判断力とともに、それを支えるための適正なより適正な環境設定やルール作りが必要。	職員が日常的に他園の事故事例を見る機会を作為するとともに、定期的に事例研究等教育機会を作為することにより、職員一人一人の状況判断力を養成する。また、職員の配置状況及び子どもの遊びの状況に応じて、子の主体性・自主性を確保しつつ、より安全面に配慮できる環境設定（遊具設置を含む）の見直しを行う。・遊具の設置場所及び設置方法・遊びのルールの見直し（職員間の共有及び、子ども達への教育）	
1516	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	37			11	13	13				3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		研修を定期的に行っていくことと職員配置の基準をこの満たすことを引き続き行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き、安全点検を定期的に行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		引き続き怪我が起こることを想定し、パワーンスを考えながら活動を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	綱引きをした後の活動もいつも通りであった。痛いと訴えたため、綱引きなった後の活動もいつも通りであった。と後回しにしたことで楽しんでいた。	2.対象児の近で対象見ていた	綱引き時、怪我でなき引き時にかけつ怪我なく楽しよう体を守った。	1.担当者・対象児動見た（至近距離にいた）	全体を見守り盛げた綱引きなっていた。		引き続き怪我が起こることを想定し、連携を取りながら全体を見守っていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故 年齢 | | | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者			発生時状況	事故の転帰						ソフト面					ハード面									環境面				人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									年齢	性別	特記事項			死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
1521	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	27									3	3	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		マニュアルの見直し・園外保育の下見を毎年4月に行っており、園外保育で気づいたことは、その都度申さされている為、改善策は特にありません。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今年は、園舎改修の為日常的に●●公園を利用している為、改善は特ありません。	1.集団活動中・見守りあり		園舎改修の為、日常的に園の保育でして歩道であり、などの障害物も、なく、改善策は特にありません。	1.いつもどおり様子であった		4.対象動児見ていなかった	1人は先頭を歩き、もう1人は後方で列がいて乱れようなり歩いた。	1.担当者・対象児の動きていた(至近距離にいた)	車に気をつけながら、安全に確ながら歩いていた。		園舎改修の為、日常的に園外保育に出かけており、子どもの様子も通いで、担当職員も、特に普段と変わりなかった為、改善策はありません。	
1522	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20			4	5	6	5			4	4	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	右目下眼底骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		会議をもち、戸外遊びのルールの確認を行い、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用前)回/年		使用前、定期点検の際に、シーの保管について点検項目に入れ必ず確認する。	3.個人活動中・見守りあり	砂場のシートをとかま遊びすなくて外すことで戸びいた	戸外で遊ぶ際は砂場のシートを必ず敷く。施設や園庭などの危険箇所について以上児と未満児で分かれ会もち、洗い出しを行なう。その後、職員会議で全体再度で共通理解をしてハザードマップに記入し、危険箇所を改善していく。	1.いつもどおり様子であった	曜日は登園している普段のスでの集団生活とまた違いのスを感じている。当日は担任は担当だった。	3.対象児離れとこで対象児見ていた	児以対象児の子どもが同士がトラブルになり、互いの思いを違い聞いそのをしたなら、のを見た。	1.担当者・対象児の動きていた(至近距離にいた)	担当の子ども含めて、対象児としっぽ取りをしていた為、対象シート上で転んだ場面を確認した。	朝、雨がていること、いつもシートを開け時間に出て時間職員が保育と安全で対応していたことの要因も考えられる。	主任が出勤後すでにシートが開いていることなど環境の確認を責任をもって行なうことを周知徹底をする。いつもと違う状況の時は、職員同士でその違いを声かけ合い共有していく。実働職員のみではなく、年代職員を特に時間外職員にも周知していくようにする。また、遊びの範囲を水路や公園を伝いて周りることで、周囲で遊んでいる子どもも安全に確認する。	
1523	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									2	1	17.5歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首成長線ひび	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		子どもの動きなど意深を注意観察する	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(その都度)回/年		グランド整備	1.集団活動中・守りあり		グランド整備	1.いつもどおり様子であった	その後も通常通り保育を受けた	3.対象児離れとこで対象児見ていた	運動遊びボールで持って走った、笛の動合図で止まくるのをした	1.担当者・対象児の動きていた(至近距離にいた)	運動遊びボールで持って走った、笛の動合図で止まくるのをした		子どもの動きなど意深を注意観察する	
1524	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	45									6	6	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		「事故報告記録」に係る要因等の共通理解の機会を増やす（職員会議の項目に、事前に挙げておく等）。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年		事前に園外所のチェックできて中も、途中の歩道のチェックまきでは、何度も歩いている歩道でも、油断しないよう注意する。	1.集団活動中・見守りあり		保育士を何名増やしても転倒園児をすることはゼロにできない、転倒した時は園児相互で保育士に知らせるようにする。	1.いつもどおり様子であった	ちとなそれに木落ちや葉を見つけていた。友だち手きぞれの実	4.対象児動きていかった	動きが気になる子保育士は保視した、当該園児は、安心目をしていた。転倒離れた時、本人しても、誰にも言っていない。	2.担当者・対象児の動きていなかった	他園児の内容に対応し、支援を行っていた。		・　転倒した時には、近くに保育士に知らせるようにする。 ・　帰園後、自分の身体に異変はないか、園児に確認する必要がある。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																						
1525	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4	1	3						2	1	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	事故予防研修共有	2.基準配置		安全管理会議記録で全職員への情報の共有を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用前に毎日)回/年		安全点検時ソフトマットのずれや転倒につながる段差かも点検項目に入れる。	1.集団活動中・見守りあり	ソフトマットと床の間に入った	ソフトマット類の点検をし、必要に応じ端を養生テープで抑えるなどする	1.いつもどおりの様子であった	離れていたところから、保育者の方に小走りで駆け寄ってきた。	2.対象児の近で対象児見た	対象児のほうを向いた咄嗟のことで差し手を伸べられなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の子どもを見ていた。		子どもの発達理解や怪我につながる行動を理解し怪我を想定して見守りを行う。	
1526	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	9								3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	接触性皮膚炎	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	新しく保育室の環境構成を変え、手づくりのビジーボードの部品が外れたので、保育室内で使ってはならない瞬間接着剤を使用したことが要因。	事故直後お安全点検を全クラス実施する。安全チェックのポイントを追記する。壊れた場合の留意点として、修理は事務所で行い安全が確認されてから保育室に戻す。修理に使用するものは園で準備した安全なもので行うことを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	遊具、玩具の安全点検は毎日実施される。	安全チェックに、確認ポイントを追記した。	1.集団活動中・見守りあり	コーナー遊びのところに手作りのビジーボードを取り付けた。	手づくりおもちゃに関して、安全でが確認ようきるに年齢に応じた素材、さ、修理や点検の場所などのチェックポイントを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	午睡中の1４時頃に取り付られ、保育教諭手づくりのビジーボードに興味ビジーボードを持ちで遊んでいた。	4.対象動見なていかった	１６時過ぎ、作成したビジーボードの部品が外れてしまい、その場で瞬間接着剤で貼り付けた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	担当者は保育室の各コーナーにつ保育いて保育していた。しし、対象修理したおもちゃが児童が修理もちゃが外れ、乾燥が不完全なボンドがついたことに気がつかなかった。	担当職員が保育室で危険な瞬間接着剤を使った大きな要因である。	安全管理について職員研修を定期的に実施し、資質向上に努める。	
1527	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31				13	18			2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		けがが起きやすい事例等を職員間で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日		本案件については、特になし。	1.集団活動中・見守りあり		本案件については、特になし。	1.いつもどおりの様子であった	ボールを追うこと中に集中し、前を見ずに走っていた	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	前を見ず2人に走る気付き、声をかけたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	危険だと察知し、瞬時の事だった、先に声を掛けたが本児にはたらに届かず、間に合わなかった。	衝突した相手の子どもも前を見ずにきてしまい、ぶつかった衝撃が大きかった。	周りをよく見るよう声掛けをし、子ども同士の距離間にも配慮が必要かと思われる。	
1528	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19								2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの)	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置		子ども達に部屋での過ごし方、怪我が起きやすい事例などで注意を呼び掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日		毎日朝夕の点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり		子ども達の移動に制限を設ける(勝手に立ちしないよう座って待たせる。)	1.いつもどおりの様子であった	普段通り変わらず元気であった。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	製作中で他の園児への指導をする背後で対象園児が移動、した転倒直後に気づいたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他児を見たていめ、見ていなかった。		室内で起こり得る、事故を想定した研修を行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故				事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1529	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	18								3	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	ひっかき傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育士を3名配置していたが担任1名は生活発表会の練習の補助でクラスを離れていたため、フリーの職員が1人で園児において正規職員の担任が一人しかいないため、しっかりクラス運営をしないといけないと思い気持ちに余裕がなかった。	ビデオ映像で自身、クラス全体の動きを客観的に見る事で、職員の立位置のやかかわり方を検証し課題を見出しを改善へと繋げる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具の片付ける場所をもたちがもたどりまだしっかりと把握いめ、子どもが適当にたボールを他の子どもが持ち出し、片付けで再び遊び出してしまった。	玩具を片付ける場所を子どもたちに知らせ、決まった場所に片付けきるように保育士も一緒に片付けし、玩具付け場所をの片付る知らせいく。	1.集団活動中・見守り	保育士がまだ片付けられていない玩具を片付ける時、子どもが動きしてするではが伴う。また、片付け残っている玩具がとまったもはなくなる。	職員がトイレ助をするなどして捕っていない時は手遊びをしたり、絵本だりで子集まるようにし、その職員が片付けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	職員が片付けをしていると、落ちていたボールを片付けとしたが、キッチンにあるキッチンコップを見つけ、そのボールを入れて遊び始めた。	2.対象至児の近象児を見たい	玩具を見つけ体操をしようとしていたが、本児が玩具を持ち出し、ボールが入ったコップを部屋の中央の床に置いたため。他の子どもが踏わる危ないと思い職員が玩具を取ろうとした所、行動が感情的になってしまった。コップを取り上げようとして手を伸ばした時に保育士の左手の爪が顔にあたり、傷を負わせてしまった。その後、傷を確認しようとして他の子どもとぶつかると危ないと思い職員が間、腕を引っ張って引き寄せるという不適切な行動をとってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	1名はトイレに連れて行っていた。もう一人は他の子どもの様子を見ていたため、担当者(正規職員)と対象児の動きを見ていなかった。傷を負った後、担当者(正規職員)に言われすぐに保冷剤を取りに行き、患部を冷やす。	正規職員の担任が1人しかいないため職員の自身にあり、職員自身に気持ちの余裕がなかった。	・執行理事が1歳児の保育に入り指導を行う。・防犯カメラ活用し自分の保育を振り返り、反省、課題を明確にし今後につなげる。・防犯カメラで常時1歳児保育室の行動を確認できるようにしておく。	
1530	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40	0	0	0	0	0	0	0	3	3	18.6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	5.他児から加害を加えたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	気の合うだち友一緒に遊ぶことぶ喜んでいた。	4.対象児の見ていなかった	他児の対応をいた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他児と一緒に遊んでいた。	背中を押したT児は背後から友だちを押したりするなど、行動の先を予測することが難しいことがある。	危険なことは繰り返し伝えていく。	
1531	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	42								3	3	16.4歳	1.男児	今まで他のアレルギーはなかった。じゃがいもも食べていたが、体調に変わりはなかった。母親より、家庭から、お手伝いなど一緒にクッキングなどしたことがなく、じゃがいもを触る経験がなかったとのことであった。	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	じゃがいもアレルギー	5.他児から加害を加えたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	・クッキングを楽しみにし、保育士の話を聞いて下しんで下処理をしていた。	4.対象児の見ていなかった	・本児はトイレで排泄中で、保育室のどもをみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他児とロンエプロや三角巾などの片づけをしていた。	・普段から目元や口元を頻繁に触ったりするなど多くの見られる。・思いを言葉で伝えることが苦手である。	・普段から指を舐めることがないように声掛けをしていき、衛生的に過ごすことが出来るようにする。・本児の感を困り察し、声をかけたり、思いを聞きとりをして安心して思いの出来るように関わる。	
1532	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	4								4	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.基準以上配置	保育士は遊園児のるよ様子をよく観察し、活動の合間に休憩をはさんだり、声掛けを奮興める心がける。	ボールを蹴る時は靴外を履く。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	園庭の芝がが季節がて枯れていて、クッションにならなかった。裸足で遊んでいたため、ダメージが大きかった。	ボールを蹴る時は靴外を履く。	1.集団活動中・見守り	早く外に出て、士のけをおりず、注意力がが散漫だった。	外に出る際に、外靴をはいたかどうかを保育士は確認をする。	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	早く遊びたくがっ、急いでいた。靴を履く保育士が掛けたいで、靴よ保育士が、聞いなかったようだ。	2.対象至児の近象児を見た	保育士に出ようとしたが、外靴をはいた。履く子に靴を、ことも掛けて逃げ、子に靴を逃げをいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育室に子ども見ていも達を見ていた。	対象児がボールを蹴ろうとしたとき、他児の動きに気がれてまった。	活動の指示を伝える時は、子ども達きをよに注目ておいさせてから伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰	死亡	負傷		診断名																										
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位																										
1533	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20								4	4	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	保育士は遊園児のでいる様子をよく観察し、活動には合間には休憩さだり、声掛けをして収拾を図るよう心がける。	ボールを蹴る時は外靴を履く。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の芝が季節が枯れていて、クッションにならなかった。裸足で遊んだため、ダメージが大きかった。	ボールを蹴る時は外靴を履く。	1.集団活動中・見守り	子ども達は楽しくてもきったとはりていた意ためが、注ややや散漫だった。	グループごとに広くスペースをとって遊ぶようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	サッカーが大好きなので、いつも以上にはりきっていた。	2.対象児を見ていた	特に危ないわけではなかったが、静かに見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	サッカーの試合を始めとする時で、それぞれのゴールで見渡せるように立って、子ども達を見ていた。	対象児がボールを蹴ろうとしたとき、他児の動きを取られてしまった。	活動の指示を伝える時は、子ども達を止まるように注目させてからさらに伝える。	
1534	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14								1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による慢性pr	5.他児から加害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5～10)回/年	1.基準以上配置	職員配置は通常通りであった。職員配置は通常通りであった特になし。		1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	毎日の点検時に異常なし。	毎日の点検時に異常はなかったため、特になし。	1.集団活動中・見守り	普段通りの保育をしていた。	普段通りの保育をしていた。ため、特になし。	1.いつもどおりの様子であった	5歳児全員で片づけをする際に、部屋から廊下を歩いていた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	本児とも一人が部屋から出ることづけていた。手を洗いに行くためかと、声をかけることなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	特になし	室内で片づけをしていた際に、部屋出ていた当事者2人に対して声掛けが不十分だった。	片しの常に共に日々も危険ないことを伝える。	
1535	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	9								1	1	16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	・同時に2種類の遊びを提供した	・遊びが混在していたので、1種類の遊びを提供していく・4歳児に適したルールのある遊びを提供する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	・空間の使い方が良くなかった	・場所を仕切って2つの遊びが混在しないようにする	1.集団活動中・見守り	・ランダム進行で全員が思いに遊んでいた思いに遊んでいた	・ボール遊びに適した環境を構成する	1.いつもどおりの様子であった	・週末の多少はあったため、多感じる	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	・遊戯室の端から全体を見守っていた・遊びの端から全体を見守っていた・遊びが混在していて全体の見守りが難しかった	2.担当者・対象児の動きを見なった	・1人担当で1人で保育していたので、他の職員はいなかった	・全員に位置(中央)均等な距離を保てるようではなく、遊戯室の端から見守り、子どもの発達に適した遊びの展開ではなかった	・全員と均等な距離を保てるよう、中の見守りを行い、なるべくすぐに対応できるようにしていく・発達に適した必要な手立てを行いながら自由遊びを行う	
1536	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20					15	5		3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置		痛みを訴えたとき腫れがなかったため様子見とした。今後は視診だけでなく触診を行い、子どもより丁寧な対応をする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		周りに遊び道具もない園庭で起こることを善策ては、ここあ小石などに躓き、滑ったり、ひねったりする要因を減らすことはできる。	1.集団活動中・見守り		鬼ごっこなどは危険も考え、より広いスペースで行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	朝から変わりなく元気	2.対象児の近で対象児を見た	鬼ごっこ見の側で守る	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	鬼ごっこしていた側に職員がいたため、他の職員は他児の側にいた。		園庭全体には3人の保育士がいたが、ごく近くにいたのは1人だけだった。互いに声を掛け合い、他の職員と連携して見守りを行う。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育従事者				発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面									ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷					マニュアル有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項		発生時状		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1540	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	32			10	3	9	10		1	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	機骨頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不期に実施	定実施	2.基準配置	当該遊具の用途が不適切であったため、注意を促すがあった。（基本は、積み木として遊ぶ遊具であり、乗ったり、滑ったりする物ではない）	改めて、遊具の用途に応じ方の遊び方を認識し、また、事故予防の研修を行うこととしたい。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		使用する遊具やその遊び方が子どもたちの年齢や発達に合っているか確認する。	1.集団活動中・見守りあり		職員が見守れる範囲での遊具の提供を行う。	1.いつもの様子であった		3.対象児が離れたところ対象見ていて	該当児が、2つブロックのバラ崩倒面転倒場面しスしてるを目撃した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見守っていた		朝の早い時間帯での玩具の提供の仕方を配慮し、子どもたちにけがもしながらも声かけて見守っていく	
1541	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	11								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼	3.子ども同士衝突によるもの	2.なし	2.不期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	・事故予防に対する職員の意識をさらに上げていく必要がある。 ・クラスの雰囲気が落ち着かないなかあるため、クラス運営にも必要があるため、スタッフとの話し合う必要がある。	・クラス運営について話し合いの機会を増やし園児が落ち着いて過ごせるように支援する。 ・保育の環境について学び続ける姿勢を持つことを促していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	・危険箇所、注意が必要な場所を職員間で再確認する必要がある。	・危険箇所、注意が必要な場所や場面で再確認し共有する。	1.集団活動中・見守りあり	・活動の誘導の見切り替え時の仕方、切り替え時の見直しが必要である。	・落ち着いた中で過ごせるように環境面を見直す。・声かけにメリハリをつけ、危険な行動については、きちんと伝えていく。	3.いつもより活動的であった(理由を記載)	片づけをするという保育士の指示はこえているが、部屋を走りまわりする様子はなかった。	3.対象児が離れたところ対象見ていた	クラス全体に向けて片づけを促ら、部屋を走り回るをたかけもりたが、声をかけたでいて、本は走るやことをかめなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	担任１人保育をしていた為。	・落ち着いた保育環境を用意することが必要。 ・園児に対する関わり方の改善、向上を促すことが必要。	・園児一人一人に対してどのような対応をするのがいいのか、性格や特性を踏まえた上で職員間で共有する。 ・保育環境について、園内での公開保育等を通じて様々なクラスの雰囲気ややり方、工夫を学ぶ機会を設ける。	
1542	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	17								2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折（●日完全に外れる。）足骨折（●月●日完全に副木が外れる。）	8.その他	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	雨宿りをしたため、あ急ったまり行ったことたいの場所でのになり活動場所がりきかったことが現況しっかりの状況を把握できていなかったことが一番の要因になったと考えられる。	どういった場面でも、周りの状況をしっかり把握し子どもの行動を予測し対応すべきだと考える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	保育園の近くのあったが、いつも使ったことがない遊具であるため、環境面の把握が充分ではなかった。	子どもたちが園外保育で、利用する可能性のある所については、毎年に開わらず安全点検を年回検等をするようにした後うい。	1.集団活動中・見守りあり		どんな場面でも、危険箇所の点検をないように注意すること。	1.いつもの様子であった	普段から活発で子どもとあっても、発見されたもの生き物を捕まえと必死になっているように行動のではないかと考えられる。	2.対象児で対象児見ていた	2人の担任は、共に子どもで共に子どもたちで共に見ていた。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	担任2人しか一緒に行っていなかったため、他の職員の目はなかった。		主担任と補佐役の保育士の役割分担の面で、危険性の有無について補佐役がしっかり見極めるなど、役割分担の明確化も今後していくように改善したい。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度(回/年)	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度(回/年)	遊具の安全点検	実施頻度(回/年)	玩具の安全点検	実施頻度(回/年)	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1543	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	124	8	24	24	22	27	19			30	21	18.6歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左第1、第2、第3、第4中足骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	予想される事故や怪我などは普段から話し合い対応できるようにしておきたい。	●●保育園の事故予防マニュアルを年何回か確認しあい、職員の意識を高め事故予防をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施		3.未実施		バトンをきちんと渡すことができず、バトンを渡すときに倒れ交ないように取り扱いすく錯しようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり	保護者とが子ども一緒に倒れ転ぶ子ども思てはができていなかった。	今回予期しないことが起こり、本児も父親もいろいろな思いをさせてしまった。事故後検討会を行い、職員間で話し合いをした。保護者の方にもしっかり準備運動をしたり、怪我がないようにに参加してください再度注意喚起をしていく。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	最後の競技で親子のリレーカンカンだったのはやる気満あっあと父親は1週走りって安心した本児の一バトンを渡そうとき本児一緒に走れた。	2.対象児の対象児の近くで見てい見た	担任は側で本児の動きを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	最後の競技で全職員がトラックを囲むようにトラックを囲む職員がいた。	事前におたよりでお知らせした親子にレーを伝えた。当日、保護者の方も参加者の操足の参加我いろいろ準備運動などお願いをした。	事前のクラスたよりや運動会の案内、園だよりで注意喚起を行う。保護者の準備運動の時間もしっかり設けていく。	
1544	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12				2	4	6			1	1	18.6歳	2.女児	・本児は体格が良く、転んだ際の足への衝撃が大きかったと考えられる。身長約114㎝、体重約19kg	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	2.基準配置		職員でヒヤリハットを共有し、事故予防に対する意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年		玩具の点検を行い、破損したものがあれば修理または処分する。施設、遊具等、安全点検を行うとともに、必要に応じて専門業者に依頼し、修理する。	1.集団活動中・見守りあり		園庭整備	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	最後まで競争ずりしたのは、張り切っていた様子。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	はじめはこごっこに参加し、その後は見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れた場所で転ぶ姿は見ていた。	本児はいつも早くタッチされること多かったが、この日は最後まで残れそうであった。以前あいつも以上に張り切げていたため、体勢を崩したものと思われる。	鬼をこっこやめることはできないが、体づくりをしっかりと行っていく。	
1545	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	17									3	3	14.2歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性の脱臼	1.遊具からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	ブランコで遊んでいたとき、側に担当保育者がいなかった。	ブランコに限らず、遊具で遊ぶ場合は、必ず保育者が側につくこと。担当保育者がつけない場合は声掛けをして、他クラスの保育者に見守りを依頼する。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	園庭の木に手作りのブランコを結び付けているため、持ち手が太かったかもしれない。	保育者がいない時は、木の上にブランコをあげて、園の届かないように届かない。	1.集団活動中・見守りあり	園庭では様々な場所で遊ぶ遊び場所の確認を怠らない。	自クラスだけでなく、他の園児も見る協力体制をとる。	1.いつもお子もりの様であった	午前のお食べ終わった後、いつもりに出て通園庭遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	本児がブランコで遊んでいるとき、担当保育者はジャングルジムに名、1名ずつ、すべりいて、側にいなかった。もう1名は砂場にいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他クラスの保育者がブランコから落ちたのを見ていて、すぐに担当保育者に報告した。	ブランコに慣れていなかったので、手が離れてしまった。	遊具で遊ぶ際には必ず保育者が側につくこと。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の内制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面										
							人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等													実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
1546	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	15								4	3	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕骨折（ひび）	2.自らの転倒・衝よる突にもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置		マニュアルの見直しを随時行い、改善をしていく。また、研修で学んだことを職員間で周知、共通理解し、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き、定期的に安全点検を行い、安全な環境を整える。事故や怪我を予測し、危険な箇所等を見つけた場合は、直ちに修理、改善を行う。	1.集団活動中・見守りあり		年齢（月齢）や子どもの発達に合った遊びをする。転倒やぶつかる危険がない、子どもの動きを予測し、安全な遊び方や遊びの場を考える。	1.いつもどおりの様子であった	普段、黄興遊びをとても楽しんでいる。本児の右手と友だちの右手で手をつなさ、最初は長い ていたが、この日も嬉しくて走り始めた。若干雨を走っていた友だちが、海背電床面分でバランスを崩して転び、前つんぬ遊いになった拡張の友だちの右くるぶし付近に本児がつまずいて転ぶ、両手はついたが、右手の方が若干早くつき、右手の方により体重がかかってしまった。	2.対象児の近傍を見た	3名の担任と保育補助1名が子どもの見た位置で様子を見守っていたが、本年っただちがバランスを崩してだ前友だちが転んだ後、すぐがすいしに本つまずて転倒ためったとっさに手を出しをたことなて防ぐできた。	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもの様子が見位置で見守ったり、一緒に活動を楽しんでいた。		とっさの出来事だが、どのように転んだかなどをそばでちゃんと見て、事故起きた時の状況を保護者に説明できた点についてはよかった。子どもの様子を見ながら「もしかしたらこうなるかもしれない」など予測をしながら子どものきをしっかりと見ていく。	
1547	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25			11	14				4	4	15.3歳	1.男児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯2本の亜脱臼	3.子ども同士突による衝突にもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	0	マニュアルや研修を定期的に職員で確認し周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		事故防止のため、起きた場所の確認、職員への周知。	1.集団活動中・見守りあり		場所の広さや異年齢での活動であることを踏まえ、タ方の活動では鬼ごっこはしないなど、遊び方を考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちや教諭保育教諭と鬼ごっこをしていた。	2.対象至児の近傍児を見ていた	砂場で他児と一緒に砂遊びをした。あまり広い場所で鬼ごっこは危険ためこが伴うをうたり、周りよけ見る声掛け、応じて制止したりなどのし必要がある対応をし必要があった。	2.担当者・象児の動きを見なかった	砂場で他児と一緒に砂遊びをした 鬼ごっこをしたりしていた。職員同士場が近い場所にいたこともあり、全体の動きしきれていなかった。		担当職員と他の職員が同じ場所で子どもたちと遊んでいたため、連携をとり、それぞれが異なる場所で子どもたちを見守る必要がある。	
1548	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15								2	2	17.5歳	2.女児	骨形成不全症（行動制限は特になし） 弱視（常時眼鏡着用）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝よる突にもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルやチェックリストを基に事故防止に関する研修を定期的に実施しており、職員配置も基準以上であるから改善策は特にない。	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	施設、設備面は無備題く、定期的に安全点検を実施していることから、改善的点は特にない。	3.個人活動中・見守りあり	着替えの移動途中しても場所を置くことの動線を考えて必要があった。	着替えの移動途中しても場所を置くことの動線を考えて必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	靴を脱ぎ、掛け上ぎ、ごザバの上でマットにジャマて靴ぐ着いた。靴を脱ぐ下を前に、掛けた眼鏡を所定の場所に置きて帰って行る途中、転倒床した。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は見守っていた。対象児した転倒面は転倒気場ていない。直後に対応付き対応する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援の必要な子どもを中心に、他児の給食の片付けなどを援助した。	本児が靴を脱ぎ床を滑りこ下で床と滑りすいことに気づかず、保育士が声をかけなかった。また外した際に見えにくくなる周囲になるので、転倒すこしやすいのではか。	子どもたちに靴下で床を滑りすいことを再度知らせ注意喚起する。本児が着睡時以外は眼鏡をかけているか確認するよう職員間で共通理解する。保護者と一層連携を密にし、本児の状態を把握して安全に過ごせるよう配慮する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者			発生時状況	事故の転帰					ソフト面					ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								年齢	性別	特記事項			死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的にしていたか				
1549	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18				5	4	9		2	2	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手第2指中手首骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備にもよるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		事故防止マニュアルの見直しや研修を検討し、今後に活せるよう職員の意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		間近ではR●、●、●に安全点検を実施した。危険箇所等問題はなかった。	3.個人活動中・見守りあり		同様の環境を作らせない、また危険な遊びをしないために、保育者と子どもを集めて子ども会議を開き、道具方の使い方や遊びの中での危険や中断についてに気付かせて自ててこと来る促した。	1.いつもどおりの様子であった	日頃と変わった様子は見られなかった。机と長椅子を組み、台のわれに合滑ようにして遊ぶことを思いついたよ試でいで、しばらくしし遊んいた。	2.対象児の対象児の近で見てい	保育士2名が園庭で遊ぶ様子を守った。	2.担当者・対象児をていた動きなかった	他の職員は室内での見守り、個別での報告連絡、掃除等の雑務をしていた。		室内外問わずチームで全体で見守ることを意識し、怪我の恐れがある発見した際は職員同士声を掛け合い、また至近は怪我の恐れがある行為を直ちに止める。	
1550	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	7	1		2	1	1	2		4	3	16.4歳	1.男児	レントゲン検査で診断わからず、CT検査までしで骨折と診断された。	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外側上顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	園庭での発生事故直前まで、園庭にいる当近児の職員該くはいたが、打ちせの合わためにの園舎の方へ向かった。その舎も際、園側から確認でき、大丈夫だと思り、離れ夫いてしまったため。	持ち場を離れる際は職員間での連携をとえる短い時間でも配置がない空白の時間が生じないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	太鼓橋から落下した際の安全対策が不十分だったため。	太鼓橋の下にマット(クッション)を敷く。	1.集団活動中・見守りあり	園庭に職員が時間員配置がない生じてしまったため。	職員配置を徹底し、特に高所での遊びの際には、職員を必ずに配置する。	1.いつもどおりの様子であった	18時ごろ、お迎えに前に園庭の太鼓橋から、ここぶつて着地していた。	3.児童が対象児ていた	職員との打合せのため、園舎の方へ向かった。園舎の側から確認できない時間なった。園舎も離れて大丈夫だと判断した。	2.担当者・対象児をていた動きなかった	太鼓橋が部屋から見える位置に残る園児をみながら、該当児を見ていた。	園庭に職員配置が生じてしまったため。職員が園舎へ向かう際に室内で遊ぶように声をかけなかったため。	職員配置を徹底する。また、18時の職員数が少なくなる時間帯は室内にまとまった保育をする。	
1551	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42				12	17	13		3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(9)回/年	2.基準配置	発生時は保護者が来迎えるが多い時間帯。保護者対応を職員もいて、目が行き届いてこたもあったもしれない。	保護者対応は、話がらないにし、子どもの様子に目配っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(8)回/年		事故の現場は見通しも良く、比較的柔らかい地面なため、改善点はなし	1.集団活動中・見守りあり		園庭に出る前に、戸外に出たら他のクラスのお友だちも一緒に遊ぶので、クラスのつけよ声をかけていくことを徹底する	2.いつもより元気なかった(理由を記載)	年長児の為午後無り、園庭に出た時点で少し遅れる様子もあり、体力的にもな睡眠をい状態に慣れていない時で。しかし、いつもだろうと高いでのクラスにイミングに挑戦していた。	4.象動児の見ていた	3歳以上児合同で集団での時間。園庭には3名の職員がいて、全体を見ていたが、対象児をずっと見ているわけではなかった。本児を含めた年長児が午睡が無くなり集中力が無くなる子どもいることを頭に入れておくことが必要だった	2.担当者・対象児をていた動きなかった	3歳以上児合同で集団でのあそびの時間。園庭には3名の職員がいて、全体を見ていたが、対象児をずっと見ているわけではなかった。本児を含めた年長児が午睡が無くなり集中力が無くなる子どもいることを頭に入れておくことが必要だった	保育士は3人体制、園庭の職員位置も決めていたが、落ち着いた瞬間は見ていなかった	決められた位置を守りながら、しっかりと目を配っていくようにする	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故 | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名																											
1555	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25								1	1	18.6歳	2.女児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルやチェックリストを基に事故防止に関する研修を定期的に実施しており、職員の基準配置も満たしていることから改善策は特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	特になし	定期的に安全点検を実施しており、改善策は特になし。	7.その他	特になし	本児が保護者と降園中の事故であることから特になし。	1.いつもどおりの様子であった	降園時に自転車の後ろのチャイルドシートに一人でとりあえず乗ろうとして足を地面に滑らせ地面に落ちた。	4.対象児の見ていなかった	降園中のことなので、見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園中のことなので、見ていない。	特になし	本児が保護者と降園中の事故であることから特になし。	
1556	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16								1	1	18.6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	右小児足関節捻挫	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルやチェックリストを基に事故防止に関する研修を定期的に実施しており、職員配置も基準配置であることから改善策は特にない。	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	施設、設備面には問題は無く、定期的に安全点検を実施していることから、改善策は特にない。	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室には何もいい状態であった。子どもの安全は、転倒することが予測できなかった。たった中では、室内ではないという約束の意識が薄れていたのではないか。	室内でのことなので危険につながることを、わかりやすく繰返しとともに、すれば子どもと一緒に考え、安全に対する意識を育てていく。	1.いつもどおりの様子であった	劇あそびをするために遊戯室に移動していたとき、遊戯室に走って入室し、止まれずに転倒した。	2.対象児の近く象至対象児を見た	劇遊びをするクラスの子どもたちに遊戯室に入室するように指示を出し、子どもたちと一緒に遊戯室に入ったところ、走ってきた本児が目の前で転倒したため駆け寄り足を確認する。その時は異常が見られず、給食後、園庭で走っている姿を見て右足を引きずっていることに気付き、園長と看護師に報告した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々担当室にて保育を行っていた。	特になし	転倒した状況本児の状態を確認し、継続して見守りし、異常が見られた折に直ちに報告していることから改善策は特にない。	
1557	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28								2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折（重篤な障害が疑われるもの以外）	4.上肢(腕・手・手指)	右手首・右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	園児がしていた遊びに気をとられ、ブランコを手を離した。	園児に遊具の使い方を知らせる時間設けを再度設ける。また職員も見守りをする中で、危険な使い方や正しくない乗り方などがある時には指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	その都度		園児には，クラス活動で固定遊具の遊び方の話をし，安全に使える指導する。職員については，配置や役割の再確認を行い，事故防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	遊びの環境準備や対応に，全体を見ることができていなかった。	職員の配置などを再度確認し，全体が見渡せるように配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子はなかったが，靴飛ばしに気を取られ遊具から手を放し落下した。	4.対象児の見ていなかった	園庭にいたが，遊びの準備のため他児と体育倉庫を開けたり，支援児の対応にあたったりしていた。対象児の落下の音を聞いてすぐに駆けつけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の学年は午睡中で，他の職員は園庭に出ていなかったので見ていなかった。	遊びの環境準備や対応に，全体を見ることができていなかった。	職員の配置などを再度確認し，全体が見渡せるように配慮する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								改善策	環境面			人的面							改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡	死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】					施設の安全点検	実施頻度/【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度/【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度/【回/年】	その他要因・分析、特記事項		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項		
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																						
1558	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13								2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・足下を見てよくなかったこと。	・もう一度クラスで、片付けの際は、様々な遊具や玩具にあるようにもしれないことを想定し、見てよく歩くよう指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	・遊具や園庭等の不備や破損はなし。	なし	1.集団活動中・見守り	・ボールを子が、ボール遊びで園庭にしたままにしていた。	・使った他の遊び後、遊びに移る際は、片づけて片から衣の遊びを始めるよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	・持ってボールに気を取られた、普段ならば、ボールを踏んだかもしれない。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	・ボール片付けをようとしたが、少し離れてころ少したからしていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	・もう一人の保育士は、他の子の活動を見守っていた。	・ボールに気が付いていかもしれないとできなかったこと。	・目頃からヒヤリハットを活用し、様々な状況での危険予測ができ、対応できるようになる。	
1559	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				15	10	15			5	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	痛みを感じる出来た時に、保育士に知らなど具体的に仕方を必要がある。	子どもの発達や能力に、子が危険を認識して、事故が起きた時の行動の仕方にもしく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1２)回/年	つまずいた時点では、段差はないが、全体で流れて、凹凸個所がある。	定期的に、地面の整備をていく。	1.集団活動中・見守り	本児は、先を足地面にひっかけたが、転倒をず、おら、痛みなかったづけが	室内に誘導するも、子どもは見ると、異に変にするに。	1.いつもどおりの様子であった	つまずいた時点では、痛み保育士をに保育士なかった。室内に入り、足をかばっていたので、痛みがと言い、くるぶしに離れが見られた。「片付けの時、歩いていてすのの近くなった」と言う。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	全体に目をいた、本児ずいた場面は、気が付かなかった。その足をつていたので、かばっていたので、声をかけた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	園児を室内に入れていた。	保育士の人数は足りお人ており、は保保護者対応をした。入室時、担当は全体を室内に、その他の保残ども室いたひとりが把握きていなかった。	役割分担を明確し、遅出保護者、は対応を1人全体を把握する目を、子どもに気づけるようにする。	
1560	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				14	18	18			3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	木片を遊具に持って上がったこと	夕方は保護者対応等もあるので、遊ぶ範囲を決めていたが、保育者同士さらに連携をとる。また総合遊具に物を持って上がらないように指導する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊ぶ持ってないに指導する木片を上がらない	1.集団活動中・見守り		夕方園庭で遊ぶには、遊使いの具の子どもたちと方を確認する。	3.いつもより活発で活動的あった(理由を記載)	一人で遊ぶことが多い	2.対象児の近で対象見た	全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きをていなかった	全体を見ていた		大人の思い込みを改める(乳児用の遊具なので危険はない) 一人ひとりの行動や特性に合わせて個別指導を行う	
1561	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	17.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（左小指）	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		事故の検証、今後の対策について話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(292)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(292)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	通常は1人一個の人かごを持つが、今回は2人で一つのかごを持っていた。	かごは1人で持つことを徹底する。	4.個人活動中・子どもみ		職員連携し、子どものみの活動にならないようにする。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の見ていなかった	クラスで絵本を読んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスにいた。		子どもが当番活動に行くときは声に出し、職員連携し見守りの体制を作る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷			誘因	ソフト面					職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡						マニュアル有無	事故予防研修								施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名																																
1562	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	32								2	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・腎部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		職員会議において事故予防について再研修し事故予防に努める	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	3.未実施		3.未実施		特になし	引き続き危険個所等がないか週5日の点検をする	1.集団活動中・見守りあり	リレーの練習中、バトンパスの際に給まり転げたり	バトンを繋ぐときなどに、友達と接触がないよう教えよう	1.いつもどおりの様子であった	一生懸命参加していた	2.対象至対児の近で対象児を見た	4チームでリレーをして、バトンパスが重なり、トラックの指導いた外側で指導した職員がいた内側に対象児の転げる瞬間に助けられなかった	1.担当者・対象児を動きていた(至近距離にいた)	走り終えた園児を並ばせていたが、対応できなかった	膝等に擦りなかったので、骨折にこに気付けとなかった	転んだ際は、全身の確認を怠らないようにする	
1563	令和6年9月10日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	14			5	9				3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首橈骨・尺骨骨折	1.遊具から等の転落・落下	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	園外保育を行う上で、危険予測が十分でも、危険回避対策が行えていなかった。現地での保育役割士の担が曖昧で全体を把握する者がいなかった士が居場所をてこないことに疑問をもっていなかった	1）すべての散歩先の危険感知マップを作成し、散歩計画を作成する。 2）職員・園児と一緒に確認してから散歩を行う。 3）該動時の職員の役割を明確に決定する。 4）出発安全出の受講回数を増やし、野外教急員の視点での該動内容の振り返りや計画の見直しをする。 5）事故予防マニュアル、事故対応マニュアル、事故時のフローを直ちに作成し、職員に周知、教多時に携行できるようにする。 6）日々の活動における安全チェック項目を設け出発・見送りロアで確認しながら保育にあたる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施		2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年		里山での散歩は、同じ場所であっても日々状況が変わる。必ず下見を行い、当日の現地に引いた時に引迅速に率先で危険を声を出して確認し、共通認識を持つ。	桑の枝に児が当該児があったから、死角が生まれる活動であったといえる。	1.集団活動中・見守りあり	1mの段差のあるコンクリートのあるが分かりやすいが、こども溝がとこに注意ながら、こども十分意喚起しないま特別な対策も行わず活動を行った。	1）散歩先での危険箇所を画像で確認できる危険感知マップを作成し、園児と確認する。 2）コンクリートの溝などが大事故につながる恐れがある場所は使わないなど適切な散歩先を選ぶ。 3）対策を行ったとしても、そこに危険（ハザード）が存在しているということを事前の下見の際に確認し、現地でも引率者が声を掛け合う。	1.いつもどおりの様子であった	桑の実をとろうと伸ばした下を確認しての足認らず転落した。	4.対象動見児をなのはいていかっ	対象児のすぐ近で、他児3名にをかけから桑の木葉により、児の確認ではきず、桑の枝やによ対象動きでおらず、転落したあと対象児が声の痛みでだしたのを聞いて気がついた。	2.担当者・対象児を動見ていなかった	他の職員は2名。いずれも対象児が転落した箇所から数m離れた活動場所が見渡せる位置にいたが、その子ほかの対応をして、事故の瞬間は対象児・担当者の動きは見ていなかった。	活動を主担する担当、全体を確認すなどをし決めていなかったため、3人の職員全員が目のもの対応、行を把握できていない存在を想定しなかった。	活動を計画する際、危険を想定するとともに、リーダーと園児のフォローをする、全体を確認する監視者をはっきりと決める。	
1564	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56			20	22	14			4	4	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・腎部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士衝突によるものにもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		職員全員に周知徹底し、事故防止に努める鎖骨は、腫脹等見られなくても骨折の可能性大→周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き安全点検実施	1.集団活動中・見守りあり		前をよく見ずに走っている姿を見かけたら声掛けをする。日頃から、園庭での遊び方について子ども達と話し合う。	1.いつもどおりの様子であった	元気に戸外活動を楽しんでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見渡せる位置で、園児たちを見ていた。「走らない」と声を掛けたが衝突した。	2.担当者・対象児を動見ていなかった	他児の動きを見ていた	他児が前をよく見ずに走っていた為	走らず遊べる環境作り	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1565	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕外果骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	年長児の午睡をしないなかで活動して、午睡の保育士の意識や研修を通して、保育者の意識を変えていかなければならない。	午睡をしない生活に慣れるまで、集中力がきれやすい時間帯での保育は、特に見守りと必要なことをしっかり見守りと注意をしっかり合い、確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年		地面の上にクッション材になるものを敷くようにする。	1.定期的に実施	1.集団活動中・見守り	就学前の年長児で午睡をしない●月末から一週間の午睡の中止が原因で、後半の午睡をしないことも原因の一つと考えられる。	遊具使用時の安全性をクラスの遊び方を全体に話し、危険な遊び方をしないか見守りをする。	1.いつもおよりの様子であった	いつも通りの様子であったが、午睡がなくなってからの生活にまだ十分慣れておらず、集中力が続かなかった。	4.対象児の動きを見ていかった	子どもたちと一緒にいた戸外とは、担任保育者が子どもたちと関わっていたため、プランコで遊んでいた本児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午後パート職員も戸外で保育に入っていたが、他児に関わっており、本児を見ていなかった。	保育者二人ともが遊具で遊んでいる子どもたちを見ていなかったこと、年長である子どもたちがプラスチックンコで手を離すことはないだろうという過信があった。	固定遊具での活動時には、二人の保育者は必ず子どもたち全体が見まわせる位置で保育すること。遊具で遊ぶ前に十分気をつけることを子どもたちに再確認の意味で話をする。	
1566	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11				10	1			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	園庭の中央あたりでも保育者に変化なくも普段通りでもっとしたのごっこ(けいどろ)をしていたが、保育者の意識にもっとしていなかったことが、怪我につながっていなかった所があった。	常に子どもの様子は確認しながら対応しなく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	季節的に乾燥しているため、園庭の土面がなくなり、足を滑らせてしまった可能性も考えられる。	季節や天気、湿度等の状況等を整備に園庭に遊べる状態を整えておく。	1.集団活動中・見守り	1日の活動状況子ども1人1人の状態に応じた方に対する配慮が不足していた。	降所前の自由活動の時間をどのようどもに過ごすか、子どもの状態に応じて柔軟に設定していく。	1.いつもおよりの様子であった	普段と変わらず保育者や笑顔で鬼ごっこを行っていた。	2.対象児の近で対象児見ていた	子どもたちと一緒に鬼ごっこ(けいどろ)をしていた。保育者が警察役で子どもを追いかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭に出て子ども一緒に遊んでいて保育者は3名ともいけいどろをしていたため、本児が転倒した様子も見ていた。	遊びに夢中になっていて、本児も捕まりたくないという思いの焦るとの気持ちがあったのではないか	子どもが落ち着いて過ごせるような関わりについて考え、実施する。	
1567	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27								2	2	17.5歳	1.男児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨端線損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(数回)回/年	2.基準配置	無	職員配置は基準通りであったため	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	無	安全点検を行っているため	7.その他	無	日々行っている活動であり変更の必要はないため	1.いつもおよりの様子であった	母が早く迎えに来るため、帰る準備をしトイレに行っていた。便座に座り、扉を固定している蝶番の下に右手を掛け、右足で扉を閉まり、開けたりしめたりしていた。(戻った扉を引き戻していたと思われる)ところ、通りすがりの他児が、扉を閉めたため、右手を挟んだ。	4.対象児の動きを見ていかった	食事中のた子どもたちへの声掛けや机や床の拭き除をしていた。母が迎えに来て、本児がトイレに行っていたが、その後は把握していたが、その午睡後の準備や給食の片付けをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	着替えをしているこの子どもたちへの声掛けをしながら、トイレに行くことを本児に把握したいので、気を掛けた。母が迎えに来ていることも待っていることあり、本児の様子を確認しに行った。	トイレ用意の時点で注意点について子どもたちへの周知が必要であった。	事故の状況から、怪我をしないよう子どもたちへ伝えた。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面									環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修			職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度/【回/年】						実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】						理由		具体的にしていたか		具体的に何をしていたか			
1568	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21								2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	年齢があがるにつれ動きが活発になり、好奇心旺盛なあるこどもの特徴を考えて、危険なことやってはいけないことを子どもに十分理解させ、安全に遊べるように注意深く見守りをする。	遊具の正しい使い方について、定期的に園児で確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	遊具の上で２人が手をつないで遊びバランスを崩したことが怪我の原因となった。	遊具の安全な使い方について全体に指導する。	3.個人活動中・見守り	給食後の時間、園庭で遊んでいた。他クラス同様に出園庭に出ており、混雑し、混雑子どもの様子を確認するのに見通しが悪かった。	自分のクラスだけでなく、近くにいる保育者が見り、必要な時は声掛けをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	本児が友だちと園庭の木製のベンチの上でつないで体すっんとゆっくりして遊んでいたところ、２人とも２人バランスを崩し、転落。相手は無事だが、本児は右手から落下した。右手とひじの間の痛みを訴えた。	3.対象児が離れたところで対象見ていた	子どもの様子を離れた所で確認していた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	保育室にも園児が残っていたので、保育室前の辺りで、保育室にいると、園児園庭にいる他の園児の様子ていを見た。	園児それぞれが好きな場所で遊んでいたため、見守範囲が広がり、見守り体制が手薄になった。	自分のクラスだけでなく、近くにいる保育者が見守り、必要な時は声掛けをしていく。	
1569	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18								2	2	16.4歳	2.女児	無	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5趾基節骨折	3.子ども同士もものにぶつかるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(7)回/年	1.基準以上配置	プールへの移動の際、職員が前後で離れていて目が行かなかった	先へ行った保育士のところで、廊下のどこかで間のどこんうろうろしてみうまで待つ	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	部屋から出て廊下にドアのところでしきいがありに段差になっている	段差スロープを使えばよかった	1.集団活動中・見守り	2人とも少し気味であったようだ	落ち着いよ先にていう先に言葉かけをする	1.いつもどおりの様子であった	おっとりしている子で芯が強い。痛いと保育士に伝えなかったのは何故かわからない。	4.象動見なかった	プールへの移動とプールに入れなかったのは何故かわからない。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	プールへの移動とプールに遊びそのものに気を取られていて気がつかなかった。		気づいてあげれなかったのが申し訳ない	
1570	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21								3	1	18.6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	特になし	固定遊具での遊び方をクラス全員で確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	・平常どおり。	4.対象児の動きを見ていなかった	・全体の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他児への対応をした。	特になし	職員の配置について話し合い、職員間で連携を とりながら子どもの様子をしっかり見守り対応していく。	
1571	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20								2	2	15.3歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	3.子ども同士もの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	・機嫌よかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	・全体の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他児への対応をしていた	特になし	フリー保育士等に応援を依頼し、子どもが安全に遊べるよう配慮する。	
1572	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	6								2	2	13.1歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左足第一中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	・機嫌よかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	・全体の様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・他児への対応をしていた	保育者の目視	保育者の目視の徹底	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面									環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷		診断名		マニュアル有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】																									
1573	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23								4	2	17.5歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	特になし(安全性を検証したが、指を挟む危険性はなかった。)	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	・平常どおり。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・全体の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいつもみていなかった	・他児への対応をしていた。	職員の連携	遊び姿から玩具や遊具によってどんな危険性が予想されるかを再確認し、職員の連携強化に努める。	
1574	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	16								3	3	14.2歳	2.女児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	開放骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特記事項なし	危機管理マニュアル見直し	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	・降所準備(荷物の片付け等)に気分がのの上床で寝転がっているところに他児が覆いかぶさった。上にかぶさった他児も驚いていたため、故意的にかぶさったと判断したのしなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・降所準備を一緒にしようと誘うが、本児のの気分がのらず床に寝転がっていたためそのたれ近くでいた。	2.担当者・対象児の動きをいつもみていなかった	・他児のの対応をしていた。		危険な状況に繋がらないかを常に意識し保育するよう、職員間で連携を図り、声をかけあうようにする。	
1575	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12								3	3	13.1歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	声掛け等を含めた見守りが必要	見直しを行う	1.いつもどおりの様子であった	・平常どおり。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・全体の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいつもみていなかった	・他児への対応をしていた。	保育者の立ち位置	転倒などに速やかに対処できるよう、立ち位置を見直す	
1576	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23								4	2	17.5歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指中節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	特になし(安全性を検証したが、指を挟む危険性はなかった。)	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	・平常どおり。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・全体の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをいつもみていなかった	・他児への対応をしていた。	職員の連携	遊び姿から玩具や遊具によってどんな危険性が予想されるかを再確認し、職員の連携強化に努める。	
1577	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	29								3	3	16.4歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	所庭で保育をする際に保育者の立ち位置を確認、共通理解する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒の下のマットが狭くて幅が役割をはたしていなかった。	鉄棒の幅に合わせた柔らかいマットを敷く。	2.集団活動中・子ども達のみ	職員がいないときは鉄棒をよしないようルールを決めて守られていた。	子どもたちに、必ず保育者がそばにいる状態で遊ぶこと、鉄棒で順番にルーとは行うルであることを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	他児が鉄棒をしている姿に受刺激あけも張り切って行った。	4.対象動児の見なきていかった	鉄棒で遊ぶ子がいなくなったので、場所をほかのそばで遊ばもいた。	2.担当者・対象児の動きをいつもみていなかった	他の遊具付近で他児を見守っていたその状況は見ていなかった。	職員は鉄棒が見えないないで、が鉄棒をしることに気がが付かった。	所庭全体を見渡せるような立場所に、子どもが遊具に近づいた時にはすぐにそばに行けるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度/【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度/【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度/【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1578	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18			3	15				2	2	17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝よる突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	本児がいい楽しんでいる遊び方だったため、子どもも職員も危機感が薄かったと考えられる。	常に危機管理の意識を持つように、職員間で研修等を継続し、啓発していく。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	普段から行っている遊びだった対象児が危機感なく動作が雑になっていた。	遊具を使う時には、危険こうは、約束事を守っがとを世、着行動ことも事で落ちていてする子にを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、鉄棒でからが好きぶつが普段よっていた。	1.対象マンツーマンの児童支援状態(対象接児していた)	鉄棒の近くでブランコの補助に付いていたが、対象児が急に鉄棒で遊び始めたため、ブランコを止めず鉄棒ぐに横に移動し見守っていた。鉄棒には対象児1人しかいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒付近には、保育士1人が付き、他の職員は別の場所で保育に当たっていた。	近くで見ていたが、いつも通りの遊び方だったため、補助の必要性を感じなかった。	子どもが、一つの動作を丁寧にし、安全に遊ぶことができるように声をかけながら見守る。すぐに補助できる体制を取る。	
1579	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14								1	0	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中(実所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝よる突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故防止対応マニュアルの内容を、常勤保育士だけでなく、保育に携わる職員全員に周知していくようにする。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	修繕など必要な場合はすぐに報告し、緊急処置などをして安全面に留意している。	1.集団活動中・見守り	特になし	早朝保育の時間帯は利用保育室の関係もありシューズの着用が難しいので、室内で過ごす時、移動時には歩いてゆっくり行動することを繰り返し子どもたちに伝えようにする。	1.いつもどおりの様子であった	早朝保育の時間で自育の保育は普段の保育室かったシューズを履いていなかった。	4.対象動の見ないた児の見ていなかった	子どもたちには座って本を読んだりよりする声を掛けながら、他児の受入れをした。	-	5歳児の早朝保育の時間は1名の職員が担当しているため、保育室にはいなかった。	特になし	5歳児といえど走ったりしないで落ち着いて過ごすよう繰り返しの話をしたり、見守ったりするようにする。	
1580	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	31								2	2	18.6歳	1.男児	園庭に出て遊んでいた。ブランコで遊んでいたが、バランスを崩し自ら後ろに転倒した。その際に両方の薬指がブランコの鎖に挟まっていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	両環指中節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	危険予知訓練はしていたが、チェーンの中に指を入れるという事のは想定外であったが考えは想定ことえられる。	色々な想定を考え予危険予を危険知訓練をしく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ブランコチェーンは握った時に幼児の指が二本ほど入る大きさであった。	ブランコのチェーンにカバーをする。	1.集団活動中・見守り	午後からの活動であり、4・5歳児人数であったため、大好きなブランコに乗りすく乗った。	今後も職員配置乗りし、方についてのかける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもとなわりご変くて過ごした。	3.対象からの児離れとで対象見ていた	他の園児を見ていたため。他の対応をしていた。休憩中では場はそれいなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ブランコに乗っていた。職員は付いて配置はできていた。	本児のこくいていることを知っているが保育士し配置していたが、予測できない動きで対応できなかった。	全職員で今回の事故の原因・対応を共有する。	
1581	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31					10	10	11	4	3	16.4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	特になし	事故防止マニュアルを策定し、職員に向けた研修等を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	遊び方について子ども達と確認したり、職員間でより安全配慮するよう統一を行った。	3.個人活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	ブランコに乗って遊んでいた。	2.対象至児の近対を見ていた	近くに保育士はいるが、ブランコを握っていた左手が滑り、突然落下し阻止できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は、遠く対象児から対象児の位置を確認していた。	子どもの予期せぬ行動を想定していなかった。	子どもと遊ぶ中で、あらゆる危険を想定しながら関わるとともに、職員同士の連携を図りながら保育を行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の内容											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1582	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	16								2	1	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折（重篤な障害が残われるもの以外）	5. 下肢（足・足指）	右母趾基節骨々折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	人数に対しての保育士配置は十分ではあったが、危険を予測し声掛けを行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	通常通り、変わりなく元気に体操教室を楽しんでいた。	3. 対象児が離れたところで対象見ていた	対象児の活動の様子や友達とのかかわりを近くで見て確認しながら声をかけ、怪我やトラブルにも注意していた。		なし	特になし	活動中の子どもの動きをより注意深く見て、危険が予測される場合は声掛けを行い、正しい動きを伝える。	
1583	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	12		1	4	2	1	4		2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	左第1趾基節骨骨折、左第1趾MP・IP関節血腫	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	1	2. 不定期に実施	3	なし	なし	1. 集団活動中・見守りあり	テラス側はおけて開けり、特に行動範囲は制限はしなかった。	少人数で保育にあたっている時間帯ごす過は範囲を指定する。	1. いつもどおりの様子であった	室内での飽きて、遊びテ出てスへ走っていた。	4. 対象動見ていた	他の子ども達が、ホールで遊んでいたのでそも子たちの様たを見ていた。	2. 担当者・対象児のをていなかった	担当職員とともに、ホール内で他児の園児の様子を見ていた。	集団で過ごすが苦手なもの子があるが、配慮だった。	配慮が必要な子どもから目を離さない。また、部屋を出るときどこへ何をしにいくかを保育者に伝えてもらうよう声がけをする。	
1584	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13					1	6	6		2	2	17. 5歳	2. 女児	特記事項なし	1. 昼外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢（足・足指）	右足関節外果裂離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	5	1. 基準以上配置	特記事項無し	児童の特徴を捉え、疲れや不注意な様子が見られないか遊ぶ様子を中心に見守る中で、必要であれば本児が気づけるように声をかける。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特記事項無し	本児が乗り上げた足洗い場9センチの段差の手前は白ライン線でき、が遊びに夢中になっても手前から気よ示をる。	1. 集団活動中・見守りあり	特記事項無し	特記事項無し	1. いつもどおりの様子であった	他児が帰る為、園舎の方へ出し走りたいのをおいかけた。	2. 対象児の至で対象近見ていた	帰り支度へ向う付児童へ引き添にその見し移しきう周守りをがし動した。	1. 担当者・対象児のをていた（至近距離にいた）	担当者は全体の子どもの様子を見ていた。他の職員は園庭側に沿っている保育室室で事務・職員室で事務・作業中でった、窓を開けていた為、様子に気づきすぐに駆け付けた。	特記事項無し	特記事項無し	
1585	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	30					12	18			2	2	17. 5歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	母親が迎えにきてくれたことを喜び、思わず走ってしまった	慌てずに帰るよう見守りに、声がけしてい	慌てずに帰れるように声がけをしながら、一緒に歩いて保護者の元に行くようにする	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	適時	母親が迎えにきてくれたことを喜び、思わず走ってしまった	慌てずに帰れるように声がけをしながら、一緒に歩いて保護者の元に行くようにする	3. 個人活動中・見守り	迎えが来ても嬉しい気持ちあり、急いで母親の元へ行こうとした	慌てずに帰れるように声がけをしながら、一緒に歩いて保護者の元に行くようにする	1. いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に絵合わせカードで遊んでいた	2. 対象至児の近で対象児見ていた	一人の保育士は、お迎えに来た保護者のお迎えをした。一人の保育士は部屋で遊ぶ子どもたちを見て、お来児ちをいて、迎えた時に声をかけた	1. 担当者・対象児のをていた（至近距離にいた）	居残り保育の担当は２名で、他の職員は時間外であった。他の職員は保育室の居残り保育にあたっていた	特になし	慌てずに帰れるように声がけをしながら、一緒に歩いて保護者の元に行けるようにする	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 教育・保育等従事者 | | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制																			事故誘因	ソフト面																							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰																										
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・放課後児童支援員等	教諭・幼稚園教諭・保育教諭					死亡	負傷			診断名	1.遊具等からの転落・落下	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面			人的面								
																							死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】			教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
1601	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15									2	2	15.3歳	1.男児	晴天、日ごろと変わらない遊び。クラス状況は、代替え保育士の日ではあるが、その職員は、さほど保育の保育士であるため日ごろから、3歳児クラスに入っていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置		遊具の下にマットを敷いてそこにいるが周りも敷くべきか検討。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		背丈に対して遊具が不適切かもしれず、遊び方について見直す。	1.集団活動中・見あり	固定に職員が持ち離れてはいけない。遊具配置は特に遊具の使用方法、遊び場所移動に事故が起こる。	職員の見守りは子どもに対して援助することは不可能である。再度、全体で見守り助とは不可能が、再度、全体で見守りの配置場所や遊具の使用方法を見直しともへ子どもへ話しかけなどして遊ぶなどの対応を図る。	1.いつもお様子でもりの子あった	いつも通りに戸外、固定遊具で遊びの遊びを楽しんでいた。	2.対象至児の近対象見てい	少し前まで本児のいばったが、他の子の方へ移動した。(靴)が滑りなったので近くにかけうとしたが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをいっ	別の場所にいた。	特になし。	数名の子と遊んでいたため守れなかったのが事実である。3歳児なので、固定遊具に上がる子を減らす。	
1602	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27			14	6	7				3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	・途中入園に対する指導・研修の導・不足	・事故、怪我などに関する研修はもちろんであるが、丈夫な体づくりをしていくために必要な保育内容(運動遊び や食)についての児童や、それぞれが考えていくことができる研修を実施する。また職員会議の内容に取り入れる。 ・新入園や途中入園児は慣れたようにまだ未熟な部分があるため、そのことを周知徹底し、意識づくりを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	転倒は一人ごとで過ごしており、周りに障害物・人もいなかったため、地面の凹凸も草に足をとられてバランスを崩したのではないかと推測される。	園庭内のやで草刈りや地面にできる穴などは定期的に管理を行っているが、転倒しやそうな地面部分はそれぞれ迅速に対応し、安全な環境づくりを徹底する。	3.個人活動中・見あり	新入園児や途中入園児は特に、それぞれ児童や発達段階を考慮した上で保育の見守りを行うべきであった。	・途中入園児は特に保育の使い方が慣れず、未発達な部分があるため、そのことを十分理解した上で保育を行うよう全員での情報徹底を行う。 ・運動遊びを少なく取り入れ、全身運動や様々な体の使い方の経験を通して丈夫な体づくりを行う。 ・おやつのいりこの量を増やしたり、たくさん体を動かしたくさんご飯を食べたりすることなどを通して、体のやからも丈夫になっていくことができるよう調理と保育の連携を密にして食育により取り組んでいく。	1.いつもお様子でもりの子あった	体調や機嫌などは元気なく、活動する。転倒前は、一走るなどでとなくなった。	3.対象児の児童が見ていた	少し離れたところから児童の活動の様子ていた。周囲にいる児童たちの活動の見ていた。	2.担当者・対象児の動きをいっ	一人はお迎えの保護者対応、もう別の児童たちの様子を見ていた。	・近くに遊具や危険な箇所がなく、近くことができなかった。 ・人数とは基準以上であったが、一人はお迎えの対応を行っていた。	園庭が広いということを考慮したう員の配置場所や人数については話し、連携をとりながら対応し、園内の職員の配置場所について再度話し合い、特に配置が必要な場所を見直し、全職員での把握を行う。	
1603	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	2									2	2	17.5歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	対象児の姉が一緒に迎えに来たことで興奮し、追い中しかける中で転倒してしまった。	保護者が迎えに来た際に、、気をつけて帰ることをその都度伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	7.その他	延長保育帯の時間であり、スロープをとでしやすかった	スロープの形状をこえることは困難であり、安全に歩いて帰ることをこえる	1.いつもお様子でもりの子あった	姉が迎えに来たことで興奮していた。	4.対象動児を見ていなかった	対象児は、保護者が迎えに来て園出に舎で園出なかったので、職員は保育室にいた。	2.担当者・対象児の動きをいっ	対象児は、保護者が迎えに来て園出に舎で園出なかったので、職員は保育室にいた。	園舎外のスロープで追いかけたことで転倒し	お迎えに、走らず気を付けて帰ることもたちに指導する時	
1604	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	3									2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	5.他児から加害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月		特になし	3.個人活動中・見守りあり		園児間でトラブルが生じた場合は、おさまった後も見守りを続ける。	1.いつもお様子でもりの子あった	いつも通子りの様子であった	2.対象至児の近対象見てい	本児の動きも確認がしながら、付近で保育を行っていた。	2.担当者・対象児の動きをいっ	他の園児の保育を行っていた。		特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡						マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度/【回/年】							実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1605	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33			16	17			4	4		15.3歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	①捻挫②ひび	8.その他	1.あり	1.定期実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	無し	登る方から降りている飛び降りているため、飛びはいけないところから飛ばないよう子どもに周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	無し	今回の件に関し、施設や遊具・玩具等の破損等は無し	1.集団活動中・見守り	運動会の課題で「跳ぶ」動きを経験したことで、友達遊び中の動きしたので、自由中のその再現しもしたのではないか。	上記の事柄を踏まえ、子どもも達の遊びを予想し、危険等の見通し行為等のを遊守に持って見守るようにしていく。	1.いつもどおり様子であった	運動会の課題で「跳ぶ」という動きと一緒に遊具を使って練習していたと思われる。また、友達が降りてのを見ていて本当に降りるで児もやってみたとなったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児をていた	一度該当遊具で他の子が未満児滑り台から飛び降ったが為、「そこからジャンプしないよ」と声を掛けた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊具の所など分かれ、子どもを見守る。	危機管理の見通しが甘く、子どもの遊び・動きがいたっていたのでグランドで遊びを見守る保育士が危険がありそこかなこころにくある	上記の事柄を踏まえ、行事（運動会）を控え子ども達の動きを考え、遊びを予想しながら見守る。	
1606	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20							3	3		16.4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	子どもが移動する際にて移動する多人数で移動した為、本児と接触事故し本児とする発生が考えられる。	少人数で移動するように呼びかけたり、落ち着着動するように日頃から声掛けしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特記なし	施設、設備等が直接的な要因でないとされる為、今後も安全点検を継続していく。	7.その他	絵本を見ず、立っている子が数名動いていた。	絵本を読んで待つときの約束事などを再確認し、事故を未然に防げるよう伝えていく。	1.いつもどおり様子であった	普段と変わらない様子で過ごしていた。事前にも絵本を読んでいた。	4.対象児をていかった	おやつの後で、床の後の雑巾がけをいた。体がらいたため、対象児をずっと見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ゴミ集め雑巾洗い、室内の消毒などを行う。	数名の立っている子が接触事故につながったと考えられる。	数名の立っている子に座って絵本を読むように注意を促していく。	
1607	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12							3	3		17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	おやつ後の～お迎えの時間帯（こどもの行動が時間帯）でもが落ち着かない状況の中、マットはじめ、遊び場で目を離してしまった。	遊びの際、マット遊び方・遊び状況による危険意識を持つ、マットなど、運動遊びの際にどのようなを行動をとるなど、起こりうる事故などについて園内研修を行い、危険意識を職員間で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12～48)回/年	こどもの合せた援助などを行いながら、状況によっては止めるなどの必要不足。	こどものそ状況の時の状況して、環境を見極め、運動遊びをには、適切な広さ・見守で実施ようにする。	1.集団活動中・見守り	普段は運動遊び（マット・跳び箱等）は、広さが確保された保育室を使用しているが、今回ては、今回に関しては、その難況確保しい状況でマットを出していた。	こどものそ状況の時の状況して、環境を見極め、運動遊びをには、適切なや・見守で実施ようにする。	1.いつもどおり様子であった	普段と変わらないところ、友だわりで寝転んだりところと遊んと関わっていた。普段、寝転ぶ様子がありでは、状況を普段と変わりなく、普段から、様子がありでは、状況で声掛けをすることはあった。	4.対象児の見ていかった	こどもが遊び始めにマットをことについて気づいていたが、別の遊びをしてこの対応をしたの対応して際に、時的にそのマットの遊びから目をてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じフロアーに他2名の保育者がいて、マット遊びの状況は把握していたが、起こりうる事故に対する予測はできていなかった。	運動遊びについて、配慮事項を職員間でできかった。	こどもの遊び状況や内容、運動遊び（マット・跳び箱等）を想定した保育者の配慮事項や援助、支援を再度見直し、職員間で共有する。	
1608	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				4	22		2	2		17.5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具から転落・落下等の	1.あり	1.定期実施的に施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	園児一人ひとりを注意して見守る	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	職員が必ず近くで見守る	1.集団活動中・見守り	1つの鉄棒に2人いて、前にも他児がいた	鉄棒をするときは、思い出すようにきりよスペースをとるにする	1.いつもどおり様子であった	最近、鉄棒の後が出るようになって、何度も周来にて、何度もしていた	4.対象児を見ていかった	一人は、テラスで検温していた。人は、他の子の対応をいて二人共、児の対動きをみていかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスは、園庭遊びはしていなかった為、対象児の動きはみていなかった	特になし	環境を整えてから、園庭で遊ぶようにする	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面									
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
1609	令和6年9月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	12								2	2	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	職員配置を3人体制で行う。どんな場合も怪我に繋がるかもしれないという意識を職員で共有する。	必ず職員配置を3人体制でどんな場合も怪我に繋がるかもしれない意識を職員で共有する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	マットを新調し、増やす。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし。	子ども全体に一生懸命にやっていても怪我をすることがあるので真剣に取り組むことを伝える。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	戸板に登っていた。	2. 対象至近児の近児を見ていた	戸板を持って支えていた。	1. 担当者・対象児を見ていた(至近距離にいた)	戸板を持って支えていた。	特になし。	戸板を持って支える人だけではなく、戸板を登る子どもに必ず大人が1人つく。	
1610	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	75			21	25	29			5	5	16. 4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3. 子ども同士衝突によるものにも	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	特になし	事故予防について再度、職員内で確認をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	外遊び時は視野を広く持つ。	1. いつもの様子であった	5歳児が多い中にいるもの入ってサッカーを楽しんでいた。	2. 対象至近児の近児を見ていた	サッカーをして子どもたちが、つかりになったりするたった時、それを静止できる位置にはいなかった。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	他の4名の職員はそれぞれ違う場所でもたちを見いたため、サッカーをしている子どもたちの方は見ていなかった。	5歳児の子どもたちに3歳児に対して加減をするように声掛けをしておけば、ぶつかりそうになった時に少しはボールを譲るとか、身を引くできたかもしれないと思われる。	今後は子ども体格差の力の差を考慮してや仲介を行っていく。	
1611	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	85	7	12	14	17	17	18			16	16	16. 4歳	2. 女児	発生時の天候はくもりだったが、朝より小雨が降ったり、やんだりしていた。トランポリンも濡れていたため、施設の方が水分の拭き取り作業をされた後に使用をしていた。	8. その他	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左足関節外側靭帯断裂(裂離骨折)	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		遠足時の注意喚起を再度保護者・園児へ行う。	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	●●公園遠は、秋は足で年1回利用している。	下見時に保育者が注意する場所だけでなく、園児へ注意喚起する内容になりなこについて確認する。	7. その他		遠足時の注意喚起を再度保護者・園児へ行う。	1. いつもの様子であった	風邪症状もなく、元気であった。	4. 対象動児の見ていなかった	親子遠足の自由時間中で、保護者もでいると遊んでいたため、担当職員にはいなかった。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	親子遠足の自由時間中で、保護者見守りのもでいると遊んでいたため、担当職員にはいなかった。		遠足時の注意喚起を再度保護者・園児へ行う。	
1612	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	22								1	1	18. 6歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性の歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2. 基準配置	特になし	改善の必要はないと思われる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	改善の必要はないと思われる。	7. その他	特になし	特になし	1. いつもの様子であった	体操の前にトイレを済ませることを習慣、りやすいように通りにいて保育室に戻っていた。	4. 対象児の見ていなかった	保育室で他児の指導をしていた為危険回避が出来なかった。	2. 担当者・対象児を見ていなかった	それぞれのクラスで体操に行くための準備をしていた。	特になし	本児の歩き方はすり足でよく足が上がっていないので、歩き方の声掛けや、転んだ時は手をつくように指導する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面									ハード面								環境面			人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳													死亡					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度/【回/年】						実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】								理由	具体的にしていたか		具体的にしていたか			
1613	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11								2	2	13.1歳	1.男児	障害物があるないに関わらず、転倒すること が多い、身長約88cm、体重約15kg（●月計測分）。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外踝骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/数年	2.基準配置	担任１人ボール遊具で遊ぶ園児のそばに付き、もう１人の担任は降園準備を近しつつ園しくにいる園児の見守りをおこなっている。	配置としては問題ない。必要なことを必要時に実施している。遊具の配置の見直しを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	園児が転倒したマットは、段ボール遊具の周りに落下転倒時の負傷を防ぐためにに設置していたマットであり、衝撃緩和のため、硬いものではなくやわらかいやわらかい為、歩きにくさはある。園児が遊具を押して遊んでいるうちにマットの端がズレ少し角が浮いていた。	段ボール遊具の配置、周辺のマットの配置の見直しをを行ってもらう（●済）今後随時、マットの機能性が果たせる状態に整るっていの確認。園児が動かしてもしたりがたもすぐに戻すもしくは動かないように固定を行う。	3.個人活動中・見ありり	降園が重なっているわけでもなく保育者が園児を見守ることができている状況であっ た。保育環境は園児それぞれ好きな遊びを行える環境になっている。玩具なども散乱しておらず保育環境は整えられている。ハード面に記載していることと重なるが、マットや大型の段ボール遊具を園児が押して遊んでしまいズレが発生することがある。	園児の興味・発達に応じた遊びができる環境構成を心がけている。マット遊具などズレたら随時戻す。	1.いつもどおりの様子であった	普段は活動的であるが、事故発生時は１５時のおやつ食べ、満たされた状態で段ボール滑り台でやごやかに遊んいた。	2.対象至対象児の近で見た児をていた	段ボール遊具の上てに登っては飛ぶ・滑り台をり降登ったり子１人を降園準備をしながら、人は環境を整っつ対象児の行動をした。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	クラス内職員は担任名の２名のみ。他の職員は事故発生のクラス内にはいなかった。		園児の行動の全てを把握することが最善ではあり、職員は常に目を配って行動をしている。今後も継続し丁寧な見守りを心がける。	
1614	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				13	12	15		2	2	17.5歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		職員同士の配置の見直し、園児への遊具使用時の説明	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		遊具等の劣化や破損等は見られない為ハード面での改善策は特になし。	1.集団活動中・見ありり	他児から抜かれたことで他児を静止ようする前のめりになったことで頭から滑るり肩から落ちる。	遊具の注意喚起と職員配置の検討	1.いつもどおりの様子であった	手すり状のぼりから滑り台へ進み、滑り台をとろうとときに他児に抜かれる。	4.対象児の見なきをていかった	肩が痛いあと訴え、冷却し、防犯カメラ確認し保護者に伝えましう。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	滑り台の滑り方等を再度園児に説明し、事故が内容見守る。		滑り方の説明の徹底、職員配置の見直し、時間別で園児の戸外遊び。	
1615	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	13								3	3	14.2歳	1.男児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A　歯の歯折一C	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	低年齢児の遊びを展開する遊ぶ環境、園児の出席状況等に合わせ人的余裕ある場人的合は職員を加配する等の配慮が必要。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし。	事故ヤヒヤハットに記載。また、事故の状況及び改善策を職員会議で話し合う。	1.集団活動中・見ありり	特になし。	集団で遊ぶ際の遊び出し数に応じての使い方を工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	体調には問題なし。日常において走ることも行やること安定している為、日ってに偶然歩いのだ安定ているら故走ってまずいたと考えれる。	3.対象児から離れるところで対象見た児をていた	園児１４名中１３名を保育士３名で保育を行う。職員は全体を把握できる位置に配置する。１名は全体を把握できる位置に配置する。残の職員は別の児童を保育、対応中であった為、咄嗟に転倒した児童の保育士は手を差しべられなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	園庭で他児のトラブルに対応したためていなかった。	保育士１名で園児１名をマンツーマンで保育するわけではなく、１歳児という年齢はまだ歩行も完全に安定していない為転倒による手り傷等は成長の過程で必ず起こり得ることである。保育士の加配は必要だが人的余裕は当園にはない為その他考えられる要因を解決する事は難しいと考えられる。	多くの園児を見る中の職員体制、見る視点の気配り方をクラス間で再周知する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰		負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面									
							人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他														実施頻度/【回/年】			実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】													具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1616	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	1								2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置		跳び箱実施前に手首・腕・首周りの柔軟体操を十分に行い、跳び方を毎回確認の声掛けを行う。	3.未実施		1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	転落を想定し、跳び箱の周辺二面にマットを敷いていた。跳び箱の高さも3段と低いものにし、環境は整えられていた。	その子に合わせた目標設定を行い、状況に応じて配慮する。	3.個人活動中・見守りあり		いつでも補助できるように注意して見る。	1.いつもどおりの様子であった	クッション製の練習用跳び箱で出来る様になっており、木の跳び箱に初めてのチャレンジ。高さはクッション製とものの同じにしていた。	2.象至対児の近の対象見た	該当児の跳び方を確認する為、個別に対応中、すぐ見ればすぐ守り、声掛けを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と近共に見守り、声掛けを行っていた。		手をつき損ねた際にすぐ補助に入れる位置に職員を配置する。	
1617	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	5								3	2	13.1歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折(重篤な障害が疑われるもの以外)	5.下肢(足・足指)	剥離骨折(左親指付け根)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	職員がこどもの行動を適切に予測できなかった。	本事案等を反映させた事故防止マニュアルの作成及び研修を実施し、園児の行動を適切に理解させ、予測力を向上・強化させる。他の職員も当事者意識を持って取り組む雰囲気の醸成。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	使用の都度	テラスに上砂がり、シートが敷かれた。これらの砂は、こどもが躓きやすい(滑りやすい)状況を作り出していた可能性がある。	テラスの清掃、或いは砂が上がっこな頻繁な清掃、或いは砂が上がっこな配置し、又はこども配置し、又はこども走り回る可能性のある場所からトを除去する等。	1.集団活動中・見守りあり	こどもの行動は予測・制御が難しい部分があり、職員が全てのこどもを見ること十分に守るは困難である。可能性のあると思料する。	監視体制強化として、特定の危険が予想される場所時には、こどもたちを小さなグループに分けて一人の職員がのブを見守り方等の見守り法、又は、こどもたちの活動範囲を制限する等を検討	1.いつもどおりの様子であった	室内からにテラス出た開放感からテラスラスろうした。中をろ	3.象からたところで対象見ていた児が離れ	付近にて全般入口を見ていた。対象テラス端から児がスの端から走ったためら危ないと声を掛け止めようとしたが間になかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・職員Bぐず：る子を抱き付かか園庭の方を見ていた。・職員C：対象児と反対側園児の対応をしていた。	職員間のコミュニケーション及び職員の配置、職場所方でもあり、職員注意力が散漫だった可能性。	走っても安全なエリアの設定、職員とこどもの距離(離れ過ぎない)・危険予測による早め声掛け、職員の休息時間の確保または職員間のコミュニケーションの醸成・改善等	
1618	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9		5	2	2				3	2	13.1歳	2.女児	身長約82cm、体重約11kg、既往歴：特になし、持病：特になし、アレルギー：特になし、発育・発達状況：意欲的、活動的に発育している。発生時の天候：晴れ	1.屋外活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	頭部強打、臀部打、全身強打、左額の擦過傷	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	危機管理マニュアルの共有が出来ておらず、事故予防に関する研修を定期的に行っていなかった。「遊具使用マニュアル」を作成しておらず、事故の事前対策を具体的に示せていなかった。各遊具の使用の仕方や基準、年齢と人数、どこに危険があるのかなど、事前の遊具使用方法や注意について、職員間での共有と理解が出来ていなかった。	危機管理マニュアルの共有を行い、事故予防に関する研修を定期的に実施する。「遊具使用マニュアル」を作成し、事故の事前対策を具体的に示し、共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(48　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3　)回/年	「遊具使用マニュアル」が各クラス、遊具の使用の仕方や年齢、どこに危険があるのかなど、事前の遊具使用方法や注意について、職員間での共有と理解が出なかった。	高いところで遊具を使用して一時停止し、当遊具や遊具その他撤去の使用方法や今後の使用方法も含めて検討する。・1・2歳児は、1m以上の高さでは遊ばせない、遊具使用マニュアル作成し、職員や保護者通間で共通理解した上で再開する。	1.集団活動中・見守りあり	園庭にいた職員がお互い連携が見られなかった。園庭にいた1名の保育士は、1名の排泄の為に一時的に園庭から離れたあとで園庭にいた園児に意識がなかった。園内にいた職員は、ほとんど園庭への意識がなかった。園長と主任は一時的に同時に外出しており、園庭の確認を怠る形となった。	園庭遊びの際は、必ずクラス担当者がいる形で複数で見守りを行ない、見守り位置を決めて、お互いに流動的に全体を見守りながら、職員間での連携を行なう。職員一人ひとりが勝手な行動をしないよう徹底する。園長・主任への事故発生時の連やかな報告を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	1時間程前に園庭遊び始め、本児がジャングルジム遊び始め上部で登っていたところ、10分後に3段目(150cm程)の高さから、滑側面へ転落し、臀部及び全身を地面に強打した。	4.対象動児をを見ていなかった	クラス担当者は、他の保育士補助員に対象児の見守りを任せて、他の複数名の園児を見守る形となっていた。事故発生前から対象児がジャングルジムで遊んでいたのは把握していたが、注意喚起を促さずに降ろす行為を怠り、保育士補助員に任せきりとなった。事故発生時は、別の園児1名に付き添ったままで事故発生に気づいていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児のそばにいた保育士補助員は、ジャングルジムで遊ぶ2名の園児を至近距離で見守っていたが、別の園児1名を保護している際に対象児が転落した。直後に対象児を保護した。他の保育士1名は、園児1名に付き添いテラス付近で戯を履かせていたため、事故発生に気づかなかった。	事故発生前から、対象児含めて1歳児2名がジャングルジムの1.5mを超える高いところで遊んでいたが、保育士が事前に危険を予測して園児を降ろすことが出来なかった。担当者をはじめ、経験ある保育者などから、新人職員へリスクについて事前に注意喚起や配慮事項の指導が足りなかった。	遊具使用マニュアル作成し、職員や保護者間で共通理解したうえで再開する。園庭での見守り方職員や職員間での連携や配慮事項のルールを再度検討し徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰			負傷			事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳														死亡						マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
1619	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18								2	2	17.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.基準以上配置	ゲームの対象年齢などの安全面の確認が不足していた。	ゲームを行うにあたって、危険と考えられることを事前にしっかりと考える。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年以上	なし	人と人の接触による事故であったため。	7.その他	親子ゲームとして行っていたが、親の代わりに兄弟児が参加する事を予測しなかったことや、子ども同士がゲームを行った際に不故こりを事故が起こる事を想定できていなかった。	ゲームの安全性と起こり得る事故を想定し、親子で行うと決めた際には子ども代わりに参加することの無いよう声掛けを掛ける。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	参観日で、父母や兄が参加してくれたり、嬉しいからいつも以上に元気な様子がみられた。	4.対象動児の見ていかった	親子ゲーム の進行をしてお り、大まかにみてい たが、事故 にこったに ひどく泣いている事で様子に気付できた。	2.担当者・対象児の動きていなかった	全体をみていたが、事故の様子には気付いていなかった。	親の代わりに子ども達同士で子ども達でも繰り返んでゲームであったこともあり、危険を想定した上で見守る職員がいなかった。	親の代わりに子ども が参加していたようだが、普段からクラで子ども達同士でも繰り返し楽しんでいたゲームであったこともあり、危険を想定した上で見守る職員がいなかった。	わどもが参加していたようなので、他の職員は、より注意深く見守る必要があった。	
1620	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10			3	4	3			8	6	17.5歳	1.男児	無し	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	額切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		様々な事故ケースを想定し、マニュアルの整備・研修の実施により職員に周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	ガラス面積が大きく、透明のため夕暮れ時で出入りのガラス戸の開閉が見えにくい。	ガラス戸(子どもの目線に合わせ)にイラスト等を貼り付け、室内から移動を声掛けする。付近出入口の強化ガラス戸を強化ガラス(粉砕タイプ)に入れ替える。	3.個人活動中・見守りあり	走っての部屋がみられる。	走っての移動がないよう、声掛けと出入口、動線の確認。	1.いつもどおりの様子であった	トイレへ行く際、室内を通くていくが、いつもと違うルートでトイレへ行く。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	本児は視界には入っていたが他児と玩具で遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きていなかった	他児のお迎えがあり保護者対応をしていた為、見ていなかった。	子ども達が室内で走ることへの注意喚起の声掛け。	出入りのガラス戸すべて(子どもの目線の高さ)にイラスト等を貼り、注意喚起、走っての移動がないように声掛けを徹底する。付近出入口の強化ガラス戸を強化ガラスの粉砕タイプに入れ替える。	
1621	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	107	6	22	14	25	20	20		25	23	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	マニュアルはあるが、対象の滑り台に1名配置する対応にはなっていなかった。	対象の滑り台には必ず職員が1名配置するよう対応している。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		階段の踏り面に滑り止めを設置する	1.集団活動中・見守りあり	危険の可能性がある遊具に必ず職員が配置するようにする。	対象の滑り台には必ず職員が1名配置するよう対応している。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りで、外遊びを元気に行った。	4.対象児の見ていかった	全体を見ていた為、対象児を常時見ていた状況では無い、一瞬目を離した際に、転落してしまった。	2.担当者・対象児の動きていなかった	すぐに止められる距離にはおらず、転落後に対応した。		対象の滑り台には必ず職員が1名配置するよう対応している。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故年齢	性別	特記事項	事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者				発生時状	事故の転帰			負傷			事故誘因	ソフト面				職員配置	その他要因分析、特記事項	改善策	ハード面								その他要因分析、特記事項	改善策	環境面			人的面								その他要因分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】			施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】			教育・保育成支援の状況				対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的にしていたか	他の職員の動き	具体的にしていたか				
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因																																			
1622	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45					22	23			3	2	16.4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手前腕骨折	1.道具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	年間計画として月に防止チェックが、実施できていない。事故防止チェックが出ない活用が出なかった。	計画の確認が出来ていなかった為、月毎の年間業務（計画）の確認を行い、しっかり実施していく。研修にはいり、ヒヤリハット、リスクマネジメントに対する職員の意識の向上を図る。又、年に2回はチェックリストを活用し、環境や関わりの見直しを行っていく。	事故のあった場所の業者による安全点検は破損や非届の箇所もあり、年内に依頼をしていたが、業者の都合があり。●月の実施となっていた。●月の安全点検でも子ども達によって大きなけがが起られており、修繕箇所としてあげ、事務部書ようポールとコーンで立ち入らない様材顔依整ってあった。3歳～5歳児には使用できない授面について話もしていた。事故の起こった場所は高さがあり、子どもが飛びドりたいと感じる場所・不慮の事故を起こす可能性が考えられる場所でもあった為、業者によるマットの点検も行い、再度様びドりない様、子ども達や職員とルール確認をしていた。	安全点検は●月毎に実施できるよう、依頼を行っていたが、当月依頼では業者の都合もあるため、年内段階で依頼をしておいた。ポールとコーンで立ち入りを制限していたが、利用ふりのみを防いだのかいろ様子を見ていた。●月の安全点検でも子どもが誤ってコーンを立ち入らない様材顔依整ってあった。3歳～5歳児は使用できないと伝えていた。事故のあった場所（ブランコ前）は子どもが自身とうとする意識がなくとも自のようにに出入りをさせたり、押される等の不慮の事故も考えられる。そな部の高い所で落ちる事のないよう、段差解消を相談をけ、山の高さを下げたり、落ちない様の柵等の設置（改善検討）等、工夫も考えていく（依頼済み）	1.集団活動中・見守りあり	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故のあった場所の業者による安全点検は破損や非届の箇所もあり、年内に依頼をしていたが、当月依頼では業者の都合もあるため、年内段階で依頼をしておいた。ポールとコーンで立ち入りを制限していたが、利用ふりのみを防いだのかいろ様子を見ていた。●月の安全点検でも子どもが誤ってコーンを立ち入らない様材顔依整ってあった。3歳～5歳児は使用できないと伝えていた。事故のあった場所（ブランコ前）は子どもが自身とうとする意識がなくとも自のようにに出入りをさせたり、押される等の不慮の事故も考えられる。そな部の高い所で落ちる事のないよう、段差解消を相談をけ、山の高さを下げたり、落ちない様の柵等の設置（改善検討）等、工夫も考えていく（依頼済み）	1.集団活動中・見守りあり	普段に比べて、全体的に発散できる活動が少ない状態であったが、場山も制限がかかっており、遊べる候其は大型遊具のみであった。子どもも遊び不足や不満やかり様子を見え、集団遊びや遊具で遊べるよう遊ろと良かった。また、事故状況前に、散名立ち入り制限のかかっている場山に入る姿が見あったが、職員による声掛け・ルールの確認が出来ていなかった。対象をしてからー連原報が続っており、子ども達と職員のルール（立ち入らない）に対する意識がなくなっていた。	安全研修（動画視の実施聴）の実施	3.いつもお様子で	自身で戦いごっこ遊びをしていた。役になりきり、夢中で遊んでいた事から、封鎖してあったポールに気付かず、段差を上り、遊んでいた。飛び下りるつもりではなかったが、段差を渡っている際、足を滑らせる。右腕が体にのしかかり、痛みを訴え、職員に自ら駆け寄った。	4.対象児を見ていた	園庭全体を見渡せる位置（中心）部分から全体園児見ていた。対象児については戦いごっこごっこになって夢中遊んでいた迄はでいたが、事故直前の築山段差を上り駆け上る場面は、注視出来ら出ず、事故のあった場面は目視出来なかった。	2.担当者・対象児の動きをしていなかった	園庭内には他3名の職員がいた。1名は園児と花植えと際にこ土の掃除を行いながら、担当と同じ園庭全体をみていた。花壇他、子育て支援員、1名（クラス担当職員）が4～5名程の園児と花植を行っていた。	日はクラスとしては4歳児クラス2名の職員・4歳児クラスとしては職員配置だったが、5歳児の一名は午後から研修を受講する為、普段より早く休憩に入っていた。休憩に一名入っているからもう一人あった為、食事の片付け・との時間、どうしてもバタバタの状態が生じ、交代で行うようにしていた支援員に職場内で、声掛けを行っていた職員がそばにいた。また、支援員と支援員との間に、支援員とクラスの担当職員（全体的担当）も設置し、全体を見守りながら、食事の片付けを行っていた。	戸外で遊段よりも部屋に過ごす事が予想される場合はなるべく多くの職員で戸外の見守りをおう。離現で職員数が少ない状態で見守りを行う場面ではどれ子クラスにあたり、1名は子どもの動きを予測しながらしっかりと全体を注視できるようにする。研修を行う際の日当たりの人数と時期調整に余裕を持つ。全体把握を行う際の職員の見守るポイントに焦点を当てて研究し、子ども達の動きから次の行動への予測、事故防止に繋がれるよう意識の向上を行っていく。食事の片付けを行う際、保育教諭以外でも行える電話等は他職員にも役割分担を行い、クラス担当保育教諭は子ども達をしっかり見守れる体制を整える。	
1623	令和6年9月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	2	1	2						2	2	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	左足親指裂傷及び爪の剥離	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1,2)回/年	2.基準配置		保育者がピアノを弾く際は自分がとっさに動けない状況にあることをしっかりと理解し他の保育者が見る状況で弾くようにする。また、ピアノを弾く際は指ーとしたまま弾かない。安に瞬時に動けるようにしておき、できない時は他の保育者はその場から見える位置にいるように配置する。適正配置人数であるが、他の作業をしていたので、園児がいる時間は、他の雑務はしないよう徹底する。保育室内の危険がある個所を分析し、改善または近づかないよう職員会議等で話し徹底する。	危険個所再確認（レポートあり）	1.集団活動中・見守りあり	安全研修（動画視の実施聴）の実施	3.いつもより発活動であった(理由を記載)	人数が少なく、部屋が広くゆったりとなりテンションがっていた。同い年の仲子達が、ピアノを弾いて声を上げて動き回っていた。	2.対象児の至近で対象児見た	ともだちを落ちる子を着かせない為、泣いた子ニアピアノを弾いていた。対象児以外の部屋こうとした為、ノの椅子に対象児が寄りかかったのを分かったが、そのまま立ちがりかけようとした。	1.担当者・対象児の動きをしていた(至近距離にいた)	様子を見ながら、ごみ集めや掃除等の違う作業をしていた。見ていなかったわけではない。		ピアノの周り（特に内部）には、子どもを絶対に入れない。隙間からも入る可能性もあるので、段ボールで仕切りを作り、弾いていない時も入れないようにした。適正配置人数であったが、他の作業をしていたので、園児がいる時間は、他の雑務はしないよう徹底する。保育室内の危険がある個所を分析し、改善または近づかないよう職員会議等で話し徹底する。	
1624	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	106	6	13	10	29	26	22			15	13	18.6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	無し	園児の体格・体力に適した遊び方を指導する。体力のある5才児がタイヤ跳びをする際は、タイヤの前で一度停止することをルールとする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	無し	タイヤのライン前にを引き、勢いが過ぎないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	無し	園児の体格・体力に適した遊び方を指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会前なので、跳び箱の練習をしより切ってより タイヤ跳びで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児見た	象至対象児ていた至近距離で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをしていなかった	他の場所で遊ぶ子どもたちを見守っていた。	運動会前で、本児の気持ちが高ぶっていた。	落ち着いて取り組むように声掛けをする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制											事故年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面							ハード面								環境面				人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者					死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】							実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】								理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
1625	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	12									3	3	17.5歳	1.男児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		運動遊具等使用時のマニュアルの見直し	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒の下に敷くマットの厚みが薄かった。	厚みのあるマットに変更する。	4.個人活動中・子どもみ	鉄棒で友クリできたことも出来ると挑戦したが、失敗した。	鉄棒等体育遊具を使う自由遊びは、職員が傍で見守る。	1.いつもどおりの様子であった	戸外遊びが好きで、仲の良い友達とテラスを走り活を発ていた。	4.対象児の見ていなかった	直前は鉄棒をしている子どもがいなかったため、担任が送迎の対保護者対して、本児が鉄棒をすることに気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2名の職員それぞれが、他の子どもの遊び（縄跳び）を見守っていた。	全体を見守る職員がいなかった。	保護者対応などその場を離れる時は他の職員に声をかける。	
1626	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	9									2	2	14.2歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置		安全管理マニュアルの点検・見直しを行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	対象園児が遊んでいた遊具が、年齢に達していなかった	適応年齢を全職員に周知し、年齢にあった遊具で安全に遊ばせるようにする	1.集団活動中・見守りあり		・見守りに無駄のない遊具の設置かどうかの見直し。遊具の適正年齢の確認。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象至対象児の見ていた	・対象児に近しての位置したが、他児に話しかけし、本児に背を向けにけるなってた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他の遊びをしていた子どもの様子を見たり関わっていた	・保育士の見守り位置が適切でなかった	・個々に応じた保育士の見守り位置、人数の見直し・遊具に適切な状態で乗れているかの確認。	
1627	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	140	8	9	17	31	38	37			14	14	15.3歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(18)回/年	2.基準配置	2階に上がるスロープを、走ることが子どもが、職員も声掛けや見守りを行っている。	全職員や保護者へ事故の詳細の周知、環境の見直し（走らない掲示）、子ども（走らない）には今回の事故の話をしてて意識づけを強化した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保護者が迎えに来た後、子どもだけで走ってスロープに行ったようである。母親は小さい弟さんを抱えており、追いつかなった。日頃から子ども達が、保護者と一緒にスロープを下りるという意識が薄かった。職員もその都度、声掛けを行ったり、日頃から安全に過ごすためにどうしたらよいか、子どもたちと話をしたりする必要があった。	スロープに、子どもが目付くにも付けをしても、子ども達と一緒に遊んでもうし方こうい一度話し場合もった。また兄弟が数名いる保護者に関しては、送迎を迎えをしり、にたこと員間で周知した。	1.集団活動中・見守りあり	降園時にはがまり、走ってしまったことを受けた。	降園時に気持ちも付けるよう、保護者にもメールでお願いした。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態も良好であった。	4.対象児の見ていなかった	保護者が来て迎えて、一緒にに、挨拶を送った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス内の園児の様子を見たり、保護者対応をした。	降園時に保護者と一緒で、特に守りを見ていなかったため。	登降園時にも気をつけるよう、保護者にもメールでお願いをした。	
1628	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	89	10	15	9	14	12	12	17		30	19	16.4歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	咄嗟の事で防げなかった。	危険な行動をしないお約束事を伝えて保育をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	咄嗟の事で防げなかった。	危険な行動をしないお約束事を伝えて保育をする。	1.集団活動中・見守りあり	咄嗟の事で防げなかった。	危険な行動をしないお約束事を伝えて保育をする。	1.いつもどおりの様子であった	両手でつかず、片手で左腕を膝にぶいた。	4.対象児の見ていなかった	遊んでいるの守った、対象児が落下した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	気付いたら落下していたので、すぐに対処した。	日常の保育の中で、時について転ぶを身体を支えるように伝えた。固定遊具のトレインの上から飛ばないように伝えていた。	危険な行動をしないお約束事を伝えて保育をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者	年齢	性別	特記事項	発生時状	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等					死亡		負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1629	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21		12	9					4	4	14.2歳	2.女児	元気があり よくよく動く子どもであ る。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂創(額)(筋肉まで達する)(後に)二次感染	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１５)回/年	1.基準以上配置	該当児は元気ありとても突発的に動く/突発的な動きを止められなかった。	突発的に動く園児にはこれまで以上の目配り、ケガ防止の視点での対応を心掛けて保育をする必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(37)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	頭部の高さの位置に棚が設置されている。これはごく普通の設置である。	身体をぶつけやすい位置に棚物に対し、突発的に園児が動いてぶつないように職員が見守りをする。	1.集団活動中・見守りあり	該当児が突発的に近づいてきた。	園児がとと突発的に近づいてきたら、けがをしないように動きを止める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもよりも活発であった。	2.対象至対を児の近対象児をいた	突然園児が近づいてきたが、フッ素液を配ったことにその止めるより動きを止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの職員が分散して、自分の近くにいる園児の見守りをしていたが、本児の動きを止められなかった。	できるだけ園児の見近く守りをする。	職員でしっかりと見守りをして、突然保育者士につ抱きいて園児には注意する。	
1630	令和6年9月10日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9								3	3	16.4歳	1.男児	元気があり、思いついたらすぐに行動する子どもである。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面挫創	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１５)回/年	1.基準以上配置	当該児は元気があり、突発的にでなく突発的な動きを止めなかった。	子どもたちを動かときは、落ちケガをしないように、次の動作に進むことを促す。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(37)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	頭部の高さの位置に棚が設置されている。これはごく普通の設置である。	身体をぶつけやすい位置に棚物に対し、突発的に園児が動いてぶつないように職員が見守りをする。	1.集団活動中・見守りあり	該当児がカを取ろうとしたパンを。	慌てて行こうとすると、落ち着いて次の動作に進むように促していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもよりも活発であった。	3.対象児が離れたところで見ていた	いつもの通りトイレを済ませて、カバンを取り、移動つといに列くらなっての、たちはできるものという過信があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	それぞれの職員が分散して、自分の近くにいる園児の見守りをしていたが、本児の動きを止められなかった。	ケガが発生しないようにできるだけ近く守る。	できるだけ近く守り、あわてていても見ないで動いる子どもは注意し落ち着きいたで動きをするように促す。	
1631	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	11								2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２～３)回/年	2.基準配置	家庭の様子もの園での状態により、遊びをとの了解を得る。	家庭の様子ども園での状態に、遊びをとの了解を制限することを得る。	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年		遊具には問題はないと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動場面の切り替わり時に担当児が手をつなぐ	2.いつも元気がなかった(理由を記載)	落ち着きがなかった。我が強かった。いつも食べても食べず、泣き出していきりた。個別での切り換え支援に気分の高揚時には対応する。	4.対象児の動きをていかった	健康状態や家族等の本人の状況の限。多動な時には必ず付いていく。	2.担当者・対象児の動きを見なた	職員会議や日々の打合せに状態の伝達と把握。	児童の危険認識に合わない遊び・遊具での活動制限。	児童の問題性の共通理解と行動制限の徹底		
1632	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	168	17	32	27	33	28	31		34	29	15.3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	園庭にあった屋根の上で遊ぶことをしよう、底掛けきかった。小でこと徹声がでいな	園庭遊びにおいてはクラス毎いを変えるこくく、クラス面する。全クラス統一で安全を考慮する全職員に周知徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	2歳児クラスの園児が自分で屋根に上れる高さ、屋根の上で立ちる平面に近い屋根の構造であった。	構造を再検討するまでは園庭より撤去した。	1.集団活動中・見守りあり	お迎えの対応で職員の出入りが頻繁な状況であり、一時的に職員の目が行き届いて状況がいないあった。	タ方はお迎えの保護者対応で職員が度々抜け状況下ることを再度認識し、持ち場を離れる場合は職員間での声掛けを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも、屋根の上には一人では登れない園児だったが、事故は当日は踏み台当を踏みにて上った他児の様子を見て、鍋を同じ鍋を踏みて、屋根の上に登った。	4.対象児をていかった	当時はほとんどの園児が園庭で遊んでいる状況で、園庭なくにる職員を見ていた。当時はほとんどの園児が園庭で遊んでいる状況で、担任クラスが子クラスを見ていた。お迎え時間ことにより、職員の出入りが頻繁にあるであった。	2.担当者・対象児の動きをていかった	当時はほとんどの園児が園庭で遊んでいる状況で、担任クラスが子クラスを見ていた。お迎え時間ことにより、職員の出入りが頻繁にあるであった。	見守っているではなくと一緒に遊んでいた手野してしまった。屋根の上で遊んでいるがから降ろすはしていなかった。	園児に視中集中してことが。園庭で遊んでいる他児がいた、屋根ろまでは	全職員に、危険行為を一致させ、その状況を確認した時には声掛け、止めさせる等対応する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制										事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰					事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 教育・保育教諭・幼稚園教諭・保育教諭				死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度/【回/年】						実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】		実施頻度/【回/年】														
1637	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2				1	1			2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～5)回/年	2.基準配置		こまめに約束事の確認を行い、安全に遊べるように配慮する。また、転倒や接触に繋がり場そうな場面で、迅応速な対応ができるように園児と近い距離で見守りを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ボールで遊ぼうとしていたが、それとは関係なく本児が室内で走ったことによる転倒である。室内ごつ度で再せて躓きでめ、でしいてらせく。	7.その他		延長保育時で、少人数であった。危険のないよう環境を整えつつ、園児室内でのごしも方を知せ、実践過よるように努めできる。	3.いつもの様子で活動できた(理由を記載)	ボールで遊びていた。園児の気持ちの高まりが大きくなった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡せる場所で園児を見ていたが、声掛けのみ行っており、近づいて遊びの方に対して指導ができなかった。	2.担当者・対象児の動きをていた	職員一名は玄関にて他児のお迎え対応を行っていた。		職員が1名で見守り際には、必ず園児の近くで見守りを行う。また、危険予測をし、園児には繰り返し伝えるなど怪我のないようにする。	
1638	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				17	12	16		3	3	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	防犯カメラで確認した所、分散した位置に職員3人配置されていたが転倒はいない場所で、職員は、近くにいる子と会話やいるは遊び様子の時間中映っていた。	子どもの対応や会話をする時も視線は常に全体を見ようにしていく	2.不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3～4)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	タイヤは、高さ36センチ	タイヤを使う時は保育者にかえて使うように伝えらうにする。	1.集団活動中・見守りあり	当日室内遊びやシャボンなどもあったが、何か変化に来るでもいわけなく、もと変なつりなく遊び生活ていた	より深く、注意子どもの変化の意識はないを向ける。	1.いつもの様子であった	転んだ後のまもそのまま走って友達と遊び続け、痛がる様子には、伝えずに過ていた。	4.対象児を見ていた	外遊びの全体は見ていたが、転んだ瞬間は捉えられなかった	2.担当者・対象児の動きをていた	外遊びの全体は見ていたが、転んだ瞬間は捉えられなかった		保育者間の視野に入れる範囲が同じ箇所にならないよう、まんべんなく分散して見る意識をする。変わったことがあった時は保育者に必ず伝えるように子ども達に再度話す。	
1639	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49				18	14	17		3	3	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	①右下顎口唇挫創 ②歯の脱臼(右上A) ③口唇裂傷、歯牙欠損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	外遊びへ時間出るが、登園が9時以降になると子どもと重なる。	外遊び後に登園した子の受け入れは事務所、フリー職員が行うと共に、保護者へもその旨を周知する。	2.不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3～4)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	排水溝の上に砂がかぶって、少いし段差がある。	滑りやすい所、つまづきやすい所などの危険個所はないかをチェックすると共にグリンマット等の対策できるところから早急に対策する。	1.集団活動中・見守りあり	スコップの使い方、物をもって走っていた。	職員の立ち位置、見守り方の再度の意識と、子ども達との約束事の再確認(物をもっては走らない等)	1.いつもの様子であった	特に変わりはなし	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	事故当時、一番近くにいた職員は受け入れをしていた	2.担当者・対象児の動きをていた	離れた所から全体の見守りをしており、事故の瞬間の対象児の動きは捉えていない。		外遊びが始まってからの受け入れは他の職員が行うと共に、見守る時もより広い範囲で子ども達の様子を捉えられるように意識をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制									教育・保育等従事者		事故 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰		負傷		診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
							発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等						死亡 死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度/【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
1640	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	17								3	3	18. 6歳	1. 男児	身長約108、体重約20、既往歴・持病・アレルギー：無 発育・発達状況・発生時の天候等：3歳児健診でグレーゾーンと診断、療育利用開始、事故当日は晴天	6. 水遊び・プール活動中	1. 負傷		6. その他	1. 頭部	外傷性くも膜下出血	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(使用後毎)回/年	プールサイドにクッション材等をおいておくことはせず、コンクリートのままであった。水量がの高さもよりの高かった。	事故後発泡スチロールのクッション材をプール毎日水の量を調節するように置くようにした。	1. 集団活動中・見守りあり	職員1人はシャワーの所、1人がプールに入る際の階段の見守り、1人が子どもの対応をしており、プールサイドを見守る職員がいなかった。	職員の立ち位置の見直し、全員シャワーを浴びてからプールに入るなど、目配りやすいようにプールで遊びをする際の動線を見直した。	1. いつもどおりの様子であった	プールの水の高さもがいつもあり、勢いをつけてプールの淵に座り思ったい、後ろ向きで勢いをつけてプールの淵に座り、向きをつけてとしてコンクリートの床に落ちる。	4. 対象動児をきていかった	担当職員はプールに入る際の階段の降り守りの見守りについて、落際ていおり、下した際ていはは見なかった。	2. 担当者・対象児の動きをいた見なかった	1名はシャワー対応、1名は個別に子どもの対応をおこなり、落下した際に近くに職員がいな状態であった。		職員の立ち位置、見守りの場所、職員の人数を再度見直した。	
1641	令和6年9月10日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	15								1	1	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	下唇外傷性打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		職員の人数、園児の人数によっては、遊びを制限する	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊ぶ前に危険な箇所はないか、確認する	1. 集団活動中・見守りあり		園庭での遊び方について、子ども達と再度確認を行う	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児ていた	クラス全体の把握に努めていた	2. 担当者・対象児の動きをいた見なかった	各自担任クラスの見守りを行っていた		子ども達の行動に予測を立てる	
1642	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15		5	9		1			3	3	16. 4歳	1. 男児	・療育手帳A2(重度知的障害) ・発育・発達状況・・・全体的に発達がゆっくりである。発達検査結果、言語：10ヵ月～11ヵ月、言語理解：1歳2ヵ月～1歳4ヵ月（令和●年●月●日） ・歩行は、一人で安定して歩けるようになっているが、階段の昇降は補助が必要である。急な動きは取りづらく、ふらつき転倒の恐れがある状態である。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 基準以上配置	降園時、他児保護者対応の為、本児について職員が離れて、とっさに支えなかった為。	本児の側から離れる際は、他の保育士に声掛けをして、常に保育士が側についておくようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(１)回/週	本児が好む玩具だったが、本児が持って続けや遊びにはやみの重ある玩具だった。	活動前に適切な環境を整え、本児に安全に遊ぶ玩具を選ぶようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	本児が好きな玩具でも、安全面と特性児の考慮した玩具を促すべきだった。	本児の心身の発達段階や特性などを考慮し、職員で共通理解を図っていく。	1. いつもどおりの様子であった	気に入った玩具を持って室内を散策していた。	2. 対象児の至近で対象児ていた	降園児の保護者対応が、一対一の状態から至近での見守りになっていた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	部屋全体の見守りを、安全に配慮していた。	持ちなれない玩具をまま持って立って遊んでいたが、側から離れてしまった。	本児の特性に合わせた環境に配慮して保育を行い、安全に気を付けながらも楽しく活動できるようにする。	
1643	令和6年9月10日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	33				12	11	10		9	6	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第５指基節骨基部若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった	3. 対象児から離れたところで対象児ていた	走っている園児を見ていた	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	走っている園児を見守っていた	特になし	特になし	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度/【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状況 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	事故年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアル有無	事故予防研修	実施頻度/【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的にしていたか	他の職員の動き	具体的にしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
1653	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34			13	10	11			3	3	18.6歳	1.男児	打撲した翌日、整骨院に行き、処置してもらう。痛がる時には整形外科受診を寸すめられる。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	5.他児危から加害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	木製玩具(汽車の荷台)	打撲したら必ず整骨院や整形外科を受診するようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年		クッション性のある地面の方へ玩具を移動する。	7.その他	複数で荷台に乗っている時に見守りなが足りなかった。	園児のあそびをしっかり守ると見り、危険を回避する。	1.いつもおりの様子であった	複数の友あちとあそんでいる時に押されて転倒	4.対象動児の見ていなかった	対象児が転倒した際、肘の痛みよりも押されたことの悔しさを訴えてきたメンのでタルのフォローを重要視して打撲にしてはアイシングの後、冷湿布で対応受診しなかった。	2.担当者・対象児の動きをいなかった	気持ちが落ち着いたら、走り回っていたので姿を見守った。	安全面への配慮不足	園児のあそび、特に友だちとのかかわりの様子をしっかりと見守る。	
1654	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12								3	3	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯1本：根尖性歯周病の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットが上手く活用されていなかったことが原因と思われる。	ヒヤリハットの報告と分析、職員周知を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		毎日施設の点検を、複数名で行う。	1.集団活動中・見守りあり	本人が、遊んでいた新聞紙に誤って乗ってしまった。	全体指導で、活動前に、具体的に新聞紙に乗ったら滑ることを伝える。	1.いつもおりの様子であった	いつものように、活動を楽しんでいた。	2.対象児児の近象見ていた	自由遊びのため、見ていた。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	自由 遊びのため、全体を見ていた。		複数の保育士による安全管理を行う。	
1655	令和6年9月10日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	2								3	3	13.1歳	1.男児	A病院フォロー外来を定期的に受診・B病院にてリハビリ通院中。現在1歳4ヶ月であるが、ハイハイ、お座り、歩行ができず配慮が必要な園児である。●月●日現在（身長：約76cm／体重：約8kg）	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折(本日市立病院にて精密検査中)	3.子ども同士突よるもの衝にもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	他児が対象児の横に近づいていた場面では、対象児は泣いておらず、抱き上げたとたんに泣き出したため（顔には他児による引っかき傷が見られた）、始めは事故が起こったとは考えられなかった。また、泣くことが続いたので、気持ちの切替が難しい部分も発達的にあるのではないかという思いもあった。もうすこし対象児の身体を観察をする中で、多方面から状況判断すべきだった。	・事故予防に対する意識の強化、マニュアル作成。・今後も配置基準以上職員を配置し、職員同士の連携の強化に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12以上)回/年	環境的に見ても、玩具等が落下する状況は考えられない。	・新園舎カに監視カ設置する。・引き続き、安全点検の強化に努める。	7.その他	至近距離ではあったが、対象児のスペースの間の柵越しであったため、対象児の状況を詳しく見ることができなかった。	担当職員は至近距離であっても、柵でなじスでも同じスペース越しで見守る。	1.いつもおりの様子であった	給食も普段通り食べ、睡前にスペースで遊んでいた。	普機済午畳ながら1人でいろ児遊ると、他児（0歳児）が近寄ってきた状態であった。	2.象至対を児ていた児見	至近距離の見ながら、様子をしていた。	2.担当者・対象児の動きをいた	担当職員以外の2名の職員は、対象児の近くにはいなかった。（1名は近くの流し台で洗しい物をしており、もう1名は担当者の横で他児の着替えをしていた）	3名の職員中、1名の職員はマンツーマンで対象児の近くにできての配置ていたら、少し早く、気づき、前後の状況もできていたと思う。□		特に食後から午睡までの時間帯は、マンツーマンで対象児を見守る。また、状況によってはサーを利用し対象児の安全を確保する。（保護者のもと）	
1656	令和6年9月10日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	17			8	4	5			5	4	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左頬部挫創	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		非常勤も含め、事故発生時対応マニュアル・散歩マニュアル・散歩マップ危険個所マップの再確認を行った	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施		1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年		散歩ルートの再点検を行った。	1.集団活動中・見守りあり		散歩時対象児には必ず保育者が付き、手を繋ぐようにする。また、全体での職員の見守り位置の見直しを行った。	1.いつもおりの様子であった	他の子どもへの興味で、年もが増えて時年も世ての子も世上の喜話をした。	2.象至対を児ていた児見	対象時の隣にいたが、前を歩いていた園児が、急に職員の手を引っ張り、話始めた。その園児の対応中に対象児のペアを見ると、今にぶつかりそうになっていたため、咄嗟に「危ない」と声を掛けた。ペアの4歳児は避けることができたが、対象児は4歳児と手を繋いだままで避けることができず、ぶつかってしまった。	1.担当者・対象児の動きをいた(至近距離にいた)	対象児の2列前にもう一人保育者がいたが、横いる前にる子どものを行っており、気付けなかった。他の職員も同様である。		横にいる保育者だけでなく、全職員が視野を広く持ち、少しの異変に気付けるようにしていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 うち保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 認可・認可外 | 施設・事業所種別 | 事故発生時期 月 | 事故発生時期 時間帯 | 発生場所 | 発生時の施設・事業体制 発生時の体制 | 人数 | 異年齢構成の場合の内訳 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳以上 | 学童 | その他 | 教育・保育等従事者 | うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等 | 事故 年齢 | 性別 | 特記事項 | 事故状況 発生時状 | 事故の転帰 | 死亡 死因 | 負傷 負傷状況 | 受傷部位 | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無 | 事故予防研修 | 実施頻度【回/年】 | 職員配置 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | ハード面 施設の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 遊具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | 玩具の安全点検 | 実施頻度【回/年】 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 環境面 教育・保育・育成支援の状況 | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 人的面 対象児の動き | 理由 | 担当職員の動き | 具体的に何をしていたか | 他の職員の動き | 具体的に何をしていたか | その他要因・分析、特記事項 | 改善策 | 掲載更新年月日 |
|---|---|---